

# 目 次

◇名桜大学ファカルティ・ベロップメント（FD）委員会

委員長あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

I FD委員会の活動・・・・・・・・

II 全学FD研修会（第1回～第6回）・・・・・・・・

III 資料編・・・・・・・・

委員長あいさつ：令和2年度 名桜大学ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会を振り返って

令和2年度 名桜大学FD委員会委員長 アリ ファテヘルアリム F

平成31年度から引き続き1年間名桜大学FD委員会委員長を務めることとなりました。

今年度は、重要課題が2つあり、教員資質向上を目的としたFD研修会の企画運営、老朽化した授業評価アンケートシステムの再構築についての検討が課題となりました。

また、新しい取り組みとして、令和2年度は、ペーパーレス会議システム（Eco Meeting Cloud）を導入しました。

さて、令和2年度は、世界中で「新型コロナウイルス感染拡大」が蔓延し、その勢いは日常生活や大学の授業に大きな影響をもたらしました。本学においても新型コロナ感染拡大の防止への取り組みを行うとともに、授業を実施していくための体制づくりに邁進した1年でした。特に、この感染拡大の防止とICT活用による遠隔授業の導入に向けては、遠隔会議システムの使用法そのものから始めた研修会の実施、受講学生のICT環境の状況調査など、全てが手探りの状態でした。何がベストな方法か常に試行錯誤を繰り返し進めてまいりましたが、非常勤講師の方々を含めた教職員の皆様の多大なるご理解とご協力の上に、コロナ禍での活動を進めることができました。

ここに皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

# I F D 委員会 の 活動

## 委員会活動状況報告書

### 名桜大学ファカルティ・ディベロップメント委員会

#### 1) 構成委員名

- (1) 委員長：アリ ファテヘルアリム  
 (2) 委員：林優子、小嶋洋輔、田場真由美、小番達、坪井祐司、  
 卯田卓矢、山本健司、小西清美、鶴巻陽子

#### 2) 庶務担当部署：教務課

#### 3) 委員会の主な所掌事項※（規定を参照する）

- (1) FD推進のための企画及び実施に関すること。  
 (2) FDに係る調査及び研究に関すること  
 (3) FDに関する報告書等の作成に関すること  
 (4) 授業評価に関すること。  
 (5) その他FDに関すること。

#### 4-1)委員会活動

回数	日時	議題、内容等
1	令和 2(2020)年 4月 17日(金)	<b>【議題】</b> 1. ペーパーレス会議の実施について 2. Eco Meeting Cloud の試験的な導入について 3. 令和 2 年度 名桜大学 FD 委員会の定例開催日時について 4. 令和 2 年度 名桜大学 FD 委員会年間業務一覧について 5. 令和 2 年度計画達成のための行動計画の作成及びそれに伴う意見（疑問点）等の提出について 6. 令和 2 年度 FD 研修会年間計画について 7. 第 2 回 FD 研修会の内容について <b>【報告】</b> 1. 第 1 回 F D 研修会について
2	5月 15日(金)	<b>【議題】</b> 1. 令和 2 年度計画達成のための行動計画の作成及びそれに伴う意見（疑問点）等の提出について 2. 第 2 期中期目標期間業務実績見込評価報告書の作成について 3. 令和 2 年度 FD 研修会年間計画について 4. 第 2 回 FD 研修会について 5. 授業評価アンケートシステム更新に係る WG の立ち上げについて <b>【報告】</b> な し
3	6月 19日(金)	<b>【議題】</b> 1. 授業評価アンケートシステム再構築について 2. 令和 2 年度遠隔授業実施・受講における実態調査の再実施について 3. 第 3 回 FD 研修会について <b>【研究所協働】</b> 4. 令和 2 年度前学期授業評価アンケートについて ①実施要項 ②アンケート項目 5. 令和 2 年度前学期授業見学強化月間の実施について <b>【報告】</b> 1. 第 1 回授業評価アンケートシステム再構築 WG について 2. 令和 2 年度第 2 回名桜大学 FD 研修会参加状況とアンケート結果について 3. 平成 3 0 年度及び平成 3 1 年度 FD 活動報告書について

4	8月28日(金)	<p><b>【議題】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 遠隔授業受講に関する実態調査の情報公開について</li> <li>2. 遠隔授業実施・受講に関する実態調査（2回目）について</li> <li>3. ペーパーレス会議システムの試験的導入について</li> <li>4. 令和2年度第三次補正予算について</li> <li>5. 令和3年度事業計画の作成について</li> <li>6. 授業評価考察記入システムについて</li> <li>7. 後学期の定例開催日程について</li> </ol> <p><b>【報告】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第2回及び3回授業評価アンケートシステム再構築WGについて</li> <li>2. 第3回FD研修会について【研究所協働】</li> <li>3. 令和2年度前学期授業見学強化月間の実施について</li> </ol>
5	9月25日(金)	<p><b>【議題】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 令和2年度第三次補正予算について</li> <li>2. 令和3年度事業計画の作成について</li> <li>3. 第4回FD研修会について</li> <li>4. 令和2年度後学期授業評価アンケートについて</li> <li>5. 遠隔授業受講に関する実態調査の情報公開について</li> <li>6. 遠隔授業実施・受講に関する実態調査について</li> </ol> <p><b>【報告】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第3回FD研修会について【研究所協働】</li> <li>2. 令和2年度前学期授業評価アンケート結果公開について</li> </ol>
6	10月23日(金)	<p><b>【議題】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 混成型（対面授業及び遠隔授業のハイブリッド型）授業実施・受講に関する実態調査について</li> <li>2. 令和2年度後学期授業見学月間について</li> <li>3. 令和2年度後学期看護学科早期終了科目授業評価アンケート実施に係る対象科目及び実施日について</li> </ol> <p><b>【報告】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第3回FD研修会について【研究所協働】</li> <li>2. 第4回FD研修会について【学生課協働】</li> <li>3. 令和3年度事業計画について</li> </ol>
7	11月27日(金)	<p><b>【議題】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 混成型（対面授業及び遠隔授業のハイブリッド型）授業実施・受講に関する実態調査について</li> <li>2. 全学教務委員会：新任教員向けと全教員向けのアカデミックアドバイザー制度について（FD研修会）</li> <li>3. 令和3年度 予算概算要求書等の提出について（依頼）</li> </ol> <p><b>【報告】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第4回FD研修会について【学生課協働】</li> <li>2. 令和2年度「年度計画」に係る見込み評価の実施について</li> </ol>
8	12月25日(金)	<p><b>【議題】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全学教務委員会：新任教員向けと全教員向けのアカデミックアドバイザー制度について（FD研修会）</li> <li>2. 令和3年度 予算概算要求書等の提出について（依頼）</li> <li>3. 第26回FDフォーラムについて</li> </ol> <p><b>【報告】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 令和2年度後学期授業見学強化月間について</li> </ol>
9	平成3(2021)年 1月22日(金)	<p><b>【議題】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第5回FD研修会について 全学教務委員会：新任教員向けと全教員向けのアカデミックアドバイザー制度について（FD研修会）</li> <li>2. 令和2年度FD活動報告書の執筆担当者について</li> <li>3. その他（令和3年度FD委員について）</li> </ol> <p><b>【報告】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第26回FDフォーラムについて</li> <li>2. 令和2年度混成型授業実施・受講に関する実態調査結果について</li> </ol>
10	2月26日(金)	<p><b>【議題】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全学委員会年次報告書について</li> <li>2. 令和2年度業務実績報告書について</li> <li>3. 令和3年度「年度計画」達成のための行動計画の作成及びそれに伴う意見（疑問点）等の提出について</li> </ol>

		<b>【報告】</b> 1. 第5回FD研修会について 2. 第6回FD研修会について 3. 令和3年度学群・学部FD事業に関する予算の削減について 4. 令和2年度後学期授業評価アンケート考察入力について
11	3月26(金)	<b>【議題】</b> 1. 全学委員会年次報告書について <b>【報告】</b> 1. 令和2年度後学期授業評価アンケート結果公開について 2. 令和3年度「年度計画」達成のための行動計画の作成及びそれに伴う意見(疑問点)等の提出について 3. 令和2年度業務実績報告書の作成について

#### 4-2)ワーキンググループ会議(授業評価アンケートシステム再構築ワーキンググループ)

回数	日時	議題、内容等
1	令和2(2020)年 6月8日(火)	<b>【議題】</b> 1. 授業評価アンケートシステムの確認について 2. 授業評価アンケートシステム再構築業務に係る仕様書(案)について 3. 授業評価アンケートシステム再構築に係るスケジュールについて 4. 業務委託契約書(案)について 5. システム再構築に係る機能等の要望について <b>【報告】</b> なし
2	7月14日(火)	<b>【議題】</b> 1. 授業評価アンケートシステム報告書機能について <b>【報告】</b> なし
3	8月11日(火)	<b>【議題】</b> 1. 授業評価アンケート考察入力システムについて <b>【報告】</b> なし
4	9月8日(火)	<b>【議題】</b> 1. 授業評価アンケート結果公開システムについて <b>【報告】</b> なし

#### 5) 委員会活動における課題

今年度は、重要課題が2つあり、①教員資質向上を目的としたFD研修会の企画運営、②老朽化した授業評価アンケートシステムの再構築についての検討が課題となりました。

また、新しい取り組みとして、令和2年度は、ペーパーレス会議システム(Eco Meeting Cloud)を導入しました。

#### 6) 課題に対する改善・向上

##### ①教員資質向上を目的としてFD研修会の企画運営

今年度のFD研修会においては、昨年度と同様に、各部署と連携し、積極的かつ多面的に教員資質向上を目指しました。

結果、以下のとおり計6回のFD研修会を企画し、実施しました。今年度は、特に新型コロナウイルス感染症の影響もあり、企画・運営方法について、工夫・改善に注意を払いながら進めて参りました。また、今般の社会状況等を考慮した教員資質向上について重点的に考慮し、研修会を開催しました。

第1回名桜大学FD研修会(4月9日(水)開催:MNC(メディアネットワークセンター)共同開催)

令和2年4月6日(月)に開催された第5回タスクフォース会議において、一部の講義についてオンライン講義での提供を可能とするため、早急に体制を整えることが決定した。そのため、MNC(メディアネットワークセンター)と共同で「名桜大学情報セキュリティポリシー及びICTを用いた遠隔授業の実施方法について」のFD研修会を企画し、実施した。(専任教員参加率91%)

#### 第2回名桜大学FD研修会(5月29日(金)開催:名桜大学FD委員会主催)

令和2年4月30日(木)付発出の「緊急事態宣言の延長に伴う本学の基本方針」において、前学期授業は令和2年5月7日(木)から開始することとし、5月7日(木)から5月29日(金)までは、ICT等を活用した遠隔授業のみとすることとなった。これに伴い、ICTを活用した遠隔授業の実施方法において事例から振り返り、今後持続可能な遠隔授業を実施するための改善策を情報共有することで、教員資質向上を図り、FD研修会を実施した。(専任教員参加率91%)

#### 第3回名桜大学FD研修会(9月30日(水)開催:環太平洋地域文化研究所共同開催)

昨年度に引き続き、名古屋市立大学学長の郡健二郎氏を講師として招聘し、「科研費申請書等に関する総論及び個別申請書公開添削」のFD研修会を企画し、実施した。科研費申請書の記載に関する留意点や工夫についての総論後、実際に本学の教員が事前に提出した科研費申請書を郡氏に公開添削していただくことで、科研費申請に関して一層理解を深めることを目的とした。(専任教員参加率82%)

#### 第4回名桜大学FD研修会・第1回名桜大学SD研修会(10月30日(金)開催:学生課共同開催)

平成28年度の障がい者差別解消法施行に伴い全ての国公立大学等において学生を含む障がい者への差別的取扱い及び合理的配慮の不提供の禁止が義務化された。本学でのさらなる支援体制充実のため、これまでの障がい学生支援に係る研修会の中でも質問や関心の高い発達障がい学生への支援に焦点を絞り、学外より講師を招聘し、具体例を交えながら障がい学生支援への理解を深めることを目的に研修会を企画し、実施した。(専任教員参加率60%)

#### 第5回名桜大学FD研修会(令和3年1月29日(金)開催:名桜大学FD委員会主催)

名桜大学FD委員会は、令和2年12月14日(月)~12月25日(金)の期間で、「令和2年度混成型授業(対面授業及び遠隔授業のハイブリッド型)実施・受講に関する実態調査」を全教員・全学生を対象に実施した。その集計結果を第5回名桜大学FD研修会の事前学習資料として、全教員に配布した。

実態調査結果の内容を踏まえた上で、「ICTを活用した授業及びアカデミックアドバイザーの現状について」をテーマとして、4つの分科会からなる(1.講義に関すること、2.実技・演習系の授業に関すること、3.質保証と評価方法について、4. ICTを活用したオフィスアワーについて)研修会を企画し、運営した。

それぞれの分科会のテーマのもと、教員はそれぞれの課題・成功例についてディスカッションを行い、各分科会で話し合った内容を全体で発表した。(専任教員参加率53%)

#### 第6回名桜大学FD研修会(令和3年2月8日(月)開催:リベラルアーツ機構共同)

リベラルアーツ機構では、隔年で主に沖縄の芸能・芸術・文学に関する研修会を企画しており、元琉球大学教授、詩人・作家 大城貞俊氏を講師として招聘し、「沖縄で創作すること」をテーマとしてFD研修会を企画・実施した。これは、リベラルアーツ機構が学生に対して教養教育等を提供する役割があることから、本学教職員においても、教養を深める機会の提供を目的としている。(専任教員参加率57%)

## ②老朽化した授業評価アンケートシステムについての再構築

昨年度、名桜大学FD委員会では、老朽化した授業評価アンケートシステムの改善策を模索し、新規システム導入または、現行システムの再構築について協議してきた。協議の結果、令和2年度から現行システムの再構築を行うことが決定した。

5月15日(金)に開催された第2回名桜大学FD委員会において、授業評価アンケートシステム再構築に関するワーキンググループの立ち上げが承認され、6月から9月の4か月間に渡って3システム(1.授業評価アンケートシステム、2.授業評価アンケート考察入力システム、3.授業評価アンケート結果公開システム)の再構築に関して業者を交えて協議し、再構築(案)を作成した。その案をもとに業者へシステム再構築を依頼した。

3システムの再構築の課題として、情報漏洩防止等の観点からセキュリティーを強化し、教員や学生にとって使いやすく、可視化されたシステム再構築を目指した。

12月には、システムの再構築が完了し、令和2年度後学期授業評価アンケートから稼働を開始した。

## 7)委員会活動における委員長の総括

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大予防の観点からFD研修会のあり方について、根本的に見直す必要がありました。これまでは、県外からの講師招聘や会場に人を集めて研修会を実施するといった「人の動き」が多い研修会を企画・運営しておりました。しかしながら今年度は、「人の動き」を抑えた研修会の企画・運営方法について検討することを余技なくされました。「人の動き」を抑える研修会、すなわち「オンライン研修会」のあり方について、試行錯誤を繰り返しながら、名桜大学にフィットした研修会を模索した結果、Microsoft Teamsを用いた研修会に辿り着きました。ICTを活用した研修会を企画・運営することで、県外講師においても、移動するリスクを防ぎ、また、参加者においても、密となる空間での研修会を避けることができました。

全学FD委員会を始め教職員のご協力のおかげで計6回のFD研修会を実施することができました。

第1回FD研修会では、当時想定された遠隔授業のあり方と実施手段について情報共有を行いました。

続いて第2回FD研修会では、本学が遠隔授業を開始して3週間経った時点で、4名の教員に協力を依頼し、ICT等を活用した遠隔授業の実施方法において事例を用いて、情報共有いただきました。また、本学で遠隔授業が実施されて2週間後に行った「遠隔授業実施・受講に関する実態調査」の結果についても情報共有を行い、遠隔授業が開始されて間もない時点で、学生のニーズを把握できるよう努めました。

第1回及び第2回FD研修会は、準備期間が非常に短い中、教職員の皆様に協力をいただき、誠に感謝申し上げます。

第3回FD研修会では、環太平洋地域文化研究所と共同開催しました。Microsoft Teamsを用いて名古屋市立大学学長郡健二郎氏を学外講師として招聘し、「科研費申請書等に関する総論及び個別申請書公開添削」を実施していただきました。

続いて第4回FD研修会では、学生課と共同して、「合理的配慮を要する学生の支援について～具体的事例をととした配慮の方法～」をテーマに研修会を実施しました。学外講師として筑波大学DACセンター助教協貴典氏を学外オンライン講師として招聘しました。

第5回FD研修会では、「令和2年度混成型授業（対面授業及び遠隔授業のハイブリッド型）実施・受講に関する実態調査」結果を事前学習資料として、「ICTを活用した授業及びアカデミックアドバイザーの現状について」をテーマとして、分科会形式の研修会を実施しました。令和2年度の授業に関する課題・成功例について情報共有を行い、令和3年度に向けて授業のあり方・アカデミックアドバイザーのあり方について検討しました。

第6回FD研修会では、リベラルアーツ機構と共同開催して、元琉球大学教授、詩人・作家 大城貞俊氏を学外オンライン講師として招聘しました。「沖縄で創作すること」をテーマとしてご講演を賜りました。

また、令和2年度における全学FD委員会のもう一つの課題として、老朽化した授業評価アンケートシステムについての再構築を行いました。ワーキンググループを4か月にわたり業者を交えて実施し、改善策案等を検討しました。結果、情報漏洩防止の観点からセキュリティを強化し、可視化された使いやすいシステムを再構築することができました。

一方で、今年度全学FD委員会は、全ての委員会活動において、試験的にタブレット機器を用いたペーパーレス会議システムを導入しました。

当該システムとWeb会議システムと併用することで、今般の社会情勢に対応できる会議の体制づくりについて検討しました。

次年度も引き続き、ペーパーレス会議システムを用いて、全学的に普及できる体制づくりについて検討してまいります。

最後に、今年度のFD活動において、ご協力いただいた教職員の皆様へ感謝の意を表し、委員会活動における委員長の総括といたします。

## 10 令和2年度FD委員会活動の総括

全学FD委員会委員長：アリ ファテヘルアリム

令和2年度ファカルティ・ディベロップメント委員会（以下、FD委員会）は10人の委員（1号委員：全学教務委員長1名、2号委員：国際学群教務委員会委員長、3号委員：人間健康学部教務委員会委員長、4号委員：リベラルアーツ機構長、5号委員：各学系又は各学科から選出された1名ないし2名の教員（国際学群3学系より3名、スポーツ健康学科1名、看護学科1名）、6号委員：その他学長が必要と認めた者（若干名）1名）で構成した。

委員会の定例開催日時は第1回から第11回までは原則90分間の審議時間であった。本年度同委員会は計11回開催し、必要に応じて開催日を変更した。

令和2年度同委員会において採り上げた議題事項及び報告事項は合計70件であった。表1に令和2年度FD委員会各回の議題及び報告事項を示す。

表1 令和2年度FD委員会各回の議題事項及び報告事項

回数	月日	議題事項	報告事項
1	R2年4月17日	7	1
2	5月15日	5	0
3	6月19日	5	3
4	8月28日	7	3
5	9月25日	6	2
6	10月23日	3	3
7	11月27日	3	2
8	12月25日	3	1
9	R3年1月22日	3	2
10	2月26日	3	4
11	3月26日	1	3
合計		46	24
平均		4.18	2.18

表1によれば令和2年度は11回開催されており、議題件数は平均4.18件、報告事項は平均2.18件となった。前年度と比較して、議題件数については増加しており、報告事項についても増加した。（平成30年度は議題件数3.8件、報告事項は1.6件）。

毎回、各委員の日程を調整しての会議は審議内容により、90分間を越す回もあったが、概ね時間内に話し合いが終わるよう、事前調整ならびに議事進行に配慮した。

今年度、全学FD委員会に与えられた課題は、その多くがFD研修会の企画・実施及び授業評価アンケートシステムの再構築、及び授業評価アンケートの実施であり、その内容は本学の中期計画のもとでの年度計画達成に向けた活動であった。

今年度の全学FD活動に関わり、協働・参画下さった全ての教職員のみなさまに、心より感謝申し上げます。

## Ⅱ 全学FD研修会

(第1回～第6回)

## 令和2年度 第1回名桜大学 FD 研修会総評

テーマ：名桜大学情報セキュリティポリシー、ICT を用いた遠隔授業の実施方法について

(文責) 佐久本功達

総評：

沖縄県では、2020（令和2）年に2回、新型コロナウイルスによる感染症拡大を防止することを目的とした緊急事態宣言が発令された。第1回目は4月20日から5月14日までの25日間、第2回目は8月1日から9月5日までの35日間であった。本学は当初、4月9日から新年度の授業を開始する予定であったが、急遽、授業開始を約1か月遅らせる作戦を取った。その作戦内容は、1か月間（ほぼ、第1回目の緊急事態宣言の期間に該当する）を本学教員がオンライン授業に対応するための新たな教授方法の開拓・蓄積の醸成期間とするものであった。この醸成期間の第1日目に、第1回名桜大学 FD 研修会が開催されることとなった。

本研修会の最初のプログラム「名桜大学情報セキュリティポリシー」では、天願健メディアネットワークセンター長より、①「公立大学法人名桜大学情報システム運用基本方針」、②「公立大学名桜大学情報システム運用基本規程」、③「公立大学名桜大学情報システム利用規程」についての概要説明があり、①と②を合わせて、本学の情報セキュリティポリシーが構築されているとの説明があった。また、本学の最高セキュリティ責任者は理事長であることが確認された。

第2のプログラム「ICTを用いた遠隔授業の実施方法について」では、佐久本功達 IR 室長より、「遠隔授業に関する留意事項」として、①「文科省からの遠隔授業に関する通知について」、②「著作権法の規制緩和について」の説明があった。①では資料「令和2年3月24日付け元文科高第1259号「令和2年度における大学等の授業の開始等について」」に基づき、テレビ会議システムを用いた遠隔授業の例、オンライン教材（MOOC等）を用いた遠隔授業の例などの説明があった。②では、文化庁著作権課から著作権等管理事業者及び関係団体に宛てた文書「新型コロナウイルス感染症対策に伴う学校教育におけるICTを活用した著作物の円滑な利用について」に基づき、平成30年の著作権法改正による「授業目的公衆送信補償金制度」の説明があり、教育機関に対して著作物のオンライン利用について、配慮するよう依頼が行われていることが情報共有された。

第3のプログラム「学生支援システムの活用について」では、玉城正貴教務部教務課学習支援係長より、UniversalPassportの「揭示機能」、「授業資料機能」、「課題機能」について説明があり、教員から学生へのアナウンスの方法やオンライン授業における教材配布および課題の出題の具体的な操作方法がハンズオン形式で行われた。

第4のプログラム「遠隔授業用ストーリーミング教材の作成法について」では、佐久本功達 IR 室長より、①「Microsoft PowerPoint を使用した音声付き動画教材について」、②「YouTube へのアップロード」の説明があった。①では、これまで教員が蓄積してきたス

ライド資料を活用することがメリットであること、また教員の姿を動画撮影する際には、カメラ目線を意識する方がより対面を意識した学生・教員間の透過性に優れた動画教材になるとの説明があった。②では、作成した動画教材をアップロードする際、アクセスの制限を設けることができるとの説明があった。また、YouTube にアップロードした動画は Google classroom にリンクを貼り付けることもでき、さらに YouTube ではなく Google Classroom に直接動画をアップロードする方法についても説明があった。

第5のプログラム「オンラインシステムによる遠隔授業について」では、長山豪太メディアネットワークセンター保守員より、リアルタイム型の遠隔授業の ICT ツールとして、①「Microsoft Teams」、②「Cisco Webex」、③「MeetingPlaza」、④「Zoom」の説明があり、特に①については、本学として推奨するものであり、詳細な操作方法の説明があった。

最後のプログラム「その他（依頼事項等）」については、林優子副学長より、文部科学省からのガイドラインと本学の方針に基づき、欠席の取り扱い、教育の質保証についての説明・依頼があった。

質疑応答では、コロナ禍の状況により15週の期間が確保ができない場合はどのように対処すべきかについての質問があり、砂川昌範学長より、文部科学省の大学設置基準に従うことが示され、たとえば、15週が確保できない場合は、1週で2回の授業を提供し単位の保証をする本学の方針説明があった。

本研修会終了後のアンケート調査の質問項目「研修会の内容について（5.満足／4.やや満足／3.ふつう／2.やや改善／1.改善の余地）」では、「5.満足」が25.7%、「4.やや満足」が48.6%となっており、両方で74.3%を占めた結果となった。このことから、参加者は研修内容について比較的満足であったことが伺える。

本研修会がきっかけとなり Garoon スペースで「遠隔授業（事例と Q&A）」が立ち上がった。本スペースでは「UniversalPassport の事例」、「著作権／セキュリティ関係」、「Microsoft Teams の事例」、「関係リンク集や資料」、「何でも質問コーナー」、「Google classroom の事例」、「非常勤講師への対応」、「学生への対応」、「実習・実技関係の事例」、「語学関係の事例」、「FAQ」などのディスカッションが立ち上がり、ICT を用いた遠隔授業の実施について、現在も全学的な情報共有が継続中である。

令和2年度 第1回名城大学FD研修会 実施計画

1. 目的:

令和2年4月6日(月)に開催された第5回タスクフォース会議において、一部の講義についてオンライン講義での提供を可能とするため、早急に体制を整えることが決定した。

そのため、本研修会では、ICTを活用した遠隔授業の実施方法について研修を行い、オンライン講義での提供を可能とすること及び本学専任教員の資質向上を目的とする。

2. 開催日時: 令和2年4月9日(木) 16:30~18:00 (受付開始 16:00)

3. 会場: 学生会館(SAKURAUM) 3F・大講義室A及びB

4. 対象: 本学専任教職員

5. テーマ: 名城大学情報セキュリティポリシー、ICTを用いた遠隔授業の実施方法について

6. プログラム

時間	内容
16:00~	受付
16:30~ (5分)	開会のあいさつ <span style="float: right;">【司会:副学長 林 優子】</span> 学長 砂川 昌範
16:35~ (10分)	名城大学情報セキュリティポリシー ■発表者 メディアネットワークセンター長 天願 健
16:45~ (65分)	ICTを用いた遠隔授業の実施方法について 1 遠隔授業に関する留意事項 ① 文科省からの遠隔授業に関する通知について ② 著作権法の規制緩和について ■発表者 IR室長 佐久本 功達 2 授業支援システムの活用について Universal Passport ① 学生へのお知らせ・・・ 揭示機能 ② 学生への教材配布・・・ 授業資料機能 ③ 学生への課題出題・・・ 課題機能 ■発表者 教務部教務課学習支援係長 玉城 正貴 3 遠隔授業用ストリーミング教材の作成例について ① Microsoft PowerPoint を使用した音声付き動画教材について ② YouTube へのアップロード ■発表者 IR室長 佐久本 功達 4 オンラインシステムによる遠隔授業について ① Microsoft Teams (推奨) ② Cisco Webex ③ MeetingPlaza ④ Zoom (文科省より脆弱性の指摘あり) ■発表者 メディアネットワークセンター 保守員 長山 豪太 5 その他(依頼事項等) ■発表者 副学長 林 優子
17:45~ (5分)	質疑応答
17:55~ (5分)	閉会のあいさつ 名城大学FD委員長 アリ ファテヘルアリム
18:00	終了

## 公立大学法人名桜大学情報システム運用基本規程

(平成27年12月21日制定)

### (目的)

第1条 この規程は、公立大学法人名桜大学（以下「本学」という。）の情報システムの運用及び管理について必要な事項を定め、優れた秩序と安全性をもって、安定的かつ効率的な情報の共有と管理及び適切な情報セキュリティ対策を図ることを目的とする。

### (定義)

第2条 この規程において、次に掲げる用語は、それぞれ当該各号の定めるところによる。

(1)「情報システム」とは、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク、記憶媒体で構成されるもの又はソフトウェアの機能をサービスとして提供を受けるサービス型ソフトウェアであって、これら全体で業務処理を行うものであり、次のものを総称していう。

ア 本学により、所有又は管理されているもの。

イ 契約等により、第三者から提供されるもの。

(2)「情報ネットワーク」とは、情報を伝達する仕組みを持った設備であり、次のものを総称していう。

ア 本学が、所有又は管理しているもの。

イ 契約等により、第三者から提供されるもの。

(3)「情報資産」とは、情報及び情報を管理する仕組みであり、次のものを総称していう。

ア 情報システム内部に記憶された情報。

イ 情報システム外部の電磁的記録媒体に記録された情報。

ウ 情報システムに関して書面に記載された情報。

(4)「情報セキュリティポリシー」とは、本学が定める「公立大学法人名桜大学情報システム運用基本方針」及びこの規程をいう。

(5)「情報セキュリティ」とは、情報資産の機密性、完全性及び可用性を維持することをいう。

(6)「利用者」とは、学生、教職員及びその他情報システムを利用するすべての者をいう。

### (最高情報セキュリティ責任者)

第3条 理事長は、情報システムの運用に関し、総括的に責任を持つ。

2 最高情報セキュリティ責任者は、ポリシー及びそれに基づく規程の整備や情報システム上での各種問題に対処する。

3 最高情報セキュリティ責任者は、本学の情報基盤として提供される情報システムのうち情報セキュリティが侵害された場合の影響が特に大きいと評価される情報システムを指定することができる。この指定された情報システムを「全学情報システ

ム」という。

4 最高情報セキュリティ責任者に事故があるときは、副理事長が、その職務を代行する。

(情報部門のセンター)

第4条 情報システムの運用等に係る業務は、メディアネットワークセンターが総括する。

(メディアネットワークセンター長)

第5条 メディアネットワークセンター長は、情報システムの運用に関し、統括的に管理を行う。

2 メディアネットワークセンター長は、最高情報セキュリティ責任者の指示により、情報システムの整備と運用に関し、ポリシー及びそれに基づく規程並びに手順等の実施を行う。

3 メディアネットワークセンター長は、本学の情報セキュリティに関する連絡と通報において本学情報システムを代表する。

(管理運営部局)

第6条 メディアネットワークセンターを情報システムの管理運営部局とする。

(管理運営部局が行う業務)

第7条 管理運営部局は、最高情報セキュリティ責任者の指示により、次の各号に定める事務を行う。

2 情報システムの運用と利用におけるポリシーの実施状況の取りまとめ

3 本学の情報セキュリティに関する連絡と通報

(役割の分離)

第8条 情報セキュリティ対策の運用において、以下の役割を同じ者が兼務しないこと。

(1) 承認又は許可事案の申請者とその承認者又は許可を行う者（以下、本項において「承認権限者等」という。）

(2) 監査を受ける者とその監査を実施する者

2 前項の定めに係らず、職員等は、承認権限者等が有する職務上の権限等から、当該承認権限者等が承認又は許可（以下「承認等」という。）の可否の判断を行うことが不適切と認められる場合には、当該承認権限者等の上長の承認等を得たときは、当該承認権限者等の承認等を得ることを要しない。

3 職員等は、前事項の場合において承認等を与えたときは、承認権限者等に係る遵守事項に準じて、処置を講ずる。

(情報システム運用の外部委託管理)

第9条 最高情報セキュリティ責任者は、本学情報システムの運用業のすべて又はその一部を第三者に委託する場合には、当該第三者による情報セキュリティの確保が徹底されるよう必要な処置を講じるものとする。

(見直し)

第10条 最高情報セキュリティ責任者及びメディアネットワークセンター長は、各

規程の見直しを行う必要性の有無を適時検討し、必要があると認めた場合にはその見直しを行わなければならない。

(改廃)

第11条 この規程の改廃は、理事会の議を経て理事長がこれを行う。

附 則（平成27年12月21日）

この規程は、平成28年 4月 1日から施行する。

## 公立大学法人名桜大学情報システム運用基本方針

(平成27年12月21日制定)

(目的)

第1条 公立大学法人名桜大学（以下「本学」という。）の情報システムは、本学の目的並びに基本理念の実現のため、すべての教育、研究活動及び運営の基盤として設置され、運用されるものである。

(基本方針)

第2条 前条の目的を達成するため、本学の情報システムは、次に掲げる事項を運用の基本方針とし、優れた秩序と安全性をもって安定的かつ効率的な運用を行い、全学に供用される。

- (1) 情報資産の保護。
- (2) 情報システム運用に関連する法令の遵守。
- (3) 本学情報システムにおける、機密性、完全性、可用性の維持。
- (4) 不正アクセス及び不正利用への対策。
- (5) 情報システムの適切かつ継続的な評価及び見直し。

(利用者等の義務)

第3条 本学の情報システムを利用する者や運用の業務に携わる者は、前条の基本方針に沿って情報システムの利用等を行うとともに、別に定める運用と利用に関する規定を遵守しなければならない。

(利用の制限)

第4条 本方針に基づく規程等に違反した場合は、利用の制限等を行うことができる。

(改廃)

第5条 本方針の改廃は、理事会の議を経て理事長がこれを行う。

附 則 (平成27年12月21日)

この方針は、平成28年 4月 1日から施行する。

## 公立大学法人名桜大学情報システム利用規程

### (目的)

第1条 この規程は、公立大学法人名桜大学（以下「本法人」という。）における情報システムの利用に関する事項を定め、情報セキュリティの確保と円滑な情報システムの利用に資することを目的とする。

### (定義)

第2条 この規程において、次の各号に掲げる用語は、それぞれ当該各号の定めるところによる。

- (1) 「基本方針」とは、本法人が定める「公立大学法人名桜大学情報システム運用基本方針」をいう。
- (2) 「基本規程」とは、本法人が定める「公立大学法人名桜大学情報システム運用基本規程」をいう。
- (3) 「全学アカウント」とは、本学法人の全学統一認証に対応した情報システムの利用にあたって用いるアカウントをいう。その他、本法人が契約し外部委託したシステム及びサービス利用のためのアカウントも含むものとする。
- (4) 「ICカード」とは、本法人及び名桜大学が発行する職員証、学生証並びにユーティリティカードをいう。
- (5) 「情報機器」とは、コンピュータ及び外付けハードディスクや複合機等の周辺機器を言う。
- (6) 「インシデント」とは、情報システムやネットワークの機器不全や障害等による「物理的インシデント」、ネットワークや情報システムの稼働妨害行為による「セキュリティインシデント」及びネットワークを利用した情報発信による著作権妨害行為等の他人の権利侵害行為等の「コンテンツインシデント」をいう。
- (7) その他の用語の定義は、基本方針及び基本規程で定めるところによる。

### (適用範囲)

第3条 この規程は学生、職員及びその他情報システムを利用するすべての者に適用する。

2 本法人情報システムとは、公立大学法人名桜大学及び名桜大学が設置若しくは契約により使用又は提供を受けている情報ネットワーク、情報機器及び情報システムのことである。

### (遵守事項)

第4条 本法人情報システムの利用者は、本規程の他、「公立大学法人名桜大学個人情報の保護に関する規則」及びこれらに基づく取扱要領等を遵守しなければならない。

### (全学アカウントの交付)

第5条 利用者は、次の各号のいずれかに該当する場合に、全学アカウントの交付を受けることができる。

- (1) 利用者が、学生として入学した場合
- (2) 利用者が、職員として採用された場合
- (3) 管理運営部局に申請を行い、許可を受けた場合
- (4) その他、特別な事由により最高情報セキュリティ責任者が認めた場合

(認証情報の管理)

第6条 利用者は、全学アカウントの管理に際して次の各号を遵守しなければならない。

- (1) 利用者は、自己のアカウントを他の者に使用させ、又は他の者に開示してはならない。
  - (2) 利用者は、他の者のアカウントを聞き出し、又は使用してはならない。
  - (3) 利用者は、全学アカウントを利用して、学外から本法人情報システムにアクセスする場合には、定められた手順に従ってアクセスしなければならない。また、全学アカウントの漏えいが発生しないよう管理しなければならない。
  - (4) 利用者は、全学アカウントを他者に使用され又はその危険が発生した場合には、直ちに管理運営部局にその旨を報告しなければならない。
  - (5) 利用者は、全学アカウントを有効期限の範囲内で使用できることとし、有効期限の延長が必要な場合は、管理運営部局に届け出なければならない。ただし、特段の事情により最高情報セキュリティ責任者が認めた場合は、この限りではない。
- 2 利用者は、ICカードの管理に際して次の各号を遵守しなければならない。
- (1) ICカードを本人が意図せずに使われることのないように安全措置を講じて管理しなければならない。
  - (2) ICカードを他者に貸与してはならない。
  - (3) ICカードを紛失しないように管理しなければならない。紛失した場合は、直ちに管理運営部局にその旨を報告しなければならない。
  - (4) ICカードの有効期限が満了した場合には、遅延なくこれを管理運営部局に返還しなければならない。ただし、特段の事情により最高情報セキュリティ責任者が認めた場合は、この限りでない。
  - (5) ICカードの有効期限の延長を希望する場合は、管理運営部局に届け出なければならない。

(情報機器の利用)

第7条 利用者は、様々な情報の作成、利用又は保存等のための情報機器の利用に当たっては次の各号に従わなければならない。

- (1) 利用者は、本法人情報ネットワークに新規かつ固定的に情報機器を接続しようとする場合は、管理運営部局に接続の許可を得なければならない。ただし、情報コンセントや無線 LAN からあらかじめ指定された方法により本法人情報システムに接続する場合はこの限りではない。

- (2) 利用者は、前号により許可を受けた情報機器の利用を取りやめる場合には管理運営部局に届け出なければならない。
- (3) 情報機器が認証システム及びログ機能を備えている場合には、それらの機能が設定され動作していなければならない。不正ソフトウェア対策機能が提供されている機器にあっては、その機能を最新の状態に保ち、システムを保護しなければならない。
- (4) 情報機器は脆弱性を持たないように可能な限り最新の状態で使用しなければならない。
- (5) 利用者は、情報漏えいを発生させないように対策し、情報漏えいの防止に努めなければならない。
- (6) 利用者は、情報機器の紛失又は盗難を発生させないように注意しなければならない。
- (7) 情報機器の紛失又は盗難が発生した場合は、速やかに管理運営部局に届け出なければならない。

(制限事項)

第8条 利用者は、本法人情報システムについて次の各号に定める行為を行おうとする場合には、最高情報セキュリティ責任者に許可を受けなければならない。

- (1) ファイルの自動公衆送信機能を持ったファイル交換ソフト等を、教育・研究目的で利用する行為
- (2) 不正ソフトウェアに類似したコードやセキュリティホール実証コードを、教育・研究目的で作成、所持、使用又は配布する行為
- (3) ネットワーク上の通信を監視する行為
- (4) 本法人情報機器の利用情報を取得する行為又は本法人情報システムのセキュリティ上の脆弱性を検知する行為
- (5) 本法人情報システムの機能を著しく変える可能性のあるシステムの更新

(禁止事項)

第9条 利用者は、本法人情報システムについて、次の各号に定める行為を行ってはならない。

- (1) 当該情報システム及び情報について定められた目的外の利用
- (2) あらかじめ指定されたシステム以外の本法人情報システムを本法人以外の者に利用させる行為
- (3) 守秘義務に違反する行為
- (4) 差別、名誉棄損、侮辱、ハラスメントに当たる行為
- (5) 個人情報やプライバシーを侵害する行為
- (6) 前条に該当しない不正ソフトウェアの作成、所持及び配布行為
- (7) 著作権等の財産権を侵害する行為
- (8) 通信の秘密を侵害する行為
- (9) 営利を目的とした本法人情報システムの利用

- (10) 過度な負荷等により本法人の円滑な情報システムの運用を妨げる行為
- (11) 不正アクセス禁止法に反する行為又はこれに類する行為
- (12) その他法令に基づく処罰の対象となる行為
- (13) 上記の行為を助長する行為

(違反行為への対処)

第10条 利用者の行為が前条に掲げる事項に違反すると疑われる行為が認められたときは、メディアネットワークセンター長は速やかに調査を行い、事実を確認するものとする。事実の確認に当たっては、可能な限り当該行為を行った者の意見を聴取しなければならない。

2 メディアネットワークセンター長は、上記の措置を講じたときは、遅延なく最高情報セキュリティ責任者にその旨を報告しなければならない。

3 調査によって違反行為が判明したときは、メディアネットワークセンター長は最高情報セキュリティ責任者を通じて次の各号に掲げる措置を講ずることを依頼することができる。

- (1) 当該行為者に対する当該行為の中止命令
- (2) 管理運営部局に対する当該行為に係る情報発信の遮断命令
- (3) 管理運営部局に対する当該行為者のアカウント停止又は削除命令
- (4) その他、本学規程等に基づく措置

(電子メールの利用)

第11条 利用者は、電子メールの利用に当たっては、別途定める「情報ネットワークの利用におけるマナーと遵守事項」を遵守しなければならない。

(ウェブの公開)

第12条 利用者は、ウェブによる情報公開に際し、次の各号に従わなければならない。

- (1) 利用者は、別途定める「個人情報をホームページで公開する場合の取扱要領」及び「情報公開に関するガイドライン」を遵守し、ウェブページを作成し、公開することができる。
- (2) 利用者は、ウェブサーバを運用し情報を学外へ公開する場合は、事前にメディアネットワークセンター長に申請し、許可を得なければならない。
- (3) ウェブページやウェブサーバの運用に関して、規程やガイドラインに違反する行為が認められた場合には、メディアネットワークセンター長は公開の許可の取り消しやウェブコンテンツの削除を行うことができる。

(学外からの本法人情報システムの利用)

第13条 利用者は、学外からの本法人情報システムへのアクセスにおいて、次の各号に従わなければならない。

- (1) 利用者は、学外から全学アカウントを使って本法人情報システムへアクセスする

場合には、指定された方法で利用しなければならない。

(2) 利用者は、アクセスに用いる情報システムを他者に利用させてはならない。

(安全管理義務)

第14条 利用者は、自己の管理する情報機器について、本法人情報ネットワークとの接続状況に関わらず、安全性を維持する一次的な責任者となることに留意し、次の各号に従って利用しなければならない。

(1) ソフトウェアの状態及び不正ソフトウェア対策機能を最新の状態に保つこと。

(2) 不正ソフトウェア対策機能により不正プログラムとして検知されるファイル等を開かないこと。

(3) 不正ソフトウェア対策機能の自動検査機能を有効にすること。

(4) 不正ソフトウェア対策機能により定期的にすべての電子ファイルに対して、不正プログラムが存在しないことを確認すること。

(5) 外部からデータやソフトウェアを情報機器に取り込む場合又は外部にデータやソフトウェアを提供する場合には、不正ソフトウェアが存在しないことを確認すること。

(6) 常に最新のセキュリティ情報に注意し、不正ソフトウェア感染の予防に努めること。

(インシデント対応)

第15条 利用者は、本法人情報システムの利用に際して、インシデントを発見したときは、速やかに管理運営部局に連絡又は通報しなければならない。

第16条 この規程の改廃は、メディアネットワークセンター運営委員会の議を経てメディアネットワークセンター長が定める。

附 則

この規程は、平成29年10月20日から施行する。

## ICT を活用した遠隔授業の実施方法について

天願 健 (MNC) ・ 佐久本功達 (IR 室) ・ 玉城正貴 (教務課) ・ 長山豪太 (MNC)

### 1. 遠隔授業に関する留意事項

- ① 文科省からの遠隔授業に関する通知について
- ② 著作権法の規制緩和について

### 2. 学内ポータルサイト (Universal passport) の活用について

- ① 学生へのお知らせ・・・・・・ 掲示機能
- ② 学生への教材配布・・・・・・ 授業資料機能
- ③ 学生への課題出題・・・・・・ 課題機能

### 3. 遠隔授業用ストリーミング教材の作成例について

- ① Microsoft PowerPoint を使用した音声付き動画教材について
- ② YouTube へのアップロード

### 4. オンラインシステムによる遠隔授業について

- ① Microsoft Teams (推奨)
- ② Cisco Webex
- ③ MeetingPlaza
- ④ Zoom (文科省より脆弱性の指摘あり)

### 5. 遠隔授業の支援について

### 6. その他

# 遠隔授業に関する留意事項

1. 文科省からの遠隔授業に関する通知について⇒留意点は何か  
今回は緊急事態であるから、可能な限り
  - ① 教員－学生間のやり取り(質問、課題出題等)を確保する(同時でなくてもよい)。
  - ② 面接授業の場合との学習効果の差が生じないようすること。
2. 著作権法の規制緩和について⇒どのような状況か
  - ① 著作権法第35条を改正している途中(令和3年5月24日までに開始:文化庁著作権課)
  - ② 2020年度に限り、教材として著作物を使った授業をネットで配信できる見込みである。

## 【参考リンク】

- 大学における多様なメディアを高度に利用した授業について (資料6) (文部科学省 制度・教育改革ワーキンググループ (第8回) 配付資料)  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo4/043/siryo/icsFiles/afie/afie/2018/09/10/1409011\\_6.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/043/siryo/icsFiles/afie/afie/2018/09/10/1409011_6.pdf)
- 令和2年度における大学等の授業の開始等について (通知) (元文科高第1259号)  
[https://www.mext.go.jp/content/20200324\\_mxt\\_kouhou01-000004520\\_4.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200324_mxt_kouhou01-000004520_4.pdf)
- 新型コロナウイルス感染症対策に伴う学校教育におけるICTを活用した著作物の円滑な利用について  
[https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/pdf/92080101\\_01.pdf](https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/pdf/92080101_01.pdf)
- JMOOC  
<https://www.jmooc.jp/>

## 1 背景

### ■ 「多様な学生」

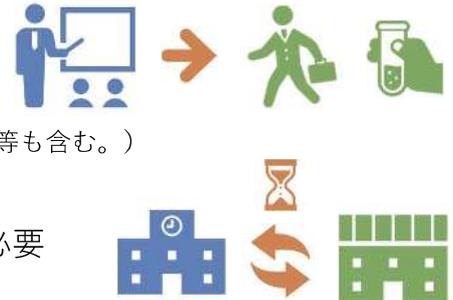
- 多様な受講スタイルへのニーズ

「18歳で入学する従来モデルから脱却し、社会人、留学生、障害のある学生など多様な年齢層の多様なニーズを持った学生への教育体制の整備」（中間まとめ）



### ■ 「多様な教員」

- 本業と兼務している実務家教員においては、本業と大学での教育研究が両立しやすい環境が必要
- アカデミア教員においても、より時間と場所の制約を受けにくい教育研究環境\*へのニーズ  
（\*学内での教育研究のほか、国外大学との兼務や、サバティカル研修等も含む。）



### ■ 「単位互換」

- 単位互換のネックとなる、大学間の移動時間の解消が必要  
（単位互換のみならず、大学等連携推進法人（仮称）制度を活用した複数大学が連携して実施する各種の取組も視野。）



「多様な価値観が集まるキャンパス」の実現や、学生の学びの多様化等を図る上で、大学の授業における多様なメディア（ICT）の効果的な活用を図ることはきわめて重要。



1

## 2 現行法令上の規定

### ○大学設置基準（昭和31年文部省令第28号）（抄） ※大学院設置基準において準用、短期大学設置基準において同旨規定。

- 第25条 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。
- 2 大学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。
  - 3 大学は、第一項の授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。
  - 4 略

### ○平成13年文部科学省告示第51号（大学設置基準第二十五条第二項の規定に基づく大学が履修させることができる授業等）（以下、「メディア授業告示」）（抄）

通信衛星、光ファイバ等を用いることにより、多様なメディアを高度に利用して、文字、音声、静止画、動画等の多様な情報を一体的に扱うもので、次に掲げるいずれかの要件を満たし、大学において、大学設置基準第二十五条第一項に規定する面接授業に相当する教育効果を有すると認めたものであること。

- 一 同時かつ双方向に行われるものであって、かつ、授業を行う教室等以外の教室、研究室又はこれらに準ずる場所（大学設置基準第三十一条第一項の規定により単位を授与する場合においては、企業の会議室等の職場又は住居に近い場所を含む。）において履修させるもの
- 二 毎回の授業の実施に当たって、指導補助者が教室等以外の場所において学生等に対面することにより、又は当該授業を行う教員若しくは指導補助者が当該授業の終了後すみやかにインターネットその他の適切な方法を利用することにより、設問解答、添削指導、質疑応答等による十分な指導を併せ行うものであって、かつ、当該授業に関する学生の意見の交換の機会が確保されているもの

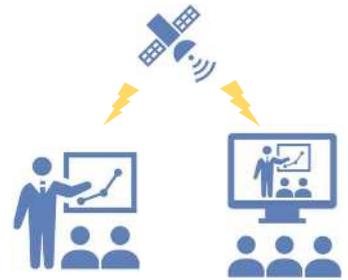
2

### 3 授業の種類と要件

#### (1) 同時双方向型（テレビ会議方式等） ※メディア授業告示第1号

【形態】 「同時」かつ「双方向」

【履修場所】 授業を行う教室等以外の**教室、研究室又はこれらに準ずる場所**  
(科目等履修生の場合、企業の会議室等の職場又は住居に近い場所を含む。)



【その他留意事項】 (平成10年3月31日通知より抜粋)

○ 授業を実施するに当たっては、**面接授業に近い環境で行うことが必要**であり、各大学においては、**以下のような事項について配慮**することが望ましい。

- ・ 授業中、**教員と学生が、互いに映像・音声等によるやりとり**を行うこと。
- ・ 学生の教員に対する**質問の機会を確保**すること。
- ・ メディアを利用して行う授業の受信側の教室等に、必要に応じ、システムの管理・運営を行う補助員を配置すること。また、必ずしも受信側の教室等に教員を配置する必要はないが、必要に応じてティーチング・アシスタントを配置することも有効であること。

※「授業を行う教室等」には研究室やスタジオなどが含まれるため、授業を行う場所には教員のみがいて、履修を行う学生がいない場合もメディアを利用して行う授業に含まれる。また、同一校舎内の複数の教室間で多様なメディアを高度に利用して同時に行われる授業もメディアを利用して行う授業に含まれる。

3

#### (2) オンデマンド型（インターネット配信方式等） ※メディア授業告示第2号

【形態】 「同時」又は「双方向」である必要は無い

【指導方法】 ① 毎回の授業の実施に当たって、**指導補助者が教室等以外の場所において学生等に対面することにより、又は**

② 当該授業を行う**教員若しくは指導補助者が当該授業の終了後すみやかにインターネットその他の適切な方法を利用することにより、** **【※MOOC等】**

設問解答、添削指導、質疑応答等による**十分な指導\***を併せ行うことが必要。

\*学期末などにまとめてではなく、毎回の授業の実施に当たって併せ行う。

→いつまでに質疑応答を行うべきかについては、従来の通知等では必ずしも明示されていないが、①学生が疑問をただちに提出できる環境があること、②当該疑問が次の講義の学修の前提となる場合には、次の講義までに、もしくは次の講義のなかで回答を行うこと、③②以外の場合には、講義期間中適切な時期に回答を行うこと、を目安として示してはどうか。

\*「指導」には、設問解答、添削指導、質疑応答のほか、課題提出及びこれに対する助言を電子メールやファックス、郵送等により行うこと、教員が直接対面で指導を行うことなどが含まれる。

→従来の通知等では示されていないが、ICTの活用例として、たとえば、よくある質問とそれに対する答えについてAIに蓄積し、学生からの質問があった場合にはAIが回答し、AIが判断に迷う質問については担当教員若しくは指導補助者がフォローする、といった手法も考えられる。

【意見交換】 当該授業に関する**学生の意見交換の機会\***の確保が必要

\*大学のホームページに掲示板を設け、学生がこれに書き込めるようにしたり、学生が自主的に集まり学習を行えるような学習施設を設けたりする等

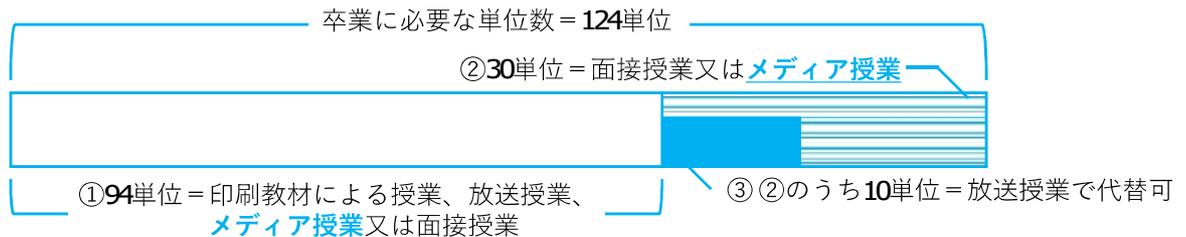
## 4 修得単位数の上限

卒業に必要な単位数のうち、メディア授業により修得可能な単位数の上限は以下のとおり。

【学部（通学制）】卒業要件**124単位中、60単位まで**



【学部（通信制）】卒業要件**124単位すべて**をメディア授業により修得可



【大学院】卒業要件**30単位すべて**をメディア授業により修得可。  
(ただし、必要な研究指導を受けなければならないことに留意。)



【短期大学】(a) 修業年限2年の場合：卒業要件**62単位中30単位まで**  
(b) 修業年限3年※の場合：卒業要件**93単位中46単位まで**

※修業年限3年以上の夜間学科等のうち、短期大学設置基準第19条の卒業の要件の特例の対象となるものについては、卒業要件62単位中30単位まで ((a)と同様)



5

## 5 学修時間、授業時間

メディア授業の場合であっても、大学設置基準において

- 1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とすること（第21条第2項）
- 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもって1単位とすること（同第1号）

とされていることを踏まえて、授業を構成する必要がある。

## 6 その他共通的な留意事項

（平成10年3月31日通知）

メディアを利用して行う授業を実施するに当たっては、面接授業に近い環境で行うことが必要であり、各大学においては、以下のような事項について配慮することが望ましい。

- 画面では黒板の文字が見つらい等の状況が予想される場合には、あらかじめ学生にプリント教材等を準備するなどの工夫をすること。
- メディアを活用することにより、1度に多くの学生を対象にして授業を行うことが可能となるが、受講者数が過度に多くならないようにすること。

6

## 7 オンラインプログラム（MOOC等）の活用モデル

大学におけるMOOC等の活用方法としては、たとえば以下の類型が考えられるが、いずれも現行法令に適合した形で実施可能である。

### (1) 自らMOOC等を開設

- 大学が自ら、あるいは外部機関等と連携し、MOOC等を開発して、自らの授業科目として開設し、修了者に単位を付与。（卒業要件124単位中60単位まで）

※メディア授業として開設。この場合、メディア授業の要件や留意事項（十分な指導を併せ行うこと等）を満たすことが必要。

### (2) 他大学のMOOC等での学修を単位認定

- 自大学の学生が、他大学が自らの授業科目として開設したMOOC等を科目等履修生として履修し、当該他大学から単位を付与された場合、当該単位を自大学の単位として認定。（卒業要件124単位中60単位まで）

※大学設置基準第28条第1項に基づく単位互換。

### (3) 他大学又は大学以外の団体・企業等が開設したMOOC等を授業で活用

- 授業の一部で外部機関等が開設したMOOC等を「教材」として使用。あるいは、MOOC等を提供する外部機関等と連携協力して授業を実施\*。

（例）教室において、授業担当教員が事前説明をした後、MOOC等を聴講させ、最後に授業担当教員がまとめやきめ細やかな指導を行う。

※学生がこのような外部機関等のMOOC等を大学外で学修したことのみをもって単位付与するような運用は不可。

\*大学が当該大学以外の教育施設等と連携協力して授業を実施する場合には、①授業の内容、方法、実施計画、成績評価基準及び当該教育施設等との役割分担等の必要な事項を協定書に定めている、②大学の授業担当教員の各授業時間ごとの指導計画の下に実施されている、③大学の授業担当教員が当該授業の実施状況を十分に把握している、④大学の授業担当教員による成績評価が行われるなど、当該大学が主体性と責任を持って、当該大学の授業として適切に位置付けて行われることが必要。（平成19年文科高第281号通知）

7

## 8 関係通知

- 「大学設置基準等の一部を改正する省令の施行等について」（平成10年3月31日通知）（抄）

第1 大学設置基準（昭和31年文部省令第28号）の一部改正

一 「メディアを利用して行う授業」の大学設置基準上の位置付け

(一) 略

(二) (略) 「授業を行う教室等」には研究室やスタジオなどが含まれるため、授業を行う場所には教員のみがいて、履修を行う学生がいない場合もメディアを利用して行う授業に含まれる。

また、同一校舎内の複数の教室間で多様なメディアを高度に利用して同時に行われる授業もメディアを利用して行う授業に含まれるものである。

(三) メディアを利用して行う授業を実施するに当たっては、面接授業に近い環境で行うことが必要であり、各大学においては、以下のような事項について配慮することが望ましいこと。

① 授業中、教員と学生が、互いに映像・音声等によるやりとりを行うこと。

② 学生の教員に対する質問の機会を確保すること。

③ 画面では黒板の文字が見づらい等の状況が予想される場合には、あらかじめ学生にプリント教材等を準備するなどの工夫をすること。

④ メディアを利用して行う授業の受信側の教室等に、必要に応じ、システムの管理・運営を行う補助員を配置すること。また、必ずしも受信側の教室等に教員を配置する必要はないが、必要に応じてティーチング・アシスタントを配置することも有効であること。

⑤ メディアを活用することにより、一度に多くの学生を対象にして授業を行うことが可能となるが、受講者数が過度に多くならないようにすること。

(四) 略

- 「学校教育法施行規則等の一部を改正する省令の施行等について」（平成11年3月31日通知）（抄）

第2 大学設置基準（昭和31年文部省令第28号）の一部改正

2 大学設置基準第25条第2項の授業（以下「遠隔授業」という。）により修得することができる単位数の上限の拡大

遠隔授業は、他大学との間で単位互換として行われる場合が少なくないことから、単位互換の単位数の上限の拡大に伴い、遠隔授業により修得することができる単位数の上限について、60単位を超えない範囲内としたこと。（改正後の第32条第4項関係）

なお、各大学において、124単位を超える単位数を卒業の要件としている場合は、大学設置基準第25条第1項の授業によって64単位以上の修得がなされていれば、遠隔授業によって修得する単位数については、60単位を超えることができるものであること。

8

○「**大学設置基準の一部を改正する省令等の施行等について**」（平成13年3月30日通知）（抄）

第7 平成13年文部科学省告示第51号（大学設置基準第25条第2項の規定に基づき、大学が履修させることができる授業等について定める件）等の制定

- 1 大学設置基準第25条第2項の規定に基づき、大学が履修させることができる授業（いわゆる「遠隔授業」）については、平成10年文部省告示第46号により規定されてきたところであるが、インターネット等の情報通信技術の進展にかんがみ、従来のものに加え、毎回の授業の実施に当たって設問解答等による指導を併せて行うものであって、かつ、当該授業に関する学生の意見の交換の機会が確保されているもので、大学において、面接授業に相当する教育効果を有すると認めたものを遠隔授業として位置づけることとしたこと。

したがって、遠隔授業については、「同時かつ双方向に行われるもの」であることが必要とされてきたが、今回の改正によって、同時かつ双方向に行われない場合であっても、一定の条件を満たしていれば、これを遠隔授業として行うことが可能となること。

また、ここで必要とされる指導については、設問解答、添削指導、質疑応答のほか、課題提出及びこれに対する助言を電子メールやファックス、郵送等により行うこと、教員が直接対面で指導を行うことなどが考えられること。

なお、上記の指導は、印刷教材等による授業や放送授業の実施に当たり併せ行うこととされる添削等による指導（大学通信教育設置基準第3条第2項）とは異なり、毎回の授業の実施に当たって併せ行うものであることに留意されたいこと。

学生の意見の交換の機会については、大学のホームページに掲示板を設け、学生がこれに書き込めるようにしたり、学生が自主的に集まり学習を行えるような学習施設を設けたりすることが考えられること。

令和2年3月24日付け元文科高第1259号「令和2年度における大学等の授業の開始等について」（抄）

## 1. 大学等における感染拡大の防止について

- (1) (前略)、地域における感染症の発生状況や学生の状況等を踏まえ、当初の予定通りに授業等を開始することが困難である場合には、設置者の判断で授業等の開始時期の延期等を行うことを妨げるものではないが、その検討を行う場合は、多様なメディアを高度に利用して行う授業（以下「遠隔授業」という。）の活用などによる学修機会の確保に留意すること。

## 2. 学事日程等の取扱いについて

- (1) 令和2年度当初の授業期間については、新型コロナウイルス感染症に対する対応等の影響にかんがみ、1単位の学修時間が45時間である単位制度の趣旨を踏まえ、補講授業、遠隔授業、授業中に課すものに相当する課題研究等を活用し、大学設置基準（昭和31年文部省令第28号）第21条等で定める学修時間を確保するための方策を大学等が講じていることを前提に、10週又は15週の期間について弾力的に取り扱って差し支えないこと。

その際、各大学等の判断により、授業計画（シラバス）（教職課程に係るものを含む。）を変更することは差し支えないが、その他の課程認定に係るものの変更については関係省庁・部署等に相談すること。また、設置計画履行状況等調査（AC）期間中の大学等におかれては、原則として、設置計画に基づく教育課程の編成・実施が求められるが、学事日程の変更等やそれに伴う授業計画（シラバス）の変更は差し支えないこと。その場合には、設置認可又は届出の翌年度以降に提出する「設置計画履行状況AC報告書」における「7 その他全般的事項」の「(1) 設置計画変更事項等」の欄などにその旨を記載して報告すること。

いずれの場合においても、授業計画（シラバス）を変更する際には、学生に対する丁寧な説明に努めること。

- (2) 面接授業に代えて遠隔授業を行う場合にも、大学は当該授業科目を履修した学生に対しては試験の上単位を与えることになるが、その方法は、一斉に実施する定期試験等に限られるものではなく、レポートの活用による学習評価等、到達目標に応じた適切な成績評価手法を選択することができること。なお、それに伴い、授業計画（シラバス）等を変更することは差し支えないが、学生に対する丁寧な説明に努めること。

- (3) 学期、授業を行わない日及び授業日時数については、学則に記載することとされていることから、学則の変更が必要となるような学事日程の変更を行う場合には、公私立大学にあっては、文部科学大臣への届出が必要となるが、各大学等の学則において、授業日や休業日の変更等についての手続きが予め規定されている場合には、令和2年度の学

事日程について、例えば、授業開始日の繰下げや休日・祝日授業の実施等の特例措置を講ずることが可能であり、学則の変更や文部科学大臣への届出を要しないこと。

- (4) 各大学等の教育活動の実施にあたっては、修業年限に係る学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）第 87 条等の趣旨を踏まえ、長期的な見通しの下、計画的な実施に努めること。なお、入国拒否や隔離・停留等の措置により、留学生等が 4 月から大学等の教育活動に参加できない事態も想定されるが、補講授業、遠隔授業、授業中に課すものに相当する課題研究等を活用し、年間を通じて学修時間を確保するための方策を大学等が講じていることを前提に、当初の予定どおり 4 月に入学したものと取り扱うことは差し支えないこと。

### 3. 遠隔授業の活用について

- (1) 今後、学生の学修機会を確保するとともに、感染リスクを低減する観点から、いわゆる面接授業に代えて、遠隔授業を行うことが考えられること。

その際、平成 13 年文部科学省告示第 51 号（大学設置基準第 25 条の規定に基づき、大学が履修させることができる授業について定める件）等に従い行う必要があるところ、同告示第 2 号等の規定に基づき、テレビ会議システム等を利用した同時双方向型の遠隔授業や、オンライン教材を用いたオンデマンド型の遠隔授業を自宅等にいる学生に対して行うことは可能であり、例えば以下の方法によることが考えられること。

#### ・テレビ会議システムを用いた遠隔授業の例

テレビ会議システムを利用して講義をリアルタイム配信し、学生は教室以外の場所（自宅を含む。）において、PC や携帯電話からインターネットに接続し受講。テレビ会議システムによって、教員と学生が、互いに映像・音声等による質疑応答や意見交換を行う。

#### ・オンライン教材（MOOC 等）を用いた遠隔授業の例

スライド資料や講義形式の動画等を教材として e-learning システム等を準備し、学生は教室以外の場所（自宅を含む。）において、PC や携帯電話からインターネットに接続し、随時又は期限が設定されている場合は当該期限内に受講。学生からの課題提出や質問の受付及び回答、学生間の意見交換等についても、インターネット等を通じて行う。質問の受付及び回答については、よくある質問とそれに対する答えについてあらかじめ提示しておき、それ以外の質問について担当教員又は指導補助者が回答するといった手法も考えられる。なお、聴講の前後において、授業担当教員による説明等の指導を行う必要があるが、こうした遠隔授業の一部として、MOOC 等の教育コンテンツを活用することも考えられる。

- (2) 大学設置基準第 32 条第 5 項等の規定により、卒業の要件として修得すべき単位のうち、遠隔授業の方法により修得する単位数については、大学院及び通信制の大学を除き、60 単位（修業年限が 2 年の短期大学にあつては 30 単位、修業年限 3 年の短期大学にあ

っては46単位、高等専門学校にあつては30単位)を超えないものとして上限が設定されているところ、面接授業の一部を遠隔授業によって実施する場合であつて、授業全体の実施方法として、主として面接授業を実施するものであり、面接授業により得られる教育効果を有すると各大学等の判断において認められるものについては、上記上限の算定に含める必要はないこと。

なお、遠隔授業により修得した単位と扱い、上記上限の算定に含める場合には、卒業という学生の身分に関わる事情であるため、すでに遠隔授業に係る事項を学則において定めている場合を除き、学則に当該事項を定める必要があるが、面接授業の一部を遠隔授業によって実施した場合等、主として面接授業により修得した単位として扱い、上記上限の算定に含めない場合には、学則において当該事項を定める必要はないこと。

<学則の記載例>

(メディアを利用して行う授業)

第〇条 メディアを利用して行う授業は、あらかじめ指定した日時にパソコンその他双方向の通信手段によって行う。

2 前項の授業を実施する授業科目については、〇〇規程において定める。

(3) 新型コロナウイルス感染症対策としての遠隔授業は、学内の十分な理解の下で取り組むことが重要であることから、大学等の経営部門、教学部門、情報基盤センター等の遠隔授業推進部門など、関係組織間の緊密な連携が期待されること。

なお、新型コロナウイルス感染症対策に伴う学校教育におけるICTを活用した著作物利用上の配慮について、文化庁より著作権等管理事業者及び関係団体に対して事務連絡が発出されており、引き続き教育現場のニーズに応じた対応について検討を行っていること。

(文化庁ホームページ)

<https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/92080101.html>

(4) 外国人留学生については、「出入国管理及び難民認定法第7条第1項第2号の基準を定める省令(平成2年法務省令第16号)」(以下「上陸基準省令」という。)では、専ら通信により教育を受ける場合は在留資格「留学」に応じた活動としては認められていないこと。ただし、今般の新型コロナウイルス感染症の対策として、学校運営上の対策を講じる目的などの観点から、必要な範囲内において、遠隔授業を実施することは、在留資格「留学」に応じた活動として認められる場合があること。なお、渡日前の遠隔授業の実施については、上陸基準省令に抵触するものではないこと。

(5) その他、遠隔授業に係る法令上の定めや留意事項については、別途、事務連絡をもってお知らせすること。

事 務 連 絡  
令和 2 年 3 月 4 日

著作権等管理事業者及び関係団体 御中

文化庁著作権課

新型コロナウイルス感染症対策に伴う学校教育における ICT を活用した  
著作物の円滑な利用について

この度、文部科学省では「新型コロナウイルス感染症対策のための小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における一斉臨時休業について（通知）」（令和 2 年 2 月 28 日）において、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における臨時休業の要請を行ったところです。

各教育機関においては、この度の休業等に伴い、ICT を活用した遠隔指導や自習など様々な活動の実施により、著作権が及ぶ著作物の利用（現行法上の権利制限規定の対象とならない公衆送信など）を行う場合も想定されます。

平成 30 年の著作権法改正による「授業目的公衆送信補償金制度」は、改正法の公布日から 3 年を超えない日（令和 3 年 5 月 24 日）までに開始されることとなっており、現時点では開始されていないため、教育機関において公衆送信を行う場合には、原則として、現行法に基づき権利者の許諾を要することとなりますが、貴事業者・団体におかれては、今回の事態の緊急性・重要性に鑑み、教育機関における円滑な著作物利用のため、格別の御配慮を頂くようお願いいたします。

【本件担当】

文化庁 著作権課 著作物流通推進室

管理係 高橋

電話：03-6734-2847（直通）

Mail：ckanri@mext.go.jp



# Universal Passport 操作説明書



名桜大学 教務課

平成 30 年 4 月 3 日

# 目次

アクセス方法について	1
ログイン方法について	2
動作環境について	3
Universal Passport の仕組みについて	6
スタート画面について	7
成績入力について	10
シラバス入力について	19
受講者名簿の表示・閲覧について	25

## アクセス方法について

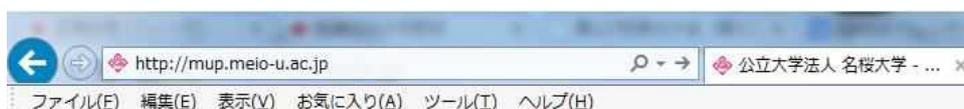
名桜大学ホームページ (<http://meio-u.ac.jp>) 左下「UNIVERSAL PASSPORT EX」をクリックまたは、アドレスバーへ「<https://mup.meio-u.ac.jp>」と入力し Enter キーを押してください。



※ホームページ左下「UNIVERSAL PASSPORT EX」をクリック

## または

※アドレスバーへ「<https://mup.meio-u.a.jp>」と入力し Enter または移動ボタンをクリックします。



## ログイン方法について

「ユーザ ID」①および「パスワード」②の入力欄に配布されたユーザ ID とパスワードを入力し、ログインボタンをクリックします。

※コンピュータ教室のパソコンにログインするユーザ ID・パスワードと同一です。

- ログオン画面は次のように表示されます。

UNIVERSAL PASSPORT EX  
DAKUEN SERIES

ログイン

User ID  ①

PassWord  ②

ログイン

ゲストユーザー

ログインが成功するとスタート画面が表示され各種機能が使用できるようになります。

UNIVERSAL PASSPORT EX  
DAKUEN SERIES

ホーム | メール設定 | サイトマップ | ログアウト

共通 教務 マイステップ 就職

ポータル クラスプロフィール スチューデントプロフィール

2014年7月 本日 スケジュール

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

教務に関すること

現在メッセージはありません。

全0件

授業情報

7月3日(木)  
該当する授業はありません。

7月4日(金)  
該当する授業はありません。

お気に入りタイトル 編集

名桜大学ホームページ

# 動作環境について

## OS

- Windows Vista
- Windows 7/8
- Mac OS X 10.6(Snow Leopard)以上

## ディスプレイ

- 解像度 1024×768 以上

## ブラウザ (インターネット閲覧ソフト)

				
Microsoft Edge	Internet Explorer	Safari	Mozilla Firefox	Google Chrome
主に Windows OS にて使用されています。		主に Mac OS にて使用されています。	インターネット上で無料配信されています。ご使用の際は専用サイトからダウンロードしてください。	

※ 対応 OS、ブラウザはシステム販売元：日本システム技術株式会社ホームページ「製品 (Product)」の動作環境から確認することができます。(http://www.jast-gakuen.com/?p=hw)

## アクセス前に・・・

一部のブラウザ (インターネット閲覧ソフト) には、ポップアップブロック機能が備わっており、解除またはサイト登録を行わなければならない場合があります。

これは、一部の悪意のあるサイト等から使用者を保護する機能ですが、利便性を配慮しポップアップを使用するシステムにも適用されるものです。また、Internet Explorer や Safari (工場出荷時からインストールされているブラウザ等) のみではなく、Mozilla Firefox、Google Chrome (無料ブラウザやアプリケーション等) のダウンロードを行うと「ツールバー」が同時にインストールされる場合があります。

各社のツールバーにも個別のポップアップブロック機能があり、同じように設定を行わなければならない場合があります。

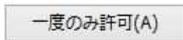
## 例) Internet Explorer の場合



ポップアップを使用しているリンク等クリックすると以下のようなメッセージが表示され作業を進めることが出来ません。



メッセージが表示された場合は、メッセージ右の **一度のみ許可(A)** または **このサイトのオプション(O)** をクリックして設定を行います。

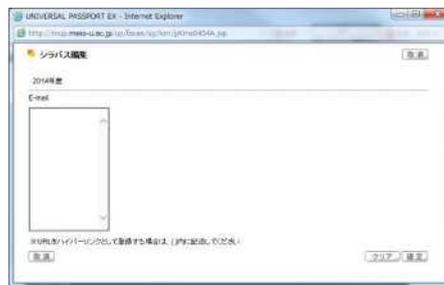


..... 1回のみ許可され、次回クリックした際に再度メッセージが表示されます。



..... 「常に許可」または「その他の設定」を選択することができ、「常に許可」を行った場合、機能の履歴を変更しない限り、ポップアップブロックのメッセージが現れることはありません。「その他の設定」を選択した場合は、手動で Web サイトを登録することができます。（「常に許可」を行った場合は、自動的に Web サイトが登録されます。）

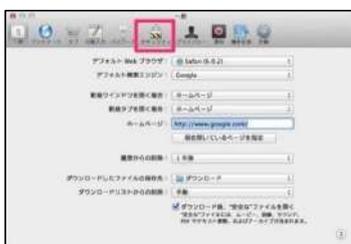
設定を行うことでポップアップを使用した機能が使用できるようになります。



### 例) Safari の場合



1. メニューバーの Safari から環境設定を選びます



2. タブから「セキュリティ」を選びます。



3. 「ポップアップウィンドウを開かない」のチェック項目を外します。

例) Google ツールバーの場合



※ ブラウザ起動時に上部現れるのがツールバーです。上図のように各社ロゴまたは社名が入っています。(各社が提供しているツールバーは、それぞれ解除方法が異なります。)

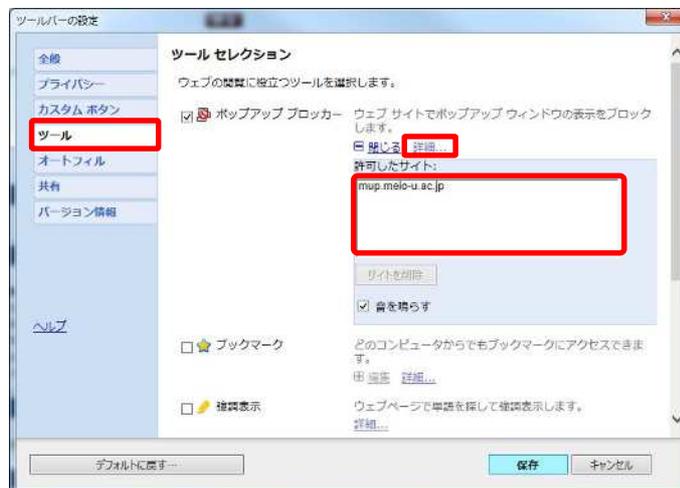
ツールバーのポップアップブロック機能が働いた場合ツールバーのアイコンの表示が変わります



機能が働いている状態の場合は、をクリックすることで対象のサイトから機能を解除することができます。

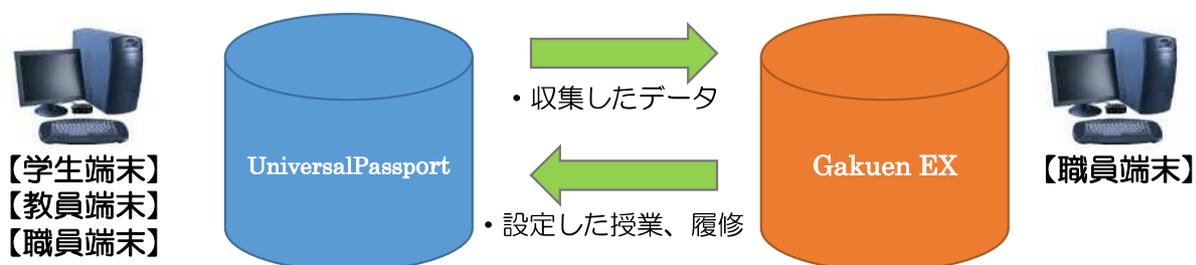
		
機能が働いていない状態	機能が働いている状態	表示しているサイトのポップアップブロック機能が解除された状態

ツールバー右側の設定ボタンで登録（解除）されているサイトを確認することができます。



## Universal Passport の仕組み

情報管理は、メインデータ管理を行う教務システム（以下 Gakuen）と情報を収集する Universal Passport の2つのデータベースで行っています。そのため、入力のタイミング等によって、データが反映されない場合があります。



- シラバス入力・閲覧
- 学生情報の閲覧
- 履修者確認・出力
- 成績の入力・閲覧

- 学生情報の管理
- 履修者データ管理
- 成績の管理

※ 学生、教員、職員によって使用できる機能は異なります。

# スタート画面

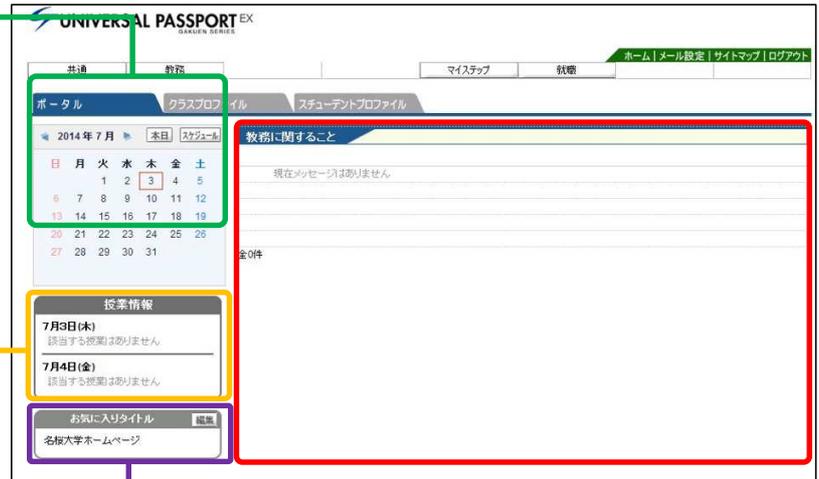
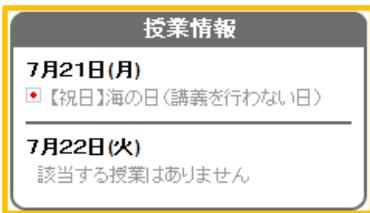
【カレンダー】



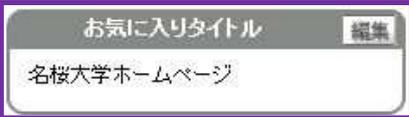
【お知らせ・掲示画面】



【授業情報】



【よく使用するサイト】



【お知らせ・掲示画面】

この画面では、各専攻・学科からのお知らせまたは掲示等が表示されます。  
表示されている項目をクリックすると件名、差出人、本文を確認することができます。

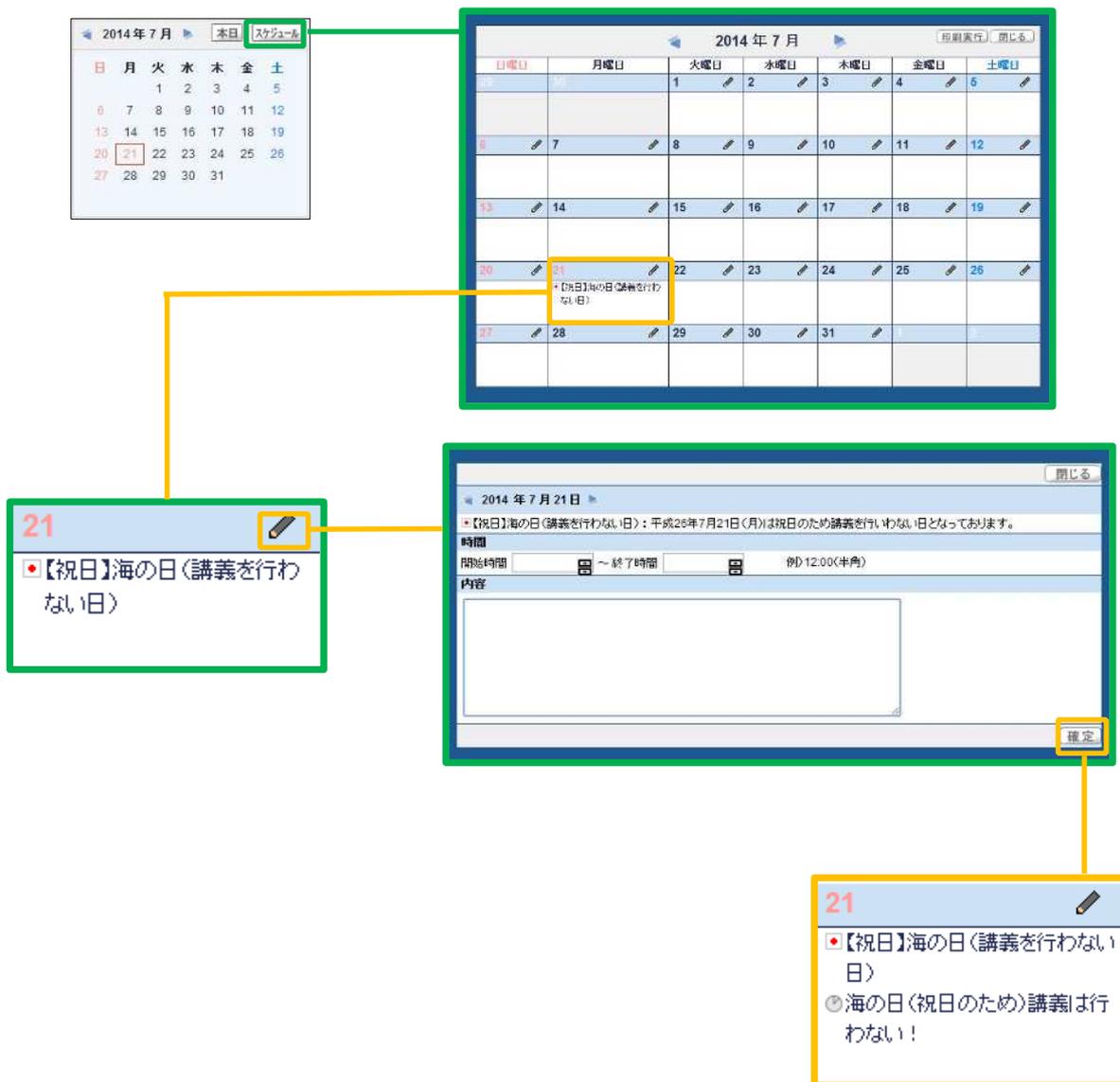


## 【カレンダー】

カレンダーには、GAKUEN で設定されたスケジュールと各個人用のスケジュールを管理することが出来ます。

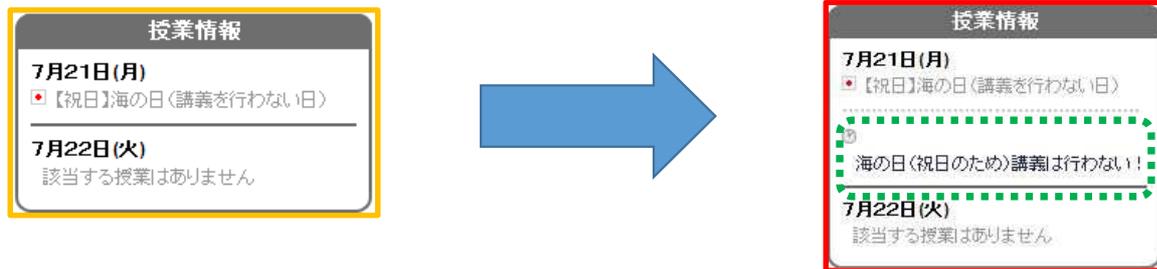
カレンダー右上の「スケジュール」をクリックすると別画面で当月のカレンダーが表示されます。スケジュールを設定したい日付の右上の編集ボタンの編集ボタンをクリックすることで、時間と内容を入力することが可能となります。

内容を入力し確定ボタンを押すとトップページのカレンダーにスケジュールが追加され、「授業情報」で確認することが可能となります。



## 【授業情報】

授業情報には学年暦等の情報とスケジュールで設定した情報が表示されます。



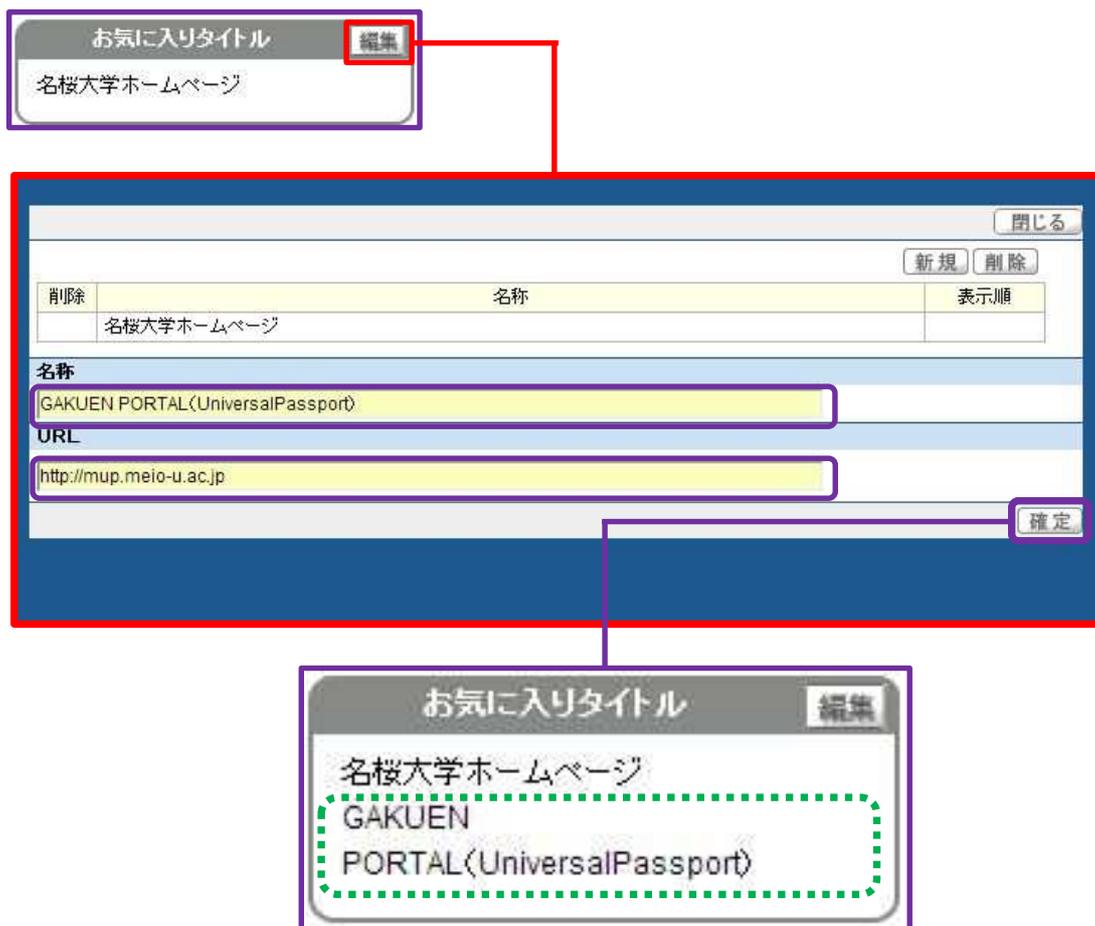
## 【よく利用するサイト等の登録】

Universal Passport にはよく利用するサイトを登録することが出来ます。

お気に入りタイトル横の「編集」ボタンをクリックします。

編集ボタンをクリックするとサイト名称を入力する欄と URL を入力する欄が表示されます。それぞれを入力した後に右下の「確定」ボタンをクリックすると、よく利用するサイト「お気に入りタイトル」へ追加することが出来ます。

名称欄については、自由に設定することが出来ます



## 成績入力について

### 成績を入力する際のお願い

情報管理は、メインデータ管理を行う **Gakuen** と情報を収集する **Universal Passport** の 2 つのデータベースから成り立っております。

そのため、入力のタイミング等によって、データが反映されない場合があります。

つきましては、本書を熟読していただき、ご理解の上入力を行っていただくようお願いいたします。

### 成績データ反映・更新の注意事項

成績入力は、入力期間からデータ反映までの間変更が可能ですが、データ反映後は **GAKUEN** でデータが管理され、**Universal Passport** 上で更新されているように見えても、成績は変更出来ません。

成績の反映期日は、前もって「成績入力依頼」の文書にてお知らせいたします。成績入力の期日に間に合わない場合は、所定の **Excel** データまたは紙媒体で提出をお願いいたします。



Universal Passport では、以下のとおり成績入力を行うことができます。



画面上部にある「教務」メニューから「採点登録管理」→「採点登録」を選択してください。



「採点登録」をクリックすると、担当する科目名が表示されます。該当する科目名をクリックし、採点登録画面へ進みます。(※ 担当している科目名に間違いや漏れがある場合には、教務課までお問合せ下さい。)

共通 教務

マイスタブ 秋感

ホーム | メール設定 | サイトマップ | ログアウト

採点検索一覧 > 採点登録

戻る

2013 年度 後学期  
1075498 大学と人生 定期試験(登録期間内)

表示 全員表示

並び順 学籍番号順

評価割合 評価コード毎

学籍番号	学生氏名	素点	評価	学年	所属学科	メッセージ
1408		90	秀	4	名桜大学 国際学群 国際学類	
1409		80	優	4	名桜大学 国際学群 国際学類	
1409		70	良	4	名桜大学 国際学群 国際学類	
1410		60	可	4	名桜大学 国際学群 国際学類	
1410		59	不	3	名桜大学 国際学群 国際学類	
1410		X	不	4	名桜大学 国際学群 国際学類	
1410		H	*	4	名桜大学 国際学群 国際学類	
1412				2	名桜大学 国際学群 国際学類	

312件 1/16 ページ

戻る

確定

評価割合も出力する 評価コード毎

印刷

素点	評価
90	秀
80	優
70	良
60	可
59	不
X	不
H	*

講義名をクリックすると、成績を入力するページが表示されます。画面には「学生番号」「学生氏名」「素点入力欄」「評価表示欄」「学年」「所属学科」「メッセージ」の順で表示され、評価を入力する場合は、「**素点入力欄**」に素点を入力してください。

「評価表示欄」には自動的に評価名称が表示されます。評価基準は次のとおりとなります。

評価基準（素点を入力する場合）

- 秀 : 100 ~ 90 点
- 優 : 89 ~ 80 点
- 良 : 79 ~ 70 点
- 可 : 69 ~ 60 点
- 不可 : 59 ~ 00 点
- 保留 : 評価入力欄に「**H (エイチ)**」と入力してください。

授業時間の出席が3分2に満たない者

不可 : 評価入力欄に「**X (エックス)**」と入力してください。

※ 「**X (エックス)**」を使用した場合は、学期末試験の受験資格がないものとみなし、追試験・再試験等手続きが行えなくなりますので、入力する際はもう一度出欠をご確認ください。

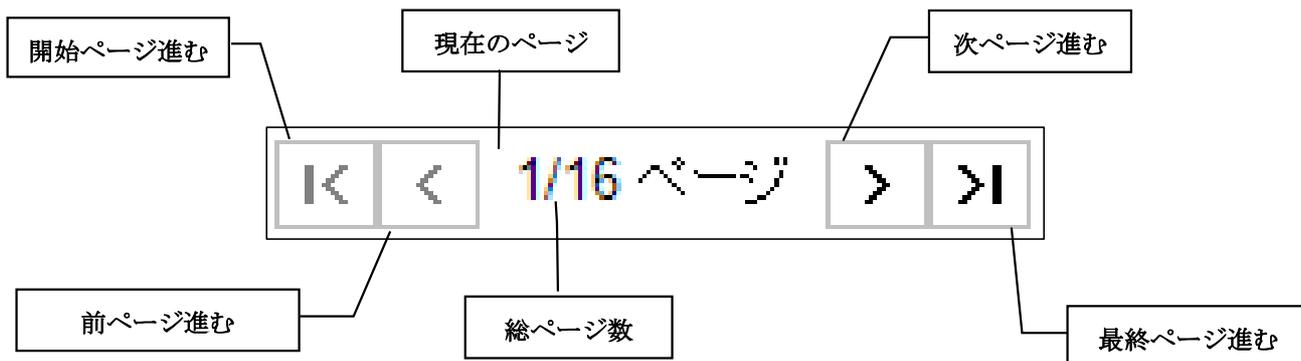
【ページの切り替えについて】

1410		H	*	4	名城大学 国際学群 国際学類
1412				2	名城大学 国際学群 国際学類

312件 |< < 1/16 ページ > >| 1 2 3 4 5 次へ

評価割合も出力する 評価コード毎

成績入力画面に表示される行数は 20 行です。前後ページ進む場合は入力欄下の   1/16 ページ   を操作してください。



入力を終了後は、右下にある「確定」ボタンをクリックしてください。

なお、システムのセッション（接続）は 20 分程度となっており、時間内にアクセス・操作がない場合は、セキュリティのため、**自動ログアウト**となります。10～15 分毎に確定ボタンをクリックすることをおすすめいたします。

**セッション(接続)が切れると入力した成績は反映されず、バックアップもされませんのでご注意ください。**

The screenshot shows the 'UNIVERSAL PASSPORT EX' interface. At the top, there are navigation tabs: 共通, 教務, マイスタップ, 就職. Below that, there's a header for '採点授業一覧→採点登録' and '2013年度 後学期'. A table displays student records with columns for 学籍番号, 学生氏名, 素点, 評価, 学年, 所属学科, and メッセージ. The table contains 8 rows of data. At the bottom, there are pagination controls: 312件 |< < 1/16 ページ > >| 1 2 3 4 5 次へ. A red box highlights the '確定' (Confirm) button in the bottom right corner.



ある一定時間操作をしなければ「アクセスがない」ものとみなされサーバが自動的に接続を切ります。その際入力した素点等は反映されず、再度入力のし直しとなりますのでご注意ください。

素点入力操作は「アクセスした」ものとみなされません。入りに長時間（10～15分）かかる場合は確定ボタンをクリックし、保存することをおすすめいたします。

なお、成績データがメインデータベースへ反映されるまで成績入力の変更は可能です。

成績確定後は成績原簿の提出が必要となります。

画面右下の「印刷」ボタンをクリックし、原簿を出力してください。



印刷ボタンをクリックしても、画面が表示されない場合は、ポップアップブロック機能が働いている可能性があります。一度ポップアップブロック機能を無効またはサイト登録を行い、再度印刷ボタンをクリックしてください。（ポップアップブロック機能の解除 ⇒ P6）



「印刷」ボタンを押すと印刷専用のページが表示されます。右上の「印刷実行」をクリックすると、印刷設定画面が表示され印刷が可能となります。

**注) 成績確定後は原簿の提出が必要となります。原簿確認の上捺印して教務課へ提出をお願いいたします。**

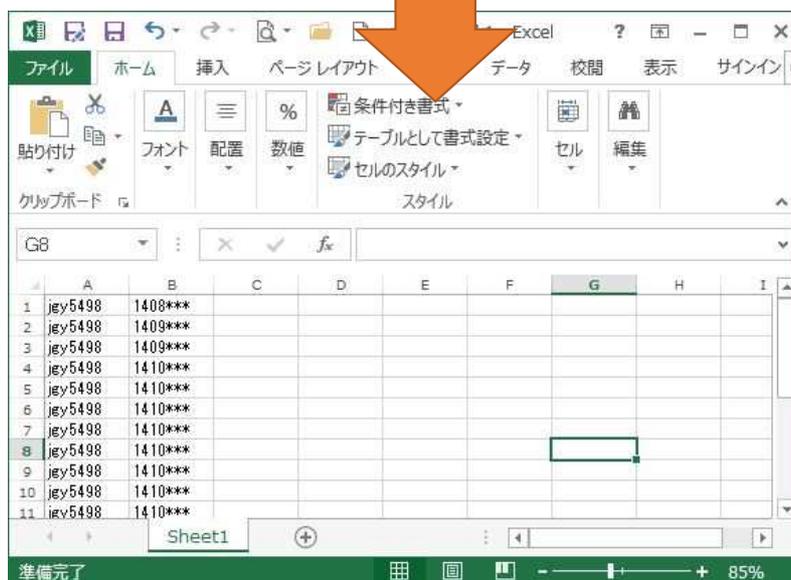
## 高度な使用方法（一括成績入力）

選択画面にて、「CSV 出力」を押すと一括入力用のデータを出力することが出来ます。データを使用し成績一括入力を行うことが可能です。

この操作については、P13～P16 で成績入力を行う場合は必要ありません。



- ① 「CSV 出力」をクリックします。
- ② 「CSV を作成してよろしいですか?」というメッセージが表示されます「OK」をクリックしてください。



- ③ 「ファイルを開く」または「保存」をクリックすると成績入力用 CSV が表示・保存されます。

1	jgy5498	1408***	66
2	jgy5498	1409***	79
3	jgy5498	1409***	82
4	jgy5498	1410***	71
5	jgy5498	1410***	82
6	jgy5498	1410***	86
7	jgy5498	1410***	68
8	jgy5498	1410***	70
9	jgy5498	1410***	96
10	jgy5498	1410***	94
11	jgy5498	1410***	93

④ 該当するが学生番号に素点を入力し、CSV形式で保存します。



⑤ 保存画面で「CSV (カンマ区切り)」を選択してください。

⑥ 「CSV (カンマ区切り)」を選択後「保存」ボタンをクリックしてください。

UNIVERSAL PASSPORT EX  
DAKUEN SERIES

共通 教務 マイステップ 就職 ホーム | メール設定 | サイトマップ | ログアウト

採点授業一覧

2013 年度 後学期 ▼

定期試験(登録期間内)

開講曜日	科目名
月4	jgy5498 大学と人生

一括登録

CSVファイル **7** ファイルを選択 選択済み

⑦ 科目選択画面に戻り、「ファイルを選択」をクリックしてください。

⑧ 保存した CSV ファイルを選択し、「開く」ボタンをクリックしてください。

UNIVERSAL PASSPORT EX  
GAKUEN SERIES

共通 教務 マイステップ 就職 ホーム | メール設定 | サイトマップ | ログアウト

採点授業一覧

2013 年度 後学期 検索

定期試験(登録期間内)

開講曜日	科目名	教員氏名	履修者	採点対象者	未採点	CSV
月4	jgy5498 大学と人生		312人	312人	312人	CSV出力

一括登録

CSVファイル  KMC002CSV01.csv

⑨ ファイルが選択されていることを確認し、「読込」ボタンをクリックしてください。

UNIVERSAL PASSPORT EX - Google Chrome

mup.meio-u.ac.jp/up/faces/up/km/pKmc0204A.jsp

採点一括登録チェック結果

ファイル名 KMC002CSV01 (3).csv  
2013年度 後学期  
定期試験(登録期間内)

2014/02/06(木) 15:36

授業コード	科目名	学籍番号	氏名	評価	メッセージ
jgy5498	大学と人生	1408		100	
jgy5498	大学と人生	1409		64	
jgy5498	大学と人生	1409		93	
jgy5498	大学と人生	1410		95	
jgy5498	大学と人生	1410		70	
jgy5498	大学と人生	1410		79	
jgy5498	大学と人生	1410		93	
jgy5498	大学と人生	1410		75	
jgy5498	大学と人生	1410		89	
jgy5498	大学と人生	1410		78	
jgy5498	大学と人生	1410		71	

⑩ 読込が成功するとチェック画面が開き既に評価が入力された状態で表示されます。

⑪ 確認し、よろしければ「確定」をクリックしてください。確定後であっても成績入力期間内であれば修正が可能です。

## 学年別表示

入力画面上部の「表示」リストから表示方法を変更することが可能です。

- ・ 全員表示（学年に関係なくすべて表示）
- ・ 最高学年（4年次のみ表示）
- ・ 最高学年以外（4年次の学生以外表示）

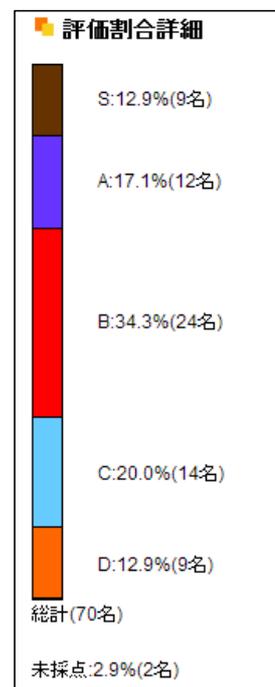
表示したい方法を選択し、右側の「表示」ボタンで変更することができます。

入力画面上部の「並び順」リストから表示方法を変更することが可能です。

- ・ 学生番号順
- ・ カナ氏名順
- ・ 学科組織、学年（大きい順）
- ・ 学科組織、学年（小さい順）
- ・ 学年（大きい順）
- ・ 学年（小さい順）
- ・ 学年（小さい順）、みなし入学学期（大きい順）、学生番号順（小さい順）

表示したい方法を選択し、右側の「表示」ボタンで変更することができます。

## 評価割合詳細



入力画面上部の「評価割合」リストから評価の割合を確認することが可能です。

右側の「確認」ボタンをクリックすることで表示することができます。

## シラバス入力について

Universal Passport では、以下のとおりシラバス入力を行うことができます。

The screenshot shows the Universal Passport EX interface. At the top, there are navigation tabs: '共通' (Common), '教務' (Faculty), 'マイステップ' (My Steps), and '就職' (Career). The '教務' tab is selected. Below it, there are sub-tabs: '時間割管理 >>' (Timetable Management), 'シラバス管理 >>' (Syllabus Management), and 'シラバス登録' (Syllabus Registration). The 'シラバス登録' tab is highlighted with a red box. On the left side, there is a calendar for July 2013, with the 22nd highlighted. Below the calendar, there is a section for '授業情報' (Class Information) showing dates and course names. At the bottom, there is a section for 'お気に入りタイトル' (Favorite Titles) with a search button.

画面上部にある「教務」メニューから「シラバス管理」→「シラバス登録」を選択してください。

The screenshot shows the 'シラバス一覧' (Syllabus Overview) page. At the top, there are navigation tabs: '共通' (Common), '教務' (Faculty), 'マイステップ' (My Steps), and '就職' (Career). The '教務' tab is selected. Below it, there are sub-tabs: 'シラバス管理 >>' (Syllabus Management) and 'シラバス登録' (Syllabus Registration). The 'シラバス登録' tab is highlighted. Below the sub-tabs, there is a search bar with '2013 年度 全て対象' and a '検索' (Search) button. Below the search bar, there is a table of courses.

開講曜日	科目名	開講区分	開講学期	状態	公開	更新日
月4	Jgy0521 大学と人生 10	週間授業	2013前学期	公開済	公開	2013/07/17(水) 10:29
月4	Jgy0770 平和論10	週間授業	2013前学期	未作成	未	
	Jgy1349 英文学特論10	実習	2013前学期	未作成	未	

シラバス登録ページを開くと、担当する科目名が表示されますので、シラバスの入力を行いたい科目名をクリックしてください。

(担当している科目名に間違いがある場合には、教務課までお問合せ下さい。)

教務

マイステップ

就職

シラバス一覧 > シラバス登録

戻る

何月何日までに登録してください。

編集状態：未作成 公開状態： 更新日：

コピー 印刷

マークのついた項目をクリックすると、編集用画面が開きます。

必須 マークのついた項目は入力必須項目です。

科目番号	科目名	担当教員
jgy0770	科目名(英)	E-mail

単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー
2		前期	登録人数	研究室	オフィスアワー

1. 授業の概要

1. 授業の概要 必須

2. 到達目標

2. 到達目標 必須

3. 授業計画と内容

3. 授業計画と内容 必須

4. テキスト・参考文献

4. テキスト・参考文献 必須

5. 準備学習

5. 準備学習 必須

6. 成績評価の方法

6. 成績評価の方法 必須

7. 履修の条件

7. 履修の条件 必須

8. その他

8. その他 必須

UNIVERSAL PASSPORT EX - Google Chrome

シラバス編集

2013年度 jgy0770

必須 1. 授業の概要

※URLをハイパーリンクとして登録する場合は、{ }内に記述してください

取消 クリア 確定

戻る

公開待ち

1. E-mail、登録人数、研究室、オフィスアワー、授業に関する1～8の必須項目を記入します。
2. 記入を行いたい項目をクリックすると新規ウィンドが開きます。  
※ ポップアップウィンドの設定を行う必要があります。
3. ウィンド内に必要事項を記入して **確定** ボタンをクリックしてください。
4. 記入がすべて終了しましたら、最後に **公開待ち** ボタンをクリックします。このボタンを押さないと、公開されませんのでご注意ください。各項目の記入については、サンプルシラバス等を参考にご記入下さい。

シラバスのコピー機能

教務

マイステップ

就職

シラバス一覧 > シラバス登録

戻る

何月何日までに登録してください。

編集状態：未作成

公開状態：

更新日：

コピー

印刷

マークのついた項目をクリックすると、編集用画面が開きます。

必須 マークのついた項目は入力必須項目です。

科目番号	科目名	担当教員
jgy0770	科目名(英)	E-mail
単位数	受講年次	開講学期
2		前期
		登録人数
		研究室
		オフィスアワー
		オフィスアワー

UNIVERSAL PASSPORT EX - Google Chrome

mup.meio-u.ac.jp/up/faces/up/km/pKms0405A.jsp

シラバスコピー

取消

2014年度 jgy5498 大学と人生

コピー元

公開シラバス  編集シラバス

授業コード指定

年度授業コード: からコピーします。 コピー

授業を選択

授業 選択してください からコピーします。 コピー

選択してください

- 2013年度 jgy0521 大学と人生 10
- 2013年度 jgy5498 大学と人生

取消

「シラバス登録」では、コピー機能を使用して前年度シラバスまたは他のシラバスを複製することが出来ます。

【授業コード指定】

授業コード指定

年度授業コード: からコピーします。 コピー

コピーしたい年度と授業コードを入力し、右側にある「コピー」ボタンをクリックすると、シラバスの更新のメッセージが表示されます。「OK」ボタンをクリックするとシラバスのコピーが実行されます。

※ 授業コードの検索は P24～P26 を参照してください。

注) シラバスのコピーを行うと、内容が上書きされます。シラバスの編集を行う場合は、「シラバスコピー」から実行し、編集を行ってください。上書き後は元に戻すことが出来ませんのでご注意ください。

## 【授業選択】

授業を選択	授業	選択してください ▼	からコピーします。	コピー
		選択してください		
		2013年度 jgy0521 大学と人生10		
		2013年度 jgy5498 大学と人生		

「授業を選択」にあるリストをクリックすると、関連するシラバスが表示されます。該当するシラバスを選択し、「コピー」ボタンをクリックすることでコピーが実行されます。

※ 該当するシラバスが存在しない場合は【授業コード指定】で実行を行ってください。

注) シラバスのコピーを行うと、内容が上書きされます。シラバスの編集を行う場合は、「シラバスコピー」から実行し、編集を行ってください。上書き後は元に戻すことが出来ませんのでご注意ください。

## シラバスの検索

The screenshot shows the UNIVERSAL PASSPORT EX (DAKUEN SERIES) interface. At the top, there are navigation links: ホーム | メール設定 | サイトマップ | ログアウト. Below this is a menu bar with options: 共通, 教務, マイステップ, 就職. The '教務' menu is expanded, showing sub-menus: 時間割管理 >>, シラバス管理 >>, シラバス登録, シラバス照会, シラバス照会, and 秋物に因りやうして. The 'シラバス管理 >>' and 'シラバス照会' items are highlighted with red boxes. Below the menu is a calendar for July 2013, with the 22nd highlighted. A sidebar on the left contains '授業情報' (Class Information) for 7月22日(月) and 7月23日(火), both for '4年次領域実習'. At the bottom, there is a section for 'お気に入りタイトル' (Favorite Titles) with '名桜大学ホームページ' listed.

シラバスを検索するには画面上部にある「教務」メニューから「シラバス管理」→「シラバス照会」を選択してください。



シラバス印刷

印刷

印刷

科目番号	科目名	大学と人生	担当教員
jgy0433	科目名(英)	大学と人生(Higher Education and Human Life)	E-mail
単位数	受講年次	開講学期	登録人数
2	前期	300	授業終了後、予約による。

1. 授業の概要

2. 到達目標

3. 授業計画と内容

4. 予備知識・参考文献

5. 評価方法

6. 到達目標の方法

7. 授業の条件

8. その他



上部または下部にある「印刷」ボタンで印刷することが可能です。

シラバス印刷

取消 印刷実行

2014/08/04(月)14:08

印刷実行

科目番号	科目名	大学と人生	担当教員
jgy0433	科目名(英)	大学と人生(Higher Education and Human Life)	E-mail
単位数	受講年次	開講学期	登録人数
2	前期	300	授業終了後、予約による。

1. 授業の概要

2. 到達目標

3. 授業計画と内容

4. 予備知識・参考文献

5. 評価方法

6. 到達目標の方法

7. 授業の条件

8. その他



「印刷」ボタンをクリックすると確認画面が表示され、「印刷実行」ボタンでプリントアウトが可能となります。

## 受講者名簿の表示・閲覧について

UNIVERSAL PASSPORT EX  
GAKUEN SERIES

共通 教務 マイステップ 就職 ホーム | メール設定 | サイトマップ | ログアウト

ポータル シラバス管理 >> スチューデントプロフィール

2014年7月

履修登録管理 >> 履修登録  
履修者名簿  
履修未完了者照会  
進級見込判定  
卒業見込判定

7月30日(水)  
該当する授業はありません。

7月31日(木)  
該当する授業はありません。

お気に入りタイトル 編集  
名桜大学ホームページ  
GAKUEN  
PORTAL(UniversalPassport)

画面上部にある「教務」メニューから「履修登録管理」→「履修者名簿」を選択してください。

UNIVERSAL PASSPORT EX  
GAKUEN SERIES

共通 教務 マイステップ 就職 ホーム | メール設定 | サイトマップ | ログアウト

授業一覧

2013 年度 後学期 検索

開講曜日	科目名	開講区分	履修者数	開講学期
月4	0 jgy5498 大学と人生	週間授業	206 人	2013後学期

「履修者名簿」画面に進むと担当している科目名が表示されます。確認したい科目名をクリックすることで履修者の一覧が表示されます。

授業一覧 > 履修者一覧

戻る

2014年度 前学期  
jgy0433 大学と人生  
月4

※1

表示 全員  
並び順 学籍番号順 表示

学籍番号	学生氏名	学年	所属学科組織	備考
1412	□	3	学群 学類	
1412	□	3	学群 学類	
1412	□	3	学群 学類	
1412	□	3	学群 学類	
1412	□	3	学群 学類	
1412	□	3	学群 学類	
1413	□	2	学群 学類	
1413	□	2	学群 学類	
1413	□	2	学群 学類	
1413	□	2	学群 学類	
1413	□	2	学群 学類	
1413	□	2	学群 学類	
1413	□	2	学群 学類	
2111	□	4	人間健康学部 スポーツ健康学科	
2113	□	2	人間健康学部 スポーツ健康学科	
2114	□	1	人間健康学部 スポーツ健康学科	
2114	□	1	人間健康学部 スポーツ健康学科	
2114	□	1	人間健康学部 スポーツ健康学科	
2114	□	1	人間健康学部 スポーツ健康学科	
2114	□	1	人間健康学部 スポーツ健康学科	

※2 206件 |< < 1/11 ページ > >| 1 2 3 4 5 次へ

戻る

12

CSV出力 印刷

※1 P21 「学年別表示」と同じ操作で並び替える事ができます。

※2 P15 「ページの切り替え」と同様です。

⑫ 下部にある「CSV出力」「印刷」ボタンで出力が可能です。

【印刷】



「印刷」ボタンをクリックするとウィンドに受講者名簿が表示され、右上の「印刷実行」ボタンをクリックすると、「印刷してもよろしいですか?」というメッセージが表示されます。

【CSV出力】



「CSV出力」ボタンをクリックすると「CSVを作成してよろしいですか?」とメッセージが表示されます。ウィンドの「OK」ボタンをクリックし、次に表示される「ファイルを開く」または「保存」ボタンのいずれかを選択すると CSV ファイルで受講者データを取得することができます。

※ 取得した CSV データ

年度	学期	授業コード	科目コード	科目名	科目名_英語
2014	前学期	jgy0433	kmo00-0443	大学と人生	
学籍番号	学生氏名	学生氏名_カナ	学生氏名_英語	学年	カリキュラム学科名称
14120000	名桜太郎1	メイウ知ウ1	meio taro1	3	名桜大学 国際学群 国際学類 語学教育専攻
14120000	名桜太郎2	メイウ知ウ2	meio taro2	3	名桜大学 国際学群 国際学類 観光産業専攻
14120000	名桜太郎3	メイウ知ウ3	meio taro3	3	名桜大学 国際学群 国際学類 専攻なし
14120000	名桜太郎4	メイウ知ウ4	meio taro4	3	名桜大学 国際学群 国際学類 専攻なし
14120000	名桜太郎5	メイウ知ウ5	meio taro5	3	名桜大学 国際学群 国際学類 専攻なし
14120000	名桜太郎6	メイウ知ウ6	meio taro6	3	名桜大学 国際学群 国際学類 専攻なし
14130000	名桜太郎7	メイウ知ウ7	meio taro7	2	名桜大学 国際学群 国際学類 専攻なし
14130000	名桜太郎8	メイウ知ウ8	meio taro8	2	名桜大学 国際学群 国際学類 専攻なし
14130000	名桜太郎9	メイウ知ウ9	meio taro9	2	名桜大学 国際学群 国際学類 専攻なし
14130000	名桜太郎10	メイウ知ウ10	meio taro10	2	名桜大学 国際学群 国際学類 専攻なし
14130000	名桜太郎11	メイウ知ウ11	meio taro11	2	名桜大学 国際学群 国際学類 専攻なし
14130000	名桜太郎12	メイウ知ウ12	meio taro12	2	名桜大学 国際学群 国際学類 専攻なし
14130000	名桜太郎13	メイウ知ウ13	meio taro13	2	名桜大学 国際学群 国際学類 専攻なし
21110000	名桜太郎14	メイウ知ウ14	meio taro14	4	名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 スポーツ健康
21130000	名桜太郎15	メイウ知ウ15	meio taro15	2	名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 スポーツ健康
21140000	名桜太郎16	メイウ知ウ16	meio taro16	1	名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 スポーツ健康
21140000	名桜太郎17	メイウ知ウ17	meio taro17	1	名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 スポーツ健康
21140000	名桜太郎18	メイウ知ウ18	meio taro18	1	名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 スポーツ健康
21140000	名桜太郎19	メイウ知ウ19	meio taro19	1	名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 スポーツ健康
21140000	名桜太郎20	メイウ知ウ20	meio taro20	1	名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 スポーツ健康
21140000	名桜太郎21	メイウ知ウ21	meio taro21	1	名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 スポーツ健康
21140000	名桜太郎22	メイウ知ウ22	meio taro22	1	名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 スポーツ健康
21140000	名桜太郎23	メイウ知ウ23	meio taro23	1	名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 スポーツ健康
21140000	名桜太郎24	メイウ知ウ24	meio taro24	1	名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 スポーツ健康

# オンライン授業システムの ツール紹介

メディアネットワークセンター

## ● オンライン授業システムツール

- ①. Microsoft Teams 【推奨】
- ②. Cisco Webex
- ③. Google meet
- ④. zoom (文科省より脆弱性指摘あり)

## ● オンライン授業システムツール

ツール名	ユーザ	授業数	最大同時接続数	教員側ツール (ホスト)	学生側ツール
Microsoft teams (推奨)	大学アカウント (登録済)	250	250	ブラウザ(制約有) パソコンアプリ	ブラウザ アプリ
Cisco Webex	15 (MNC管理)	15	200	ブラウザ パソコンアプリ	ブラウザ アプリ
Google meet	大学アカウント (登録済)	ほぼ無制限	250	ブラウザ	ブラウザ アプリ
Zoom	各自登録(ホストのみ)	-	300~	ブラウザ アプリ	ブラウザ アプリ

## ④.Teams

### いろいろなデバイスで動く Teams



## ④.Teams



学生はブラウザかアプリでOK

Office 365 でチームワークを実現するハブ

チャット、オンライン会議、アプリを統合し、コラボレーションが1つになりました。検索は、見つけたい場所です。

アプリをダウンロード

教員はアプリが必要(開催側)

## ④.Teams

### ■ 新しいチーム(教室)を作成する



履修している生徒をメンバーに追加

チームを登録  
例「月曜1限\_xxx入門」

メンバーを検索し、追加ボタンをクリックします。

メンバーは後から追加することも可能です。その場合はスキップをクリックします。



## ④.Teams

## 会議に参加する

Teams のチャンネルから予約した会議に参加します(会議設定時にチャンネルを設定している場合)。



## ④.Teams

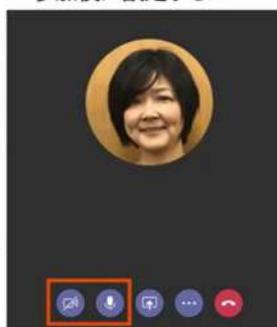
## カメラやマイクをオン/オフにする

カメラやマイクの設定は会議に参加する前や参加後に設定することができます。

<参加する前に設定する>



<参加後に設定する>



ON の状態のアイコン



OFF の状態のアイコン



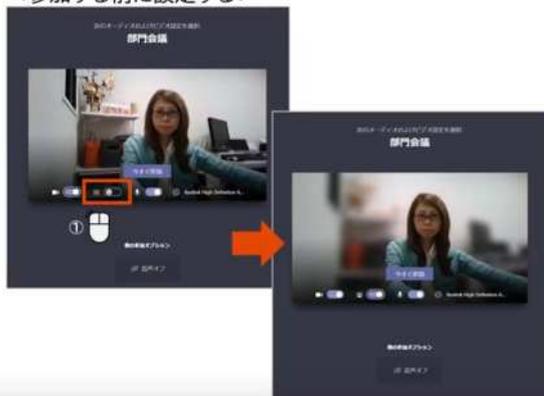
カメラをオフにすると、ユーザーの写真が登録されている場合は写真が表示されます。

## ④.Teams

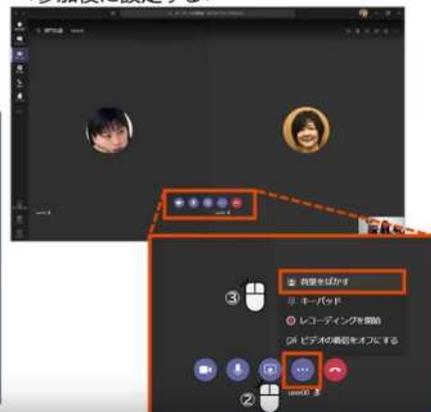
## 背景をぼかす

背景のぼかし機能は人間の顔を認識して、それ以外の背景をぼかす機能です。

<参加する前に設定する>



<参加後に設定する>



## ④.Teams

## 自分の画面を会議の参加者に共有する

会議中に資料共有をする手段として、デスクトップの画面自体を共有する機能があります。



デスクトップだけではなく、  
ウィンドウ(アプリの画面)や  
PowerPoint を共有できます。  
そのほか、追加したアプリも  
利用可能です！

#### ④.Teams

- USBカメラ貸出可能：3台



- 実践してみます。

## 新型コロナウイルスに関する前学期講義についての依頼事項

(配布資料：令和2年3月24日付け元文科高第1259号「令和2年度における大学等の授業開始等について」(抄))

### 1. シラバスの件

●「前学期講義の進め方」、「評価方法について」を初回の講義の際に説明（あるいは配布）お願いいたします。

ただし、今学期において、UniversalPassport、Web、オンライン等の活用によって、シラバス作成時とは異なった講義の内容、進め方を余儀なくされることと推察されますので、その場合には、可能な限り新しいシラバスに書き換え、学生に提示を行ってください。

講義内容の変更を伴わないが、講義の進め方、その進め方を導入することによる成績評価の方法が変わる場合は、その変更箇所を学生に提示を行ってください。

### 2. 評価方法について

●出席・欠席の考え方について

「新型コロナ感染による欠席」、「感染ではないが微熱・熱発の持続等の体調不良による欠席」、「健康観察期間のための欠席」、さらには「対面（面接）授業には参加したくないと申し出ることによる欠席」などが考えられますが、今回は、ICT活用等による遠隔授業を進めていきますので、対面（面接）講義に加えて遠隔授業への参加でこのような欠席は「欠席」には当たらないと考えられます。

ただし、5/7（木）の講義開始しばらくは、体調不良のため遠隔授業にも参加できない、健康観察期間のために課題提出が遅れるなどの申し出が出てきます。その場合には欠席や評価を下げるという評価ではなく「特別配慮」をお願いします。特に海外交流協定校より留学を切りあげて帰国をしていく学生が、4月中旬以降出国し、入国後成田等での一定期間の隔離後、沖縄に戻る学生がいます。（該当する科目担当教員にはお知らせします）

「公欠」扱いにしない理由は、「公欠」は1つの科目につき2回までとなっていることから、帰国による遅れだけではなく帰国後の待機期間も欠席となる可能性もある（2回を超える可能性が高い）こと。また「公欠」扱いになったからといって、欠席した授業回において課題提出があるが出さなくてよい、テストをあるのに受けなくてよいというものではないため。欠席した際の講義内容等は、課題レポート等で学びを促す必要があります。

また、講義終了後は成績評価をしなければなりませんので、遠隔授業へどのように参加しているか、ある程度把握する必要があります。そのため遠隔授業における課題レポートの提出や何らかのレスポンスを求めているのに応答がない、提出が無い場合は欠席（評価が下がる）、提出期日が遅れる場合は評価が下がる旨等の指示をしてください。

期末テストについては、実施予定が8月下旬であるため状況にもよりますが、課題レポート等による対応でも可となっています。どのように実施するか明確に示してください。

## 令和2年度 第2回名桜大学 FD 研修会：総評

副学長（教育）林 優子（名桜大学 FD 委員会委員）

令和2年度第2回名桜大学 FD 研修会は、令和2年5月29日（金）に学生会館（SAKURAUM）3F・大講義室 A・B 及び Microsoft Teams（オンライン）において開催された。本研修会のテーマは、「ICT を用いた遠隔授業の振り返り、遠隔授業の実施方法の改善策について」であった。

令和2年4月30日（木）付発出の「緊急事態宣言の延長に伴う本学の基本方針」において、授業は令和2年度5月7日（木）から5月29日（金）までは、ICT 等を活用した遠隔授業のみとすることとなった。そして、今後も遠隔授業と対面授業のハイブリット形式による授業運営の継続が想定されることから、今回の研修会は、ICT を用いた遠隔講義の振り返りとして位置づけ、本学教員4名による事例紹介を行っていただいた。

事例紹介の目的としては、様々な遠隔講義の運営方法を教員へ情報共有することである。国際学群国際学類の金城亮教授による Microsoft Teams, Universal Passport, Google Forms を用いた遠隔講義事例と人間健康学部看護学科木村安貴准教授による Google Class, Microsoft Teams, Google Forms を用いた遠隔講義事例を、FD 研修会の事前学習（オンライン学習）として位置づけ、2名教員の取組を動画に録画していただき、FD 委員会において全学的に情報共有を行った。研修会の当日には、人間健康学部スポーツ健康学科玉城将准教授による Microsoft Teams を用いた遠隔講義事例とリベラルアーツ機構山城智史上級准教授による Google Class, Meet, Forms を用いた遠隔講義事例を紹介していただいた。各教員による事例紹介は、システムの機能紹介に始まり、どのように授業を運営しているか、克服した課題、今後の課題について端的に述べられた。また、すべての発表が事前に録画していただいた内容であったため研修会進行・オンライン参加者対応において大きく貢献することができた。

事例紹介の次に、遠隔授業の実施方法の改善策①として、令和2年5月20日（水）～5月25日（月）の期間で全教員・学生を対象として実施した遠隔授業実施・受講に関する実態調査の報告を国際学群国際学類卯田卓矢准教授（名桜大学 FD 委員会委員）が発表した。教員の遠隔授業実施に係る状況の確認と、学生の遠隔授業受講に係る現状把握を目的とした。本件に関しては、FD 委員会において引き続き実態調査を再実施し、さらなる基礎資料を得ることで今回の調査報告と比較した結果を今年度中に全学的に報告したい。

続いて、遠隔授業の実施方法の改善策②として、今後の授業のあり方について小職が発表を行った。今般の事情等を鑑み、今後も遠隔授業の必要性が多いにあることから、令和2年度前学期6月以降（後学期も含める）の授業においても対面授業のみの実施ではなく、遠隔授業とのハイブリッド形式の授業形態を実施するよう依頼した。また、学生の受講においては、原則として教室内への出席を必須とせず、弾力的に対応することも併せて依頼した。そして、シラバスによる授業運営方法の明記・学生への周知、出欠管理における配慮についても説明を行った。

最後に、砂川学長による挨拶で本研修会を閉会した。

本研修会は、事例紹介や実態調査の報告、今後の授業のあり方についての発表であったことから、参加教員にとっても有益であったと考える。後学期においても遠隔授業導入に係る負担の軽減となることも期待したい。研修会運営に係り、発表動画・資料等を準備していただいた教職員にも併せて感謝したい。

令和2年度 第2回名桜大学FD研修会 実施計画

1. 目的：令和2年4月30日（木）付発出の「緊急事態宣言の延長に伴う本学の基本方針」において、授業は令和2年5月7日（木）から開始することとし、5月7日（木）から5月29日（金）までは、ICT等を活用した遠隔授業のみとすることとなった。  
今回の研修会では、ICTを活用した遠隔授業の実施方法において事例から振り返り、今後持続可能な遠隔授業を実施するための改善策を情報共有すること及び本学専任教員の資質向上を目的とし、FD研修会を実施する。
2. 開催日時：令和2年5月29日（金）16:30
3. 会場：学生会館 SAKURAUM 3F 大講義室 A・B 及び オンライン（Microsoft Teams を使用）
4. 対象：本学専任教職員
5. テーマ：ICTを用いた遠隔授業の振り返り、遠隔授業の実施方法の改善策について
6. プログラム

時間	内容
16:15～（15分）	受付（Microsoft Teams で参加の場合は、事前に教務課へ報告）
16:30～（5分）	開会のあいさつ 名桜大学FD委員長 アリ ファテヘルアリム（司会）
16:35～（15分）	ICTを用いた遠隔講義の振り返り① 【Microsoft Teams を用いた遠隔講義事例】 スポーツ健康学科専門教育科目 （スポーツバイオメカニクス）の遠隔講義に係る事例について ■発表者 玉城 将 准教授（所属：人間健康学部スポーツ健康学科）
16:50～（15分）	ICTを用いた遠隔授業の振り返り② 【Google Class, Meet, Forms を用いた遠隔講義事例】 教養教育科目・共通選択科目・外国語 （中国語Ⅰ等）の遠隔講義に係る事例について ■発表者 山城 智史 上級准教授（所属：リベラルアーツ機構）
オンライン	ICTを用いた遠隔講義の振り返り③ 【Microsoft Teams, Universal Passport, Google Forms を用いた遠隔講義事例】 教養教育科目・共通選択科目・人文科学 （心理学）の遠隔講義に係る事例について ■発表者 金城 亮 教授（所属：国際学群国際学類）
オンライン	ICTを用いた遠隔講義の振り返り④ 【Google Class, Microsoft Teams, Google Forms を用いた遠隔講義事例】 看護学科専門基礎教育科目・人間の理解 （解剖生理学）の遠隔講義に係る事例について ■発表者 木村 安貴 准教授（所属：人間健康学部看護学科）
17:05～（10分）	質疑応答
17:15～（15分）	遠隔授業の実施方法の改善策について① 【遠隔授業実施における実態調査について】 ■発表者 卯田 卓矢 准教授（所属：国際学群国際学類）
17:30～（10分）	遠隔授業の実施方法の改善策について② 【今後の授業のあり方について】 ■発表者 副学長（教育）林 優子
17:40～（15分）	質疑応答
17:55～（5分）	閉会のあいさつ 学長 砂川 昌範
18:00	終了

※研修会には各自PC等をご持参ください。

※アンケートはオンラインで実施いたします。以下リンクよりアンケート回答の協力をお願いいたします。

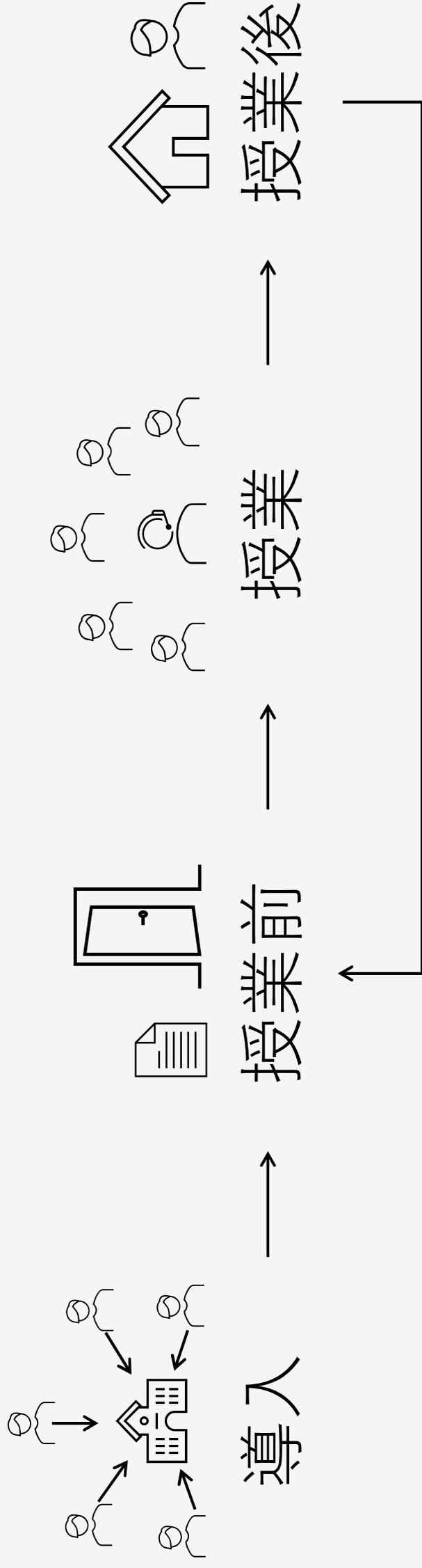
回答するためには、GmailにおいてGaroonメールアドレスおよびパスワードを入力してログインしてください。

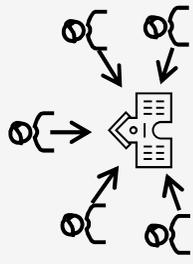
<https://forms.gle/3aZjFRFzZqer8G3A7>

# Teamsによる授業事例の紹介

スポーツ健康学科 玉城 将

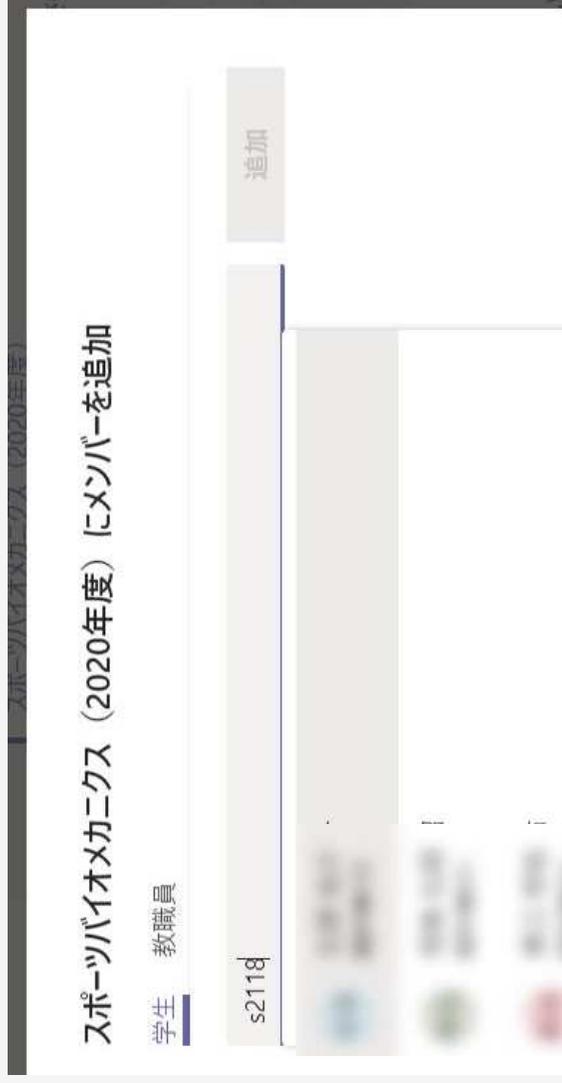
## 全体の流れ





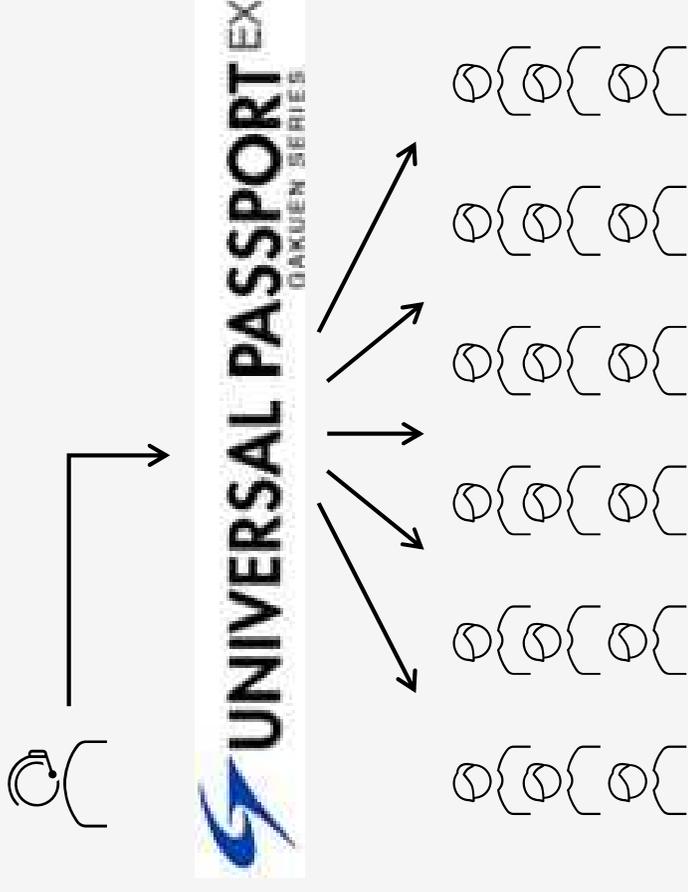
# 導入（履修登録～初回授業参加）

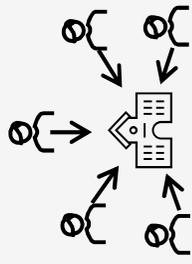
受講生をチームに追加  
（下図は手動で追加しているところ）



※追加登録者も随時追加

初回授業についての連絡  
（Universal Passport推奨）





# 導入 (履修登録～初回授業参加)

## 初回授業についての連絡内容

- 授業の形式 **Teams**を使用したオンライン講義。チーム名は「〇〇〇〇〇」
- 今後の連絡方法 **Teams**を通して連絡するので**Teams**モバイル版も入れて
- 受講生の端末 **PC推奨** (携帯電話もOK)
- 通信量の目安 **1コマあたり150MB程度**
- 授業の参加方法 予定表または**第01回チャンネル**から参加
- (資料の配布方法)



私の授業では連絡を忘れました

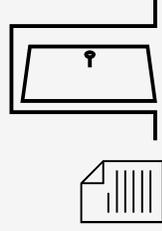
簡易手順書も添付

**予定表から参加**

または **チャンネルから参加**



# 授業前



## 予定表に登録

日	17	18	19
曜日	日曜日	月曜日	火曜日
午後1時		卒業研究 演習I 第04回 玉城 将	
午後2時			
午後3時		卒業研究 演習III 第05回 玉城 将	スポーツバイオメカニクス 玉城 将
午後4時			

人、キーワードの検索、またはコマンドの入力

ス2 第02回 筋... 投稿 ファイル メモ +

玉城 将 04/23 9:36

- 骨格筋の特徴
- 骨格筋の構造
- 筋収縮の様式
- エネルギー供給

詳細表示

スポーツバイオメカニクス 2020年5月19日 火曜日 @ 14:45

会話 21秒

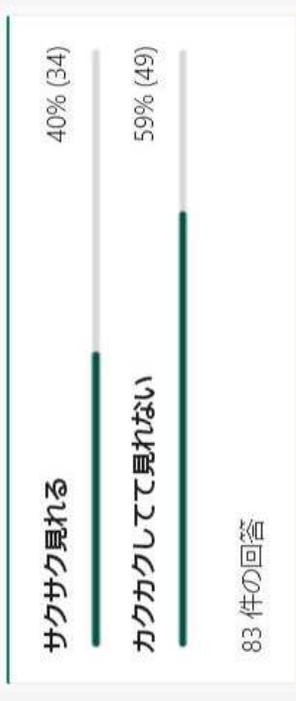
新しい会話を開始します。@を入力して、誰かにメンションしてください。

## 授業チャネルに入口を作る

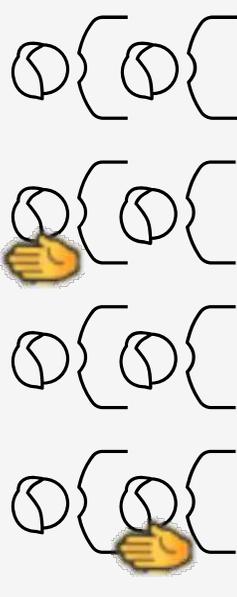
# 授業



動画の再生状況を教えてください



メモしている人は挙手してください

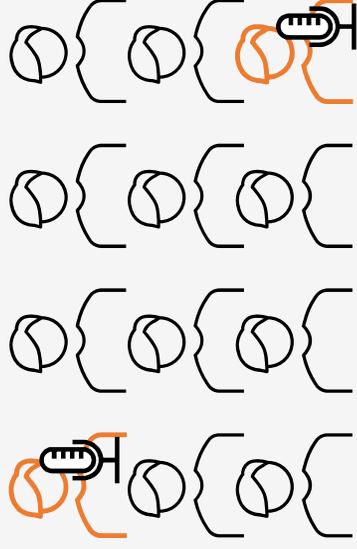


**Forms**と挙手機能  
で状況を確認

骨格筋の特徴	この性質の合理性にも裏目する
骨格筋	硬直筋 or 平滑筋 剛直筋 or 不随筋
心筋	
内臓筋	

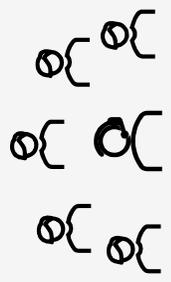
1コマあたり150MB程度

画面共有 & 音声  
& **ビデオOFF**

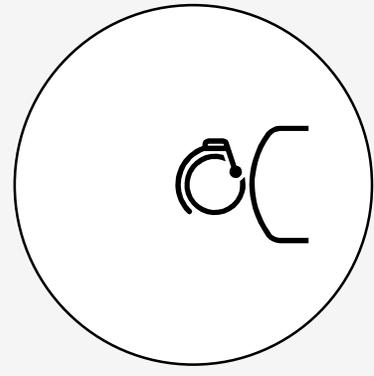


トラブルをすぐに発見

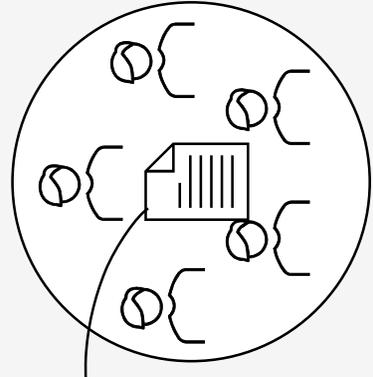
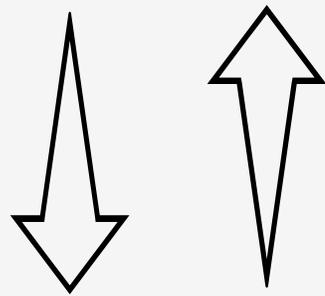
学生1~2名に  
マイクONを依頼



# 授業 (グループワーク)

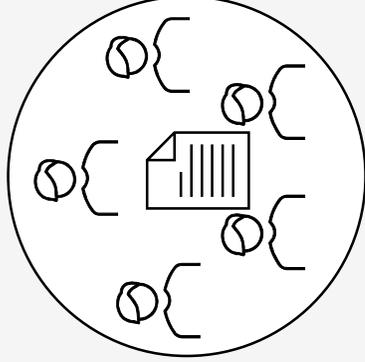


授業チャネル

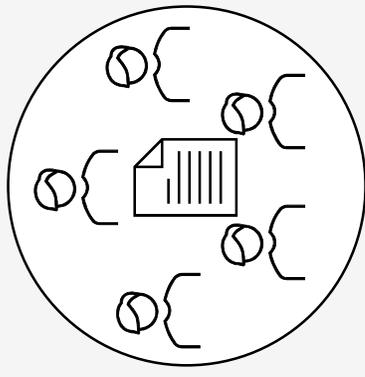


ワークシート  
オンラインで共同編集

[グループ1]  
チャネル



[グループ3]  
チャネル



[グループ2]  
チャネル



# 授業後

## 第1回 理解度確認テスト

名城大学 スポーツバイオメカニクス 第1回

このフォームを送信すると、メールアドレス ([s.tamaki@meio-u.ac.jp](mailto:s.tamaki@meio-u.ac.jp)) が記録されます。自分のアカウントでない場合は、[アカウントを切り替えて](#)ください

**\*必須**

第2回以降の講義形式は？ \*

教室での面接授業

1 ポイント

## チーム全体にメンション

ス2 一般 投稿 ファイル クラスノートブック 課題 成績 その他 2 ヶ月 十 ...

玉将 05/12 19:08 編集済み  
教科書問題について  
スポーツバイオメカニクス (2020年度)  
やや長いですが、重要ですので、第4版を購入した人以外は読んでください。

玉将 05/15 16:19  
スライドにメモする方法  
スポーツバイオメカニクス (2020年度)  
補足資料をアップしました。この資料では、以下の2点について解説しています。  
1. 受講しながらPDFに書き込む方法

Google フォームで  
理解度確認 & 予習

Teams の一般チャネルで  
全体連絡

- 遠隔授業の利点
- 遠隔授業で苦勞している点
- 今後の授業&業務に関する気づき

# 遠隔授業の利点

---

- 受講できる学生が増える
- 受講生が発言しやすい
  - 全員にマイクが配置されている状況
  - 声を出さずに発言できる（会議チャット、Forms）
- 学外から授業ができる（出張中の講義、県外在住の非常勤講師、も可）
- インターネット上の情報を利用しやすい
- Teamsを通して効率的に全体連絡ができる

# 遠隔授業で苦勞している点

---

- 学生の反応が見えない (スライドを進めても良いか、判断が難しい...)
- 資料の配布 (紙媒体で欲しい学生は多い)
- 受講生の通信環境に影響される
- 教室と同等のグループワークは実現できない
- 細かい点まで科目毎に決めて連絡しないといけない
- チームへの追加 (Universal Passportと同期できない?)

# 今後の授業&業務に関する気づき

---

- コロナ終息後も、遠隔授業の利点を生かせないか？
  - 全学生を対象としたTeams研修会の実施
  - Teamsによる遠隔授業を実施する科目を一定数残す
- 会議でTeamsを使う利点も多いのでは？
  - 出張時の参加も認める
  - 議題毎にスレッドを立てて意見を集約
  - Formsで決議

名桜大学FD研修会

## 遠隔授業の取り組み

---

Google Classroom、Meet、Formsを事例に

リベラルアーツ機構  
山城智史

2020年5月29日

### 遠隔授業 2020前期

---

中国語Ⅰ (A)	火3・金3／35名
中国語Ⅰ (B)	火4・金4／35名
中国語Ⅰ (C)	月3・木3／35名
観光実用中国語	木4／47名
外国語特別講義 (中国語)	金2／27名

## 遠隔授業

---

機械・ネット環境の違いによって、  
受講の質に「差」が出ないように工夫する。

遠隔授業のメリットを最大限に引き出し、  
学生の「学び」のモチベーションを上げる。

Google



Classroom

クラス管理



Meet

講義—LIVE配信



Forms

課題&復習

<b>観光実用中国語2020...</b> 生徒 46 人 今日まで 23:59 - 観光実用中国語 (第2回) 解説	<b>外国語特別講義(中国語)</b> 生徒 25 人 今日まで 23:59 - 外国語特別講義 第2回 期限: 月曜日 23:59 - 20200515外国語特別講義 課題 (...	<b>中国語 I (C)2020前期</b> 生徒 34 人	<b>中国語 I (B)2020前期</b> 生徒 35 人 今日まで 23:59 - 中国語I (第3回)
<b>中国語 I (A)2020前期</b> 生徒 35 人 今日まで 23:59 - 中国語I (第3回)	<b>海外スタディツアー...</b> 生徒 15 人	<b>中国語 II (E) 2019後...</b> 生徒 26 人	<b>中国語 I (A)2019後期</b> 生徒 56 人

**外国語特別講義(中国語)2020前期**  
 クラスコード 無効  
 Meet のリンク <https://meet.google.com/lookup/agy6pyccf7>  
 テーマを選択  
 写真をアップロード

**期限間近**  
 今日まで  
 23:59 - 外国語特別講義 (...  
 期限: 月曜日  
 23:59 - 20200515外国語...  
 すべて表示

クラスで共有...

山城智史 さんが新しい課題を投稿しました: 20200515外国語特別講義 課題 (第2課) ①  
 5月15日

山城智史 さんが新しい課題を投稿しました: 外国語特別講義 第2回  
 5月15日

山城智史 さんが新しい課題を投稿しました: 20200509 課題  
 5月9日

履修者一覧

<input type="checkbox"/>		s1417171津原駿佑SyunsukeT...
<input type="checkbox"/>		s1418073嘉畑夏香KijokaAmi
<input type="checkbox"/>		s1418081金城妃嘉KinjoHiyori
<input type="checkbox"/>		s1418143砂川綾乃Sunakawa...
<input type="checkbox"/>		s1419040玉城千奈Tamashiro...
<input type="checkbox"/>		s1419074赤嶺雄紀AkamineY...
<input type="checkbox"/>		s1419075崎崎真帆TakasakiM...
<input type="checkbox"/>		s1419094津雲山深Tsukayam...
<input type="checkbox"/>		s1419103福川理子Hasukawa...
<input type="checkbox"/>		s1419119白澤麗奈ShirasawaR...
<input type="checkbox"/>		s1419121宮崎望MiyazakiNoz...
<input type="checkbox"/>		s1419139比嘉りんHigaRin

課題提出の管理

姓で並べ替え	5月18日 20200515 外国語特...	今日 外国語特 別講義 ...	5月11日 20200509 課題	5月9日 第1回 オ リエンテ...	5月7日 アンケー ト
s1419185 斎藤祐希 Toyoham...		提出済み	提出済み	提出済み	提出済み
s1419193 豊里英夕 Toyozato...			提出済み	提出済み	提出済み 期限後の完了
hiMa...		提出済み	提出済み	提出済み	提出済み
kishiR...	提出済み	提出済み	提出済み	未提出	未提出
Rion		提出済み	提出済み	提出済み	提出済み
waH...	提出済み	提出済み	提出済み	提出済み	提出済み
kaeo...	提出済み	提出済み	提出済み	提出済み	提出済み
s1419263 松井花帆 MatsuiKa...	提出済み	提出済み	提出済み	提出済み	提出済み
s1419275 新垣友里恵 Arakak...	提出済み		提出済み	提出済み	未提出
s1419293 池田 颯 IkedaKaoru	提出済み	提出済み	提出済み	提出済み	提出済み

+ 作成

Meet

Google カレンダー

クラスのドライブ フォルダ



20200515 外国語特別講義 試験 (第2課)

期限: 5月18日 23:59

投稿日: 5月15日

14

提出済み

11

残り当て済み



20200515 課題 (第2課...  
Google フォーム

課題を表示



外国語特別講義 第2回

期限: 23:59



20200509 課題

期限: 5月11日 23:59



第1回 オリエンテーション

期限: 5月9日 23:59



アンケート

期限: 5月7日 23:59

②

課題提出の  
管理

Google



Classroom

クラス管理



Meet

講義 - LIVE配信



Forms

課題 & 復習

Google



Meet

## LIVE配信 データダイエット

	スライド画面共有	音声	文字入力	Webカメラ
教員	○	○	○	×
学生	×	△	○	×

Google



Meet

## LIVE配信

- ①スライド画面が近くにあるって見やすい
- ②声が聞き取りやすい
- ③発音練習が捗る（音声入力）
- ④文字入力ですぐに質問ができる
- ⑤通信が途切れないから集中できる



# 講義中一チャット（文字入力）機能



教員の質問に対して、学生一人一人の意見・回答・理解度が可視化される。

妈妈比爸爸小两岁，是一名中学教师。  
我父母都很会做菜。哥哥是前年结的婚。

母は父よりも2歳年下で、中学校の教師です。  
両親はどちらも料理を作るのが上手です。兄は一昨年、結婚しました。

妈妈比爸爸 小 两岁

A比B + 形容詞 + 数字

我父母都很会做菜

很会 + 動詞

~するのが上手

# 講義中一チャット（音声入力）機能

発音練習

- ① 「u」の発音を力強く
- ② 1声+1声を意識する

书包 shūbāo

正しい発音

修包 xiū bāo

学生の発音

虚报 xūbào

学生の発音



## 中国語「声調確認くん」の特徴



\*画面イメージはタブレット版

Google



Classroom

クラス管理



Meet

講義—LIVE配信



Forms

課題&復習

Google



Forms

課題

- ①講義中のスライドを共有することで、復習・予習を促進する
- ②学生の質問にすぐに対応できる
- ③プリンターを使わない
- ④自分の解答がメールで送られてくる
- ⑤中国語を音声入力・キーボード入力することで、実用的な力を身につける

# 課題一 日本語翻訳

## 期限の設定

1. 著作権
2. 期限内・期限外提出を自動で振り分け



## 課題提出 ⇒ 講義の内容を修正・調整



課題の中でミスが多い箇所を中心に、講義のスライド内容を修正・調整していく

# 講義の感想



学生からの質問に回答することで、学びのモチベーションを維持する。

妈妈比爸爸小两岁，是一名中学教师。  
我父母都很会做菜。哥哥是前年结的婚。

- ① 是 一 的      1. すでに完了したこと  
                         2. 「いつ、どこで、どのように」を強調

我是在日本学的日语。      「是」省略可

- ② 離合詞      動詞 + 名詞

打工      见面      我昨天打了三个小时工。

## 外国語特別講義 課題（第1課）

このフォームを送信すると、メールアドレス（[t.yamashiro@melo-u.ac.jp](mailto:t.yamashiro@melo-u.ac.jp)）が記録されます。自分のアカウントでない場合は、[アカウントを切り替えてください](#)

\*必須

第1課 本文

## 外国語特別講義

2020年前学期

山城智史

下記のスライドの内容に基づいて、①比較、②很会、二つの文法について例文を書いて下さい。

回答を入力

①比較 ②很会

妈妈比爸爸小两岁，是一名中学教师。  
我父母都很会做菜。哥哥是前年结的婚。

妈妈比爸爸小两岁

A比B+形容词+数字

我父母都很会做菜

很会+動詞  
~するのが上手

下記のスライドの内容に基づいて、「是——的」の例文を2つ作って下さい。\*

回答を入力

是——的

妈妈比爸爸小两岁，是一名中学教师。  
我父母都很会做菜。哥哥是前年结婚的。

①是——的 1. **すでに完了したこと**  
2. **「いつ、どこで、どのように」を強調**

我是在日本学的日语。 「是」省略可

②離合詞 **動詞＋名詞**

打工 见面 我昨天打了三个小时工。

戻る 送信

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

講義後に全員に向けて、講義のスライドを問題形式を含めて配布する。

- ①復習
- ②機械・通信環境、体調不良等が原因で受講が出来なかった学生へのフォロー

20200509観光実用中国語 課題

中国語検定試験4級 (高9級) 筆記大問4

(1) 42 件の投票

(2) 42 件の投票

20200509観光実用中国語 課題

(4) 49 件の投票

(5) 49 件の投票

Google



Classroom

クラス管理



Meet

講義—LIVE配信



Forms

課題&復習

名桜大学FD研修会

## 遠隔授業の取り組み

---

Google Classroom、Meet、Formsを事例に

リベラルアーツ機構

山城智史

2020年5月29日

# 2020年度 遠隔授業の取り組み報告

国際学群 金城 亮



## 1. 遠隔授業の準備、開始、運用 (UNIPA, Teams, Google Form活用)

【Teams】  
左上チーム名傍の「…」  
⇒チームを管理⇒設定⇒  
チームコード⇒生成

### ◆学期の初めに… <準備: **学生誘導**>

①Microsoft Teams (以下Teams) に授業クラスを開設 (チームコード生成)



②Universal Passport (UNIPA) による資料配信と授業クラスへの誘導

• クラスプロフィール⇒授業資料：初回資料と「オンライン授業受講の心得」

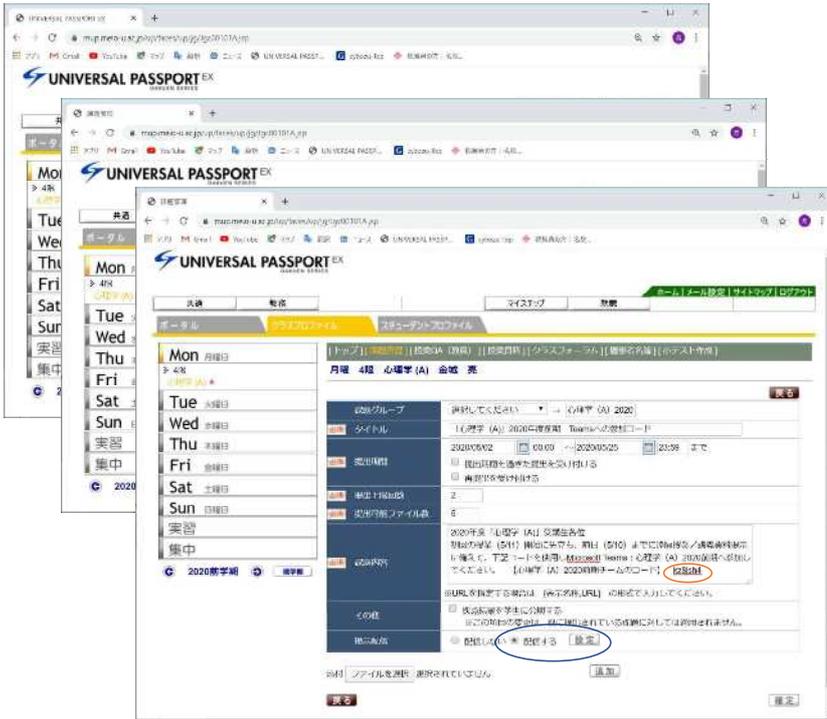
課題管理：Teamsへの参加チームコード周知 [掲示配信]の設定



③Teamsの授業クラスのエンタランス (一般・投稿) に受講生へのあいさつ  
(足あと返信の依頼、初回オンライン授業の日時、諸注意)

# UNIPAによる資料配信

「遠隔授業受講の心得」



2020年度前期「心理学(A)」受講生の皆さんへ

科目担当：金城 亮

講義は当面、概ね以下の手順で行います。皆さんの協力がなくは成り立ちませんので、是非、主体的に取り組んで下さい。

①講義資料（通常は紙で配るもの）をUNIPAのクラス・プロフィールを通じてPDFで配布します。毎回の講義受講前に以下のいずれかの方法で準備して下さい。

- 家で印刷する (◎)
- 家にプリンタがない場合、コンビニ等で印刷する (◎)  
→USB等に保存して持ち行き印刷する
- PC・タブレットで閲覧する (△)  
→授業と連携して閲覧することが多いので、なるべく紙で受講して下さい
- 携帯・スマホで閲覧する (×)  
→授業と連携して閲覧することが多いので、スマホの画面では両立不可能

②オンライン講義における視聴覚資料（PowerPointのスライド等）の提示と講師の解説はMicrosoft Teamsで配信します。受講者の皆さんは自宅で視聴する場合も、講義室で対面授業を受ける場合もPCまたはスマホ等、各自の端末でアクセスして受講すること。

例えば、

- 自宅にインターネット（Wi-Fi）環境がある場合、動画を視聴
- 自宅にインターネット（Wi-Fi）環境がなく、テザリング等で十分に帯域を使える場合、動画を視聴
- 自宅にインターネット（Wi-Fi）環境がなく、しかも携帯の通信量（ギガ）も制限がある場合、音声のみ聴取

③オンライン授業エントリ（参加）の際に注意すること。

- 回線負荷と音声ハウリングを低減するため、オンライン授業（会議）に参加する際には、**端末のカメラとマイクはOff**にして参加する
- 講義中は講師の映像を「ピン留め」しておく
- 意見や質問がある場合は、会議室内チャットで講師に意思表示し、**許可を得てからマイクをOn**にして発言する。自分の端末の情報をクラスへ「共有」したい場合も、同様に講師の許可を得てから行う
- 会議動画の「録画」は観めない**。どうしても録画したい事情がある場合には、講師および会議参加者全員に理由を説明し、許可を得てから録画する

④講義中の指示に従って、課題・感想等を提出して下さい。

遠隔（Teams）or 対面授業による受講と、課題の提出をもって講義を受けたものと見なします。

## 1. 遠隔授業の準備、開始、運用 (UNIPA, Teams, Google Form活用)

### ◆授業開始日…<開始：学生誘導>

#### ①開始30分前

- その日の授業用チャンネル開設（例：「第〇回……」(日付)）
- Teams授業クラスのエントランス（一般チャンネル）のチャットに予告メッセージ  
(例：「本日(〇/△)◇限り「第〇回……」のチャンネル内にオンライン講義のための「会議室」を開設します。ウィンドウ左上の「第〇回……」のタイトルをクリックしてチャンネルに参加してください。)

#### ②開始10分前

- その日の授業用チャンネルに移動。そのチャンネルのチャットに予告メッセージ  
(例：「〇〇:〇〇よりオンライン講義を開催します。担当教員が「会議室」を設置しますので、受講生の皆さんは予めUNIPAより授業資料を入手し「遠隔授業受講の心得」を通読の上、会議に「参加」してください。)

#### ③開始5分前

- 所定のチャンネル内に「会議室」を開設（教員のカメラ・マイクはOn）



【Teams】

左上チーム名傍の「…」  
⇒チャンネルを追加⇒チャンネル名と説明を記入⇒追加

【部屋の様子を見せたくない！時】  
コマンドバーの中央「…」⇒  
背景効果を表示する⇒サンプルから好きな背景を選ぶ⇒適用

# 1. 遠隔授業の準備、開始、運用 (UNIPA, Teams, Google Form活用)

## ◆オンライン授業…<運用>



- ①教員の講義・資料共有中：原則、受講生のカメラ・マイクは「Off」がお勧め  
▼ 講義内チャットおよび「手を挙げる」👏ボタン(新機能)の活用
- ②質疑応答時間：講義の区切り毎に複数回実施が理想。質問のある受講生はマイクOn  
▼ 
- ③ふりかえり時間：フィードバック（リアクション）ペーパーの活用（授業時間内での回答送信完了）が望ましい  
→ 次回の授業日時の確認  
▼ 

【Google Formがお勧め】

  - ・ 調査票設計が容易で柔軟
  - ・ 回答を関係者だけに限定可
  - ・ リンクを生成してTeamsの会議室チャットにコピペ⇒
  - ・ 受講生がすぐに遷移できる
- ④講義終了：終了宣言後も暫く会議室に留まっている学生有り ← 声かけすると…

## 2. どのような遠隔授業をTeamsで実施したのか (講義の事例紹介)

- 「**心**理学(A)」124名（主に1年）講義 Teamsによるオンライン
- 「**AW I**」30名（1年）講義・演習 Teamsによるオンライン ⇒ 6月よりハイブリッド
- 「**人**間関係論」73名（主に2年）講義・演習 Teamsによるオンライン  
オンライン・グループワーク (OGW) に挑戦中（プライベートチャット活用）
- 「**組**織心理学」60名（3・4年）講義 Teamsによるオンライン ⇒ 6月よりハイブリッド
- 「**専**門**演**習 I・III」（3・4年）演習 Teamsによるオンライン ⇒ 5月下旬よりハイブリッド  
(ゼミではUNIPAを使わず、TeamsやLINEでファイル共有等も完結)

### 3. 遠隔授業を運営する上で感じた利点や苦勞

- オンライン講義は5月末時点で各クラス3回程度の実績
- 現時点での率直な感想として、Teamsを利用したオンライン授業は、対面授業で実現していたことの8割くらいはカバーできる印象。

※OL講義の利点：講義・資料共有・質疑のメリハリ、予習・復習促進、視聴覚資料の見やすさ、フィードバックの即時性（その場で振り返り→回答集計→授業内で活用）

※OL講義の欠点：カメラ・マイクOffでは受講様態が分からない、GWにおいて全体の進行を見渡せない＆ロスタイム

セカンド・ディスプレイ  が  
あると、とても便利です。

- 授業に係るコスト（あくまで個人の主観です）

完全対面 < 遠隔（資料・課題留置） < ハイブリッド（対面&資料・課題留置） <  
< オンライン（リアルタイム） < ハイブリッド（対面&オンライン）

↑ GWは、上記のうち「完全対面」と「オンライン(リアルタイム)」でしか実現できない!?

### 4. 今回遠隔講義を導入して見えた 今後の授業のあり方についての気づき

- 今後、ハイブリッドから対面授業へ移行（復帰）しても、講義資料のWeb配信・共有によるペーパーレス化、Google Form等Webアンケートの仕組みを利用した課題出題→Feedbackは継続したい。
- 学生の様子を見渡し双方向の交流ができる（完全）対面授業がベスト。
- しかし、この先第2波、第3波の感染症流行があったとき、教育活動を停滞させないために、プランB、プランCの授業方法を模索・準備する必要がある。
- オンライン会議システムとWi-Fi環境の進歩は、多様な授業形態の発展を支えるプラットフォーム。

# 第2回FD研修会

## 遠隔講義の事例報告

2020年5月29日

人間健康学部看護学科  
木村 安貴

### 遠隔講義について

遠隔講義利用しているアプリケーションの紹介  
遠隔講義の進め方について

講義に関する情報共有  
講義資料の配信  
課題の配信・提出



Google class room

遠隔講義のライブ配信



Microsoft teams

出席確認



Google Forms

# Google クラスルーム

## 掲示板機能



Classroom



- ・ 講義に関する連絡事項を全員と共有できる
- ・ 連絡事項は各自の携帯に速やかに通知される

# Google クラスルーム

## 資料・課題配信 機能



課題は提出期限を設定することができる

課題について  
通信状況に不具合があつて講義に参加できなかった学生は課題を課す

# Google クラスルーム

# 課題管理機能

姓で並べ替え	総合成績	5月27日 5月20日ふ りかえり (100点満点)	5月20日 5月20日 自己学習 (100点満点)	5月21日 5月13日 ふりかえ (100点満点)	5月21日 5月13日 自己学習
クラス平均	92.5%			92.5	なし
s221	未評価		未提出	未提出	未提出
s222	100%	100	100	100	✓
s222	100%	100	100	100	✓
s222	80%	80	80	80	✓
s222	80%	80	80	80	✓
s222	100%	100	100	100	✓
s222	100%	100	100	100	✓

学生の課題の提出状況が自動的に整理され、一目で確認できる

課題をチェックしながら採点もできる

# Google クラスルーム

授業に関する情報共有  
講義資料の配信  
課題の配信・提出



講義の種類ごとに管理することができる

# Microsoft teams 遠隔講義



## 講義中音声について

学生の周囲の音が講義中に反映されて、聴き取れなくなることがあるため、音声をOFFにしてもらう  
質問があるときはONにする

- ・ パワーポイントを用いて、これまで通りライブで講義を行っている
- ・ 通信障害で見れない学生用に講義内容をteamsで録画している

# Microsoft teams ディスカッション



## 講義中の画像について

自分の画像をONを希望しない学生もいる

学生の中には、自分の画像をONにすると、通信速度が落ちるから

ノーメイクなので・・・

- ・ 学生と双方向性のディスカッションは可能
- ・ 表情が見えるようにする、事前に課題（事例など）を出すと、ディスカッションも白熱する

# Microsoft teams 外部講師の遠隔講義

Teams から外部講師に招待メールを送ると、そこから外部講師はteamsにアクセスできる

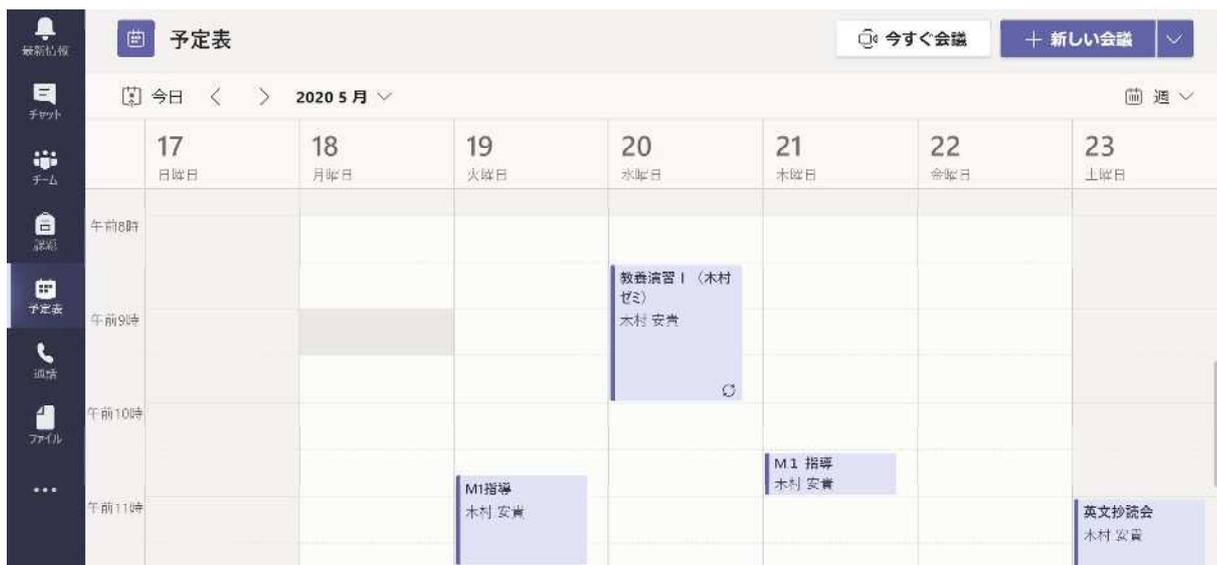
事前に外部講師とアポイントを取り、「teams」の使用方法について共有する（約15分程度）

画面を通して、**画像（パワーポイントなど）の共有方法**について説明する  
通信環境が整っていない（カメラやマイクがない）講師の場合は、大学に来て教室で講義を行う

あらかじめ参加している**学生の名前を確認する方法**を共有しておかないと、一方向性の講義になりやすいので注意

Teams上での参加者リストの確認方法やあらかじめ参加者リストを共有するなどの対処が必要です。

## Microsoft teams



- ・ teamsで予定表を作成し、外部講師やクラスを設定し登録すると、この講義に関する講師および学生に一斉に招待メールが届く

# Google Forms

## 出席確認



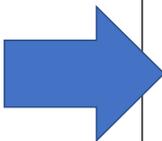
2020.5.7(木)第1回.病態治療学 I (内科系疾患).  
授業毎ミニレポート

フォームの説明

学生番号/名前 ※注意：名前も記入して下さい。 \*

記述テキスト (短文回答)

予習した時間を教えてください。 \*



第1回 解剖生理学

授業毎ミニレポートをGoogle Formsで作成し、その作成したURLをQRコードに変換する

講義の途中でQRコードを提示し、学生は携帯でQRコードにアクセスし、制限時間内にミニレポートを回答し投稿すると出席とする

# Google Forms



## データ管理

出席

学生番号/名前 ※注意：名前も記入して下さい。  
99件の回答

2219065 青納約菜
2219072 長岡みらい
2219080 前田陽輝
2219012 牛島由華
2219064 現川櫻月摩
2218047 鹿石千晶
2219086
2219059/安部菜々
2219009 川上大地

予習した時間を教えてください。  
99件の回答

授業へのコメント

上の内容について理由を書いて下さい。  
92件の回答

予習を行なっていたため、先生の講義が頭に入ってきた感じが良かったです。

実際に授業でお仕事をされている先生の講義は、私にもと進点が揃っていてとても分かりやすかったです。現場を見ている先生なので、経験をおまえて講義して下さいるので、知らなかったことが多くあって学んでいて楽しかったです。

教科書に準拠していたので手元でメモしながら話が聞けて分かりやすかったです。

復習を兼ねて学ぶことができ、簡易なイラストでわかりやすかったです。例を挙げると、休肝臓はどのようなものだったか、小腸は栄養を吸収するなど、復習を兼ねてできました。

復習も兼ねられていて、細かく説明してくれた。昨年半年だけ解剖生理が、実践的な感じでイメージしやすかったです。

復習を兼ねていたのが分かりやすかったです。

消化管の構造や様々な働き、便秘・下痢などについて理解できました。

先生の講義が録音や録画を助けていた。

- ・ 出席・アンケートの集計が自動で行われるので便利である
- ・ アンケートに学生番号と名前を入れる欄を設けないと誰から提出されたのかわからないで注意

## 遠隔講義の取り組みを通しての利点

- ・ 接触を完全に避けることができるため、講義における最大の感染予防策である
- ・ 外部講師が大学来る負担を軽減できる（特に遠方からくる場合）
- ・ 学生は、対面授業の時は緊張して質問に答えようとしませんが、遠隔講義で名前を当てて質問すると、しっかり答える。
- ・ 様々なアプリケーションを使うことで、課題などの管理方法が簡便化した
- ・ 卒業研究指導など、ペーパーレス化が進んだ

## 遠隔講義の課題

- ・ 使用初めの時、大学のアカウントへの入り方を説明しても、なかなかアクセスできない学生がいた（多大な時間を要した）
- ・ 通信環境が時間帯によって異なり、操作が思うように進まないことがある
- ・ 大人数の講義の場合、ペアワークなどのディスカッションができない
- ・ 講義をしながら、教員が学生の表情がみれないため感情や思いを読み取りにくい
- ・ PCがないやWiFi環境が整っていない学生に不利益がある

2020年5月29日 第2回全学FD研修会

# 「令和2年度 遠隔授業実施・ 受講に関する実態調査」 報告

FD委員  
卯田卓矢（国際学群）

## 調査目的，対象者，実施期間

### 調査の目的

「緊急事態宣言の延長に伴う本学の基本方針」にもとづき，授業は令和2年5月7日から開始し，5月7日～29日まではICT等を活用した遠隔授業のみとする。今回の調査は，当期間の**遠隔授業の実態把握，今後の授業のあり方及びICT等を活用した遠隔授業の可能性を探る**ための基礎資料を得る。

### 対象者

全教員及び全学生

### 実施期間

令和2年5月20～25日

## 回答状況①

### ◆教員

#### ・回答科目内訳

	講義	演習・実験等	合計回答科目
専任教員	116	68	<b>196</b>
非常勤講師	32	19	<b>51</b>

#### ・授業規模内訳

	40人未満	60人以上
専任教員	146	44
非常勤講師	37	7

## 回答状況②

### ◆学生

#### ・所属

国際学群	スポ健	看護学科	その他	合計
384	110	96	3	<b>593</b>

#### ・年次

1年次	2年次	3年次	4年次
258	163	127	45

## 教員 – Web会議サービスの利用

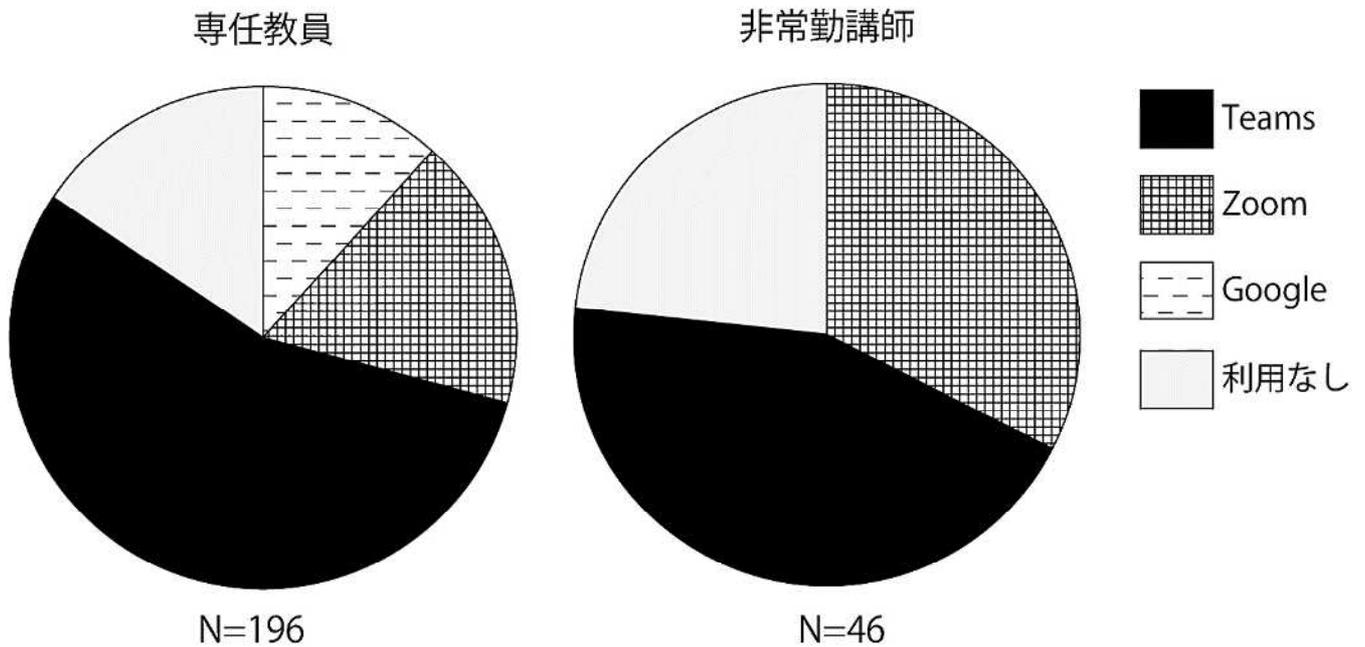


図 どの「Web会議サービス」を一番利用したか？

## 教員 – ICTツールの利用

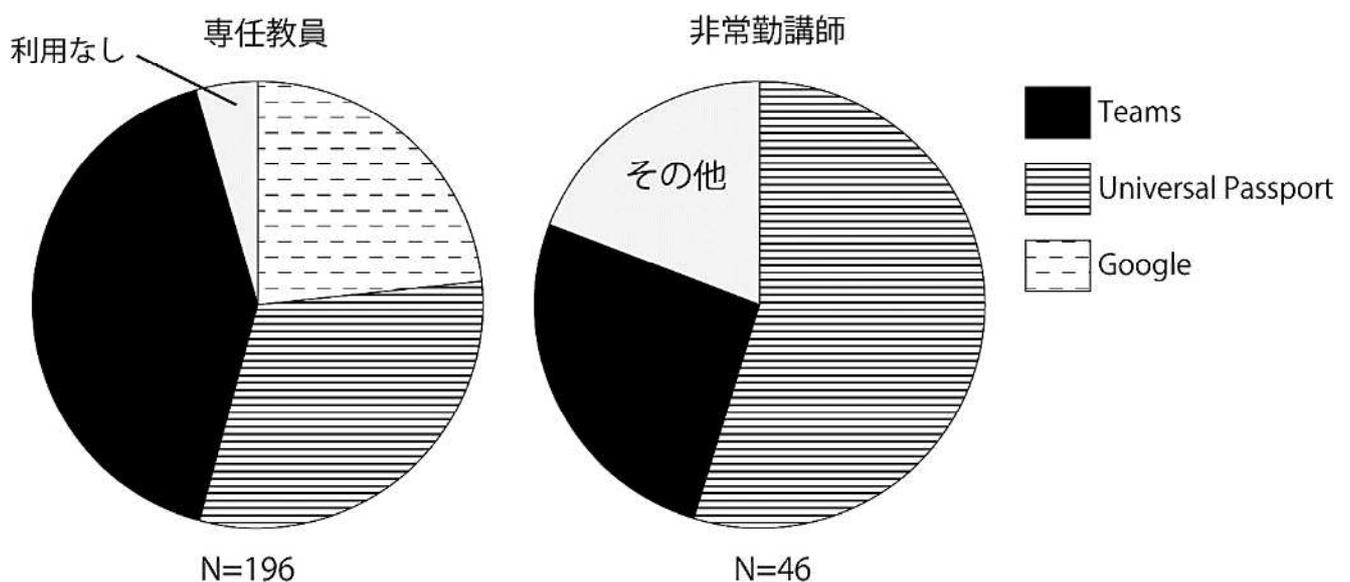


図 どの「ICTツール」を一番利用したか？

## 教員－電子ファイル送付，課題提出

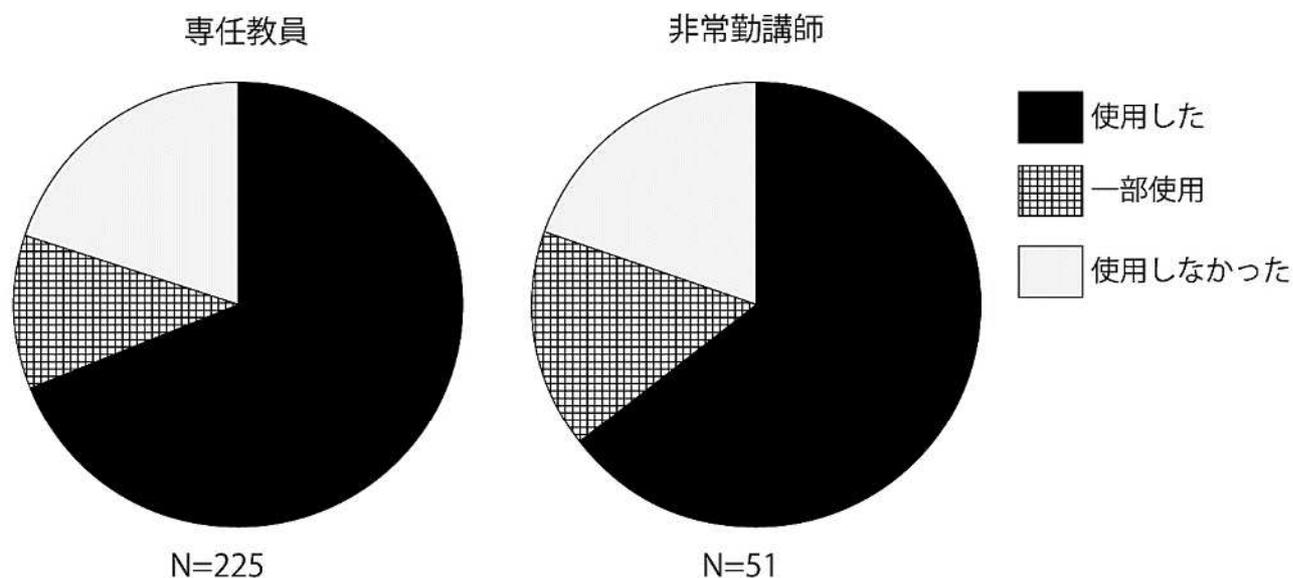


図 ICT ツールを用いて電子ファイルを送付し、課題を提出させたか？

## 教員－動画コンテンツの作成

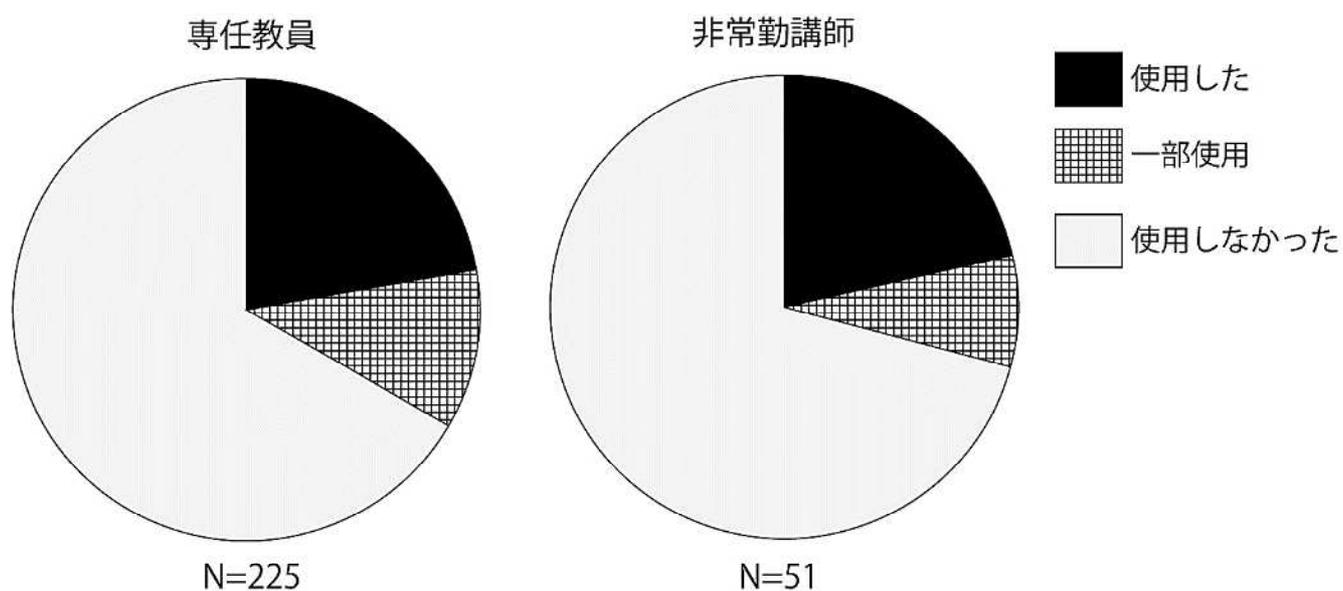


図 動画コンテンツを作成し、Youtube 等で配信したか？

# 教員－Web会議サービスを活用したリアルタイム授業

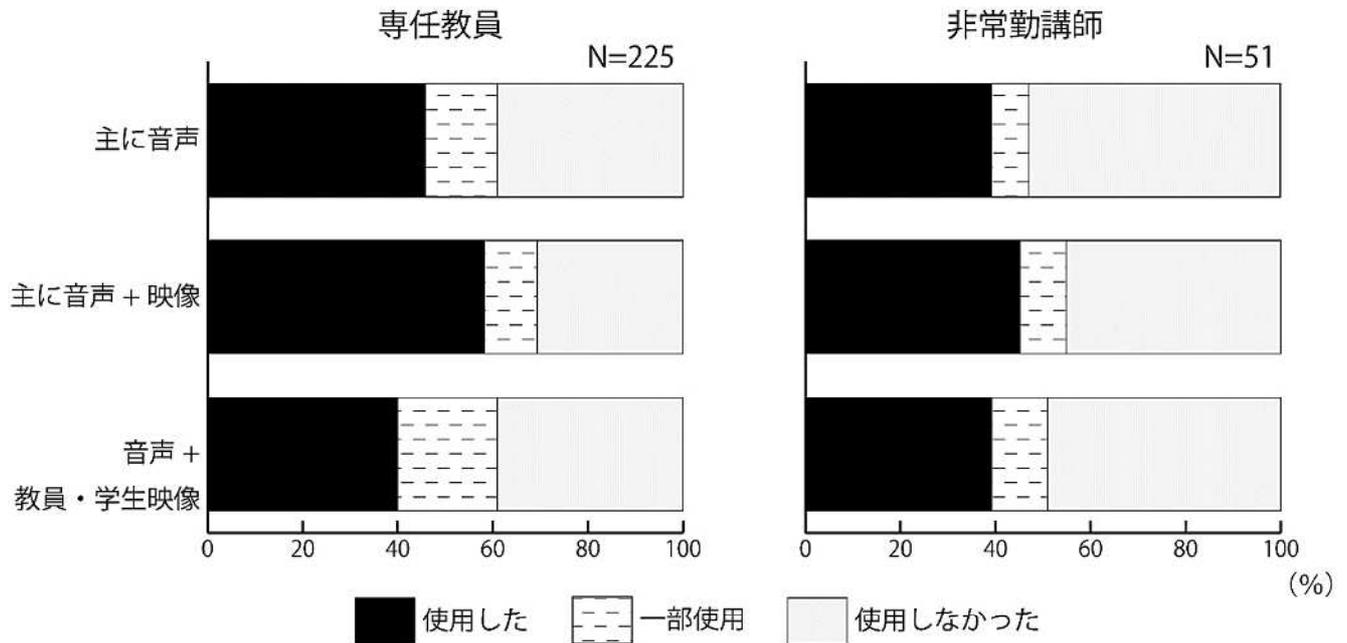


図 「Web会議サービス」を活用したリアルタイム授業の実施状況

## 専任教員－授業形態別のWeb会議サービスの利用

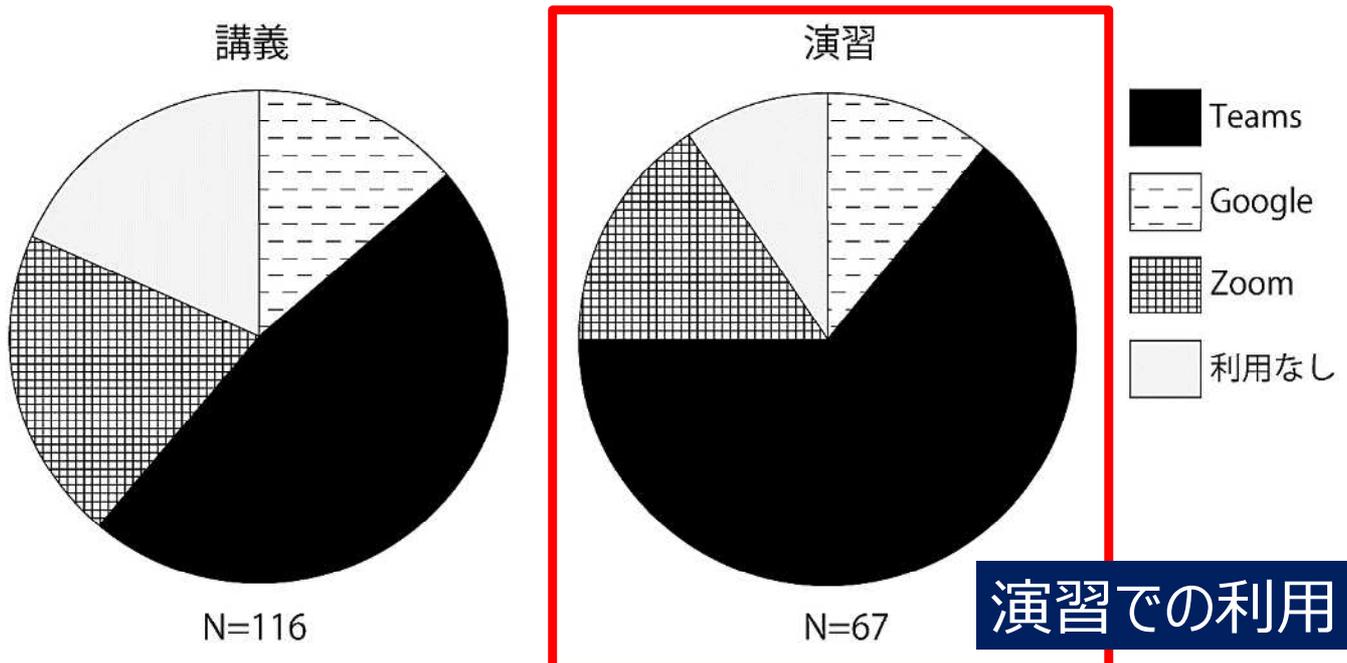


図 授業形態別の「Web 会議サービス」の利用

## 専任教員－授業形態別のICTツールの利用

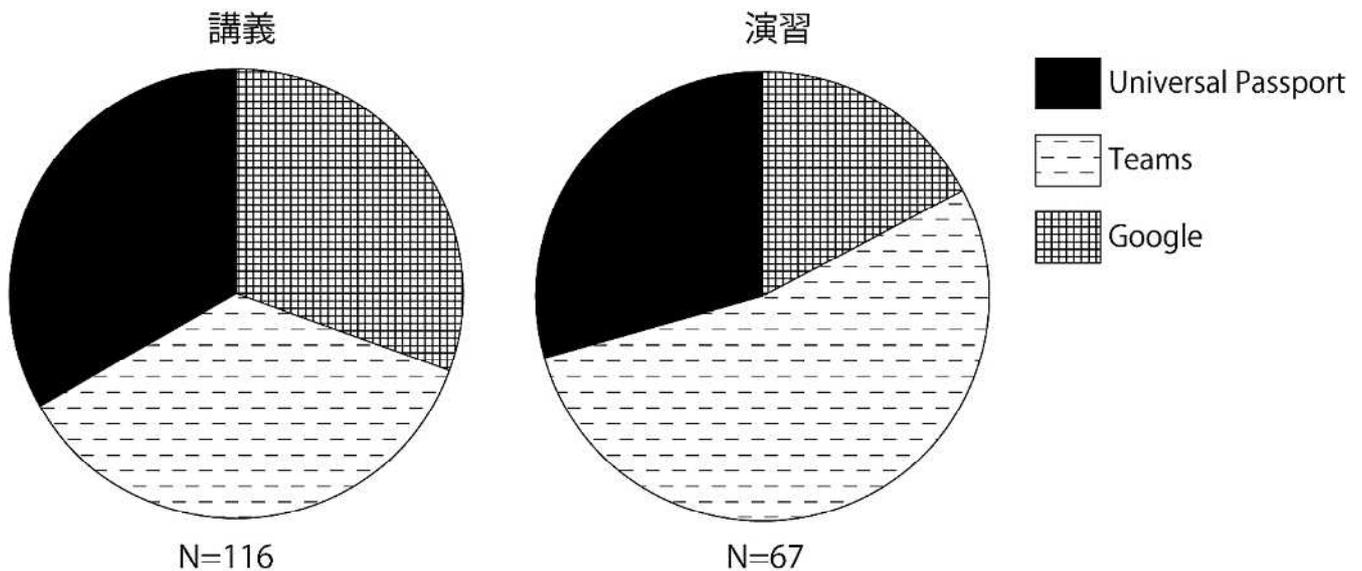


図 授業形態別の「ICTツール」の利用

## 専任教員－授業規模別の「Web会議サービス」の利用

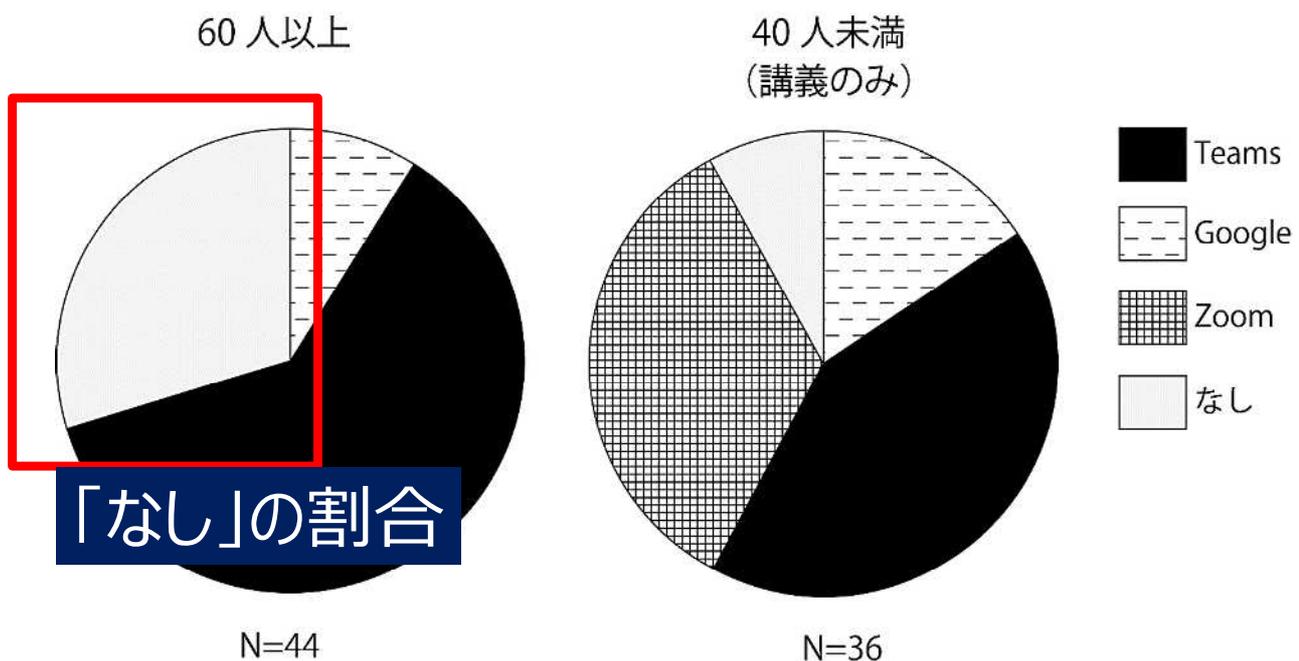


図 授業規模別の「Web会議サービス」の利用

## 専任教員－授業規模別のWeb会議サービスを活用したリアルタイム授業

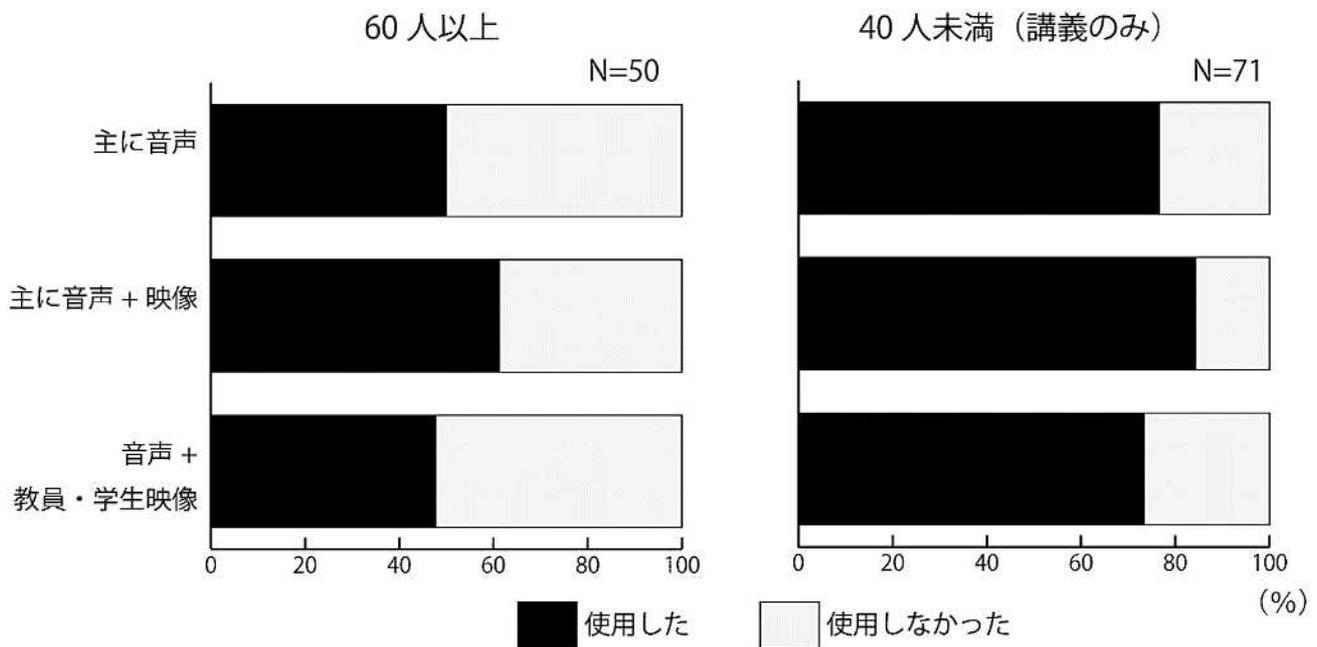


図 授業規模別の Web 会議ツールを活用したリアルタイム授業の実施状況

## 「教員」対象の調査結果のまとめ

- ✓「Microsoft Teams」, 「Universal Passport」の導入を軸とした遠隔授業の実施  
→Google, Zoomも併用
- ✓**演習系**のほうが「Microsoft Teams」, 「Universal Passport」を活用
- ✓大人数の授業は「Web会議サービス」を**活用しづらい**

## 学生－遠隔授業の受講場所

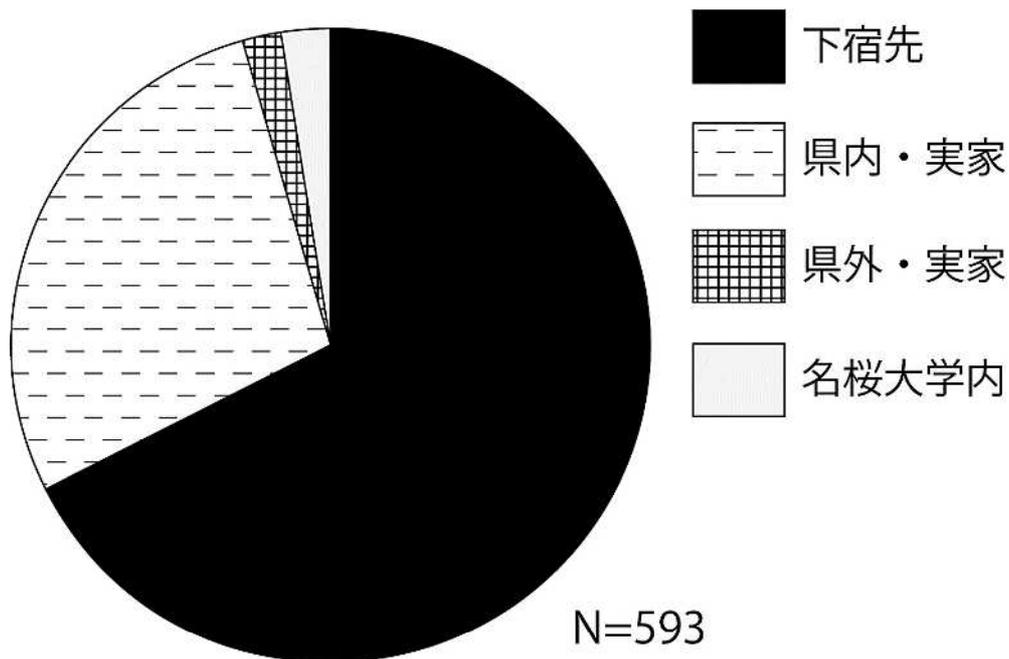


図 遠隔授業の受講場所

## 学生－自宅のネットワーク環境と通信量

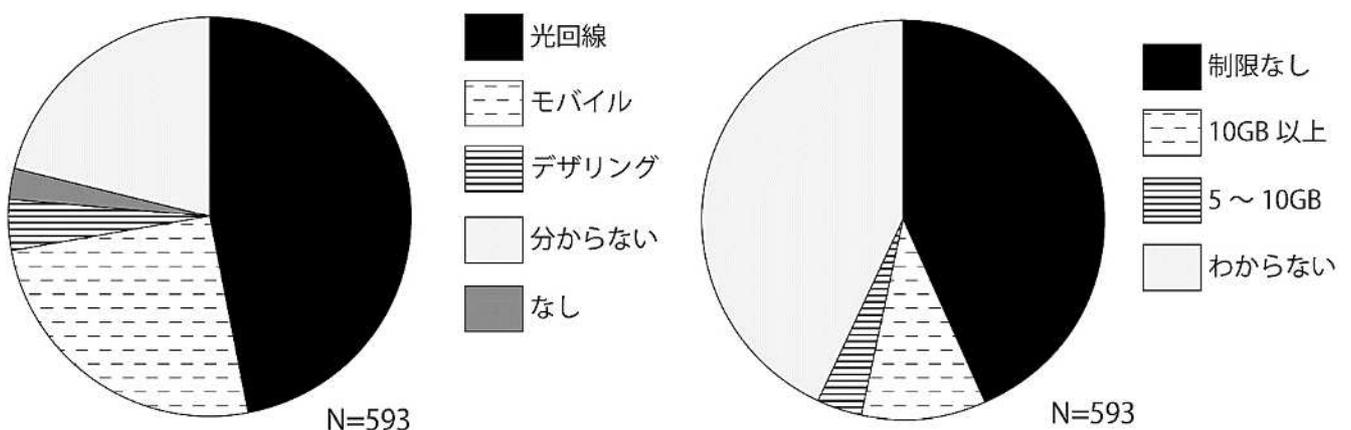


図 自宅のネットワーク環境

図 ネットワーク環境の通信量 (1 か月)

ネットワーク環境, 通信量が「**わからない**」

## 学生－使用した通信機器

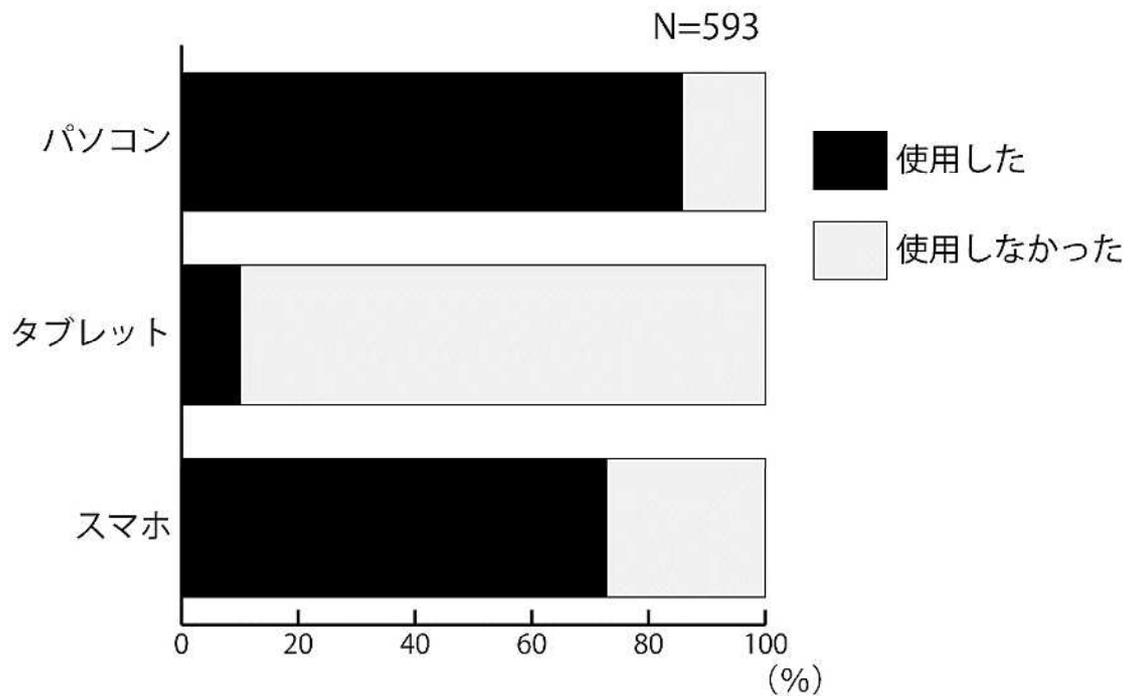


図 遠隔授業時に使用した通信機器

## 学生－使用したICTツールと評価

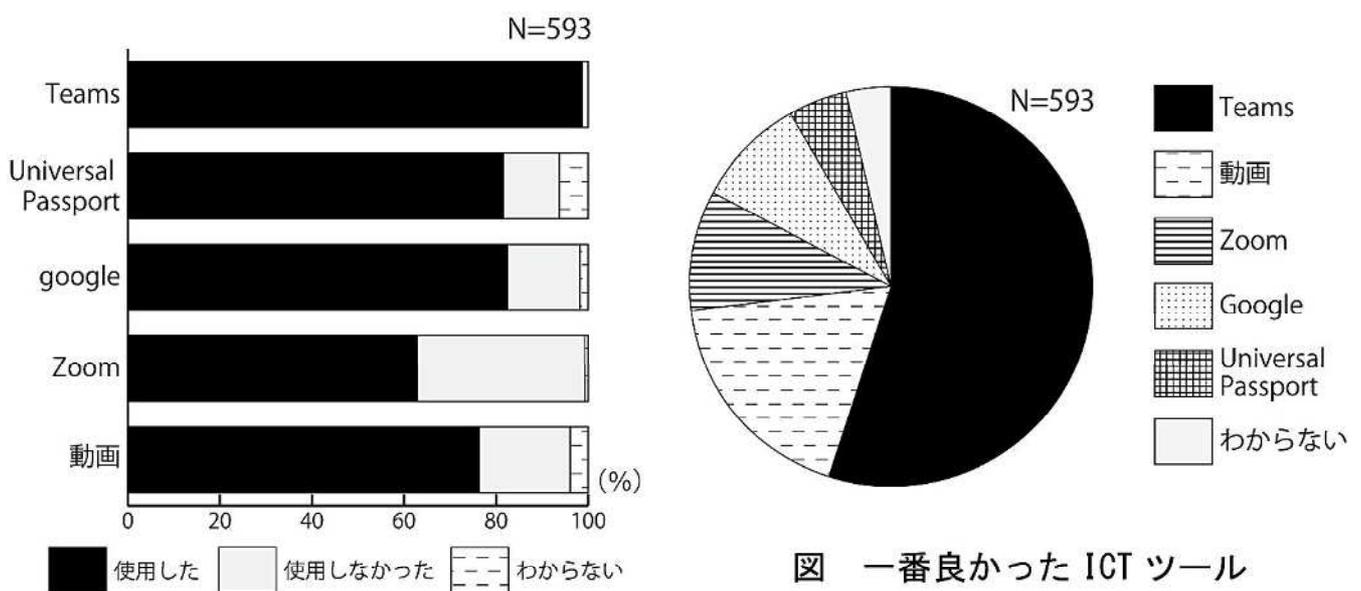


図 遠隔授業時に使用した ICT ツール

# 学生－遠隔授業の通信状況

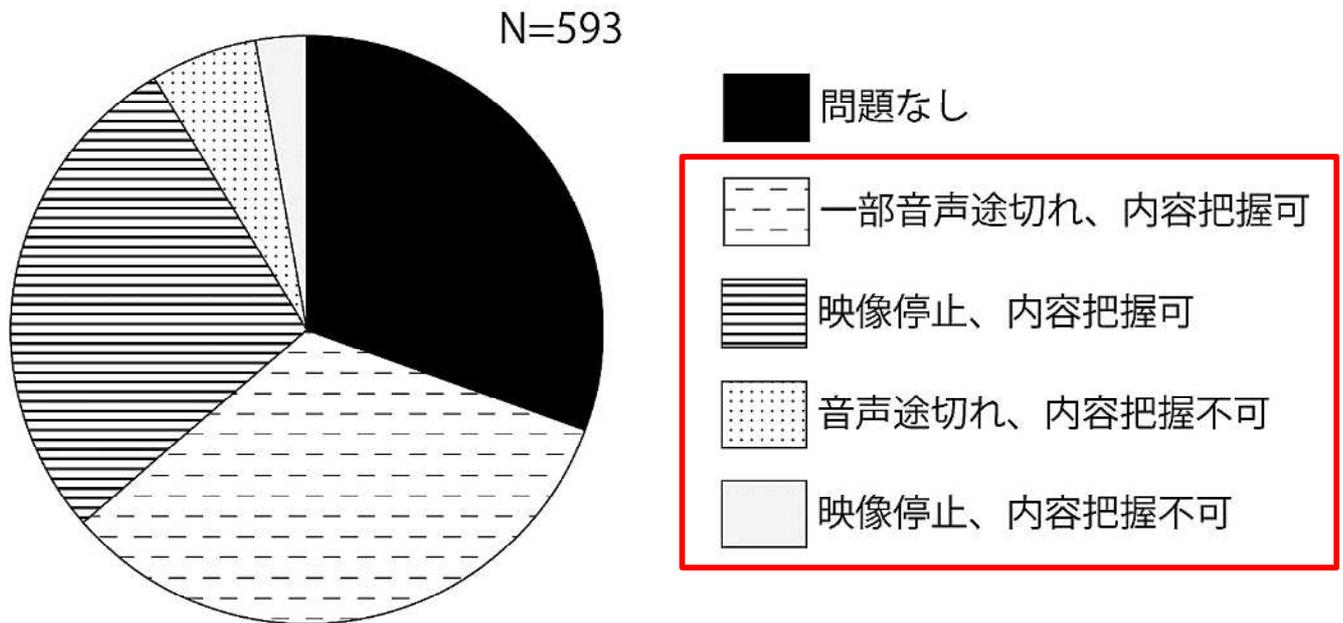


図 遠隔授業時の通信状況

# 学生－希望する授業形態

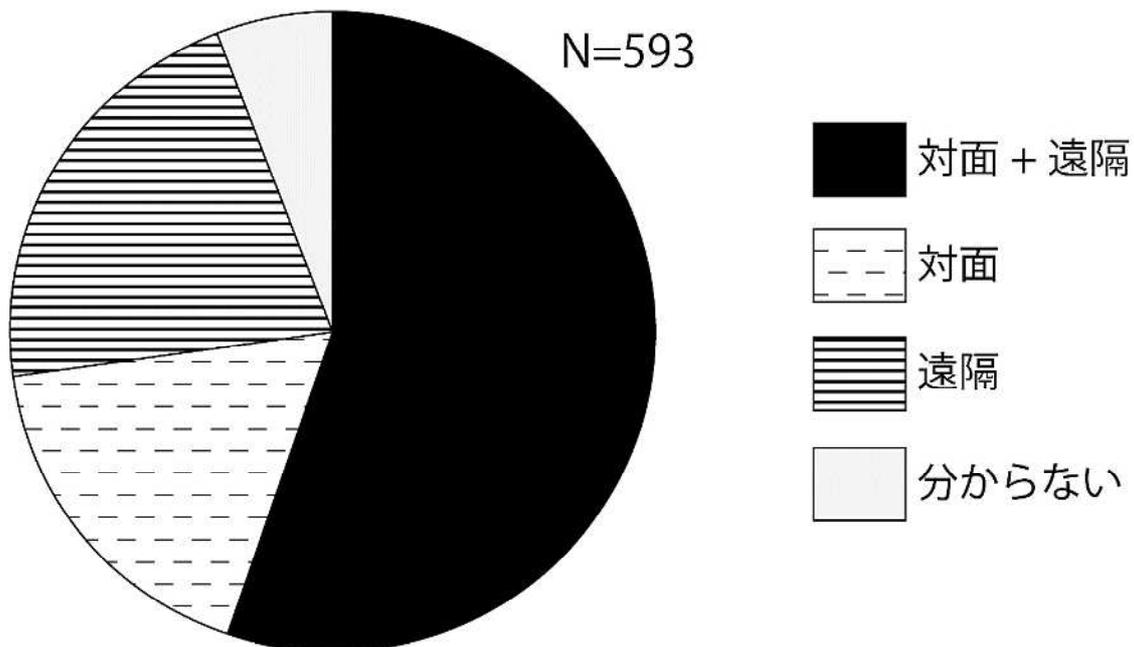


図 希望する今後の授業のあり方

## 学生一年次別のネットワーク環境と 使用通信機器

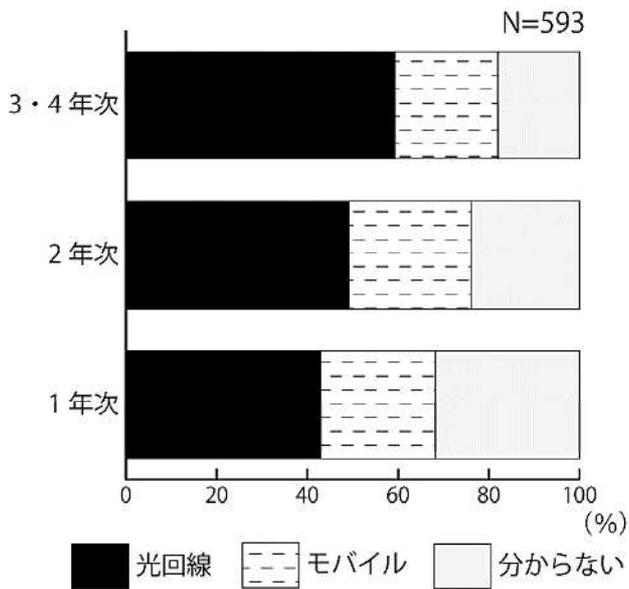


図 年次別の自宅のネットワーク環境

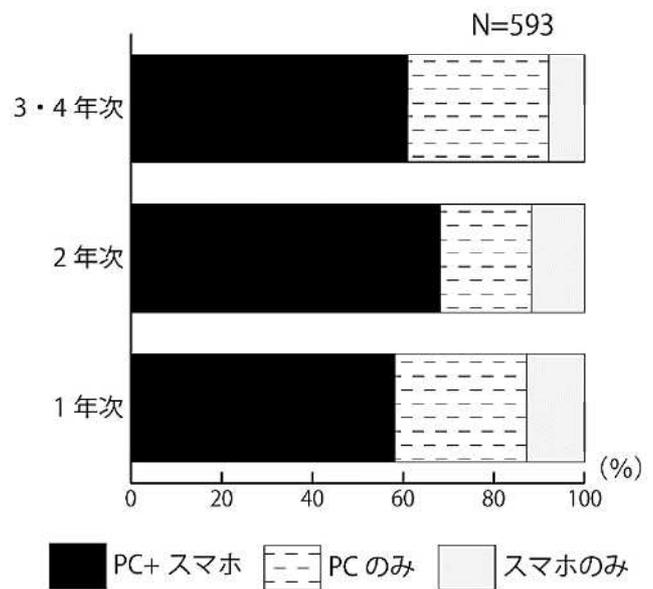


図 年次別の使用通信機器

## 学生一年次別の希望する授業形態

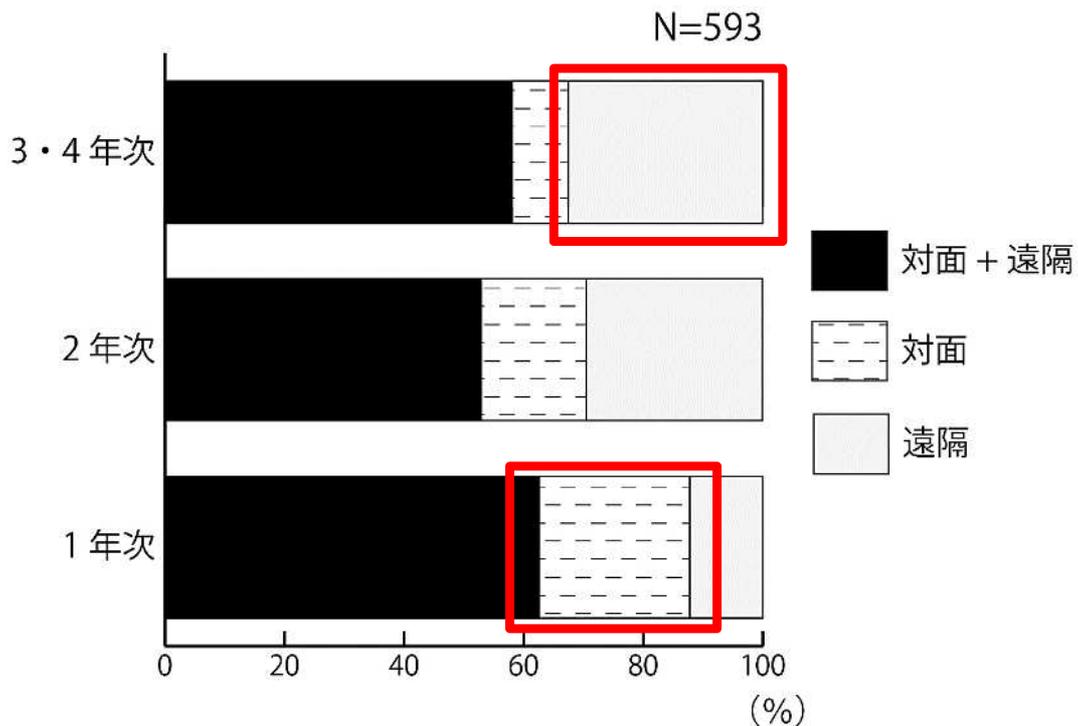


図 年次別の希望する今後の授業のあり方

## 「学生」対象の調査結果のまとめ

- ✓ 学生はネットワーク環境，通信量を意外に知らない  
→ 関心がない = 日常的？
- ✓ 「Microsoft Teams」，「Universal Passport」の浸透と一定の**評価**
- ✓ 通信状況の不具合
  - 約**6**割に不具合経験あり
  - 約**1**割に内容把握不可

「**動画の評価**」  
との関係性

## 「学生」対象の調査結果のまとめ

- ✓ 「希望する今後の授業のあり方」  
→ 多くは「**対面 + 遠隔**」を希望  
☞ 現実的，冷静？
- ✓ 年次別に異なる「希望する今後の授業のあり方」  
→ 1年次は「**対面**」を希望傾向  
→ 3・4年次は「**遠隔**」を希望傾向  
☞ なぜ？ 授業の**もうひとつの意味**？

令和2年5月20日

学生のみなさんへ

名桜大学FD委員会

令和2年度 遠隔授業の受講に関する実態調査について（通知）

名桜大学FD委員会では、令和2年5月7日（木）から開始された遠隔授業の受講に関して、受講実態を調査し改善につなげることを目的にアンケート調査を実施します。

つきましては、下記要領により実施しますので、ご協力の程、宜しくお願いいたします。なお、回答いただいた情報により個人を特定することはありません。よりよい授業のためにご協力をお願いいたします。

記

1 実施期間

令和2年5月20日（水）～5月25日（月）

2 実施方法

Web 入力で回答する。

以下リンクから回答をお願いいたします。

※回答には、s 学生番号@mail.meio-u.ac.jp でログインする必要があります。

<https://forms.gle/rX5iG4vVn97ytA6f9>



3 調査結果の公表

調査結果はWeb 公開します。閲覧方法については、調査後、掲示でお知らせします。

4 問い合わせ：教務部教務課（本部棟2階）

教 員 各 位

名桜大学 F D 委員会  
委員長 アリ ファヘルアリム F  
(公印省略)

令和 2 年度 遠隔授業実施・受講に関する実態調査の実施について (通知)

標記のことについて、ICT 等を活用した遠隔授業を改善するための基礎資料を得るために、全学生・全教員を対象とした Web 入力による「遠隔授業実施・受講に関する実態調査」を実施します。

つきましては、下記要領により実施していただきますようご協力をよろしくお願いいたします。

記

1 調査の目的

令和 2 年 4 月 30 日 (木) 付発出の「緊急事態宣言の延長に伴う本学の基本方針」において、授業は令和 2 年 5 月 7 日 (木) から開始することとし、5 月 7 日 (木) から 5 月 29 日 (金) までは、ICT 等を活用した遠隔授業のみとすることとなりました。

今回の調査は、当期間の遠隔授業の実態を把握するとともに、今後の授業のあり方及び ICT 等を活用した遠隔授業の可能性を探るための基礎資料を得ることを目的とします。

2 対象者

全教員及び全学生

3 実施期間 令和 2 年 5 月 20 日 (水) ~ 5 月 25 日 (月)

4 実施方法

【全教員】

専任教員専用リンク <https://forms.gle/28v8RGmqijKyL4yn9>

- (1) 調査については、当該教員が前学期担当するすべての科目とする。
- (2) Web 入力により、無記名で回答する。

非常勤講師専用リンク <https://forms.gle/NxRfy9L9gYNJYGW18>

- (1) 調査については、当該教員が前学期担当するすべての科目とする。
- (2) Web 入力により、無記名で回答する。

※アンケートの回答は Gmail にて Garoon メールアドレスおよびパスワードを入力してログインすることが必要です。その後、専用リンクより回答をしてください。

【 問い合わせ等 】

教務部教務課 担当：河原

TEL：0980-51-1055 内線：2216

令和2年5月20日

## 令和2年度 遠隔授業実施・受講に関する実態調査について

名桜大学では、令和2年5月7日から開始された遠隔授業において、全教員・学生を対象とした「遠隔授業実施・受講に関する実態調査」を下記のとおり実施しますのでお知らせします。

### 1 調査の目的

今回の調査は、令和2年5月7日（木）から開始された遠隔授業の実態を把握するとともに、今後の授業のあり方及びICT等を活用した遠隔授業の可能性を探るための基礎資料を得ることを目的とします。

### 2 対象者

全教員及び全学生

### 3 実施期間 令和2年5月20日（水）～5月25日（月）

### 4 実施方法

教員：学内者専用メールにて通知が届きますので、専用サイトより回答して下さい。

学生：学内者専用サイト（Universal Passport）掲示板にて通知が届きますので、専用サイトより回答してください。

※アンケートの回答はGmailにて学内専用メールアドレスおよびパスワードを入力してログインすることが必要です。その後、専用サイトより回答をしてください。

# 令和2年度遠隔授業受講に関する実態調査

名桜大学 FD 委員会



令和2年5月20日

学生のみなさんへ

名桜大学FD委員会

令和2年度 遠隔授業の受講に関する実態調査について（通知）

名桜大学FD委員会では、令和2年5月7日（木）から開始された遠隔授業の受講に関して、受講実態を調査し改善につなげることを目的にアンケート調査を実施します。

つきましては、下記要領により実施しますので、ご協力の程、宜しく願います。なお、回答いただいた情報により個人を特定することはありません。よりよい授業のためにご協力をお願いいたします。

記

1 実施期間

令和2年5月20日（水）～5月25日（月）

2 実施方法

Web 入力で回答する。

以下リンクから回答をお願いいたします。

※回答には、s 学生番号@mail.meio-u.ac.jp でログインする必要があります。

<https://forms.gle/rX5iG4vVn97ytA6f9>



3 調査結果の公表

調査結果はWeb 公開します。閲覧方法については、調査後、掲示でお知らせします。

4 問い合わせ：教務部教務課（本部棟2階）

# 遠隔授業の受講に関する実態調査

名桜大学FD委員会では、5月7日より開始された遠隔授業の受講に関して、受講実態を調査し改善につなげることを目的にアンケート調査を実施しています。所要時間は、「5分程度程度」です。回答期間は5月25日（月）までです。なお、回答いただいた情報により個人を特定することはありません。よりよい授業のためにご協力をお願いいたします。（名桜大学FD委員会）

**\*必須**

## 1. メールアドレス \*

\_\_\_\_\_

あなた自身についてお聞きします。

## 2. 問1 あなたの所属を教えてください。 \*

1つだけマークしてください。

- 国際学類
- スポーツ健康学科
- 看護学科
- その他（特別聴講生、科目履修生、交換留学生等）

## 3. 問2 あなたの学年を教えてください。 \*

1つだけマークしてください。

- 1年
- 2年
- 3年
- 4年
- その他: \_\_\_\_\_

**集計結果は  
pp. 10-11へ**

4. 問3 あなたは、現在沖縄県内にいますか？ \*

1つだけマークしてください。

- いる
- いない

} 回答者のほとんどは沖縄県にいる。

5. 問4 遠隔授業はどこで受講しましたか？最も多く受講した場所を一つ回答してください。 \*

1つだけマークしてください。

- 沖縄県内の自宅（実家）
- 沖縄県外の自宅（実家）
- 1人暮らしのアパート・下宿等
- 名桜大学内
- その他（無料Wifiスポット（ファミレスやカフェ、大型商業施設含む））
- その他: \_\_\_\_\_

} 集計結果は  
pp. 12-13へ

6. 問5 あなたが住んでいる家でのネットワーク環境を教えてください。 \*

1つだけマークしてください。

- 光回線
- モバイル wi-fi
- デザリング
- ケーブルTV
- ADSL
- わからない
- ネットワーク環境がない

} 集計結果は  
pp. 14-15へ

- 7。 問6 問5においてネットワーク環境があると答えた方に質問します。あなたが住んでいる家でのネットワーク環境の1か月あたりの通信量を教えてください。

1つだけマークしてください。

- 通信制限なし
- 2GB
- 2~5GB
- 5~10GB
- 10GB以上
- わからない

集計結果は  
pp. 16-17へ

- 8。 問7 あなたが住んでいる家にプリンターはありますか？ \*

1つだけマークしてください。

- ある
- ない

集計結果は  
pp. 18-19へ

- 9。 問8 あなたが使用している携帯のキャリアを教えてください。 \*

1つだけマークしてください。

- docomo
- au
- softbank
- MVMO (格安スマホ UQ, Rakuten Mobile等)
- もっていない

集計結果は  
pp. 20-21へ

10. 問9 あなたが使用している携帯の1か月あたりの通信量について教えてください。

1つだけマークしてください。

- 通信制限なし
- 2GB
- 2～5GB
- 5～10GB
- 10GB以上
- わからない

集計結果は  
pp. 22-23へ

遠隔授業の受講に関して教えてください

11. 問10 遠隔授業を受講する際に、通信機器としてパソコン（ノートパソコン・デスクトップパソコン）を使用しましたか？ \*

1つだけマークしてください。

- 使用した
- 使用していない

集計結果は  
pp. 24-25へ

12. 問11 遠隔授業を受講する際に、通信機器としてタブレット（iPadなど）を使用しましたか？ \*

1つだけマークしてください。

- 使用した
- 使用していない

集計結果は  
pp. 26-27へ

13. 問1 2 遠隔授業を受講する際に、通信機器としてスマートフォンを使用しましたか？ \*

1つだけマークしてください。

- 使用した  
 使用していない

} 集計結果は  
pp. 28-29へ

14. 問1 3 遠隔授業を受講した際にMicrosoft Teamsを使用しましたか？ \*

1つだけマークしてください。

- 使用した  
 使用していない  
 わからない

} 集計結果は  
pp. 30-31へ

15. 問1 4 遠隔授業を受講した際にUniversal Passportを使用しましたか？ \*

1つだけマークしてください。

- 使用した  
 使用していない  
 わからない

} 集計結果は  
pp. 32-33へ

16. 問1 5 遠隔授業を受講した際にGoogle for Education (Google classroom・Google meet等)を使用しましたか？ \*

1つだけマークしてください。

- 使用した  
 使用していない  
 わからない

} 集計結果は  
pp. 34-35へ

17. 問16 遠隔授業を受講した際にZoomを使用しましたか？ \*

1つだけマークしてください。

- 使用した
- 使用していない
- わからない

} 集計結果は  
pp. 36-37へ

18. 問17 遠隔授業を受講した際にストリーミング動画（YouTube等）を使用しましたか？ \*

1つだけマークしてください。

- 使用した
- 使用していない
- わからない

} 集計結果は  
pp. 38-39へ

19. 問18 遠隔授業を受講した際に以下の受講ツールから一番良かったと思うものはどれですか？

1つだけマークしてください。

- Microsoft Teams
- Universal Passport
- Google for Education (Google Classroom・Google Meet)
- Zoom
- ストリーミング (YouTube等)
- わからない
- その他: \_\_\_\_\_

} 集計結果は  
pp. 40-41へ

20. 問19 遠隔授業（主に通信機器を用いたオンライン授業）を受講した際に以下の通信状況の中で最も当てはまるものを教えてください。\*

1つだけマークしてください。

- 特に問題はない
- 一部音声途切れるが、話の内容は聞き取れる
- 一部映像がフリーズ（映像が動かなくなる）するが、受講には支障はない
- 音声がよく途切れ、講義の内容がよく聞き取れない
- 映像がよくフリーズ（映像が動かなくなる）し、講義の内容がよくわからない
- その他: \_\_\_\_\_

集計結果は  
pp. 42-43へ

21. 問20 遠隔授業を受講したときの【通信以外の問題点】を教えてください。  
（例）小さな画面であるため資料（パワポ等）が見えにくい。自宅で受講しているため、通信費用が普段よりかかる。「Teams, Google meet, Zoom等」の操作が不慣れである。。など。\*

\_\_\_\_\_

集計要約は pp. 44へ

今後の授業のあり方について聞かせてください。

22. 問21 あなたが希望する今後の授業のあり方について以下の選択肢から一番当てはまるものを教えてください。\*

1つだけマークしてください。

- 対面授業のみ
- 遠隔授業のみ
- 対面授業を主とし、遠隔授業も取り入れる
- わからない

集計結果は  
pp. 45-46へ

23。 問 2 2 遠隔授業について、大学への要望をお聞かせください。 \*

---

---

---

---

---

集計要約は p. 47へ

---

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。

Google フォーム

## 分析：学年と所属

変数	出現値	学年				合計
		1年	2年	3年	4年	
所属	国際学類	157	103	94	30	384
	スポーツ健康学	54	23	27	6	110
	看護学科	46	36	6	8	96
その他(特別聴講生、科目履修)		1	1	0	1	3
	合計	258	163	127	45	593

クロス表(全体に対する比率%)

変数	出現値	学年				合計
		1年	2年	3年	4年	
所属	国際学類	26.48	17.37	15.85	5.06	64.76
	スポーツ健康学	9.11	3.88	4.55	1.01	18.55
	看護学科	7.76	6.07	1.01	1.35	16.19
その他(特別聴講生、科目履修)		0.17	0.17	0.00	0.17	0.51
	合計	43.51	27.49	21.42	7.59	100

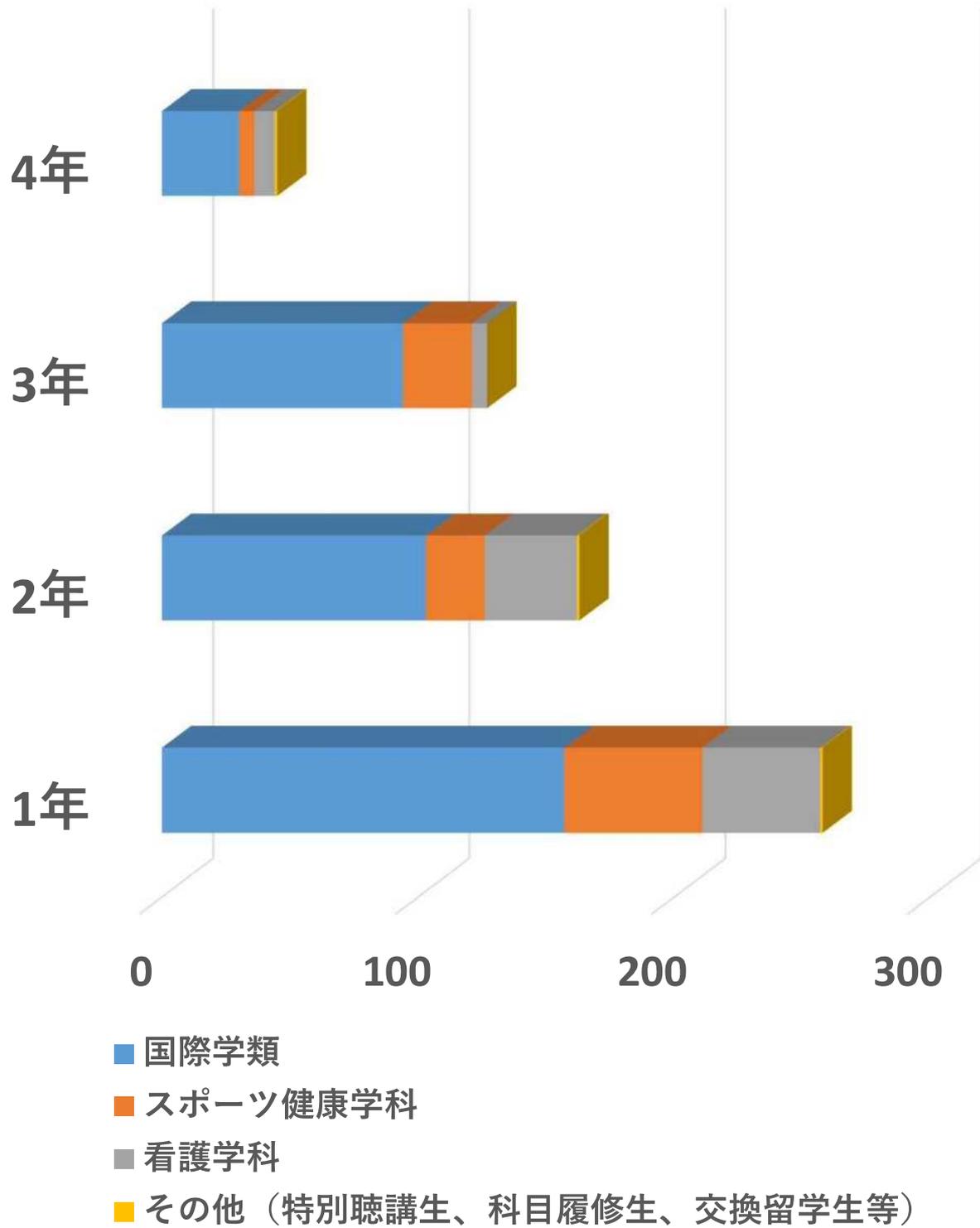
クロス表(行ごとの比率%)

変数	出現値	学年				合計
		1年	2年	3年	4年	
所属	国際学類	40.89	26.82	24.48	7.81	100
	スポーツ健康学	49.09	20.91	24.55	5.45	100
	看護学科	47.92	37.50	6.25	8.33	100
その他(特別聴講生、科目履修)		33.33	33.33	0.00	33.33	100
	合計	43.51	27.49	21.42	7.59	100

クロス表(列ごとの比率%)

変数	出現値	学年				合計
		1年	2年	3年	4年	
所属	国際学類	60.85	63.19	74.02	66.67	64.76
	スポーツ健康学	20.93	14.11	21.26	13.33	18.55
	看護学科	17.83	22.09	4.72	17.78	16.19
その他(特別聴講生、科目履修)		0.39	0.61	0.00	2.22	0.51
	合計	100	100	100	100	100

## 学年と所属



## 分析：遠隔授業受講場所

変数	問4 遠隔授業はどこで受講しましたか？最も多く受講した場所を一つ回答してください。									
	出現値	沖縄県内の自宅(実家)	1人暮らしのアパート・下宿等	名桜大学内	沖縄県外の自宅(実家)	留学生センター	マレーシアの自宅(実家)	その他(無料Wifiスポット(ファミレスやカフェ、大型商業施設含む))	名桜大学寮	合計
学年	1年	68	180	6	2	1	0	1	0	258
	2年	42	112	5	3	0	0	0	1	163
	3年	38	81	3	4	0	1	0	0	127
	4年	17	25	0	3	0	0	0	0	45
合計		165	398	14	12	1	1	1	1	593

### 考察

- ・ほとんどの学生は、学内入構禁止期間中、沖縄県内（実家）または、1人暮らしのアパート・下宿等で受講していることが分かった。
- ・1年次においては、回答者（258名中）の26％は県内の実家、70％は1人暮らしのアパート・下宿等であった。
- ・2年次においては、回答者（163名中）の26％は県内の実家、69％は1人暮らしのアパート・下宿等であった。
- ・3年次においては、回答者（127名中）の30％は県内の実家、64％は1人暮らしのアパート・下宿等であった。
- ・4年次においては、回答者（45名中）の38％は県内の実家、56％は1人暮らしのアパート・下宿等であった。

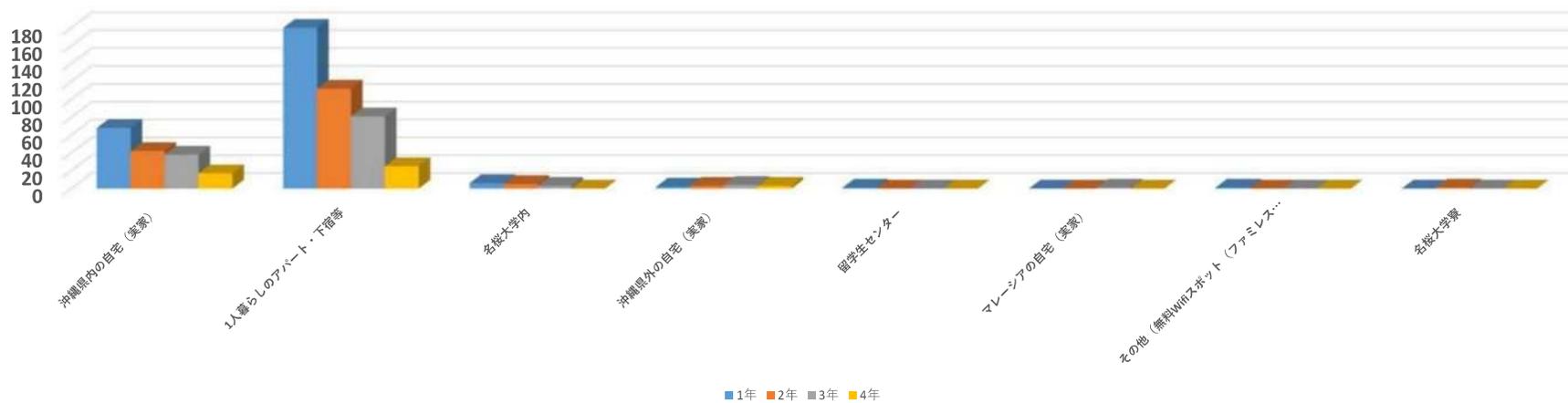
変数	問4 遠隔授業はどこで受講しましたか？最も多く受講した場所を一つ回答してください。									
	出現値	沖縄県内の自宅(実家)	1人暮らしのアパート・下宿等	名桜大学内	沖縄県外の自宅(実家)	留学生センター	マレーシアの自宅(実家)	その他(無料Wifiスポット(ファミレスやカフェ、大型商業施設含む))	名桜大学寮	合計
所属	国際学類	108	250	12	11	1	1	0	1	384
	スポーツ健康学科	17	91	1	1	0	0	0	0	110
	看護学科	38	56	1	0	0	0	1	0	96
	<small>※(特別聴講生、科目履修生、交換留学)</small>	2	1	0	0	0	0	0	0	3
合計		165	398	14	12	1	1	1	1	593

### 考察

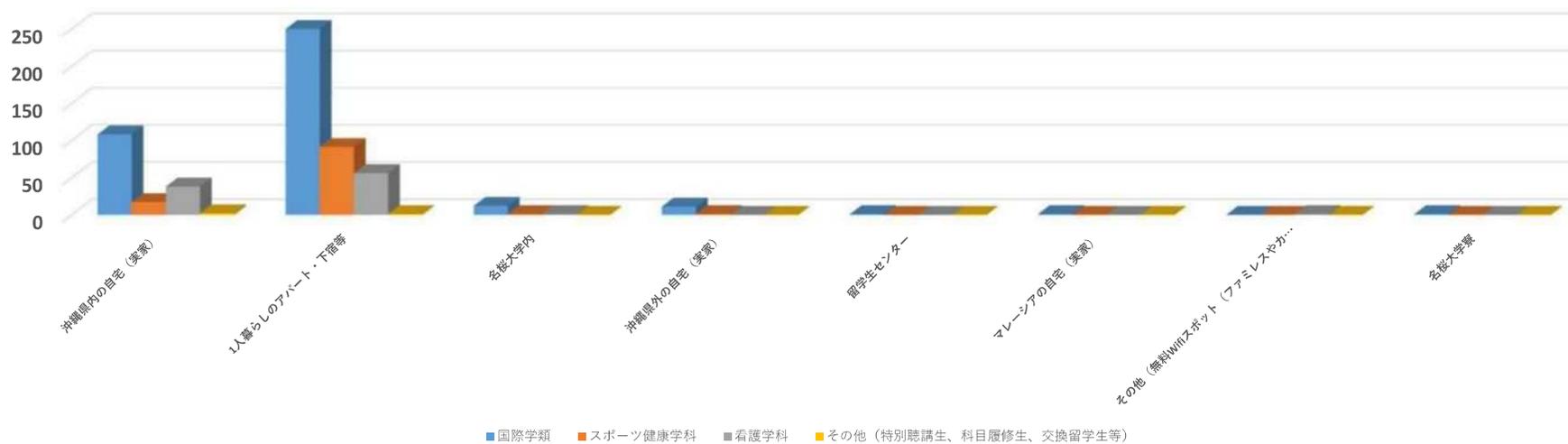
- ・回答者の内訳として国際学群は384名、スポ健は110名、看護は96名、その他は3名であった。
- ・国際学類においては、回答者（384名）の28％は県内の実家、65％は1人暮らしのアパート・下宿等であった。
- ・名桜大学内で遠隔授業を受講した回答者（全体で14名中）の86％は、国際学類の学生であった。
- ・沖縄県外の実家で遠隔授業を受講した回答者（全体で12名中）の92％は、国際学類の学生であった。
- ・スポ健においては、回答者（110名）の15％は県内の実家、83％は1人暮らしのアパート・下宿等であった。
- ・看護においては、回答者（96名）の40％は県内の実家、58％は1人暮らしのアパート・下宿等であった。

### 分析：遠隔授業受講場所

#### 遠隔授業受講場所（視点：学年）



#### 遠隔授業受講場所（視点：所属）



## ネット環境

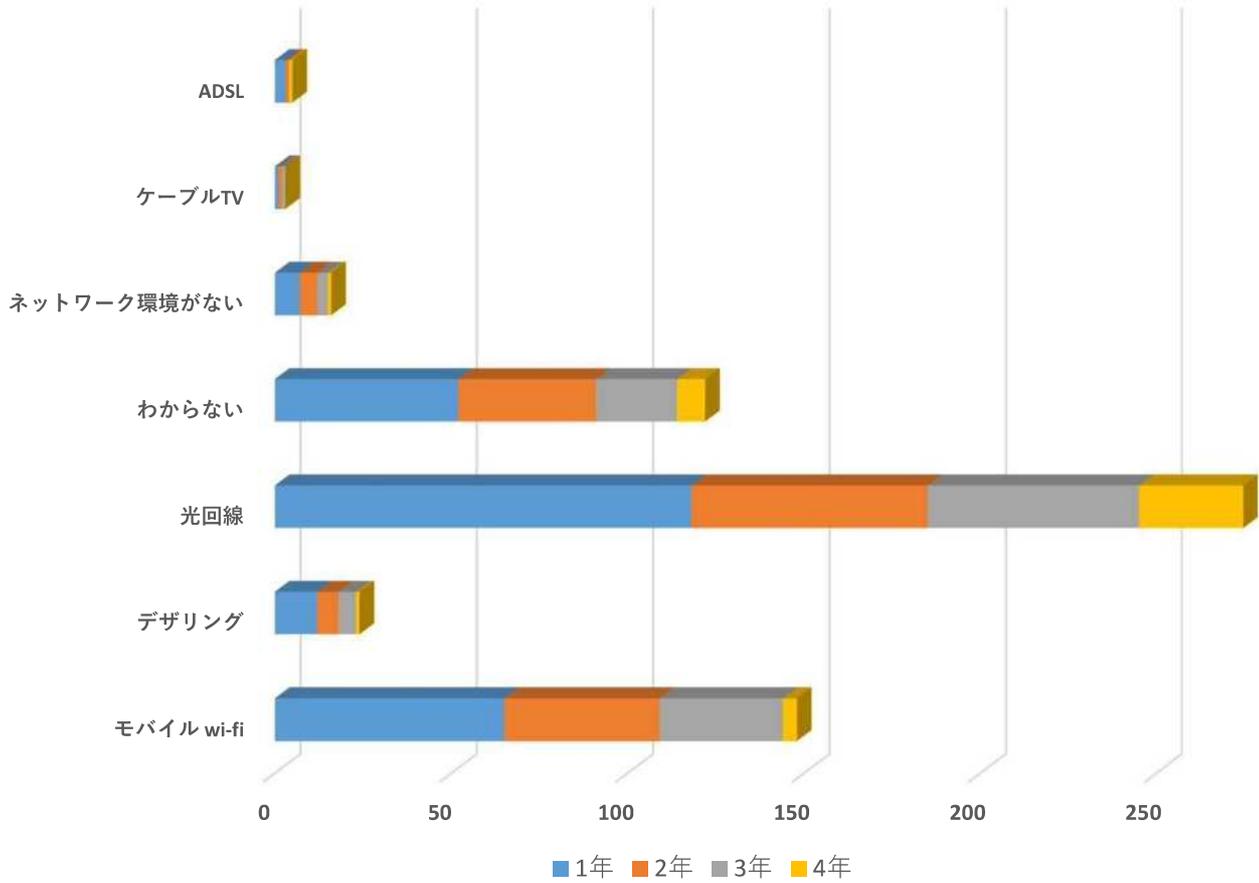
変数	出現値	問5 あなたが住んでいる家でのネットワーク環境を教えてください。							合計
		モバイル wi-fi	デザリング	光回線	わからない	ネットワーク環境がない	ケーブルTV	ADSL	
学年	1年	65	12	118	52	7	1	3	258
	2年	44	6	67	39	5	1	1	163
	3年	35	5	60	23	3	1	0	127
	4年	4	1	30	8	1	0	1	45
	合計	148	24	275	122	16	3	5	593

- ・1年次においては、回答者（258名中）の97%は住んでいる家にネットワーク環境があることが分かった。また、回答者全体の46%は光回線と回答している。しかしながら、インターネットの速度等に影響を及ぼす学生は、34%いた。（わからないを除く。）加えて、ネットワーク環境が分からないと回答した学生は、20%である。
- ・2年次においては、回答者（163名中）の97%は住んでいる家にネットワーク環境があることが分かった。また、回答者全体の41%は光回線と回答している。しかしながら、インターネットの速度等に影響を及ぼす学生は、32%いた。（わからないを除く。）加えて、ネットワーク環境が分からないと回答した学生は、24%である。
- ・3年次においては、回答者（127名中）の98%は住んでいる家にネットワーク環境があることが分かった。また、回答者全体の47%は光回線と回答している。しかしながら、インターネットの速度等に影響を及ぼす学生は、32%いた。（わからないを除く。）加えて、ネットワーク環境が分からないと回答した学生は、18%である。
- ・4年次においては、回答者（45名中）の80%は住んでいる家にネットワーク環境があることが分かった。また、回答者全体の67%は光回線と回答している。しかしながら、インターネットの速度等に影響を及ぼす学生は、13%いた。（わからないを除く。）加えて、ネットワーク環境が分からないと回答した学生は、18%である。

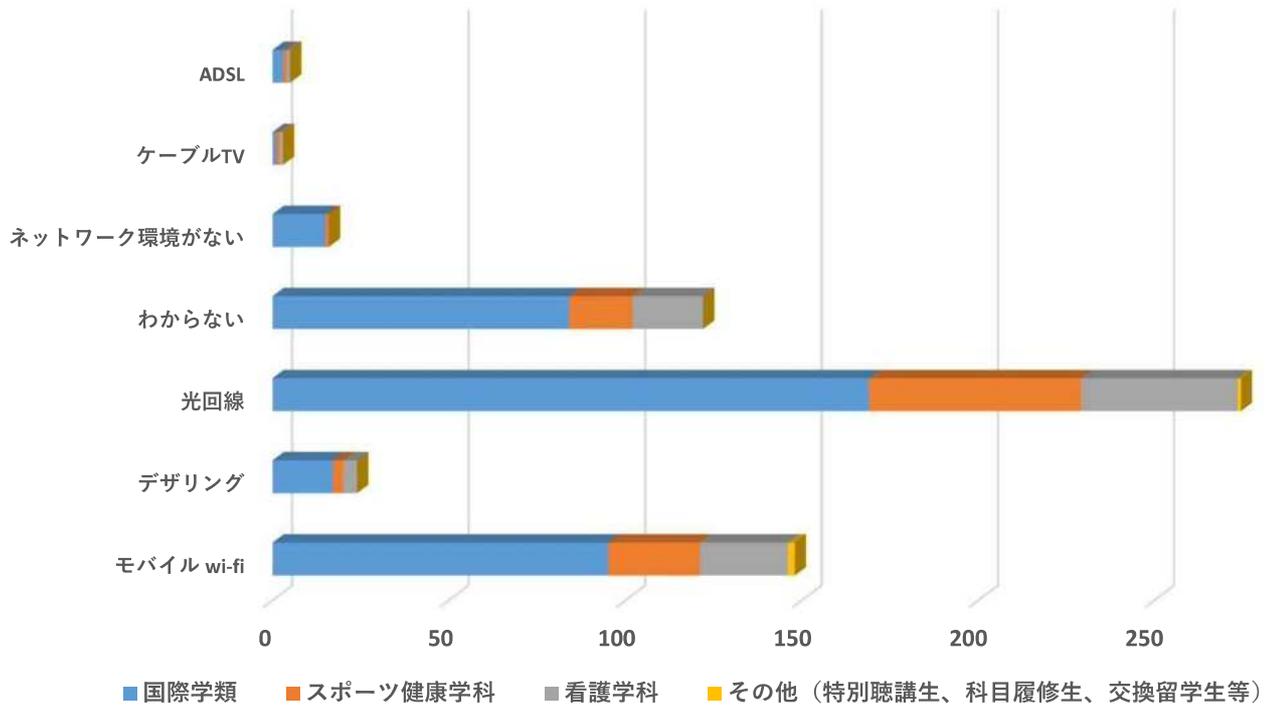
変数	出現値	問5 あなたが住んでいる家でのネットワーク環境を教えてください。							合計
		モバイル wi-fi	デザリング	光回線	わからない	ネットワーク環境がない	ケーブルTV	ADSL	
所属	国際学類	95	17	169	84	15	1	3	384
	スポーツ健康学	26	3	60	18	1	1	1	110
	看護学科	25	4	45	20	0	1	1	96
	特別聴講生、科目履修	2	0	1	0	0	0	0	3
	合計	148	24	275	122	16	3	5	593

- ・国際学類においては、回答者（384名中）の96%は住んでいる家にネットワーク環境があることが分かった。また、回答者全体の44%は光回線と回答している。しかしながら、インターネットの速度等に影響を及ぼす学生は、30%いた。（わからないを除く。）加えて、ネットワーク環境が分からないと回答した学生は、22%である。
- ・スポ健においては、回答者（110名中）の99%は住んでいる家にネットワーク環境があることが分かった。また、回答者全体の55%は光回線と回答している。しかしながら、インターネットの速度等に影響を及ぼす学生は、28%いた。（わからないを除く。）加えて、ネットワーク環境が分からないと回答した学生は、16%である。
- ・看護学科においては、回答者（96名中）の100%は住んでいる家にネットワーク環境があることが分かった。また、回答者全体の47%は光回線と回答している。しかしながら、インターネットの速度等に影響を及ぼす学生は、32%いた。（わからないを除く。）加えて、ネットワーク環境が分からないと回答した学生は、21%である。

### ネット環境（視点：学年）



### ネット環境（視点：所属）



## ネット通信量

変数	問6 問5においてネットワーク環境があると答えた方に質問します。あなたが住んでいる家でのネットワーク環境の1か月あたりの通信量を教えてください。							合計
	出現値	通信制限なし	10GB以上	わからない	5～10GB	2～5GB	2GB	
学年	1年	101	21	109	7	6	2	246
	2年	63	16	65	5	6	2	157
	3年	48	15	47	6	5	1	122
	4年	26	3	13	2	1	0	45
合計	238	55	234	20	18	5	570	

・1年次においては、回答者（246名中）の41％は通信制限なしであった。一方で15％は通信制限があると回答した。また、わからないと回答した学生は、44％であった。

・2年次においては、回答者（157名中）の40％は通信制限なしであった。一方で18％は通信制限があると回答した。また、わからないと回答した学生は、42％であった。

・3年次においては、回答者（122名中）の39％は通信制限なしであった。一方で22％は通信制限があると回答した。また、わからないと回答した学生は、39％であった。

・4年次においては、回答者（45名中）の58％は通信制限なしであった。一方で13％は通信制限があると回答した。また、わからないと回答した学生は、29％であった。

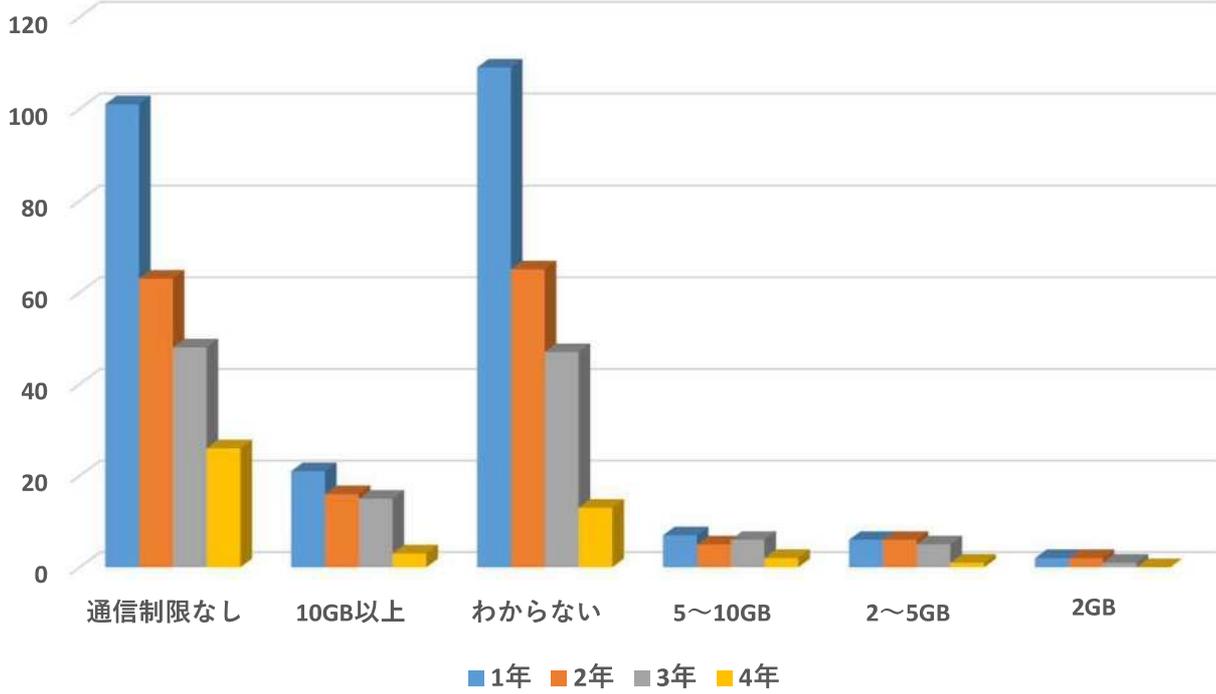
変数	問6 問5においてネットワーク環境があると答えた方に質問します。あなたが住んでいる家でのネットワーク環境の1か月あたりの通信量を教えてください。							合計
	出現値	通信制限なし	10GB以上	わからない	5～10GB	2～5GB	2GB	
所属	国際学類	139	38	159	11	14	4	365
	スポーツ健康学	62	10	28	4	3	0	107
	看護学科	35	6	47	5	1	1	95
	その他（特別聴講生、科目履修生、3	2	1	0	0	0	0	3
合計	238	55	234	20	18	5	570	

・国際学類においては、回答者（365名中）の38％は通信制限なしであった。一方で18％は通信制限があると回答した。また、わからないと回答した学生は、44％であった。

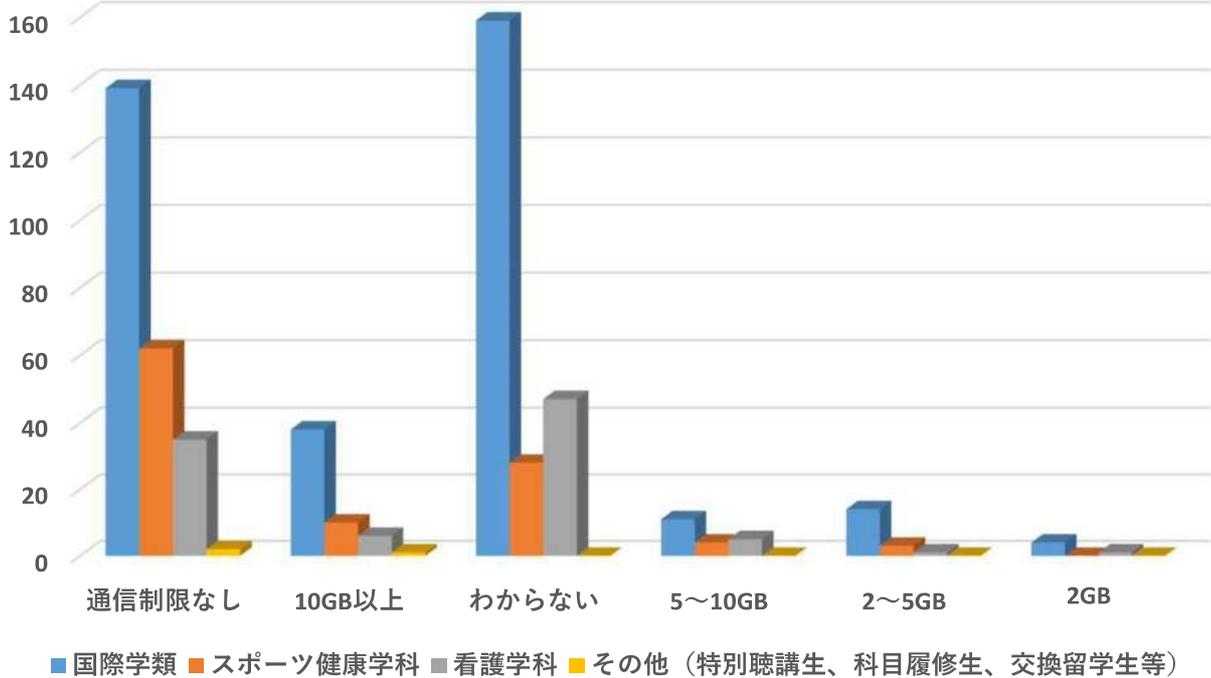
・スポ健においては、回答者（107名中）の58％は通信制限なしであった。一方で16％は通信制限があると回答した。また、わからないと回答した学生は、26％であった。

・看護においては、回答者（95名中）の37％は通信制限なしであった。一方で14％は通信制限があると回答した。また、わからないと回答した学生は、49％であった。

ネット通信量（視点：学年）



ネット通信量（視点：所属）



## プリンター

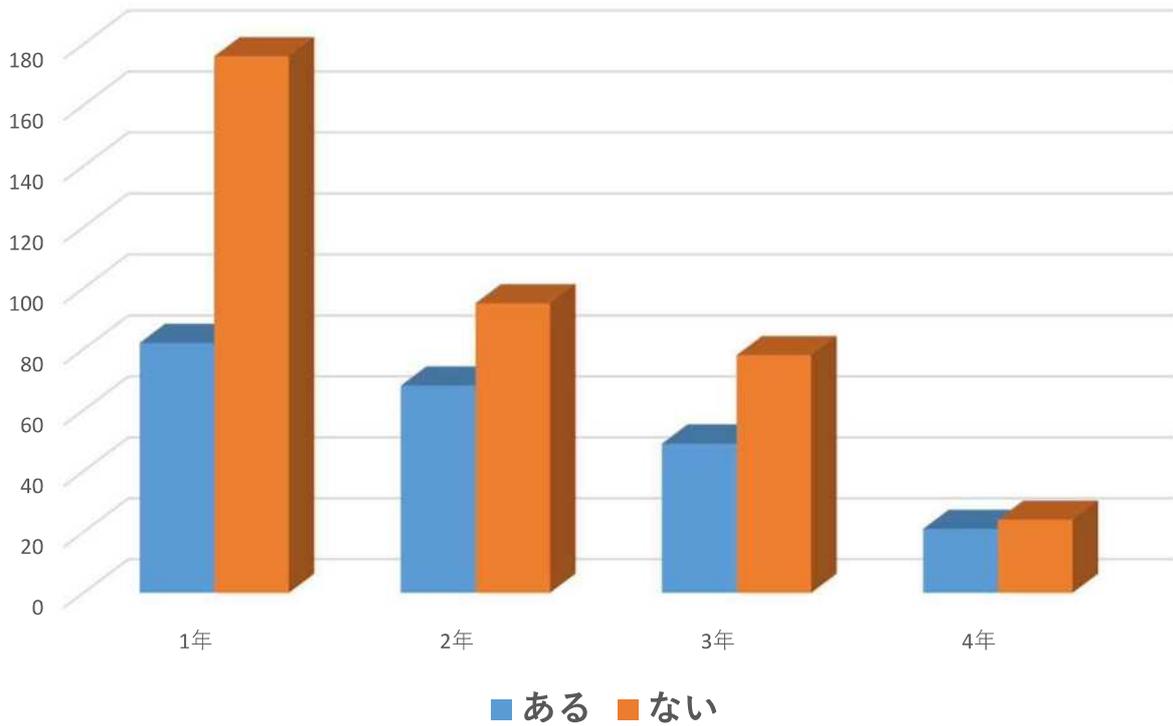
変数	出現値	問7 あなたが住んでいる家にプリンターはありますか？		
		ある	ない	合計
学年	1年	82	176	258
	2年	68	95	163
	3年	49	78	127
	4年	21	24	45
	合計	220	373	593

- 全体の回答者(593名中)の37%はプリンターを有していることが分かる。  
一方で、63%は、プリンターを有していない。
- 1年次の回答者(258名中)の32%はプリンターを有していることが分かる。  
一方で、68%は、プリンターを有していない。
- 2年次の回答者(163名中)の42%はプリンターを有していることが分かる。  
一方で、58%はプリンターを有していない。
- 3年次の回答者(127名中)の39%はプリンターを有していることが分かる。  
一方で、61%はプリンターを有していない。
- 4年次の回答者(45名中)の47%はプリンターを有していることが分かる。  
一方で53%はプリンターを有していない。

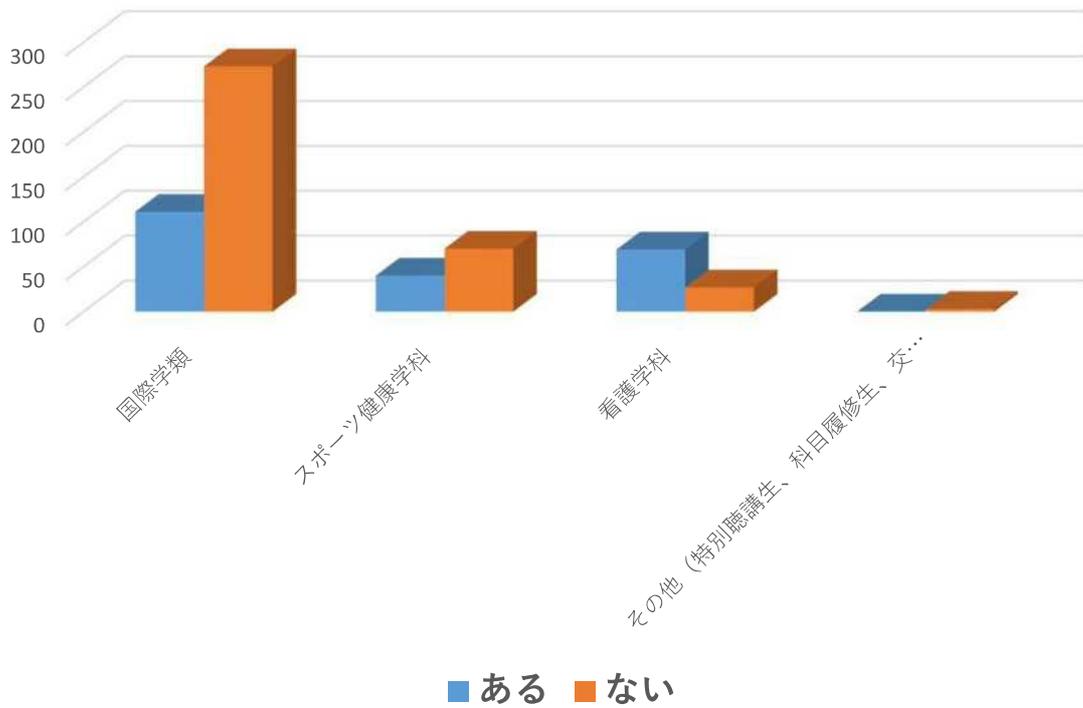
変数	出現値	問7 あなたが住んでいる家にプリンターはありますか？		
		ある	ない	合計
所属	国際学類	111	273	384
	スポーツ健康学系	40	70	110
	看護学科	69	27	96
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換)	0	3	3
	合計	220	373	593

- 国際学類の回答者(384名中)の29%はプリンターを有していることが分かる。  
一方で、71%は、プリンターを有していない。
- スポ健の回答者(110名中)の36%はプリンターを有していることが分かる。  
一方で、64%は、プリンターを有していない。
- 看護の回答者(96名中)の72%はプリンターを有していることが分かる。  
一方で、28%はプリンターを有していない。

プリンター（視点：学年）



プリンター（視点：所属）



## 携帯キャリア

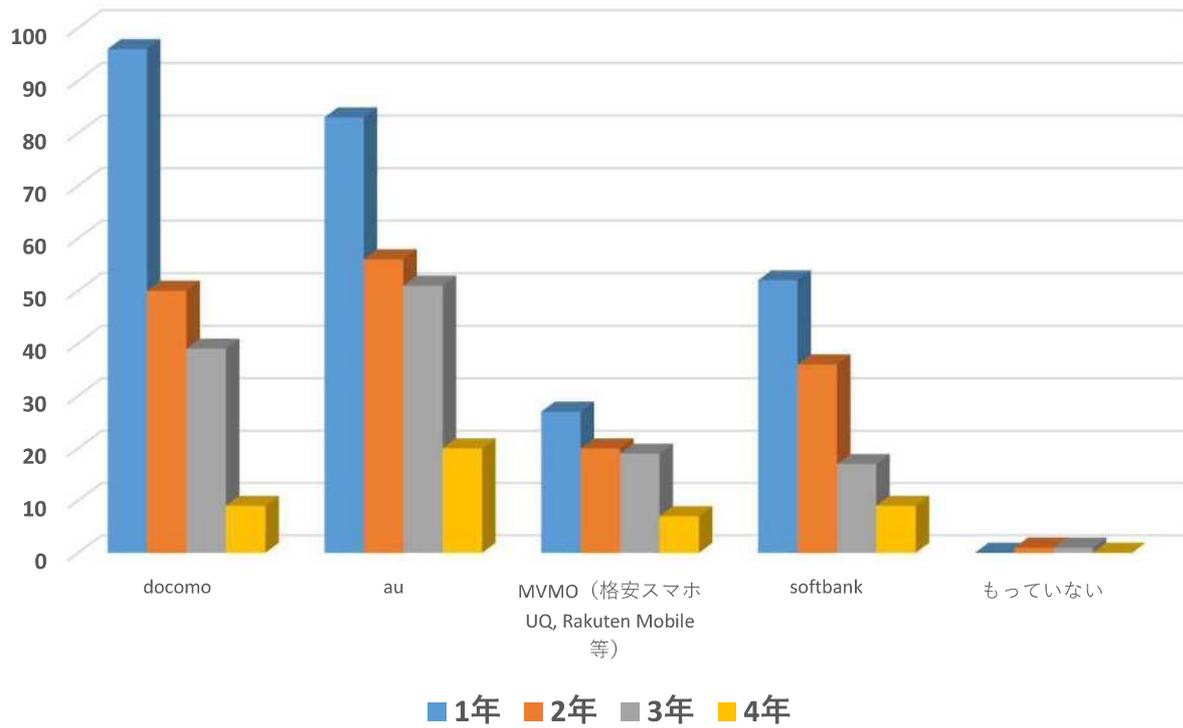
変数	問8 あなたが使用している携帯のキャリアを教えてください。						合計
	出現値	docomo	au	マホ UQ, Ral	softbank	もっていない	
学年	1年	96	83	27	52	0	258
	2年	50	56	20	36	1	163
	3年	39	51	19	17	1	127
	4年	9	20	7	9	0	45
	合計	194	210	73	114	2	593

- ・全体の回答者（593名中）の87%は大手キャリアと契約していることが分かった。MVMO契約者は、12%であった。
- ・1年次の回答者（258名中）の90%は大手キャリアと契約していることが分かった。MVMO契約者は、10%であった。
- ・2年次の回答者（163名中）の87%は大手キャリアと契約していることが分かった。MVMO契約者は、13%であった。
- ・3年次の回答者（127名中）の84%は大手キャリアと契約していることが分かった。MVMO契約者は、16%であった。
- ・4年次の回答者（45名中）の84%は大手キャリアと契約していることが分かった。MVMO契約者は、16%であった。

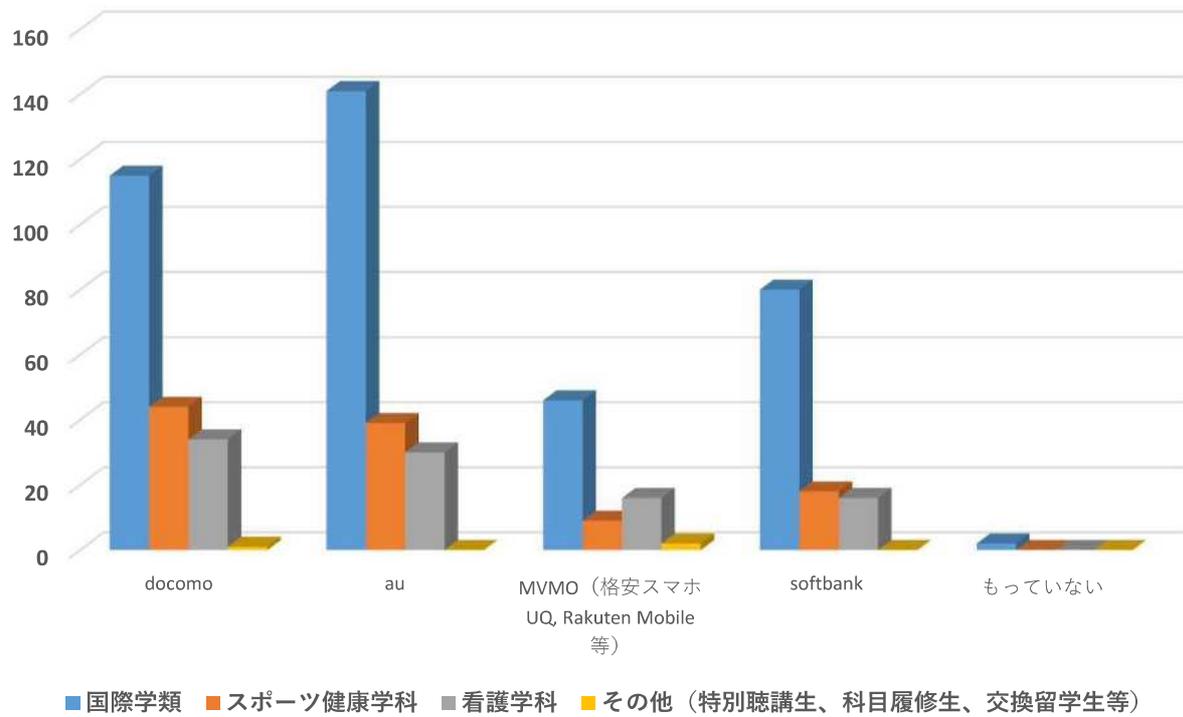
変数	問8 あなたが使用している携帯のキャリアを教えてください。						合計
	出現値	docomo	au	マホ UQ, Ral	softbank	もっていない	
所属	国際学類	115	141	46	80	2	384
	スポーツ健康学	44	39	9	18	0	110
	看護学科	34	30	16	16	0	96
その他(特別聴講生、科目履修)		1	0	2	0	0	3
	合計	194	210	73	114	2	593

- ・国際学類の回答者（384名中）の88%は大手キャリアと契約していることが分かった。MVMO契約者は、12%であった。
- ・スポ健の回答者（110名中）の92%は大手キャリアと契約していることが分かった。MVMO契約者は、8%であった。
- ・看護の回答者（96名中）の83%は大手キャリアと契約していることが分かった。MVMO契約者は、17%であった。

携帯キャリア（視点：学年）



携帯キャリア（視点：所属）



## 携帯通信量

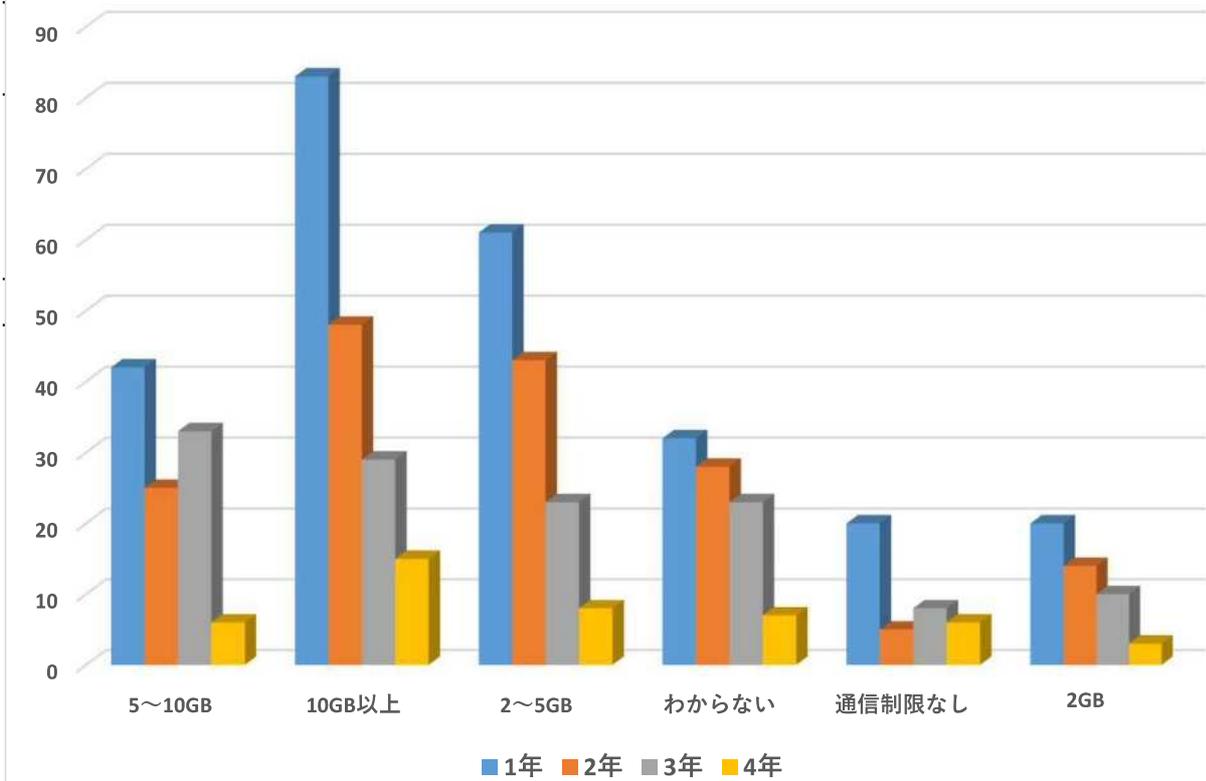
変数	問9 あなたが使用している携帯の1か月あたりの通信量について教えてください。							
	出現値	5～10GB	10GB以上	2～5GB	わからない	通信制限なし	2GB	合計
学年	1年	42	83	61	32	20	20	258
	2年	25	48	43	28	5	14	163
	3年	33	29	23	23	8	10	126
	4年	6	15	8	7	6	3	45
合計		106	175	135	90	39	47	592

- ・全体の回答者(592名中)の7%は携帯電話の通信量において通信制限がないと回答した。78%は通信制限があると回答した(わからないと回答した学生は除く)。また、わからないと回答した学生は、15%であった。
- ・1年次の回答者(258名中)の7%は携帯電話の通信量において通信制限がないと回答した。80%は通信制限があると回答した(わからないと回答した学生は除く)。また、わからないと回答した学生は、12%であった。
- ・2年次の回答者(163名中)の3%は携帯電話の通信量において通信制限がないと回答した。80%は通信制限があると回答した(わからないと回答した学生は除く)。また、わからないと回答した学生は、17%であった。
- ・3年次の回答者(126名中)の6%は携帯電話の通信量において通信制限がないと回答した。75%は通信制限があると回答した(わからないと回答した学生は除く)。また、わからないと回答した学生は、18%であった。
- ・4年次の回答者(45名中)の13%は携帯電話の通信量において通信制限がないと回答した。71%は通信制限があると回答した(わからないと回答した学生は除く)。また、わからないと回答した学生は、16%であった。

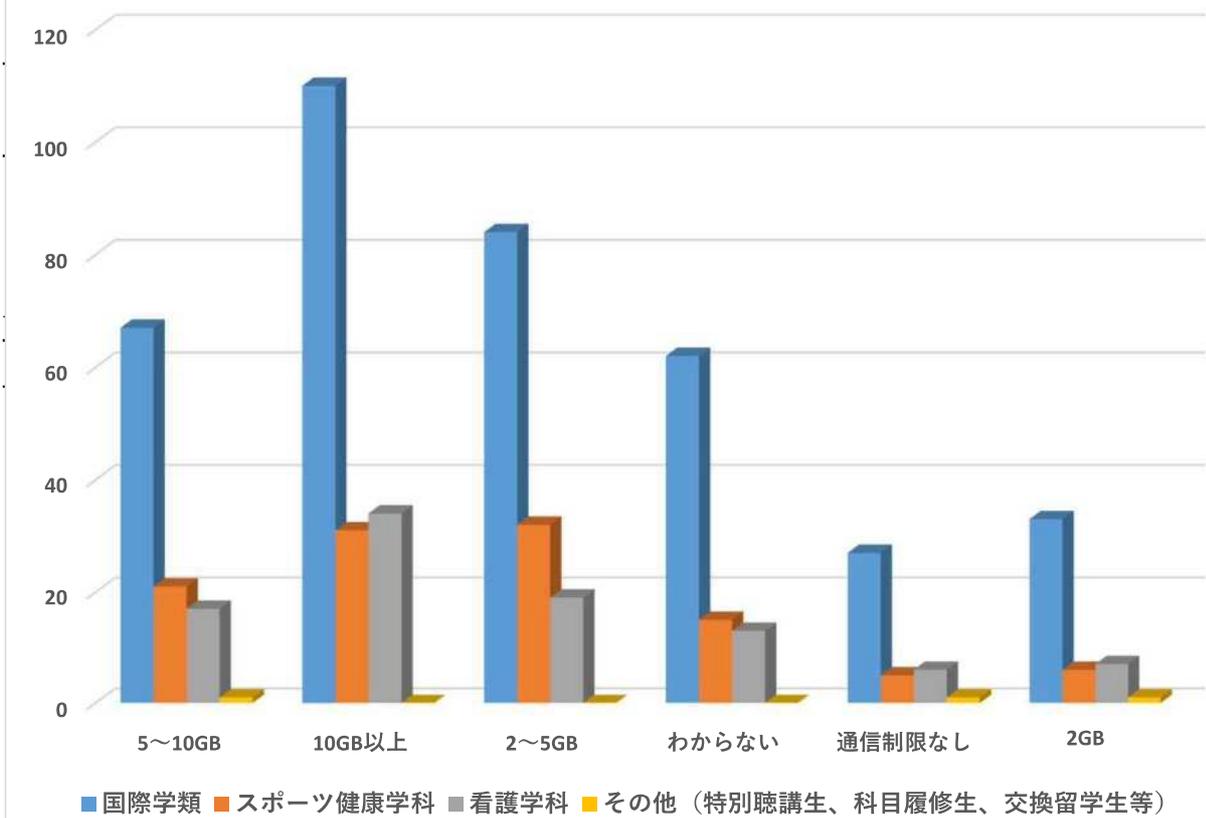
変数	問9 あなたが使用している携帯の1か月あたりの通信量について教えてください。							
	出現値	5～10GB	10GB以上	2～5GB	わからない	通信制限なし	2GB	合計
所属	国際学類	67	110	84	62	27	33	383
	スポーツ健康学	21	31	32	15	5	6	110
	看護学科	17	34	19	13	6	7	96
その他(特別聴講生、科目履修生)		1	0	0	0	1	1	3
合計		106	175	135	90	39	47	592

- ・国際学類の回答者(383名中)の7%は携帯電話の通信量において通信制限がないと回答した。77%は通信制限があると回答した(わからないと回答した学生は除く)。また、わからないと回答した学生は、16%であった。
- ・スポーツ健康学の回答者(110名中)の5%は携帯電話の通信量において通信制限がないと回答した。82%は通信制限があると回答した(わからないと回答した学生は除く)。また、わからないと回答した学生は、14%であった。
- ・看護の回答者(96名中)の6%は携帯電話の通信量において通信制限がないと回答した。80%は通信制限があると回答した(わからないと回答した学生は除く)。また、わからないと回答した学生は、14%であった。

携帯通信量（視点：学年）



携帯通信量（視点：所属）



## 遠隔授業PC使用

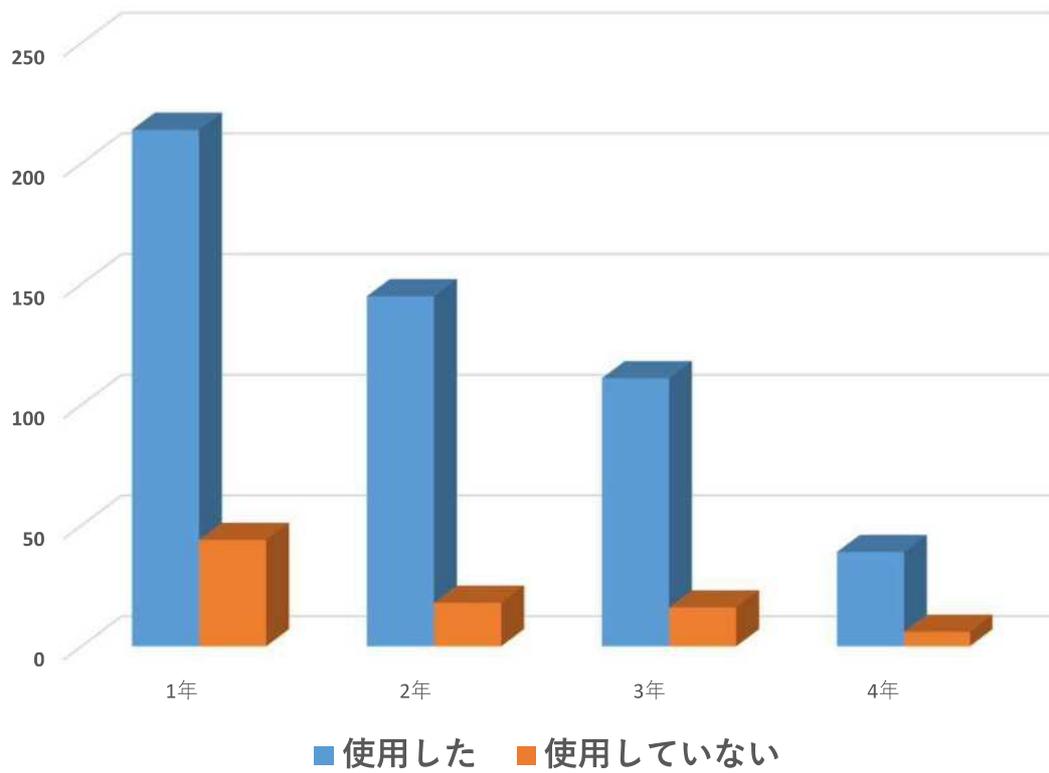
変数	問10 遠隔授業を受講する際に、通信機器としてパソコン(ノートパソコン・デスクトップパソコン)を使用しましたか？			
	出現値	使用した	使用していない	合計
学年	1年	214	44	258
	2年	145	18	163
	3年	111	16	127
	4年	39	6	45
	合計	509	84	593

- ・全体の回答者（593名中）86％はPCを使用したと回答した。14％はPCを使用していないと回答した。
- ・1年次の回答者（258名中）83％はPCを使用したと回答した。17％はPCを使用していないと回答した。
- ・2年次の回答者（163名中）89％はPCを使用したと回答した。11％はPCを使用していないと回答した。
- ・3年次の回答者（127名中）87％はPCを使用したと回答した。13％はPCを使用していないと回答した。
- ・4年次の回答者（45名中）87％はPCを使用したと回答した。13％はPCを使用していないと回答した。

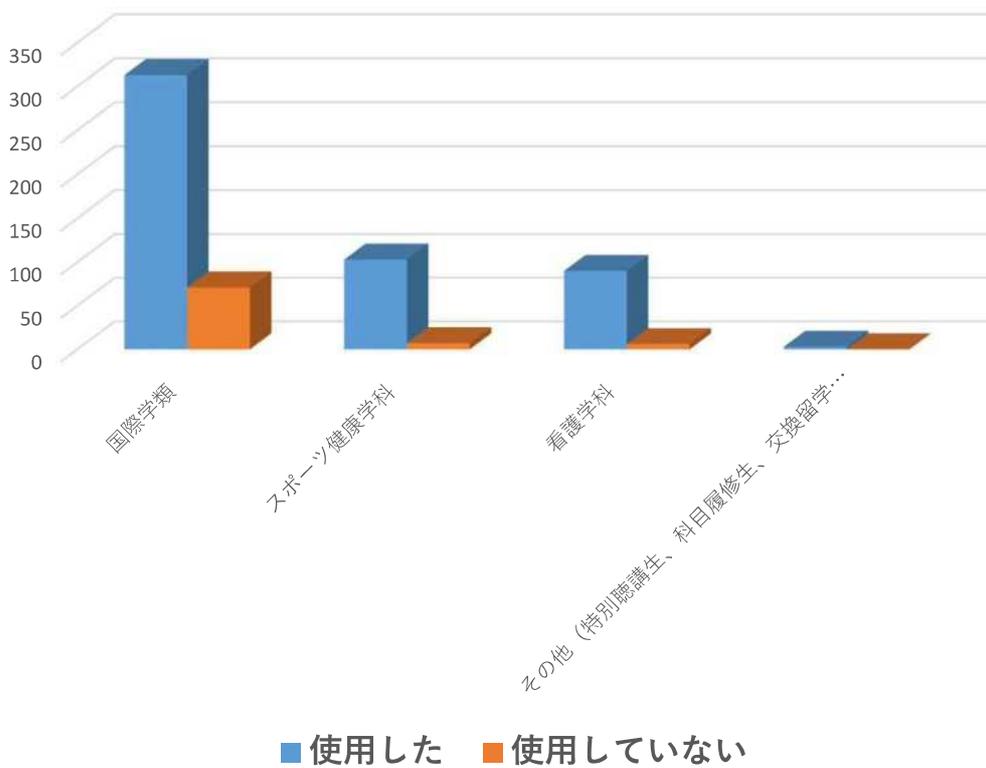
変数	問10 遠隔授業を受講する際に、通信機器としてパソコン(ノートパソコン・デスクトップパソコン)を使用しましたか？			
	出現値	使用した	使用していない	合計
所属	国際学類	313	71	384
	スポーツ健康学	103	7	110
	看護学科	90	6	96
その他(特別聴講生、科目履修)		3	0	3
	合計	509	84	593

- ・国際学類の回答者（384名中）82％はPCを使用したと回答した。18％はPCを使用していないと回答した。
- ・スポーツ健の回答者（110名中）94％はPCを使用したと回答した。6％はPCを使用していないと回答した。
- ・看護の回答者（96名中）94％はPCを使用したと回答した。6％はPCを使用していないと回答した。

遠隔授業PC使用



遠隔授業PC使用



## 遠隔授業タブレット使用

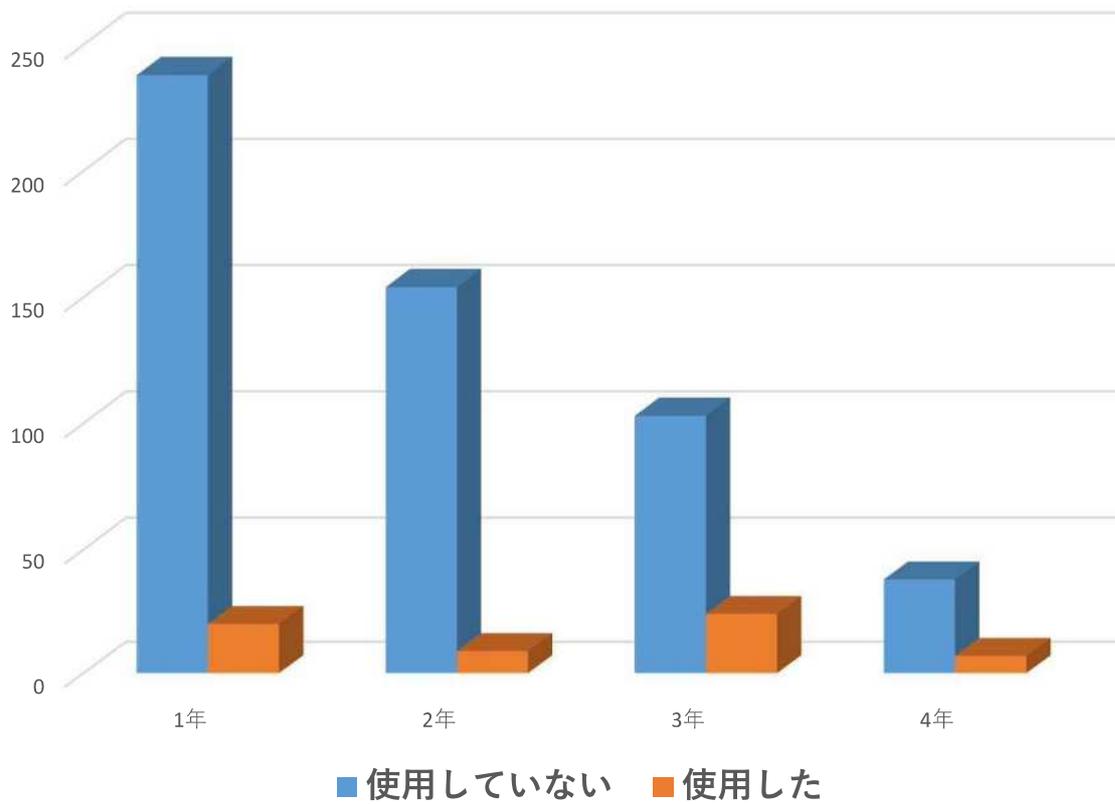
変数	問11 遠隔授業を受講する際に、通信機器としてタブレット(iPadなど)を使用しましたか？			
	出現値	使用していない	使用した	合計
学年	1年	238	20	258
	2年	154	9	163
	3年	103	24	127
	4年	38	7	45
合計		533	60	593

- ・全体の回答者（593名中）10%はタブレットを使用したと回答した。90%はタブレットを使用していないと回答した。
- ・1年次の回答者（258名中）8%はタブレットを使用したと回答した。92%はタブレットを使用していないと回答した。
- ・2年次の回答者（163名中）6%はタブレットを使用したと回答した。94%はタブレットを使用していないと回答した。
- ・3年次の回答者（127名中）19%はタブレットを使用したと回答した。81%はタブレットを使用していないと回答した。
- ・4年次の回答者（45名中）16%はタブレットを使用したと回答した。84%はタブレットを使用していないと回答した。

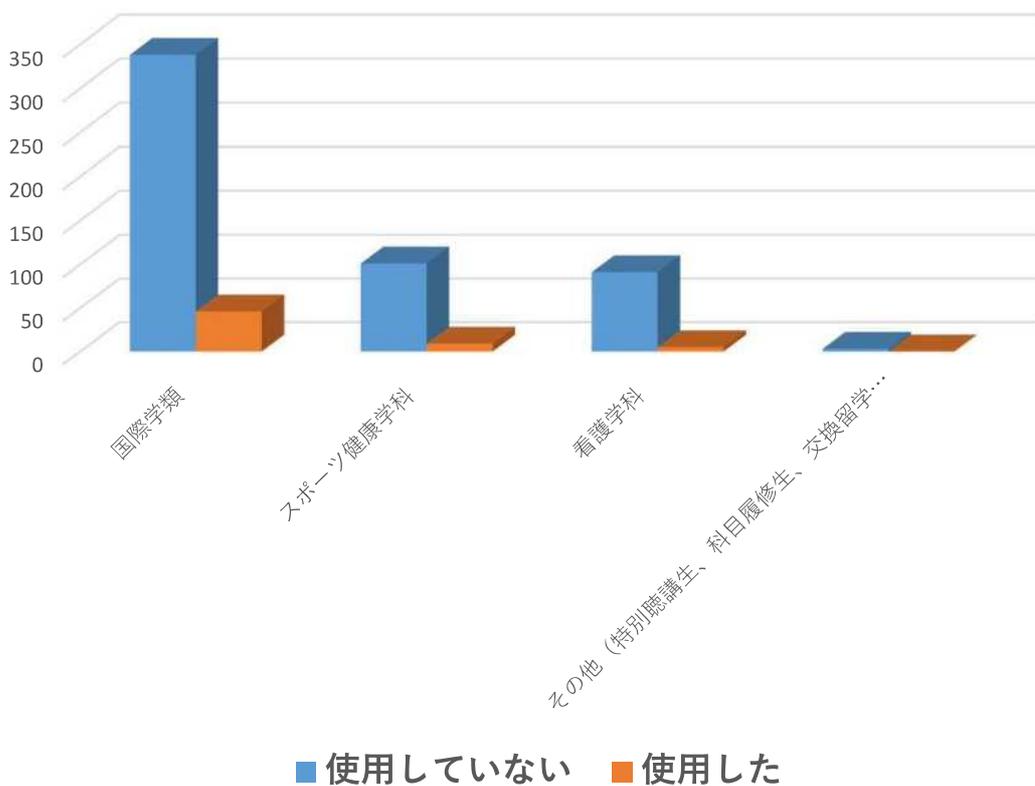
変数	問11 遠隔授業を受講する際に、通信機器としてタブレット(iPadなど)を使用しましたか？			
	出現値	使用していない	使用した	合計
所属	国際学類	338	46	384
	スポーツ健康学	101	9	110
	看護学科	91	5	96
その他(特別聴講生、科目履修)		3	0	3
合計		533	60	593

- ・学類の回答者（384名中）12%はタブレットを使用したと回答した。88%はタブレットを使用していないと回答した。
- ・スポ健の回答者（110名中）8%はタブレットを使用したと回答した。92%はタブレットを使用していないと回答した。
- ・看護の回答者（96名中）5%はタブレットを使用したと回答した。95%はタブレットを使用していないと回答した。

遠隔授業タブレット使用（視点：学年）



遠隔授業タブレット使用（視点：所属）



## 遠隔授業スマホ使用

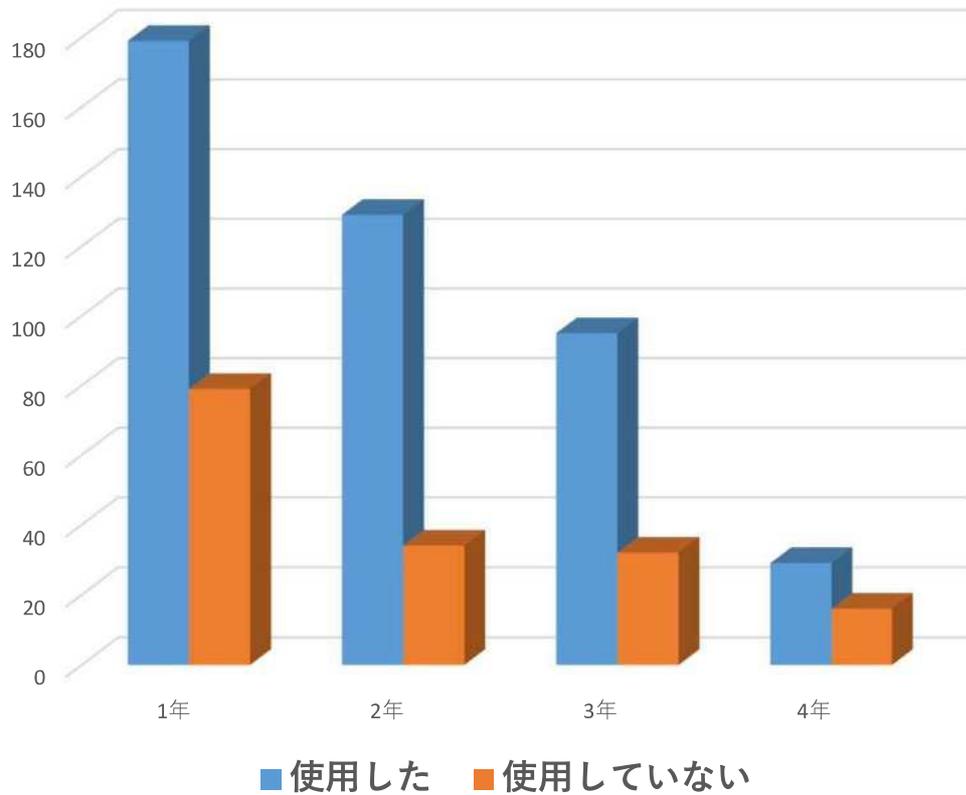
変数	問12 遠隔授業を受講する際に、通信機器としてスマートフォンを使用しましたか？			
	出現値	使用した	使用していない	合計
学年	1年	179	79	258
	2年	129	34	163
	3年	95	32	127
	4年	29	16	45
	合計	432	161	593

- ・全体の回答者（593名中）73%はスマホを使用したと回答した。27%はスマホを使用していないと回答した。
- ・1年次の回答者（258名中）70%はスマホを使用したと回答した。30%はスマホを使用していないと回答した。
- ・2年次の回答者（163名中）79%はスマホを使用したと回答した。21%はスマホを使用していないと回答した。
- ・3年次の回答者（127名中）75%はスマホを使用したと回答した。25%はスマホを使用していないと回答した。
- ・4年次の回答者（45名中）64%はスマホを使用したと回答した。36%はスマホを使用していないと回答した。

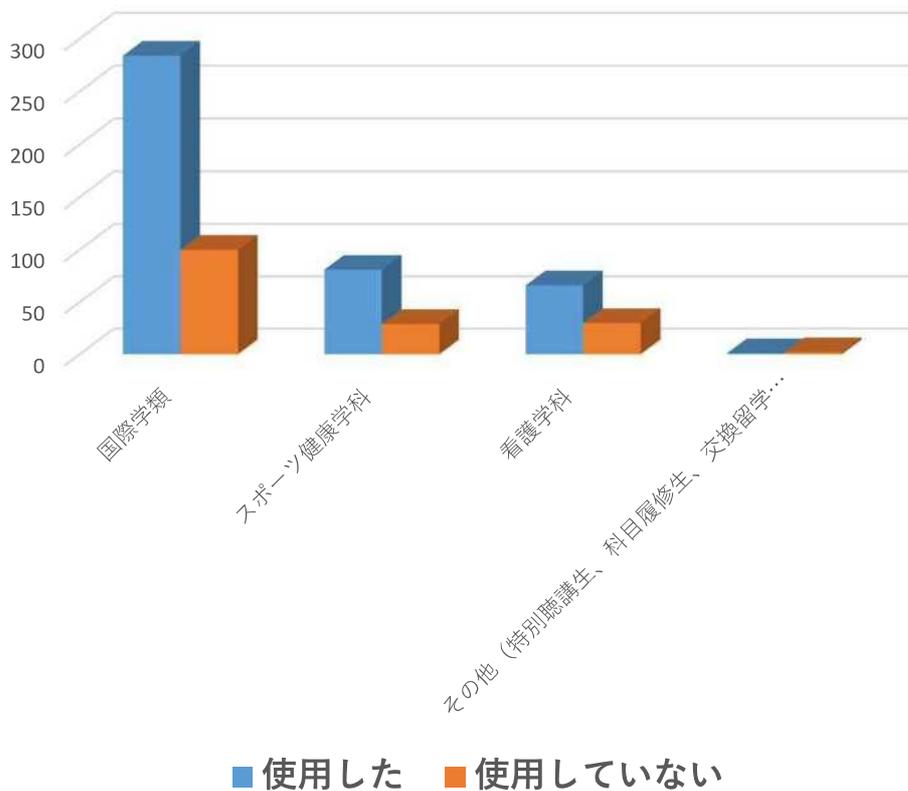
変数	問12 遠隔授業を受講する際に、通信機器としてスマートフォンを使用しましたか？			
	出現値	使用した	使用していない	合計
所属	国際学類	284	100	384
	スポーツ健康学	81	29	110
	看護学科	66	30	96
その他(特別聴講生、科目履修)		1	2	3
	合計	432	161	593

- ・学類の回答者（384名中）74%はスマホを使用したと回答した。26%はスマホを使用していないと回答した。
- ・スポ健の回答者（110名中）74%はスマホを使用したと回答した。26%はスマホを使用していないと回答した。
- ・看護の回答者（96名中）69%はスマホを使用したと回答した。31%はスマホを使用していないと回答した。

遠隔授業スマホ使用（視点：学年）



遠隔授業スマホ使用（視点：所属）



## 遠隔授業Teams使用

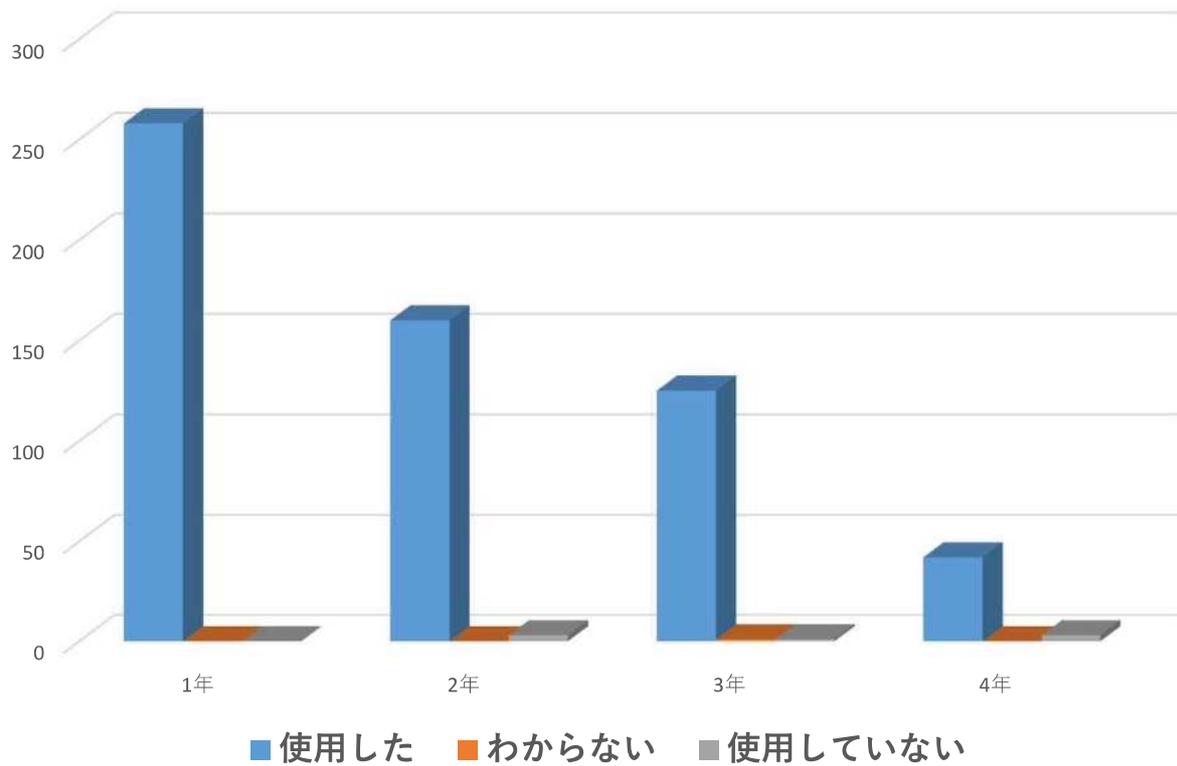
変数	問13 遠隔授業を受講した際にMicrosoft Teamsを使用しましたか？				合計
	出現値	使用した	わからない	使用していない	
学年	1年	258	0	0	258
	2年	160	0	3	163
	3年	125	1	1	127
	4年	42	0	3	45
合計		585	1	7	593

- ・全体の回答者（593名中）99％はTeamsを使用したと回答した。1％はTeamsを使用していないと回答した。
- ・1年次の回答者（258名中）100％はTeamsを使用したと回答した。0％はTeamsを使用していないと回答した。
- ・2年次の回答者（163名中）98％はTeamsを使用したと回答した。2％はTeamsを使用していないと回答した。
- ・3年次の回答者（127名中）98％はTeamsを使用したと回答した。2％はTeamsを使用していないと回答した。
- ・4年次の回答者（45名中）93％はTeamsを使用したと回答した。7％はTeamsを使用していないと回答した。

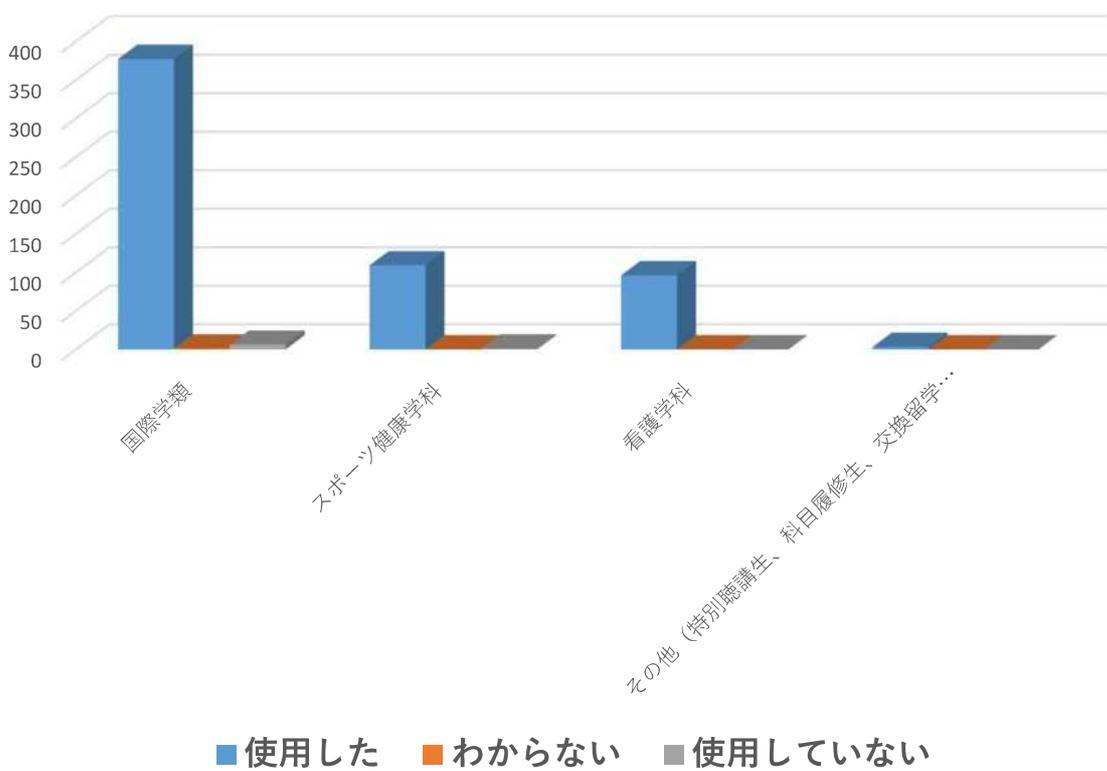
変数	問13 遠隔授業を受講した際にMicrosoft Teamsを使用しましたか？				合計
	出現値	使用した	わからない	使用していない	
所属	国際学類	377	1	6	384
	スポーツ健康学	109	0	1	110
	看護学科	96	0	0	96
その他(特別聴講生、科目履修)		3	0	0	3
合計		585	1	7	593

- ・学類の回答者（384名中）98％はTeamsを使用したと回答した。2％はTeamsを使用していないと回答した。
- ・スポ健の回答者（110名中）99％はTeamsを使用したと回答した。1％はTeamsを使用していないと回答した。
- ・看護の回答者（96名中）100％はTeamsを使用したと回答した。0％はTeamsを使用していないと回答した。

遠隔授業Teams使用（視点：学年）



遠隔授業Teams使用（視点：所属）



## 遠隔授業Universal Passport使用

変数	出現値	問14 遠隔授業を受講した際にUniversal Passportを使用しましたか？			合計
		使用した	使用していない	わからない	
学年	1年	209	23	26	258
	2年	139	15	9	163
	3年	108	17	2	127
	4年	28	17	0	45
	合計	484	72	37	593

・全体の回答者（593名中）81%はユニパを使用したと回答した。12%はユニパを使用していないと回答した。

わからないと回答した学生は6%であった。

・1年次の回答者（258名中）81%はユニパを使用したと回答した。9%はユニパを使用していないと回答した。

わからないと回答した学生は10%であった。

・2年次の回答者（163名中）85%はユニパを使用したと回答した。9%はユニパを使用していないと回答した。

わからないと回答した学生は6%であった。

・3年次の回答者（127名中）85%はユニパを使用したと回答した。13%はユニパを使用していないと回答した。

わからないと回答した学生は2%であった。

・4年次の回答者（45名中）62%はユニパを使用したと回答した。38%はユニパを使用していないと回答した。

わからないと回答した学生は0%であった。

変数	出現値	問14 遠隔授業を受講した際にUniversal Passportを使用しましたか？			合計
		使用した	使用していない	わからない	
所属	国際学類	338	28	18	384
	スポーツ健康学	84	18	8	110
	看護学科	60	25	11	96
その他(特別聴講生、科目履修)		2	1	0	3
	合計	484	72	37	593

・学類の回答者（384名中）88%はユニパを使用したと回答した。7%はユニパを使用していないと回答した。

わからないと回答した学生は5%であった。

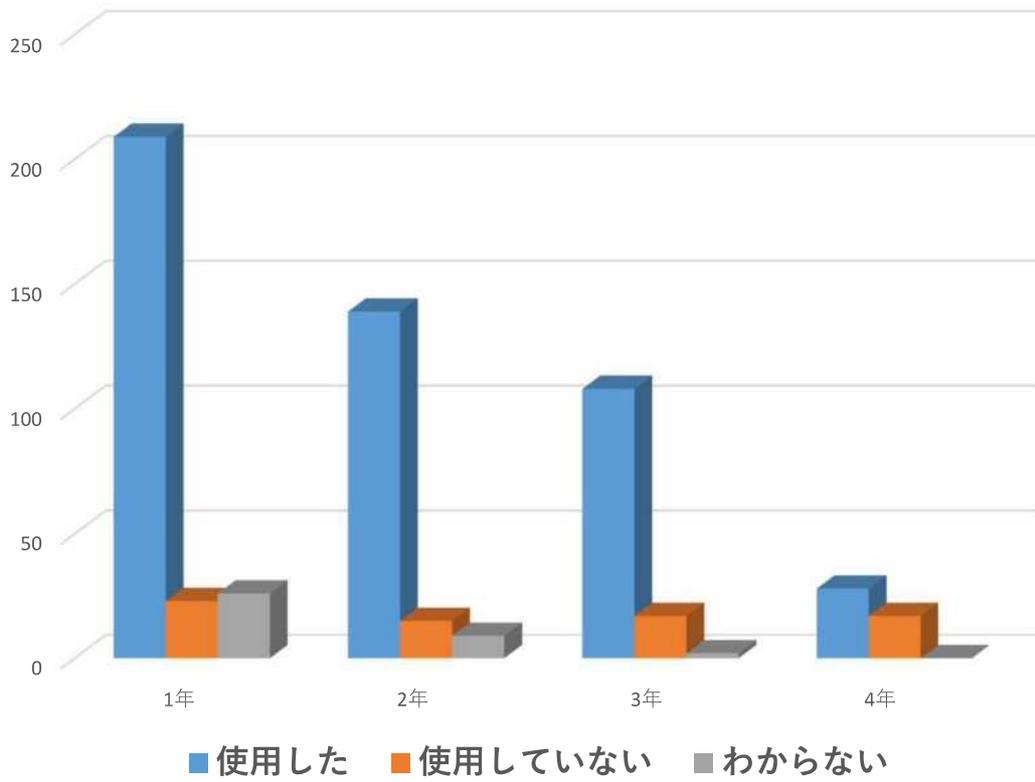
・スポ健の回答者（110名中）76%はユニパを使用したと回答した。16%はユニパを使用していないと回答した。

わからないと回答した学生は7%であった。

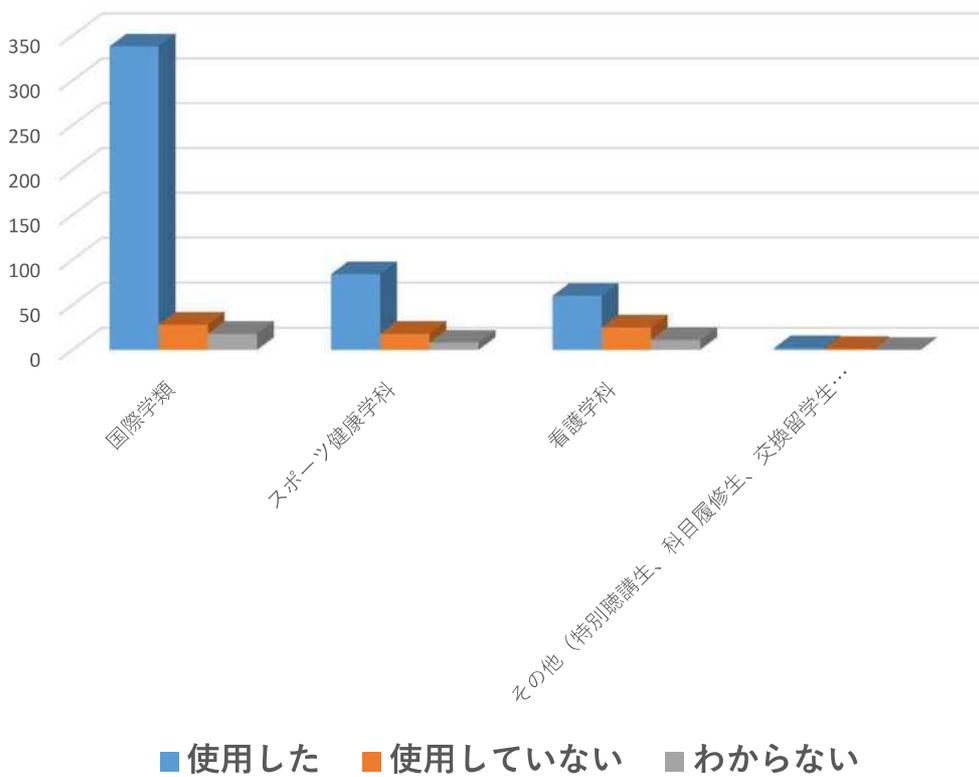
・看護の回答者（96名中）62%はユニパを使用したと回答した。26%はユニパを使用していないと回答した。

わからないと回答した学生は12%であった。

遠隔授業Universal Passport使用



遠隔授業Universal Passport使用



## 遠隔授業Google for Education使用

変数	問15 遠隔授業を受講した際にGoogle for Education (Google classroom*Google meet等)を使用しましたか？				
	出現値	使用した	使用していない	わからない	合計
学年	1年	222	28	8	258
	2年	139	21	3	163
	3年	102	25	0	127
	4年	26	19	0	45
	合計	489	93	11	593

・全体の回答者（593名中）82%はGoogleを使用したと回答した。16%はGoogleを使用していないと回答した。

わからないと回答した学生は2%であった。

・1年次の回答者（258名中）86%はGoogleを使用したと回答した。11%はGoogleを使用していないと回答した。

わからないと回答した学生は3%であった。

・2年次の回答者（163名中）85%はGoogleを使用したと回答した。13%はGoogleを使用していないと回答した。

わからないと回答した学生は2%であった。

・3年次の回答者（127名中）80%はGoogleを使用したと回答した。20%はGoogleを使用していないと回答した。

わからないと回答した学生は0%であった。

・4年次の回答者（45名中）58%はGoogleを使用したと回答した。42%はGoogleを使用していないと回答した。

わからないと回答した学生は0%であった。

変数	問15 遠隔授業を受講した際にGoogle for Education (Google classroom*Google meet等)を使用しましたか？				
	出現値	使用した	使用していない	わからない	合計
所属	国際学類	332	46	6	384
	スポーツ健康学	77	31	2	110
	看護学科	78	15	3	96
その他(特別聴講生、科目履修)		2	1	0	3
	合計	489	93	11	593

・学類の回答者（384名中）86%はGoogleを使用したと回答した。12%はGoogleを使用していないと回答した。

わからないと回答した学生は2%であった。

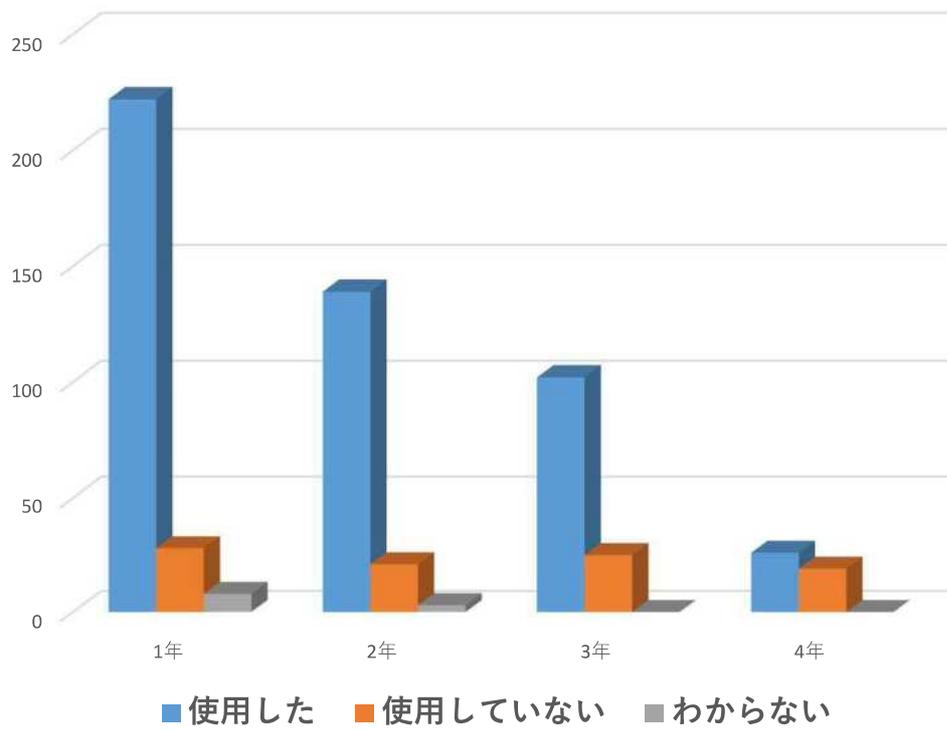
・スポ健の回答者（110名中）70%はGoogleを使用したと回答した。28%はGoogleを使用していないと回答した。

わからないと回答した学生は2%であった。

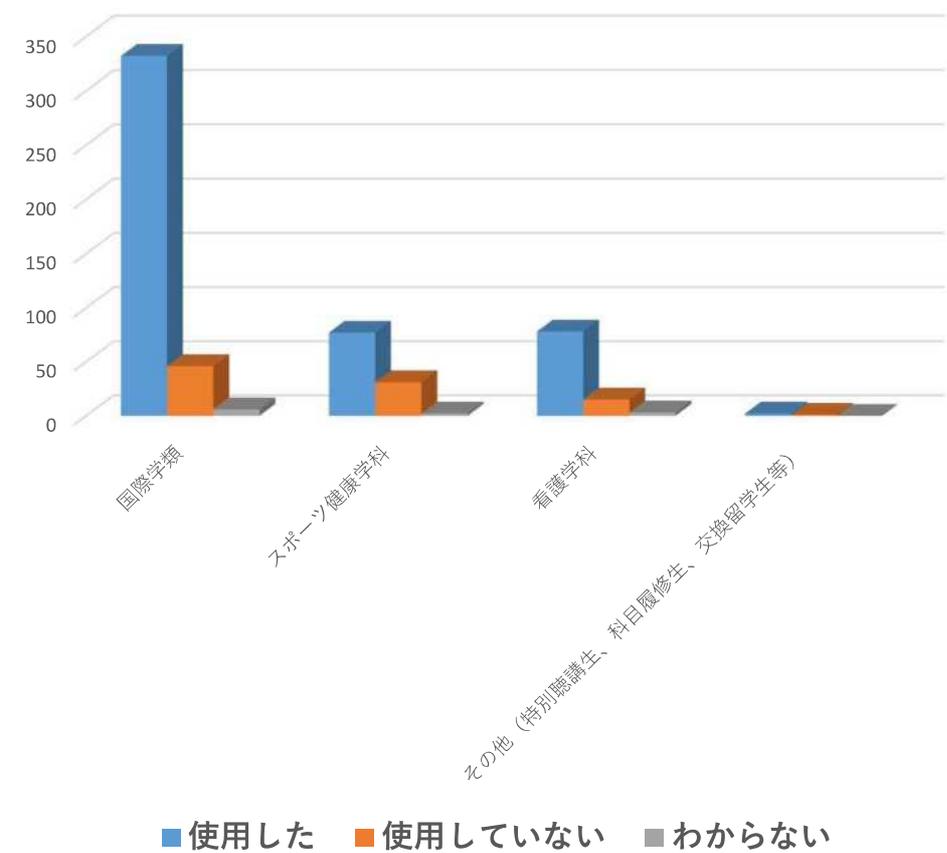
・看護の回答者（96名中）81%はGoogleを使用したと回答した。16%はGoogleを使用していないと回答した。

わからないと回答した学生は3%であった。

遠隔授業Google for Education使用（視点：学年）



遠隔授業Google for Education使用（視点：所属）



## 遠隔授業Zoom使用

変数	問16 遠隔授業を受講した際にZoomを使用しましたか？				
	出現値	使用した	わからない	使用していない	合計
学年	1年	211	0	47	258
	2年	81	2	80	163
	3年	62	2	63	127
	4年	19	0	26	45
	合計	373	4	216	593

・全体の回答者（593名中）63%はZoomを使用したと回答した。36%はZoomを使用していないと回答した。わからないと回答した学生は1%であった。

・1年次の回答者（258名中）82%はZoomを使用したと回答した。18%はZoomを使用していないと回答した。わからないと回答した学生は0%であった。

・2年次の回答者（163名中）50%はZoomを使用したと回答した。49%はZoomを使用していないと回答した。わからないと回答した学生は1%であった。

・3年次の回答者（127名中）49%はZoomを使用したと回答した。50%はZoomを使用していないと回答した。わからないと回答した学生は1%であった。

・4年次の回答者（45名中）42%はZoomを使用したと回答した。58%はZoomを使用していないと回答した。わからないと回答した学生は0%であった。

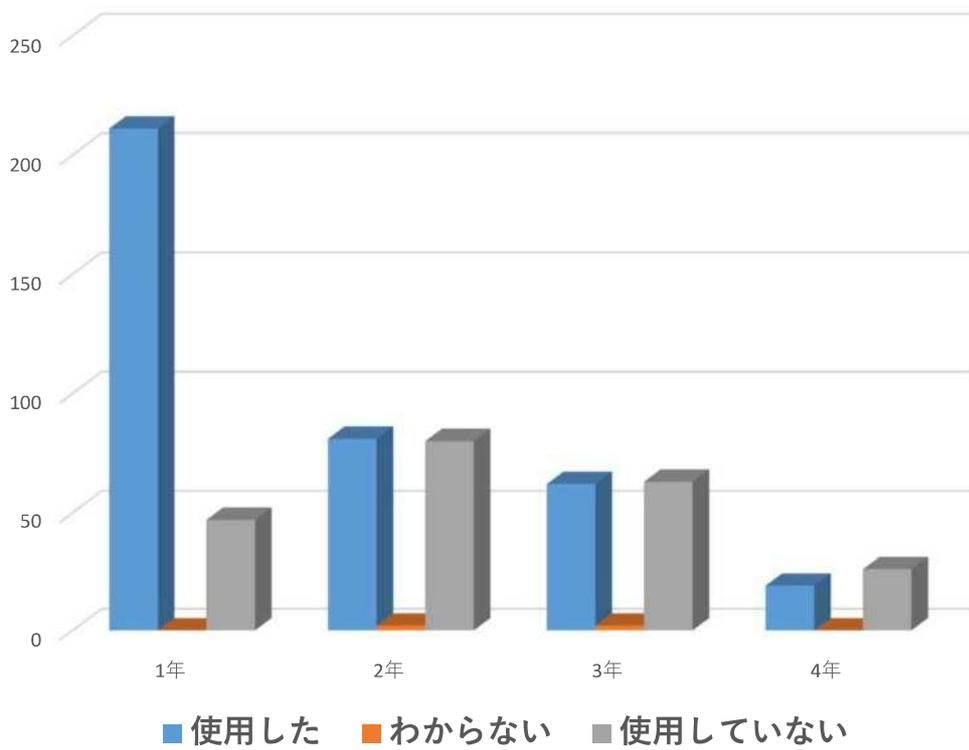
変数	問16 遠隔授業を受講した際にZoomを使用しましたか？				
	出現値	使用した	わからない	使用していない	合計
所属	国際学類	256	4	124	384
	スポーツ健康学	77	0	33	110
	看護学科	39	0	57	96
その他(特別聴講生、科目履修)		1	0	2	3
	合計	373	4	216	593

・学類の回答者（384名中）67%はZoomを使用したと回答した。32%はZoomを使用していないと回答した。わからないと回答した学生は1%であった。

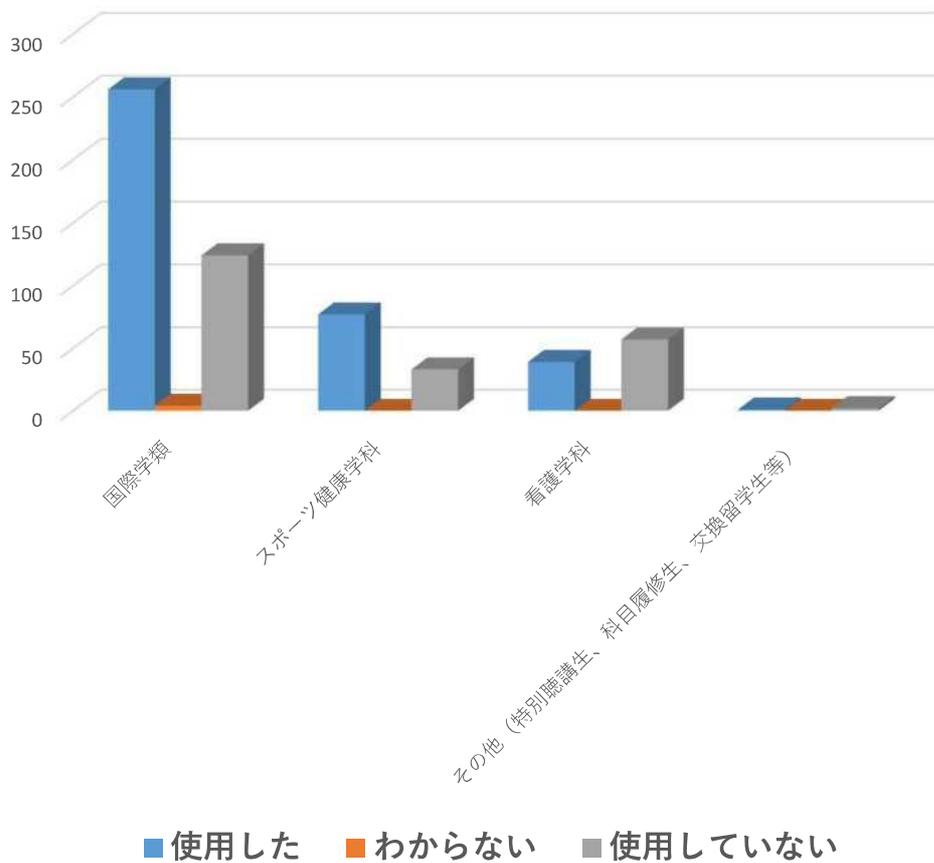
・スポ健の回答者（110名中）70%はZoomを使用したと回答した。30%はZoomを使用していないと回答した。わからないと回答した学生は0%であった。

・看護の回答者（96名中）41%はZoomを使用したと回答した。59%はZoomを使用していないと回答した。わからないと回答した学生は0%であった。

遠隔授業Zoom使用（視点：学年）



遠隔授業Zoom使用（視点：所属）



## 遠隔授業ストリーミング使用

変数	問17 遠隔授業を受講した際にストリーミング動画(YouTube等)を使用しましたか?				合計
	出現値	使用した	使用していない	わからない	
学年	1年	226	21	11	258
	2年	114	40	9	163
	3年	90	36	1	127
	4年	23	20	2	45
合計		453	117	23	593

・全体の回答者（593名中）76%はストリーミング<sup>®</sup>を使用したと回答した。20%はストリーミング<sup>®</sup>を使用していないと回答した。

わからないと回答した学生は4%であった。

・1年次の回答者（258名中）88%はストリーミング<sup>®</sup>を使用したと回答した。8%はストリーミング<sup>®</sup>を使用していないと回答した。

わからないと回答した学生は4%であった。

・2年次の回答者（163名中）70%はストリーミング<sup>®</sup>を使用したと回答した。25%はストリーミング<sup>®</sup>を使用していないと回答した。

わからないと回答した学生は5%であった。

・3年次の回答者（127名中）71%はストリーミング<sup>®</sup>を使用したと回答した。28%はストリーミング<sup>®</sup>を使用していないと回答した。

わからないと回答した学生は1%であった。

・4年次の回答者（45名中）51%はストリーミング<sup>®</sup>を使用したと回答した。44%はストリーミング<sup>®</sup>を使用していないと回答した。

わからないと回答した学生は4%であった。

変数	問17 遠隔授業を受講した際にストリーミング動画(YouTube等)を使用しましたか?				合計
	出現値	使用した	使用していない	わからない	
所属	国際学類	298	71	15	384
	スポーツ健康学	80	28	2	110
	看護学科	72	18	6	96
その他(特別聴講生、科目履修:		3	0	0	3
合計		453	117	23	593

・学類の回答者（384名中）78%はストリーミング<sup>®</sup>を使用したと回答した。18%はストリーミング<sup>®</sup>を使用していないと回答した。

わからないと回答した学生は4%であった。

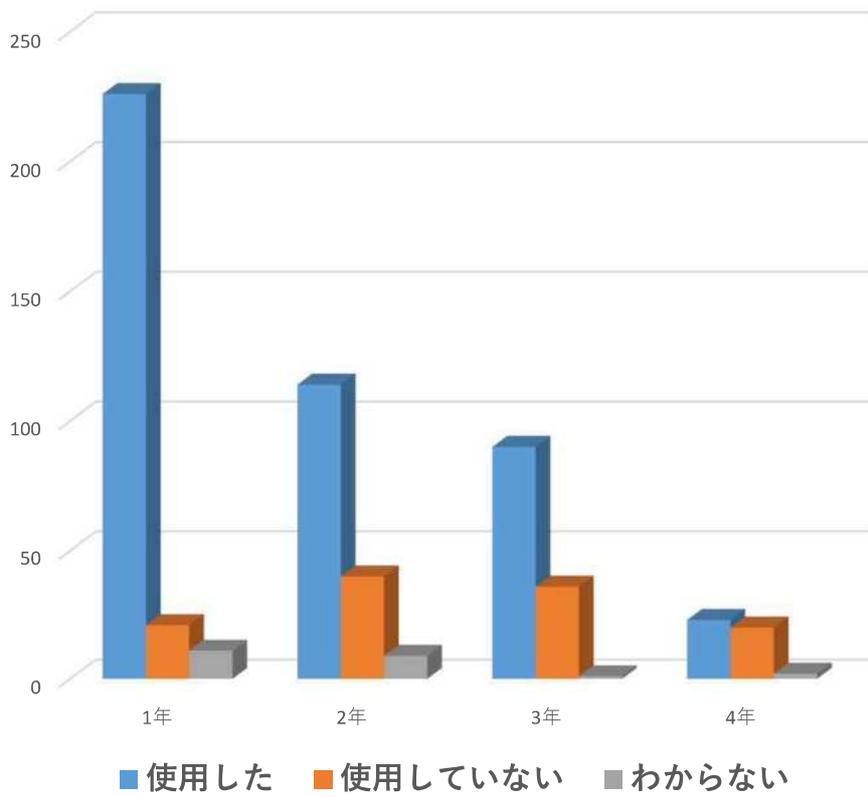
・スポ健の回答者（110名中）73%はストリーミング<sup>®</sup>を使用したと回答した。25%はストリーミング<sup>®</sup>を使用していないと回答した。

わからないと回答した学生は2%であった。

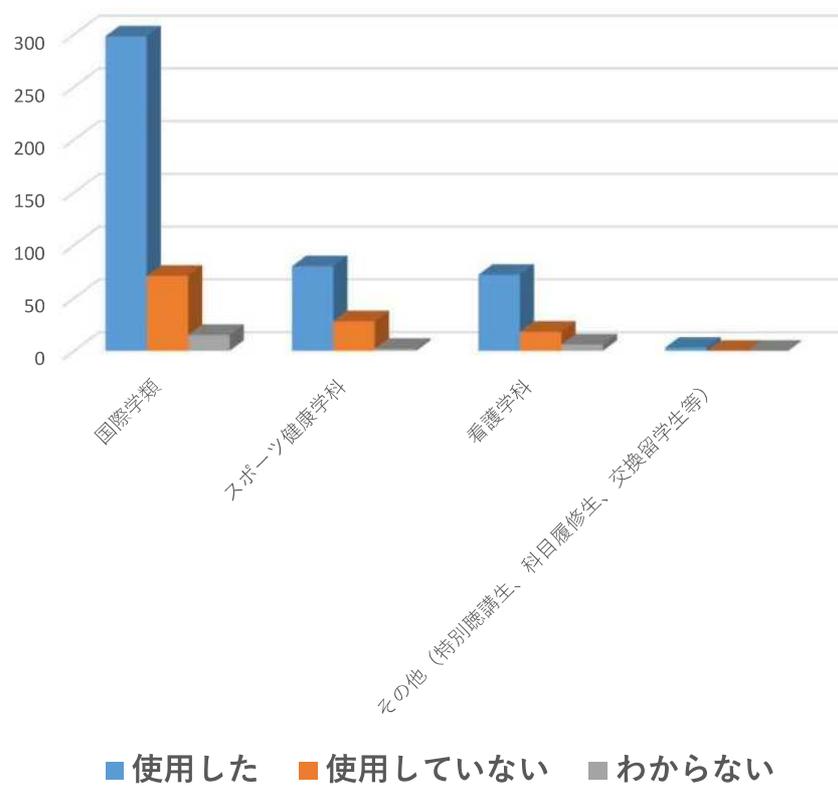
・看護の回答者（96名中）75%はストリーミング<sup>®</sup>を使用したと回答した。19%はストリーミング<sup>®</sup>を使用していないと回答した。

わからないと回答した学生は6%であった。

遠隔授業ストリーミング使用（視点：学年）



遠隔授業ストリーミング使用（視点：所属）



## 遠隔授業BESTツール

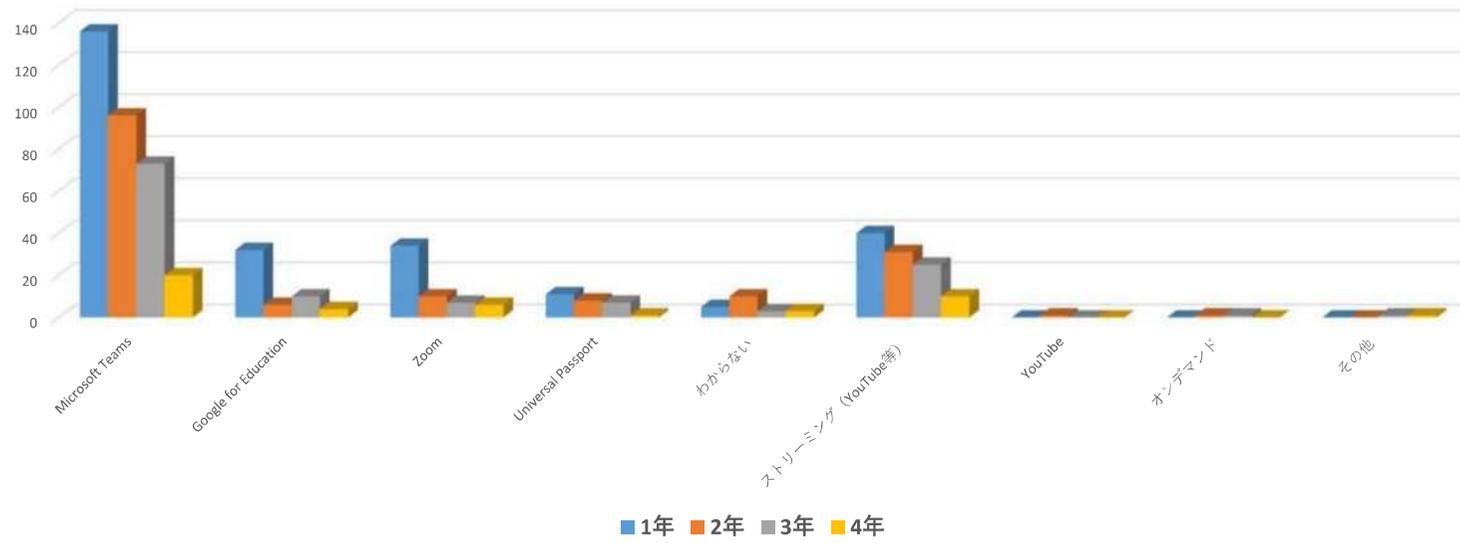
変数	問18 遠隔授業を受講した際に以下の受講ツールから一番良かったと思うものはどれですか？										
	出現値	Microsoft Teams	Google for Education	Zoom	Universal Passport	わからない	ストリーミング(YouTube等)	YouTube	オンデマンド	その他	合計
学年	1年	136	32	34	11	5	40	0	0	0	258
	2年	96	6	10	8	10	31	1	1	0	163
	3年	73	10	7	7	3	25	0	1	1	127
	4年	20	4	6	1	3	10	0	0	1	45
	合計	325	52	57	27	21	106	1	1	1	593

- ・全体の回答者（593名中）55%はTeamsが良いと回答した。続いて18%はストリーミングが良いと回答した。3番目の10%はZoomであった。4番目の9%はGoogleであった。
- ・1年の回答者（258名中）53%はTeamsが良いと回答した。続いて16%はストリーミングが良いと回答した。3番目の13%はZoomであった。4番目の12%はGoogleであった。
- ・2年次の回答者（163名中）59%はTeamsが良いと回答した。続いて20%はストリーミングが良いと回答した。3番目の6%はZoomであった。4番目の4%はGoogleであった。
- ・3年次の回答者（127名中）57%はTeamsが良いと回答した。続いて20%はストリーミングが良いと回答した。3番目の8%はGoogleであった。4番目の6%はUniversal Passport及びZoomであった。
- ・4年次の回答者（45名中）44%はTeamsが良いと回答した。続いて22%はストリーミングが良いと回答した。3番目は13%のZoomであった。4番目の9%のGoogleであった。

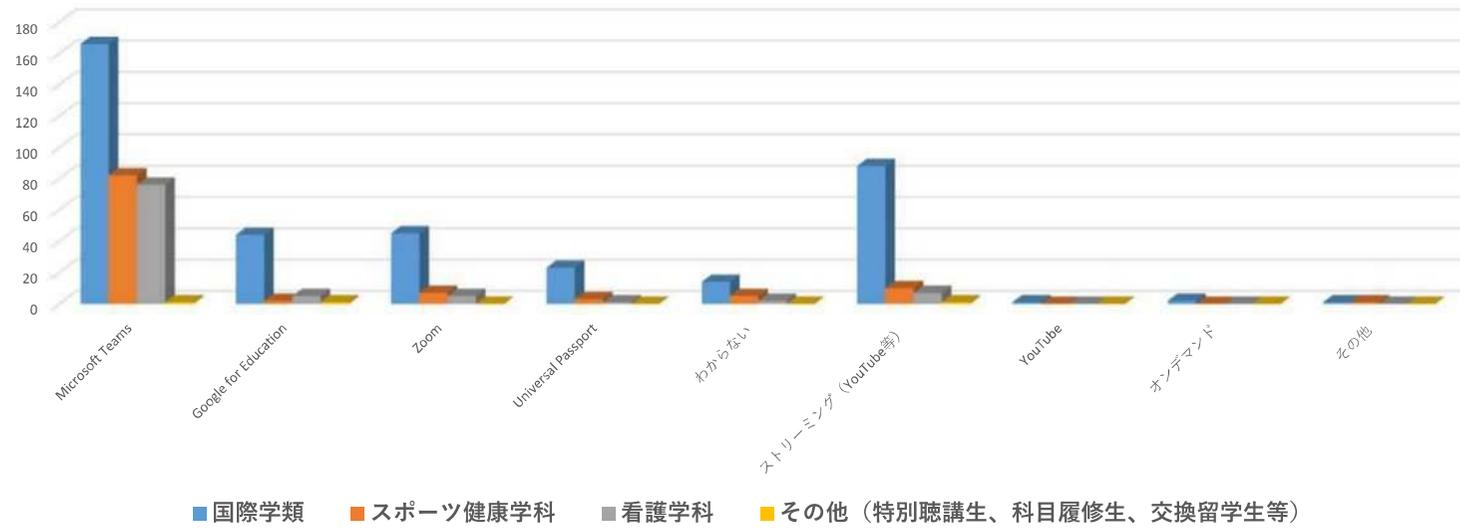
変数	問18 遠隔授業を受講した際に以下の受講ツールから一番良かったと思うものはどれですか？										
	出現値	Microsoft Teams	Google for Education	Zoom	Universal Passport	わからない	ストリーミング(YouTube等)	YouTube	オンデマンド	その他	合計
所属	国際学類	166	44	45	23	14	88	1	2	1	384
	スポーツ健康学	82	2	7	3	5	10	0	0	1	110
	看護学科	76	5	5	1	2	7	0	0	0	96
	その他(特別聴講生、科目履修)	1	1	0	0	0	1	0	0	0	3
合計	325	52	57	27	21	106	1	1	1	593	

- ・学類の回答者（384名中）43%はTeamsが良いと回答した。続いて23%はストリーミングが良いと回答した。3番目の12%はZoomであった。4番目の11%はGoogleであった。
- ・スポ健の回答者（110名中）75%はTeamsが良いと回答した。続いて9%はストリーミングが良いと回答した。3番目の6%はZoomであった。4番目の5%はわからないであった。
- ・看護の回答者（163名中）79%はTeamsが良いと回答した。続いて7%はストリーミングが良いと回答した。3番目の5%はZoom及びGoogleであった。

遠隔授業BESTツール（視点：学年）



遠隔授業BESTツール（視点：所属）



## 遠隔授業通信状況

変数	問19 遠隔授業(主に通信機器を用いたオンライン授業)を受講した際に以下の通信状況の中で最も当てはまるものを教えてください。							
	出現値	常に問題はなれるが、話のいなくなる	話のいなくなる	講義の内容なくなる	その他	合計		
学年	1年	78	89	68	14	6	3	258
	2年	46	47	43	13	8	6	163
	3年	37	43	34	5	1	7	127
	4年	16	11	15	1	1	1	45
	合計	177	190	160	33	16	17	593

・全体の回答者（593名中）の30％は、遠隔授業受講の際に通信状況に問題がないと回答しており、32％は一部音声途切れるが話の内容は聞き取れると回答している。また27％は一部映像がフリーズするが、受講には支障はないと回答している。全体の回答者の89％が遠隔授業受講時の通信状況には支障がないと回答していた。一方で、全体の回答者の11％においては、通信状況の改善・支援が必要であると考えられる。

・1年次の回答者（258名中）の30％は、遠隔授業受講の際に通信状況に問題がないと回答しており、35％は一部音声途切れるが話の内容は聞き取れると回答している。また26％は一部映像がフリーズするが、受講には支障はないと回答している。1年次の回答者の91％が遠隔授業受講時の通信状況には支障がないと回答していた。一方で、1年次の回答者の9％においては、通信状況の改善・支援が必要であると考えられる。

・2年次の回答者（163名中）の28％は、遠隔授業受講の際に通信状況に問題がないと回答しており、35％は一部音声途切れるが話の内容は聞き取れると回答している。また26％は一部映像がフリーズするが、受講には支障はないと回答している。2年次の回答者の91％が遠隔授業受講時の通信状況には支障がないと回答していた。一方で、2年次の回答者の9％においては、通信状況の改善・支援が必要であると考えられる。

・3年次の回答者（127名中）の29％は、遠隔授業受講の際に通信状況に問題がないと回答しており、34％は一部音声途切れるが話の内容は聞き取れると回答している。また27％は一部映像がフリーズするが、受講には支障はないと回答している。3年次の回答者の90％が遠隔授業受講時の通信状況には支障がないと回答していた。一方で、3年次の回答者の10％においては、通信状況の改善・支援が必要であると考えられる。

・4年次の回答者（45名中）の36％は、遠隔授業受講の際に通信状況に問題がないと回答しており、25％は一部音声途切れるが話の内容は聞き取れると回答している。また33％は一部映像がフリーズするが、受講には支障はないと回答している。4年次の回答者の94％が遠隔授業受講時の通信状況には支障がないと回答していた。一方で、4年次の回答者の6％においては、通信状況の改善・支援が必要であると考えられる。

変数	問19 遠隔授業(主に通信機器を用いたオンライン授業)を受講した際に以下の通信状況の中で最も当てはまるものを教えてください。							
	出現値	常に問題はなれるが、話のいなくなる	話のいなくなる	講義の内容なくなる	その他	合計		
所属	国際学類	136	110	94	25	8	11	384
	スポーツ健康学	23	51	32	1	1	2	110
	看護学科	17	27	34	7	7	4	96
その他(特別聴講生、科目履修)		1	2	0	0	0	0	3
合計		177	190	160	33	16	17	593

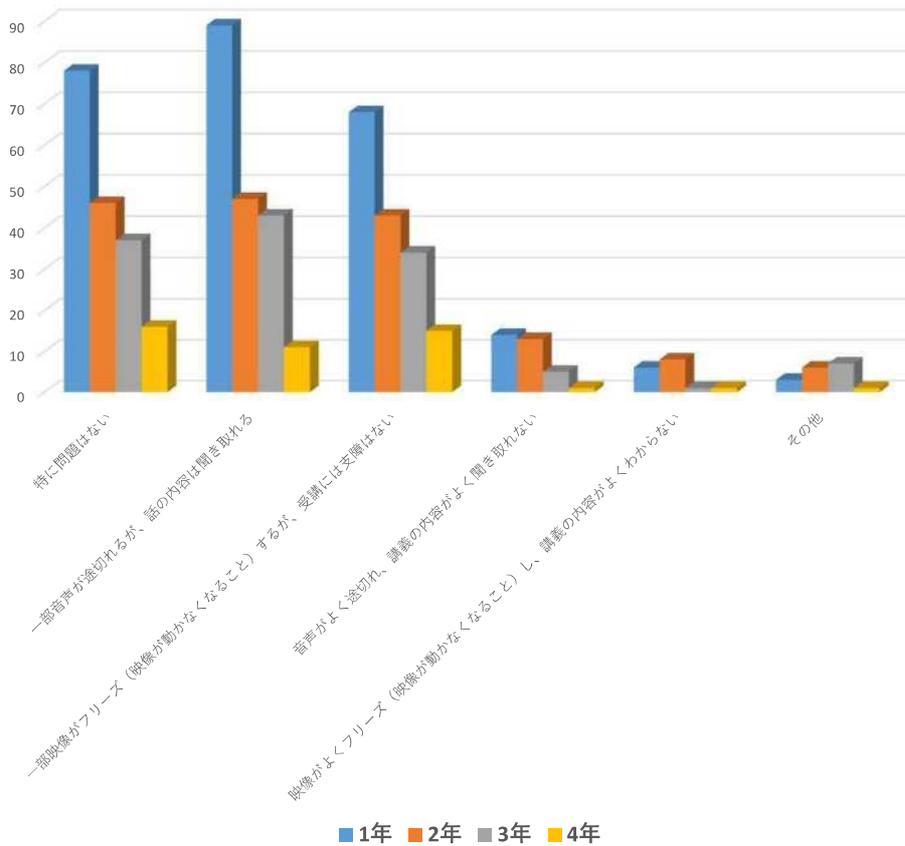
・国際学群の回答者（384名中）の35％は、遠隔授業受講の際に通信状況に問題がないと回答しており、29％は一部音声途切れるが話の内容は聞き取れると回答している。また24％は一部映像がフリーズするが、受講には支障はないと回答している。学群の回答者の88％が遠隔授業受講時の通信状況には支障がないと回答していた。一方で、学群の回答者の12％においては、通信状況の改善・支援が必要であると考えられる。

・スポ健の回答者（110名中）の21％は、遠隔授業受講の際に通信状況に問題がないと回答しており、46％は一部音声途切れるが話の内容は聞き取れると回答している。また29％は一部映像がフリーズするが、受講には支障はないと回答している。スポ健の回答者の96％が遠隔授業受講時の通信状況には支障がないと回答していた。一方で、スポ健の回答者の4％においては、通信状況の改善・支援が必要であると考えられる。

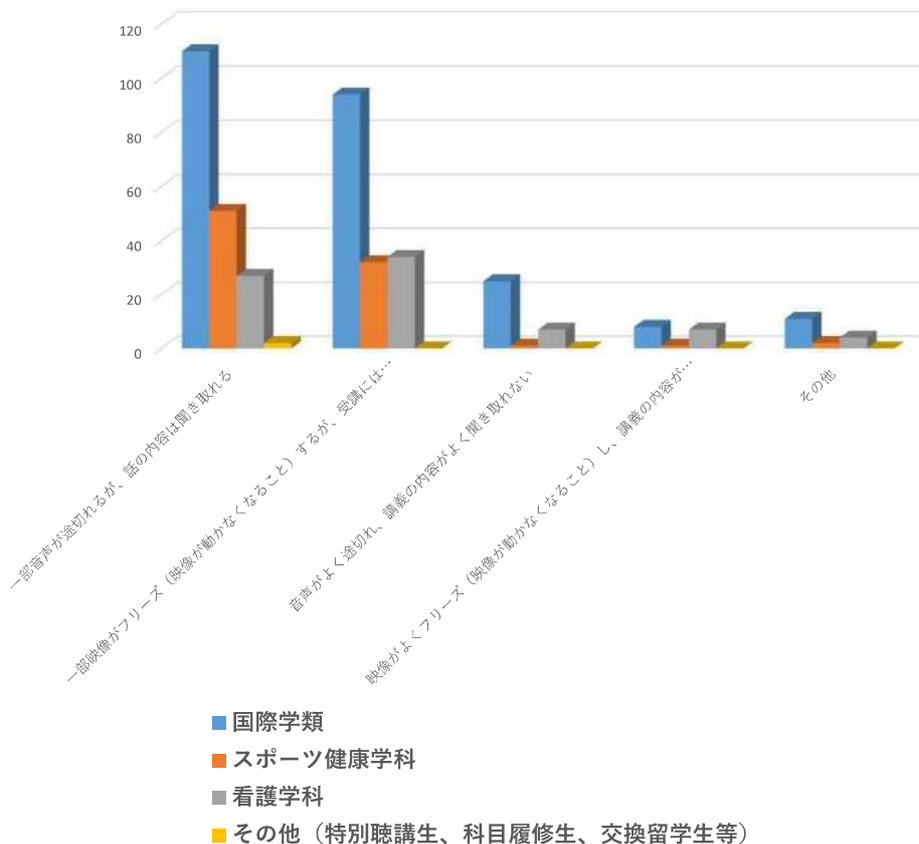
・看護の回答者（96名中）の18％は、遠隔授業受講の際に通信状況に問題がないと回答しており、28％は一部音声途切れるが話の内容は聞き取れると回答している。また36％は一部映像がフリーズするが、受講には支障はないと回答している。看護の回答者の82％が遠隔授業受講時の通信状況には支障がないと回答していた。一方で、看護の回答者の18％においては、通信状況の改善・支援が必要であると考えられる。

・その他の回答者（3名中）の33％は、遠隔授業受講の際に通信状況に問題がないと回答しており、67％は一部音声途切れるが話の内容は聞き取れると回答している。

遠隔授業通信状況（視点：学年）



遠隔授業通信状況（視点：所属）



問20 遠隔授業を受講したときの【通信以外の問題点】を教えてください。

全体 1年次（69%）、2年次（79%）、3年次（74%）、4年次（64%）がスマホで講義を受講したことがあると回答している。そのため、画面が小さく資料がみづらいのコメントが多く見受けられた。

1年次 ネット・ICTツールの使用に不慣れ（コメント多）

2年次 プリンターが家にない。印刷代がかかる。（コメント多）

3年次 通信量や費用に関して不安（コメント多）

4年次 遠隔授業の内容についての不安

（発言する際に他の人と被る、話し合いの場面で声が重なる、画面共有時にパワポが見えにくい等）

その他 考慮すべきコメント

授業に関する連絡が直前であるため大変であった。

教員に質問しづらい

グループ活動に関して、対応しづらい。

Wifiが無い学生には費用がかかる

通信費用

顔出しに抵抗がある。

遠隔講義を行う際の連絡手段を統一してほしい。

マイク等のハウリング

サクラウムで受講できる環境があるのは助かるが、授業の発言がしづらい。

講義資料の印刷費用

## 今後の授業のあり方

変数	問21 あなたが希望する今後の授業のあり方について以下の選択肢から一番当てはまるものを教えてください。					
	出現値	とし、遠隔授業	対面授業のみ	わからない	合計	
学年	1年	154	30	62	12	258
	2年	81	45	27	10	163
	3年	67	36	14	10	127
	4年	26	16	1	2	45
	合計	328	127	104	34	593

・全体の回答者（593名中）の55%は対面授業を主とし、遠隔授業も取り入れると回答している。また、21%は遠隔授業のみと回答し、対面授業のみと回答したのは、18%であった。全体の6%は分からないと回答している。このことから、今後の授業のあり方について、遠隔授業で行われることに対して、一定の理解は得られていると考えられる。

・1年次の回答者（258名中）の60%は対面授業を主とし、遠隔授業も取り入れると回答している。また、11%は遠隔授業のみと回答し、対面授業のみと回答したのは、24%であった。1年次の5%は分からないと回答している。

・2年次の回答者（163名中）の50%は対面授業を主とし、遠隔授業も取り入れると回答している。また、28%は遠隔授業のみと回答し、対面授業のみと回答したのは、16%であった。2年次の6%は分からないと回答している。

・3年次の回答者（127名中）の53%は対面授業を主とし、遠隔授業も取り入れると回答している。また、28%は遠隔授業のみと回答し、対面授業のみと回答したのは、11%であった。3年次の8%は分からないと回答している。

・4年次の回答者（45名中）の58%は対面授業を主とし、遠隔授業も取り入れると回答している。また、36%は遠隔授業のみと回答し、対面授業のみと回答したのは、2%であった。4年次の4%は分からないと回答している。

変数	問21 あなたが希望する今後の授業のあり方について以下の選択肢から一番当てはまるものを教えてください。					
	出現値	とし、遠隔授業	対面授業のみ	わからない	合計	
所属	国際学類	194	91	69	30	384
	スポーツ健康学	74	19	16	1	110
	看護学科	58	16	19	3	96
その他(特別聴講生、科目履修)		2	1	0	0	3
	合計	328	127	104	34	593

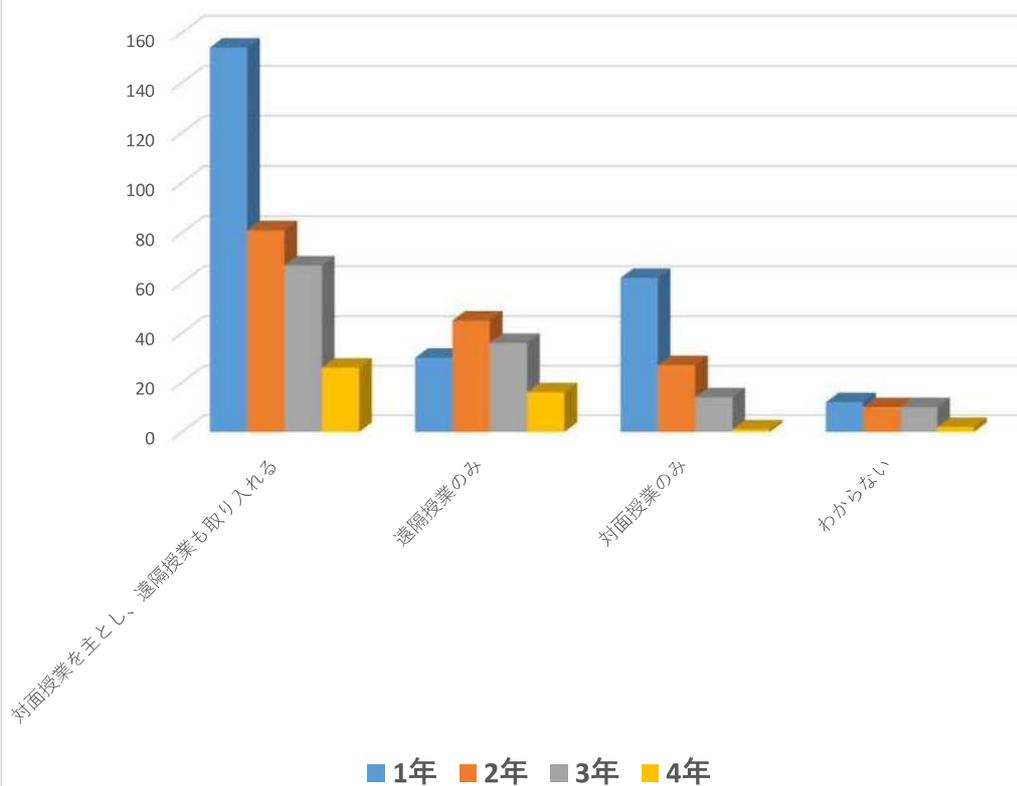
・国際学群の回答者（384名中）の50%は対面授業を主とし、遠隔授業も取り入れると回答している。また、24%は遠隔授業のみと回答し、対面授業のみと回答しているのは、18%であった。学群の8%は分からないと回答している。

・スポ健の回答者（110名中）の67%は対面授業を主とし、遠隔授業も取り入れると回答している。また、17%は遠隔授業のみと回答し、対面授業のみと回答しているのは、15%であった。スポ健の1%は分からないと回答している。

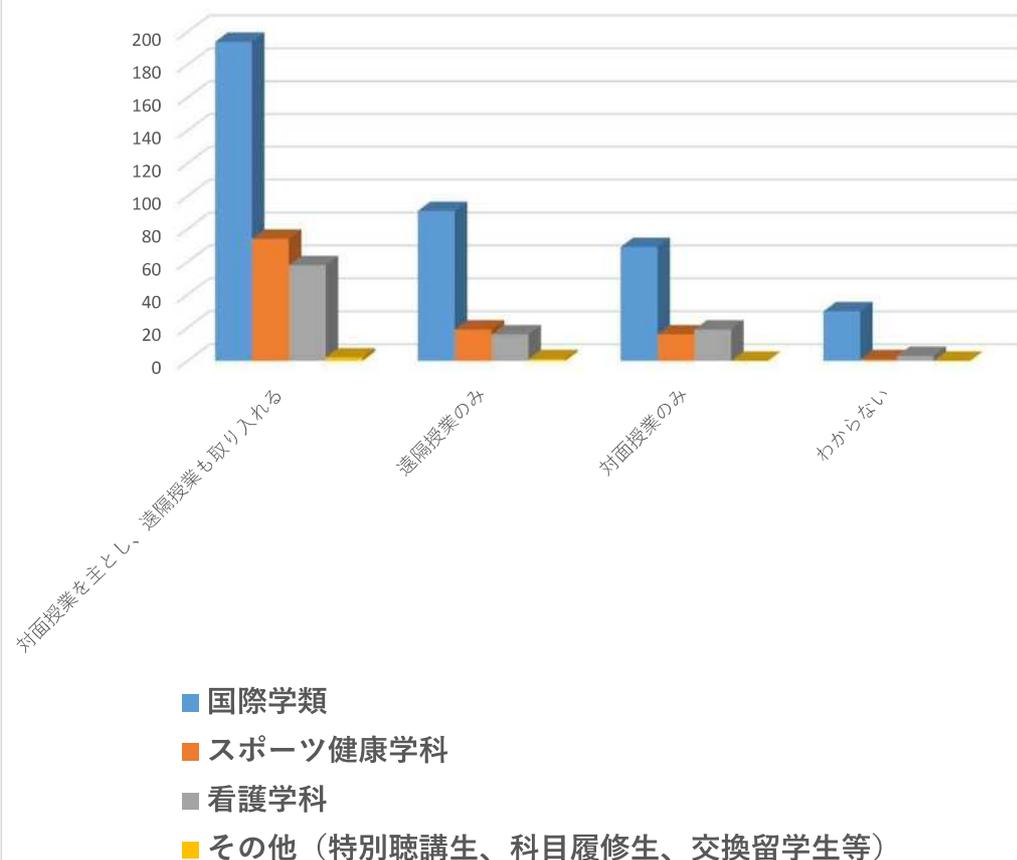
・看護学科の回答者（96名中）の60%は対面授業を主とし、遠隔授業も取り入れると回答している。また、17%は遠隔授業のみと回答し、対面授業のみと回答しているのは、20%であった。看護の3%は分からないと回答している。

・その他の回答者（3名中）の67%は対面授業を主とし、遠隔授業も取り入れると回答している。また、33%は遠隔授業のみと回答している。

今後の授業のあり方（視点：学年）



今後の授業のあり方（視点：所属）



問22 遠隔授業について、大学への要望をお聞かせください。

全体 どの講義でどのICTツールを使用しているか分からなくなる、アプリの統一希望（コメント多）

1年次 ディスカッションが必要な講義に関しては、対面を希望する。

コロナ第2波等に関する懸念・遠隔講義の継続

対面授業を求める声

2年次 遠隔授業に対応したシラバス

大学内で遠隔講義を受講しても邪魔にならない環境がほしい

コロナ第2波に関する懸念・遠隔講義の継続

リアルタイムではなくオンデマンド配信（ストリーミング等）の遠隔講義は好評

3年次 遠隔授業に対する高評価のコメントが多い

遠隔授業が増えることによって家にいる時間が長くなるため電気代や通信費が心配。  
アルバイトが減った。学費の減免希望。

コロナ第2波に関する懸念・遠隔講義の継続

4年次 遠隔授業実施に係る学費の減免

就活等が増えるので遠隔講義の継続を希望

コロナ第2波に関する懸念・遠隔講義の継続

## 令和2年度 第3回名桜大学FD研修会

環太平洋地域文化研究所長 仲尾次 洋子

令和2年度名桜大学第3回FD研修会は、令和2年9月30日（水）名桜大学環太平洋地域文化研究所との協働開催により、学生会館 SAKURAUM 3F 大講義室 A・B 及び オンライン（Microsoft Teams）を活用して開催された。本研修会では、昨年度に引き続き、名古屋市立大学学長の郡健二郎をお招きし、「皆さんの質問から考える採択される条件」と題してご講演頂くとともに、「個別申請書公開添削」という新たな試みも展開して頂いた。

ご講演においては、研究者からよく受ける17の質問を提示し、その中でもとくに重要な以下の6つのポイントに関して詳細をご教示頂いた。

- ①今年こそ「基盤研究B」にアタックしたい、その秘伝
- ②「4つの評定（審査）基準」を知らずして採択なし
- ③「審査委員」の心を掴み、採択も掴む
- ④審査委員を引きつける「研究課題」の書き方
- ⑤わかりやすく、読みやすい「概要」、「本文」の書き方
- ⑥採択されるために最も重要なことは？

「採択への王道は熱意と謙虚さ」、そして「ドタバタ申請に採択なし」が採択されるためにもっとも重要であることが刻まれるご講演となった。

さらに、個別申請書公開添削においては、令和2年度に若手研究の区分に申請予定の申請書を用いて、ポイントを明示してご説明頂いた。本学でご協力頂いた若手研究者と郡講師とは事前にメールや電話での綿密なやり取りが繰り返され、推敲が重ねられた申請書を用いたレクチャーは我々にとって有意義な学びとなった。

研修会後の参加者に対するアンケートによると、研修会の内容について「満足」が74%、「やや満足」26%と合わせて100%と極めて高い結果であった。

大学の教員は、それぞれの専門分野で日々研究活動に真摯に取り組み、研究から得られた成果を学生教育や地域に還元する使命を負っている。とりわけ、公立大学としての本学は、外部資金を獲得することによって研究活動の水準を向上させなければならない。今回のFD研修会も、科研費申請のノウハウにとどまらず、研究に対する意識の向上、研究者としてのライフワークについて有益な示唆が得られるものとなった。

令和2年度 第3回名桜大学FD研修会 実施計画 (環太平洋地域文化研究所 協働)

1. 目的：本学専任教員の資質向上と本学 学群・学部・機構の更なる発展及び今回のテーマに興味のある職員や非常勤講師も参加対象として有意義な研修になることを目的とする。
2. 開催日時：令和2年9月30日(水) 15:00～
3. 会場：学生会館 SAKURAUM 3F 大講義室 A・B 及び オンライン (Microsoft Teams)
4. 対象：本学専任教職員、非常勤講師、大学院生
5. テーマ：科研費申請書等に関する総論及び個別申請書公開添削
6. プログラム

時間	内容
14:45～(15分)	受付 (Microsoft Teams または会場)
15:00～(5分)	開会のあいさつ 司会：環太平洋地域文化研究所長 仲尾次 洋子 副学長(研究) 鈴木 啓子
15:05～(50分)	科研費申請書等に関する総論 ■講演者 郡 健二郎 氏 (名古屋市立大学学長)
15:55～(20分)	個別申請書公開添削 (今年申請する完成した申請書) 添削志願者：立津 慶幸 准教授 (リベラルアーツ機構) ■添削者 郡 健二郎 氏 (名古屋市立大学学長)
16:15～(10分)	質疑応答
16:25～(5分)	閉会のあいさつ 学長 砂川 昌範
16:30	終了

◆本研修会の録画、撮影及び録音に準拠する行為は一切、禁止いたします。

※研修会には各自 PC 等をご利用ください。紙媒体の資料は準備していません。

※アンケートはオンラインで実施いたします。以下リンクよりアンケート回答の協力をお願いいたします。

回答するためには、Gmail において Garoon メールアドレスおよびパスワードを入力してログインしてください。

<https://forms.gle/TRUgZSNdkhSPeVyV9>

# 皆さんの質問から考える 採択される条件



名古屋市立大学  
郡 健二郎

## よく受けるご質問

- ◎質問1 今年こそ「基盤研究B」にアタックしたい、その秘伝
- ◎質問2 「4つの評定(審査)基準」を知らずして採択なし
- ◎質問3 「審査委員」の心を掴み、採択も掴む
- 質問4 申請書を書く前にすべきこと;「構想から構成」
- ◎質問5 審査委員を引きつける「研究課題」の書き方
- ◎質問6 わかりやすく、読みやすい「概要」、「本文」の書き方
- 質問7 「アイデア」を如何にしてアピールするか
- 質問8 あなたの輝かしい「業績」をさらにアピールする方法
- 質問9 「図表」を効果的に用いるコツ
- 質問10 「見栄え」をよくする方法

## よく受けるご質問

- 質問11 「申請書を引き立てる表現」でお化粧直し
- 質問12 「研究経費」を書くときの留意点は？
- 質問13 「ウイルス感染症」、「SDGs」などの社会的なテーマは採択されやすいか？
- 質問14 教員以外の方が採択されやすい方法はあるか？
- 質問15 申請する前に「researchmap」に登録しよう
- 質問16 科研費は、どのような変化があり、これからどのように変化するか？
- ◎質問17 採択されるために最も重要なことは？

2

## 僭越ですが、ご参考にしてください



詳しくは  
拙書



(2017年医学書院)

3

**質問 1 今年こそ「基盤研究B」に  
◎ アタックしたい、その秘伝（1）**

～総論的に言えば～

- ✓ その気になったら申請をする
- ✓ 研究費は基盤研究Cに比べ**約4倍**
- ✓ 3年目に採択されたら良い、  
との気持ちで果敢にチャレンジ

4

**質問 1 今年こそ「基盤研究B」に  
◎ アタックしたい、その秘伝（2）**

～ある程度実力があれば申請を～

- ✓ まず、自分の実力（研究実績、ネームバリュー等）を分析
- ✓ 申請は3～4年毎なので、「自分は教授クラスで上位60%  
講師クラスなら上位20%にいるか」と余裕を持って考える
- ✓ それを的確に知るには、「科研費データベース」を用いて  
採択されている研究者と課題を調べる
- ✓ 科研費採択は相対的評価。ちょっとした努力が採択への道

5

**質問 1 今年こそ「基盤研究B」に  
◎ アタックしたい、その秘伝（3）**

**～より確率高く採択される方法～**

- ✓ 研究組織を、他施設の研究者を加え重厚にする
- ✓ 優れた業績と先端的な研究手法により研究計画の実現性を高める。しかし無闇矢鱈に多くしない
- ✓ 研究期間が4年以上の「基盤研究A・B・C」、3年以上の「若手研究」を取得している人は、「最終年度前年度応募」を活用してワンランク上にトライする（次頁）
- ✓ 「若手研究」の2回目は「基盤研究S、A、B」に重複応募が可能になった（改正点）

6

**◎ 最終年度前年の申請を推奨する**

応募が可能な条件		新たに応募できる研究種目
特別推進研究、 基盤研究(S・A・B・C)	研究期間 4年以上	・特別推進研究 ・基盤研究(S・A・B・C)
	4年以上	・基盤研究(S・A・B・C)
若手研究、 若手研究(A・B)	4年以上	・基盤研究(S・A・B・C)
	3年	・基盤研究(S・A・B)

詳しくは、9月に公表された公募要領をご確認ください

7

## 質問2 「4つの評定（審査）基準」

### ◎ 知らずして採択なし（その1）

#### （1）研究課題の学術的重要性

- ・ 推進すべき研究課題か
- 1 ・ 学術的「問い」は明確か
- 1 ・ 独自性や創造性は認められるか
- 2 ・ 着想に至る経緯は明確か
- 2 ・ 国内外の動向や位置づけは明確か
- ・ より広い学術、科学技術、社会への波及効果が期待できるか

最重要

赤字の指示内容は、申請書作成の説明事項にはない ⚠

■ これらのキーワードを、小見出しや強調体にしてしっかり書き込む

■ 必ず、日学振のHPをご覧ください

8

## 質問2 「4つの評定（審査）基準」

### ◎ 知らずして採択なし（その2）

#### （2）研究方法の妥当性

- 1 ・ 研究目的は明確か
- 1 ・ 研究方法等は具体的かつ適切か
- ・ 研究経費は計画と整合性があるか

#### （3）研究遂行能力及び研究環境の適切性

- 3 ・ 十分な遂行能力を有しているか  
（これまでの研究活動等からみて）
- 3 ・ 研究施設、設備、資料等、研究環境は整っているか

#### （4）研究経費の妥当性

- ・ 内容は妥当で、有効に使用されているか
- ・ 設備備品の経費は、研究に必要なものか
- ・ 各経費は90%を超えていないか

9

### 質問3 「審査委員」の心を掴み、採択も掴む ◎ (その1)

- 審査委員は、その領域の専門家とは限らない
  - ・ 専門外でも分かるように、やさしく書く **最重要**
  - ・ 分かってもらえないと、評価されない

- 審査委員は、多忙な人たちである **最重要**
  - ・ 読む気にさせる
  - ・ 研究目的（特に概要）に力を入れる

この数字が  
意味するもの  $\frac{120 \text{ (審査する申請書数)}}{\text{年末年始の}30 \text{ (審査日数)}} \div 4.0$

10

### 質問3 「審査委員」の心を掴み、採択も掴む ◎ (その2)

摘 要 基盤 (S)、基盤 (A)、挑戦的研究  
方 法 同一審査員による書面審査+合議審査  
審査員数 6 - 8名  
書面審査 評点 S (10%)、A (10%)  
B (10%)、C (70%)  
審査数 ~60件程度

上位10~20%に入ること

11

### 質問3 「審査委員」の心を掴み、採択も掴む ◎ (その3)

重要

摘 要	基盤 (B)、基盤 (C)、若手研究
審査員数	基盤 (B) 6 名 基盤 (C) および若手 4 名
一段階審査	4段階総合評価 4 (10%)、3 (20%)、2 (40%)、1 (30%)
二段階審査	審査数 ~ 120 件程度 採否のボーダーラインの課題を対象

普遍的に評価されること

上位30%に入ること

12

### 質問4 申請書を書く前にすべきこと： ○ 「構想から構成」

重要

- ① 構想を練る
- ② キーワードを列挙する
- ③ それらの構成を考える
- ④ 最後に、書き始める

- ・ 構想から構成までが重要
- ・ そこに相当の時間を費やす
- ・ ⚠ いきなり書かない

13

## 質問5 審査委員を引きつける

### ◎ 「研究課題」の書き方（その1）

- 次の「概要」とで、審査委員の心を捉える
- 審査委員は、最初に必ず「研究課題」を見る

「どんな研究だろう？」

「他の申請書とちょっと違うな！」

と思われ、興味を持ってもらう



そのためには

**「学術的+インパクト」あるタイトルが必要**

14

## 質問5 審査委員を引きつける

### ◎ 「研究課題」の書き方（その2）

1) 以下の言葉を用いた申請書は少ないので、  
他の申請書との違いをアピールできる

- 新規性、独創性、発展性、アイデア
- 学術的および**社会的**な意義
- 社会への還元、**波及効果**
- 新しい研究手法や考え方

2) これらを、最初と最後に入れると目立つ

15

## 質問5 審査委員を引きつける

### ◎ 「研究課題」の書き方（その3）

#### 研究内容をわかりやすく示す方法

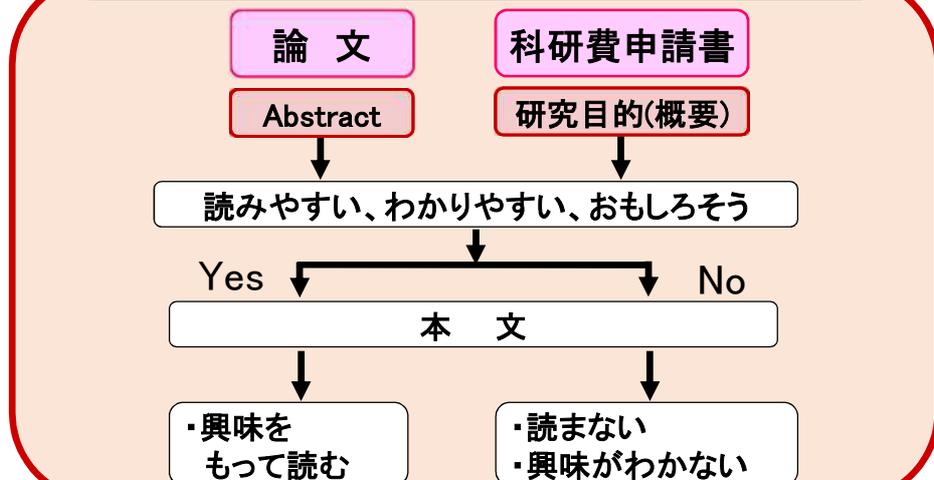
- 研究のキーワードを的確に入れる
  - ✓ 書き終えた申請書の中からキーワードを選ぶ
  - ✓ その中から、要らないキーワードをけずる
  - ✓ それらのキーワードを用いてタイトルにする
- この手法により、タイトルと本文の内容を一致させることができる

16

## 質問6 わかりやすく、読みやすい「概要」と

### ◎ 「本文」の書き方（その1）

#### ～「概要」の書き方で採択は決まる～



17

質問6 わかりやすく、読みやすい「概要」と  
◎ 「本文」の書き方（その2）

重要

採択される「概要」を書くコツ

- いきなり「概要」を書かない
- 単文にして、「起承転結」別に書き並べる（後述）
- 「概要」は10数行なので、約450字しか書けない
- 単文は40文字以内なので、15ほどの単文しか書けない
- それらの単文を厳選して、文章にする
- 「申請書を引き立たせる表現」で「見栄え」を高める（後述）

18

質問6 わかりやすく、読みやすい「概要」と  
◎ 「本文」の書き方（その3）

基本型は「起承転結」

重要

研究目的

- 起 研究の学術的背景
- 起 研究課題の核心をなす学術的「問い」
- 起 本研究に関連する国内・国外の研究動向及び位置づけ
- 承 応募者のこれまでの研究成果を踏まえ
- 転 着想に至った経緯
- 結 研究期間内に何をどのようにどこまで明らかにしようとするのか
- 結 本研究の学術的な独自性と創造性

19

質問6 わかりやすく、読みやすい「概要」と  
◎ 「本文」の書き方（その4）

～「起」の書き方～

重要

起

1. 本研究の ○○○ を導くように書く
2. 本研究の学術的、社会的な重要性を強調する
3. 一般的な事項をダラダラ書かない
4. 熱心な研究者に多い傾向だが、専門用語や内容を書き並べない
5. 自身や研究分担者の研究業績を引用する

20

質問6 わかりやすく、読みやすい「概要」と  
◎ 「本文」の書き方（その5）

～「これまでの研究成果」の書き方～

重要

承

- 着想や創造性、独自性を強調する （評定基準）
- 学術的・○○○ 価値の高さを書く
- これまでの研究が評価されていれば書く
  - 受賞、特別講演、論文、助成金、特許など

21

質問6 わかりやすく、読みやすい「概要」と

◎ 「本文」の書き方（その6）

～「本研究の着想や経緯」の書き方～

転

重要

- これまでの研究の延長線にあることを示すと  
**研究環境**が高いと評価されやすい （評定基準）
- 基盤となる成果がなければ、**研究遂行能力**が低いと評価される （評定基準）
- 現在の研究での未解決や疑問点を着想にする
- 先端的な**研究手法**を書くのは効果的

22

質問6 わかりやすく、読みやすい「概要」と

◎ 「本文」の書き方（その7）

～「結」の書き方～

結

（その1）

重要

- 多岐にわたる研究目的は ○○○○ にする
- 多岐にわたる研究では、研究計画の流れを  
**図示**するのも良い （後述）

上記により、審査委員は、重厚な研究と感じ、  
理解しやすくなる

23

## 質問6 わかりやすく、読みやすい「概要」と

### ◎ 「本文」の書き方（その8）

結

（その2）

～「結」の書き方～

重要

- 謙虚深くも率直に、あなたの研究のすぐれた点を書く

- 「認定基準（審査基準）」の文言をそのまま用いて、問いに答える形で書く

- 本研究の波及効果は、.....
- .....が本研究の独自性だといえる

最重要

- 学術面だけでなく、社会的にも意義があることを述べる

24

## 質問7 「アイデア」を如何にして アピールするか（その1）

重要

～アイデア重視がさらに強まる～

申請書の以下の3項目で表現を変えて書く

- 研究課題の核心をなす学術的「問い」
- 本研究の独自性、創造性
- 着想に至った経緯

25

## 質問7 「アイデア」を如何にして アピールするか（その2）

### ～アイデアをいかにして養うか～

- 「なぜ？」の純粹な心を持つ
- 定説や固定概念にとらわれない、自由な発想
- 鋭い観察力や洞察力を、日頃の訓練で磨く
- 心と時間のゆとりを持って研究する

26

## 質問7 「アイデア」を如何にして アピールするか（その3）

### ～アイデア（着想）や独創性に乏しい4つの型～

- 追試型
- 治験型
- ～ない型
- 新物好き型

詳しくは  
拙書  
P.73

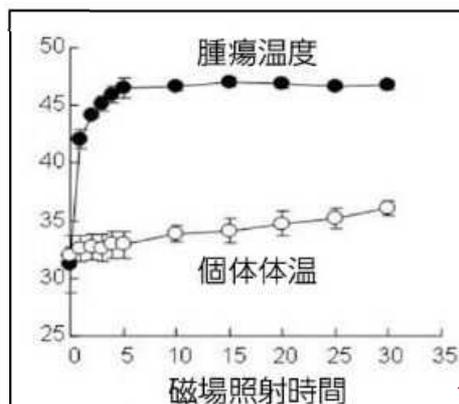
27

**質問 8 あなたの輝かしい「業績」を  
さらにアピールする方法（その1）**

- ① 本文中に、自分たちの主要業績を引用する
- ② 過去の科研費採択実績を示す
- ③ 学術的および社会的評価を書き添える
- ④ researchmapを必ず更新する **重要**
- ⑤ 業績が多い時は、箇条書き、図表 **(後述)**
- ⑥ 研究業績がない時は、研究が進行中であることを図表または本文中に示す **(後述)** **最重要**
- ⑦ 研究組織の重厚さを示す **(前述)**

28

**質問 8 あなたの輝かしい「業績」を  
さらにアピールする方法（その2）**



温熱治療は腫瘍を特異的に加熱する。  
(予備実験, 投稿中)

未発表データを  
示す例

**重要**

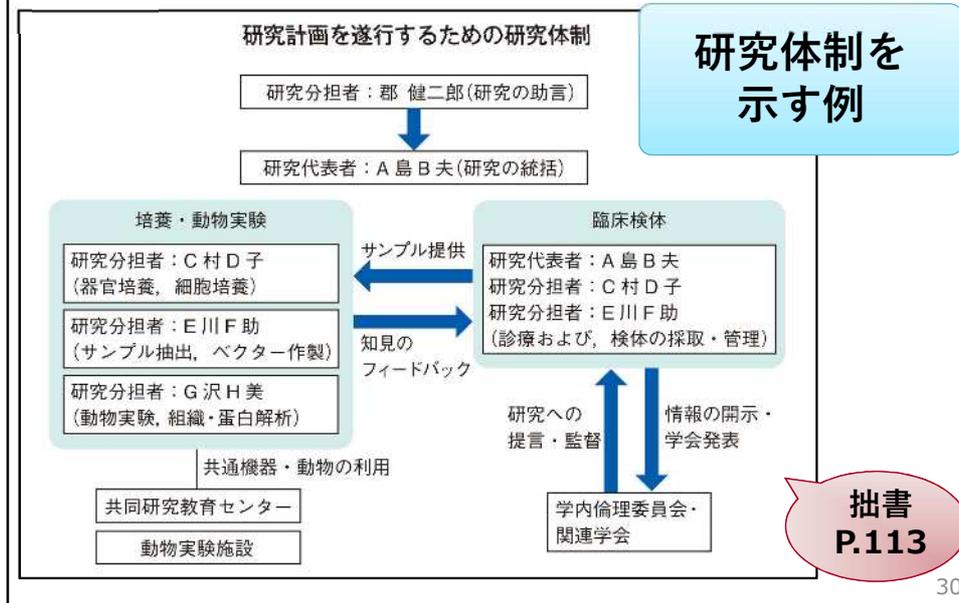
説明文を入れる

投稿中を示す

拙書  
P.95

29

## 質問8 あなたの輝かしい「業績」をさらにアピールする方法（その3）



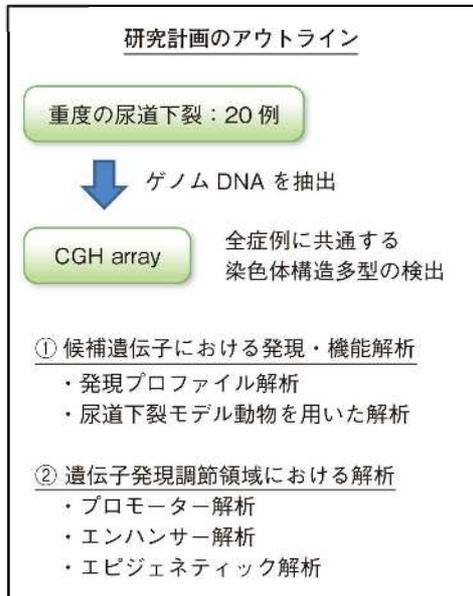
## 質問9 「図表」を効果的に用いるコツ（その1）

- 論文や学会で用いた図表を作り直す 重要
- 本文の理解度を高めるために用いる
- 余白を利用するために用いる
- 予備実験・未発表データを示す (前述)
- 白黒印刷して判別できるか調べる 重要
- 図表にタイトル・簡単な説明文をつける
- サイズは名刺大 (名市大)
- 読める文字、わかりやすい図に作り直す

拙書  
P.145

31

## 質問9 「図表」を効果的に用いるコツ（その2）

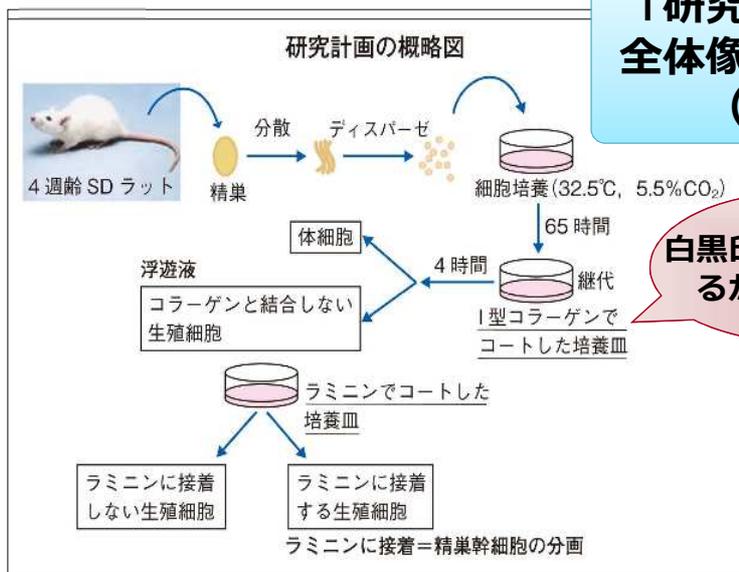


「研究計画」の全体像を示す例 (I)

拙書 P.103

32

## 質問9 「図表」を効果的に用いるコツ（その3）



「研究計画」の全体像を示す例 (II)

白黒印刷で判断できるか調べること

拙書 P.109

33

## 質問10「見栄え」をよくする方法（その1）



I. 項目ごとに「小見出し」をつけ、太文字またはアンダーラインをつける

- 読みやすくする
- 見栄えを良くする

II. 余白を作らない。余白の有効利用として、

- 図表
- 文献
- 脚注

III. ゆとりの余白を忘れない

- 文字を減らす
- 箇条書き
- マージン
- 段落
- 行間

34

## 質問10「見栄え」をよくする方法（その2）



### 用いるべきもの

- 小見出し
- 箇条書き
- 図表
- 項目・段落
- 上下左右のマージン
- 言いたいことの強調
  - ゴシック体
  - アンダーライン
  - 「 」

### 控えるべきもの

- せまい行間・文字間隔
- 英語、専門用語・略語
- 漢字は**30%**以内に
- 一文は**40**字以内に

拙書  
P.80, 81, 94

35

## 質問10「見栄え」をよくする方法（その3）

○

申請書全体を統一したレイアウトにする

- 文字（フォント、サイズ） ■ 段落間・行間・文字間の幅
- 通し番号のつけ方 ■ 同じ意味なら同じ言葉
- 表現・文体

拙書  
P.80, 81, 94

※早くから作成する時に統一感を失うので注意

36

## 質問10「見栄え」をよくする方法（その4）

○

「つかみの一文」の書き方のコツ

拙書  
P.152

- ① 短い文
- ② キャッチフレーズになる文
- ③ 読者が想定していない内容
- ④ 次に、何が続くのだろうと期待を持たせる文
- ⑤ タイトルや小見出しを兼ねている分

37

## 質問10 「見栄え」をよくする方法（その5）

○

### 表現をシンプルにする例

拙書  
P.156

実施する	→ おこなう（する）	同定を試みる	→ 同定する
施行する	→ おこなう（する）	挙げられる	→ ある
獲得する	→ 得る	着想するに至った	→ 着想した
～を有しており	→ ～があり	～という事柄を	→ ～ということ
存在する	→ ある	示唆する	→ 示す

38

## 質問11 申請書を引き立てる表現で お化粧直し（その1）

○

### I. 「起」で主に用いる表現（研究の動向・位置づけ）

説明型	～注目すべき	報告があった 発表された
	～はいまだに	あきらかでない 解明されていない
注目型	～の開発が	注目されている 学術的に意義がある
課題型	～の開発が課題が	残されている 解決されていない
	～の解明が	急がれる 必要である

詳しくは  
拙書  
P.158

あなたの  
オリジナルを  
追加して

39

## 質問11 申請書を引き立てる表現で ○ お化粧直し（その2）

### II. 「承」で主に用いる表現（あなたの研究成果）

#### I 業績をアピールして表現する

連関型	「これら一連の研究において」
世界初型	「～を実現した」
	「世界で初めて発見した」
発展型	「～に発展し」
	「～への波及効果がある」
評価型	「社会に貢献した」
	「国内外から高い評価をうけた」

詳しくは  
拙書  
P.158

あなたの  
オリジナルを  
追加して

#### II 研究の準備状況を表現する

	「～の知見を得ている」
	「～を準備(確率, 報告, 計画, 到達)している」

#### III 研究計画を表現する

	「～を見い出す」
	「～を明らかにしたい」

40

## 質問11 申請書を引き立てる表現で ○ お化粧直し（その3）

### III. 「転」で主に用いる表現（研究の着想）

#### I 新規性・独創性を力強く表現する

- 「～に着目(着眼)した」
- 「先端的な点は～である」
- 「私たちが考案した分析法により～」
- 「～が特色(特徴, オリジナル)である」
- 「～を進化(発展)させ」

詳しくは  
拙書  
P.159

あなたの  
オリジナルを  
追加して

#### II 研究の対象・手法を魅力的に表現する

- 「～を応用(工夫, 活用)する」
- 「～の観点(4つの点, 両面, 側面)から」
- 「～の仮定のもと」
- 「～の結果を踏まえ」

41

## 質問11 申請書を引き立てる表現で ○ お化粧直し（その4）

### IV. 「結」で主に用いる表現（研究目的、特色、発展性）

これらの結果を踏まえ～ この実績をもとに～ 研究体制は継続して～	～研究する	詳しくは 拙書 P.159	
	～開発する		
	～解明する		
	～検証する		
	～証明する		
	～確立する		あなたの オリジナルを 追加して
	～取り組む		
	～目ざす		
	～実現させる		
	～発展させる		
	～目的とする		
	～につなげる		
	～臨床応用する		

42

## 質問11 申請書を引き立てる表現で ○ お化粧直し（その5）

### V. 文の接続に有用な表現

冒頭で切り出す ときに用いる	「本研究の成果は」 「本研究の目的は」 「本研究の独創的な点は」	詳しくは 拙書 P.159
次へと展開する ときに用いる	「この研究により」 「これらを発案して」 「～をもとに発想し」 「そこで本研究では」 「以上のことをもとに」 「～のアイデアのもと」	あなたの オリジナルを 追加して
最後にまとめる ときに用いる	「これらの成果から」 「以上の結果をもとに」 「こうした研究を通じて」 「これまでの～を分析し」 「本研究の社会的意義は」	これらは論文や 学会抄録にも 有益です

43

## 質問12 「研究経費」を書くときの留意点は？ (その1)

- ✓ 研究費は、採択後も規則に従って使用する
- ✓ 研究計画と経費の内容を一致させること  
申請書の書き始めと終わりとの時間が経つと、  
研究計画が大きく変わることがある。その時は注意
- ✓ 研究経費の額は、研究遂行に必要な限度額を書く
- ✓ 具体的な数字や名称を詳しく書くことで、審査委員に  
研究の実現性が伝わる

44

## 質問12 「研究経費」を書くときの留意点は？ (その2)

### [設備備品費の明細]

- ・ 1式10万円以上の物品等
- ・ 設置機関を記載する  
(設置機関が申請者の所属機関と異なっても、調書から  
その旨が読み取れるならOK)

### [消耗品費の明細]

- ・ 1式10万円以下の物品等 (9万円のPCは消耗品)
- ・ 試薬、実験動物は高額でも消耗品費
- ・ 事務用品もまとめず、記録用メディア、トナー、  
印刷用紙と記載することで目的が明確化

## 質問12 「研究経費」を書くときの留意点は？ (その3)

### [国内・外国旅費の明細]

- ・ 学会旅費以外でも、研究打合せ、情報収集なども記載できる
- ・ 参加する学会名が分かればできるだけ記載

### [人件費・謝金の明細]

- ・ 研究対象者への謝金、謝品、専門知識の提供を受けた講師への謝金
- ・ 研究補助などの人件費を記載する場合は、  
(3人×12月) (@5×7h×20日) と詳細を記入

### [その他の明細]

- ・ 学会参加費、解析委託費、保守料、通信費、  
郵送料、論文投稿料

## 質問13 「ウイルス感染症」、「SDGs」など ○ 社会的なテーマは採択されやすいか

- ✓ 東日本大震災の後には、その関連テーマが多く採択された
- ✓ 今回もその傾向があると思われるが、今回は同じ考えをする人は多いだろう。他人にはない一味違う申請書に！
- ✓ この種の申請は「挑戦的研究（萌芽）」が一般的だが、採択率は約10%であるため、「基盤研究」でも良い

## 質問14 教員以外の方が採択されやすい方法は？



～新たな申請者を奨励する～

- ✓ 研究員・若手研究者
  - ・業績がなくても、アイデアと見栄えで採択されるケースが増加
- ✓ 薬剤師・技師・看護師
  - ・全国的に申請者が急増中。申請区分を厳選すれば採択される

48

## 質問15 申請する前に「researchmap」に登録しよう

- ・ 審査システムには、各研究者のresearchmapページのリンクが直接貼りつけられている
- ・ 審査委員は、researchmapに「一般公開」されている研究者情報全てを閲覧可能
- ・ 参照を希望する業績は必ず「公開」設定
- ・ 研究者番号の登録も忘れずに！

事務からのお願いです



**質問16 科研費は、どのような変化があり、  
これからどのように変化するか？（その1）**

これまで

国の施策により若手研究者への重点支援がおこなわれ、  
若手種目の採択率が上昇

これから

「若手研究者」の定義が、従来の「年齢」から  
「博士の学位取得後8年未満の研究者」へ変更

→「若手研究」へ申請していた博士号未取得の若手研  
究者が基盤（C）へ移行することで、基盤（C）の  
競争が激化？

50

**質問16 科研費は、どのような変化があり、  
これからどのように変化するか？（その2）**

これまで

3年前に「若手研究A」が「基盤研究B」に集約  
されたことにより、採択件数と採択率が上昇し  
たが、その大半は旧7帝が獲得した

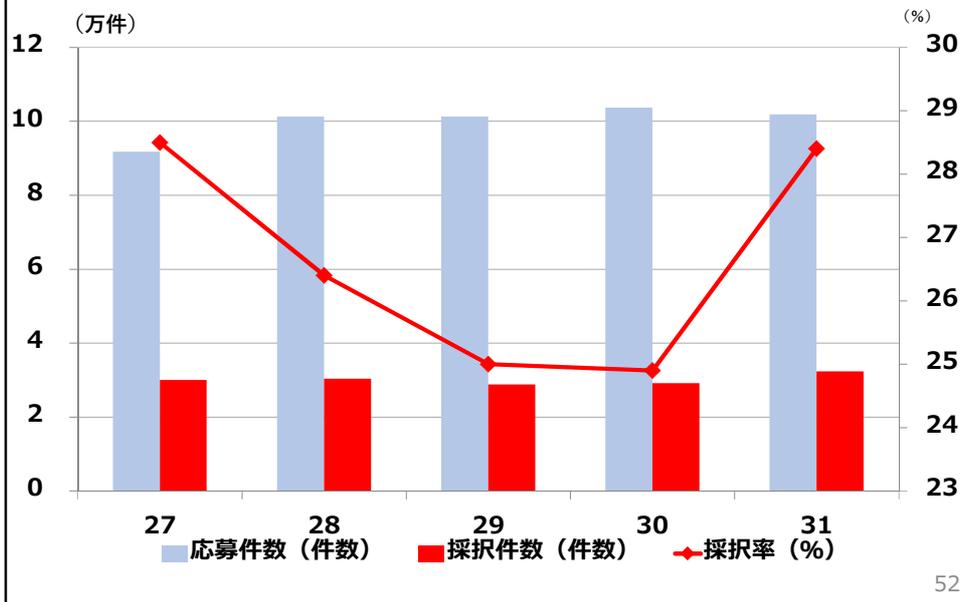
これから

「基盤研究B」をいかに獲得するかが課題

また、新しい種目（学術変革領域研究A・B）が  
できているので、それにもトライする（11月）

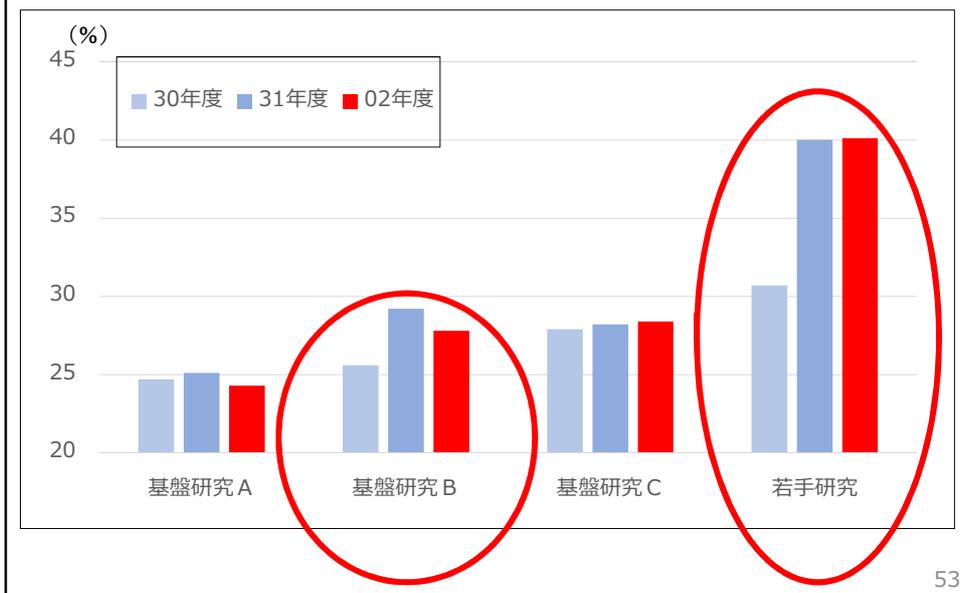
51

## 科研費の推移



52

## 科研費の新規採択率



53

科研費 新規採択件数 (基盤A)						
	H27	H28	H29	H30	H31	R02
全体	554	588	592	605	605	611
東京大学	84	94	69	100	88	100
京都大学	61	56	45	53	43	62
国立A大学	35	41	38	41	48	41
国立B大学	2	5	6	3	6	9
公立A大学	1	0	2	0	2	2
公立B大学	0	1	2	0	1	1

54

科研費 新規採択件数 (基盤B)						
	H27	H28	H29	H30	H31	R02
全体	2,446	2,609	2,563	2,965	3,327	3,393
東京大学	181	161	187	242	226	270
京都大学	143	145	162	199	199	205
国立A大学	128	146	112	133	160	152
国立B大学	29	27	25	31	44	32
公立A大学	4	11	7	10	18	16
公立B大学	9	15	7	12	15	14

55

科研費 新規採択件数 (基盤C)						
	H27	H28	H29	H30	H31	R02
全体	11,321	11,732	11,983	12,175	12,918	12,775
東京大学	287	280	273	328	324	314
京都大学	278	281	244	277	260	267
国立A大学	240	256	233	266	272	241
国立B大学	148	125	150	168	160	163
公立A大学	64	71	90	75	76	73
公立B大学	54	67	58	54	68	53

56

科研費 新規採択件数 (若手研究)						
	H27	H28	H29	H30	H31	R02
若手A	390	423	433	—	—	—
若手B	5,745	5,735	5,817	—	—	—
若手研究	—	—	—	6,256	7,831	7,496
<b>合計</b>	<b>6,135</b>	<b>6,158</b>	<b>6,250</b>	<b>6,256</b>	<b>7,831</b>	<b>7,496</b>
東京大学	363	319	361	352	378	398
京都大学	218	234	202	215	245	246
国立A大学	207	188	241	185	241	222
公立A大学	31	34	40	51	77	71

57

## 質問17 採択されるために最も重要なことは？

### ◎ (その1)

最重要

- 採択への王道は熱意と謙虚さ
- 書いた翌日に、声を出して読み直す
  - 誤字脱字が意外と多い
- 専門領域でない人に読んでもらう
  - その人が興味を持ち、理解しなければ採択されない
  - 本学ではピアレビュー制度

58

## 質問17 採択されるために最も重要なことは？

### ◎ (その2)

- 採択には、運不運
- 不採択でも、研究を続けて、次年度の採択を期す
- 全国的に、大学の基盤的研究費は減少
- 科研費の総額は約2,300億円で不変
- 最近、科研費申請の請負業者が出現
- 申請者は増え、採択率は低下（このような中での申請）
- 従来よりも数段レベルアップが必要

59

## 質問17 採択されるために最も重要なことは？

◎

(その3)

### 1 ドタバタ申請に採択なし

- ・ 早い目に準備する努力で採択される

### 2 早い目の準備で注意すべき点

- ・ 書き始めと終わりで内容が変わること
- ・ 多くの意見を聞きすぎて論旨がバラバラになること
- ・ 文体、通し番号、行間など書式上の統一性が無くなること
- ・ 同じ内容なのに違う用語を用いること  
(例 腎結石と尿路結石)

**重要**

60

名桜大学 科研費セミナー

2020.9.30

## 個人申請書公開添削

令和2年度（2020年度）若手研究 研究計画調査書

(1) これでもOKか

研究種目	若手研究											
小区分	金属材料物性関連											
研究代表者 氏名	(フリガナ) タテツヤストミ (漢字等) 立津 慶幸											
所属研究機関	名桜大学											
部 局	公私立大学の部局等											
職	准教授 (2) 若手ならもう少し多くする											
学 位	博士(理)											
エフォート	30%	博士号取得年月日 2013年3月31日										
応募要件	(1)2020年4月1日現在で博士号取得後8年未満											
研究課題名	第一原理計算と機械学習の組み合わせを用いた永久磁石材料への理論的展開											
研究経費 (千円未満の 端数は切り 捨てる)	年度		研究経費 (千円)					使用内訳 (千円)				
	令和2年度	2,669	設備備品費	1,114	消耗品費	70	旅費	1,457	人件費・謝金	0	その他	0
	令和3年度	1,522		252	110	980	30	150				
	令和4年度	809	0	0	629	30	150					
	令和5年度	0	0	0	0	0	0					
	総計	5,000	1,394	180	3,066	60	300					

(3) 最近4年が多い

① 「起承転結」を基本にすると審査委員に理解されやすい

③ 「承」をアピールしながら具体的に

② 「起」を一つにまとめる

1 研究目的、研究方法など

本研究計画調査は「小区分」の審査区分で審査されます。前述に当たっては、「科学研究費助成事業における審査及び評価に関する規程」（公募要領113頁参照）を参考にすること。

本欄には、本研究の目的と方法などについて、3頁以内で記述すること。

冒頭にその概要を簡潔にまとめて記述し、本文には、(1)本研究の学術的背景、研究課題の核心をなす学術的「問い」、(2)本研究の目的および学術的独自性と創造性、(3)本研究を何をもとに、どこまで明らかにしようとするのか、について具体的に「明確」に記述すること。

(概要)

ハイブリッド車の普及やロボット技術開発の進歩にともない、ネオジム磁石のさらなる高「高保磁力化」められている。高保磁力化を達成するためには、磁石界面近傍の微視的研究が必要であり、これまで申請者は「第一原理計算」電子状態解析が有効であることを示してきた。近年、磁石界面近傍に存在する副相Nd-Fe合金の構造をコントロールすることで、高保磁力化を達成できる可能性が実験的研究により示唆されている。

そこで本研究では、第一原理計算と合金材料の計算手法および機械学習を組み合わせ、多面的アプローチを展開することにより、ネオジム磁石界面における電子状態解析をすすめる。そして、副相Nd-Fe合金の構造と高保磁力の相関を電子論的描像から明らかにし、高保磁力機構の理論的考察をおこなう。この成果を、今後の高性能磁石材料開発の応用へと繋げたい。

④ 「転」がない 重要

⑤ 小区分すべての審査委員に理解される言葉か？（例えば「○○○○」など）

⑥ 指示書に従ってFullに書く

⑨ 図表で示すとインパクトup

(本文)

(1) 本研究の学術的背景と問い

Society5.0の提唱にともない、IoT、ロボット、AI、自動運転技術を搭載した自動車等の普及が一層高まることが予想されている。これらの発展に欠かせない材料として、磁性材料が挙げられる。特に世界最強磁石として知られるネオジム磁石の高性能化は、今後の需要拡大に応えるためにも、必要不可欠な研究課題である。ネオジム磁石の喫緊の課題として、磁石の性能指数である保磁力の熱耐性が低いこと、保磁力向上の鍵が不明確であることが挙げられる。したがって、高性能化を達成するためには保磁力の物理的機構、特に電子論的研究の推進が重要となる。申請者はその課題を解決する研究の一つとして、ネオジム磁石に微量添加されたCuが保磁力向上に起因しているという実験結果を、第一原理計算による手法を用いることで、この系における保磁力機構を電子論の立場から初めて合理的に説明した。

⑦ 小見出しをつける「1）本研究の学術的背景」

⑧ 段落が長いので改行

⑩ 一文が長い

本文 (1) (つづき)

⑪ **難しい内容は図示すると理解されやすい**

ネオジム磁石は、磁気特性を担う主相(Nd<sub>2</sub>Fe<sub>14</sub>B結晶粒)と、主相を覆う副相により構成される金属間化合物である。特に、主相と主相の間(2粒子粒界)に存在する副相はNdとFeを含むNd-Fe合金として知られており、主相間の磁氣的相互作用を分断し、磁壁移動を抑えることにより保磁力を向上させる性質があると考えられている。実際、最新の実験的研究からCuを微量に添加するケースに比べ、Nd-Fe合金相を安定的に存在させたネオジム磁石においては保磁力の向上が観測されている。この場合、2粒子粒界に存在する副相は結晶的な構造を取ることが示唆されている。見方を変えると、主相と副相(Nd-Fe合金)からなる界面の電子状態を制御することが、保磁力向上の鍵を握っていることになる。しかしながら、副相の結晶構造や界面構造は未確定であり、その物理的な要因については未だ理解されていない。その理由は、実験では電子状態を直接観測することが困難という、技術的な問題点に起因している。

したがって、ネオジム磁石の高保磁力化を達成するために ⑬ **これらは「着想」で (も) 書く**

- ・2粒子粒界相であるNd-Fe合金はどういった結晶構造を取る

⑫ **小見出しをつける  
「2) 研究課題の核心をなす学術的問い」**

若手研究 2

【1 研究目的、研究方法など (つづき)】

- ・結晶的な副相が界面近傍に存在する場合の界面構造はどうなっているのか
- ・副相の結晶化と保磁力向上には、はたしてどのような相関があるのか

という、疑問の解決が必要不可欠である。

⑭ **小見出し  
原文をそのまま用いる**

(2) 本研究の目的および学術的独自性と創造性

**目的**

本研究では、上述の疑問の解決に向けて、副相Nd-Fe合金の安定構造および主相・副相で構成される界面の第一原理計算を実行する。この系における電子状態解析により得られた結果を考察することで、保磁力向上の要因を電子論の立場から明らかにする。さらに、これまで研究を進めてきたCu添加の理論計算および実験結果と比較することで、保磁力機構の一般的理解へとつなげ、高保磁力化に向けた指針を提示したい。

**学術的独自性と創造性**

磁石材料界面の安定性は、単純に界面エネルギーを考慮するだけではならず、界面近傍の磁気特性も考慮する必要がある。そこで本研究では、副相Nd-Fe合金の構造と保磁力の関係性に焦点を当てる。その理由として、界面近傍で結晶化した副相の存在はCu添加の場合に比べ高保磁力であること、そして高保磁力化を添加元素に頼る必要がないことが挙げられる。

15-1 本文中では目立たない

15-2 「小見出しをつけて目立たせる」(3) 本研究の波及効果」

16 「着想」でも異なる表現で書く

17 枠をつける文字をワンサイズ大きく本図は良い

学術的独自性と創造性

磁石材料界面の安定性は、単純に界面エネルギーを考慮するだけではならず、界面近傍の磁気特性も考慮する必要がある。そこで本研究では、副相Nd-Fe合金の構造と保磁力の関係性に焦点を当てる。その理由として、界面近傍で結晶化した副相の存在はCu添加の場合に比べ高保磁力であること、そして高保磁力化を添加元素に頼る必要がないことが挙げられる。このことから、第一原理計算の立場から副相の結晶構造と保磁力の物理的機構を理解することができれば、高保磁力化の指針が得られるのではないかとこの着想に至った。

この研究を逆行するためには、数百~千原子を扱う大規模モデル界面系の構成と計算が必要であり、その実行のためのアイデアとして申請者は以下の点に着目した。

- これまで合金材料に適用されてきた手法を、副相の結晶構造探索に応用
- 大規模モデル界面系の効率的な最適構造を機械学習の手法により探索
- 大規模計算に有効なOrder(N)法を用いてモデル界面系の計算を実施

ネオジム磁石の界面は複雑であるため、合金材料および機械学習の手法を第一原理計算と組み合わせることにより革新的に電子状態を理解する研究は有用かつ独創的である。

この研究が達成された際には、ネオジム磁石界面における構造制御の重要性に対する理解が深まり、高保磁力材料開発をより加速する波及効果があると考えられる。本研究は、材料界面と材料特性の関連性を電子論的立場から解明していく基礎研究であり、今後は磁石材料に関わらず界面が重要な役割を担っている材料研究への進展が期待できると考えている。本研究の直接的な対象ではないが、界面構造と保磁力の関係性に着目した理論的研究は存在しないため、今後はそういった理論研究にも発展・応用できるのではないかと期待している。

(3) 本研究で何をどのように、どこまで明らかにするのか

副相Nd-Fe合金の安定性、そしてネオジム磁石大規模モデル界面系の電子状態と保磁力の関係を、徹視的な立場から明らかにする。国産の第一原理計算コードであるOpenMXを用いて研究を進める。本研究は次の3段階により構成される(右図参照)。

研究計画のアウトライン

研究の構成	研究方法
① 副相構造探索	SQS・第一原理計算
② 界面構造探索	大規模界面構造作成 機械学習・第一原理計算
③ 界面の電子状態と保磁力の関連性	電子状態の詳細な解析 磁気異方性、電子状態密度 電荷密度と構造の可視化

18 前述の研究計画アウトラインと 同じタイトル 又はキーワードにする

19 この頁は文字だらけ

20 漢字が多い、文章が長い

【1 研究目的、研究方法など(つづき)】

① 副相Nd-Fe合金の結晶構造同定と、そのエネルギー安定性

② 最安定な大規模系界面構造探索

③ 界面の電子状態と保磁力の関連性

【研究目的、研究方法など(つづき)】

① 副相Nd-Fe合金の結晶構造同定と、そのエネルギー安定性

本研究の目的は、副相Nd-Fe合金の結晶構造を同定し、そのエネルギー安定性を評価することである。Nd-Fe合金は、Fe原子の位置測定が難しいこともあって詳細な結晶構造は確定していない。合金は一般的に原子配置がランダムであるため、正確な再現性を確保するためには統計的手法を用いる必要があるが高コストであり、SQS (Spatial quasirandom structures)は低コストな合金構造計算の一つとして知られており、ATAT (Alloy Theoretic Automated Toolkit)というソフトウェアが実装されている。本研究では、第一段階としてdnpおよびfcc構造を仮定したNd<sub>4</sub>Fe<sub>4</sub>合金(φ = π/4)の初期モデル構造をSQSによって決定する。第二段階では、OpenMXを用いて結晶構造最適化をおこない、最適化構造を可視化することで結晶構造を保持しているNd<sub>4</sub>Fe<sub>4</sub>合金の同定を行う。最終段階では、得られたdnpおよびfcc-Nd<sub>4</sub>Fe<sub>4</sub>合金の生成エネルギーを比較し、安定構造を決定する。この研究は既に着手しているため、予定よりも早く②に着手する。

② 最安定な大規模系界面構造探索

得られた副相Nd-Fe合金と主相Nd<sub>4</sub>Fe<sub>4</sub>によって構成される、Nd<sub>4</sub>Fe<sub>4</sub>/B-Nd<sub>4</sub>Fe<sub>4</sub>モデル界面系の安定構造を明らかにする。事前見限りから、モデル界面系は数百~千原子を有し、計算時間の長期化が予想されるため、Order(N)法を用いた短期化を図る。安定界面構造の決定には、主相に対する副相の3次元方向の自由度(界面法線方向と垂直方向)を考慮し、全ての自由度に対する界面系の構造最適化が必要となるが計算時間が膨大となるため現実的である。そこで、本研究では機械学習の手法の一つであるベイズ最適化の手法を用いることで探索時間を大幅に削減し、安定界面構造を決定する。安定界面構造の決定には、界面エネルギーを指標とする。ベイズ最適化は、Pythonを用いて実装を行う。界面構造作成のプログラムを解析および作業効率化のためのスクリプトはこれまでの研究ですでに完了しているため、機械学習と第一原理計算を組み合わせた構造探索はスムーズに進められる。

③ 界面の電子状態と保磁力の関連性

保磁力方向に関わると思われる物理的起因を、徹視的な立場から理論的に明らかにする。その達成に向けて、②で得られた最安定Nd<sub>4</sub>Fe<sub>4</sub>/B-Nd<sub>4</sub>Fe<sub>4</sub>モデル界面系における界面近傍の電子状態を解析する。特に、ネオジム磁石の保磁力と強い相関を示すことが示唆されているNdの結晶磁気異方性係数およびFeの磁気異方性エネルギーの計算をおこなう。モデル界面系において、これら異方性の向上または低下が見られる箇所に対し詳細な電子論的解析を進め、その物理的起因を特定する。具体的な手法としては、各電子成分の電子状態密度解析や電子状態の可視化を実施する。また、主相・副相間の交換結合定数についても詳細に調べる。

得られた結果と、以前研究を進め界面に乱れを模擬したCu添加型界面系の結果を比較し、保磁力方向上の原因を明らかにする。また、②において「界面エネルギーが低い」Nd<sub>4</sub>Fe<sub>4</sub>/B-Nd<sub>4</sub>Fe<sub>4</sub>モデル界面系の探索だけでなく、「界面磁気異方性の高い」Nd<sub>4</sub>Fe<sub>4</sub>/B-Nd<sub>4</sub>Fe<sub>4</sub>モデル界面系の探索へと拡張することで、より深い整理と考察が可能であると考えている。

21

P.3と同じ  
図表・小見出しなど改善が必要

若手研究 4

2 本研究の特色にまつ組織など

本欄には、(1)本研究の特色にまつ組織と連携状況、(2)実施する国内外の研究動向と本研究の位置づけ、(3)ついて1頁以内で記述すること。

日本研究の特色にまつ組織と連携状況

ネオジム磁石表面の電子状態計算に関しては、古典分子動力学(QMD)を用いた表面構造と磁気異方性の計算がある[2]。Hikasa et al. Appl. Phys. Lett. 97, 232111 (2010)。しかし古典QMDの方法では、計算結果が使用したモデルポテンシャルに依存するうえ、低エネルギーである磁性現象を説明するほどの精度はなく、磁性物質に対する計算は信頼性が低い。実際、先行研究により得られた表面構造は実験との不一致が見られるほか、表面磁気状態の議論が難しいという点で不満が残る。したがって、磁石材料表面の正確な構造や電子状態を得るためには、信頼性の高い第一原理計算を用いたアプローチが必要条件となる。

また、磁石の保磁力機構をナノスケールから理解するためには、副相の組成および構造決定の重要性が高いことも弊害する一因である。なぜなら、保磁力は副相と主相により形成される材料組織界面の構造および磁気的な性質と密接に関わっていることが示唆されているからである。これまでの実験から、ネオジム磁石の副相は主にNdとFeで構成される合金であることが分かっている。合金の不規則性を再現するための計算手法であるSQSは、合金材料分野で利用されている。この手法のメリットは、低コストで合金のランダムネスを再現できることが挙げられる。この手法をネオジム磁石の副相Nd-Fe合金に適用することで、この合金の安定構造を探索できるのではないかという発想に至った。また、大規模表面系の計算は、基本的に数千原子を扱うビッグデータとなるため、ビッグデータを扱う機械学習と相性が良いのではないかという発想が、計算コスト削減のアイデアへとつながった。

SQSの計算プログラムは、ATATとして公開されている。また、機械学習プログラムに関してはPyDssにより開発は容易である。また、多くのパッケージが無料で公開されているため必要に応じてそれらも適宜使用する。大規模表面の構造を作成するコンピュータープログラムの開発は既に完了しているため、SQSを用いた副相構造決定後、大規模表面系の計算に着手できる状態である。また、磁性材料の性能を記述する上で重要な物理量であるNd、Feの結晶磁気異方性および交換結合パラメータの計算プログラムの整備も既に完了しているため、幅広い視点からの議論が可能である。これらの計算は物性研究所のスーパーコンピューターの利用申請をおこない、計算資源を確保することで円滑に実施する。

(2) 実施する国内外の研究動向と本研究の位置づけ

佐川真人氏が発見した世界最強磁石であるネオジム磁石からも理解されるように、磁石分野における日本の貢献度は高い。ネオジム磁石に関しては、ここ数年間で多くの実験・理論研究が進められ、その性能は着実に向上してきている。この背景には、国内の磁石メーカーの努力と大学・研究機関による基礎研究の連携が挙げられる。国外においては、主にヨーロッパを中心に新たな磁石材料探索に関心が集まっているが、計算科学的な視点からは磁石を構成する主相の電子状態に着目しているケースのみであり、表面に対するアプローチは存在しない。本研究では、ネオジム磁石の副相の安定構造、表面構造の電子状態が保磁力に及ぼす影響をナノスケールの立場から理解する。この研究により得られた知見を、実験家にフィードバックすることで、これまでの磁石作製プロセスとは異なる新たなプロセスをもたらしうる波及効果があると考えている。

22

科研費などあれば採択歴をかく

若手研究 5

23

3 応募者の研究遂行能力及び研究環境

本欄には応募者の研究計画の実行可能性を示すため、(1)これまでの研究活動、(2)研究環境（研究遂行に必要な研究施設・設備・研究資料等を含む）について2頁以内で記述すること。

「(1)これまでの研究活動」の記述には、研究活動を中断していた期間がある場合にはその説明などを含めてもよい。

(1)これまでの研究活動

世界最強磁石として知られるネオジム焼結磁石では、周囲の環境が高温になると保磁力が著しく低下する問題がある。現状では、Dyという希少かつ高価な元素を添加して保磁力の耐熱性を上げているが、Dyが価格変動しやすいという問題も抱えている。Dyよりも安い元素を微量に添加することにより、ネオジム磁石の保磁力を向上させた実験的研究が物質・材料研究機構(NIMS)を中心に数多く報告されている。これらの微量添加元素は様々な手法を用いた実験研究により、界面近傍に存在することが確認されている。そのため、これらの添加元素は保磁力向上の直接的な要因と考えられているが、その役割は理解されていなかった。特にCu添加による保磁力向上は興味深いテーマの一つであった。

そこで申請者は、材料組織界面近傍のCuがネオジム焼結磁石の保磁力を向上させるという実験に着目し、界面近傍にあるCuがどのような役割を担っているか、第一原理計算を用いて界面近傍の電子状態および磁気状態の解析をおこなった[1-3]。具体的には、界面近傍の構造歪や保磁力と直結する物理量であるNdの磁気異方性定数の解析をおこなった。実験で界面近傍に存在が確認されている副相Nd<sub>2</sub>Oと主相Nd<sub>2</sub>Fe<sub>14</sub>B、そして1個のCu原子を界面近傍に配置した界面モデル構造に対し計算を進めた。主相・副相の格子ミスマッチを小さくするために、

この小区分（領域）で名前が通った人が理想研究協力者（指導者）を入れた組織図があれば良い

## 若手研究 7

## 4 人権の保護及び法令等の遵守への対応（公募要領4頁参照）

本欄には、本研究を遂行するに当たって、相手方の同意・協力を必要とする研究、個人情報の取扱いの配慮を必要とする研究、生命倫理・安全対策に対する取組を必要とする研究<sup>①</sup>など指針・法令等（国際共同研究を行う国・地域の指針・法令等を含む）に基づく手続が必要な研究が含まれている場合、講じる対策と措置を、1頁以内で記述すること。

個人情報を伴うアンケート調査・インタビュー調査・行動調査（個人履歴・映像を含む）、提供を受けた試料の使用、ヒト遺伝子解析研究、遺伝子組換え実験、動物実験など、研究機関内外の倫理委員会等における承認手続が必要となる調査・研究・実験などが対象となります。

該当しない場合には、その旨記述すること。

コンピューターを用いた数値実験であるため、該当しない。

24

すべての研究においてこの項は何らかを示すこと

## 令和2年度 名桜大学第4回FD研修会：総評

学生部長 池原秀人

令和2年度名桜大学第3回FD研修会は令和2年10月30日に学生会館（SAKURAU）3階・大講義室Bにおいて開催された。本研修会は「合理的配慮を要する学生の支援について～具体的事例をとおした配慮の方法～」をテーマとして筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンターの脇貴典氏よりご講演いただいた。

なお本研修会は、新型コロナウイルスによる感染症対策のため、Microsoft teams を通じたオンラインでのプログラム開催となった。

本研修会の目的は、障害学生支援に係る先進校の取り組みを紹介していただくことで、本学における支援体制制度の見直し及び改善について考えるきっかけを得るとともに実際の支援場面を例に挙げ具体的な支援策等を検討することにより学生支援の充実を期待したものである。

ご講演の主な内容は、発達障害への理解と具体的支援例、筑波大学における支援ツールや配慮手順などの紹介、教職員に求められる合理的配慮への基礎知識や支援への考え方についての講演に加え、仮想事例を用い実際の支援内容を検討図に沿って考えるワークプログラムで展開された。

障害のある学生を全学体制でサポートするにあたり窓口職員、授業担当者、担任や指導教員などそれぞれの立場に求められる基礎知識の説明や修学上の困難感評価のキーとなる科目の存在を知ることなど、具体的な例に沿いそれぞれに丁寧な説明があった後、プログラムの後半では実際の支援を検討するにあたり合理的配慮の妥当性を図るためのツールとして検討フロー図の紹介があり、配慮案を検討するためのチェックポイントが以下のように記された。

- ① 学生の機能障害と配慮案に理論的関連が認められるか
- ② 配慮案は該当授業の成績評価方法を変更するか
- ③ 配慮案は該当授業の成績評価基準を変更するか
- ④ 配慮案は教育課程の3つの方針を変更するか
- ⑤ 物理的・技術的制約、人的・体制上の制約、費用・負担の程度等を踏まえて実現可能であるか

これらのチェックポイントを踏まえフロー図に沿って配慮案を検討することで分かりやすく、支援の妥当性を可視化されていた。

本研修会は障害を抱える学生に対する高等教育機関における合理的配慮のあり方を仮想事例や支援手順の見直しを通じて、本学における障害学生支援の理解や学生支援の具体的な決定基準、教育的本質と支援の妥当性について理解を深める機会となった。

令和2年度 第4回名桜大学FD研修会  
第1回名桜大学SD研修会（合同） 実施計画

1. 目的：平成28年の障がい者差別解消法施行に伴いすべての国公立大学等において学生を含む障がい者への差別的取扱い及び合理的配慮の不提供の禁止が義務化された。本学でのさらなる支援体制充実のため、これまでの障がい学生支援に係る研修会の中でも質問や関心の高い発達障がい学生への支援に焦点を絞り、学外より特別講師を招き具体例を交えながら障がい学生支援への理解を深める。
2. 開催日時：令和2年10月30日（金）15：00～
3. 会場：学生会館 SAKURAUM 3F 大講義室 A・B 及び オンライン（Microsoft Teams）
4. 対象：本学専任教職員
5. テーマ：合理的配慮を要する学生の支援について ～具体的事例をとおした配慮の方法～
6. 講演内容：
  - ① 実際に困っている場面を見かけたことや相談を受けてから配慮支援につながるまでの流れ
  - ② 実際の支援の具体事例
  - ③ UD（ユニバーサルデザイン）を通した新しい学びの形：支援ツールなどの紹介と事例
  - ④ まとめ：合理的配慮やUDへのマインドセット
7. プログラム

時間	内容
14:30～（30分）	受付（遠隔参加の場合は、事前に教務課へ報告）
15:00～（5分）	開会のあいさつ （司会：学生部長 池原 秀人） 名桜大学 学生サポート委員長 玉井 なおみ
15:05～16:15 オンライン	講演 「合理的配慮を要する学生の支援について～具体的事例をとおした配慮の方法～」 ■発表者 筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター 助教 脇 貴典
16:15～（10分）	質疑応答
16:25～（5分）	閉会のあいさつ 名桜大学 学生部 保健センター長 大城 真理子
16:30	終了

※研修会には各自 PC 等をご持参ください。

※アンケートはオンラインで実施いたします。以下リンクよりアンケート回答の協力をお願いいたします。

回答するためには、Gmail において Garoon メールアドレスおよびパスワードを入力してログインしてください。

<https://forms.gle/wPxxjXVrmoWnB199>

# 合理的配慮を要する学生の支援について ～具体的事例をとおした配慮の方法～

筑波大学

ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター

脇 貴典



障害学生支援室 特別プロジェクト

Special Research Project on  
Support for Students with Disabilities

## 発達障害のある学生の存在が認識されてきている

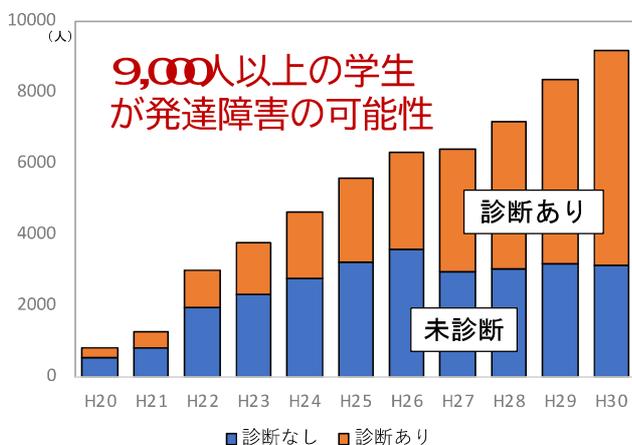


Fig 日本の高等教育機関における  
発達障害のある学生数の推移

◆ 日本の小中学校の学級担任を対象とした調査では、発達障害が疑われ、学習あるいは行動上の困難のある児童・生徒は6.9% (文部科学省, 2012)

◆ 発達障害の疫学調査  
・ ASDの有病率 (IQ70以上) : 1.1% (Faio et al., 2018)  
・ ADHDの有病率 : 5.29% (Polaczyk et al., 2007)  
・ SDの有病率 : 0.7-2.2% (稲垣ら, 2010)

➤ 発達障害、グレーゾーンの学生が複数在籍することを前提に学生指導をしていくことが必要

・ 有病率は、SDのみ日本人サンプルの疫学調査  
・ 発達障害のある学生の在籍数は、日本学生支援機構「平成30年度大学、短期大学及び高等専門学校における障害のある学生の修学支援に関する実態調査報告」より作成

# 大学等でよく見られる 発達障害の3つの特徴+α

## 軽度知的発達症 (mild-Intellectual Disabilities)

全般的な知的活動に制約

- ・ 抽象的な思考の難しさ
- ・ 系統立てて物事を進めるのが苦手

## 注意欠如多動症 (Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder)

注意力や感情をコントロールすることの難しさ

- ・ 作業に集中できないことがある
- ・ 忘れ物や落し物が多い
- ・ 系統立てて物事を進めるのが苦手
- ・ 動機付けの維持が難しい (行動や成果にムラ)

## 自閉スペクトラム症 (Autism Spectrum Disorder)

対人コミュニケーションや感覚の独特さ

- ・ 曖昧な表現の理解が難しい
- ・ ノンバーバルな表現やマナーをなんとなく身に付けることが難しい
- ・ 感覚特異性 (聴覚過敏など)

## 限局性学習症 (Specific Learning Disabilities)

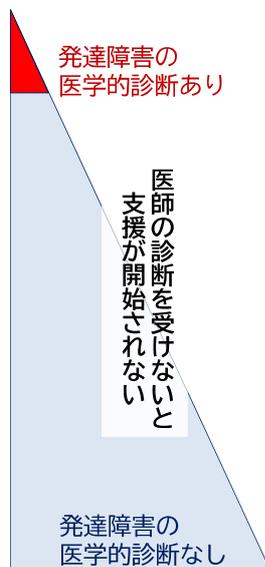
特定の学習が極度に習得しにくい

- ・ 主に読み書きが苦手
- ・ 外国語の単位習得が著しく難しい

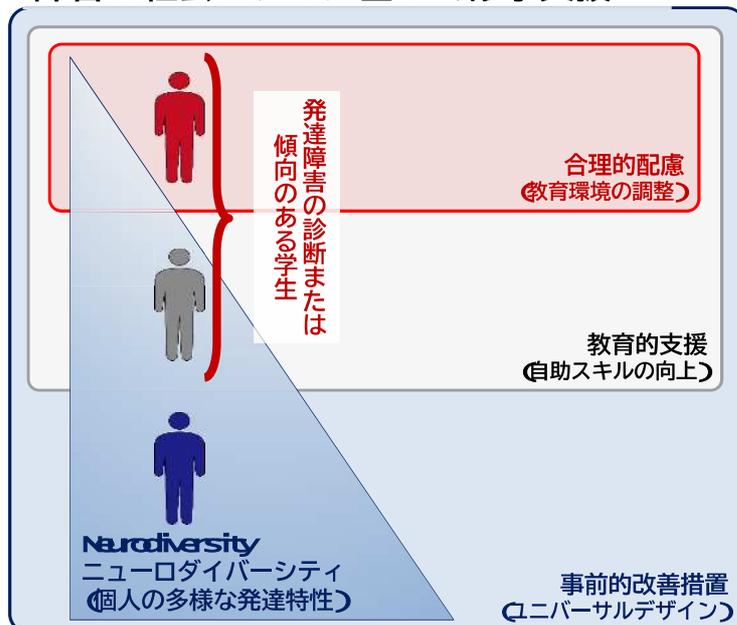


## 筑波大学における発達障害学生支援の基本的な考え方

### 医学モデル

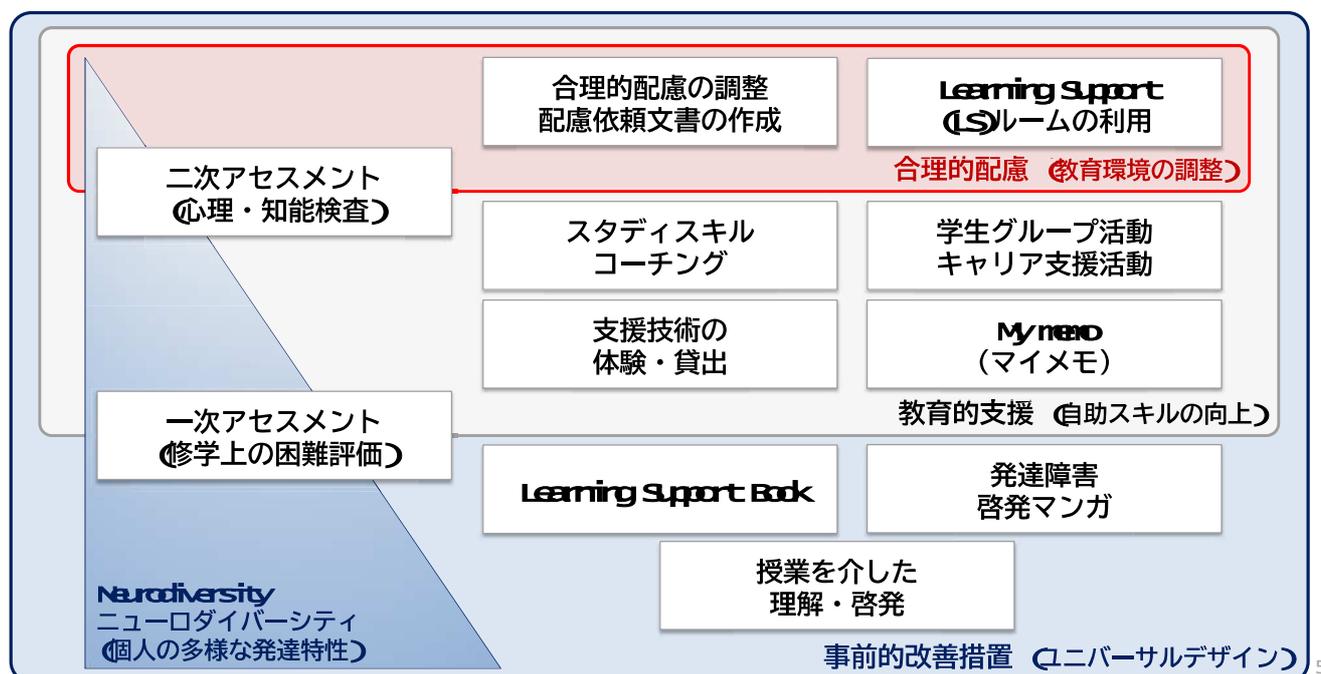


### 障害の社会モデルに基づく修学支援



発達特性と修学上の困難感に関する  
アセスメントに基づく多層的な修学支援

# DACセンターにおける学生支援サービス



## ニーズ別の支援選択

- 支援ニーズ (修学上の困難) の整理
  - ①ノート・メモを取ることの困難
  - ②試験上の困難
  - ③レポート・論文作成上の困難
  - ④タスク・スケジュール管理の困難
  - ⑤忘れ物への対応の困難
  - ⑥モチベーション・集中力維持の困難
  - ⑦会話・コミュニケーション上の困難
- セルフマネジメント = 自分と周囲の環境を調整する

# Learning Support Book (LSB)



## 【LSBの特徴】

- 発達障害のある方がもつ独自の視点や経験に関する情報を収集  
学業や生活に役立つ情報を配信  
特に発達障害学生に有効な  
ハイテク・ローテク支援技術  
(Assistive Technology)  
に関する情報を掲載
- “障害”ではなく”ニーズ”表記  
「障害」のラベルを基本的に  
用いないデザイン  
医学的診断に抵抗がある学生  
でもアクセスしやすい
- 大学生のサポーターが作成  
学生目線での情報配信が可能



※他の高等教育機関（大学・短大・専門学校）は、アカウント申請によりトライアル版が閲覧可能

## オンライン授業の受け方 ～テクニック編～

### チャット機能を活用する

#### 実際にはどうしているの？

③ 発言するよりチャットで発信の方がハードルが低い



自分の考えを発信してみたいけど、みんなの前で話すのはあまり得意じゃないなあ…  
チャットでの発信は、送信前に内容を確認できるし、自分で読んでも少し気が楽かも。



チャットでも全体に向けて発信するのはちょっと勇気がいるけど、宛先を授業担当の先生だけに絞って送ってみようかな。



普段の授業だと、相手の発言に対して感想を伝える機会がなかなかいけれど、チャットだと気軽に感想やコメントを交換しあえていいな。

④ 言葉で伝えにくい情報を簡単に共有できる



研究のプレゼンをするときに、参考にした論文をほかの人にも見せたいなあ…  
論文のURLをチャットでみんなに送ろう。



Bさんがチャットで論文のPDFを送ってくれたから、論文も確認しながら発表を聞くことができ理解しやすい！

授業中のチャットの使い方については、講義によってルールが異なるので注意しましょう。

#### 参考URL

- ・Microsoft Teams のチャットについて知っておくべき6つのこと

## オンライン授業の受け方 ～テクニック編～

### リアクション機能を活用する

#### なにができるの？

オンライン授業で、他の学生の発言に対してリアクションが取りにくい、ということはありませんか？

オンライン授業ではお互いの顔が見えないこともあり、発言に対してリアクションが取りにくかったり、自分が発言した後にリアクションが返ってこないように感じて寂しくなることも…

リアクション機能を活用して、コミュニケーションをとりましょう。

#### 実際にはどう使ってるの？（以下はPC版の表示を掲載しています）

##### ① Microsoft Teamsで

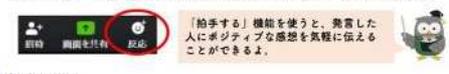
Microsoft Teamsには、オンラインでのやりとり中に「手を挙げる」機能を使用できます。



「手を挙げる」機能を使うと、発言のタイミングがつかみやすいよ。

##### ② Zoomで

Zoomには、「手を挙げる」機能のほかに「拍手する」も使用できます。



「拍手する」機能を使うと、発言した人にポジティブな感想を気軽に伝えることができるよ。

#### 参考URL

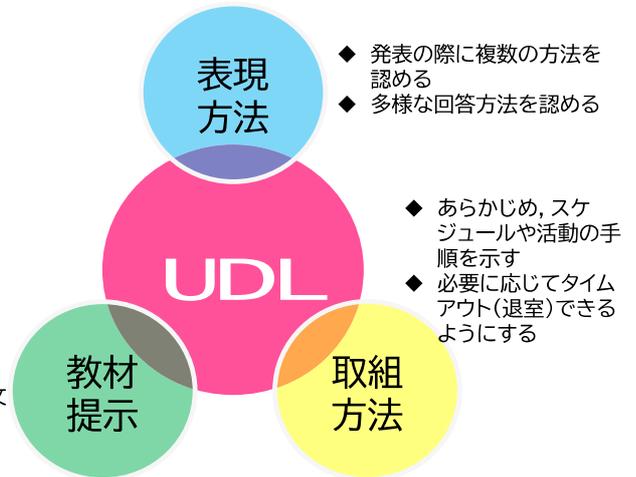
- ・Teams会議で手を上げる
- ・東京大学 オンライン授業・Web会議ポータルサイト zoomの使い方



# 学びのユニバーサルデザイン (universal design for learning UDL)

## ◆ UDLとは

- 多様な学生が授業やゼミ、窓口に来所することを想定し、全ての学生がアクセスしやすいような環境整備
- 様々なオプションをあらかじめ用意しておくことで全ての学生がアクセスできるようにするという考え方



参考: CAST (2011). Universal design for Learning guidelines version 2.0. Wakefield, MA: Author. [キャスト(2011)バーンス・亀山静子・金子晴恵(訳)学びのユニバーサルデザイン・ガイドラインver2.0.2011/05/10 翻訳版]

9

## 窓口等の職員としての基礎知識

### ● 窓口での対応

- ✓ 具体的でわかりやすい伝え方
- ✓ 書類は電子ファイルでやり取りする
- ✓ 1対1でもイヤホンをしたり、目の合わない学生がいることを知っておく(社会的なルールを理解した上で、そのようにしている場合があることに注意が必要)



### ● 掲示物のルール

- ✓ 新しい掲示物に色付き付箋を貼る(3つくらいまで)
- ✓ 新規の掲示物の場所を決め、1週間経ったら別の場所にうつす
- ✓ 重要度の高いものは目線の高さに掲示する(位置が高すぎると車椅子ユーザーから見えなくなるので注意が必要)
- ✓ 重要度の低いものは掲示しないでファイル閲覧とする

10

# 授業担当者としての基礎知識

## ● 授業時の対応

- ✓ 授業のユニバーサルデザイン化
- ✓ シラバスに合理的配慮にあたっての必要事項を掲載すること

## ● 試験時の対応

- ✓ 問題文の提示方法や回答形式の工夫
- ✓ 別室受験
- ✓ 試験時間延長(全体の試験時間の短縮)



11

# 担任や指導教員としての基礎知識

## ● クラスやゼミの運営にあたって

- ✓ 卒論指導などでは、以下がポイント
  - ①次にやるべきことを明確に伝えること
  - ②指示や指導した内容については、その場でコピーやスキャンするなどして、同じメモを双方で持つておく
  - ③注意や叱責をしても状況は変わらないので、具体的に指示した方が良い関係を保てる
- ✓ 本人が困ったらすぐに相談できる時間や場所を事前に調べておく（例えばオフィスアワー、相談窓口など）

## ● クラス担任や指導教員としての対応のきっかけ

このようなときは、まず本人との面談を！

- ✓ 成績が著しく低下した
- ✓ みんなが取得できているような共通科目を落とし続ける（英語や体育、情報など）
- ✓ 特定の領域の科目を落とし続ける（例えば、講義の授業単位は取れているのに、実習や発表を含む講義の授業単位が取れない）
- ✓ 学校に来なくなった
- ✓ 周囲の学生が当該学生を心配している

12

## 自校でできる修学上の困難感評価

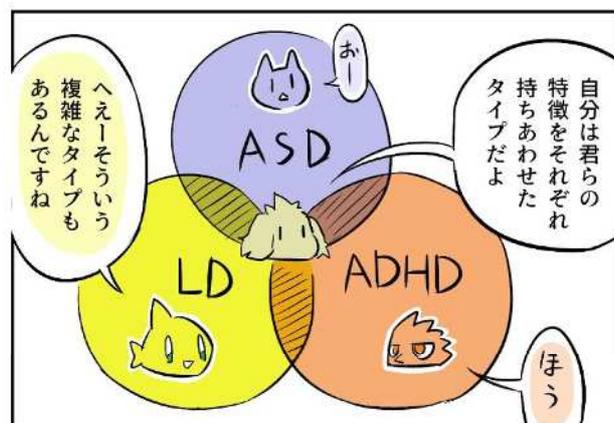
- **単位取得状況・教育組織での状況確認**  
各学部・学科等に、**必修科目等のキーとなる科目**が存在  
シラバスや担当教員から情報を収集し、重点的にチェックす  
べき項目を知る(実習、演習、共通科目、月曜1限など)  
各学部学科や専攻教員、担任教員と確認事項を共有する
  - ・必修科目未取得者・低単位取得者の個別面接
  - ・個別面談時の留意点(落とした理由、質問紙、個人情報)
- **専門部署・機関と教育組織との連携**  
学生のどのような特徴が活動の制約をもたらしているか  
第三者の評価ができる部署・機関を探す、つながる、つくる

## 個々の教職員ができるアセスメント

- **日々の学生との関わりの中で「ちょっとした会話」ができる関係を教職員が作る**  
学生のちょっとした困りごとが聞ける関係を日頃からつくる  
世間話への反応の程度から傾向が見られることも
- **必修授業の単位取得が難しくなった時の面談**  
「なぜ単位取得が難しいのか」という理由を聞く  
コミュニケーション、うっかりミス、読み書きなどでつまづくことがあるか  
否定的な言葉かけは極力避ける
- **発達障害に関する知識を身につける**  
ヒトはそれを『発達障害』と名づけました。  
<https://dbc.tsukuba.ac.jp/rad/joint-base/nanga/>  
学生の状態に関して「ひょっとしたら」という観点を持つておく



# 発達障害啓発マンガ



## ヒトはそれを『発達障害』と名づけました

色々な発達障害を併せもつダックスさんと、ASDのネコさん、ADHDのトリさん、LDのサカナさんなどかわい  
いキャラクターを通して、発達障害について理解する・伝えるためのマンガを作成。SNSで発信中！

発達障害啓発マンガ



15

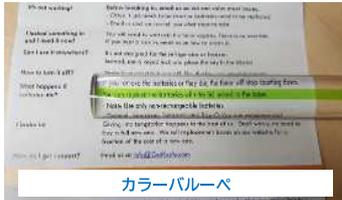
## スタディスキル・コーチング

- 学業スキルの向上を目指す個別面談
  - タスク・スケジュール管理方法のアドバイス
    - 履修計画の作成
    - レポートや課題の締切管理
    - 研究の進捗管理
  - レポートや課題の作成方法に関するアドバイス
    - アイデアのまとめ方
    - 関連情報の集め方
  - 学習方法・方略に関するアドバイス
    - 専門用語の覚え方
    - ノート・メモの取り方
- アセスメントで分かった特性に基づくサポート
  - 自身の得意・苦手に応じた方略の探索



16

# 支援技術の体験・貸出



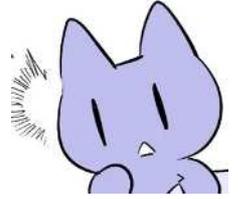
カラーバレーブ



紛失防止タグ



ごほうびボックス



ホワイトノイズマシン



録音機能付きデジタルペン



各種タイマー



ノイズキャンセリング

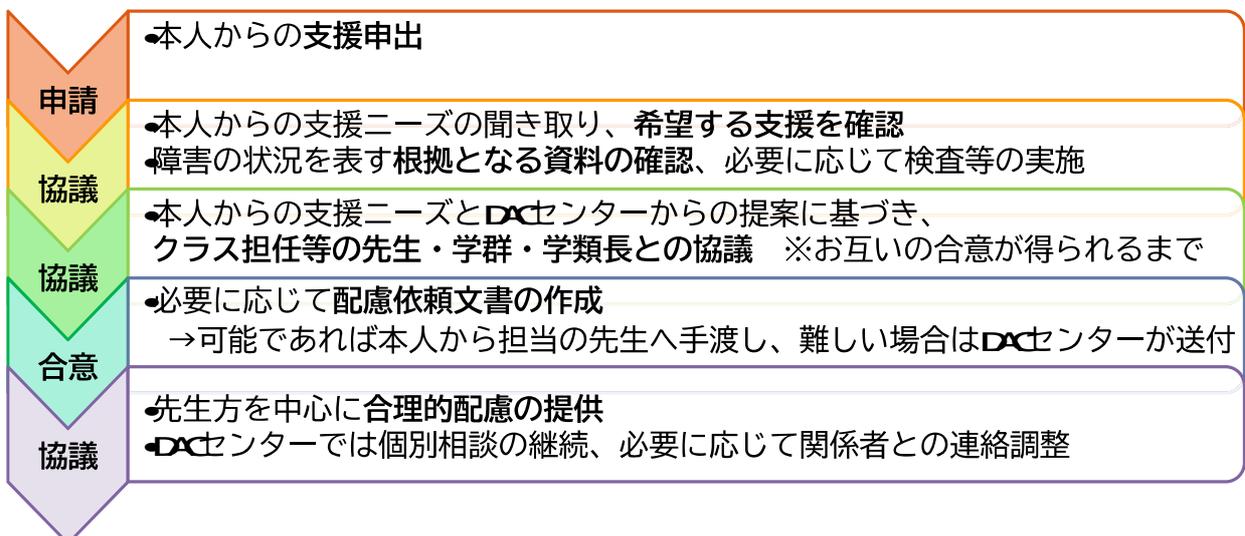


卓上スケジュール

支援技術の体験・貸出



## 筑波大学で合理的配慮を受けるためのプロセス



# 授業時の配慮例

- 指示伝達内容の具体化・明確化
  - 【困難】 曖昧な情報を把握することの困難  
口頭指示の理解や記憶の困難
  - 【配慮】 視覚的な情報提示  
(板書、配布資料、web掲載等)
- 座席位置の指定
  - 【困難】 不注意症状や周囲の刺激・雑音による集中困難  
聞き取りづらい音域などの聴覚処理の問題
  - 【配慮】 座席指定制の場合は前方へ

# ツール使用の許可例

- 授業中の録音・撮影の許可
  - 【困難】 書字困難 集中力維持の困難
  - 【配慮】 機器を用いた授業音声の録音や板書の撮影
- 授業中のPC使用の許可
  - 【困難】 書字困難 ノート作成・整理時の不注意ミス  
集中力維持の困難
  - 【配慮】 PCを用いたノート作成

## 対人場面での配慮例

- 本人の伝達手段の多様化
  - 【困難】口頭での応答困難
  - 【配慮】筆記・タイピング・読み上げ機能等の許可
- 授業中の休息の必要性
  - 【困難】精神的な不安定さ 体調不良
  - 【配慮】一時的な退出の許可

## 提出物や試験に関する配慮例

- 課題やレポート提出時の対応
  - 【困難】計画的な行動の困難 作業速度の遅さ
  - 【配慮】十分な準備期間の確保 締切調整
- 試験実施時の対応
  - 【困難】情報処理の困難 集中力維持の困難
  - 【配慮】重要な指示の板書 座席の前方指定  
解答用紙の拡大 耳栓の使用許可  
レポートの追加提出

# オンラインに関する配慮例

- 課題やレポート提出時の対応
  - 【困難】 計画的な行動の困難 不注意・衝動的な行動
  - 【配慮】 定期的な進捗状況の確認 変更時の伝達
- グループディスカッション時の対応
  - 【困難】 コミュニケーション困難 ルール把握の困難
  - 【配慮】 重要な指示の明確化  
(ディスカッション、チャット、ルール等)

## 学内連携と学外連携

### 主な学内連携先

- 学生の所属組織
- 保健管理センター
- 入試課
- 学生生活関係対応部署
- 就職課
- 広報
- 施設・設備
- 法務課(顧問弁護士)

### 主な学外連携先

- 学生のかかりつけの医療機関
- 福祉(生活支援)に関する支援施設
- 就職に関する支援施設
- 学生の出身校
- 他大学



# グレーゾーンの学生への対応

- グレーゾーンの学生：診断はない（つかない）が、本人や周囲が困っている学生

## 本人が困っている場合

- 相談窓口の紹介  
→医学的診断へ
- 学内の修学支援のリソースへ（リファレンスサービスなど）
- よく話を聞いた上で、「同じ特徴」のある学生の学習方法や進路を伝える

## 周囲が困っている場合

- 周囲が対応方法を専門部署に相談（専門部署でフォロー体制構築）
- 良いところとあわせて、周囲が困っていることを伝える
- 本人が困る機会を利用して相談部署へ

## 誰も困っていないが心配な場合

- 見守る
- 困ったときに情報提供できるように、支援リソースを収集しておく
- 本人が困る機会を利用して相談部署へ

25

# 合理的配慮のためのプロセス

## 1. 障害のある学生からの申し出

- 学生による根拠資料の提出（診断書、これまでの支援歴、心理検査の結果など）

## 2. 障害のある学生との建設的対話

- 学生と一緒に、どのようにしたら困難さ（社会的障壁）が少なくなるか話し合う
- 学生の要求を満たせない時は、他の方法を一緒に考えてみる
- 教育の目的、内容、評価といった本質の変更は不可

## 3. 合理的配慮の内容決定（合意形成）

- 合意形成が難しい時は、第三者組織での相談・確認を！

## 4. モニタリング

- 実際に、困難さ（社会的障壁）が低減されたかを双方で確認

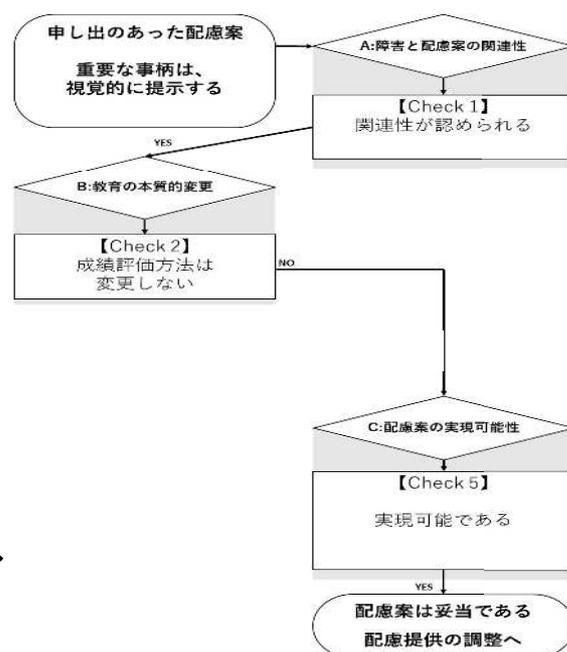
26

# 仮想事例A

- ヨウコさんは、工学部の1年生です。  
大学に入学する前に、自閉スペクトラム症との診断を受けていました。その際に受けていた知能検査の結果からは、ヨウコさんの個人内差として、聴覚的情報の短期記憶の難しさがああり、その一方で、視覚的な情報処理・理解や書き写すなど単純な作業が得意であることが示唆されていました。
- そのため、ヨウコさんは、自分の特性を踏まえ、受講する際に口頭のみではなく、重要な単語や事柄は視覚的に提示してほしいという要望を障害学生支援室・教員あてに出しました。

## 仮想事例Aの検討フロー(一例)

- Check 1
  - 知能検査の結果から聴覚情報の短期処理の困難が示唆
  - 申し出のあった配慮案との理論的な関連性あり
- Check 2
  - 視覚的に提示するだけで成績評価方法は変更なし
- Check 5
  - 重要な事柄を板書に書くだけであれば、授業担当教員ができることを確認

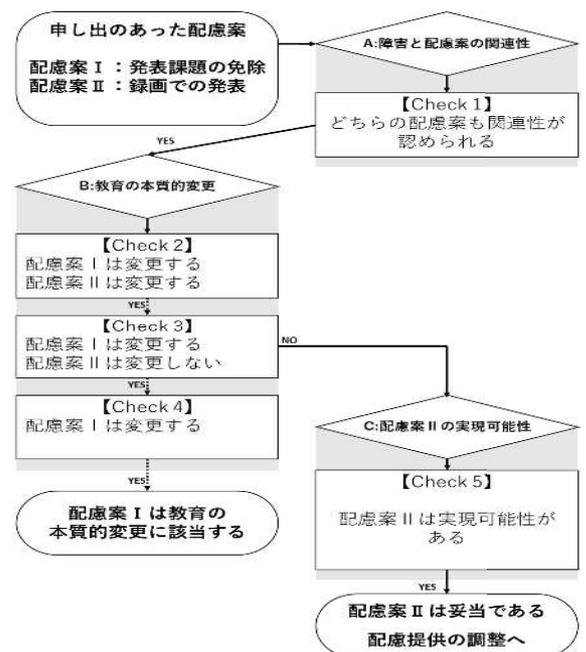


# 仮想事例B

- ケンさんは、芸術学部の1年生です。  
大学に入学する前に、社交不安症の診断を受けていました。そのため、大勢の学生の前で発表する場面になると、不安が高まり、動悸が激しくなることが多く、発表することが困難でした。
- そのため、ケンさんは、自分の症状を踏まえ、自分の作品を学生の前で口頭での説明を交えながら発表する課題を免除してほしい要望を障害学生支援室・教員あてに出しました。

## 仮想事例Bの検討フロー(一例)

- Check 1
  - いずれも配慮案も社交不安症との理論的関連あり
- Check 2~4
  - 発表課題の免除は、成績評価方法や基準を変更し、教育課程の本質的変更になりうる
- Check 5
  - 代替案として、遠隔での発表であれば実行可能であることを確認した



## 合理的配慮のために専門スタッフとして必要なこと

### 意思表示

- ✓ 障害（機能障害）に起因したニーズであるか？本人の意思を確認したか？
- 根拠資料の収集，アセスメント（定量的・質的評価），根拠資料の妥当性検証

### 建設的対話

- ✓ 合理的配慮の内容が，本人のニーズや，アセスメント等に基づくデータを根拠に，決定されているか？最終的に合理的配慮の内容について，双方の合意があるか？
- 建設的対話の記録

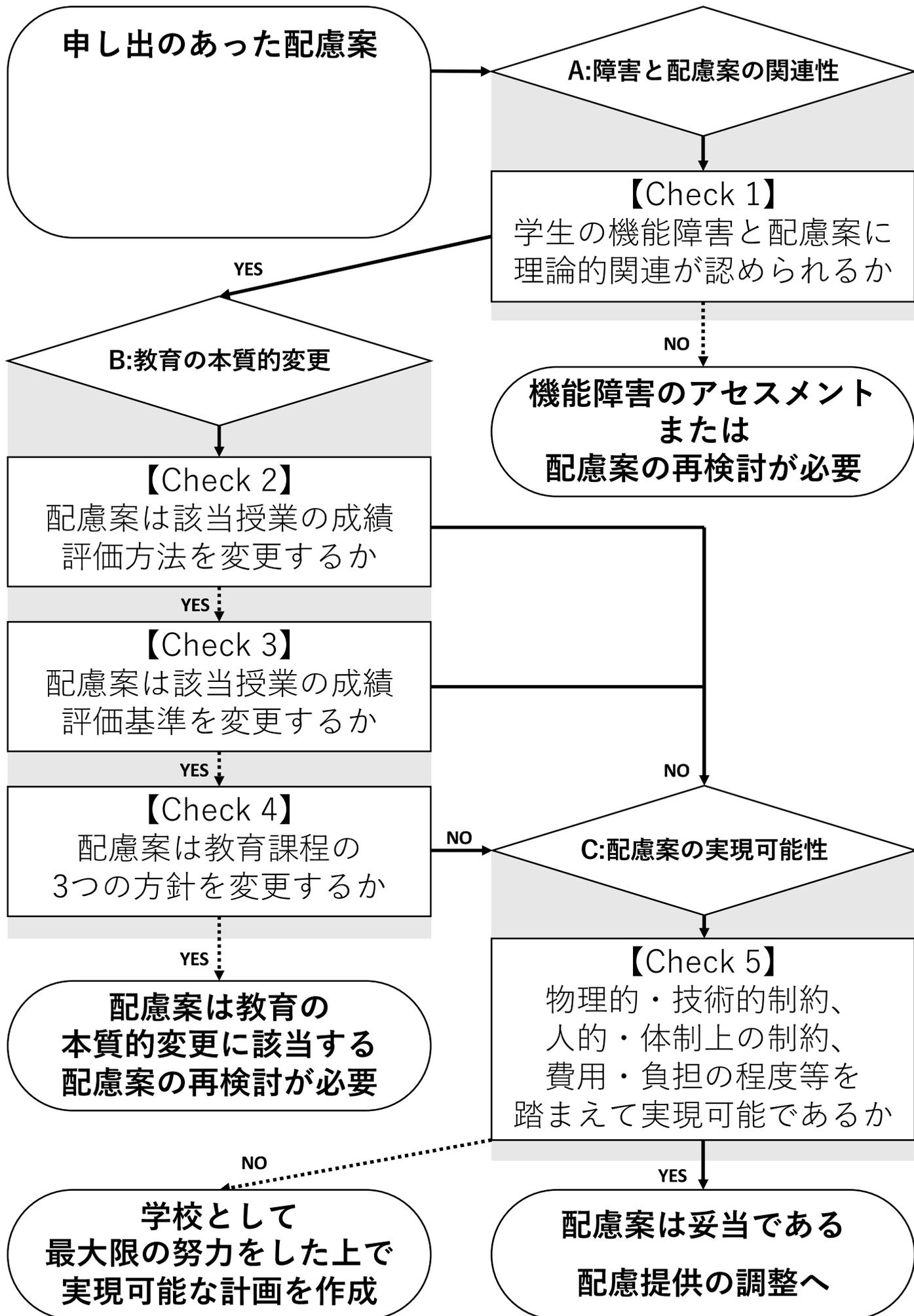
### モニタリング

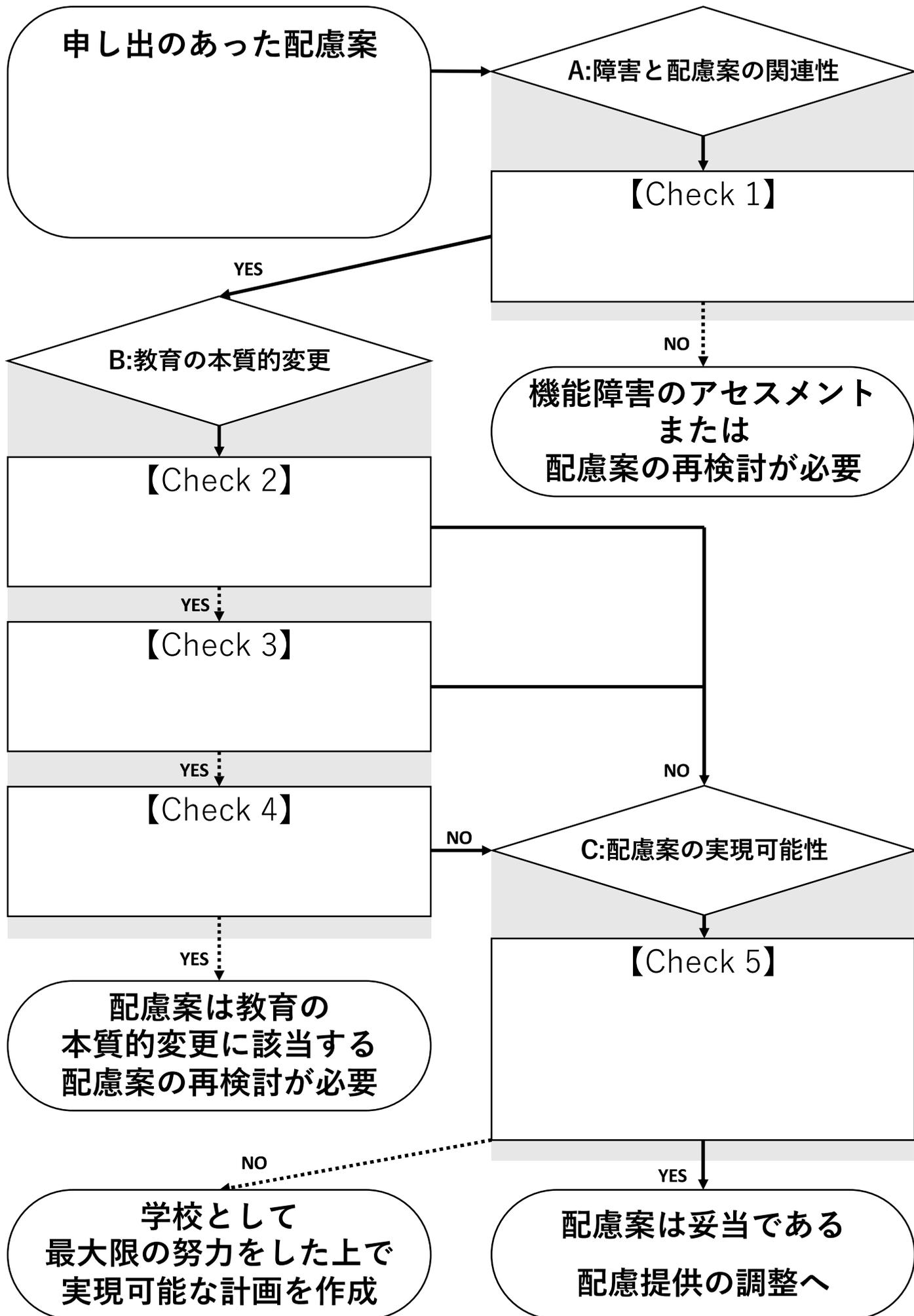
- ✓ 社会的障壁が低減されたか？
- プログレスモニタリングとしての評価（学生本人による主観的・客観的評価）

### 調整

- ✓ 調整の必要性の有無について，確認がなされたか？
- 調整が必要となった場合は，その要因のアセスメント

ご静聴ありがとうございました





## 令和2年度 第5回名桜大学 FD 研修会：総評

坪井 祐司

令和2年度第5回名桜大学 FD 研修会は、令和3年1月29日にオンライン（Teams）により開催された。「ICT を活用した授業及びアカデミックアドバイザーの現状について」と題して、遠隔やハイブリッドの授業が増加したことで授業や学生指導にどのような変化や課題が生じたかをテーマにとりあげた。参加者の総計は67名であった。

研修会は分科会形式をとり、参加者による議論およびアクティブラーニングを主体として行われた。4つの分科会が準備され、出席者は関心に応じてそのいずれかに参加した。分科会において各参加者が自ら経験した課題や実践を出し合い、その後全体の中で各分科会の議論の内容について代表者が発表し、共有するという流れで行われた。

分科会のテーマ及び担当した FD 委員は下記のとおりである。

- ・分科会 A 「講義に関すること」  
ファシリテーター：小嶋委員、小西委員
- ・分科会 B 「実技・演習系の授業に関すること」  
ファシリテーター：田場委員、山本委員
- ・分科会 C 「質保証と評価方法について」  
ファシリテーター：小番委員、坪井委員
- ・分科会 D 「ICT を活用したオフィスアワーについて」  
ファシリテーター：卯田委員、鶴巻委員

分科会 A は講義について、分科会 B は演習・実習について、それぞれ遠隔授業において生じた課題やなされた実践が話し合われた。分科会 C では遠隔授業における授業の質の確保と公平な評価の方法について、分科会 D では授業以外の学生指導のあり方を主題として議論された。各分科会の発表からは、遠隔授業では課題が増えて学生・教員双方の負担が増加する一方で、対面よりも双方向性を高める工夫の余地があることが感じられた。学生との距離についても、直接のコミュニケーションが難しい反面、連絡を取りやすいと感じる学生もおり、ツールの使用法によっては円滑さも確保しうる。そうしたさまざまな教員による工夫や実践が共有された。

教員同士が相互に経験や方法論を披露しあう形の研修会が開催されたのは、昨年に引き続いてとなった。学部組織や専門分野が異なる他の教員がどのような授業や学生指導を行っているかを知る機会は少ないため、貴重な機会となったと思われる。事後のアンケートでも回答者の過半数が満足度の5段階評価で「5」と回答しており、有意義と感じる参加者が多かったことがうかがえる。

令和2年度 第5回名桜大学FD 研修会  
実施計画

1. 目的

本学専任教員の資質向上と本学 学群・学部・機構の更なる発展及び今回のテーマに興味のある職員や非常勤講師も参加対象として有意義な研修になることを目的とする。

2. 開催日時

令和3年1月29日(金) 15:00~16:30 (受付開始 14:30)

3. 会場

オンライン：Microsoft Teams

4. 対象

本学専任教職員, 非常勤講師、

5. テーマ

「ICT を活用した授業及びアカデミックアドバイザーの現状について」

6. プログラム

**事前学習 令和2年度混成型授業の実施・受講に関する実態調査報告書**

時 間	内 容
14:30~	受 付
15:00~ (5分)	【司会：FD委員長 アリ ファテヘルアリム】 開会のあいさつ 副学長(教育) 林 優子
15:05~ (35分)	「ICT を活用した授業及びアカデミックアドバイザーの現状について」  分科会形式 分科会A「講義に関すること」 ファシリテーター案：小嶋委員、小西委員 分科会B「実技・演習系の授業に関すること」 ファシリテーター案： 田場委員、山本委員 分科会C「質保証と評価方法について」 ファシリテーター案： 小番委員、坪井委員 分科会D「ICT を活用したオフィスアワーについて」 ファシリテーター案： 卯田委員、鶴巻委員  参加は希望制となっております。
15:40~ (10分)	分科会で話し合った内容の発表準備
15:50~ (20分)	分科会報告(各分科会5分程度)
16:10~ (15分)	質疑応答
16:25~ (5分)	閉会のあいさつ 学長 砂川 昌範
16:30	終了

令和2年12月11日

学生のみなさんへ

名桜大学FD委員会

令和2年度 混成型授業（対面授業及び遠隔授業のハイブリッド型）  
の受講に関する実態調査について（通知）

名桜大学FD委員会では、混成型授業の受講に関して、受講実態を調査し、改善につなげることを目的に2回目のアンケート調査を実施します。

つきましては、下記要領により実施しますので、ご協力の程、宜しくお願いたします。なお、回答いただいた情報により個人を特定することはありません。よりよい授業のためにご協力をお願いいたします。

記

1 実施期間

令和2年12月14日（月）～12月25日（金）

2 実施方法

Web入力で回答する。

以下リンクから回答をお願いいたします。

※回答には、s 学生番号@mail.meio-u.ac.jp でログインする必要があります。

<https://forms.gle/A8C8YaMZsE3vxTvdA>



3 調査結果の公表

調査結果はWeb公開します。閲覧方法については、調査後、掲示でお知らせします。

4 問い合わせ：教務部教務課（本部棟2階）

教 員 各 位

名桜大学 F D 委員会  
委員長 アリ ファテヘルアム F  
(公印省略)

令和 2 年度 混成型授業（対面授業及び遠隔授業のハイブリッド型）実施・受講  
に関する実態調査の実施について（通知）

標記のことについて、ICT 等を活用した混成型授業を改善するための基礎資料を得るために、全学生・全教員を対象とした Web 入力による「混成型授業（対面授業及び遠隔授業のハイブリッド型）実施・受講に関する実態調査」を実施します。

つきましては、下記要領により実施していただきますようご協力をよろしくお願いいたします。

記

1 調査の目的

今回の調査は、後学期の混成型授業の実態を把握するとともに、今後の授業のあり方及び ICT 等を活用した遠隔授業の可能性を探るための基礎資料を得ることを目的とします。

2 対象者

全教員及び全学生

3 実施期間 令和 2 年 1 2 月 1 4 日（月）～1 2 月 2 5 日（金）

4 実施方法

【全教員】

専任教員及び非常勤講師専用リンク <https://forms.gle/Rric3eFVfFs4TmEk7>

- (1) 調査については、当該教員が後学期担当するすべての科目とする。
- (2) Web 入力により、無記名で回答する。

※アンケートの回答は Gmail にて Garoon メールアドレスおよびパスワードを入力してログインすることが必要です。その後、専用リンクより回答をしてください。

【 問い合わせ等 】

教務部教務課学習支援係  
TEL : 0980-51-1055

令和2年12月11日

## 令和2年度 混成型授業（対面授業及び遠隔授業のハイブリッド型）

### 実施・受講に関する実態調査について

名桜大学では、遠隔授業において、全教員・学生を対象とした「混成型授業（対面授業及び遠隔授業のハイブリッド型）実施・受講に関する実態調査」を下記のとおり実施しますのでお知らせします。

#### 1 調査の目的

今回の調査は、後学期の混成型授業の実態を把握するとともに、今後の授業のあり方及び ICT 等を活用した遠隔授業の可能性を探るための基礎資料を得ることを目的とします。

#### 2 対象者

全教員及び全学生

#### 3 実施期間 令和2年12月14日（月）～12月25日（金）

#### 4 実施方法

教員：学内者専用メールにて通知が届きますので、専用サイトより回答して下さい。

学生：学内者専用サイト（Universal Passport）掲示板にて通知が届きますので、専用サイトより回答してください。

※アンケートの回答は Gmail にて学内専用メールアドレスおよびパスワードを入力してログインする必要があります。その後、専用サイトより回答をしてください。

## 1. 教員対象実態調査報告

令和2年度混成型授業の実施に関する実態調査結果

(第2回：12月実施分)

及び

令和2年度遠隔授業の実施に関する実態調査結果

(第1回：5月実施分)

名桜大学FD委員会



教員各位

名城大学FD委員会  
委員長 アリ ファテハルアム F  
(公印省略)

令和2年度 混成型授業（対面授業及び遠隔授業のハイブリッド型）実施・受講  
に関する実態調査の実施について（通知）

標記のことについて、ICT等を活用した混成型授業を改善するための基礎資料を得るために、全学生・全教員を対象としたWeb入力による「混成型授業（対面授業及び遠隔授業のハイブリッド型）実施・受講に関する実態調査」を実施します。

つきましては、下記要領により実施していただきますようご協力をよろしくお願いいたします。

記

1 調査の目的

今回の調査は、後学期の混成型授業の実態を把握するとともに、今後の授業のあり方及びICT等を活用した遠隔授業の可能性を探るための基礎資料を得ることを目的とします。

2 対象者

全教員及び全学生

3 実施期間 令和2年12月14日（月）～12月25日（金）

4 実施方法

【全教員】

専任教員及び非常勤講師専用リンク <https://forms.gle/Rric3eFVfFs4TmEk7>

- (1) 調査については、当該教員が後学期担当するすべての科目とする。
- (2) Web入力により、無記名で回答する。

※アンケートの回答はGmailにてGaroonメールアドレスおよびパスワードを入力してログインする必要があります。その後、専用リンクより回答をしてください。

【問い合わせ等】

教務部教務課学習支援係  
TEL：0980-51-1055

学内教務 104 号  
令和 2 年 5 月 19 日

教員各位

名桜大学 F D 委員会  
委員長 アリ ファテハルアリム F  
(公印省略)

令和 2 年度 遠隔授業実施・受講に関する実態調査の実施について (通知)

標記のことについて、ICT 等を活用した遠隔授業を改善するための基礎資料を得るために、全学生・全教員を対象とした Web 入力による「遠隔授業実施・受講に関する実態調査」を実施します。

つきましては、下記要領により実施していただきますようご協力をよろしくお願いいたします。

記

1 調査の目的

令和 2 年 4 月 30 日 (木) 付発出の「緊急事態宣言の延長に伴う本学の基本方針」において、授業は令和 2 年 5 月 7 日 (木) から開始することとし、5 月 7 日 (木) から 5 月 29 日 (金) までは、ICT 等を活用した遠隔授業のみとすることとなりました。

今回の調査は、当期間の遠隔授業の実態を把握するとともに、今後の授業のあり方及び ICT 等を活用した遠隔授業の可能性を探るための基礎資料を得ることを目的とします。

2 対象者

全教員及び全学生

3 実施期間 令和 2 年 5 月 20 日 (水) ~ 5 月 25 日 (月)

4 実施方法

【全教員】

専任教員専用リンク <https://forms.gle/28v8RGmqijKyL4yn9>

- (1) 調査については、当該教員が前学期担当するすべての科目とする。
- (2) Web 入力により、無記名で回答する。

非常勤講師専用リンク <https://forms.gle/NxRfy9L9gYNJYGW18>

- (1) 調査については、当該教員が前学期担当するすべての科目とする。
- (2) Web 入力により、無記名で回答する。

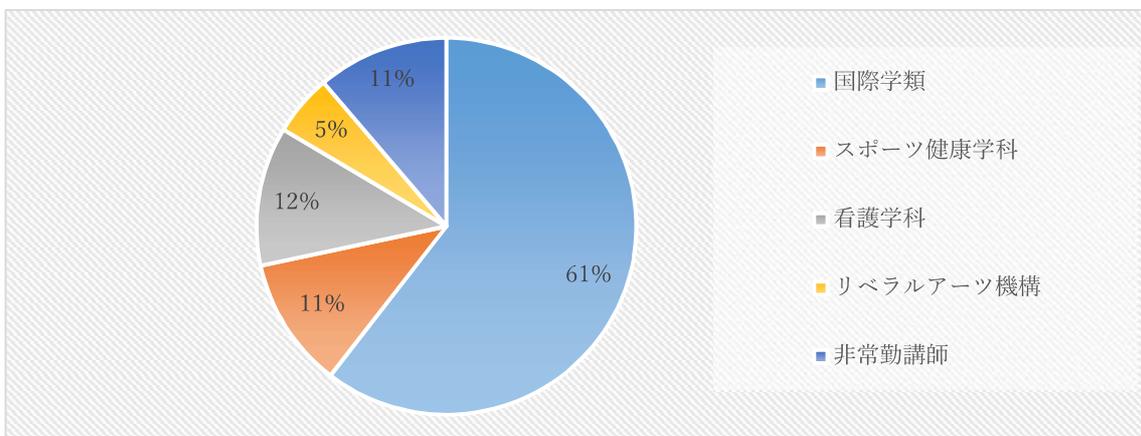
※アンケートの回答は Gmail にて Garoon メールアドレスおよびパスワードを入力してログインすることが必要です。その後、専用リンクより回答をしてください。

【問い合わせ等】

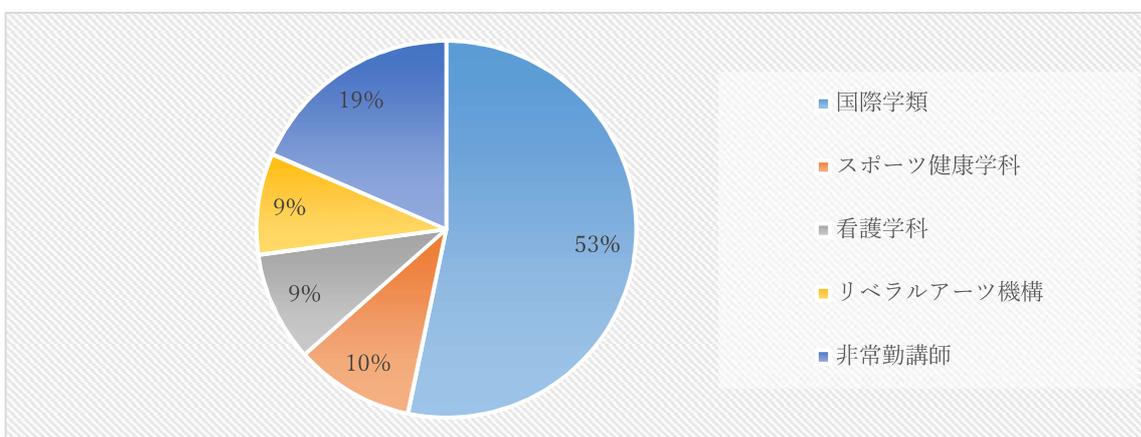
教務部教務課学習支援係  
TEL : 0980-51-1055

「混成型授業の実施に関する実態調査（教員対象）」の結果（グラフ・数値）  
 （回答件数：134件）（2回目実態調査）  
 及び  
 「遠隔授業の実施に関する実態調査（教員対象）」の結果（グラフ・数値）  
 （回答件数：276件）（1回目実態調査）

所属について（職位について）  
 2回目実態調査結果

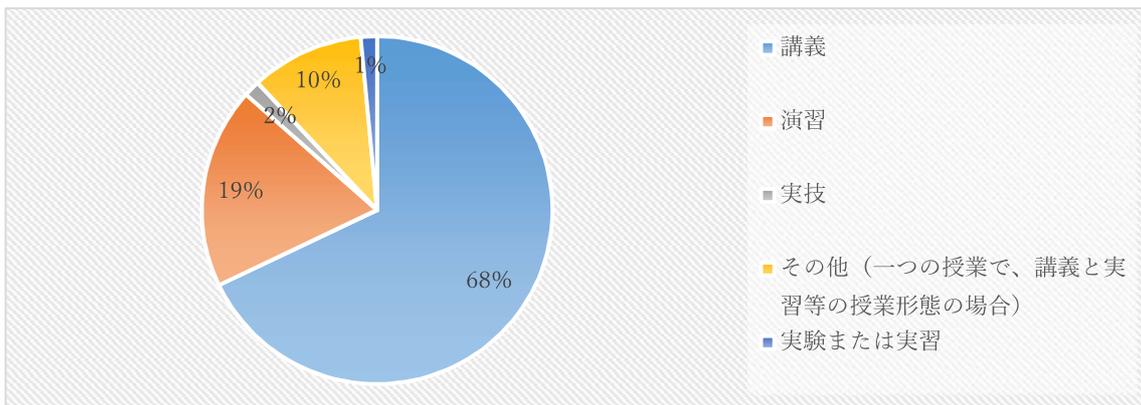


1回目実態調査結果

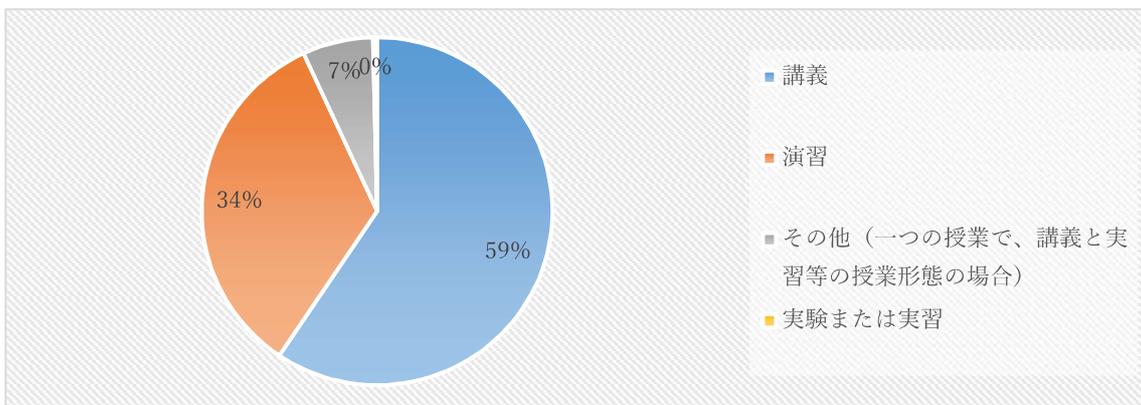


質問1 授業の形態についてお答えください。

2 回目実態調査結果

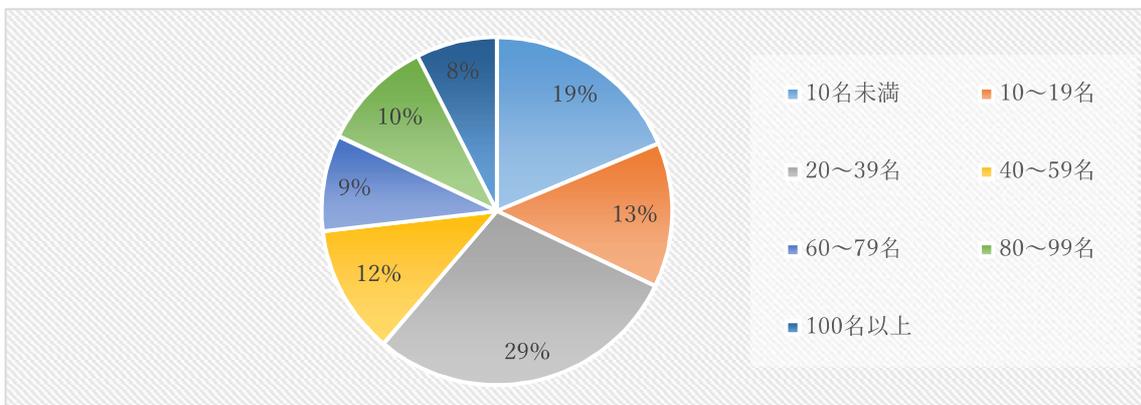


1 回目実態調査結果

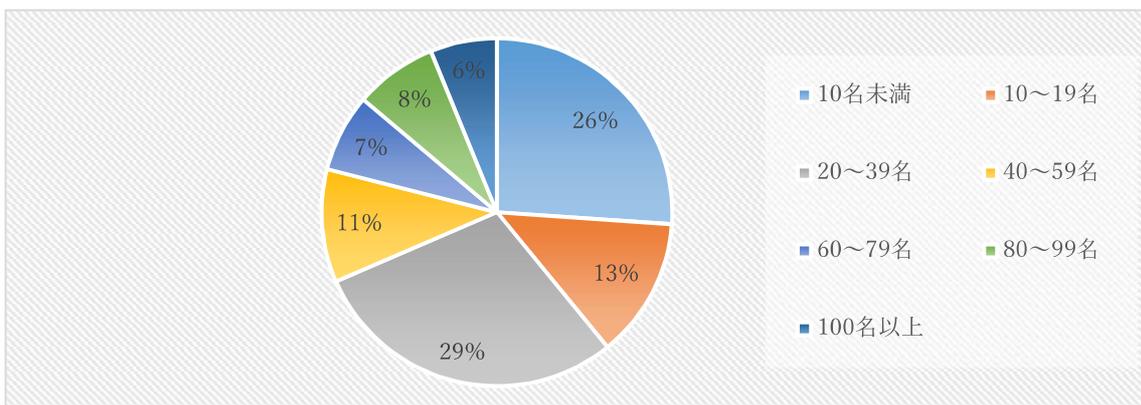


質問2-1 受講人数をお答えください。

2 回目実態調査結果

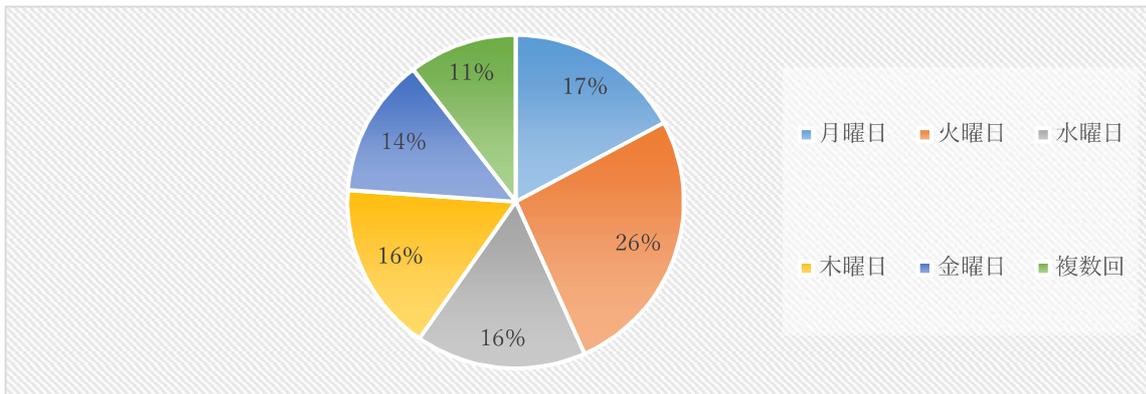


1 回目実態調査結果

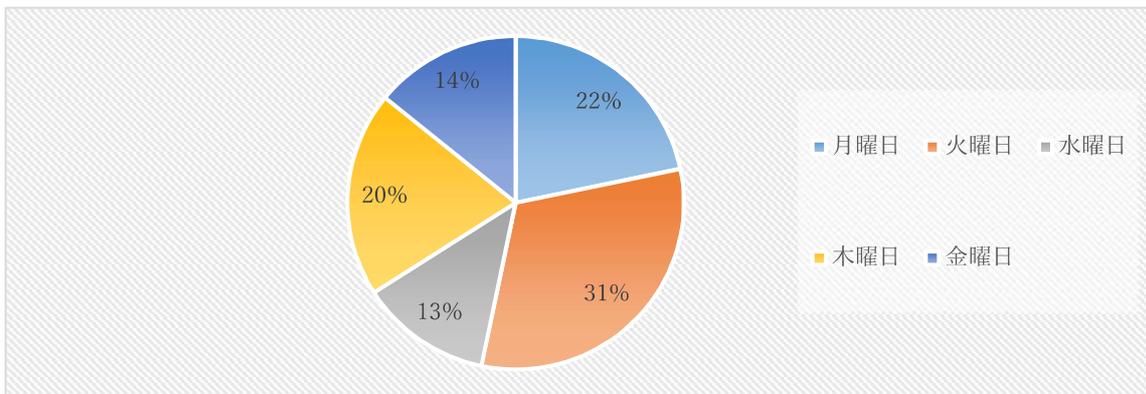


質問 2-2 授業の実施曜日についてお答えください。

2 回目実態調査結果

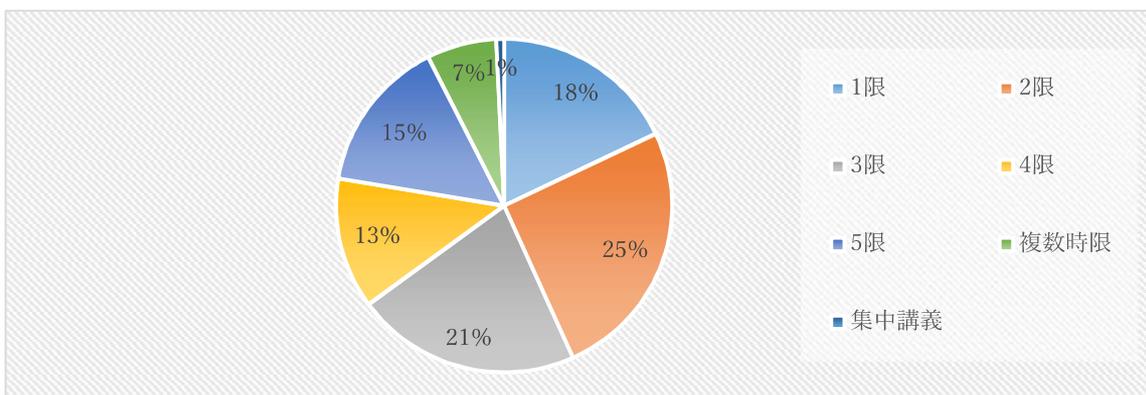


1 回目実態調査結果

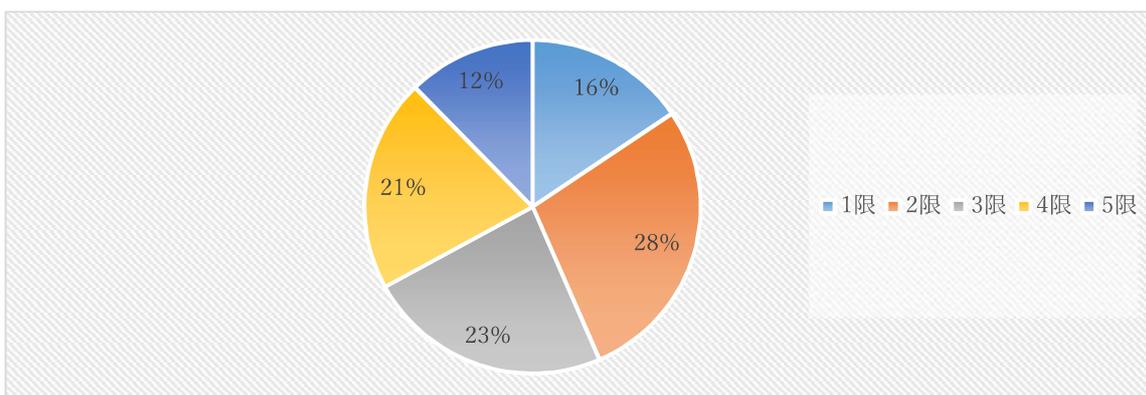


質問 2-3 授業の時間帯をお答えください。

2 回目実態調査結果

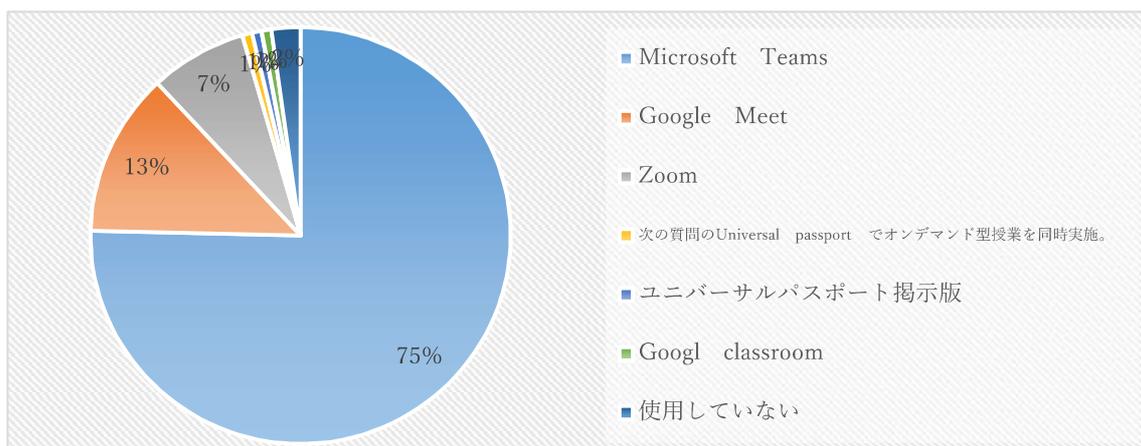


1 回目実態調査結果



### 質問 3-1 どの「Web 会議サービス」を一番利用しましたか？

#### 2 回目実態調査結果

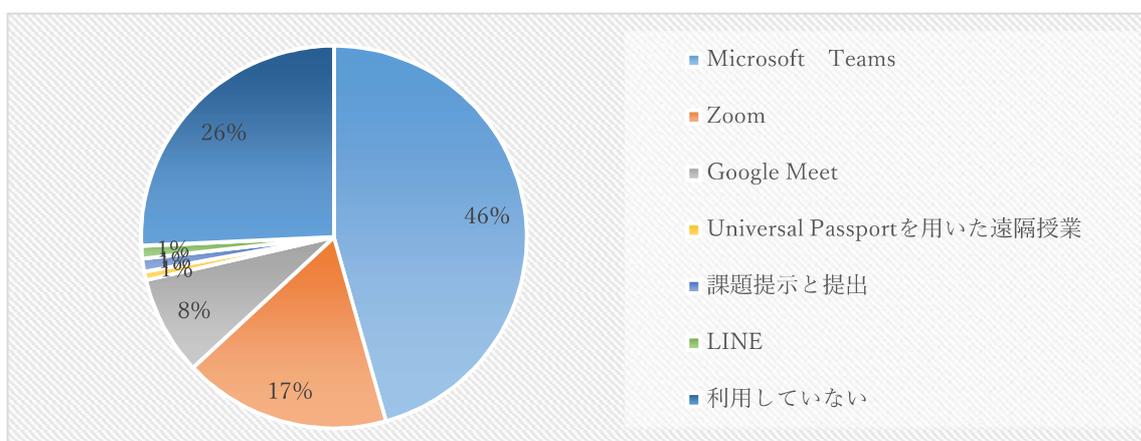


変数

質問 3-1 どの「Web 会議サービス」を一番利用しましたか？

所属	出現値	質問 3-1 どの「Web 会議サービス」を一番利用しましたか？							合計
		Microsoft Teams	Google Meet	Zoom	次の質問の Universal passport でオンデマンド型授業を同時実施。	ユニバーサルパスポート 掲示版	Googl classroom	使用していない	
国際学類		66	12	2	0	0	1	0	81
スポーツ健康学科		15	0	0	0	0	0	0	15
看護学科		16	0	0	0	0	0	0	16
リベラルアーツ機構		0	2	5	0	0	0	0	7
非常勤講師		4	3	3	1	1	0	3	15
合計		101	17	10	1	1	1	3	134

#### 1 回目実態調査結果



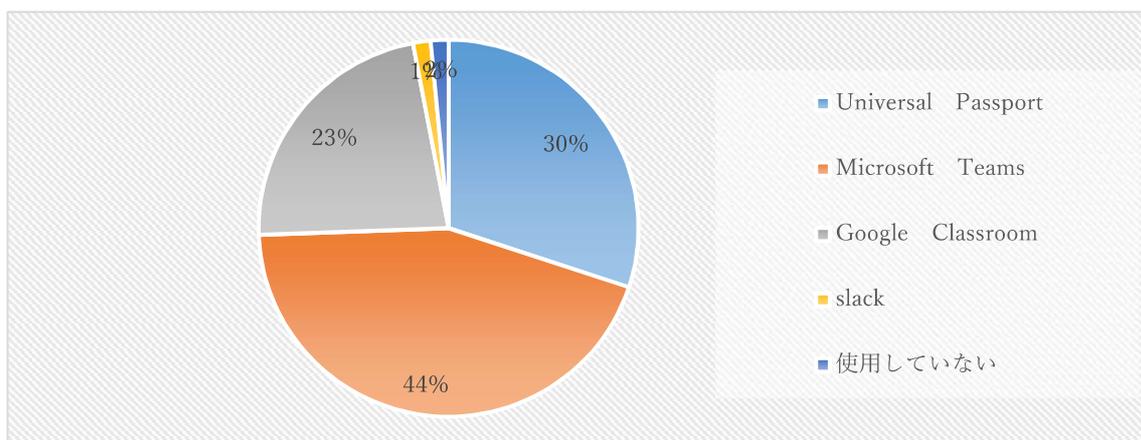
変数

質問 3-1 どの「Web 会議サービス」を一番利用しましたか？

所属	出現値	質問 3-1 どの「Web 会議サービス」を一番利用しましたか？							合計
		Microsoft Teams	Zoom	Google Meet	Universal Passport を用いた遠隔授業	課題提示と提出	LINE	利用していない	
国際学類		62	18	11	0	3	2	51	147
スポーツ健康学科		22	3	0	0	0	0	3	28
看護学科		22	0	2	0	0	0	2	26
リベラルアーツ機構		1	13	10	0	0	0	0	24
非常勤講師		19	14	0	2	0	1	15	51
合計		126	48	23	2	3	3	71	276

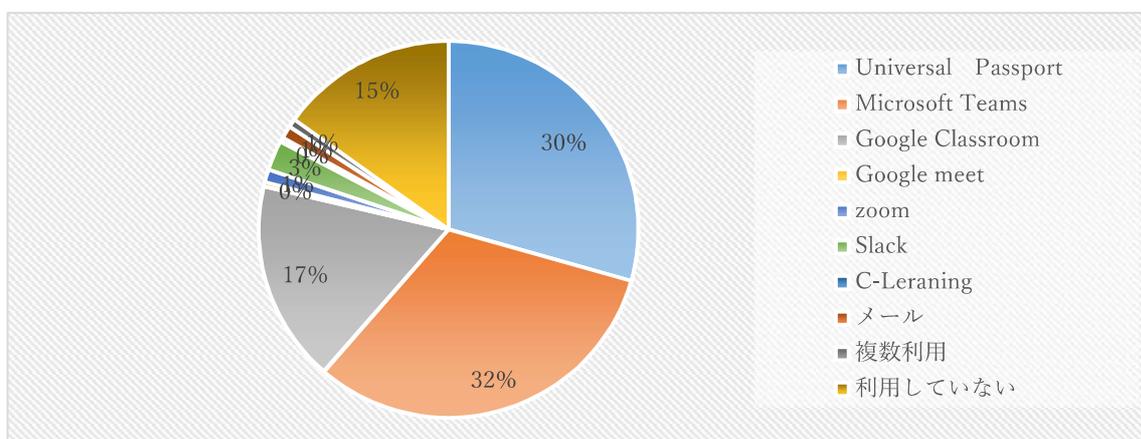
### 質問 3-2 どの「ICT ツール」を一番利用しましたか？

#### 2 回目実態調査結果



変数	出現値	質問 3-2 どの「ICT ツール」を一番利用しましたか？					合計
		Universal Passport	Microsoft Teams	Google Classroom	slack	使用していない	
所属	国際学類	33	31	15	2	0	81
	スポーツ健康学科	1	14	0	0	0	15
	看護学科	0	13	3	0	0	16
	リベラルアーツ機構	0	0	7	0	0	7
	非常勤講師	6	2	5	0	2	15
	合計	40	59	30	2	2	134

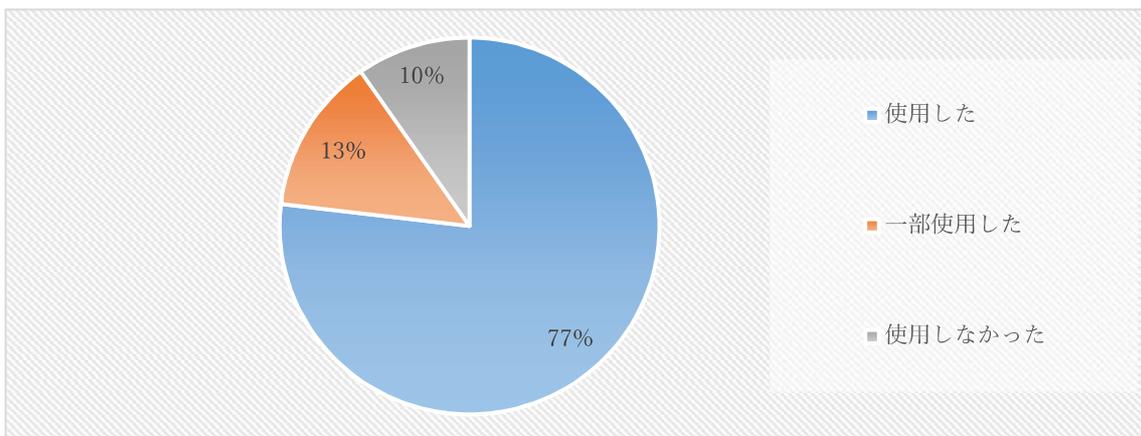
#### 1 回目実態調査結果



変数	出現値	質問 3-2 どの「ICT ツール」を一番利用しましたか？										合計
		Universal Passport	Microsoft Teams	Google Classroom	Google meet	zoom	Slack	C-Leraning	メール	複数利用	利用していない	
所属	国際学類	53	40	19	0	0	1	0	2	1	31	147
	スポーツ健康学科	3	17	0	0	0	4	1	0	0	3	28
	看護学科	1	18	1	1	0	0	0	0	3	2	26
	リベラルアーツ機構	0	1	23	0	0	0	0	0	0	0	24
	非常勤講師	23	11	4	0	3	2	0	1	2	5	51
	合計	80	87	47	1	3	7	1	3	2	41	276

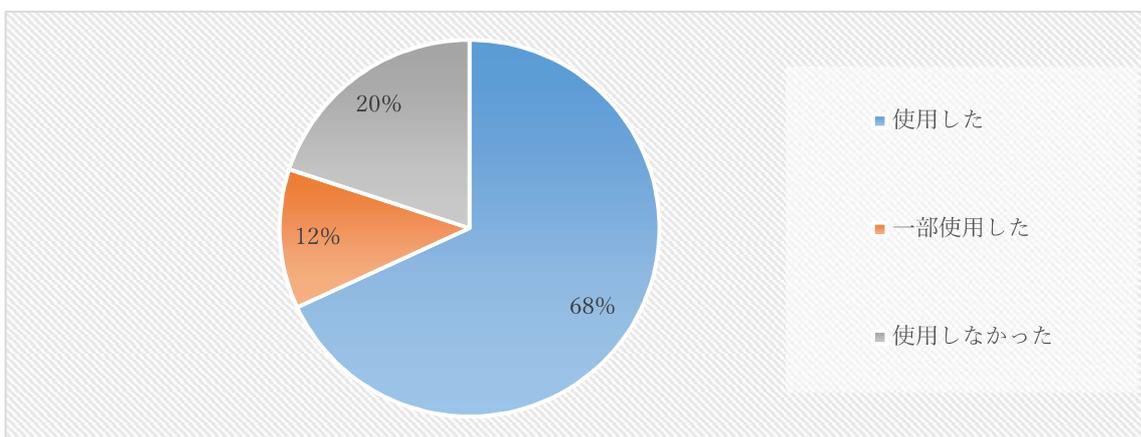
質問 3-3 ICT ツールを用いて電子ファイル（PDF やパワーポイント、ワード等）を送付し、課題を電子ファイルで提出させる。

### 2 回目実態調査結果



変数		質問 3-3 ICT ツールを用いて電子ファイル(PDF やパワーポイント、ワード等)を送付し、課題を電子ファイルで提出させる			
	出現値	使用した	一部使用した	使用しなかった	合計
所属	国際学類	67	10	4	81
	スポーツ健康学科	12	1	2	15
	看護学科	12	3	1	16
	リベラルアーツ機構	7	0	0	7
	非常勤講師	5	4	6	15
	合計	103	18	13	134

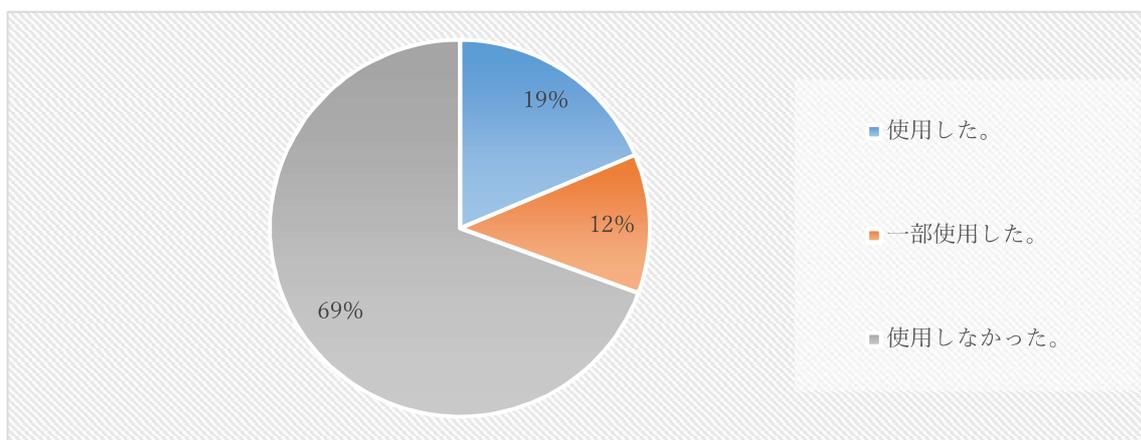
### 1 回目実態調査結果



変数		質問 3-3 ICT ツールを用いて電子ファイル(PDF やパワーポイント、ワード等)を送付し、課題を電子ファイルで提出させる			
	出現値	使用した	一部使用した	使用しなかった	合計
所属	国際学類	91	21	35	147
	スポーツ健康学科	23	1	4	28
	看護学科	21	3	2	26
	リベラルアーツ機構	20	0	4	24
	非常勤講師	33	8	10	51
	合計	188	33	55	276

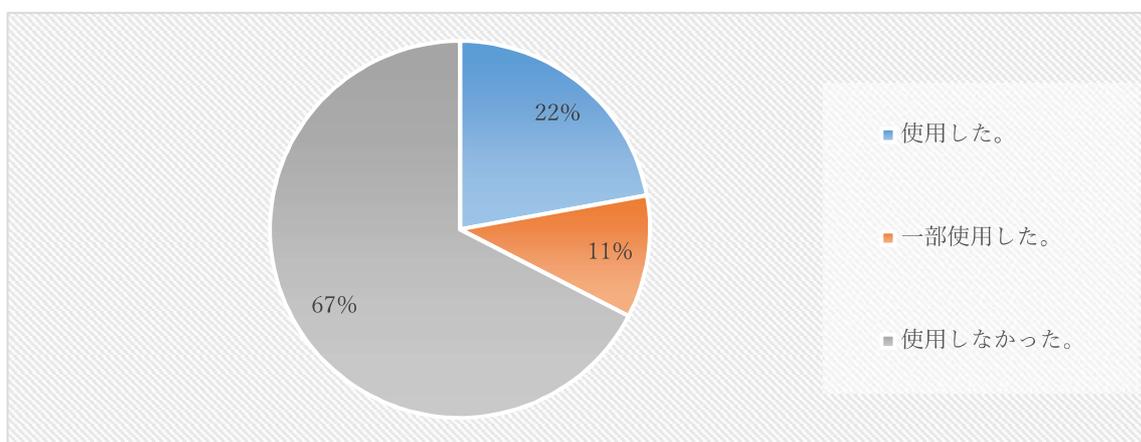
### 質問 3-4 動画コンテンツを作成し、YouTube 等で配信する。

#### 2 回目実態調査結果



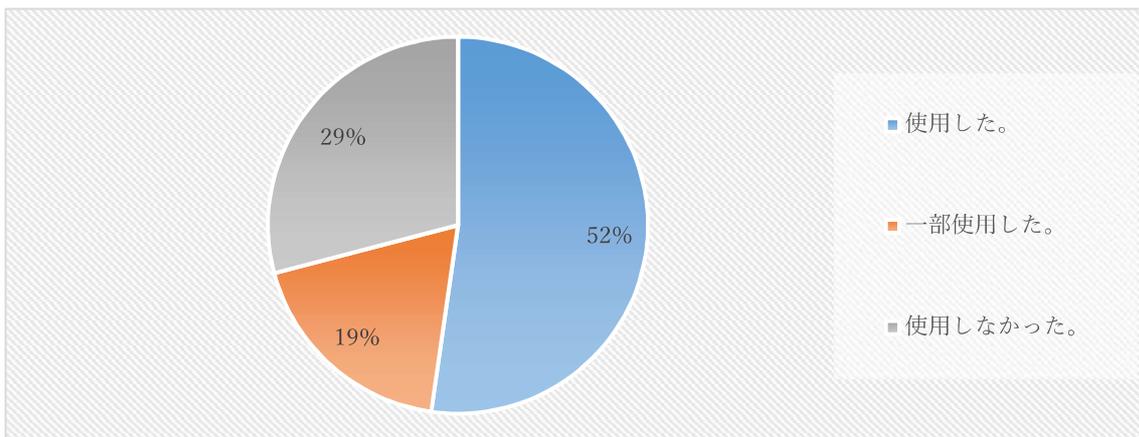
変数	質問 3-4 動画コンテンツを作成し、YouTube 等で配信する				合計
	出現値	使用した。	一部使用した。	使用しなかった。	
所属	国際学類	12	6	63	81
	スポーツ健康学科	7	3	5	15
	看護学科	3	2	11	16
	リベラルアーツ機構	1	4	2	7
	非常勤講師	2	1	12	15
	合計	25	16	93	134

#### 1 回目実態調査結果



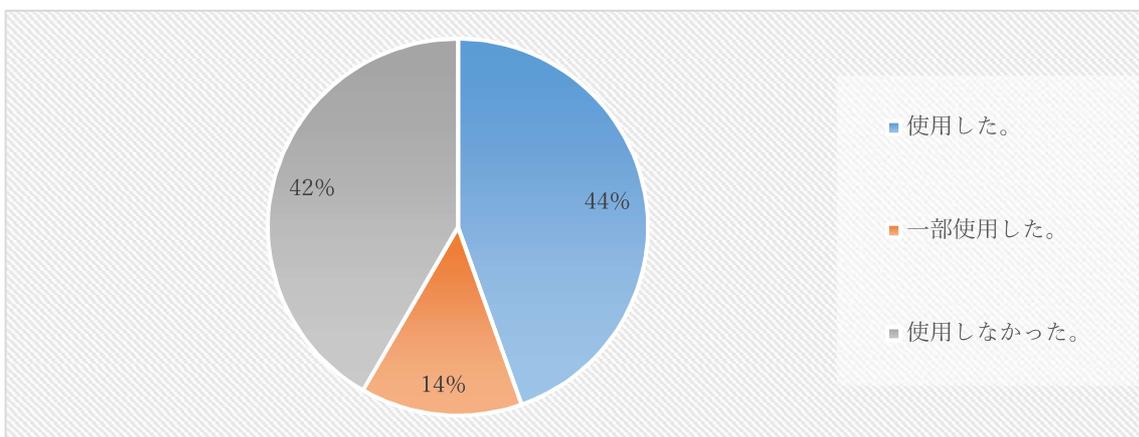
変数	質問 3-4 動画コンテンツを作成し、YouTube 等で配信する				合計
	出現値	使用した。	一部使用した。	使用しなかった。	
所属	国際学類	26	9	112	147
	スポーツ健康学科	10	5	13	28
	看護学科	10	3	13	26
	リベラルアーツ機構	4	8	12	24
	非常勤講師	11	4	36	51
	合計	61	29	186	276

質問 3-5 Web 会議ツール(Teams や Zoom 等)を活用したリアルタイム授業(主に音声)  
2 回目実態調査結果



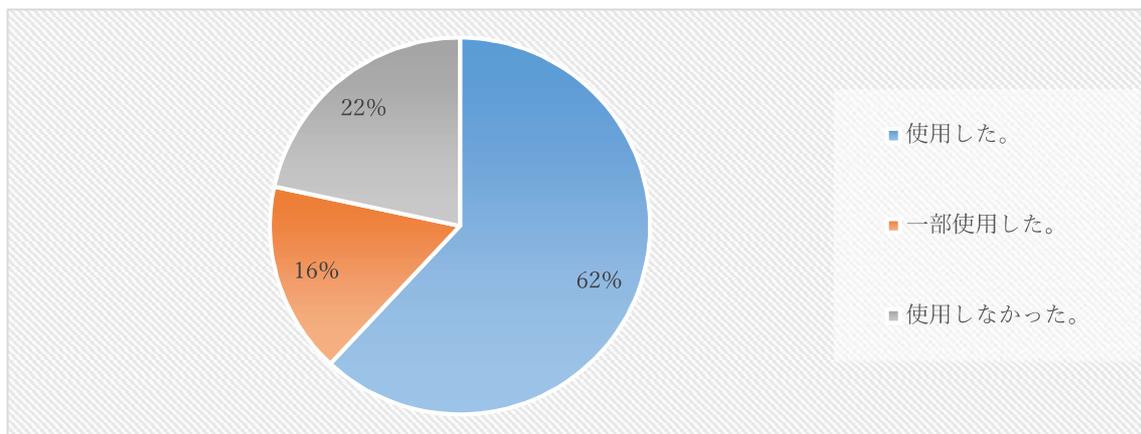
変数		質問 3-5 Web 会議ツール(Teams や Zoom 等)を活用した、リアルタイム授業(主に音声)			
出現値		使用した。	一部使用した。	使用しなかった。	合計
所属	国際学類	38	21	22	81
	スポーツ健康 学科	8	0	7	15
	看護学科	10	4	2	16
	リベラルアーツ 機構	7	0	0	7
	非常勤講師	7	0	8	15
合計		70	25	39	134

1 回目実態調査結果



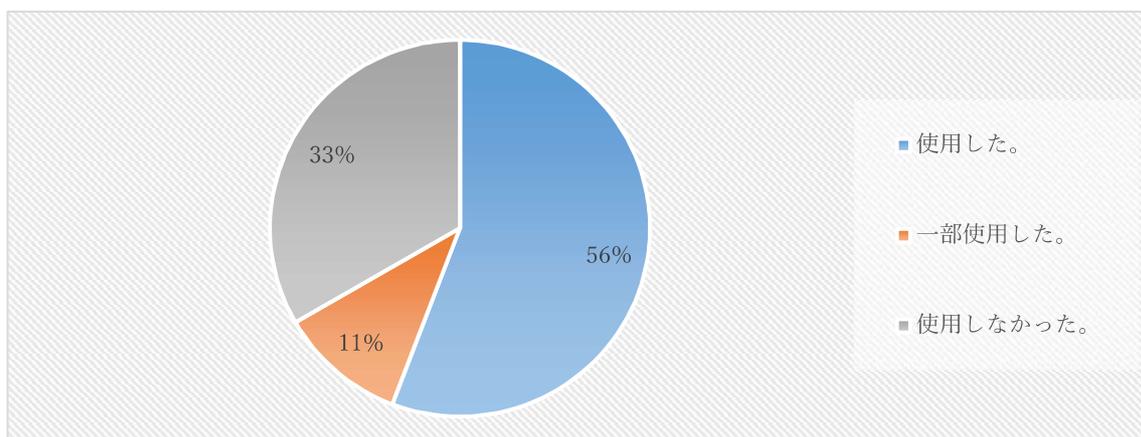
変数		質問 3-5 Web 会議ツール(Teams や Zoom 等)を活用した、リアルタイム授業(主に音声)			
出現値		使用した。	一部使用した。	使用しなかった。	合計
所属	国際学類	53	27	67	147
	スポーツ健康 学科	12	1	15	28
	看護学科	17	5	4	26
	リベラルアーツ 機構	21	1	2	24
	非常勤講師	20	4	27	51
合計		123	38	115	276

質問 3-6 Web 会議ツール(Teams や Zoom 等)を活用したリアルタイム授業  
(主に音声+映像 (画面共有) )  
2 回目実態調査結果



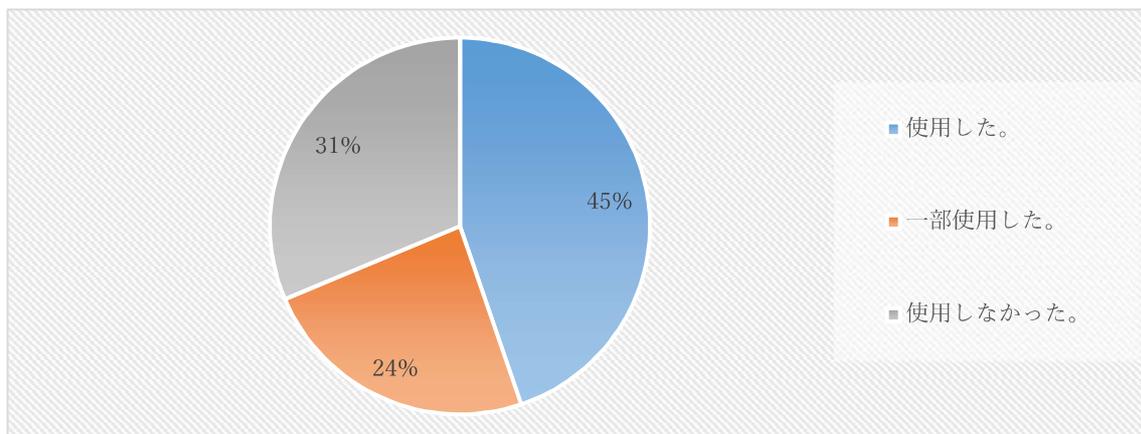
変数		質問 3-6 Web 会議ツール(Teams や Zoom 等)を活用した、リアルタイム授業(主に音声+映像(画面共有))			
出現値		使用した。	一部使用した。	使用しなかった。	合計
所属	国際学類	51	15	15	81
	スポーツ健康学科	12	0	3	15
	看護学科	10	3	3	16
	リベラルアーツ機構	3	4	0	7
	非常勤講師	7	0	8	15
	合計	83	22	29	134

1 回目実態調査結果



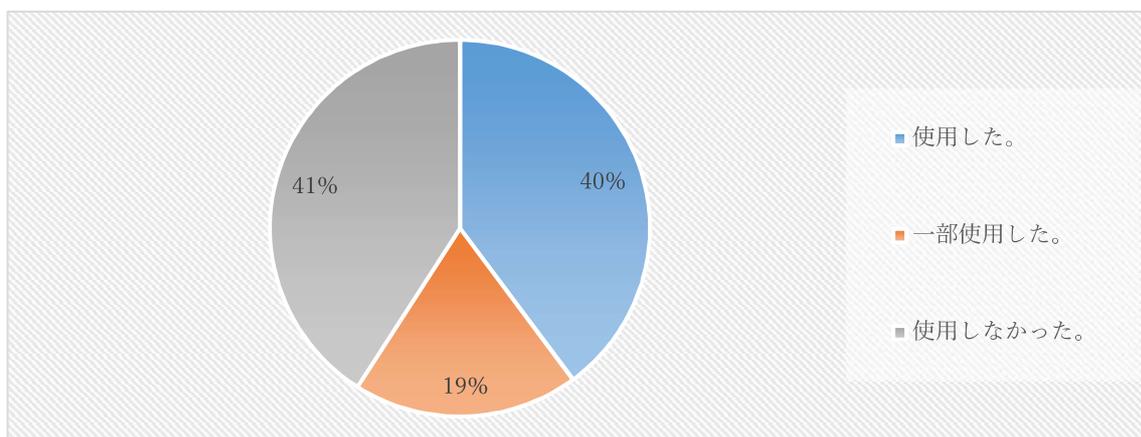
変数		質問 3-6 Web 会議ツール(Teams や Zoom 等)を活用した、リアルタイム授業(主に音声+映像(画面共有))			
出現値		使用した。	一部使用した。	使用しなかった。	合計
所属	国際学類	67	16	64	147
	スポーツ健康学科	22	5	1	28
	看護学科	23	1	2	26
	リベラルアーツ機構	19	3	2	24
	非常勤講師	23	5	23	51
	合計	154	30	92	276

質問 3-7 Web 会議ツール(Teams や Zoom 等)を活用したリアルタイム授業  
(教員映像及び学生映像並びに音声)  
2 回目実態調査結果



変数		質問 3-7 Web 会議ツール(Teams や Zoom 等)を活用した、リアルタイム授業(教員映像及び学生映像並びに音声)			
出現値		使用した。	一部使用した。	使用しなかった。	合計
所属	国際学類	37	21	23	81
	スポーツ健康学科	8	0	7	15
	看護学科	9	6	1	16
	リベラルアーツ機構	1	5	1	7
	非常勤講師	5	0	10	15
	合計	60	32	42	134

1 回目実態調査結果



変数		質問 3-7 Web 会議ツール(Teams や Zoom 等)を活用した、リアルタイム授業(教員映像及び学生映像並びに音声)			
出現値		使用した。	一部使用した。	使用しなかった。	合計
所属	国際学類	49	30	68	147
	スポーツ健康学科	14	6	8	28
	看護学科	17	6	3	26
	リベラルアーツ機構	10	5	9	24
	非常勤講師	20	6	25	51
	合計	110	53	113	276

質問 4-1 遠隔授業を実施してよかったこと、工夫したことがあれば記入して下さい。

別紙：コメント参照

質問 4-2 遠隔授業を実施したときの困ったこと、トラブル・問題点があれば記入してください。

別紙：コメント参照

質問 4-3 遠隔授業に関する質問事項があれば記入してください。

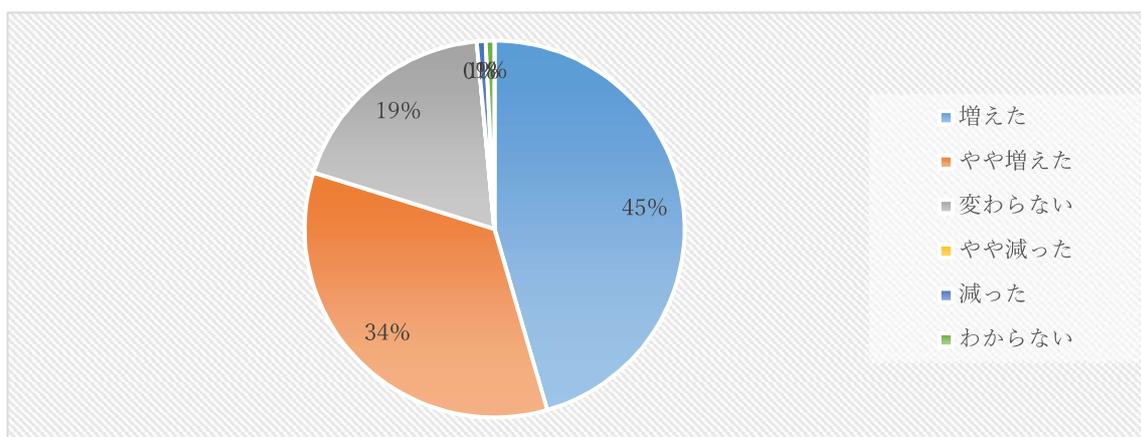
別紙：コメント参照

質問 4-4 今後の授業のあり方についてご提案があれば記入してください。

別紙：コメント参照

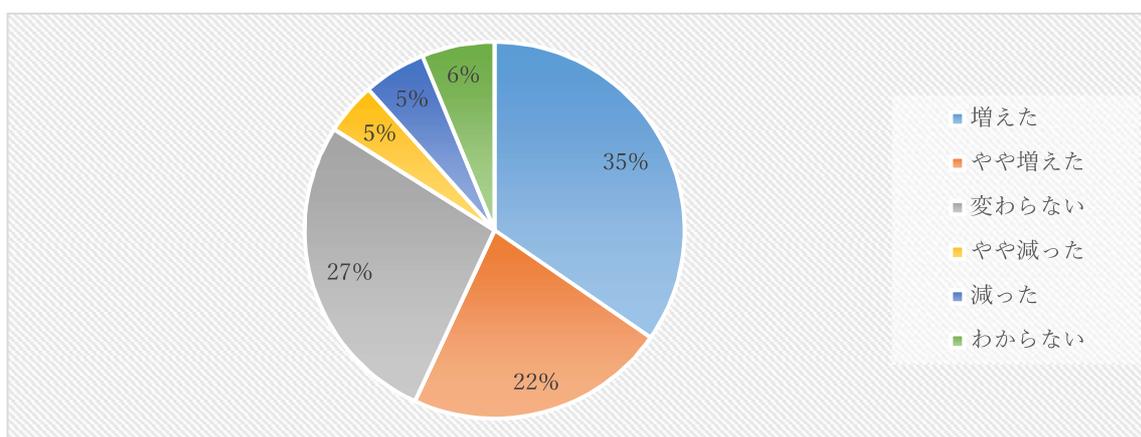
質問 5-1 平常時の対面授業と比べ、混成型授業を実施する際、準備を含めた授業の負担は増えたと感じていますか？

2 回目実態調査結果（新規項目）



変数	出現値	質問 5-1 平常時の対面授業と比べ、混成型授業を実施する際、準備を含めた授業の負担は増えたと感じますか？						合計
		増えた	やや増えた	変わらない	やや減った	減った	わからない	
所属	国際学類	37	26	17	0	0	1	81
	スポーツ健康学科	3	5	6	0	1	0	15
	看護学科	12	3	1	0	0	0	16
	リベラルアーツ機構	0	7	0	0	0	0	7
	非常勤講師	9	5	1	0	0	0	15
	合計	61	46	25	0	1	1	134

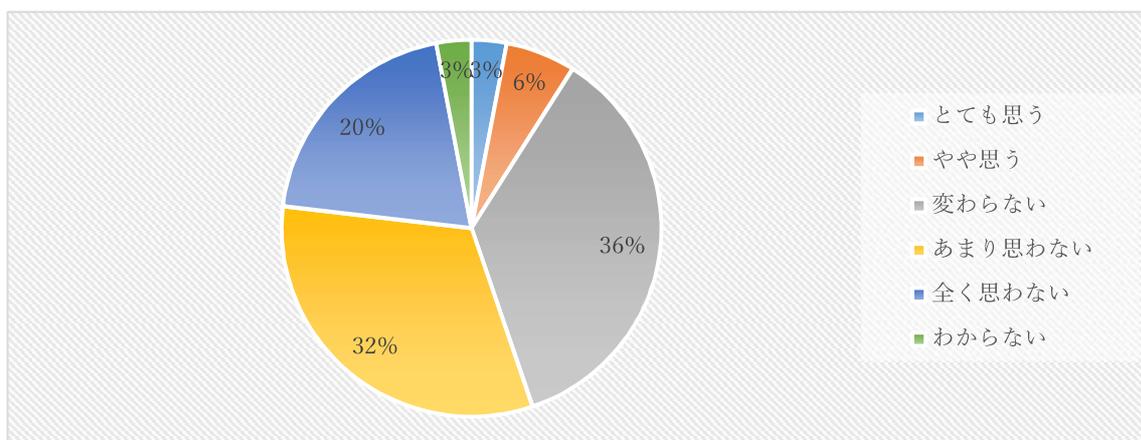
※学生実態調査比較 平常時の対面授業と比べ、混成授業を受講する際、授業時間外での学習は増えましたか？



変数	出現値	問 26 平常時の対面授業と比べ、混成授業を受講する際、授業時間外での学習は増えましたか？						合計
		増えた	やや増えた	変わらない	やや減った	減った	わからない	
所属	国際学類	62	34	37	7	11	10	161
	スポーツ健康学科	14	9	11	0	1	2	37
	看護学科	2	7	12	3	0	2	26
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留学生等)	0	0	1	0	0	0	1
	合計	78	50	61	10	12	14	225

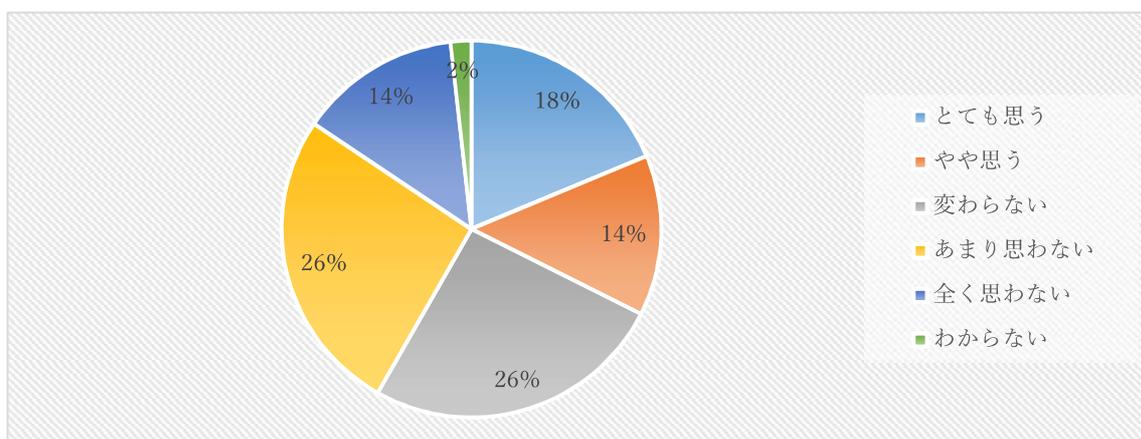
質問 5-2 対面授業と比べ、遠隔授業を実施する際、集中して授業を実施できる。

2 回目実態調査結果（新規項目）



変数		質問 5-2 対面授業と比べ、遠隔授業を実施する際、集中して授業を実施できる。						合計
出現値		とても思う	やや思う	変わらない	あまり思わない	全く思わない	わからない	
所属	国際学類	3	4	26	29	16	3	81
	スポーツ健康学科	1	2	6	2	4	0	15
	看護学科	0	2	5	8	1	0	16
	リバラルアーツ機構	0	0	7	0	0	0	7
	非常勤講師	0	0	4	4	6	1	15
	合計	4	8	48	43	27	4	134

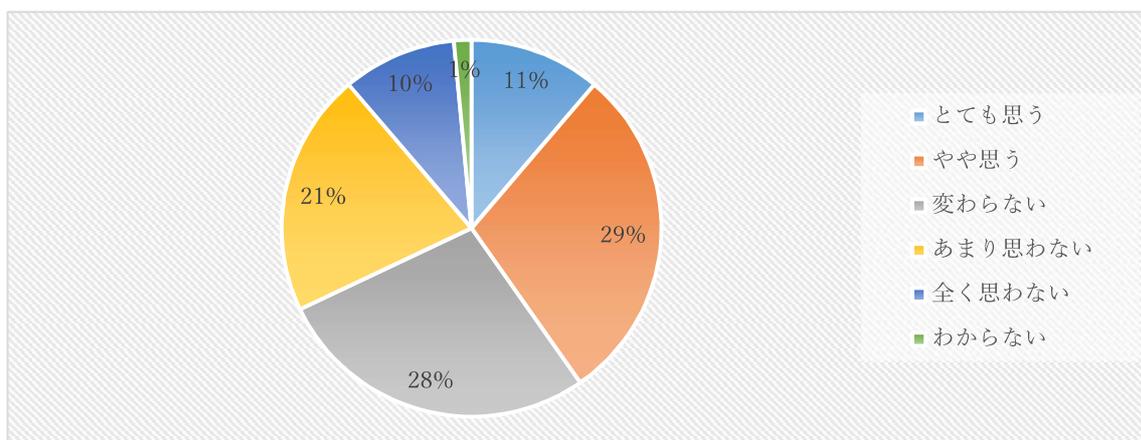
※学生実態調査比較 対面授業と比べ、遠隔授業を受講する際、集中して授業を受けることができる



変数		問 27 対面授業と比べ、遠隔授業を受講する際、集中して授業を受けることができる						合計
出現値		とても思う	やや思う	変わらない	あまり思わない	全く思わない	わからない	
所属	国際学類	30	23	40	43	23	2	161
	スポーツ健康学科	10	5	9	6	5	2	37
	看護学科	2	3	8	10	3	0	26
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留学生等)	0	0	1	0	0	0	1
	合計	42	31	58	59	31	4	225

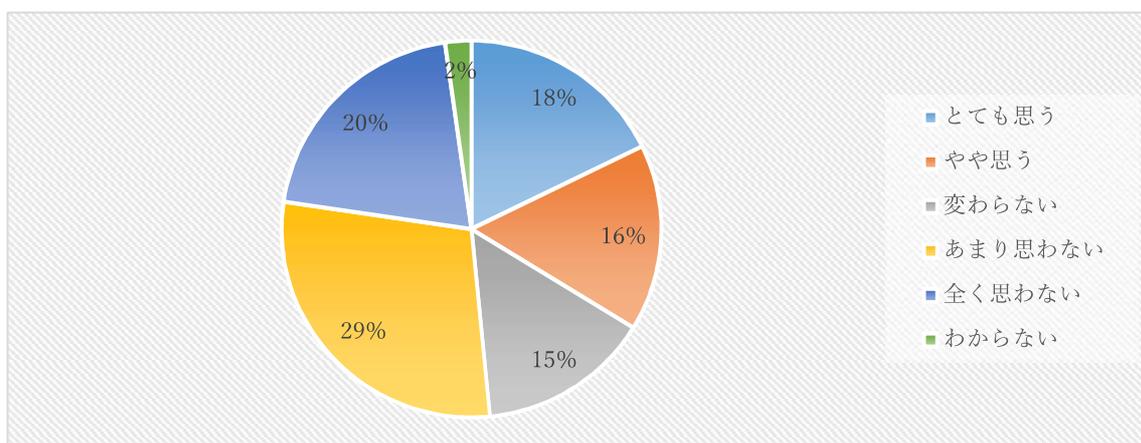
質問 5-3 対面授業と比べ、遠隔授業を実施する際、資料の配布や提示がしやすい。

2 回目実態調査結果（新規項目）



変数		質問 5-3 対面授業と比べ、遠隔授業を実施する際、資料の配布や提示がしやすい						合計
出現値		とても思う	やや思う	変わらない	あまり思わない	全く思わない	わからない	
所属	国際学類	7	19	28	17	9	1	81
	スポーツ健康学科	6	3	5	0	1	0	15
	看護学科	1	10	1	4	0	0	16
	リハビリアーツ機構	1	5	1	0	0	0	7
	非常勤講師	0	2	2	7	3	1	15
	合計	15	39	37	28	13	2	134

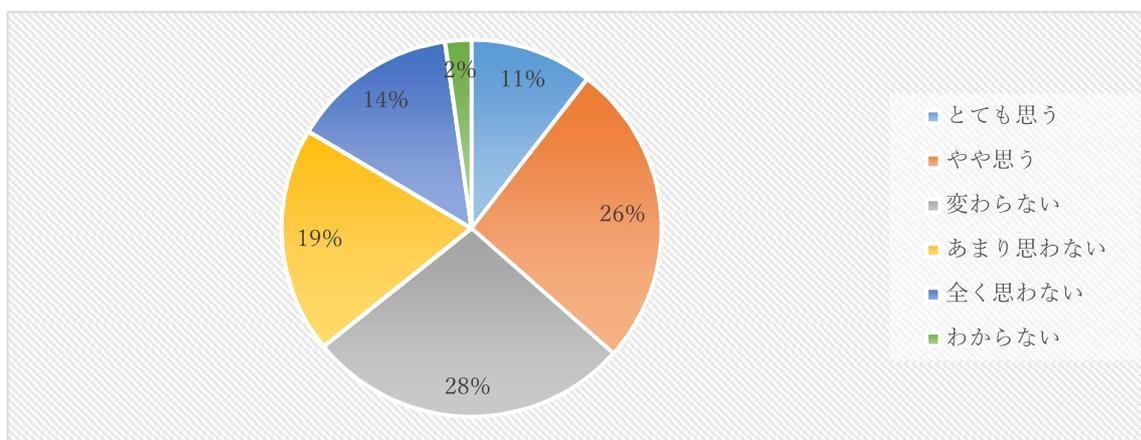
※学生実態調査比較 対面授業と比べ、遠隔授業を受講する際、配布資料を受け取りやすい



変数		問 28 対面授業と比べ、遠隔授業を受講する際、配布資料を受け取りやすい						合計
出現値		とても思う	やや思う	変わらない	あまり思わない	全く思わない	わからない	
所属	国際学類	26	28	24	51	28	4	161
	スポーツ健康学科	10	3	5	9	9	1	37
	看護学科	4	4	4	5	9	0	26
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留学生等)	0	1	0	0	0	0	1
	合計	40	36	33	65	46	5	225

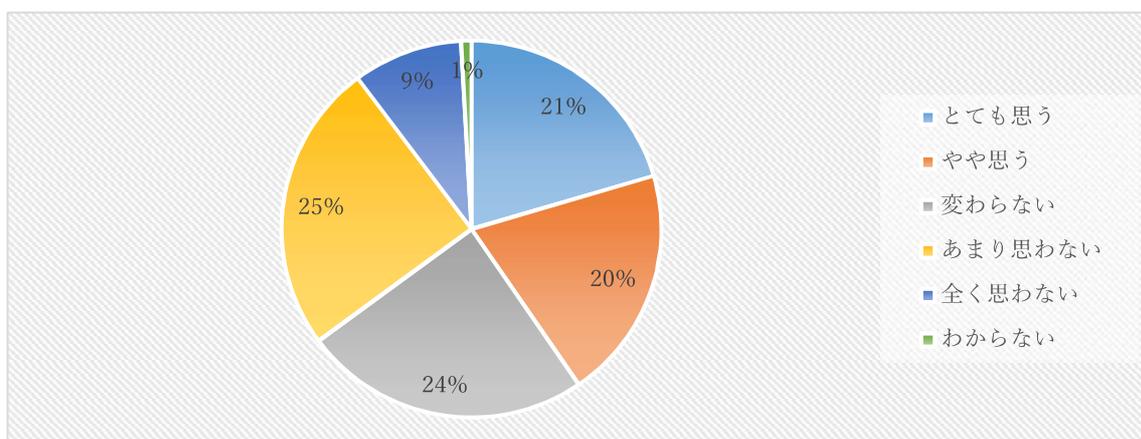
質問 5-4 対面授業と比べ、遠隔授業を実施する際、課題の提示や指示がしやすい。

2 回目実態調査結果（新規項目）



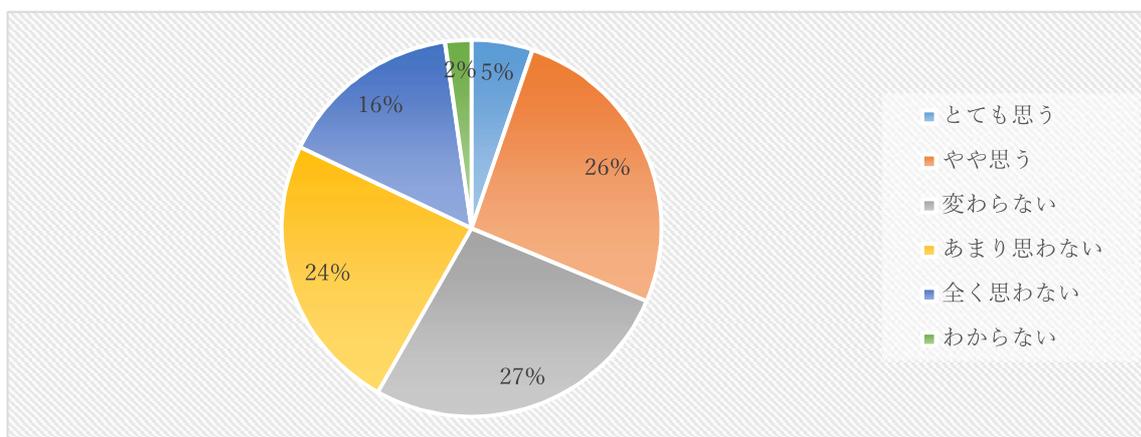
変数		質問 5-4 対面授業と比べ、遠隔授業を実施する際、課題の提示や指示がしやすい						
出現値		とても思う	やや思う	変わらない	あまり思わない	全く思わない	わからない	合計
所属	国際学類	6	20	22	18	14	1	81
	スポーツ健康学科	5	0	8	0	2	0	15
	看護学科	2	7	3	4	0	0	16
	リベラルアーツ機構	1	5	1	0	0	0	7
	非常勤講師	0	3	3	4	3	2	15
	合計	14	35	37	26	19	3	134

※学生実態調査比較 対面授業と比べ、遠隔授業を受講する際、課題の提示や指示がわかりやすい。



変数		問 29 対面授業と比べ、遠隔授業を受講する際、課題の提示や指示がわかりやすい。						
出現値		とても思う	やや思う	変わらない	あまり思わない	全く思わない	わからない	合計
所属	国際学類	34	28	38	42	17	2	161
	スポーツ健康学科	8	10	10	5	4	0	37
	看護学科	4	7	6	9	0	0	26
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留学生等)	0	0	1	0	0	0	1
	合計	46	45	55	56	21	2	225

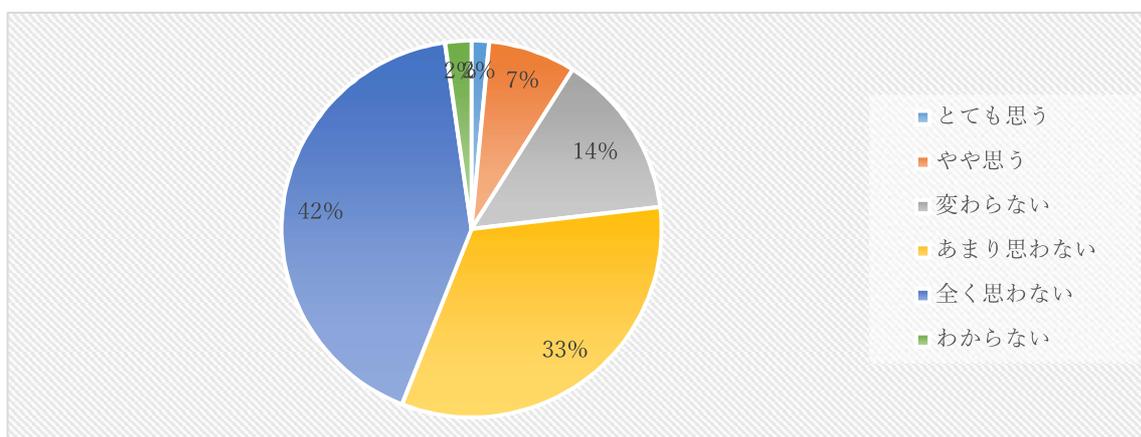
質問 5-5 対面授業と比べ、遠隔授業を実施する際、学生へフィードバックがしやすい。  
2 回目実態調査結果（新規項目）



変数		質問 5-5 対面授業と比べ、遠隔授業を実施する際、学生へのフィードバックがしやすい						合計
出現値		とても思う	やや思う	変わらない	あまり思わない	全く思わない	わからない	
所属	国際学類	2	24	22	16	15	2	81
	スポーツ健康学科	3	1	8	1	2	0	15
	看護学科	1	4	3	8	0	0	16
	リベラルアーツ機構	1	5	1	0	0	0	7
	非常勤講師	0	1	2	7	4	1	15
合計		7	35	36	32	21	3	134

※学生実態調査との比較はない

質問 5-6 対面授業と比べ、遠隔授業を実施する際学生のリアクションを確認しやすい。  
2 回目実態調査結果（新規項目）

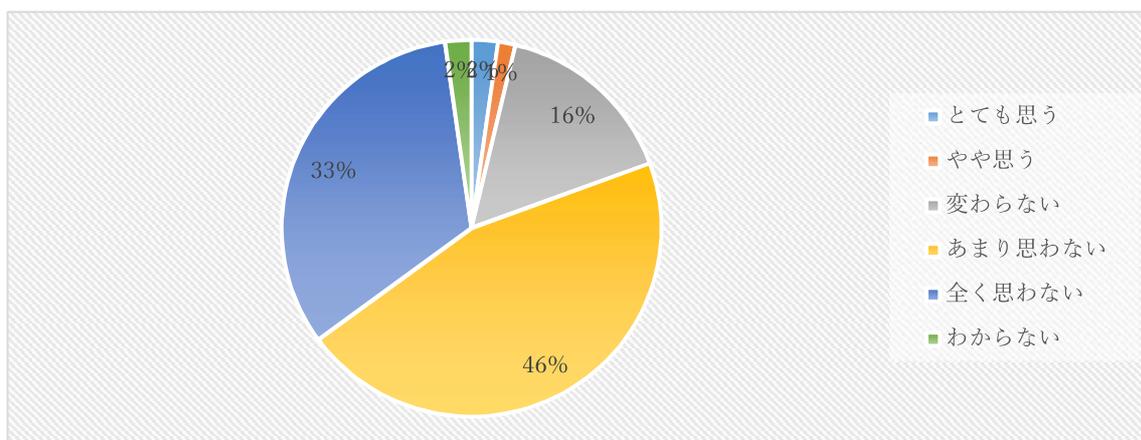


※学生実態調査との比較はない

変数		質問 5-6 対面授業と比べ、遠隔授業を実施する際、学生のリアクションを確認しやすい					合計	
出現値		とても思う	やや思う	変わらない	あまり思わない	全く思わない		
所属	国際学類	0	4	15	31	29	2	81
	スポーツ健康学科	2	4	2	1	6	0	15
	看護学科	0	1	1	4	10	0	16
	リベラルアーツ機構	0	1	1	5	0	0	7
	非常勤講師	0	0	0	3	11	1	15
合計		2	10	19	44	56	3	134

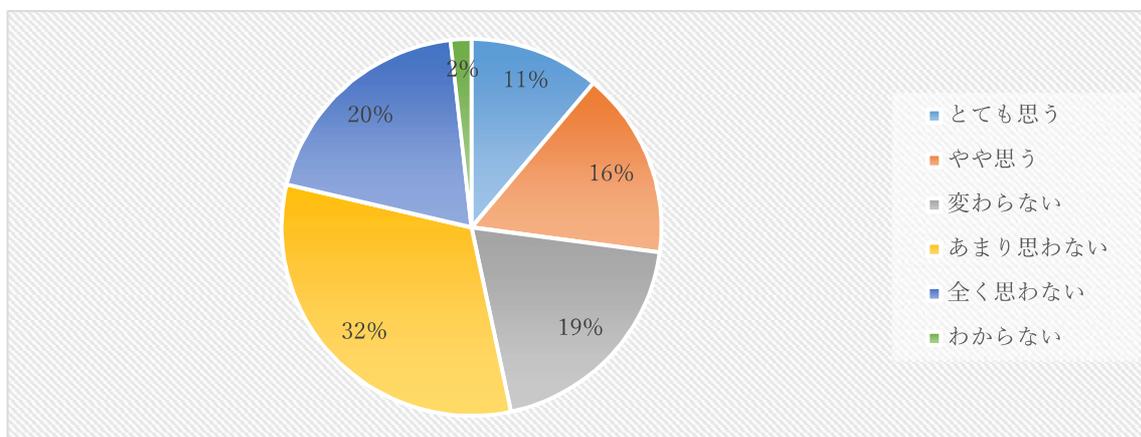
質問 5-7 対面授業と比べ、遠隔授業を実施する際、学生とのコミュニケーションがスムーズにできる。

2回目実態調査結果（新規項目）



変数		質問 5-7 対面授業と比べ、遠隔授業を実施する際、学生とのコミュニケーションがスムーズにできる						合計
出現値		とても思う	やや思う	変わらない	あまり思わない	全く思わない	わからない	
所属	国際学類	0	1	13	38	26	3	81
	スポーツ健康学科	3	0	1	7	4	0	15
	看護学科	0	0	1	8	7	0	16
	リベラルアーツ機構	0	0	6	1	0	0	7
	非常勤講師	0	1	0	7	7	0	15
	合計	3	2	21	61	44	3	134

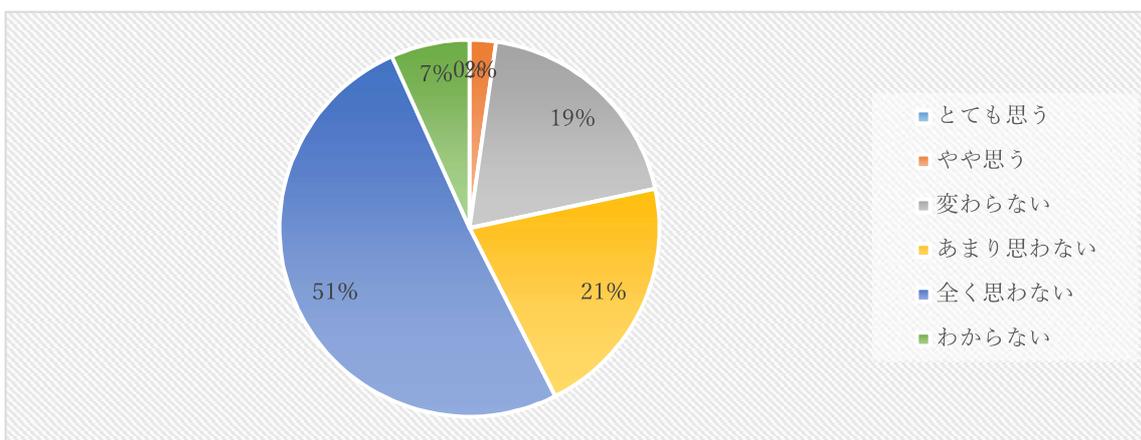
※学生実態調査比較 対面授業と比べ、遠隔授業を受講する際、教員とのコミュニケーションがスムーズにできる



変数		問 30 対面授業と比べ、遠隔授業を受講する際、教員とのコミュニケーションがスムーズにできる						合計
出現値		とても思う	やや思う	変わらない	あまり思わない	全く思わない	わからない	
所属	国際学類	16	27	34	49	31	4	161
	スポーツ健康学科	8	7	8	7	7	0	37
	看護学科	1	2	2	15	6	0	26
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留学生等)	0	0	0	1	0	0	1
	合計	25	36	44	72	44	4	225

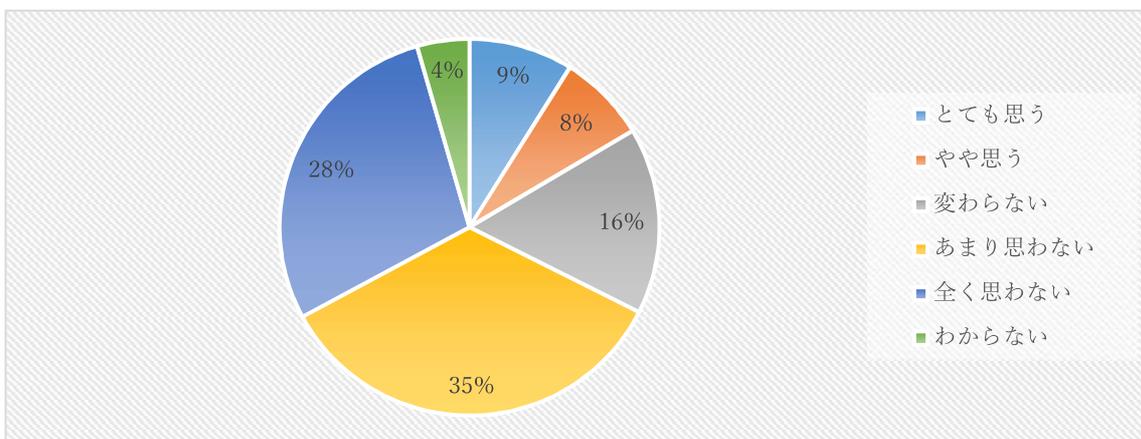
質問 5-8 対面授業と比べ、遠隔授業を実施する際、学生同士のグループワークや議論がスムーズにできる。

2回目実態調査結果（新規項目）



変数	出現値	質問 5-8 対面授業と比べ、遠隔授業を実施する際、学生同士のグループワークや議論がスムーズにできる						合計
		とても思う	やや思う	変わらない	あまり思わない	全く思わない	わからない	
所属	国際学類	0	3	12	18	41	7	81
	スポーツ健康学科	0	0	5	1	8	1	15
	看護学科	0	0	1	5	10	0	16
	リベラルアーツ機構	0	0	6	0	1	0	7
	非常勤講師	0	0	2	4	8	1	15
	合計	0	3	26	28	68	9	134

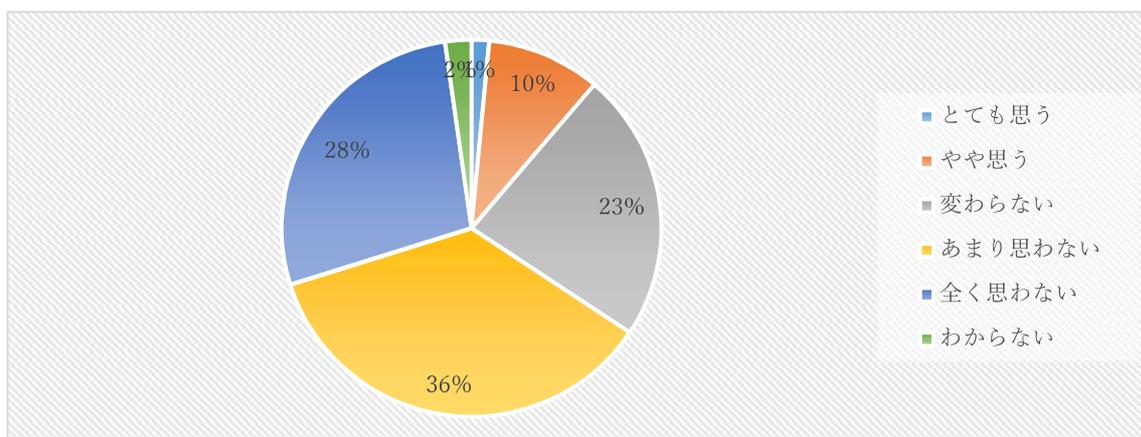
※学生実態調査比較 対面授業と比べ、遠隔授業を受講する際、学生同士でグループワークや議論がスムーズにできる



変数	出現値	問 31 対面授業と比べ、遠隔授業を受講する際、学生同士でグループワークや議論がスムーズにできる						合計
		とても思う	やや思う	変わらない	あまり思わない	全く思わない	わからない	
所属	国際学類	14	15	25	51	47	9	161
	スポーツ健康学科	5	1	9	12	9	1	37
	看護学科	1	1	2	14	8	0	26
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留学生等)	0	0	0	1	0	0	1
	合計	20	17	36	78	64	10	225

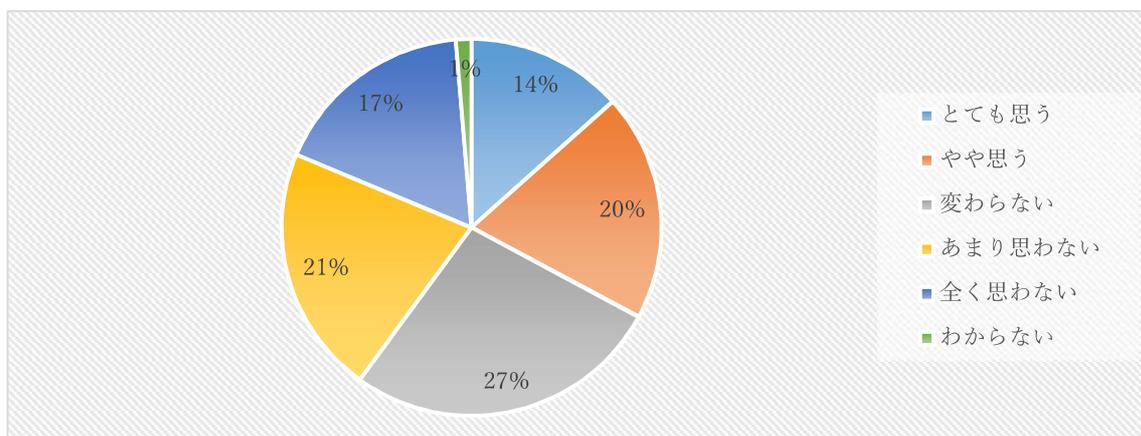
質問 5-9 対面授業と比べ、遠隔授業を実施する際、学生の質問や発言が多く出される。

2回目実態調査結果（新規項目）



変数		質問 5-9 対面授業と比べ、遠隔授業を実施する際、学生の質問や発言が多く出される						合計
出現値		ととも思う	やや思う	変わらない	あまり思わない	全く思わない	わからない	
所属	国際学類	0	3	21	30	25	2	81
	スポーツ健康学科	1	3	4	4	3	0	15
	看護学科	0	0	3	9	4	0	16
	リベラルアーツ機構	1	5	0	1	0	0	7
	非常勤講師	0	2	3	4	5	1	15
合計		2	13	31	48	37	3	134

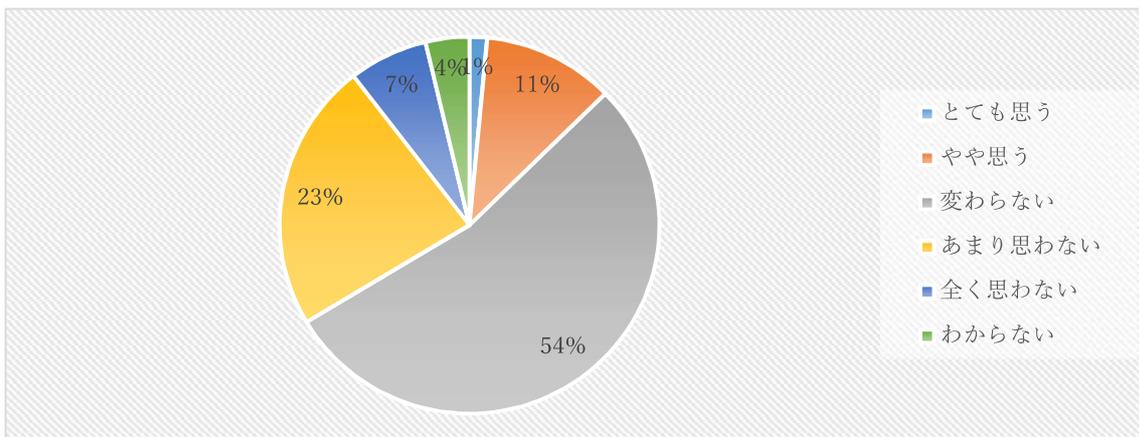
※学生実態調査比較 対面授業と比べ、遠隔授業を受講する際、授業での発言や教員への質問がしやすい



変数		問 32 対面授業と比べ、遠隔授業を受講する際、授業での発言や教員への質問がしやすい						合計
出現値		ととも思う	やや思う	変わらない	あまり思わない	全く思わない	わからない	
所属	国際学類	23	33	41	35	28	1	161
	スポーツ健康学科	6	9	9	4	8	1	37
	看護学科	1	1	11	9	3	1	26
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留学生等)	0	1	0	0	0	0	1
合計		30	44	61	48	39	3	225

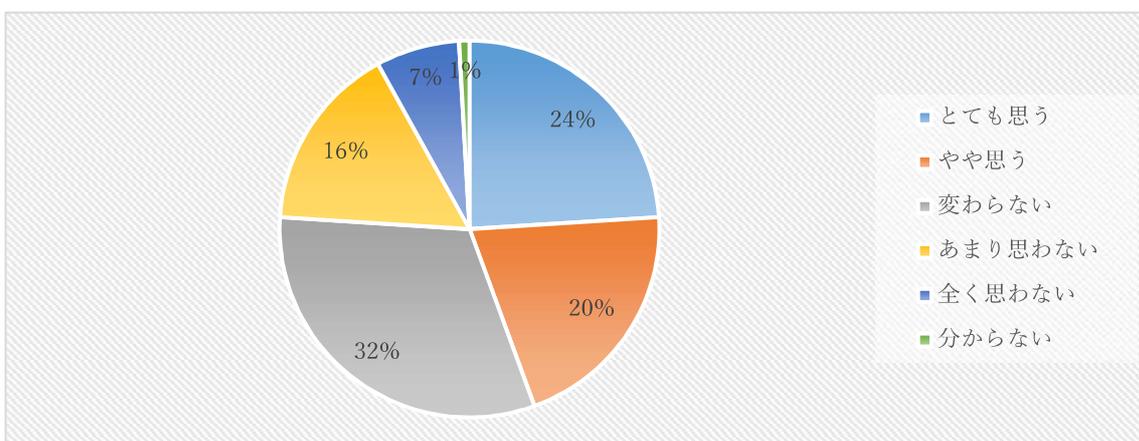
質問 5-10 対面授業と比べ、遠隔授業を実施する際、多くの学生が課題を提出できる。

2 回目実態調査結果（新規項目）



変数		質問 5-10 対面授業と比べ、遠隔授業を実施する際、多くの学生が課題を提出できている。						合計
出現値		とても思う	やや思う	変わらない	あまり思わない	全く思わない	わからない	
所属	国際学類	2	9	46	15	6	3	81
	スポーツ健康学科	0	1	10	4	0	0	15
	看護学科	0	2	7	7	0	0	16
	リベラルアーツ機構	0	1	5	1	0	0	7
	非常勤講師	0	2	4	4	3	2	15
	合計	2	15	72	31	9	5	134

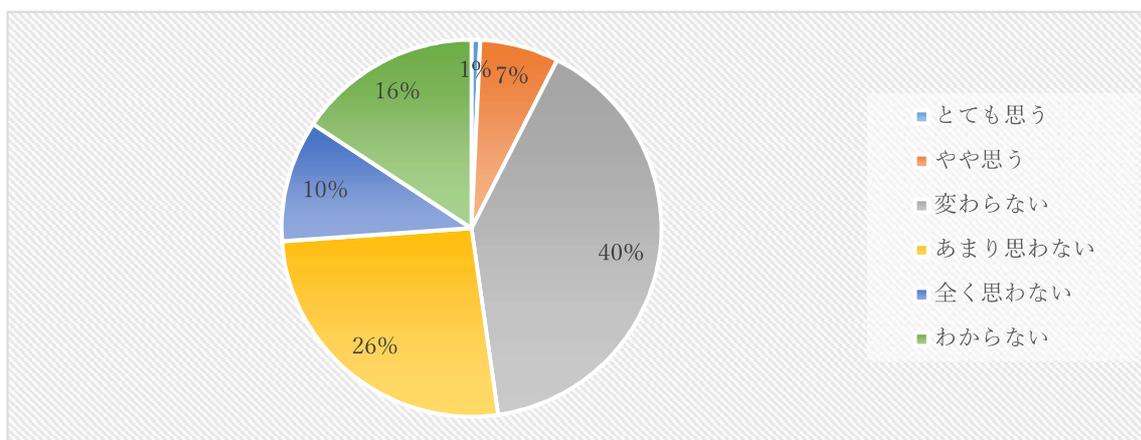
※学生実態調査比較 対面授業と比べ、遠隔授業を受講する際、課題を適切に提出できる



変数		問 33 対面授業と比べ、遠隔授業を受講する際、課題を適切に提出できる						合計
出現値		とても思う	やや思う	変わらない	あまり思わない	全く思わない	分からない	
所属	国際学類	39	30	49	29	13	1	161
	スポーツ健康学科	8	7	14	6	2	0	37
	看護学科	7	8	8	1	1	1	26
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留学生等)	0	1	0	0	0	0	1
	合計	54	46	71	36	16	2	225

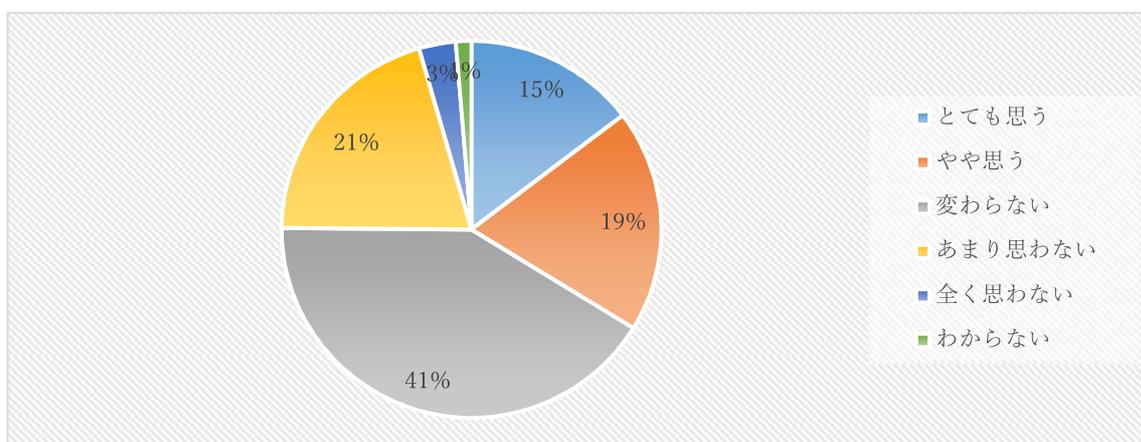
質問 5-11 対面授業と比べ、遠隔授業を実施する際、多くの学生が授業内容をおおむね理解できる。

2 回目実態調査結果 (新規項目)



変数		質問 5-11 対面授業と比べ、遠隔授業を実施する際、多くの学生が授業内容をおおむね理解できている。						合計
出現値	とても思う	やや思う	変わらない	あまり思わない	全く思わない	わからない		
所属	国際学類	0	2	36	21	8	14	81
	スポーツ健康学科	1	2	4	2	5	1	15
	看護学科	0	3	5	7	1	0	16
	リハビリアーツ機構	0	0	6	1	0	0	7
	非常勤講師	0	2	3	4	0	6	15
	合計	1	9	54	35	14	21	134

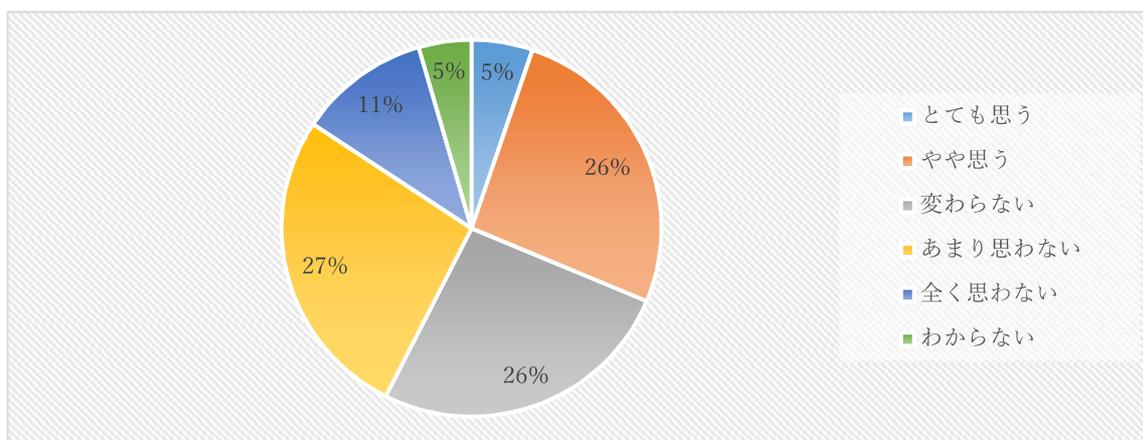
※学生実態調査比較 対面授業と比べ、遠隔授業を受講する際、授業内容をおおむね理解できる



変数		問 34 対面授業と比べ、遠隔授業を受講する際、授業内容をおおむね理解できる						合計
出現値	とても思う	やや思う	変わらない	あまり思わない	全く思わない	わからない		
所属	国際学類	22	32	63	37	4	3	161
	スポーツ健康学科	8	6	17	3	3	0	37
	看護学科	3	5	12	6	0	0	26
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留学生等)	0	0	1	0	0	0	1
	合計	33	43	93	46	7	3	225

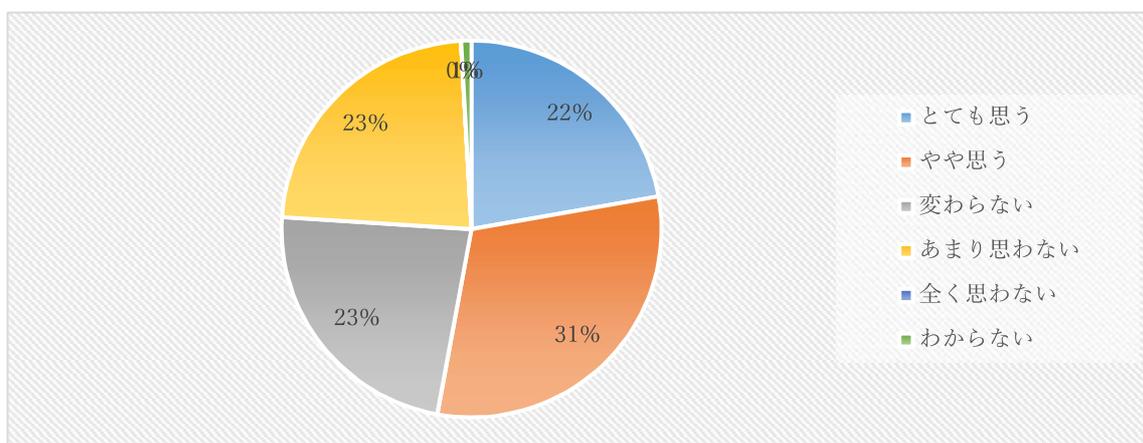
質問 5-12 対面授業と比べ、遠隔授業を実施する際、大きな問題なく授業を開講できている。

2 回目実態調査結果（新規項目）



変数		質問 5-12 対面授業と比べ、遠隔授業を実施する際、大きな問題なく授業を開講できている。						
出現値		とても思う	やや思う	変わらない	あまり思わない	全く思わない	わからない	合計
所属	国際学類	2	18	25	21	11	4	81
	スポーツ健康学科	4	4	1	3	3	0	15
	看護学科	0	5	4	6	1	0	16
	リハビリアーツ機構	1	5	1	0	0	0	7
	非常勤講師	0	3	4	6	0	2	15
	合計	7	35	35	36	15	6	134

※学生実態調査比較 対面授業と比べ、遠隔授業を受講する際、大きな問題なく授業を受講できている



変数		問 35 対面授業と比べ、遠隔授業を受講する際、大きな問題なく授業を受講できている						
出現値		とても思う	やや思う	変わらない	あまり思わない	全く思わない	わからない	合計
所属	国際学類	33	51	36	39	0	2	161
	スポーツ健康学科	11	8	9	9	0	0	37
	看護学科	6	10	7	3	0	0	26
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留学生等)	0	0	0	1	0	0	1
	合計	50	69	52	52	0	2	225

別紙コメント：

1. 学生対象実態調査報告

令和2年度混成型授業の実施に関する実態調査結果

(第2回：12月実施分)

及び

令和2年度遠隔授業の実施に関する実態調査結果

(第1回：5月実施分)



#### 質問 4-1 遠隔授業を実施してよかったこと、工夫したことがあれば記入して下さい。

##### 2 回目実態調査結果

- |   |
|---|
| 1. 体調不良の学生でも参加できることは大きなメリットです。通信速度の影響を受けて教員の声が途切れないうちに、①画面共有（映像なし）、②音声、③学生は映像・音声をオフにしてもらう、ことを工夫しました。スライドをわかりやすく作ることに力を入れました。<br>教員が「対面」か「オンライン」かを決めるのではなく、教員側はどちらも用意して、学生がどちらに参加するかを決める方式を取りました。そうすることで、学生としても「自分で選んで受講している」という気持ちになると思います。 |
| 2. 学生の事情に即して対応できたこと（体調面）  |
| 3. ・登校しないでよいことがメリット<br>・資料を丁寧に作りこんだ   |
| 4. 学生が登校しなくてよい  |
| 5. グループワークをするときにチャンネルの活用をした。授業資料の事前アップをし事前学習を促した。   |
| 6. オンラインツールの利用スキルの向上など学生・教員双方のメリットは大きい。   |
| 7. この授業に関してはメリットは感じられない。  |
| 8. インターネット環境がある場所では、どこでも講義が可能なこと。オンライン参加者を特定する方法がないか色々模索したこと。   |
| 9. コロナ禍において実技種目が難しかったなか、工夫して体育実技を行えたことはよかったと思う。かなりの人数が捌けた・・・  |
| 10. 資料の印刷、課題の提示や提出物整理の効率化が図れたこと、QRコードでの授業評価やコメントが活用しやすくなったこと、個別の質問へ対応しやすくなった等   |
| 11. 安全安心の確保、学修履修の確保。出席を小レポートでの確認と評価へ反映したこと。   |
| 12. 授業ファイルの限定シェアなどで、復習できるようにしている。また遠隔の出席はコメントを活用した。毎回アンケート、課題を与え、授業にアテンドするように工夫した   |
| 13. 対面よりも図表を使って説明することを心掛けた  |
| 14. 感染心配がなく受講でき、就活中でも欠席せずに受講できるところが良い   |
| 15. モニタリングを常時行った。   |
| 16. 継続的なモニタリング  |
| 17. 大学に来れない学生がオンラインで参加できたこと   |
| 18. 授業資料の提供に、Teams を使用したため、提供がシンプルでペーパーレスにより準備時間の短縮になった。動画作成のスキルが上がった。  |
| 19. 資料の提示、県外の講師依頼が可能なのは良かったです。  |
| 20. オンラインを接続させているパソコンの音声をマイクでひろい、web で受講している学生も対面授業で受講している学生と同様に授業に参加してもらうことで、遠隔の学生も授業に集中してもらうように工夫した。  |
| 21. 配布資料の共有が電子データでできる。  |
| 22. 感染症対策として安全に講義を進行できた。グループ学習を行っているので、GoogleDriveなどを活用して、グループの資料なども各学生が相互共有しながら進められた。結果、学生同士の交流も一部促進された。   |
| 23. 遠隔で参加している学生は、対面での状況を把握しにくいいため、問題を解く時間など、細かく指示した。また、パワーポイントを使用することで、対面と遠隔の学生が同様の資料を見ながら、ほぼ同じように授業を受けられるよう、工夫した。<br>出席率は例年に比べると良かったと思う。   |
| 24. 教授方法のチェックができたこと。  |
| 25. 授業動画を収録することにより、教授方法の見直しができたこと。  |
| 26. コロナウイルスの拡散予防。講義形式同様に学生とのコミュニケーションを多く取り入れた。教員への確認時間を設けた。   |
| 27. ICTに慣れるきっかけになった。  |
| 28. 3密が避けられた。   |
| 29. 一部学生が途中退席していると思われる事案があった。途中退席を防ぐために講義の途中でクイズを出題し、フィードバックペーパーに解答を書くように指示した。  |
| 30. 復習や予習の内容を文章と音声で指示できた。   |

31. 集中力を維持するために問題を出題した。
32. 課題資料を Teams のファイルで共有化できた。
33. 大変ではあるが、確実に個別にコメントを返すことができた。
34. 理解度を上げるために、スライドを工夫した。
35. スライドが充実した。
36. 課題研究のスライドを共有でき、効率よく作成することができた。
37. 外部講師の講和時に、学生にチャット機能によって質問を受付、応答した。
38. テキストの購入率が上昇したこと。課題に対して感想、質問、意見等がみられ、Gmail を通して学生とのコミュニケーションが獲れたことなど。
39. 遠隔システムを用いた学生の課題提出や教員のコメントが有効である。コロナウイルス感染防止に有効である。
40. 学生の課題提出や教員の評価には有効である。コロナウイルス感染防止には有効である。
41. PC ルームで作業を行うため、学生がほとんど教室にて受講のため、特になし。
42. これまでの板書形式のスタイルから、電子データ資料等の整理もできたので、今後の授業においてもとりまとめも楽になったこと。
43. これまでの板書形式の講義の進め方を、電子データとして整理できた。
44. 板書形式の講義から、電子データでの整理ができたこと。
45. 紙媒体の配布がなくなった。
46. 配布物が少なくなった
47. 授業資料の印刷が省けたこと。代わりにパワーポイントの活字を大きくし、読みやすいように再編集した。
48. 録画した授業ビデオを視聴し、予習・復習する学生が増えたこと。授業後の振り返りは文字数の制限がないため、論理的な思考をチェックしやすくなったこと。
49. 授業後の振り返りは文字数の制限がないため、論理的な思考をチェックしやすくなったこと。
50. なるべく対面およびオンライン両方の参加者が、同じ課題を同じように提出できる方法を取れるようにした。
51. 最初は、ユニバーサルパスポートを使用した課題配布を予定していましたが、学生の要望を受け、リアルタイム配信を実施しました。
52. 体調不良であっても、授業に参加できること。提出物などについて、学生がしっかりついていくよう努力するようになった気がする。
53. 当初はユニバーサルパスポートを使用した課題配布を予定していたが、学生の要望を受け、リアルタイム配信を実施しました。
54. 当初は主に対面授業を予定していたが、学生の要望を受け、リアルタイム配信を実施しました。
55. 毎回の授業の Feedback Paper をオンライン上 (Google Form を使用) にてリアルタイムに収集でき、受講生の理解度を確認できた。また前時の振り返りや補足説明に活用できた。授業中に行うクイズへの回答も ICT ツールを利用することで即時集計して提示することができた。
56. 毎回の授業の Feedback Paper をオンライン上 (Google Form を使用) にてリアルタイムに収集でき、受講生の理解度を確認できた。また前時の振り返りや補足説明に活用できた。
57. 新型コロナウイルス関連にて自宅待機学生も実習にオンラインで参加できた。コロナの影響で、実習人数を分散したがオンラインで共通カンファレンスを持つことができた。
58. Classroom や GoogleForm を用いて単語テストや中間テストを行なっている。
59. 毎回、講義の様子を録画して配信するようにしている。
60. 毎回、授業の動画を録画して配信した。
61. 音声の明瞭さ、課題の支持の仕方に注意した。

## 質問 4-1 遠隔授業を実施してよかったこと、工夫したことがあれば記入して下さい。

### 1 回目実態調査結果

1. Univasal Passport を使うことで学生コメントに返答することができた。 工夫として、授業の音声資料を作成して、それを Univasal Passport 上にアップし、学生に聞いてもらった。何人かの学生からは好評の声を受けた。
2. もともと板書形式のものであったので、この機会にレジュメ等の作成を行い、新しい授業資料に改定できた。ユニバーサルパスポートも今回本格的に使用しましたが、必要に応じて、授業資料、課題管理、クラスフォーラム、小テスト作成を使えばよいことが分かった。
3. 今年度からの新しい科目であったので、授業資料づくりとそれを遠隔で実施するための作成を行ったので、予習・復習の観点も入れた授業資料づくりを心掛けることができたのではないかと思う。
4. 演習であるため Teams を使用し実施しました。学生の負担も考慮し時間短縮で実施した。 演習を進めるにあたっての説明は、教員側から一方的に話を行い、全体での顔合わせと出席確認、質疑応答もかねて1人ひとり、マイクと映像をオンにしてもらった形で実施した。
5. 4年ゼミであるので、就職等でこれまで参加できない学生は、卒論等の資料作成を行うにしても、メール・紙媒体で対応していたものと実際に会議ツールを活用して直接対応できるので、よかったと思います。
6. 3年次ゼミでの使用を行った。全員が初めての顔合わせであり、問題なく使用できました。 3名が県外にいるため、使用は必須である。まだ学生の中に音声と画像がうまく使用できていないのはいましたが、問題なく使用できた。
7. 講義内容の焦点化ができた。
8. 課題を設定し提出させることで学習効果を高めた。
9. 無線を有線で接続、メモリの増設、動画を Youtube に載せるも著作権の問題で「削除」される。著作権法ではクリアできる素材でも Youtube で掲載不可となります。
10. Yes, I was able to find more creative ways of teaching/sharing content. As for ideas, I would recommend teachers to use Flipgrid.com as a way for students to submit video assignments. They can "voice" their assignments. This will eliminate sole dependence on "written" assignments. Flipgrid is free and owned by Microsoft. This information should be shared with everyone. Also, PowerPoint has an audio/recording option for slide presentations. Teachers can pre-record their lecture slides and share them with students--possibly with an unlisted Youtube link. This could be helpful if there is a problem with connections or to possibly prepare a better lecture presentation. Finally, I am using Google Classroom for my main communication platform with students. I feel that Universal Passport is too cumbersome and difficult to use. You do not need to attend a "workshop" or read a "multi-paged booklet" to understand it (as in Universal Passport). Google Classroom is simple and has many tools.
11. よかったことは、リアルタイムに講義ができる。ゆっくり話かける。発問を取り入れて双方向のコミュニケーションをとるように工夫した。
12. 授業内容の精選, Web 会議ツールを活用したグループ活動の実施
13. チャットアプリを使ってグループに分けて話し合いをメインにした授業を行った。各個人の考えが一目でわかる点はよかった。工夫した点として、できるだけ話し合いをしてもらいたかったので、事前にパワーポイントで音声を吹き込んだビデオ講義を作成し、それに基づいて話し合いをしてもらったことが挙げられる。
14. グループで話し合いをさせたかったので、zoom のブレイクアウトルームを使った点。グループでの話し合いは盛り上がっていたようでよかった。
15. 例えば<ファーストフードの日本語>であれば、メニュー表などをその場で共有し、日本語がわかるどうかチェックしたりしていた。わからない部分は word にまとめてこれも共有し、本人に確認させていた。生きた日本語に直接接することができ、これを授業に取り込めると言う点で、かなり利点がある。
16. Web 会議ツールが使用できるようになった、学生が対面より集中できると言っていた
17. 準備は大変だったが、授業当日に拘束されないのは良かった
18. 学生が忘れ物をして自宅にいるのですぐに持参・確認できた
19. 資料を即時に共有できるのはよかったと思います。
20. 授業前に簡単な調査を行い、すぐに集計結果を提示できること。また、授業を録画することにより、通信状況が悪い学生であっても後日、Wifi 環境があれば授業を受講でき、課題提出も大学に来ることなく提出できること。

21. ①遠隔授業を行うことで、教員、学生の双方の講義への準備や心構えが引き締まった感じがします。②リラックスした状況で講義を行う、受ける・・・が、できているのではないかと思う。③受ける側の学ぶ主体性が育まれると思います。
22. 出席の確認をすることを目的として理解度確認の小テストをしている。
23. 予め PDF 化したレジメを講義 1 週間前に配信し、予習させて講義に臨んでもらうようにした。
24. 出席確認の為に、講義の理解度小テスト（Teams の課題で作成）を実施している。
25. 病院で務める外部講師が直接大学に来なくても講義ができたことがよかった（感染リスクを考慮して）
26. 感染に対する自分自身や学生の不安を軽減できたことは良かったと思う。授業資料の提供や課題の提出などすべて Web を使って実施していることで、紙の使用が減りシンプルになった。また、1 年生ということもあり、Web での課題提出が上手くいくか不安だったが、余裕をもって学生に告知し、シミュレーションを行ったことで、課題の提出もスムーズにできている。
27. 技術動画を作成し配信しているが、学生より「分かりやすい」自分の「タイミングで学習できる」といった評価があった。ICT の利点がでていると思う。
28. コロナの発生状況を伺いつつ、大学の方針に沿った授業であったことから、先の行方が見えない不安感があった。大学 FD 研修の中で、授業の考え方等の説明を受け、気持ちが少し楽になりました。先の予測がつき難いため、例年よりも事前課題を増やし、国家試験対策の一環としての作問課題を提供し、自粛期間の学習環境を強化しました。その結果、学生にとってはどうであったのかについては、授業評価に頼らねばならないところです。
29. グーグルドライブを活用すること。学生が作成した研究計画書、先行研究論文を共有している。学生間、学生教員間で作業の進行状況が把握しやすい。
30. 講義資料を前日までにチームズにアップロードし、学生が事前確認できるようにしています。今回、オンライン講義にすることで学生のレジメ資料準備も講義前日までに行うことで例年よりも講義進行がスムーズです。
31. ・レコーディング機能があるため、体調不良や通信状態不良で参加できなかった学生が授業後に授業内容を把握することができた。また、復習することができる。そのことによる安心感について受講生のリフレクションペーパーにも記載があった。  
・Teams と Microsoft Forms 等を連携させて、毎回の授業において、授業評価アンケートを実施している。その中で受信状態や難易度、理解度、満足度、要望、質問、意見等を確認している。  
さらに、次回の授業時にはその受講者全体のアンケート内容結果を受講生にも公開し共有している。その結果、受講生と教員が力を合わせて良い授業にしていくという共通意識が共有されてきている。
32. 通常 90 分の授業だが、オンラインは 60 分集中で行い、あとは課題を出してレポート提出をさせたりしている。 ※一日中オンライン授業の学生もいるかと思ひ、
33. 環境についてや理解度学について、瞬時の確認ができるのは良い（チャットなどで）。  
生が質問しやすいと感じました。  
お互いの画面を共有することで刺激になると思ひます。全員の同時「公開」を試みます。
34. オンラインの画面を録画し、学生に配布することで、復習に使えるようにした。
35. 最初に呼名で出席を確認し、合間に質問を行った。
36. 講義終了後、学生からの質問が増えた。
37. 講義内容を事前に配布し、予習を行わせた。
38. 1 年次とのつながりを保てた。
39. 質問を行い、緊張感を持続させた。
40. 就活で県外にいる学生も参加でき、卒業論文指導が会話を通じてできる。
41. 対面授業では、なかなか発言できない子でも、チャットを利用して、発言がしやすい。
42. パソコンのメモリの増設、無線接続を有線接続、口元マイクを新規購入、資料の PDF 化、動画ファイルが重いので、Youtube Studio 開設と活用
43. 良かったこと：ICT を利用した授業の可能性を考え学びながら実施できた。工夫したこと：受講生に質問し、反応を確認しながら授業を進めた。
44. ①良かったこと：国外の団体に授業への協力を依頼した  
と：学生の反応を確認しながら授業を進めた  
②工夫したこと
45. 資料や研究計画書の共有がしやすかった。時間の区切りがつけやすかった。
46. 従来の講義で使用した PowerPoint スライドは提示した情報以外を口頭説明で補っていた部分あり、今回はその口頭説明部分を文字化して補足しなければならなかったが、これが意外と大変であり、かつ、作成が楽しかったことに気づいたこと。

47. 休講せずに新生へのタイムリーな指導を行う事ができ、今後の講義に対する準備にもあてられたと考える。パソコンを初めて使う学生が多く、使用方法も含めて説明した。課題資料の共有が行いやすかった。
48. 講義の開始時や講義中等、定期的に googleform を活用し、出席確認や発言について入力してもらい、学生の参画をはかれるよう工夫した。
49. 良かったこと：講義資料の印刷が不要なこと。工夫したこと：学生の反応が分からないので、出席を音声で返答してもらい、質問の回答を音声でもらった。
50. Universalpassport と teams を併用し、課題や資料を配布した。さらに、クラス担任にも必要時に学生への周知徹底をした。遠隔授業の確認の意味で、再度にもう1台のPCを置き辞した。どちらも初の経験でした。
51. 学生からは教員の顔が見えることで安心したとの声があった。授業予定日の3日前には、Universal Passport で資料を提示し予習するよう伝えた。
52. 話しやすいと思った。
53. (学生の都合で最初の授業は中止、2回目は対面で行った)
54. ICT を活用することで、学生からの課題提出の有無をクラウド上で管理することができた。講義内容に対する学生の意見等を求める際に、チャット機能を活用した。
55. 事前準備に時間がかかった。
56. youtube を利用すると自動的に字幕チャプターを付けることができるので、学生の理解度も進んだとの声があった。
57. Web 会議は指定の中では ZOOM が使いやすかった。
58. 実習授業のため、6月：学生募集/7月より実習開始予定
59. ・受講できる学生が増える  
・受講生が発言しやすい  
・インターネット上の情報を利用しやすい  
・Teams を通して効率的に全体連絡ができる
60. 課題の明確化、提出締め切り順守、一方的な発信でなく学生に発表させインタラクティブに進める点。
61. スライドにできるだけ説明を反映させるようにした。
62. デスクトップとノートの2台のパソコンからログインして、画面共有した時の学生目線の画面が見れるようにした。しかし、先週からその機能が使えなくなった。スマホからは確認
63. 授業の準備を早くできたこと。授業が単調にならないように、途中に簡単な課題を出し、解答させた。
64. 学生の振り返りが今後の授業の参考になった。1回目の授業をリアルタイム授業、2回目の授業がリアルタイム授業10分、あとはオンデマンド授業で実施した。2回目の授業で学生にアンケートを採った場合65%がオンデマンド方式が理解度やわかりやすさがよかった。授業によってはオンデマンド方式の授業の方が効果があるかもしれない。
65. ゼミでは顔を見せて、学生にも画面共有して発表させた。いつもよりも学生の質問が多かったような気がした。GWの休日中にも個別面談方式でゼミを実施した。個別の相談は1対1の方式もありかもしれない。
66. 対面では話し合いをしにくい学生たちが、遠隔グループ会議で意外と発言するということがわかった。今回の経験を通して、普段から活用できる可能性を知る機会になったと思う。
67. 学生から、対面式と比べわかりやすかったとの感想があった。
68. 事前にレジュメを配布し、必要に応じて印刷できるようにした。
69. 学生の反応もよかった
70. 白板が使用でき、学生にも見えるようにカメラの工夫
71. レジュメを事前にファイルにアップした
72. 非常勤の教員と teams の使用方法について事前に確認した。
73. Universal Passport の「課題提出」を用いることでコメントのレスポンスが容易となった。
74. 受講生にとって、授業での90分の使い方と比べて音声入りのPPT教材を使用することで、習熟度にあった使い方ができると考えられる。予習課題もヒントを与えたりすることができるので良いと思う。
75. 毎時 teams のチャンネル機能を使ってグループディスカッションを実施していますが、学生からは議論が活発にかつ真剣にできて楽しいという意見も多く上がっています。遠隔授業は、学生のディスカッションスキルだけでなく、対人だと養えない ICT スキルの向上にも繋がっているようにも思えます。また、授業のすべてのレコーディング記録や配布資料などをアーカイブとして保存でき、学生が好きな時に視聴、ダウンロードできるというのも、予習・復習に役立ち、学びを深めることです。

76. この科目は未だ1回のガイダンスを行って、診断テストをただけなので良かった点は、何とも言えない。
77. 毎時、オンラインで受講し、そのままオンラインで課題を提出するという流れをとっていますが、そのおかげか学生の課題提出率は高く、その内容も充実しています。学生が真剣に授業に向き合ってくれているように感じています。
78. 全学生が参加して、呼びかけができて、資料を共有、保管することが良かった。一工夫：Teams で週ごと channel を作って、資料、コメントなど整理
79. ①遠隔授業用に講義コンテンツの見直し、②オンライン授業開始 30 分前、10 分前の予告とチャンネル誘導、③講義視聴→質疑→課題 (Feedback Paper) 回答のメリハリ、④UNIPA (講義資料の事前配信) と Teams (即時配信・資料共有) および Google Form (FP のオンライン回答) の連携、⑤FP 回答結果を次回授業で共有
80. 移動時間が無く、コロナ対策ができたことが良かった。
81. 授業時間にメリハリをつけて、効果的におこなったこと (チャレンジワークを実施し、学生の参加を確認した。ユーチューブを使用して動画をみてもらった。授業中に問いかけて、マイクあるいはチャットで返答してもらった)
82. 学生は感染していても不顕性症状の場合があるので、直接対面しないで良かった
83. 簡単な質問をとることができ、すぐ集計が学生にも見せることができた。
84. 操作動画を作成し、参加できなかった学生も含め手順を見直すことが出来るようにした。
85. 新たな教授方法にチャレンジし、教授法の選択肢を増やす機会となった。課題に工夫を凝らす機会となった。
86. 新たな教授方法にチャレンジし、教授法の選択肢を増やす機会となった。講義内容や課題に工夫を凝らす機会となった。
87. Google form を Feedback やクイズに使用することで、出席および講義の理解度を知ることができる。1 人一画面になることから、学生が集中しているように見える。
88. 授業スライドに可能な限り説明を反映させた。
89. 1 年次必修科目のため、一人一人出席や困ったことがないかを確認できた。
90. 国外・県外など、遠隔地の学生が受講できた
91. 遠隔地からも受講できる
92. 自分の一回の授業だけで 100MB を超えるような容量を学生に使わせることにより他の教員の授業の実施に影響を与えるようなことが無いよう配慮した。
93. 授業資料の見直しが十分にできたことがよかった。
94. ライブ形式の授業は、映像や音声の乱れがつきものである。また、学生の通信環境を配慮して、オンデマンド形式 (Youtube) での遠隔授業を行った。
95. Teams にて多数のオンライン授業をする際は、喋る時以外はミュートや出席を取る時は、学籍番号と名前を記入するなど、オンライン授業する際のルールを決めて行った
96. 国内協定校に留学中の学生も参加することができた。
97. Engagement level is high in breakout rooms which is not possible in face-to-face class currently.
98. データダイエット、学生の意欲向上、音声入力 (ICT 活用)
99. 講義の実施方法と進め方を丁寧に何回も説明した
100. 教員の顔を入れて説明する動画、音声ファイルを使用した講義など、複雑になり過ぎず、かつ興味を持ってもらえるよう複数の種類の資料を作成した
101. 資料と動画、課題というオンデマンド授業を行ったが、動画公開時間と課題提出時間を実際の講義時間と近いものとして提供した
102. 受講者全員の顔を同時に見ながら演習を実施し、全員に発言させる機会を積極的に設けることができた
103. 全体では zoom、個別指導では FaceTime を併用したこと
104. オンラインで実行環境を活用した

## 質問 4-2 遠隔授業を実施したときの困ったこと、トラブル・問題点があれば記入してください。

### 2 回目実態調査結果

1.	オンライン講義に参加している学生の表情が見えないので、理解度において二極化が起きたことです。毎回のリフレクションシートからは見えないこともあると感じました。
2.	学生の通信環境 学生のノイズ 学生のリアクションがわからない
3.	学生のリアクション
4.	DVD 使用時に音声がないなど、ぼわぼ使用時に教室のスクリーンには複合できるが、teams できないなどのトラブル。学生も科目ごとのチームが増えるので、連絡をするときに多くの科目から連絡が来るので、情報収集が混乱をする状況にある。
5.	ハイブリッドだと、オンラインでのトラブルがあった場合は、対応できない。対面授業を止めてオンライン対応するのは現実的でない。
6.	とにかく対面でのディスカッションが重要で、オンラインだと難しいさを感じながらの実施であった。また、学生はこの授業に関しては 100%対面を希望し、現在は対面で行っている。
7.	メールを見ない学生が多いこと
8.	対面を強制していることは全くなくて自由意志での参加としているが、かなり難しい授業であるため 90%以上の学士は積極的に対面で参加している。オンラインのでの参加は受講意識が低い学生のみとなっている。これも問題ですね。 私の授業に限ってだと、成績が芳しくない学生に限ってオンラインで受講している傾向がある。やはり意識が高い学生は対面での受講が多いのではと思っている。
9.	体育実技ですので、オンラインで行うと画面をオンにでもさせない限り本当に実技を行なっているのかが確認できない。ただ虚しく教員のみが指導しているのかもしれない問題がある。現に何かの拍子で受講生のマイクが ON になりコンビニのレジでのやり取りが突然音声で流れたり、ただ接続しているだけの感も多いのではと考えられる。実技の実施はフェイストゥフェイスが基本であると感じられた。
10.	1 年次前期の科目や、技術・演習系の科目を遠隔で効果的に実施することは難しいと実感しています。準備が大変でした。学生はもっと大変だったのでは・・・？
11.	困ったこととしては、1 部学生ではあるが欠席連絡や返答を適宜にしてくれないこと。相互連絡アプリで学生が普通のアプリでは開けないスマホのアプリで返送すること（理解してもらうことが難しい）。
12.	密にならないよう対面での技術演習のスケジュールを調整しながら、技術習得レベルを維持することに苦慮した
13.	学生が teams に登録されていない、登録されていても入れないことがあった。対面と遠隔の療法をチェックしなければならないので、時間がかかる
14.	学生が勝手にレコーディングを行う。パワーポイント資料のスクリーンショット
15.	スマホで入ってくる学生の場合、途中で電池切れが起こったする。
16.	動画の画面共有が出来なくなることがあった
17.	オンラインの学生の学習状況がわからない
18.	実技の見本を実施しながら授業を行った際に、学生から見えにくい、音声が強くなり聞こえにくいなどの指摘があった。授業に対する学生の反応が見えない、やりとりしながらの授業が難しくなった。
19.	操作に問題ない時もありましたが、不手際によって講義を中断する事がありました。学生の集中を中断することがあり申し訳ないと思いました。MNC の方はすぐに対応してくれたので、助かりました。
20.	ハイブリッド授業だと、対面授業の準備（配布資料や出席確認）と Teams への接続、ファイルの共有、出席確認を行うため、授業開始時に時間を取られてしまう。
21.	教室のウェブカメラが設置しづらい。HDMI のコードが短い。オンラインでのテストだと、カンニングを防げない。教室に電源が少ない。ハイブリッドだと学生が何名対面で出席するかわからず、コピーの無駄が多い。
22.	グループ学習をしているが、頑張る学生とそうでない学生がどうしても開きがでる。また、講師としてそのギャップを発見しにくいし、フォローしにくい。
23.	遠隔で参加している学生の様子が分からないことが一番苦労した。問題を解くために与える時間や本当に理解しているのか、顔が見えないことで分かりにくい。 そもそも授業時間内のリアルタイム型授業だと、本当に彼らが授業に参加しているのかなかなか把握できず、教員は学生を信用するしかない。

学生同士のワーク中、協力的におこなう学生と非協力的な学生の間には溝が生まれてしまう。中には、一言も言葉を発さない学生もおり、沈黙が続くこともある。対面時だと一度に多くのグループの状況を把握し対応できるが、遠隔だと、教員が1つのグループに長時間留まることが出来ないため、トラブルを把握しにくい。

24. Meet を使用した場合、授業録画データのオーナーが学生になったことが複数回起こったこと。
25. 授業動画データの所有権がたびたび受講学生のものになったこと。
26. 大きな問題や支障はなかった。
27. 急な音声と画像の切断、データの共有がうまくできない。DVD 等の音声ありの音声共有方法がわからなかった (teams)
28. 学生の通信環境で音声や画像が届かないなどのトラブルがあった。学生が音声が届かない場合、ショートメールでやりとりしたが、その分の負担が増えた。また、教室のカメラとマイク兼用のデバイスでカメラのピントのズレがあった。カメラとマイク兼用のデバイスの品質にムラがあった。特に、210 教室。
29. 音声や画像が学生の通信環境に左右される。
30. 学生の一部には途中退席や講義以外の作業を行っている。そのような学生に対応するためにクイズや板書の書き取りを指示した。
31. 学生の情報通信技術の関係で音声や画像が途切れた。
32. この授業は非常勤講師の授業であるが、オンライン授業が初めてであるため、こちらで準備等を行わなければならない。
33. 学生の通信環境や技術にムラがあり、講義説明の負担が増えた。
34. ハイブリッドの場合、出欠確認に無駄な時間がかかる。
35. 学生の理解度の確実な把握。
36. ハイブリッドで講義を実施しているため、対面の学生で紙での資料配布を希望する学生に対して資料を印刷し対応した。
37. 対面授業と遠隔授業（課題提出）との評価方法をどうするかなど。
38. 音声や画像が学生に伝わらない場合があった。学生から直前にオンラインの依頼があり、急な準備が迫られた。
39. 音声・画像共有が学生側に届いているかすぐに確認できない。
40. 遠隔を実施した際の、音声・画面共有の学生側の状況がすぐにわからない。
41. 資料に音声等を入れることによってかなりの容量をとるのでその配信等で学生への対応が遅れることがあった。
42. 作成資料の容量が大きくなることへの対応が難しかった。
43. 作成資料のデータの容量が大きくなり、学生への提示の際に時々面倒になったこと。
44. スマートフォンで参加する学生は、音声や画像に支障をきたす場面があった。
45. 白板ボードが使用できず、授業資料の補充ができなかったこと。
46. トラブル・問題点はあったが、その都度、改善できているので、現時点ではない。
47. オンライン中間試験、オンライン期末試験での公平性を確保できないこと。
48. ペアワークやグループワークの場合、オンラインだと教員がすべてのグループに入る時間が足りないため、そのままになってしまうことが多々ある。
49. トラブル、困ったこと、たくさんあります。
50. グループワークの場合、オンラインだと一度に全員を把握できにくいのが改善されるとよいと思う。
51. トラブル、問題点がたくさんありました。
52. たくさんあります。
53. 接続の切断や、画面共有トラブル、音声トラブル、多数ありました。
54. Teams による動画教材の提示において、音声トラブル（音が聞こえない、バイリンガル録音の副音声分離／抑制できず複数言語が混じったモノラル音声配信となる等）や映像のコマ落ち・画質低下が生じ、活用しづらいと感じる。
55. ①Teams による動画教材の提示において、音声トラブル（音が聞こえない、バイリンガル録音の副音声分離／抑制できず複数言語が混じったモノラル音声配信となる等）や映像のコマ落ち・画質低下が生じ、活用しづらい。②GW 運用に支障が生じている。感染対策を徹底しつつの対面 GW 実現は困難。そのため今年度は完全オンラインでの GW とし、GW 用プライベートチャンネルの設置や課題提示方法の工夫等を行いながら実施しているが、対面授業に比べ学生間のディスカッションの質や深度を把握しづらい。また進捗管理や巡視も難しい。

56. ①Teams による動画教材の提示において、音声トラブル（音が聞こえない、バイリンガル録音の副音声分離／抑制できず複数言語が混じったモノラル音声配信となる等）や映像のコマ落ち・画質低下が生じ、活用しづらい。  
②授業中のGW やアクティブラーニングに支障。混成型授業でGW を実施しようとする、グループ内に  
対面受講している学生とオンライン受講の学生が混在することになり、結果、対面受講の学生に（教室に  
いながら）Teams へのアクセスならびにオンライン会議室の運営を依頼することになり当該学生の負担が  
増える。GW やクイズ回答への関与度にも差が生じ、オンライン受講生が受動的で低関与になりがちであ  
る。
57. 回答時にカンニングをしていないかの確認ができない。
58. 対面授業に参加しないのはコロナが理由なのか、遠隔で受けてもいいからそうしているのかわからな  
い。学生の反応がリアルタイムで伝わらない。
59. 授業に参加して発言をする学生と、動画を見てアンケートを提出するだけの学生との間で、授業へのか  
わり方が大きく異なっている。
60. 回線が不安定で途中で退出、入室を繰り返す場面がある。

#### 質問 4-2 遠隔授業を実施したときの困ったこと、トラブル・問題点があれば記入してください。

##### 1 回目実態調査結果

- |   |
|---|
| 1. この授業においては、現段階ではユニバーサルパスポートのみの使用であるため、大きな問題はなかつた。   |
| 2. 現段階ではユニバーサルパスポートのみの使用であるため大きな問題はありません。   |
| 3. ユニバーサルパスポートと Teams のみであるため、大きなトラブルはありませんでした。   |
| 4. 学生の顔が見られない不安   |
| 5. 学生の顔を知らないというのは不安である。   |
| 6. レポートの転用があった（確認して本人へ警告済み）   |
| 7. 図書館の増築工事で大学院の講義室と教員研究室の電波が悪いので、ほとんど使えません。  |
| 8. I am not having any problems in conducting my classes. However, the switch to online teaching is not easy in terms of creating suitable materials and activities. It is very time-consuming. I am spending all of my time working on online materials to compensate for activities that are no longer available for students. For instance, students are not given many opportunities to interact and discuss content in the traditional face-to-face format. Therefore, I have to create online activities and materials to fill this void. Additionally, pure online teaching requires more precise information to be laid out in PPT slides. I have found that students will not ask questions as much online as in a regular class. Therefore, I have to make sure that every possible detail is presented and done so in a way that is easy to follow. Nonetheless, I am working hard to create the best educational materials as possible. The hard work is worth the time because this is the situation that we face until a vaccine is made available. |
| 9. Teams を主に使用しているが、画面に講義資料のパワポ映している間は、学生の様子が見れないので、反応が気になる。資料を共有で取り込むなど手順もたつづくので焦るなど、Teams の使い方が十分でない。   |
| 10. 主に「音声＋画面共有」での実施のため、学生の表情や反応が分かりづらかった。   |
| 11. 事前にチャットアプリをアカウント登録してもらった必要があったが、登録できない、当日ログインできない学生が数名いたこと。また、各グループの話し合いの活発度・進行度に大きな差が生じ、授業全体としてのバランスを取ることが難しい。   |
| 12. 1人しか学生がおらず、また、専門性が高い授業なのでどうしてもこちらが話す割合が多くなり、沈黙の時間が長くなる。   |
| 13. 学生の状況がわからないため、反応を見て進度を変えるなどの調整ができなかった   |
| 14. 準備に時間がかかった。出欠確認や課題の採点にかかる労力が大きい。<br>全体的に授業時間外の負担が大きい。   |
| 15. 映像の共有の状況（すべて共有できたり、一部の映像は共有されなかったり）や音声の状況（すべて聞こえたり、一部は聞こえなかったり）が（学生の通信環境によって？）異なっていたようで、90分問題なく授業を受けられた学生、85分は受けられた学生、70分受けられた学生、ほとんど受けられなかった学生……など、受講の状況がばらばらで、受けられなかった学生への対応が難しい。   |

16. 携帯電話で参加した学生は Exel を利用した演習ができなかった MNC で借りた PC で音声トラブルがあった * 学生の使用機器による問題が多い
17. 自宅デスクトップ PC で音声拾えず（ミュート機能の故障？）、電話をつなげればなしにして 90 分授業した。 学生同士のディスカッションが弾まない印象（学生も、リモートだと違和感があるとのこと）。
18. 演習系科目だとディスカッションが重要ですが、遠隔授業だとディスカッションを盛り上げるのが難しい気がします。
19. 学生の反応がわからないので、質問を引き出すことができない。授業後の振り返りに質問を書いてもらい、質問を次の授業にて回答するようにした。
20. トラブルなどではなく比較的円滑にできているが、時々パワポがフリーズしたりする（対応策を知ってからは困っていない）。80 名以上の多数名の講義に関しては、学生の出席状況（オンラインになっているけど、そこにいるのか・・・）は、信頼によって成り立っているのも、もし真面目に参加していない学生がいたとしたら、成績に大きな差がでないか不安である。そうは思っても、対面授業でも同じことはいえるので、学生にオンライン授業を受けることのメリット・デメリット、学生の学ぶ姿勢が基盤として大切なことを教える必要があると感じた。ペーパーレスを推し進めていることを学生にも周知してほしい。
21. Mostly, I am unhappy with it, though it is necessary. Instead of "teaching" I feel I am "managing online form submission."
22. オンラインで点呼による出席確認で、学生のマイクにトラブルがあり返事できなかったことがあった。学生の顔を見ながら講義ができないので、学生の理解度をその都度確認できななので講義を進めるペースが取り難い。
23. 学生の反応がリアルタイムで測れないので、追加の説明が必要なのか判断出来ない。パワーポイントの画像と音声ズレていたことを配信終了後学生からの意見で知った。
24. 学生の顔が見えないので、講義を進めるペースが取り難い。
25. 遠隔なので、学生の様子がわかり難い。
26. 講義中に学生の自習を促すことが難しい。学生の卒論の進捗状況が確認し難い。
27. google アカウントで個人のアカウントを大学の学生アカウントに変換することがうまくできない学生がいて、その対応に追われた。
28. 講義の質は、教材や授業テクニックもあるが、Web カメラやマイクの性能にかなり依存すると思った。良いカメラは高価で入手できず、学生から画像や音声に関する指摘も多い。講義開始から 15 分以上たって参加する学生が多いが把握できない。学生に発言を促したり、反応を求めるが、沈黙が続くことがやりにくさに繋がっている。
29. 対面での演習指導が実施できないことから、技術の習得の程度が見えないことや、技術力が低下する懸念がある。
30. 学生のインターネット環境によって教員の声、映像情報が不安定なことがある。通常の対面授業と違い、学生が目の前に居ないことにより、学生の反応を読み取り、コミュニケーションをとりながらの授業ができない、物足りなさがある。
31. 図書館が利用できないことが不便だった。
32. 図書館 5 階研究室の WiFi が不安定。（アンテナ 3 本からアンテナ 0 本の間を行ったり来たりする。）
33. カメラ機能を使わない学生もいて、寝ているのか聴いているのか分からない面があり（対面だと寝ている場合は注意できるが）その点が気になった。また理解しているのかなども対面だとわかりやすい。
34. カメラ機能を使用しない学生もいるため、理解しているのか、聞いているのか分からない面がある。対面授業だとその点はすぐ分かるが。
35. 最初は出席確認が難しかったです。解決は 1. Meet の録画をするとチャットの記録も残ります 2. Chrome の Add-in で出席がクリック一つで可能になりました。
36. 学生の反応が全くわからないため、質問等を行うなどのリズムが取りにくい。
37. 学生が添付資料を操作し、資料が画面から消えた。
38. 講義が順調に行われたため、予習内容の一部を説明したが、それでも時間が余った。
39. 授業資料作成に時間が必要である。
40. リンクの貼り付け方などのマニュアルがなかったため苦労した。

41. 顔が見えないため、理解できているのかどうか不明である。
42. ネット環境のない学生への対応。
43. マイクが入らず、こちらの音声が生徒側に聞こえないことがあった。
44. 外部のオンライン授業サービスの動画を利用したが、音声が生徒側に聞こえていなかった。
45. 生徒も不慣れなオンラインによる心身面を考慮すると、研究熟考の為の細かな議論には躊躇があった。その為、時間を気にしながら簡略的な指導となった部分もある。複数人でのディスカッションは音声がかぶったりして聞き取りにいい場合がある。
46. ユニバーサルパスポートの「クラスフォーラム」にて、「オンライン講義は行わない」と宣言しているのに、生徒から「招待状が来ないので不安です」というメールが届いたり、また、「課題管理」にてミニレポートを提出すること、と説明しているにもかかわらず、わざわざメールで「このレポートは提出するのですか」という少し訳の分からない質問が来たことが問題点である。もうこれ以上ないほど丁寧に説明したつもりであったが底なし沼のような印象がある。
47. ディスカッションの重要性をふまえ、(ネット環境問題ないこと確認した上で)画面表示の協力依頼をしたが生徒によって差があった。顔をださない生徒程、自発的な発言も少なく様子が気がかりであった。
48. 基本、大人数の講義では生徒の反応が乏しい。DVDを画面共有したらコマ送りになる。雨天時にネットワークが不安定(エラー?)と表記があり、DVD音声が共有できない場合があった。
49. 困ったこと:事前準備をしていたにも関わらず、私自身の操作が不慣れで戸惑った。何度もMNCが対応してくれたので、大変助かりました。トラブル:受講の生徒が、講義中に誤って録画してしまったと謝罪があった。後日、MNCに連絡をして対応していただいた。問題点: 遠隔授業は、生徒の顔が見えないので、人数に関わらず、基本的にカメラはonにするように統一する等、マナーを決めた方がいいと思いました。
50. teamsの自分の顔が見えない。
51. 配信画面の音が聞こえなくなったこと。
52. パワーポイントが生徒に見えないことがあった。
53. オンライン講義中にPCトラブルが生じた場合の対応に時間がかかる
54. データダイエットに留意してオンライン講義を実施したため、生徒のカメラを"off"にした。生徒の顔を見て理解度を確認することができなかった。 電子機器の扱いに不慣れな生徒に対しての支援(ログインの方法の教示など)に時間を要した。
55. ・生徒の反応が見えない ・紙媒体で資料を配布できない ・受講生の通信環境に影響される ・細かい点まで科目毎に決めて連絡しないといけない
56. 教室と同等のグループワークは実現できない(ディスカッションが盛り上がっていないところを見つけて介入する、グループ間の非同期的な意見交換、といったことが難しい)
57. 受講生が自宅から参加の場合、Wi-Fiが弱い時があり、聞き取りにくかった点
58. 前半はTeamsの画面上で授業スライドを共有できることを把握しておらず、受講生に印刷等の負担をかけてしまった。また、
59. ・講義中、間違えて自ら切断してしまった。 ・遠隔授業のみだと、座業の時間が多くなってしまう。
60. 生徒の反応がわからず、ただしゃべり続ける授業になること。
61. 画面共有しているパソコンがフリーズしたこと。
62. Temasの会議がたくさんでき、迷子になり会議に入れず、授業開始がおくれること。
63. 3年生のゼミで人間関係があまりできていない状態で、演習を実施しても、生徒はほとんど発言しなかった。ゼミの場合はある程度教員と生徒間、生徒同士の人間関係ができてから実施する方がよいと思った。
64. 自宅で資料をプリントアウトできない?あるいはしない生徒がいた。
65. 資料が多いときの切り替えにとまどった
66. YouTube画像がかたまった。
67. 非常勤教員のWi-Fi接続にとまどった。時間がかかった。
68. PPTの説明などを丁寧にやりすぎると、考えることをせずに解答にたどり着けるので、復習課題でしっかり理解しているか把握する必要がある。一人当たり沢山のメールを受け取るので、管理が大変。選択式で簡易にすると深い理解度が見られないので困っている。無記名での課題提出が多く、受け取った課題の整理に苦労している。

ネット環境がなく対応できない学生がいることが心配である。このような学生には今週から紙媒体も配布しているが、説明の動画を見ることができていない。学生会館1階での使用が可能であることを学生が分かっていなかった。情報入手手段が不自由な学生がいる。

69. 学生も教員も、ネットワーク環境が1番の問題です。また、デバイスの問題もあり、毎度携帯電話やタブレット等で参加している学生も数名おります。もちろん、それらデバイスで参加できるよう工夫はしていますが、彼らはパソコンで参加している学生と比べ、授業にスマートに参加できていない状態です。これを機に、これからの時代を強く生きていくことのできる学生を育てるためにも、全ての学生にPCの購入を勧める方策を取るのも有用だと感じました。
70. 一人当たり沢山のメールを受け取るので、管理が大変。全くメール送信のない学生がいてネット環境がなく対応できないのか気になっている。自らクラスルームに参加したにも関わらず、その後の連絡に全く返信がない。履修する意思があるのかないのかの確認ができない。支持しているが、無記名での提出物が多くファイル名もなく、メールを受け取る際に、その都度自分で記入し、注意をしている。
71. 遠隔のため、学生はどこでも受講することができます。実際に、車の中で移動中に音声のみで参加している学生もいました。学生がきちんと机に向かうように授業中も工夫をしておりますし、信じてもらいますが、学生の画が見えないと実際は分かりません。
72. 一部の学生はPCがない。インターネットの速度は遅い（アパートなど）
73. 受講生のWiFi環境やスマホ・PC設定状況、操作の不慣れ等により、当初、会議室への入室遅刻、受講中の音声・映像一部途切れを経験した受講者が出た。また、教員がPPTの資料共有切り替えを忘れて解説を始め、受講生から注意喚起されることもあった。しかし（把握している限り）トラブルは想定（心配）していたより少なかった。受講生のオンライン授業への適応は速い印象。
74. 慣れなくて、準備に時間がかかった。操作に手間取り、講義時間に内容が全部終わらないことがあった。
75. それほど、困ってはいないですが、遠隔授業は一人では進められず、トラブル対応のためにサポートが必要である。
76. 肖像権があるのに、学生に勝手に録画された。勝手に他にアップロードされたら困る。録画できなく設定したいがやりかたがわからない
77. teamsで、サブグループに分かれて、グループ討論してもらった時に、それぞれが学生の状況が良くわからなかった。グループ討論の時間設定や、戻ってきてほしい時の連絡方法、戻ってきたかの確認方法がわからなかった。
78. 対面に比べ学生の反応がわかりづらいこと。
79. ・ICTリテラシーがさほど高くない学生が数人おり、サポートに時間と手間を要した。  
・Apple社のデバイス利用者で、ファイル等のダウンロードに支障をきたす学生が数人いて、対応に苦慮した。  
・ICT環境が整っていない学生も数人おり、公平性に疑問が残された。（大学からPCやwifiルーターの貸出等の対応を行うべきではなかろうか。）  
・対面授業よりも遠隔授業の方が準備・実施等に時間を要することから、現コマ数すべてを遠隔事業とするには厳しいと思われる。  
・学生の反応がないので、進め辛い。
80. 以前から、web会議システムを利用して行っていたことから、特に目立つようなトラブル等はなかった。
81. 学生の反応が低く、双方向のやり取りに苦慮した。タイムラグがあり、直接対面のように効果が得られたか疑問が残された。
82. 学生の反応が低いうえに、把握し辛く、双方向タイプの授業では難しかった。複数人が発言した際、うまくいかなかった。少々、タイムラグがあった。
83. グループワークやペアワークの場合、全体で見ることができない（個々のルームに入る必要がある）ので、全体の把握は容易でない。
84. オンラインのように動画準備や問題作成に時間がかかりすぎた。
85. Teamsの画面共有機能を知らず、学生に印刷等の負担をかけたかもしれない。
86. 受講者の登録作業が面倒・学生の様子が把握できない
87. モノを扱う共同作業ができない
88. Google Meetでの録画が、学生の権限になることがあること。
89. Univerdsl Psssportによる課題の発表を行ったが、時間により、多数のアクセスが集中し、課題のダウンロードや提出する際にエラーが起これ、その問い合わせに関する学生からのメール対応が大変だった。
90. 途中で音声か乱れたり、映像が固まった。

91. これまでの対面講義のコンテンツを、大幅に変更することになりました。
92. Students' Wi-Fi connection is not good at times.
93. 観光地に行けないことで、講義の内容を変更したこと。
94. 最初、教員と学生が慣れるまでに少し時間がかかった。特に中国語 I は一年生が多いため、個々の ICT スキルが直接、受講の質に影響が出た。
95. 動画を再生できない、課題を書き込めないなど主に操作系の質問も多かったこと
96. 音声ファイルの動画化に一回失敗した
97. 恐らく、対面よりも若干疲労感がある
98. 対面講義の準備と比較して数倍時間がかかる場合もある（講義・演習双方）

質問 4-3 遠隔授業に関する質問事項があれば記入してください。

2 回目実態調査結果

1.	「ハイブリッド」の定義が大学全体でまだ共通認識がないように感じます。
2.	IT 環境含めて欠席が多い受講生等に対する生活状況含めて学生支援を所属学科と連携しどのように効果的にはかればよいでしょうか。
3.	遅れて出席する学生や出席のときには参加し、途中で問い掛けると反応しない学生がいる。出席を授業後の提出物や接続のみで判断すると、きちんと対面授業に出てきている学生と「態度の違い」が大きいと感ずることがあります。大学から学生へ対面授業のマナーや態度についての呼びかけをしてほしいと切に願います。
4.	SA の予算は、オンデマンド配信の動画作成において学生 (SA) に使えますか? 一部の情報では、講義形式は双方向、講義内容はオンデマンドも可、が学生が一番受けやすい講義のようです。理由は、自分のペースで復習できるから。しかし、講義を組み立てる先生方は時間もリテラシーの適正もある意味限界があり、学生のニーズにどうしても対応が遅れます。それをフォローアップできるようにしたい。先生の講義をアーカイブ配信する、演習の実演を配信する、など、先生よりも SA を担当する生徒に依頼すれば、良いのかなと思います。
5.	授業の展開ではなかったです。
6.	オンラインによる、グループ協議の効率的なやり方。
7.	学生の理解度を確実に把握する方法。
8.	オンラインでの、より良いグループ協議・交流のあり方。
9.	1. 遠隔授業を支援する専門職員の配置予定はありますか。 2. 次年度は 1 年生全員に指定のノートパソコンを購入させる予定はありますか。
10.	1 非常勤講師の場合、教室、自宅のどちらで行うでしょうか、自宅の場合、その設備費用等は如何に、2 現在、パワーポイントで行っている、クラスルームに掲示の映像等は、オンライン授業では活用できないでしょうか、

質問 4-3 遠隔授業に関する質問事項があれば記入してください。

1 回目実態調査結果

1.	Teams による遠隔授業の評判、把握していますか?
2.	Can the university set up several empty classrooms as video recording studios for 'live steaming' classes? This might be helpful for some teachers (not for me, but it's an idea)
3.	講義に動画を使用するときスムーズな方法があるのか
4.	対面授業の再開後も、リアルタイム授業を希望する学生がいる。並行して 2 つの形式で授業を提供するのは負担 (授業準備等) が大きいため、学生の希望には添えないことになるが「対面授業 + UNIPA 等での課題対応」してもよいか。
5.	動画配信を手法をとった他の教員は、どのように出欠確認や試験確認を行ったか。 (当方は課題提出をもって出席とした) 動画配信のタイミングと課題提出のタイミングをどのように設定すると適切か。 (当方は授業日 1 週間前に動画を配信し、授業当日 23:59 を課題提出の締め切りとした)
6.	緊急事態宣言が出る有事以前に遠隔授業を活用していた授業はありますか。
7.	配信中の画像や音声を受信者側へ適切に届いているかを知る方法を教えてください。
8.	動画、映像などのデータ送信が回線を圧迫すると連絡があったが、イメージがつきにくい。
9.	動画の添付についてマニュアル、ヘッドセットの利用マニュアルが必要である。
10.	以下の 3 点についておしえてほしい。 ①音声が生徒に聞こえているかをモニタリングしながら講義する方法 ②WEB 上で大クラスから少人数グループに分かれて話し合い、発表を共有する方法 ③各グループの様子をモニ

タリングする方法

④オンデマンド授業にする場合、MNCで撮影をしてもらうことは可能か

11. ①動画の音声を学生側に聞こえるようにする方法

②大クラスから少人数のグループワークに分かれて、その後に発表を共有する方法

12. 学生のデバイス格差については、どうすることもできないので、例えば、登録条件で「ユニバーサルパスポートからの情報を受信でき、その言わんとするところが理解できる学生」という受講条件を付してもよろしいでしょうか？

13. ・Microsoft Teams を用いて1人で講義をすると、PowerPoint 資料しか見れない状況です。  
学生の出欠状況やチャットが出席確認の履歴等を残すことはできますか。  
・MNCの方は大変多忙だと思いますが、対応の継続をお願いしたいです。また、検討しているかもしれませんが、簡易なマニュアルがあると助かります。

14. 教員によって使用するツールの違いに対して、どれだけ学生が順応できているか知りたい。

15. Teams のチームへの追加は、Universal Passport と同期できませんか？

16. Teams を使用しているが、振り返りや小テストを作る Microsoft フォームの使い方がよくわからない。また、Microsoft Notes と連携がとれるみたいだが、その連携方法

17. Teams の録画ファイルの保存方法と保存期間。ダウンロードできるのか？？

18. 出席人数の確認はできるが誰が欠席しているのかはわかるのか

19. グループで効果的にディスカッションをする方法はありますか。

20. ファイルをダウンロードしないと印刷できないのか。

21. 遠隔授業時は通信量のこと考え学生の画面はOFFにしてもらっています。そのため、不定期にグループワークや質問をしたり、課題をかしたりして参加状況を確認していますが、なんせ学生の顔が見えません。学生の参加状況を確認する良い術がありましたら、ご共有していただきたいです。

22. 遠隔授業時の欠席届については、どのように対応すればよろしいでしょうか。

23. teams でのスケジュール設定方法（録画不可設定ができるらしいと聞いたので）

24. グループ討論の実施方法で良いアドバイス。teams より Zoomの方が良い？

25. 対面授業と同等の教育効果が確保できる場合に遠隔授業が認められるとされているが、遠隔授業による教育効果の検証は行われないのでしょうか。

26. 遠隔授業と対面授業の両方が可能となった場合、他の講義との連携が懸念される。例えば、水曜日の1時限目の教養演習が対面となった場合、2時限目のクラスはオンラインで進めた場合は、学生の受講する準備の時間（例えば自宅に帰らないとオンラインアクセスできない）などの問題がないだろうか。

27. リアルタイムの遠隔授業の場合、ネット環境の問題などにより視聴できなかった学生が「一人でも」いた場合、どのようにして「授業保障」を実現したらよいのか？また、自宅で大容量のファイルのやり取りや高速度の通信に対応できない学生に、外出自粛要請期間中に「外出することなく」受講するためには、新たなネット契約や機器の購入を学生個人にさせることになるのか？

28. 講義内容に対応でき、学生からの反応も良い授業は、今後も対面を行わずあるオンデマンドまたはリアルタイムのみで講義提供してもよいのでしょうか

29. 学生への援助をどのように行っているのか（学生一人一人に対してのものか、希望者への援助なのか、など）を知りたいです。大学内で遠隔授業を受けている学生がいるようですが、彼らのWi-Fiの環境が良くないとのコメントをもらっています。大学内のWi-Fiやワーバーの補強などを今後考えているのかどうかも知りたいです。

30. 講義回数の消化に土日を使用するか否か。

- |  |
|--|
| 31. 学生に受講できるか否か（Web 環境等）の格差が生じていないかの心配があります。   |
| 32. 技術的に行き詰ったとき、教務課のみなさんはよくサポートしてくださり、感謝に堪えません。  |
| 33. 対面授業が再開されても遠隔授業はずっと続けるのか。  |
| 34. オンライン授業を検討したが、実際にやれるかどうかの検証すらもできる知識がなく断念した。自分のパソコンが適応できる機能なのか（マイクやカメラ）すらわからないし、仮につながったとしても、実際の学生とのやり取りもよくわからない中で、ダメ元で強引にやってみる勇気はなかった。今後に備え、模擬オンライン授業や、素人向け講習会をぜひ検討して欲しいです。 |
| 35. 学生側の通信環境はどのようになっているのでしょうか。各個人がスマホで対応しているのでしょうか。あるいは、大学のパソコンも自由に使用できるのでしょうか。ドリルや作文などの課題を送り、答案を書いて返送してもらっていますが、文字コードや、使用しているワープロソフトがバラバラのようですが。                              |
| 36. 受講者側の通信環境はどのようになっているのでしょうか。課題を提出してもらおうと、文字コードがなじみのないものだったり、文書ファイルではなく PDF ファイルにして返信されるものなど、受講者側にもそれなりの苦労があるように思います。  |
| 37. 学生へのパソコンの貸し出しを学内限定ではなく持ち出しも可として欲しい。また Wifi ルータなどインターネット環境も提供して欲しい。   |

質問 4-4 今後の授業のあり方についてご提案があれば記入してください。

2 回目実態調査結果

1. ①「ハイブリッド」に対して大学全体で共通認識を構築する。 ②講義形式は科目によって異なりますが、誰でも簡単に利用できるスライド（PowerPoint、Keynote 等）のフォーマットを作成して共有する。 ③講義ごとに学生にアンケートを実施する。
2. 公開講座等もオンラインで実施&アーカイブをする。
3. コロナ終息後も、遠隔授業の選択肢を残してはどうか
4. 対面で行うのが基本。できる教員は今後も臨機応変に活用するでしょうし、それは教員のスキルでしょう！
5. 少人数 CBL 型（コミュニティベースラーニング）の授業なので、対面が望ましいのかと思う。
6. 電子課題のベースになっている ・文書作成(Word、Google Document) ・スライド作成(Power Point、Google Slide) ・表計算(Excel、Spreadsheet) は、各講義の課題をこなす毎に学生が慣れてスムーズに進行できているが、全学生が受講する情報リテラシー等の講義で、メールやスケジュール管理、ネット情報の取り扱い(コピー・アンド・ペーストによる盗用)の項目も指導してほしい。
7. 実技に関してはやはり対面ですね。
8. 科目や学年、開講時期、学生の状況などに応じて、より効果的な方法を教員も選択できるよう柔軟に対応して頂けると助かります。
9. 将来の危機を見据えて Teams 等の授業を想定したほうがよいと思われます。そのための IT 環境についての個々の講師支援を願えればと思っています。
10. 感染拡大の状況に応じてではあるが、技術教育は、対面で直接指導する方が学生、教員相互に負担が少なく効果的。講義形式の授業は遠隔でも問題ないが、オンラインのみの講義期間に、遠隔での演習授業計画ーガイダンスー事前学習用動画作成ー配信ー事前学習課題作成ー自宅練習のための物品確保ー提出課題の個別評価ーなどを行い、ハイブリット形式後に、対面で、技術到達度評価（個別での実技試験）を実施するなど調整が大変だった。対面授業も少人数で個別に技術指導を行った為、教員の負担は大きいですが、学生の満足度は予想以上に高い結果だった。ICT の効果的活用に向けた支援体制の整備と、科目や内容に応じた柔軟な講義方法の選択を希望する。
11. PC の前のカメラと、教室を广角で写すカメラと 2 台設置する。マイクの精度を上げる。
12. ハイブリッドを今後も続けるのであれば、接続補助の係りを付けるか、授業前にハイブリッドのためのカメラの設置などを休み時間に準備をしてもらえると助かります。
13. 授業登録のタイミングで学生から遠隔・対面・両方などを聞き取って欲しい。受講者リストは氏名と学年しかないの、そこに希望する講義形式と理由を必須でつけて頂けると 16 回の講義の組み立てを事前に効率よく検討できる。
14. 今後もハイブリット授業を続けるのであれば、各教室にペンタブなどのような、ちょっと書くことができるツールがあれば良いな、と思います。ちょっとしたことを伝える時、マウスで書くのは難しいです。また、遠隔やハイブリット授業を実施するのは良いが、学生にも最低限のマナーは守ってほしいと思います。どこでも授業に参加できるというのは遠隔のメリットではありますが、家で楽に片手間に、お菓子を食べながら授業を受けている（見ている）学生や行楽地で授業を受けている学生など、その様子を対面での参加者に見えてしまう・気づいてしまうと、何とも言えない空気になります。
15. 対面と遠隔授業両方
16. 今回はコロナ禍の対応で、精神的不安が主の要因と考えていますが、学生においては、学ぶ意欲が基本的に乏しくなっているように感じています。
17. 遠隔で受講している学生の一部が途中退席の例があった。講義の最中にクイズを出題するなどの工夫を行った。
18. 学生の自律性が高い場合は、講義形式の授業はオンラインでもよいであろう。
19. 演習科目は、オンライン・ハイブリッドは向かない。
20. 個人的には、ICT 活用能力等から鑑みて、現状の対面授業と遠隔授業の混成型が良いと思う。
21. 教員の負担は大きい。ICT 支援専門職員の人員を増強してほしい。

22. 1. 遠隔授業を支援する専門職員の配置予定はありますか。  
2. 次年度は1年生全員に指定のノートパソコンを購入させる予定はありますか。
23. 教員の負担は大きい。ICT 支援専門職員の人員を増強してほしい。
24. 対面授業に戻した方がよいと思います。
25. 教室 PC にインストールされている Teams について、ブレイクアウトルーム機能が使えるようにバージョンアップしてほしい。また、Teams の名簿の順番が学生番号順にならないため、作業量が多くなっている。ぜひ Google のように学生番号順に並び代わるようにしてほしい。
26. TEAMS はグループに分かれて話し合うことができるのでしょうか。（例えば、Zoom のブレイクアウトルームのように。）
27. 遠隔授業の環境整備及び、教員に対する補助をお願いしたいです。
28. 対面をメインにしていきたい

#### 質問 4-4 今後の授業のあり方についてご提案があれば記入してください。

##### 1 回目実態調査

1. ICT 活用も必要に応じて使い分けをしていけば、実施する側、受講する側にとっても有効であると思います。
2. 演習系においては、講義形式のものより導入は実施しやすいので、必要なツールだと感じました。
3. 演習系は導入したほうがよいと効率的に進められると思います。
4. Teams は人類学の講義では全く使えませんでした。Zoom の法人契約がほしい。
5. The university should purchase some "live streaming" capture devices; specifically, the Elgato 4K CAM. This will allow teachers to give lectures as usual in a classroom and "live stream" their classes to students. I believe this option would be suitable for any faculty member who wants to teach in a typical lecture style. Setting up such a system would be easy, and the purchase of the 'live streaming capture devices' would help teachers less comfortable sitting in front of a webcam.
6. 対面授業であったとしても ICT をうまく活用し、その場で各個人の意見を送信してもらうなどすれば（掲示板アプリの lino など）、リアルタイムでできるだけ多くの学生の意見をすくい上げることができることがわかったので、今後はうまく活用していきたい。
7. この授業に関しては、遠隔であることの利点を特に感じなかったため、今後はもう少し学生に発言をさせるような授業内容にする必要がある（遠隔というより授業内容の問題）。
8. そうはいつでもやはり実物の日本語に触れることも大事なので、今後は遠隔と対面の両方で使い分けて実施しようと考えている。
9. Web 授業と対面の両方を準備するとなると、準備時間が足りなくなるので、両方への対応を求められると、私の能力ではどちらも中途半端になると思います。
10. 6 月末までモバイル通信の上限が 5 0 GB であるが、それ以降の対応によっては、遠隔授業の方法を変える必要が出てくるだろう。
11. 対面式と遠隔授業の両方を取り入れた方向性になっていければ良い。学生への Pad などの端末を期限限定せず貸与してほしい（卒業時に返却など・・・）。
12. Students have told me it is confusing since all the teachers are using different methods. It would be better if Meio had a uniform method that was available in both Japanese and English, and to both Full-time and Part-time teachers. Universal Passport is insufficient for the ways that students use the internet today, so something more updated to the 21st century web would be best.
13. ①本学における遠隔授業の今後の位置づけ（コロナ対策としての一時性・一過性のものか、あるいは、本学における講義のあり方(メイン)を（対面スタイルから遠隔スタイルへと）根本的に変えるものになるのか？）
14. Students have told me it is confusing since all the teachers are using different methods. It would be better if Meio had a uniform method that was available in both Japanese and English, and to both Full-time and Part-time teachers. Universal Passport is insufficient for the ways that students use the internet today, so something more updated to the 21st century web would be best.
15. 遠隔授業と面接授業を今後も混成しながら提供するのを続けてほしい。学生は自宅等でも講義時間と関係なく、復習することが可能となり、講義中に隠れて音声録音されたり、隠し撮りされなくて済む。
16. 野外活動におけるガイドラインがあると動きやすくなります。

17. これを機会に、すべてを対面授業というわけではなく、PCを用いた遠隔授業も積極的に取り入れていくべきだと思う。遠隔授業は双方向性を指摘することもあるが、実際会議でも使用できる媒体であり、コミュニケーションの取り方を工夫すれば、学生とのディスカッションにおいて双方向性は問題ないと思う。
18. ICTの活用し授業ができたのは良かった。一人暮らしの多い県外生は対面授業によってのリスクを理解してはいるものの、孤独感もあり、みんなに会いたいという欲求を感じた。  
サクラウムのような大教室で、3密を避けながら、自宅からの参加も可能な授業はよかったと思う。
19. 健康診断の結果をもとに、持病がある学生をフィルタリングして、どういった受講をさせるのか、制度整備、ガイドライン提示、担当教員との共有等を検討して頂ければ学生も教員も安心して授業に取り組むことができると思います。  
対面授業が始まった際に、当該の学生が講義形式ならOKなのか、ディスカッションを含む演習形式もOKなのか、身体接触がない実技形式もOKなのか、個々の教員が迷うと思います。また、そもそも担当教員へ学生の持病の有無について情報共有がないと、不安な中で授業を行わなければならない状況になるかもしれません。
20. ガイダンスの資料(スライド、ビデオ等)や過去の講義ビデオを、履修登録期間中に学生が視聴できるようにすると、履修登録の取り消し・変更を軽減でき、授業をシラバス通りスムーズに進行しやすくなるのではないかと思います。
21. ショートテストの方法のマニュアルが必要である。
22. Zoomを法人契約してほしい。図書館の増築により、教員の研究室など電波が届かないところが発生している。学生が教員に緊急に連絡する必要がある場合に携帯と学内ネットの電波が全く届かない。至急改善希望!
23. オンラインのリモート授業だけでなくオンデマンドにすると、学生の都合の良い時間に視聴できる。しかしオンデマンドが多くなると、学生は視聴が追い付かなくなってしまうのではないかと心配がある。
24. 現在は海外での現地研修は出来ないが、遠隔授業をせざるを得ないということは、国際教育のためにICTを利用するチャンスにも変換できると考える。まずは遠隔システムを使って交流することから始めたい。
25. 今回、遠隔教育に対応するために、従来の教材に手を加えて修正を加えて、なんとかたどり着いているので、できれば、この努力が報われるよう次年度以降もこの教材を活用して引き続き、遠隔教育もありだとするようにしてほしい。
26. 通信容量が可能となるのであれば、学生も顔をだしながら講義に参加する事で受講姿勢が高まるのではないかと思います。
27. 他の科目で、Microsoft Teamsを用いて学外講師を招待した講義に関わりましたが、問題はありませんでした。学外講師との調整をした上で、今後も継続しても良いと思いました。遠隔授業の実施を機に、SNSのマナーについて指導を強化していく方がいいと思います。
28. 今回のような非常時の対応としてだけでなく、普段の講義でもオンライン科目を設けるなどの新しい取り組みが必要になってくると思う。
29. 教員同士がお互いにオンライン講義に参加し合い、参観できる機会があってもいいのではないかと。
30. Teamsによる遠隔授業は利点も多くあると感じています。コロナ終息後も、その利点を活かせるよう、学生全員を対象にTeams研修を実施する、Teamsによる遠隔講義を実施する科目を一定数設けるとどうか、と思っています。
31. 出張等での休講が不要となるため、今後も対面、遠隔の両方ができるほうが望ましい。
32. 15回のうち、オンデマンド方式の授業コンテンツを準備できていれば、公欠した学生が利用できると思う。
33. on-lineと対面を活用しながら展開ができたらよい。
34. 今後、グループワークが多くなるが、ディスカッションなど効果的な方法を検討する必要がある。学生の通信費を軽減する方法
35. 対面式とオンライン講義を同時にする場合の効果的な授業方法について検討する必要がある。ACを活用したときにどうしたら効果的なのかなど。
36. 3密を配慮して、対面授業ができるようにしてもらいたい。
37. 教員が出張時でも定時にオンライン授業の実施が可能な場合は、手続きを取れば休講とせずオンライン授業として実施できるという仕組みはいかがでしょうか。いくら問題もあるかと思いますが、この度の経験を生かし、教員にとっても学生にとっても事務の方にとっても、有用だと考えます。
38. 3密を配慮して対面授業ができればよい。対面授業に参加できない学生にはこれまで通りの対応をしていけば良いと思う。
39. 対面と遠隔の両方の利点・欠点を踏まえ、授業改善がなされていくといいかと思います。

40. 今後も、面接と ICT システムを両立して、授業を行いたい。
41. 当面、対面授業とオンライン授業とのハイブリット授業運営が課題（教員の注意分散、三密回避しつつ GW は可能か、教室内での機器のハウリング等）。受講生の通信インフラが安定しているなら、科目によってはオンライン授業で 15 回通した方が良いかも。
42. 当面、対面授業とオンライン授業とのハイブリット授業運営が課題（教員の注意分散、三密回避しつつ GW やディスカッションは可能か、教室内での機器のハウリング等）。受講生の通信インフラが安定しているなら、科目によってはオンライン授業で 15 回通した方が良いかも。組織心理学は 6 月以降、試験的に受講生を 2 グループに分けて交互に対面授業へ誘導する方針。
43. 今後、完全な終息宣言が出るには、1 年もしくはそれ以上かかるかもしれません。その間に何度も緊急事態宣言が出たり、解除されたりすることが想定されます。そのたびに、オンライン、遠隔授業、対面授業等をコロコロと変更しては、学生も教員も疲弊してしまうと思います。  
前学期については想定外のことでしたので、やむを得なかったと思います。しかし、後学期については、学期間にそういった新型コロナに関する社会情勢が何度か変化することも想定したシラバスを作成したいと思います。  
そのシラバス作成にあたって、全学的な取り決めや参考例の提示があると助かります。  
ご検討のほど、よろしくお願い申し上げます。
44. 将来正常に戻った際にも、講義全体のうちの数回は遠隔授業で良い、遠隔授業が併用できるように制度を認めてもらえるならば、自由度が増すので良い。  
例えば、時間的な都合がなくなれば、出張先からも講義が可能となり、休校をせずに済むし、補講をしなくても良くなるメリットがある。
45. 通常の講義でも、学外から提供できると良いので、これからも必要に応じてできると良い。
46. 遠隔授業を行う前に、全ての学生が操作方法等に精通できるようなクラス等の受講を義務付けることが必要であろう。
47. 対面講義とオンライン講義を進める場合は、その前後の講義との情報共有をすることで、学生への負担が減るかと思います。
48. 名桜大学生 46 名が回答したアンケートによると、そのうち 15% にあたる 7 名が個人でパソコンを持っておらず、28% にあたる 13 名が自宅でのネット回線の速度や容量等遠隔授業を受けるための環境に不安を抱いていた。また、回線の混雑によりリアルタイム遠隔授業が視聴できなかった学生が、「欠席扱いにはならない」という以外、授業内容の補てんに関する説明を受けていないという回答もあった。
49. 講義形式の授業でリアルタイム形式遠隔授業を行う場合、Web 会議ツール等のシステムにより教員－学生間のやり取りは確保されてはいるが、実際は、教員からの一方通行になる傾向があった。そのため、学生からのレスポンスを確保できるように、教授方法や授業構成を考える必要があると思った。
50. 今後、対面授業と遠隔授業の組み合わせを検討したい。
51. 対面授業と遠隔授業の組み合わせを検討したい。
52. これまでの対面講義のコンテンツを、大幅に変更することになりました。
53. 対面授業と遠隔授業の組み合わせを検討したい。
54. Blended learning should be implemented in Meio.
55. 遠隔授業の会議アドレスを教職員が共有することで、授業参観を促進する。
56. これからも ICT を活用して、適宜に遠隔授業を取り入れて、遠隔授業のメリットを導入する。
57. 今後も状況と当日の内容に応じて、演習などでは対面と遠隔リアルタイムの併用が問題なく行えそうである
58. ICT 活用を続けたい
59. 今後、対面授業を行うとしても、パソコン室は全員揃うと密度が高くなりますので、3密を避けられるよう工夫できればと考えています。また、パソコンは共有ですので、部屋に消毒用アルコールをおいて使用前後の消毒を徹底させるようにした方が良いのではないかと思います。
60. 遠隔授業はどんどん推進してもいいかと思いました。こういうイレギュラーな事態のみではなく、対面も遠隔も ICT を活用して日常的な運用が出来れば、この先も不測事態に備えられると思います。
61. オンライン授業で対応できる場合は、今期はオンライン授業を継続してもよいかと思います。特に語学は、発音や会話の練習はオンラインだと安心感があります。また、対面になって、グループ活動や会話練習が出来ないのであれば、どうしても受動的な授業になってしまいます。  
もし対面とオンラインを融合するという授業形態を実施するのであれば、どのような方法なのか具体例を教えてくださいと助かります。

62.	<p>今後、完全な終息宣言が出るには、1年もしくはそれ以上かかるかもしれません。その間に何度も緊急事態宣言が出たり、解除されたりすることが想定されます。そのたびに、オンライン、遠隔授業、対面授業等をコロコロと変更しては、学生も教員も疲弊してしまうと思います。</p> <p>前学期については想定外のことでしたので、やむを得なかったと思います。しかし、後学期については、学期間にそういった新型コロナに関する社会情勢が変化することを想定したシラバスを作成したいと思います。</p> <p>そのシラバス作成にあたって、全学的な取り決めや参考例の提示があると助かります。</p> <p>ご検討のほど、よろしくお願い申し上げます。</p>
63.	特にありませんが、今後、オンライン型へ切り替えようか、迷っているところです。
64.	今回を機に作成した資料や仕組みをうまく活かすことができれば、対面授業では学生一人一人にもっと目を配ることができるようになると思う。
65.	大学によるタブレットの貸し出し。具体的操作の講習会の再度の開催。
66.	遠隔授業と面接授業を同時に行う取り組み。授業の離島・寒村・入院・遠征試合・外国在住の学生への出前遠隔実技実習授業。
67.	対面授業への移行が近いと思われませんが、緊急事態の再来も危惧されており、それに備えて遠隔授業に習熟しておきたいと思います。
68.	Universal Passport を有効活用することが、大切だと気付いた。
69.	語学の授業は、学生の表情や声を感じながらやる方が効果的だと思った。
70.	語学の授業は、学生と対面し、学生の表情・反応を肌で感じながら進めていくのがベストだと思った。
71.	このクラスは、7人のエントリーと少人数だったので、お互いの距離が近く、楽しく授業が進められた。教師から投げかけた質問には、チャットで返してもらったり、画面越しに話してもらったり、うまくやり取りが出来た。この授業では遠隔授業のプラス面が感じられた。今後は、対面や Universal Passport を使った課題のやり取りへと移行するが、この遠隔授業は貴重な経験であった。
72.	なるべく早く対面授業になって欲しいです。
73.	ディベートは10人の少人数でもあり実技を伴うので6月からは対面式で行いたい。
74.	出席の取り方がよくわからないので具体的に方法を指示して欲しい。
75.	<p>実施曜日は火曜日と金曜日の週2回です。上の欄では、どちらか1回しか入力できないようになっていますが。</p> <p>遠隔授業そのものには、いろいろ可能性があると思います。対面授業が再開した後でも、補足的に活用できそうですが、具体的にはまだ考えついていません。</p>
76.	対面授業が再開した後でも、遠隔授業のツールを補習などに活用できると思います。具体的には、まだ思いついていませんが。
77.	学生が使用する機器（パソコン、タブレット、スマートフォン、未所有）や通信環境に関する情報の提供について、ご検討をお願いします。

## 2. 学生対象実態調査報告

令和2年度混成型授業の受講に関する実態調査結果

(第2回：12月実施分)

及び

令和2年度遠隔授業の受講に関する実態調査結果

(第1回：5月実施分)

名桜大学FD委員会



令和2年12月11日

学生のみなさんへ

名桜大学FD委員会

令和2年度 混成型授業（対面授業及び遠隔授業のハイブリッド型）  
の受講に関する実態調査について（通知）

名桜大学FD委員会では、混成型授業の受講に関して、受講実態を調査し、改善につなげることを目的に2回目のアンケート調査を実施します。

つきましては、下記要領により実施しますので、ご協力の程、宜しく願います。  
なお、回答いただいた情報により個人を特定することはありません。よりよい授業のためにご協力をお願いいたします。

記

1 実施期間

令和2年12月14日（月）～12月25日（金）

2 実施方法

Web入力で回答する。

以下リンクから回答をお願いいたします。

※回答には、s 学生番号@mail.meio-u.ac.jp でログインする必要があります。

<https://forms.gle/A8C8YaMZsE3vxTvdA>



3 調査結果の公表

調査結果はWeb公開します。閲覧方法については、調査後、掲示でお知らせします。

4 問い合わせ：教務部教務課（本部棟2階）

令和2年5月20日

学生のみなさんへ

名桜大学FD委員会

令和2年度 遠隔授業の受講に関する実態調査について（通知）

名桜大学FD委員会では、令和2年5月7日（木）から開始された遠隔授業の受講に関して、受講実態を調査し改善につなげることを目的にアンケート調査を実施します。

つきましては、下記要領により実施しますので、ご協力の程、宜しく願います。なお、回答いただいた情報により個人を特定することはありません。よりよい授業のためにご協力をお願いいたします。

記

1 実施期間

令和2年5月20日（水）～5月25日（月）

2 実施方法

Web 入力で回答する。

以下リンクから回答をお願いいたします。

※回答には、s 学生番号@mail.meio-u.ac.jp でログインする必要があります。

<https://forms.gle/rX5iG4vVn97ytA6f9>



3 調査結果の公表

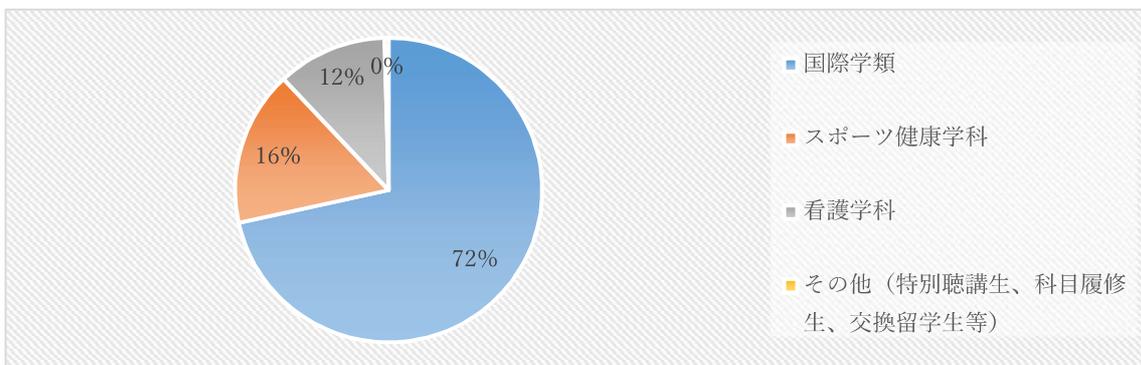
調査結果はWeb 公開します。閲覧方法については、調査後、掲示でお知らせします。

4 問い合わせ：教務部教務課（本部棟2階）

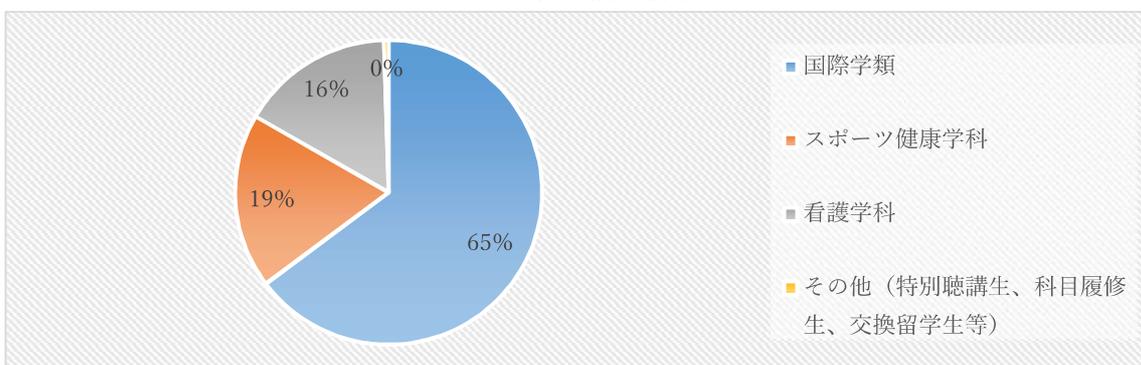
「混成型授業の受講に関する実態調査（学生対象）」の結果（グラフ・数値）  
 （回答件数：225 件）（2 回目実態調査）  
 及び  
 「遠隔授業の受講に関する実態調査（学生対象）」の結果（グラフ・数値）  
 （回答件数：593 件）（1 回目実態調査）

問1 あなたの所属を教えてください。

2 回目実態調査結果

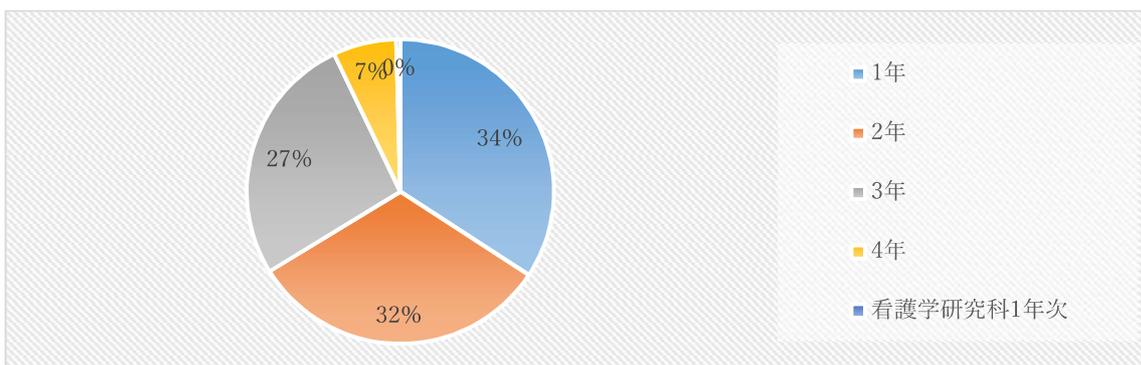


1 回目実態調査結果

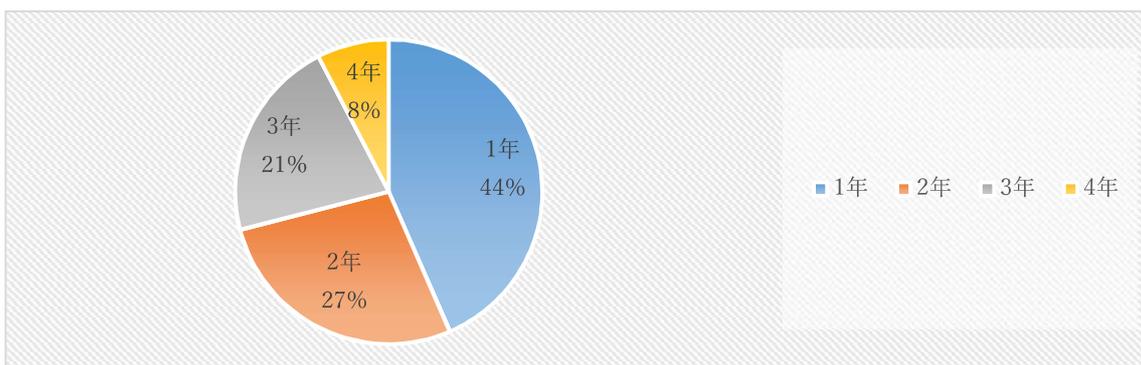


問2 あなたの学年を教えてください。

2 回目実態調査結果

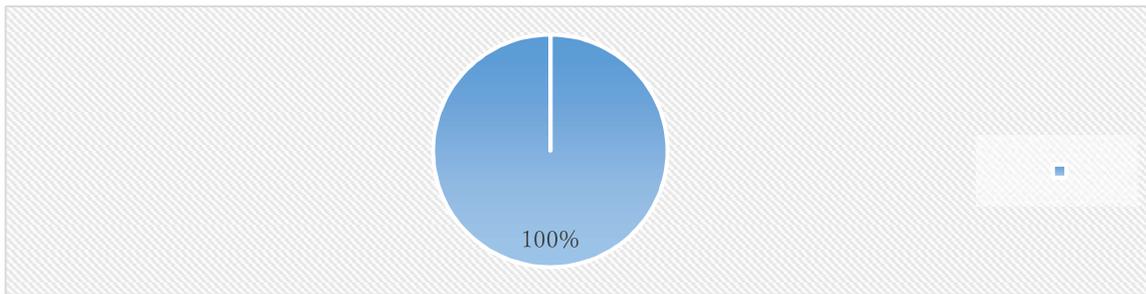


1 回目実態調査結果

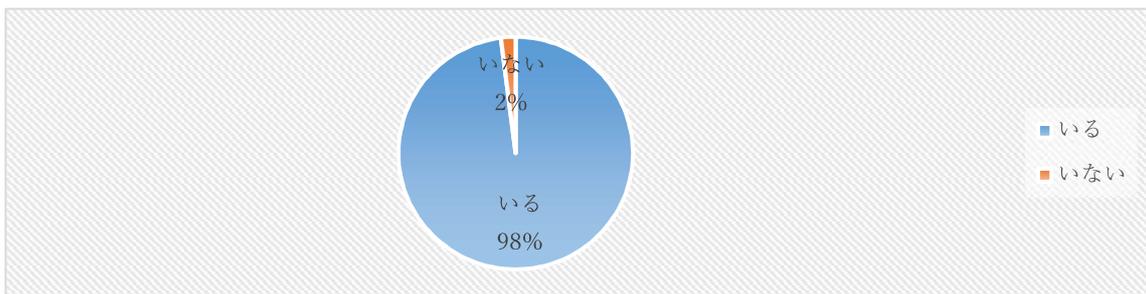


問3 あなたは現在沖縄県内にいますか？

2回目実態調査結果

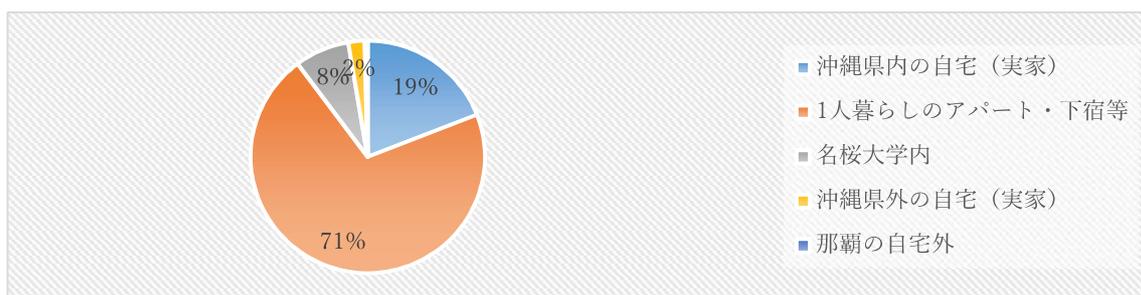


1回目実態調査結果



問4 遠隔授業はどこで受講しましたか？最も多く受講した場所を一つ回答してください。

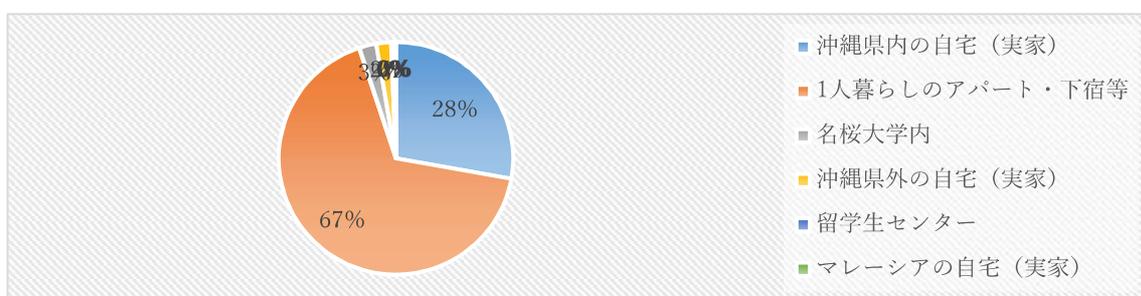
2 回目実態調査結果



変数	出現値	問4 遠隔授業はどこで受講しましたか？最も多く受講した場所を一つ回答してください。					合計
		沖縄県内の自宅(実家)	1人暮らしのアパート・下宿等	名桜大学内	沖縄県外の自宅(実家)	那覇の自宅外	
学年	1年	14	58	5	0	0	77
	2年	12	52	6	2	0	72
	3年	14	37	6	2	1	60
	4年	3	11	0	1	0	15
	看護学研究科1年次	0	1	0	0	0	1
合計		43	159	17	5	1	225

変数	出現値	問4 遠隔授業はどこで受講しましたか？最も多く受講した場所を一つ回答してください。					合計
		沖縄県内の自宅(実家)	1人暮らしのアパート・下宿等	名桜大学内	沖縄県外の自宅(実家)	那覇の自宅外	
所属	国際学類	29	112	15	5	0	161
	スポーツ健康学科	5	30	1	0	1	37
	看護学科	9	16	1	0	0	26
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留学生等)	0	1	0	0	0	1
	合計		43	159	17	5	1

1 回目実態調査結果

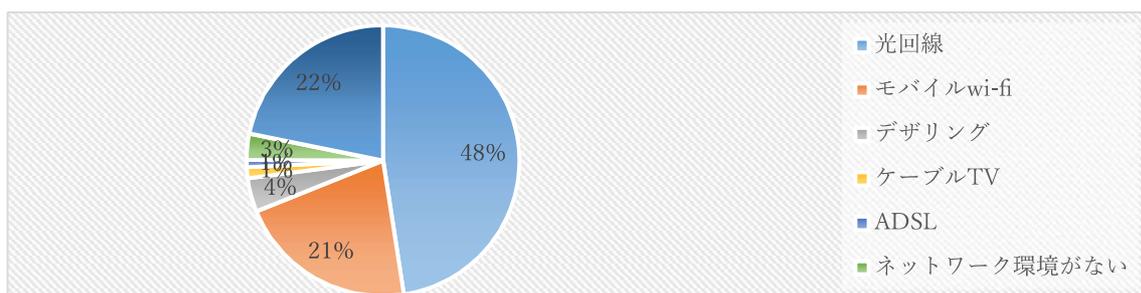


変数	出現値	問4 遠隔授業はどこで受講しましたか？最も多く受講した場所を一つ回答してください。								合計
		沖縄県内の自宅(実家)	1人暮らしのアパート・下宿等	名桜大学内	沖縄県外の自宅(実家)	留学生センター	マレーシアの自宅(実家)	その他	名桜大学寮	
学年	1年	68	180	6	2	1	0	1	0	258
	2年	42	112	5	3	0	0	0	1	163
	3年	38	81	3	4	0	1	0	0	127
	4年	17	25	0	3	0	0	0	0	45
	合計		165	398	14	12	1	1	1	1

変数	出現値	問4 遠隔授業はどこで受講しましたか？最も多く受講した場所を一つ回答してください。								合計
		沖縄県内の自宅(実家)	1人暮らしのアパート・下宿等	名桜大学内	沖縄県外の自宅(実家)	留学生センター	マレーシアの自宅(実家)	その他	名桜大学寮	
所属	国際学類	108	250	12	11	1	1	0	1	384
	スポーツ健康学科	17	91	1	1	0	0	0	0	110
	看護学科	38	56	1	0	0	0	1	0	96
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留学生等)	2	1	0	0	0	0	0	0	3
	合計		165	398	14	12	1	1	1	1

問5 あなたが住んでいる家でのネットワーク環境を教えてください。

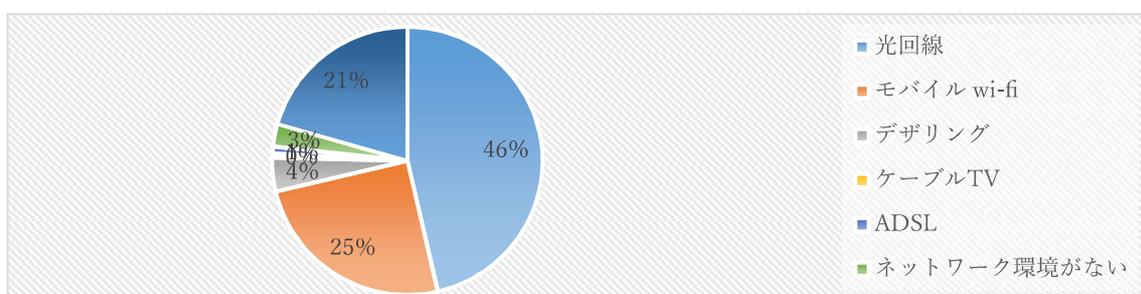
2回目実態調査結果



変数	問5 あなたが住んでいる家でのネットワーク環境を教えてください。								
	出現値	光回線	モバイル wi-fi	デザリング	ケーブル TV	ADSL	ネットワーク環境がない	わからない	合計
学年	1年	38	18	5	0	0	1	15	77
	2年	31	17	2	1	1	4	16	72
	3年	27	12	2	2	1	2	14	60
	4年	10	1	0	0	0	0	4	15
	看護学研究科1年次	1	0	0	0	0	0	0	1
合計		107	48	9	3	2	7	49	225

変数	問5 あなたが住んでいる家でのネットワーク環境を教えてください。								
	出現値	光回線	モバイル wi-fi	デザリング	ケーブル TV	ADSL	ネットワーク環境がない	わからない	合計
所属	国際学類	72	35	7	3	1	7	36	161
	スポーツ健康学科	19	7	1	0	0	0	10	37
	看護学科	15	6	1	0	1	0	3	26
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留学生等)	1	0	0	0	0	0	0	1
	合計		107	48	9	3	2	7	49

1回目実態調査結果

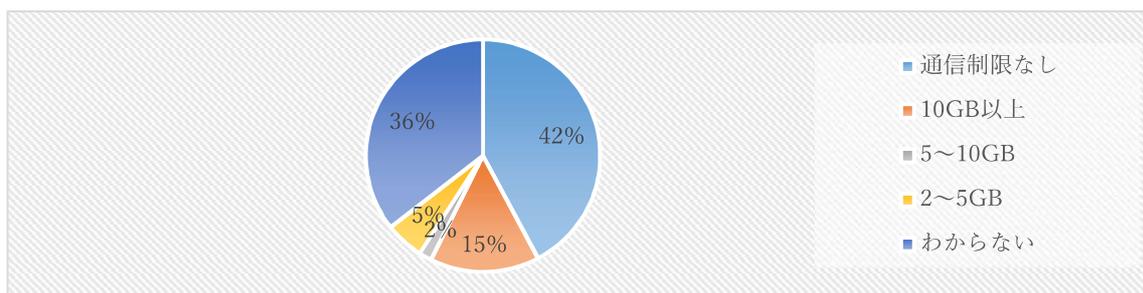


変数	問5 あなたが住んでいる家でのネットワーク環境を教えてください。								
	出現値	光回線	モバイル wi-fi	デザリング	ケーブル TV	ADSL	ネットワーク環境がない	わからない	合計
学年	1年	118	65	12	1	3	7	52	258
	2年	67	44	6	1	1	5	39	163
	3年	60	35	5	1	0	3	23	127
	4年	30	4	1	0	1	1	8	45
	合計		275	148	24	3	5	16	122

変数	問5 あなたが住んでいる家でのネットワーク環境を教えてください。								
	出現値	光回線	モバイル wi-fi	デザリング	ケーブル TV	ADSL	ネットワーク環境がない	わからない	合計
所属	国際学類	169	95	17	1	3	15	84	384
	スポーツ健康学科	60	26	3	1	1	1	18	110
	看護学科	45	25	4	1	1	0	20	96
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留学生等)	1	2	0	0	0	0	0	3
	合計		275	148	24	3	5	16	122

問6 問5においてネットワーク環境があると答えた方に質問します。あなたが住んでいる家でのネットワーク環境の1か月あたりの通信量を教えてください。

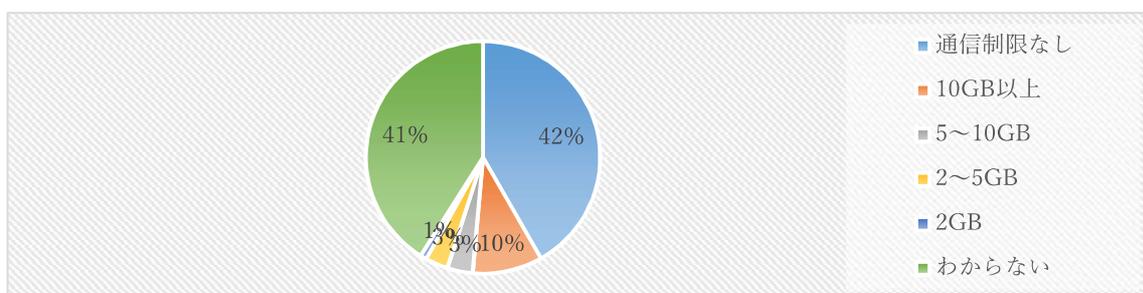
2回目実態調査結果



変数		問6 問5においてネットワーク環境があると答えた方に質問します。あなたが住んでいる家でのネットワーク環境の1か月あたりの通信量を教えてください。					合計
出現値		通信制限なし	10GB 以上	5~10GB	2~5GB	わからない	
学年	1年	30	11	3	2	31	77
	2年	34	9	1	7	21	72
	3年	21	12	0	3	24	60
	4年	9	2	0	0	4	15
	看護学研究科1年次	1	0	0	0	0	1
合計		95	34	4	12	80	225

変数		問6 問5においてネットワーク環境があると答えた方に質問します。あなたが住んでいる家でのネットワーク環境の1か月あたりの通信量を教えてください。					合計
出現値		通信制限なし	10GB 以上	5~10GB	2~5GB	わからない	
所属	国際学類	61	31	4	11	54	161
	スポーツ健康学科	19	2	0	1	15	37
	看護学科	14	1	0	0	11	26
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留学生等)	1	0	0	0	0	1
	合計	95	34	4	12	80	225

1回目実態調査結果

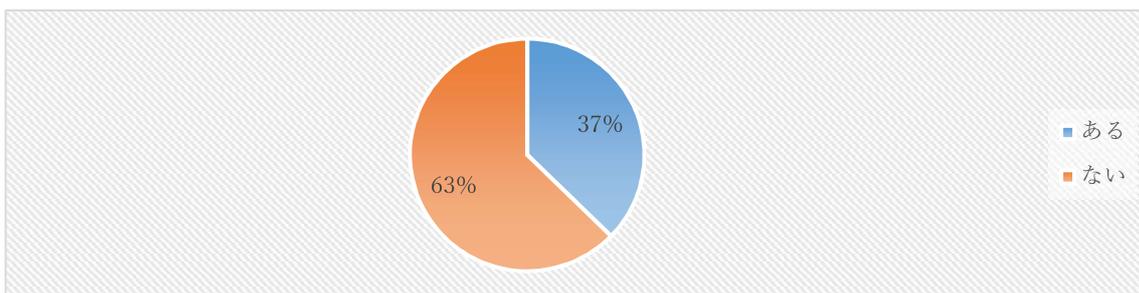


変数		問6 問5においてネットワーク環境があると答えた方に質問します。あなたが住んでいる家でのネットワーク環境の1か月あたりの通信量を教えてください。						合計
出現値		通信制限なし	10GB 以上	5~10GB	2~5GB	2GB	わからない	
学年	1年	101	21	7	6	2	109	246
	2年	63	16	5	6	2	65	157
	3年	48	15	6	5	1	47	122
	4年	26	3	2	1	0	13	45
	合計	238	55	20	18	5	234	570

変数		問6 問5においてネットワーク環境があると答えた方に質問します。あなたが住んでいる家でのネットワーク環境の1か月あたりの通信量を教えてください。						合計
出現値		通信制限なし	10GB 以上	5~10GB	2~5GB	2GB	わからない	
所属	国際学類	139	38	11	14	4	159	365
	スポーツ健康学科	62	10	4	3	0	28	107
	看護学科	35	6	5	1	1	47	95
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留学生等)	2	1	0	0	0	0	3
	合計	238	55	20	18	5	234	570

## 問7 あなたが住んでいる家にプリンターはありますか？

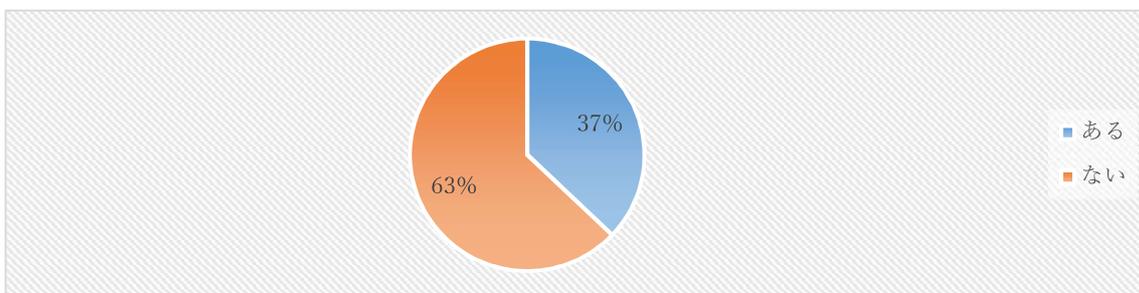
### 2 回目実態調査結果



変数	出現値	問7 あなたが住んでいる家にプリンターはありますか？		
		ある	ない	合計
学年	1 年	32	45	77
	2 年	27	45	72
	3 年	17	43	60
	4 年	8	7	15
	看護学研究科 1 年次	0	1	1
合計		84	141	225

変数	出現値	問7 あなたが住んでいる家にプリンターはありますか？		
		ある	ない	合計
所属	国際学類	48	113	161
	スポーツ健康学科	14	23	37
	看護学科	22	4	26
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留学生等)	0	1	1
	合計		84	141

### 1 回目実態調査結果

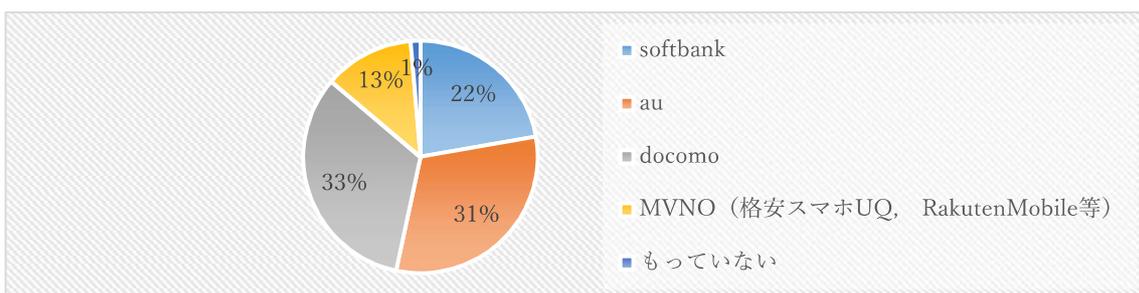


変数	出現値	問7 あなたが住んでいる家にプリンターはありますか？		
		ある	ない	合計
学年	1 年	82	176	258
	2 年	68	95	163
	3 年	49	78	127
	4 年	21	24	45
	合計		220	373

変数	出現値	問7 あなたが住んでいる家にプリンターはありますか？		
		ある	ない	合計
所属	国際学類	111	273	384
	スポーツ健康学科	40	70	110
	看護学科	69	27	96
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留学生等)	0	3	3
	合計		220	373

問8 あなたが使用している携帯のキャリアを教えてください。

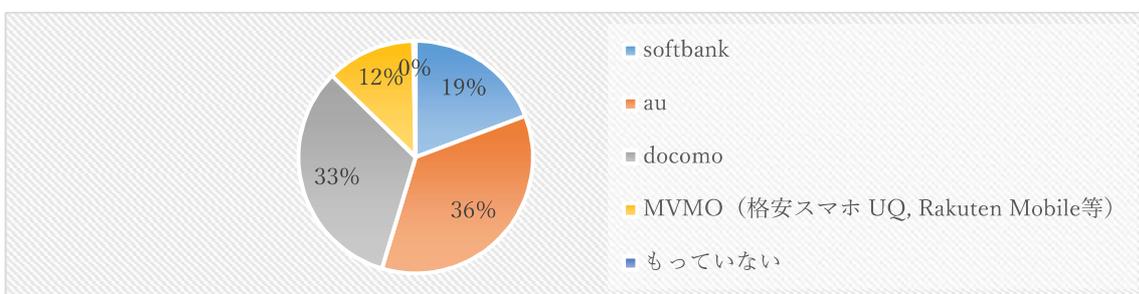
2 回目実態調査結果



変数		問8 あなたが使用している携帯のキャリアを教えてください。					
出現値		softbank	au	docomo	MVNO(格安スマホ UQ, Rakuten Mobile 等)	もっていない	合計
学年	1 年	18	24	24	11	0	77
	2 年	20	23	24	3	2	72
	3 年	8	17	22	12	1	60
	4 年	4	6	3	2	0	15
	看護学研究科 1 年次	0	0	1	0	0	1
合計		50	70	74	28	3	225

変数		問8 あなたが使用している携帯のキャリアを教えてください。					
出現値		softbank	au	docomo	MVNO(格安スマホ UQ, Rakuten Mobile 等)	もっていない	合計
所属	国際学類	37	50	52	20	2	161
	スポーツ健康学科	7	12	12	5	1	37
	看護学科	6	8	9	3	0	26
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留学生等)	0	0	1	0	0	1
	合計	50	70	74	28	3	225

1 回目実態調査結果

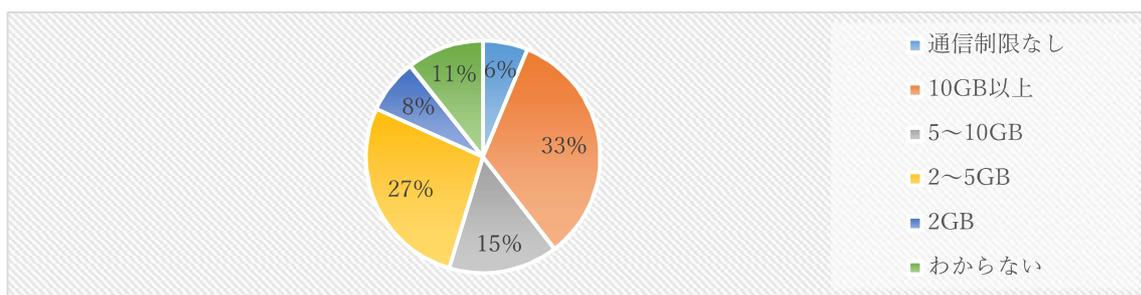


変数		問8 あなたが使用している携帯のキャリアを教えてください。					
出現値		softbank	au	docomo	MVMO(格安スマホ UQ, Rakuten Mobile 等)	もっていない	合計
学年	1 年	52	83	96	27	0	258
	2 年	36	56	50	20	1	163
	3 年	17	51	39	19	1	127
	4 年	9	20	9	7	0	45
	合計	114	210	194	73	2	593

変数		問8 あなたが使用している携帯のキャリアを教えてください。					
出現値		softbank	au	docomo	MVMO(格安スマホ UQ, Rakuten Mobile 等)	もっていない	合計
所属	国際学類	80	141	115	46	2	384
	スポーツ健康学科	18	39	44	9	0	110
	看護学科	16	30	34	16	0	96
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留学生等)	0	0	1	2	0	3
	合計	114	210	194	73	2	593

問9 あなたが使用している携帯の1か月あたりの通信量について教えてください。

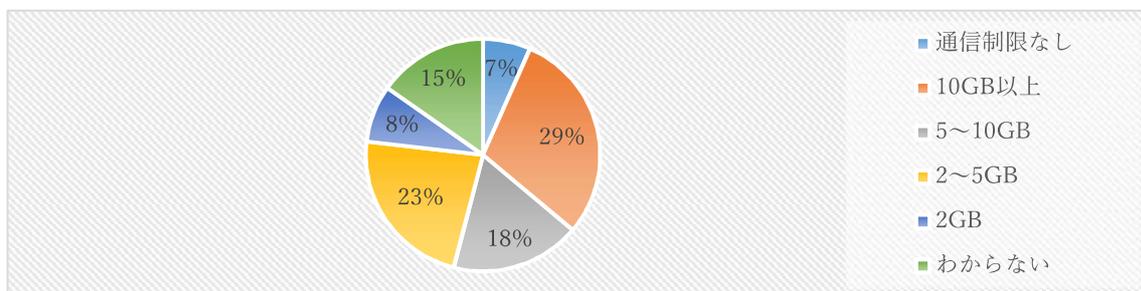
2回目実態調査結果



変数	出現値	問9 あなたが使用している携帯の1か月あたりの通信量について教えてください。						合計
		通信制限なし	10GB以上	5~10GB	2~5GB	2GB	わからない	
学年	1年	4	24	9	26	7	7	77
	2年	8	21	9	23	2	9	72
	3年	2	24	12	6	8	8	60
	4年	0	6	3	6	0	0	15
	看護学研究科1年次	0	0	1	0	0	0	1
合計		14	75	34	61	17	24	225

変数	出現値	問9 あなたが使用している携帯の1か月あたりの通信量について教えてください。						合計
		通信制限なし	10GB以上	5~10GB	2~5GB	2GB	わからない	
所属	国際学類	7	51	25	46	14	18	161
	スポーツ健康学科	4	13	6	10	1	3	37
	看護学科	3	11	2	5	2	3	26
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留学生等)	0	0	1	0	0	0	1
	合計		14	75	34	61	17	24

1回目実態調査結果



変数	出現値	問9 あなたが使用している携帯の1か月あたりの通信量について教えてください。						合計
		通信制限なし	10GB以上	5~10GB	2~5GB	2GB	わからない	
学年	1年	20	83	42	61	20	32	258
	2年	5	48	25	43	14	28	163
	3年	8	29	33	23	10	23	126
	4年	6	15	6	8	3	7	45
	合計		39	175	106	135	47	90

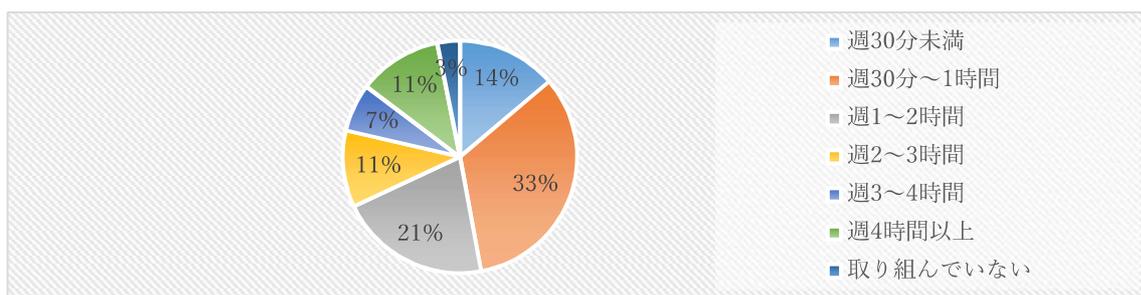
変数	出現値	問9 あなたが使用している携帯の1か月あたりの通信量について教えてください。						合計
		通信制限なし	10GB以上	5~10GB	2~5GB	2GB	わからない	
所属	国際学類	27	110	67	84	33	62	383
	スポーツ健康学科	5	31	21	32	6	15	110
	看護学科	6	34	17	19	7	13	96
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留学生等)	1	0	1	0	1	0	3
	合計		39	175	106	135	47	90

問10 前学期と比較して、後学期は学習環境をどのように改善しましたか？

別紙：コメント参照

問 11 授業時間外で一科目あたりどの程度（予習・復習）に取り組んでいますか？

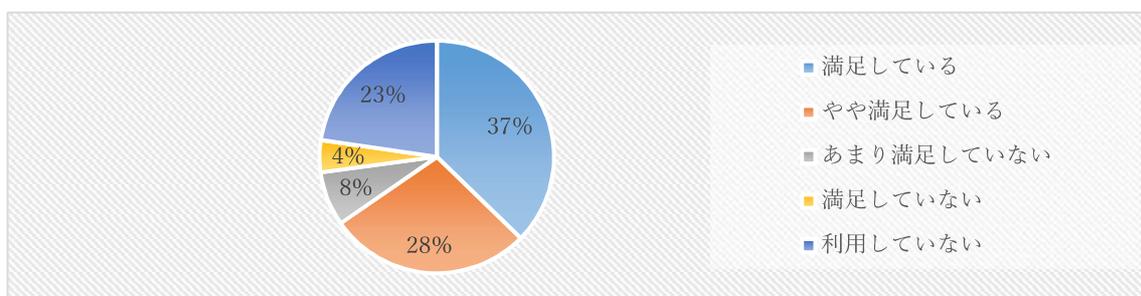
2 回目実態調査結果（新規質問項目）



変数		問 11 授業時間外で一科目あたりどの程度学習（予習・復習）に取り組んでいますか？							合計
出現値		週 30分未満	週 30分～1時間	週 1～2時間	週 2～3時間	週 3～4時間	週 4時間以上	取り組んでいない	
学年	1 年	8	21	19	12	3	13	1	77
	2 年	12	26	12	8	6	6	2	72
	3 年	9	22	15	3	3	4	4	60
	4 年	2	6	1	1	3	2	0	15
	看護学研究科 1 年次	0	0	0	0	0	1	0	1
合計		31	75	47	24	15	26	7	225

変数		問 11 授業時間外で一科目あたりどの程度学習（予習・復習）に取り組んでいますか？							合計
出現値		週 30分未満	週 30分～1時間	週 1～2時間	週 2～3時間	週 3～4時間	週 4時間以上	取り組んでいない	
所属	国際学類	23	60	30	16	10	15	7	161
	スポーツ健康学科	3	9	12	7	2	4	0	37
	看護学科	5	6	5	1	3	6	0	26
	その他（特別聴講生、科目履修生、交換留学生等）	0	0	0	0	0	1	0	1
	合計	31	75	47	24	15	26	7	225

問 12 遠隔授業受講時（または入構禁止期間中）において学生会館（SAKURAU）及び図書館の開放についてどう感じていますか。 2 回目実態調査結果（新規質問項目）

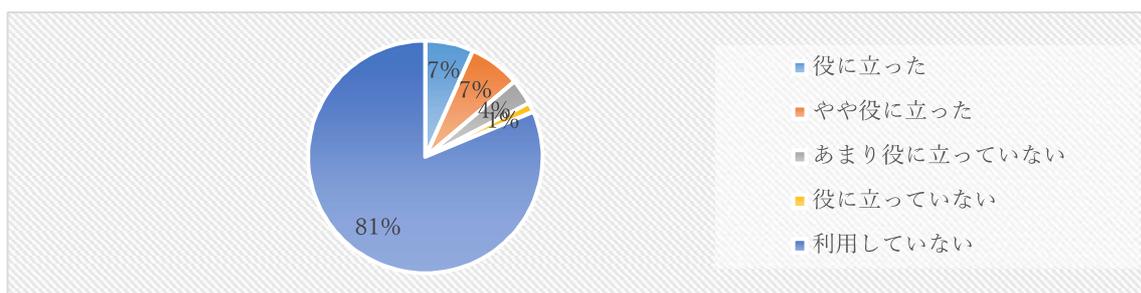


変数		問 12 遠隔授業受講時（または入構禁止期間中）において学生会館（SAKURAU）及び図書館の開放についてどう感じていますか？					合計
出現値		満足している	やや満足している	あまり満足していない	満足していない	利用していない	
学年	1 年	34	27	3	1	12	77
	2 年	27	15	7	4	19	72
	3 年	18	16	7	3	16	60
	4 年	5	5	0	2	3	15
	看護学研究科 1 年次	0	0	0	0	1	1
合計		84	63	17	10	51	225

変数		問 12 遠隔授業受講時（または入構禁止期間中）において学生会館（SAKURAU）及び図書館の開放についてどう感じていますか？					合計
出現値		満足している	やや満足している	あまり満足していない	満足していない	利用していない	
所属	国際学類	64	43	10	8	36	161
	スポーツ健康学科	12	10	4	2	9	37
	看護学科	8	10	3	0	5	26
	その他（特別聴講生、科目履修生、交換留学生等）	0	0	0	0	1	1
	合計	84	63	17	10	51	225

問 13 名桜大学が貸し出しているPCは遠隔授業を受講するにあたり役に立ちましたか？

2 回目実態調査結果（新規質問項目）



変数	出現値	問 13 名桜大学が貸し出しているPCは遠隔授業を受講するにあたり役に立ちましたか？					合計
		役に立った	やや役に立った	あまり役に立っていない	役に立っていない	利用していない	
学年	1 年	7	6	2	2	60	77
	2 年	5	3	3	0	61	72
	3 年	1	6	3	1	49	60
	4 年	2	1	0	0	12	15
	看護学研究科 1 年次	0	0	0	0	1	1
合計		15	16	8	3	183	225

変数	出現値	問 13 名桜大学が貸し出しているPCは遠隔授業を受講するにあたり役に立ちましたか？					合計
		役に立った	やや役に立った	あまり役に立っていない	役に立っていない	利用していない	
所属	国際学類	12	12	7	3	127	161
	スポーツ健康学科	2	2	1	0	32	37
	看護学科	1	2	0	0	23	26
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留学生等)	0	0	0	0	1	1
	合計		15	16	8	3	183

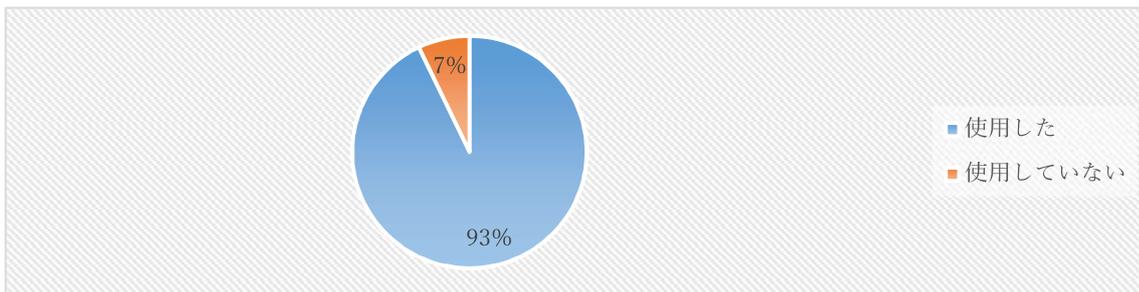
問 14 名桜大学が貸し出しているPCに関して不便に感じることはありましたか？具体的に教えてください。

2 回目実態調査結果（新規質問項目）

別紙：コメント参照

問 15 遠隔授業を受講する際に、通信機器としてパソコン（ノートパソコン・デスクトップパソコン）を使用しましたか？

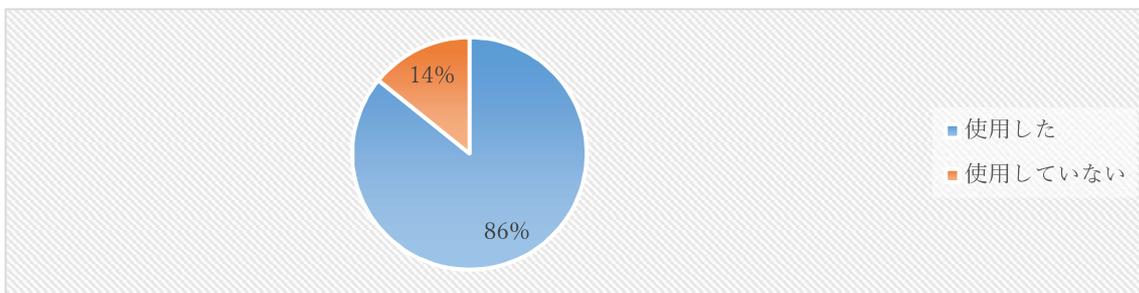
### 2 回目実態調査結果



変数	出現値	問 15 遠隔授業を受講する際に、通信機器としてパソコン（ノートパソコン・デスクトップパソコン）を使用しましたか？		
		使用した	使用していない	合計
学年	1 年	75	2	77
	2 年	66	6	72
	3 年	52	8	60
	4 年	15	0	15
	看護学研究科 1 年次	1	0	1
合計		209	16	225

変数	出現値	問 15 遠隔授業を受講する際に、通信機器としてパソコン（ノートパソコン・デスクトップパソコン）を使用しましたか？		
		使用した	使用していない	合計
所属	国際学類	147	14	161
	スポーツ健康学科	35	2	37
	看護学科	26	0	26
	その他（特別聴講生、科目履修生、交換留学生等）	1	0	1
	合計		209	16

### 1 回目実態調査結果

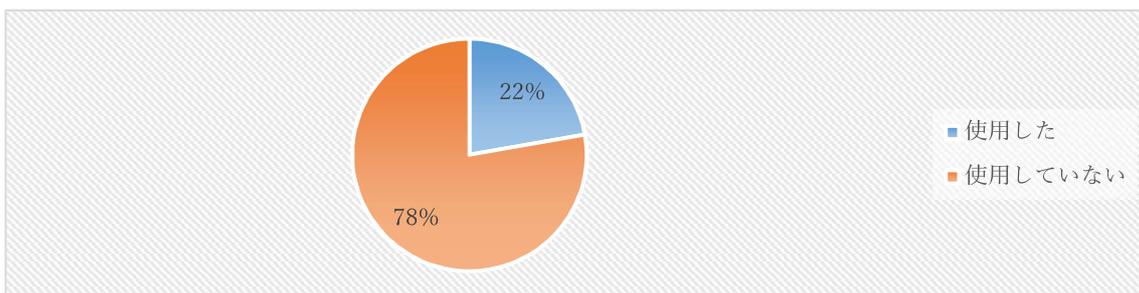


変数	出現値	問 10 遠隔授業を受講する際に、通信機器としてパソコン（ノートパソコン・デスクトップパソコン）を使用しましたか？		
		使用した	使用していない	合計
学年	1 年	214	44	258
	2 年	145	18	163
	3 年	111	16	127
	4 年	39	6	45
	合計		509	84

変数	出現値	問 10 遠隔授業を受講する際に、通信機器としてパソコン（ノートパソコン・デスクトップパソコン）を使用しましたか？		
		使用した	使用していない	合計
所属	国際学類	313	71	384
	スポーツ健康学科	103	7	110
	看護学科	90	6	96
	その他（特別聴講生、科目履修生、交換留学生等）	3	0	3
	合計		509	84

問 16 遠隔授業を受講する際に、通信機器としてタブレット（iPad など）を使用しましたか？

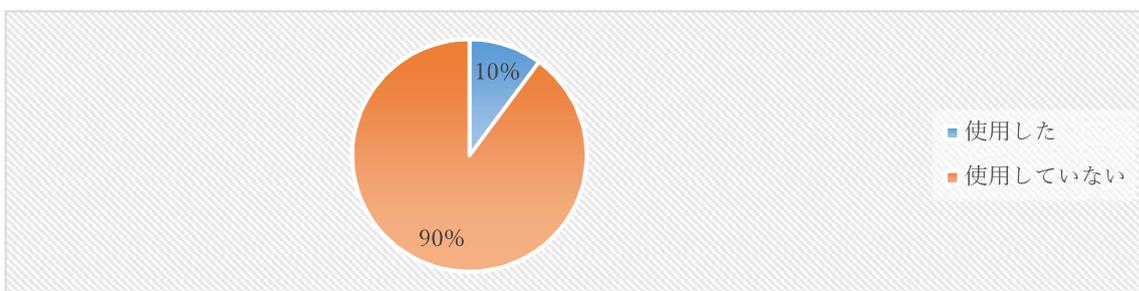
2 回目実態調査結果



変数	出現値	問 16 遠隔授業を受講する際に、通信機器としてタブレット(iPad など)を使用しましたか？		
		使用した	使用していない	合計
学年	1 年	15	62	77
	2 年	17	55	72
	3 年	14	46	60
	4 年	4	11	15
	看護学研究科 1 年次	0	1	1
合計		50	175	225

変数	出現値	問 16 遠隔授業を受講する際に、通信機器としてタブレット(iPad など)を使用しましたか？		
		使用した	使用していない	合計
所属	国際学類	33	128	161
	スポーツ健康学科	10	27	37
	看護学科	7	19	26
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留学生等)	0	1	1
	合計		50	175

1 回目実態調査結果

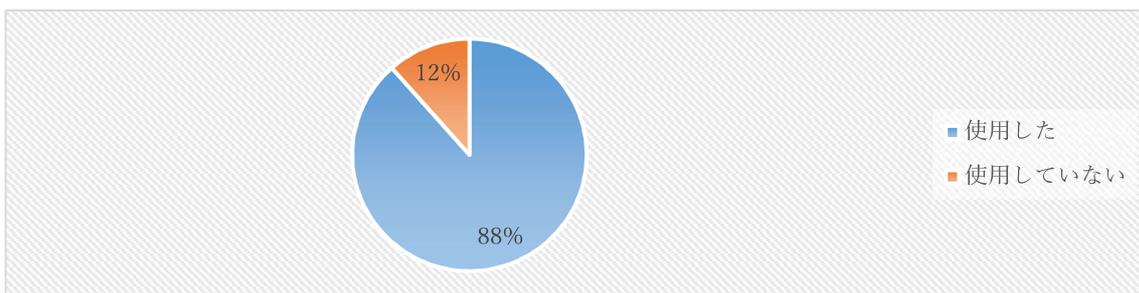


変数	出現値	問11 遠隔授業を受講する際に、通信機器としてタブレット(iPad など)を使用しましたか？		
		使用した	使用していない	合計
学年	1 年	20	238	258
	2 年	9	154	163
	3 年	24	103	127
	4 年	7	38	45
	合計		60	533

変数	出現値	問11 遠隔授業を受講する際に、通信機器としてタブレット(iPad など)を使用しましたか？		
		使用した	使用していない	合計
所属	国際学類	46	338	384
	スポーツ健康学科	9	101	110
	看護学科	5	91	96
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留学生等)	0	3	3
	合計		60	533

問 17 遠隔授業を受講する際に、通信機器としてスマートフォンを使用しましたか？

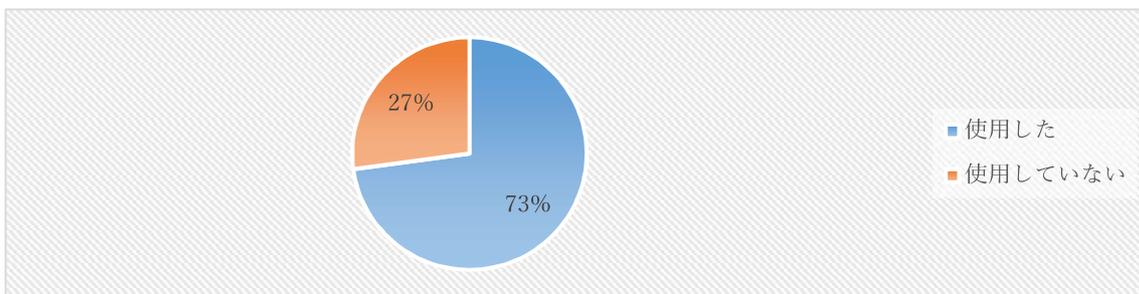
2 回目実態調査結果



変数	出現値	問 17 遠隔授業を受講する際に、通信機器としてスマートフォンを使用しましたか？		
		使用した	使用していない	合計
学年	1 年	73	4	77
	2 年	64	8	72
	3 年	52	8	60
	4 年	10	5	15
	看護学研究科 1 年次	0	1	1
合計		199	26	225

変数	出現値	問 17 遠隔授業を受講する際に、通信機器としてスマートフォンを使用しましたか？		
		使用した	使用していない	合計
所属	国際学類	142	19	161
	スポーツ健康学科	34	3	37
	看護学科	23	3	26
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留学生等)	0	1	1
	合計	199	26	225

1 回目実態調査結果

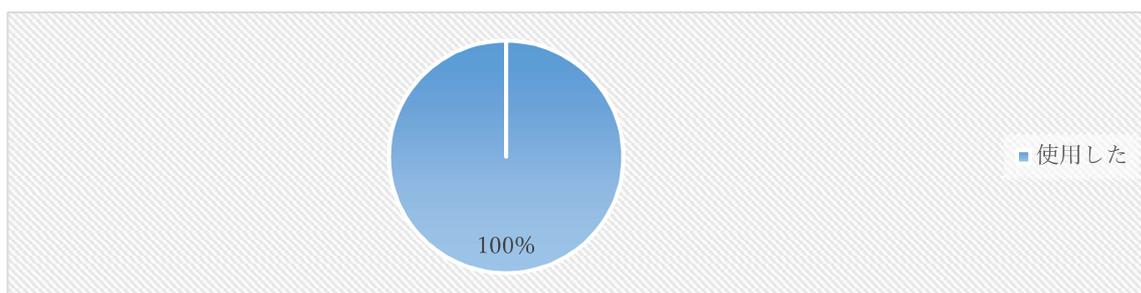


変数	出現値	問 12 遠隔授業を受講する際に、通信機器としてスマートフォンを使用しましたか？		
		使用した	使用していない	合計
学年	1 年	179	79	258
	2 年	129	34	163
	3 年	95	32	127
	4 年	29	16	45
	合計	432	161	593

変数	出現値	問 12 遠隔授業を受講する際に、通信機器としてスマートフォンを使用しましたか？		
		使用した	使用していない	合計
所属	国際学類	284	100	384
	スポーツ健康学科	81	29	110
	看護学科	66	30	96
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留学生等)	1	2	3
	合計	432	161	593

## 問 18 遠隔授業を受講する際に Microsoft Teams を使用しましたか？

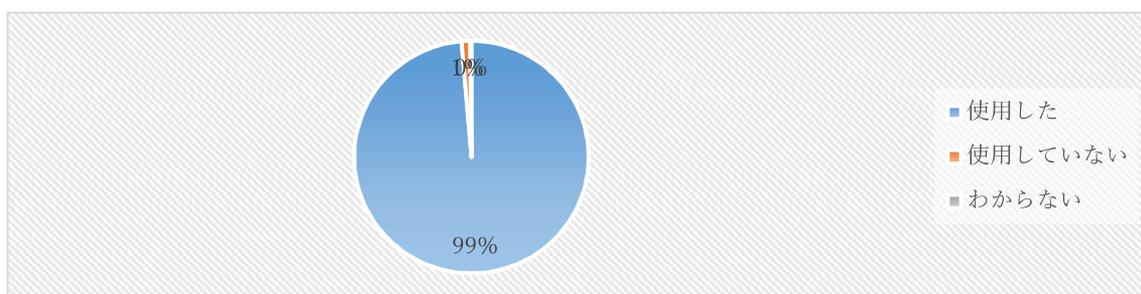
### 2 回目実態調査結果



変数	出現値	問 18 遠隔授業を受講した際に Microsoft Teams を使用しましたか？	
		使用した	合計
学年	1 年	77	77
	2 年	72	72
	3 年	60	60
	4 年	15	15
	看護学研究科 1 年次	1	1
	合計	225	225

変数	出現値	問 18 遠隔授業を受講した際に Microsoft Teams を使用しましたか？	
		使用した	合計
所属	国際学類	161	161
	スポーツ健康学科	37	37
	看護学科	26	26
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留学生等)	1	1
	合計	225	225

### 1 回目実態調査結果

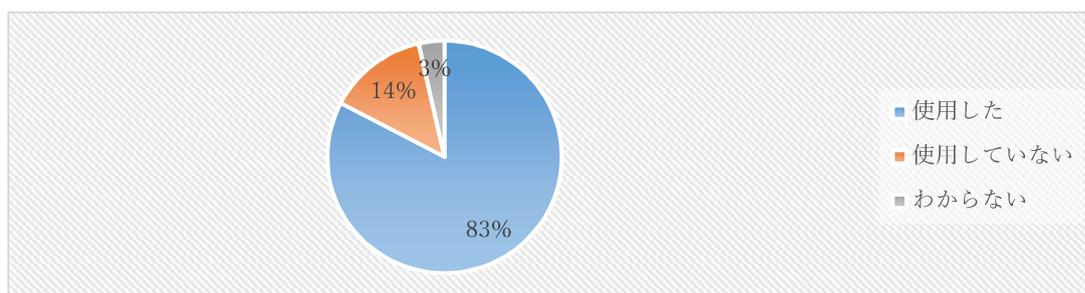


変数	出現値	問 13 遠隔授業を受講した際に Microsoft Teams を使用しましたか？			合計
		使用した	使用していない	わからない	
学年	1 年	258	0	0	258
	2 年	160	3	0	163
	3 年	125	1	1	127
	4 年	42	3	0	45
	合計	585	7	1	593

変数	出現値	問 13 遠隔授業を受講した際に Microsoft Teams を使用しましたか？			合計
		使用した	使用していない	わからない	
所属	国際学類	377	6	1	384
	スポーツ健康学科	109	1	0	110
	看護学科	96	0	0	96
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留学生等)	3	0	0	3
	合計	585	7	1	593

## 問19 遠隔授業を受講する際に Universal Passport を使用しましたか？

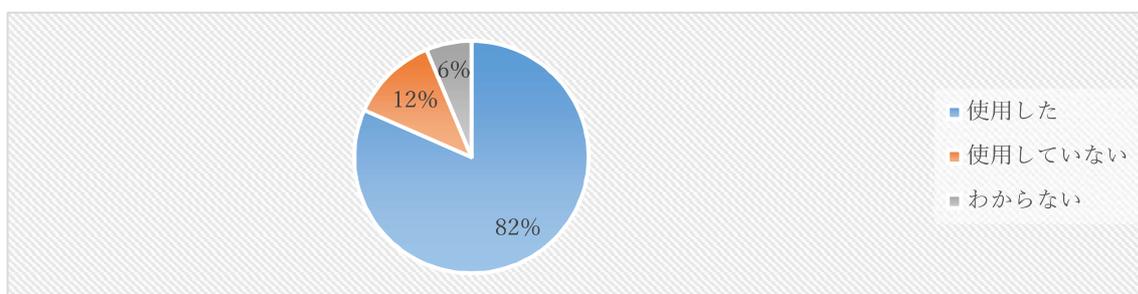
### 2 回目実態調査結果



変数	出現値	問19 遠隔授業を受講した際に UniversalPassport を使用しましたか？			合計
		使用した	使用していない	わからない	
学年	1 年	70	4	3	77
	2 年	56	11	5	72
	3 年	52	8	0	60
	4 年	8	7	0	15
	看護学研究科 1 年次	0	1	0	1
合計		186	31	8	225

変数	出現値	問19 遠隔授業を受講した際に UniversalPassport を使用しましたか？			合計
		使用した	使用していない	わからない	
所属	国際学類	142	16	3	161
	スポーツ健康学科	29	7	1	37
	看護学科	15	7	4	26
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留 学生等)	0	1	0	1
	合計		186	31	8

### 1 回目実態調査結果

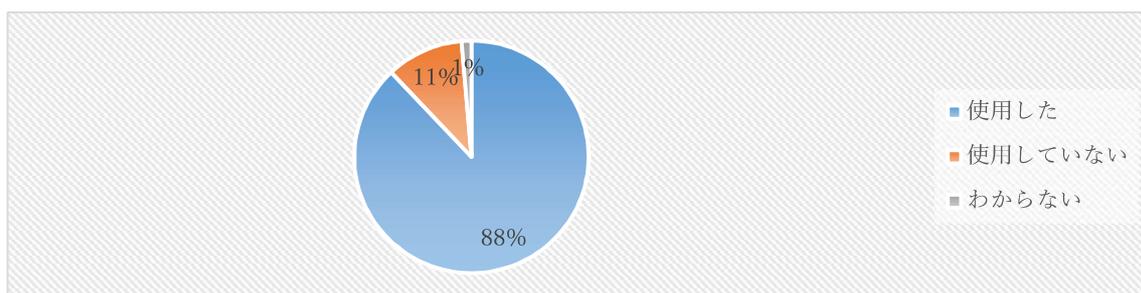


変数	出現値	問14 遠隔授業を受講した際に Universal Passport を使用しましたか？			合計
		使用した	使用していない	わからない	
学年	1 年	209	23	26	258
	2 年	139	15	9	163
	3 年	108	17	2	127
	4 年	28	17	0	45
	合計		484	72	37

変数	出現値	問14 遠隔授業を受講した際に Universal Passport を使用しましたか？			合計
		使用した	使用していない	わからない	
所属	国際学類	338	28	18	384
	スポーツ健康学科	84	18	8	110
	看護学科	60	25	11	96
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留 学生等)	2	1	0	3
	合計		484	72	37

問 20 遠隔授業を受講する際に Google for Education (Google Classroom・Google Meet 等)を使用しましたか？

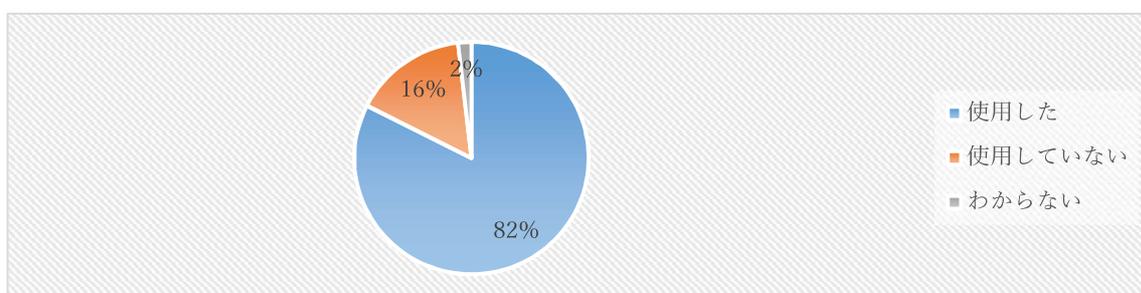
2 回目実態調査結果



変数		問 20 遠隔授業を受講した際に GoogleforEducation(Googleclassroom・Googlemeet 等)を使用しましたか？			
	出現値	使用した	使用していない	わからない	合計
学年	1 年	74	3	0	77
	2 年	65	6	1	72
	3 年	51	8	1	60
	4 年	7	7	1	15
	看護学研究科 1 年次	1	0	0	1
	合計	198	24	3	225

変数		問 20 遠隔授業を受講した際に GoogleforEducation(Googleclassroom・Googlemeet 等)を使用しましたか？			
	出現値	使用した	使用していない	わからない	合計
所属	国際学類	148	12	1	161
	スポーツ健康学科	29	7	1	37
	看護学科	20	5	1	26
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留学生等)	1	0	0	1
	合計	198	24	3	225

1 回目実態調査結果

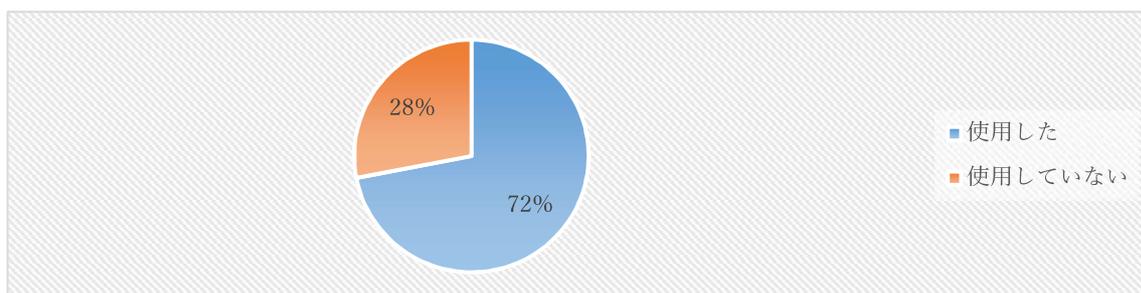


変数		問 15 遠隔授業を受講した際に Google for Education (Google classroom・Google meet 等)を使用しましたか？			
	出現値	使用した	使用していない	わからない	合計
学年	1 年	222	28	8	258
	2 年	139	21	3	163
	3 年	102	25	0	127
	4 年	26	19	0	45
	合計	489	93	11	593

変数		問 15 遠隔授業を受講した際に Google for Education (Google classroom・Google meet 等)を使用しましたか？			
	出現値	使用した	使用していない	わからない	合計
所属	国際学類	332	46	6	384
	スポーツ健康学科	77	31	2	110
	看護学科	78	15	3	96
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留学生等)	2	1	0	3
	合計	489	93	11	593

問 21 遠隔授業を受講する際に Zoom を使用しましたか？

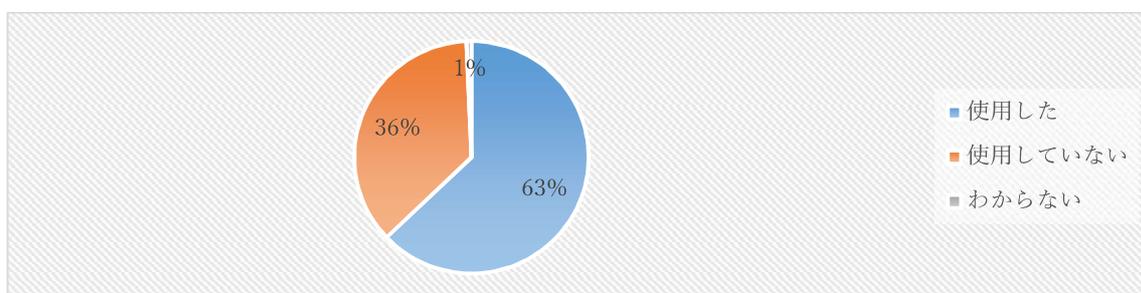
## 2 回目実態調査結果



変数	出現値	問 21 遠隔授業を受講した際に Zoom を使用しましたか？		合計
		使用した	使用していない	
学年	1 年	66	11	77
	2 年	55	17	72
	3 年	32	28	60
	4 年	8	7	15
	看護学研究科 1 年次	1	0	1
	合計	162	63	225

変数	出現値	問 21 遠隔授業を受講した際に Zoom を使用しましたか？		合計
		使用した	使用していない	
所属	国際学類	118	43	161
	スポーツ健康学科	22	15	37
	看護学科	21	5	26
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留学生等)	1	0	1
	合計	162	63	225

## 1 回目実態調査結果

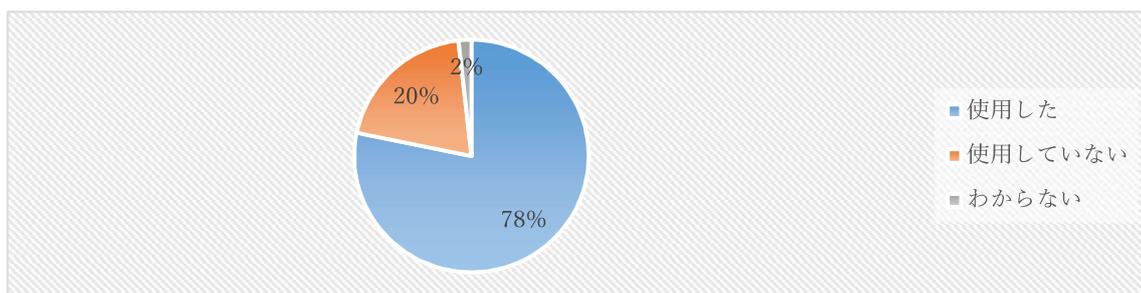


変数	出現値	問 16 遠隔授業を受講した際に Zoom を使用しましたか？			合計
		使用した	使用していない	わからない	
学年	1 年	211	47	0	258
	2 年	81	80	2	163
	3 年	62	63	2	127
	4 年	19	26	0	45
	合計	373	216	4	593

変数	出現値	問 16 遠隔授業を受講した際に Zoom を使用しましたか？			合計
		使用した	使用していない	わからない	
所属	国際学類	256	124	4	384
	スポーツ健康学科	77	33	0	110
	看護学科	39	57	0	96
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留学生等)	1	2	0	3
	合計	373	216	4	593

問 22 遠隔授業を受講した際にストリーミング動画 (YouTube 等) を使用しましたか？

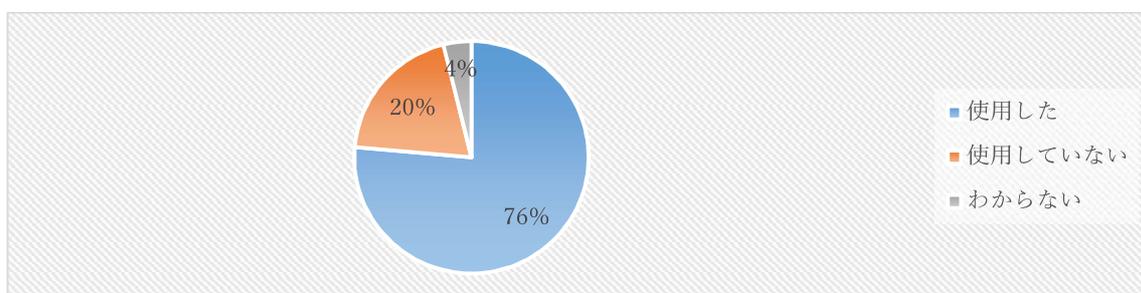
## 2 回目実態調査結果



変数	出現値	問 22 遠隔授業を受講した際にストリーミング動画(YouTube 等)を使用しましたか？			合計
		使用した	使用していない	わからない	
学年	1 年	75	2	0	77
	2 年	55	14	3	72
	3 年	38	21	1	60
	4 年	8	7	0	15
	看護学研究科 1 年次	0	1	0	1
	合計	176	45	4	225

変数	出現値	問 22 遠隔授業を受講した際にストリーミング動画(YouTube 等)を使用しましたか？			合計
		使用した	使用していない	わからない	
所属	国際学類	128	31	2	161
	スポーツ健康学科	26	11	0	37
	看護学科	22	2	2	26
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留学生等)	0	1	0	1
	合計	176	45	4	225

## 1 回目実態調査結果

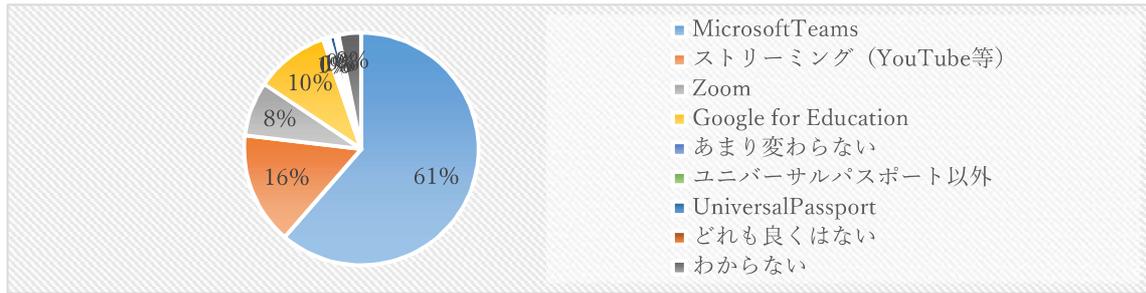


変数	出現値	問 17 遠隔授業を受講した際にストリーミング動画(YouTube 等)を使用しましたか？			合計
		使用した	使用していない	わからない	
学年	1 年	226	21	11	258
	2 年	114	40	9	163
	3 年	90	36	1	127
	4 年	23	20	2	45
	合計	453	117	23	593

変数	出現値	問 17 遠隔授業を受講した際にストリーミング動画(YouTube 等)を使用しましたか？			合計
		使用した	使用していない	わからない	
所属	国際学類	298	71	15	384
	スポーツ健康学科	80	28	2	110
	看護学科	72	18	6	96
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留学生等)	3	0	0	3
	合計	453	117	23	593

問 23 遠隔授業を受講した際に以下の受講ツールから一番良かったと思うものはどれですか？

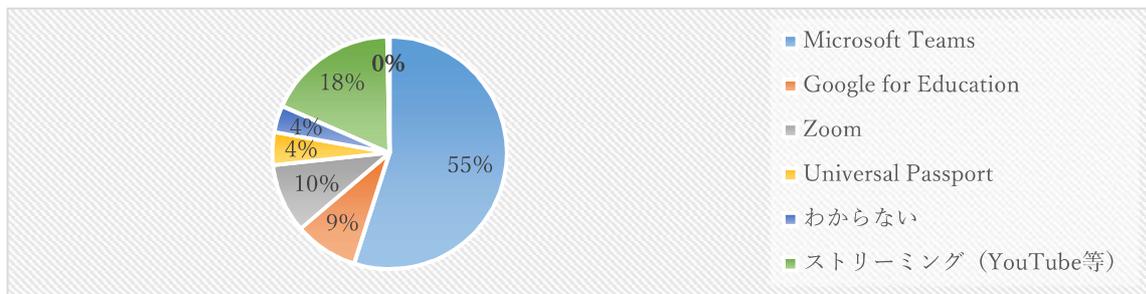
## 2 回目実態調査結果



変数		問 23 遠隔授業を受講した際に以下の受講ツールから一番良かったと思うものはどれですか？									
出現値		Microsoft Teams	ストリーミング (YouTube等)	Zoom	Google for Education (GoogleClassroom・GoogleMeet)	あまり変わらない	ユニバーサルパスポート以外は全部良かったです。	Universal Passport	どれも良くはない	わからない	合計
学年	1年	48	12	4	9	0	0	1	0	3	77
	2年	41	12	8	7	0	1	0	1	2	72
	3年	38	10	4	6	1	0	1	0	0	60
	4年	11	1	1	1	0	0	0	0	1	15
	看護学研究科1年次	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
合計		138	35	17	23	1	1	2	1	7	225

変数		問 23 遠隔授業を受講した際に以下の受講ツールから一番良かったと思うものはどれですか？									
出現値		Microsoft Teams	ストリーミング (YouTube等)	Zoom	Google for Education (GoogleClassroom・GoogleMeet)	あまり変わらない	ユニバーサルパスポート以外は全部良かったです。	Universal Passport	どれも良くはない	わからない	合計
所属	国際学類	90	29	14	21	1	1	2	0	3	161
	スポーツ健康学科	26	5	1	2	0	0	0	1	2	37
	看護学科	22	1	2	0	0	0	0	0	1	26
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	合計		138	35	17	23	1	1	2	1	7

## 1 回目実態調査結果



変数		問 18 遠隔授業を受講した際に以下の受講ツールから一番良かったと思うものはどれですか？									
出現値		Microsoft Teams	Google for Education	Zoom	Universal Passport	わからない	ストリーミング (YouTube等)	オンデマンド	その他	合計	
学年	1年	136	32	34	11	5	40	0	0	258	
	2年	96	6	10	8	10	32	1	0	163	
	3年	73	10	7	7	3	25	1	1	127	
	4年	20	4	6	1	4	10	0	0	45	
	合計		325	52	57	27	22	107	1	1	593

変数		問 18 遠隔授業を受講した際に以下の受講ツールから一番良かったと思うものはどれですか？									
出現値		Microsoft Teams	Google for Education	Zoom	Universal Passport	わからない	ストリーミング (YouTube等)	オンデマンド	その他	合計	
所属	国際学類	166	44	45	23	14	89	2	1	384	
	看護学科	76	5	5	1	2	7	0	0	96	
	スポーツ健康学科	82	2	7	3	6	10	0	0	110	
	その他	1	1	0	0	0	1	0	0	3	
	合計		325	52	57	27	22	107	1	1	593

問 24 遠隔授業（主に通信機器を用いたオンライン授業）を受講した際に以下の通信状況の中で最も当てはまる

ものを教えてください。

## 2 回目実態調査結果



変数		問 24 遠隔授業（主に通信機器を用いたオンライン授業）を受講した際に以下の通信状況の中で最も当てはまるものを教えてください。						
出現値	特に問題はない	一部音声が入切れるが、話の内容は聞き取れる	一部映像がフリーズ（映像が動かなくなる）するが、受講には支障はない	映像がよくフリーズ（映像が動かなくなる）し、講義の内容がよくわからない	音声がよく途切れ、講義の内容がよく聞き取れない	その他	合計	
学年	1 年	34	15	17	2	5	4	77
	2 年	28	18	19	2	5	0	72
	3 年	20	22	10	3	3	2	60
	4 年	7	4	2	0	1	1	15
	看護学研究科 1 年次	1	0	0	0	0	0	1
	合計	90	59	48	7	14	7	225

変数		問 24 遠隔授業（主に通信機器を用いたオンライン授業）を受講した際に以下の通信状況の中で最も当てはまるものを教えてください。						
出現値	特に問題はない	一部音声が入切れるが、話の内容は聞き取れる	一部映像がフリーズ（映像が動かなくなる）するが、受講には支障はない	映像がよくフリーズ（映像が動かなくなる）し、講義の内容がよくわからない	音声がよく途切れ、講義の内容がよく聞き取れない	その他	合計	
所属	国際学類	60	48	28	7	13	5	161
	スポーツ健康学科	17	7	11	0	1	1	37
	看護学科	12	4	9	0	0	1	26
	その他（特別聴講生、科目履修生、交換留学生等）	1	0	0	0	0	0	1

## 1 回目実態調査結果

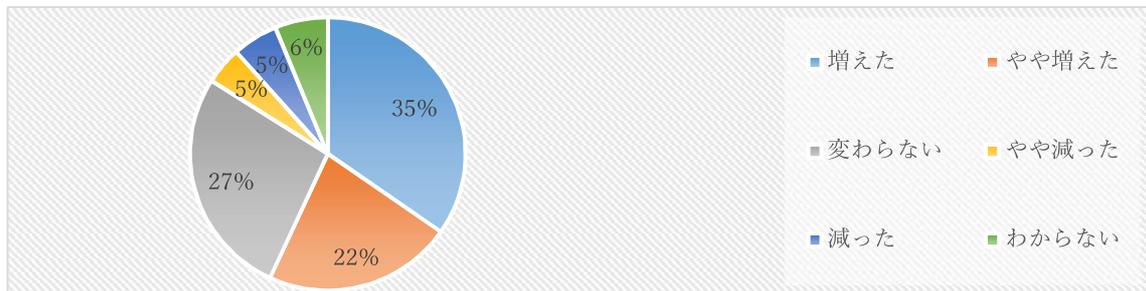


変数		問 19 遠隔授業（主に通信機器を用いたオンライン授業）を受講した際に以下の通信状況の中で最も当てはまるものを教えてください。						
出現値	特に問題はない	一部音声が入切れるが、話の内容は聞き取れる	一部映像がフリーズ（映像が動かなくなる）するが、受講には支障はない	音声がよく途切れ、講義の内容がよく聞き取れない	映像がよくフリーズ（映像が動かなくなる）し、講義の内容がよくわからない	その他	合計	
学年	1 年	78	89	68	14	6	3	258
	2 年	46	47	43	13	8	6	163
	3 年	37	43	34	5	1	7	127
	4 年	16	11	15	1	1	1	45
	合計	177	190	160	33	16	17	593

変数		問 19 遠隔授業（主に通信機器を用いたオンライン授業）を受講した際に以下の通信状況の中で最も当てはまるものを教えてください。						
出現値	特に問題はない	一部音声が入切れるが、話の内容は聞き取れる	一部映像がフリーズ（映像が動かなくなる）するが、受講には支障はない	音声がよく途切れ、講義の内容がよく聞き取れない	映像がよくフリーズ（映像が動かなくなる）し、講義の内容がよくわからない	その他	合計	
所属	国際学類	136	110	94	25	8	11	384
	スポーツ健康学科	23	51	32	1	1	2	110
	看護学科	17	27	34	7	7	4	96
	その他（特別聴講生、科目履修生、交換留学生等）	1	2	0	0	0	0	3
	合計	177	190	160	33	16	17	593

問 25 遠隔授業を受講したときの【通信以外の問題点】を教えてください。  
別紙：コメント参照

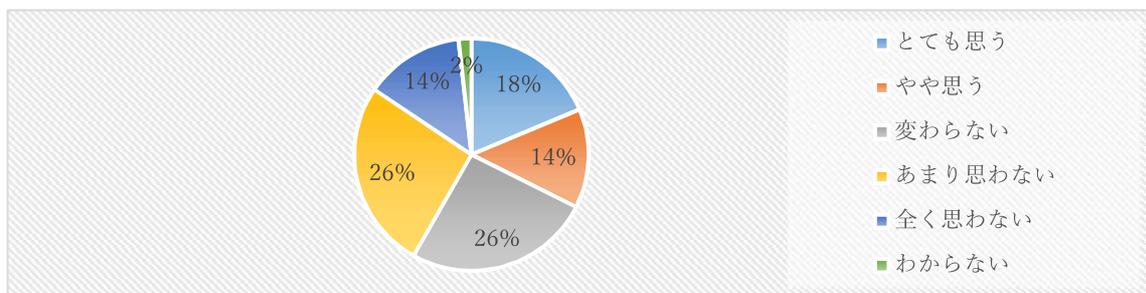
問 26 平常時の対面授業と比べ、混成授業を受講する際、授業時間外での学習は増えましたか？  
2 回目実態調査結果（新規質問項目）



変数	出現値	問 26 平常時の対面授業と比べ、混成授業を受講する際、授業時間外での学習は増えましたか？						合計
		増えた	やや増えた	変わらない	やや減った	減った	わからない	
学年	1 年	20	15	24	4	3	11	77
	2 年	34	14	16	3	3	2	72
	3 年	20	19	13	3	5	0	60
	4 年	4	2	7	0	1	1	15
	看護学研究科 1 年次	0	0	1	0	0	0	1
合計		78	50	61	10	12	14	225

変数	出現値	問 26 平常時の対面授業と比べ、混成授業を受講する際、授業時間外での学習は増えましたか？						合計
		増えた	やや増えた	変わらない	やや減った	減った	わからない	
所属	国際学類	62	34	37	7	11	10	161
	スポーツ健康学科	14	9	11	0	1	2	37
	看護学科	2	7	12	3	0	2	26
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留学生等)	0	0	1	0	0	0	1
	合計		78	50	61	10	12	14

問 27 対面授業と比べ、遠隔授業を受講する際、集中して授業を受けることができる。  
2 回目実態調査結果（新規質問項目）

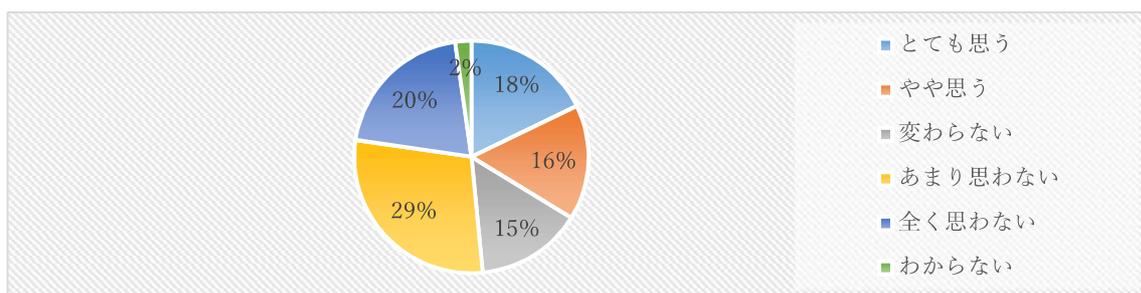


変数	出現値	問 27 対面授業と比べ、遠隔授業を受講する際、集中して授業を受けることができる						合計
		とても思う	やや思う	変わらない	あまり思わない	全く思わない	わからない	
学年	1 年	14	9	23	21	8	2	77
	2 年	15	11	15	18	13	0	72
	3 年	8	10	16	16	9	1	60
	4 年	5	1	3	4	1	1	15
	看護学研究科 1 年次	0	0	1	0	0	0	1
合計		42	31	58	59	31	4	225

変数	出現値	問 27 対面授業と比べ、遠隔授業を受講する際、集中して授業を受けることができる						合計
		とても思う	やや思う	変わらない	あまり思わない	全く思わない	わからない	
所属	国際学類	30	23	40	43	23	2	161
	スポーツ健康学科	10	5	9	6	5	2	37
	看護学科	2	3	8	10	3	0	26
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留学生等)	0	0	1	0	0	0	1
	合計		42	31	58	59	31	4

問 28 対面授業と比べ、遠隔授業を受講する際、配布資料を受け取りやすい。

2 回目実態調査結果 (新規質問項目)

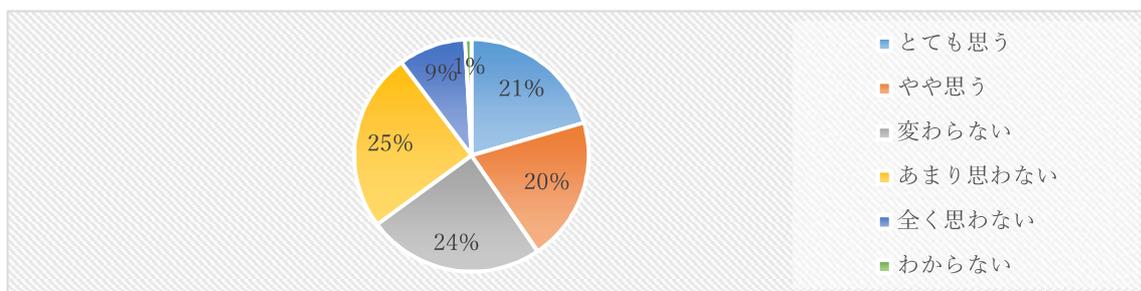


変数	出現値	問 28 対面授業と比べ、遠隔授業を受講する際、配布資料を受け取りやすい						合計
		とても思う	やや思う	変わらない	あまり思わない	全く思わない	わからない	
学年	1 年	11	13	13	24	13	3	77
	2 年	15	7	11	22	17	0	72
	3 年	9	14	5	16	15	1	60
	4 年	5	1	4	3	1	1	15
	看護学研究科 1 年次	0	1	0	0	0	0	1
合計		40	36	33	65	46	5	225

変数	出現値	問 28 対面授業と比べ、遠隔授業を受講する際、配布資料を受け取りやすい						合計
		とても思う	やや思う	変わらない	あまり思わない	全く思わない	わからない	
所属	国際学類	26	28	24	51	28	4	161
	スポーツ健康学科	10	3	5	9	9	1	37
	看護学科	4	4	4	5	9	0	26
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留学生等)	0	1	0	0	0	0	1
	合計		40	36	33	65	46	5

問 29 対面授業と比べ、遠隔授業を受講する際、課題の提示や指示がわかりやすい。

2 回目実態調査結果 (新規質問項目)

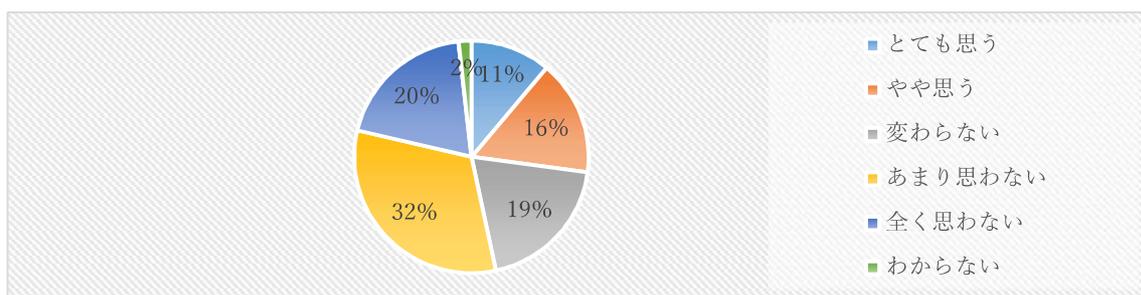


変数	出現値	問 29 対面授業と比べ、遠隔授業を受講する際、課題の提示や指示がわかりやすい。						合計
		とても思う	やや思う	変わらない	あまり思わない	全く思わない	わからない	
学年	1 年	17	16	19	17	6	2	77
	2 年	15	15	13	21	8	0	72
	3 年	10	11	19	15	5	0	60
	4 年	4	3	3	3	2	0	15
	看護学研究科 1 年次	0	0	1	0	0	0	1
合計		46	45	55	56	21	2	225

変数	出現値	問 29 対面授業と比べ、遠隔授業を受講する際、課題の提示や指示がわかりやすい。						合計
		とても思う	やや思う	変わらない	あまり思わない	全く思わない	わからない	
所属	国際学類	34	28	38	42	17	2	161
	スポーツ健康学科	8	10	10	5	4	0	37
	看護学科	4	7	6	9	0	0	26
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留学生等)	0	0	1	0	0	0	1
	合計		46	45	55	56	21	2

問 30 対面授業と比べ、遠隔授業を受講する際、教員とのコミュニケーションがスムーズにできる。

2 回目実態調査結果（新規質問項目）

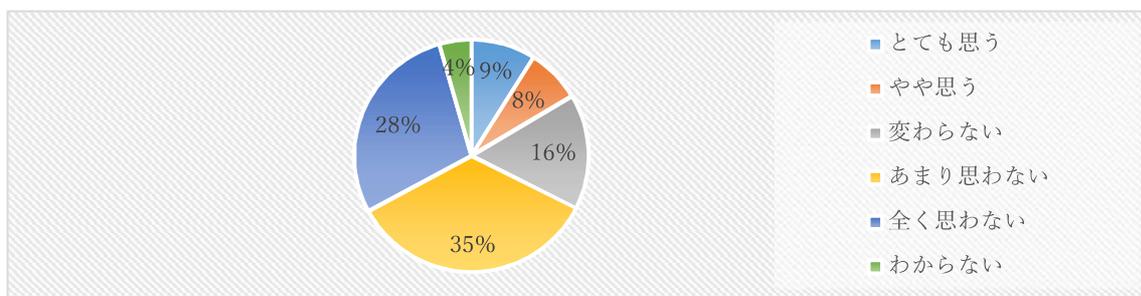


変数	出現値	問 30 対面授業と比べ、遠隔授業を受講する際、教員とのコミュニケーションがスムーズにできる						合計
		とても思う	やや思う	変わらない	あまり思わない	全く思わない	わからない	
学年	1 年	11	14	12	25	12	3	77
	2 年	8	12	16	23	13	0	72
	3 年	6	9	10	18	16	1	60
	4 年	0	1	6	5	3	0	15
	看護学研究科 1 年次	0	0	0	1	0	0	1
合計		25	36	44	72	44	4	225

変数	出現値	問 30 対面授業と比べ、遠隔授業を受講する際、教員とのコミュニケーションがスムーズにできる						合計
		とても思う	やや思う	変わらない	あまり思わない	全く思わない	わからない	
所属	国際学類	16	27	34	49	31	4	161
	スポーツ健康学科	8	7	8	7	7	0	37
	看護学科	1	2	2	15	6	0	26
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留学生等)	0	0	0	1	0	0	1
	合計		25	36	44	72	44	4

問 31 対面授業と比べ、遠隔授業を受講する際、学生同士でグループワークや議論がスムーズにできる。

2 回目実態調査結果（新規質問項目）

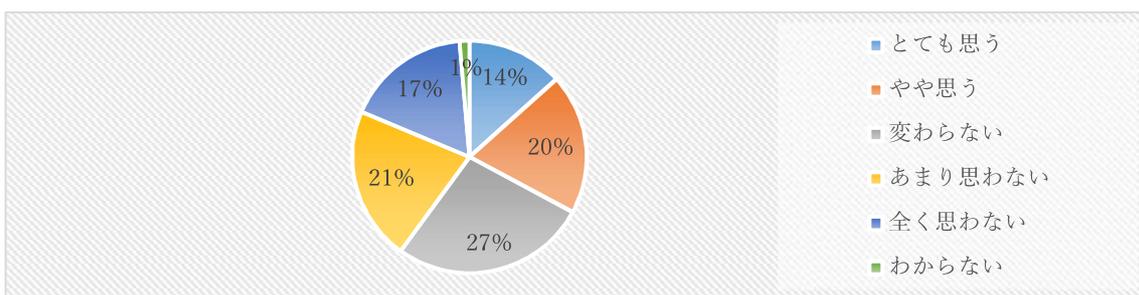


変数	出現値	問 31 対面授業と比べ、遠隔授業を受講する際、学生同士でグループワークや議論がスムーズにできる						合計
		とても思う	やや思う	変わらない	あまり思わない	全く思わない	わからない	
学年	1 年	11	8	15	27	14	2	77
	2 年	5	6	16	24	18	3	72
	3 年	3	2	3	22	26	4	60
	4 年	1	1	2	4	6	1	15
	看護学研究科 1 年次	0	0	0	1	0	0	1
合計		20	17	36	78	64	10	225

変数	出現値	問 31 対面授業と比べ、遠隔授業を受講する際、学生同士でグループワークや議論がスムーズにできる						合計
		とても思う	やや思う	変わらない	あまり思わない	全く思わない	わからない	
所属	国際学類	14	15	25	51	47	9	161
	スポーツ健康学科	5	1	9	12	9	1	37
	看護学科	1	1	2	14	8	0	26
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留学生等)	0	0	0	1	0	0	1
	合計		20	17	36	78	64	10

問 32 対面授業と比べ、遠隔授業を受講する際、授業での発言や教員への質問がしやすい。

2 回目実態調査結果（新規質問項目）

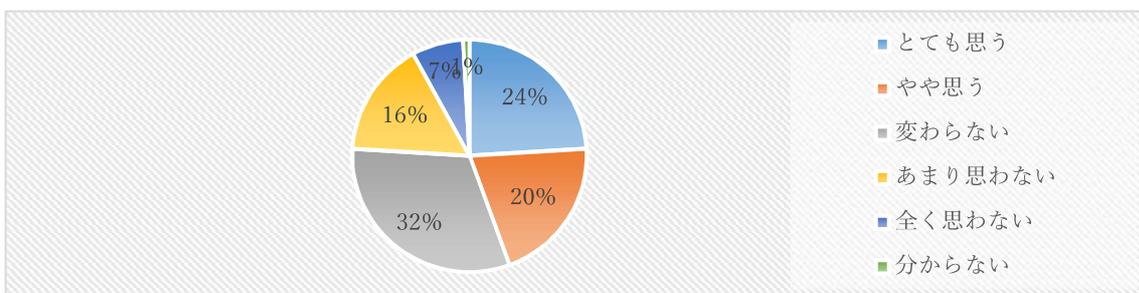


変数	出現値	問 32 対面授業と比べ、遠隔授業を受講する際、授業での発言や教員への質問がしやすい						合計
		ととも思う	やや思う	変わらない	あまり思わない	全く思わない	わからない	
学年	1 年	9	17	19	17	13	2	77
	2 年	15	11	22	14	10	0	72
	3 年	6	14	13	15	12	0	60
	4 年	0	1	7	2	4	1	15
看護学研究科 1 年次	0	1	0	0	0	0	1	
合計		30	44	61	48	39	3	225

変数	出現値	問 32 対面授業と比べ、遠隔授業を受講する際、授業での発言や教員への質問がしやすい						合計
		ととも思う	やや思う	変わらない	あまり思わない	全く思わない	わからない	
所属	国際学類	23	33	41	35	28	1	161
	スポーツ健康学科	6	9	9	4	8	1	37
	看護学科	1	1	11	9	3	1	26
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留学生等)	0	1	0	0	0	0	1
合計		30	44	61	48	39	3	225

問 33 対面授業と比べ、遠隔授業を受講する際、課題を適切に提出できる。

2 回目実態調査結果（新規質問項目）

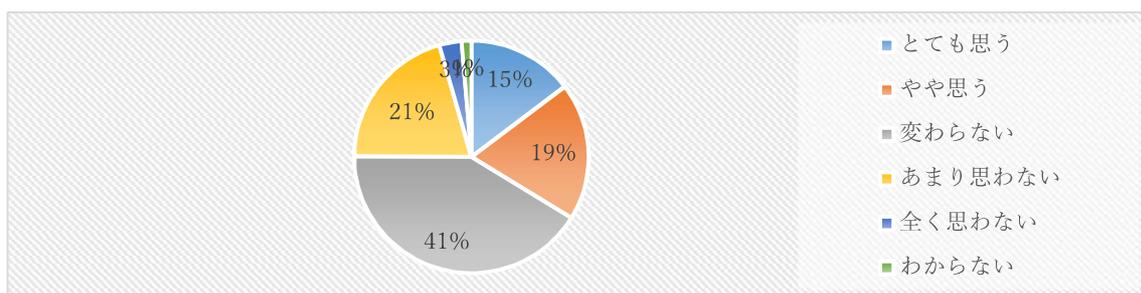


変数	出現値	問 33 対面授業と比べ、遠隔授業を受講する際、課題を適切に提出できる						合計
		ととも思う	やや思う	変わらない	あまり思わない	全く思わない	分からない	
学年	1 年	22	13	25	11	4	2	77
	2 年	16	16	21	12	7	0	72
	3 年	11	14	20	12	3	0	60
	4 年	5	2	5	1	2	0	15
看護学研究科 1 年次	0	1	0	0	0	0	1	
合計		54	46	71	36	16	2	225

変数	出現値	問 33 対面授業と比べ、遠隔授業を受講する際、課題を適切に提出できる						合計
		ととも思う	やや思う	変わらない	あまり思わない	全く思わない	分からない	
所属	国際学類	39	30	49	29	13	1	161
	スポーツ健康学科	8	7	14	6	2	0	37
	看護学科	7	8	8	1	1	1	26
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留学生等)	0	1	0	0	0	0	1
合計		54	46	71	36	16	2	225

問 34 対面授業と比べ、遠隔授業を受講する際、授業をおおむね理解できる。

2 回目実態調査結果（新規質問項目）

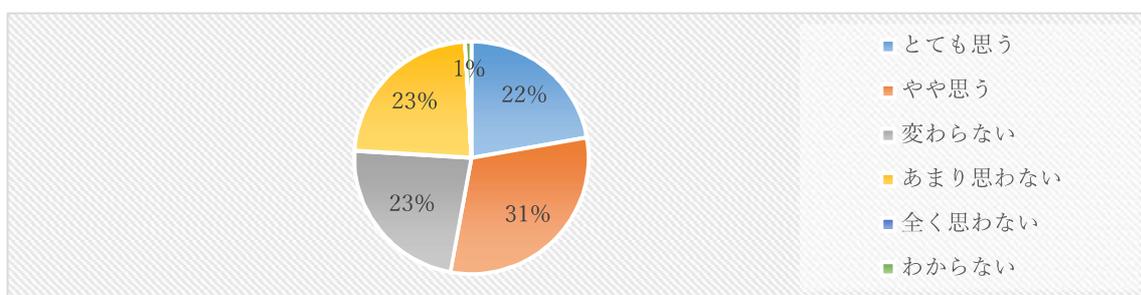


変数	出現値	問 34 対面授業と比べ、遠隔授業を受講する際、授業内容をおおむね理解できる						合計
		とても思う	やや思う	変わらない	あまり思わない	全く思わない	わからない	
学年	1 年	13	11	34	15	1	3	77
	2 年	12	17	26	13	4	0	72
	3 年	5	10	28	16	1	0	60
	4 年	3	5	4	2	1	0	15
看護学研究科 1 年次	0	0	1	0	0	0	1	
合計		33	43	93	46	7	3	225

変数	出現値	問 34 対面授業と比べ、遠隔授業を受講する際、授業内容をおおむね理解できる						合計
		とても思う	やや思う	変わらない	あまり思わない	全く思わない	わからない	
所属	国際学類	22	32	63	37	4	3	161
	スポーツ健康学科	8	6	17	3	3	0	37
	看護学科	3	5	12	6	0	0	26
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留学生等)	0	0	1	0	0	0	1
合計		33	43	93	46	7	3	225

問 35 対面授業と比べ、遠隔授業を受講する際、大きな問題なく授業を受講できている。

2 回目実態調査結果（新規質問項目）



変数	出現値	問 35 対面授業と比べ、遠隔授業を受講する際、大きな問題なく授業を受講できている						合計
		とても思う	やや思う	変わらない	あまり思わない	全く思わない	わからない	
学年	1 年	20	22	17	17	0	1	77
	2 年	17	25	14	16	0	0	72
	3 年	9	19	17	14	0	1	60
	4 年	4	3	4	4	0	0	15
看護学研究科 1 年次	0	0	0	1	0	0	1	
合計		50	69	52	52	0	2	225

変数	出現値	問 35 対面授業と比べ、遠隔授業を受講する際、大きな問題なく授業を受講できている						合計
		とても思う	やや思う	変わらない	あまり思わない	全く思わない	わからない	
所属	国際学類	33	51	36	39	0	2	161
	スポーツ健康学科	11	8	9	9	0	0	37
	看護学科	6	10	7	3	0	0	26
	その他(特別聴講生、科目履修生、交換留学生等)	0	0	0	1	0	0	1
合計		50	69	52	52	0	2	225

問 36 あなたが希望する今後の授業のあり方について以下の選択肢から一番当てはまるものを教えてください。

2 回目実態調査結果（新規質問項目）



変数	出現値	問 36 あなたが希望する今後の授業のあり方について以下の選択肢から一番当てはまるものを教えてください。				合計
		対面授業を主とし、遠隔授業も取り入れる（混成授業）	遠隔授業のみ	対面授業のみ	わからない	
学年	1 年	51	20	3	3	77
	2 年	38	26	6	2	72
	3 年	41	11	5	3	60
	4 年	10	5	0	0	15
	看護学研究科 1 年次	1	0	0	0	1
合計		141	62	14	8	225

変数	出現値	問 36 あなたが希望する今後の授業のあり方について以下の選択肢から一番当てはまるものを教えてください。				合計
		対面授業を主とし、遠隔授業も取り入れる（混成授業）	遠隔授業のみ	対面授業のみ	わからない	
所属	国際学類	98	47	11	5	161
	スポーツ健康学科	19	14	2	2	37
	看護学科	23	1	1	1	26
	その他（特別聴講生、科目履修生、交換留学生等）	1	0	0	0	1
	合計		141	62	14	8

問 37 遠隔授業について、大学への要望をお聞かせください。

別紙：コメント参照

別紙コメント：

2. 学生対象実態調査報告

令和2年度混成型授業の受講に関する実態調査結果

(第2回：12月実施分)

及び

令和2年度遠隔授業の受講に関する実態調査結果

(第1回：5月実施分)

問10 前学期と比較して、後学期は学習環境をどのように改善しましたか？

2回目実態調査結果（新規質問項目）

1. ネット環境を改善した
2. Wi-Fi環境が不安定だったため、改善した。
3. 遠隔授業用にWiFiを買い換えた
4. WiFiの回線を直した
5. パソコンの購入 その他備品
6. GBすうをふやした
7. プリンターを購入した
8. 携帯のギガ数を増やした
9. ケータイのギガ数を多くした
10. 学校内でも、サクラウムのカフェはWi-Fiの繋がりが悪いので避けるようにしている。
11. 後学期から実習のため、遠隔講義はほとんど受けておりませんので、環境は変わっていません。
12. イヤフォンの購入
13. オンライン形式になれた
14. 携帯の通信量の制限をなくした
15. 勉強机と椅子を購入した
16. ネット環境を改善した
17. パソコンを買い直した
18. パソコンを新しく購入した
19. 机を新調した。
20. 専門演習のみの受講のため、大きな差異は感じられなかった。
21. プリンターを購入した
22. 大学に行った
23. 前期は家の回線の契約をしていなかったためモバイルWi-Fiで受けていたが光回線を契約した。
24. ハウリング防止のためイヤホンを購入した。
25. パソコンで授業を受けながらスマートフォンで回答するなど、2台同時の使用
26. 通信量を増やした。
27. 遠隔授業のためにパソコンを買い換えた
28. プリンターを揃えた
29. ネット環境を作った
30. Wi-Fiの契約をした
31. 遠隔と対面をスケジュールに合わせて柔軟に使った
32. 勉強机と椅子を買った
33. 後期は対面の授業が増えたので、名桜大学に来て、受講していました。お金がないので、
34. 一人暮らしの家にWiFiをつけられないし、新しい周辺機器を買うこともできないので、オンラインは不便です。
35. iPadを買った
36. 机と椅子を購入して家でも受けられる環境を作った。コピー機をおさがりでもらった。
37. 大学内はネットワーク環境が悪いので、ほぼ自宅マンションで受講することにした。ワイヤレスイヤホンを購入した。
38. 人数が多い授業だけオンラインで受けた。
39. パソコンを購入した。
40. プリンターを購入した。
41. PCだけでなく、携帯にも遠隔授業を受けるためのアプリを入れた
42. カフェは繋がりにくいため6階を利用した。
43. USBなど講義関連データ保存媒体の準備
44. Wi-Fiを無制限で使えるように契約しました
45. 以前使っていたノートパソコンより、起動の早いものを購入した
46. レジュメを印刷しなくてもいいように、iPadを購入し、それで学習を進められるようにした。
47. 遠隔授業だと集中しにくいので、学校へ行ってサクラウムなどで受けるようにしました。
48. 対面の授業がある場合はできるだけ出席するように心がけた。
49. パソコン用の机と椅子を購入し、受講しやすくした
50. Wi-Fi設営
51. 授業のために、ギガを残すようにした。
52. ネット環境が良い場所を探して費用をかけずに改善できるよう努力している
53. wifiではなく、GBを使うことが増えた。
54. 対面授業が開講されている授業はすべて対面で受講しました。
55. ネット環境が良く、集中できる場所を探した。

56. 自身の通信環境は良くはないので、できるだけ学校での受講へ切り替えました。
57. 大学の図書館を利用した。
58. プリンタを購入した、映っても支障のない配置を決めた、メモ用紙をパソコン脇に常備した
59. 無駄にプリントアウトしないなどしてデジタル化した。
60. 教授が課題を遠隔化にうまく応用しだした。
61. 集中できない時は学校で受けるようにした。自分側の音声（雑音等）が入らないようにする。
62. wi-fi 環境がある学内で勉強をした。
63. ネット環境の良い場所で講義を受ける
64. 後期は Wi-Fi 環境を整えた
65. 通信環境を良くした
66. 出来るだけ、対面講義を受けるようにした。
67. カメラが付きノートパソコン機材を購入した。
68. 対面の方が集中できるためできるだけ対面で受けている。
69. 遠隔授業で使用するアプリのダウンロード
70. ネット環境を整えるために、不要な接続を省いた
71. ネット回線の接続が悪いことがある為、対面で受けられる講義は対面で受けるようにした。
72. 遠隔授業受講用に機材を購入した。
73. 大家さんが光回線をより良いものに変えてくれた。
74. pc を買った
75. マイク付きイヤホンを購入した。
76. おうちのネット環境を整えた。
77. ヘッドセットの使用、受講場所
78. オンライン授業を見逃さないように通知を付けるなどした。
79. シェアハウスなのでネット環境を整えた。
80. 遠隔授業用に機材を購入した
81. Wi-Fi が入りやすいように部屋での学習場所を変えた。
82. マイク付きのイヤホンを購入した
83. ネット環境を改善した。
84. パソコン購入、携帯のデザリングプラン購入
85. プリントを印刷する必要があったのでプリンターを購入し、遠隔授業のために iPad も購入しました。
86. Wi-Fi も増強しました。
87. 家の Wi-Fi が不安定のため、モバイルデータ通信を利用するようにした。
88. ネット環境は前期のときからそろっていたので変わりはなかった。
89. ネット環境を改善しました。自宅に Wi-Fi を起きました。
90. 1 人暮らしの家だと Wi-Fi 環境が良くないので、実家に帰って Wi-Fi 環境のいい場所で受けた。
91. 対面を積極的に選ぶようになった。
92. 遠隔授業用に PC を購入した。
93. スマホとパソコン両方で対応できるようにアプリを入れた。
94. パソコンを購入した。
95. 遠隔授業が増えるに当たり、学習意欲が減退している。
96. ポケット Wi-Fi を購入した。
97. Wi-Fi の繋がりにくい部屋では受講せず、ばっちり繋がりのいい部屋に移動した
98. 遠隔授業受光用に机・椅子等の環境を整えるような購入を行った。
99. 対面で講義を受けないが、学校に来てサクラウムを利用するようにした。
100. 実家の回線を繋いだ
101. バッファロー (WiFi) を家に導入した。
102. パソコンが重かったので買い換えた
103. 特になし及び改善していない 計 124 件

問 14 名桜大学が貸し出しているPCに関して、不便に感じることはありましたか？具体的に教えてください。  
2回目実態調査結果（新規質問項目）

1. 特になし 107件
2. 利用なし、利用したことが無い等 91件
3. わからない 9件
4. MacBookが旧機種であり、新機種の充電器の補填ができないこと
5. Windowsが重くて持ち運びが大変
6. オンライン授業はまだ行われているのに、サクラウムなどに置かれていたパソコンがなくなり困った。メディアネットワークセンターでpcを借りられない時があった。
7. 数が限られる
8. 手続きが面倒そう
9. めんどくさい
10. とても便利に感じています。アルコールティッシュが置かれているのも良いです。
11. サクラウム一階に設置されていたPCを使用しましたが、台数と周囲環境がきになりました。
12. 長期貸出のためには担当教員までサインをもらいに行かないといけないこと
13. パソコン席に座りスマホをいじったりおしゃべりする人がいて、パソコンが使えないことがあった。
14. サクラウムだと他の学生の視線が気になる。
15. 1度だけ借りたことがあるりますが、15インチで厚さも太いために持ち運びしづらい点と、何度かフリーズする点が少し不便だなと感じました。
16. PCを貸し出していることをはじめて知りました。
17. 授業での指定のアプリなどが使用できなかったこと
18. 当日返却しないとイケないし、長時間貸出の場合担当先生のサインも必要で、オンライン授業に必要なソフトもインストールしていないのがあります。ちょっと不便と思います。
19. フリーズすることが多い。
20. 大学外での利用が不可な点。
21. 期間をもう少し長期化してくれると助かります。
22. 最終返却時間が少し早いと感じている
23. NumLockキーの位置のせいで誤タイプが多いです
24. 起動に時間を要することがあった。
25. 貸し出しに時間がかかる。
26. 貸し出している事実を知らなかった

問 25 遠隔授業を受講したときの【通信以外の問題点】を教えてください。

2 回目実態調査結果

1.	先生によっては、遠隔授業の人に聞こえているか確認をとらないで話を進めているときがある。
2.	対面授業の方が質問等がしやすい。遠隔授業だと、先生の言っていることと、自分の認識のズレを確認しづらい。
3.	発言したりする講義だと、人がいるところではやりにくい。
4.	画面共有がされていないことがあった。
5.	ディスカッションや質問をする時間は顔を出さないで、話しにくい
6.	マイクの問題などで先生の声が聞き取りにくい。
7.	講義者がチャットをあまり確認しない。
8.	遠隔授業の課題提出で、課題が登録できなくて困りました(他の方法で提出しました)
9.	対面とオンラインのどちらでも受講可能な講義では、担当講師がオンラインで参加している学生の存在を忘れるために、配慮が足りないと感じることもある。例えば、配信側の音声ミュートになったまま講義が進んだり、画面が共有されていなかったりなど、不具合が起きてから対応するまでの時間が長い。加えて、カメラの前から離れて話をされると、講義の内容が全く聞こえなくなるなどの問題がある。
10.	ツールを使い過ぎてどこに何があるかわからない
11.	出席があいまい
12.	teams の画質が悪い
13.	自分の問題ですが、集中できないことが多いです。
14.	課題の提出先が授業によって異なるので毎回、把握するのが大変、提出漏れも不安になることが多い。
15.	集中できない
16.	他の講義からのメールが増えた
17.	特に〇〇〇〇（科目名）などで、先生と行うときにネットトラブルがあっても説明に時間がかかることがありました。
18.	遠隔でのグループ課題は空気を読んで発言するため（同時に会話できない）、難しかった。
19.	先生方が仕組みを理解していない、使いこなせていない / zoom での授業の際、入室が許可制であるため、先生が気づかず入室、受講できないことが多々ある。
20.	モチベーションの継続が難しい。また、対面じゃないと質問がしにくい
21.	複数の人がマイクをオンにすると、通信が悪くなり、先生の声が聞こえなくなるときがある。
22.	グループワークが進まない。発言しにくい。
23.	講師によっては、受けてる側の進行に気づかず、先にスライドを進めている。
24.	スライド以外で説明しているとき、その様子まで映してほしいです。
25.	スマホで受講しているときに、画面が消えてしまうことがある。
26.	講義によって講義の質にばらつきが非常にあった。課題の出し方などトラブルが多く、先生とのやりとりに困った。対面にするか遠隔にするか連絡が微妙なときがあり困った。
27.	教員によって受講ツールが異なるのと、情報共有の方法などが若干違っているため、課題や遠隔でのテストなど、出題されているのに気づくことが遅れる場合があった。universal passport が今期に入って扱いにくくなった。
28.	先生の位置によって、講義内容が聞こえないことがある。
29.	グループでの会話がしづらい
30.	人と交わらない、気分が落ち込みやすい、運動量低下、テスト受験時の教員の学生への不信度の高さを感じる
31.	課題表示が分かりにくい授業がある（先生による）
32.	ミュートが外れたときにうるさいことがある。
33.	教員の中には学生が課題や授業、試験等を取り組みやすいようにしてくれない人もいる。誰どう考えても時間内に終えることのできない Google フォームでの試験のレイアウトだったり、何度もオンラインでの授業を行っているのに教員側のデバイスのミスで毎回時間通り始まらなかったりと酷かった。
34.	資料を各自で印刷しなければならないこと
35.	音声聞き取りにくい時が多々あります。
36.	ただ遠隔で繋げとけばいいと考えている先生がいるような気がする。黒板が写らないような場所にカメラを置いたり、遠隔で受講している人を配慮していないように思えた。
37.	コロナに感染すると死ぬ可能性もある家族が私にはいるため〇〇〇〇（科目名）を遠隔で参加した際に、担当教員の方に本当に体調の悪いものだけがリモート授業を受けろ、証明書を提出しろと一回目の授業で言われ、その後もリモート授業の生徒が先生の声が聞こえませんかなどのコメントをすると、うるさいからコメントをするなど酷い対応が数見られ遠隔授業の参加は諦めました。教員の遠隔授業参加者への対応に問題があると思います。
38.	学生用アカウントでログインしているが、それが反映されず時間内に課題を出すことができないことがあった
39.	PC に弱い人などは入り方すらわかっていない。
40.	108 教室はいくらやっても pc の作動に問題があるのに、遠隔授業を配信している教授が画面共有されないのは生徒の通信環境の問題と言い張ること

41. 学生のマイクがオンとなり雑音が入って先生の話が聞こえなくなること。
42. 対面より遠隔で受けている人数が多いにもかかわらず、マイクから離れたり、板書を行っていた時がある。
43. ミュート解除を常時求められる授業があり、うるさくて集中できなかった。先生も考えて授業をしてほしいと感じた。
44. 配布資料や課題表示が遅い。
45. スライド共有ができていない・ミュートのままの時がある。またその際にコメントで指摘してもしばらくの間先生に気が付いてもらえず授業内容が分からなかった時があった。
46. 家にコピー機がないため、講義資料の提示が遅いと授業に間に合わないことがあった。
47. Hybrid の授業がよくあることなのですが、先生が目の前の生徒に集中していたから、オンライン授業を受けている学生が先生を読んでも先生が気づいていない
48. 遠隔での発表の際に、資料を共有したりするときに難しい。また、パソコンを持っているのが当たり前と思われているため、スマートフォンではできない操作を言われるとき。
49. 教員がパソコンから遠くなったら音声反響するのかなんと言っているのかわかりにくくなる
50. 授業中、トイレへ行っているときに、ログインしてサボっているように見えてしまい、教員からの印象が悪くなる。
51. 先生によって使うソフトが違うので、課題などを確認するのがちょっと不便です。自分が今まで Googleclass、zoom、teams、tracks、universalpassport、YouTube。全部使っています。
52. 共有忘れやマイクの切り替え
53. いざ返事をしようとした時に画面にボタンが表示されず欠席扱いになる所だった。
54. 配布資料をプリントしなければ得られない
55. オンラインの方が課題や提出物が多く、ほかの講義に支障が出ている。
56. 教員の IT リテラシーが低いことに起因する機材トラブル
57. 紙やインク代がものすごくかかってしまう。
58. 先生の使用するマイクからの雑音がひどく、声が聞き取りづらい講義がある。(手持ちなどのマイクではなく、服に付けるタイプ?のマイクの場合)。改善を求めたが、それは仕方ない、などのことで、全く改善されない。
59. 自宅で遠隔授業を受講する際に、音声通話やビデオ通話を求められると、自分のプライバシーが参加者全員に漏れること。
60. 使うアプリを統一して欲しい
61. つまらない
62. 自宅で受講する際に緊張感がまったくなくなってしまう。
63. 板書が見づらい。板書が画角に収まっていない。出欠がきちんと取られているのかわからない。
64. 対面で受けられる授業と遠隔のみの授業が前後する時の、受講場所の確保、または移動時間の調整が難しい。
65. 遠隔授業をするまでは出欠をその場で確認していたけれど、コメントシート提出という形になって出席したのに欠席になってしまうことが多々あった。音声を発しないといけない遠隔授業があったため、対面の授業の間に家に帰ってオンラインで授業を受けるのがとても大変だった。図書室で利用できる場所があると聞いたが、わからなかった。
66. 課題の提示や提出の通知が十分でなく、授業中の提示だけだと通信状況によっては聞き取れなかったときもあった
67. 各講義の課題の確認場所がバラバラで確認に一苦労。
68. 声が聞こえづらい
69. 出席になっているかわからない
70. 対面と遠隔ではコミュニケーションが取れないためグループ活動がやりづらい
71. グループワークしづらい
72. 先生によって授業のクオリティの差が大きい。対面ならプリントをもらえるが、遠隔だとプリントを自分で印刷しないといけないため不都合です。
73. 使い方があまりわからなかった
74. 対面授業の後にオンライン授業の際は帰る時間がないので、学校で受けると、みんなが同じ場所でうけると、音が混ざったりする。
75. ユニバーサルパスポートのテスト機能が、記述問題を打ち込む際に不便さを感じた。また、問題数が多いと、それぞれの問いをクリックする操作が不便だった。
76. 授業の理解が少し難しくなった。
77. 先生方によって方法が異なるので混乱することが有る
78. 画面共有がされていないとき、教員側が音声を切ったり、チャットがみられない状態だと、伝えることができない
79. 講義によって使うツールが違うのでややこしい。
80. 授業資料を印刷することが大変。お金がかかる。
81. 自分自身の問題ですが、怠けてしまいます。
82. 講師の声が届かない
83. 遠隔で授業を受ける場合、教授に理由を提出しないと授業を受けられないこと。

84. 板書が見えない、内容が対面のほうがわかりやすい
85. まわりに家族などがいると気になる。
86. 遠隔でのテストなどを実施した際に平等性に欠けると感じた。
87. 意思疎通が難しい
88. 教授によってはあまり、遠隔授業を快く思っていない方もいらっしゃる、遠隔授業希望者の有無に関係無く、実施して下さらない場合がある。また、遠隔受講者への対応（板書などが見えるようにカメラの配置への配慮、マイクを用いて遠隔受講者にも聞こえるように授業をするなどといった配慮）が成されていないこともある。私個人も困ったことがあった。それは体調不良時に遠隔授業を希望していた際にカメラで顔を写すように求められ、（顔を写さなければ欠席扱い）先生、他多くの学生の前で体調不良の状態にカメラに晒されるということがあり、かなり精神的苦痛があった。また、状況によってはマイク、カメラが使えないこともあるが、その旨をチャットで伝えても、即刻マイク、カメラで反応できなかったということで欠席扱いにするとされたこともあり、その際もかなり焦り、困った。接続状況、マイク、カメラの不調などさまざまな状況もあり得るので、教授にはその点も踏まえ、対応していただきたい。また、遠隔授業となると、課題が倍に増え、その課題に取り組む時間は授業時間外となるが、課題提出期間がかなり短く設定されることがあり、授業時間外の取り組みが多くなり、かなり困る。課題が評価点以上に労力を要するように感じる授業もある。遠隔テストの際には接続が集中したせいなのか接続不良になったことやテスト開始時間が30分以上遅れたこと、遠隔テストの解答欄があらかじめ作られておらず、解答欄を学生自ら作り、打ち込むという大きな手間がかかったことなどからテストを全問解き終わることはできず、全然集中して問題に取り組むことができなかった。それにも関わらず、それらの点を考慮して頂けず、過去最悪の成績を取り、悔しい思いをした。
89. 共有がされないことがあったりした
90. 特になし 135件

問 25 遠隔授業を受講したときの【通信以外の問題点】を教えてください。

1回目実態調査結果

1. Google meet の課題の提出などが難しい。
2. 遠隔講義にて使用するアプリ等が、バラバラだったため、全てのアプリの操作を一度に覚えなくてはいけない状況になり、大変だった。
3. 授業に必要な資料を自分たちで印刷しなければいけない。
4. パソコンの操作がままならない
5. コピー機が自宅にないため、コンビニでコピーするとお金が結構かかる。
6. 小さい画面であるため資料が見えにくい
7. グループ活動の時全員が顔をだして話し合えない
8. 操作に不慣れで時間がかかったり、先生とうまくコミュニケーションが取れないときがあったりした。また授業の内容が分かりにくかったりした。
9. 先生とのコミュニケーションが取りづらい
10. パソコンに慣れていなくて操作が難しい所がある
11. パソコンの操作が不慣れ
12. 授業で使うアプリを出来る限り統一してほしい
13. 音が聞き取れないところがあった。
14. 複数のタブを開こうとすると使うアプリによって通信が切断されてしまうことがある。先生の指示通りに自分が出来ているのか非常に不安になる。
15. 課題が送られてこない
16. Zoom は今授業をしているのかという状況が分からないから、アプリに入りづらい
17. 連絡がギリギリなものが多い。
18. ミュート解除しているのに、先生に自分の声が聞こえて無く、出席できているかわからない
19. 各先生方がそれぞれのスタイルで行っているため課題の掲示場所や提出方法、授業方法などがバラバラで把握が難しい
20. 携帯の画面のため、パワーポイントや、名前などが見えにくい。
21. 授業を行っている先生方の操作が不慣れでスムーズな授業が行われていない。
22. 回線の状況等で動画が途切れたりすることがあるので、YouTube などに残してほしい
23. 英語のリスニングで音がこもり聞きづらい
24. 通信費用がかかる事と速度制限になる事
25. teams 以外分からない
26. パソコン操作が苦手であるため、落ち着いて授業に臨めない。wi-fi 環境ではあるが、ネットワークの調子が悪く、画面のフリーズ、授業が途切れることにより、出席にも悪影響を及ぼすこともある。
27. 操作方法に慣れてない
28. カメラをオンにすると回線落ちしてしまう。
29. 科目によって使うアプリが違うので難しい。
30. オンライン課題の出し方が分からず、少し戸惑った。
31. コミュニケーションがとりづらい
32. パソコンの画面を見ながら、ノートをとるのが大変
33. 科目によって媒体がバラバラなのでわかりにくい

34. googleclassroom は単純で課題の提出なども mac や microsoft など関係なく簡単に使いこなせるが、それ以外はダウンロードとアップロードが必要だったりと不便尚且つ難しい。
35. まだ明細がきていないからわからないけど、通信費用が普段よりかかるか心配
36. それぞれの科目で課題提出場所も違うため、パソコンの操作の不慣れもあって課題の提出がうまくいかないことがある。
37. 授業方式や課題提出の仕方が科目によってバラバラすぎて少しやりづらい。
38. 操作が不慣れなのと、課題や内容がわかりづらい
39. 使い方がわからない機器があったり、授業によって方法が異なるのは仕方無いことだが統一して操作方法などの情報を流してくれるとありがたいと思った。
40. 課題が色々な場所から出るので分かりにくい
41. 課題などの提出後レスポンスがなかったり遅かったりするため不具合が起きて提出できていないか不安になる
42. 担当の先生が資料をアップする時間がバラバラで、いつ資料がアップされるのかわからず、ずっとパソコンの前で待機していなければならなかったこと 先生によって使うアプリケーションが違い操作が不安
43. teams、zoom、universal passport など利用するサイトが多いため、授業毎でサイトが変わるため課題提出わかりづらく、正直1つにまとめて欲しい
44. 教授に質問をしづらい
45. Microsoft Teams が少し使いづらいと感じました。
46. ホワイトボードが見えにくい。操作が合っているか不安になる。先生に直接確認が取れない。
47. 授業で使う資料やパワーポイントなども PDF として授業開始前に Universal Passport にアップしてほしい
48. パワーポイントがうつっていない。
49. どの授業がどのアプリを使うのかごちゃごちゃになってやりにくかった。また、前日にしか連絡が来ない授業もあり、不安が続いた。
50. たくさんのアプリを使いすぎて、操作が混乱する。
51. 以前よりも電気代がかかっている。講義によって資料や連絡を統一して欲しい(UniversalPassport,google Classroom,teams などそれぞれで分かりづらい)。
52. 教授ごとに使うツールが違うため、課題管理が面倒
53. 通信費用が心配
54. マイクについて。発言者以外はマイクをミュートにして欲しい。
55. 授業資料を自分で印刷する必要があるため、インクや紙の費用がかかる。
56. 対面ではないために授業の進行が少し遅れるように感じる。
57. パソコンの操作に不慣れである
58. ホワイトボードの字が見えにくいです。
59. どの授業がどのアプリを使うのかごちゃごちゃになってやりにくかった。また、前日にしか連絡が来ない授業もあり、不安が続いた。
60. 課題がやや多い
61. いつも以上にデータを使うため、通信が遅くなった。授業によって使用するアプリや方法が違って、不慣れなこともあり少し混乱する。
62. 操作が不慣れ
63. 操作が不慣れで時間がかかる
64. パワポが固まったりすることがよくある。
65. 通信費の心配はありますが、特に気にしていません
66. Teams は複雑で難しいと思った
67. 通信が遅くなる
68. コンビニでの資料の印刷代が地味に高い
69. teams で、課題がでた際に、課題の表示があるにも関わらず、チャットなどで課題がでると、うっかり忘れてしまったり、見逃してしまうことがあるので、課題は課題と書いてあるところに載せると分かりやすいなと感じました。
70. 顔出しが辛い
71. 自宅にプリンターがないため資料の印刷にお金がかかる。
72. 音のハウリング
73. ギガがたりない。ICT に慣れていない状態からいきなり授業が始まったため、不安がありながら受講した。
74. 課題が zip と表示され、ダウンロードできない。
75. マンションで一斉に Wi-Fi を使うと、通信が切れることがある。
76. 他の人とのグループワークが難しかった。会ったことの無い人と画面越しではじめましてをするのが少し嫌でした。
77. 特に問題はないです！！先生方もこちらを気にしながら授業しているのでとても助かります。
78. 音声をつけてふざけた声を出す人がいる。
79. グループ学習がやりにくい
80. 特にない。遠隔授業の方が良い。

81. パソコンを持っていないため課題提出の際には、大学へ行かなければならない点。資料のコピーの仕方が分からない点。
82. pc やネット環境の調子が悪いときは、zoom 等が通信不能になり、全く講義内容がわからない。
83. 自宅の Wi-Fi など兄弟もいるので、通信環境が悪くなるため、自己のスマホの通信を共有して安定させて授業していた。そのため、1ヶ月の通信量が自己の持っている 50GB ギリギリまでいきそう。また、遠隔授業で不慣れなため、授業が押して、休み時間がほぼなくなる。
84. 時間通りに始まらない講義が始まっているのか分からず、不安になる
85. パワーポイントを共有する時に画面が見えにくい。
86. 映像が乱れて資料が見にくい時がある
87. 画面を見続けると集中力がもたない
88. 充電の減りが早い
89. PC を持ってないので iPhone ではパワポが見えづらかった
90. Universal Passport では授業毎の情報が更新されても通知メールが届かないので、何度も確認していて、時間割によっては一日中パソコンと向かい合わなくてははいけないときもあったこと。Google などのの方がすぐに気付ける。
91. 操作が不慣れである。授業によって使うアプリが違うのでできれば統一していただきたいです。
92. 自分の気持ち次第ではあるが、対面授業より集中できない。
93. Googlemeet などのアプリの操作が不慣れである
94. 「Teams, Google meet, Zoom 等」の操作が不慣れである。
95. 課題資料の場所や課題の提出先が分かりにくい
96. 授業の説明が不十分な授業がある。
97. まだ、teams 等の使用が不慣れです！後、前までは teams 上で使えたマイクが使えなくなってよくわからなくて困っています。先生に呼ばれて答えようとしても声が届かなくて、先生にいないと思われ困りました！
98. zoom はやめてほしい。
99. 操作が不慣れである。
100. 画面がみにくい。先生の話が一方通行で、対面講義よりも集中できない。
101. 操作が慣れないこと
102. 画面共有にタイムラグが少しある。
103. 目が疲れる
104. やはりパソコンは操作がなれない
105. 家にプリンターがないため毎回コンビニまで行かなければならない
106. 目線にあった高さに置けなくて普段以上に肩が痛い気がする
107. 操作に慣れていない
108. 講義資料の印刷により、インクと紙の消費が多く、負担に感じる。
109. 伝達事項の理解がしづらく、見逃したり期限を過ぎたりしてしまうことがあったこと
110. 語学の発音の音が聞き取りにくく、当たってる発音なのか不安になる。
111. 画面が小さくて見えにくい
112. ユニバーサルパスポートから授業資料が上手くダウンロード出来なくて困った。
113. 初めての遠隔授業で操作が不慣れであった。
114. 各授業によって使うアプリが異なるため混乱する。
115. パワポだけで音声だけの授業が理解するのが難しい
116. 操作が不慣れなため、PC が苦手な人にとってはきつい。また、講義途中で通信等の不具合が生じた際の解決方法が分からず焦る。講義資料を印刷することが厳しい。枚数が多く経済的負担及び印刷しないく時間が取れない
117. 費用の面について
118. 通信費用がかかる。
119. 各講義ごとに違うソフトを使うため操作が不慣れである。
120. 資料が見にくい
121. 遠隔授業と対面授業が同時に導入されると、通学時間と講義時間が重なり時間調整が難しいこと。
122. スマートフォンで見ていたため、資料が見えづらい。
123. 授業スタイルがバラバラで、team を使うのか youtube を使うのか統一して欲しかった。
124. wifi がないものにとっては費用が倍かかる。
125. Tems の操作が不慣れである。
126. パソコンの操作が不慣れであること、分からなくても誰に聞いて良いか分からないことなど。
127. ちゃんと課題が送れているかが心配
128. 先生によって使うツールが違うので少し戸惑う。
129. 問題点は特にありません。
130. 映像の画質が悪い中でホワイトボードに文字を書かれたため、全く読み取れない講義があった。(書かれた内容は少しだったため授業自体は問題なかった)

131. TEAMS や ZOOM の扱いに慣れていないのと、ユニバーサルパスポートが一定の時間が経つとログアウトされ、もう一度ログインしたのち、授業資料をダウンロードしないといけないので、時間がかかる。また、パソコンの不調に自分で気付かないので、講義にちゃんと参加できないことがある。
132. 小さな画面であるため資料（パワポ等）が見えにくい。自宅で受講しているため、通信費用が普段よりかかる。
133. 授業によって、課題や連絡を提示する場所が違うので確認が大変、連絡場所を1つに統一して欲しかった。授業も課題もパソコンのため目や頭の疲れが溜まりやすい
134. 先生によって使うツールが違うので把握が大変
135. パソコンや携帯電話の充電が減る
136. 先生も実態を把握しきれていないことがある。また、授業資料の公開が遅い。
137. どの講義がどれであるか分からなくなるので、1つにアプリを絞るとやりやすいなと思いました。
138. オンライン授業中に動画を流されると見えない
139. Teams を使っている際、デバイスによって動画再生が上手くいかない場合がある。
140. zoom は講義に参加するために毎回パスワードを入れるので手間がかかる
141. 操作に慣れていないため間違えて顔出しをしてしまったので、そこが難しかったです。
142. サクラウムで受講できる環境があるのはいいが、周りで違う授業を受けている学生もいるため、発言しづらい。また、周りの学生が発言していたり、音声をスピーカーで流しっぱなしだと集中力が欠ける。
143. 今回遠隔授業で使用した全てのツールが、初めてだったため操作方法があまり分かっていない。
144. 小さな画面であるため資料が見えにくい
145. Teams や Google meet の使い方がよくわからない。
146. パソコンでないと見れないストリーミングや資料がある。(携帯では見れない)
147. Teams で画面共有された時に、画面がぼやけることがある。
148. 先生によって授業で使う app も違うし、情報の共用は GMAIL, LINE ,FACEBOOK,GOOGLECLASSROOM,MICROSOFTTEAMS,Universal Passport.全部使われていますので。情報の確認が大変難しいです。
149. 科目によって使用する受講ツールが異なるため、ひとつひとつ管理するのが大変かつ、ストレージの容量が膨れ上がります。
150. Google classroom での課題について、教授が学生に講義中直接お知らせすることなしに課題を出していて、直前まで気づかず危うく提出期限を守れないところだった。また、対面での講義と違って先生への質問はメールやメッセージ機能を使うので、先生はご多忙なのでやりとりで時間がかかってしまうことがある。
151. データ容量が非常に使うため、普段の携帯などの動きが遅い。
152. 授業ごとに使用するアプリが異なったため戸惑いました。
153. Universal passport などで課題を提出する方法がよく分からなくて、ちゃんと提出できているかが、不安である。
154. teams だと授業スピードが速くてもみんなに合わせないといけない。
155. ごくたまに、音声が聞こえなくなり授業が一時中断することがあったりする
156. 資料のダウンロードが必要なものが多くて、スマホの容量が心配になる。
157. 先生方の授業に対する連絡の統一性のなさ。PC 機器に関する不慣れさ。これで単位に不利益を被るのはやめてほしいと素直に感じた。Universal Passport を大学として使っているのであれば、課題の管理、授業の通知等はせめて統一すべきではないのか。また、授業に関する投稿の統一性のなさも、気になった。仕方がないことという気持ちも分かるが、初回の授業で、授業時間後に初めて連絡がある。先生の課題、連絡を出すタイミング、媒体、がわかるまで複数の媒体を数時間ごとに確認しなければならない。複数の媒体のため、見落とすこともある（特に Universal Passport に関しては授業に関する連絡の中に集約して欲しかった。）など複数の問題点があると思う。
158. Word などスマホでは難しい作業が多い。スマホで Universal Passport の掲示板の情報の見る方法を大学が教えてくれない。パソコンがないと授業を受けるのが困難。
159. teams に慣れていないため、不便を感じる。
160. Teams で通知が来ないこと。遠隔授業終わりすぐに課題を提出ではなく、時間差で提出されており、気付かなくて出席したのに欠席になった。
161. Teams などの操作が不慣れある。
162. 授業によって、通信授業の有無の伝達が分かりづらいものもあり、私に限らず周りの友達も混乱している事があった。
163. 通信費用がかかる
164. 操作が不慣れ
165. 操作が不慣れである。
166. パワポが見づらい。
167. ○○○○（科目名）が途切れ途切れだった。
168. 課題の提出の操作方法がわからない場合がある
169. 課題を出されたときにうまく開けないことが多々あって苦戦した。
170. 課題の提出の操作方法がわからない場合がある
171. 対面授業とは違うためまだ慣れない

172. スライドが途中で止まったり、音声が途切れたりしてスムーズに授業が進まないことがあった。また、自宅で受講しても集中力をキープすることが難しい。
173. ツールが授業によって違うことがあるので、少し大変かなと感じます。
174. 一度に複数のファイルを開けないこと。自分で作成した課題を見ながら授業スライドを見たりしたいが、画面が小さくなったり背面に隠れたりするので断念した。
175. 授業の連絡が遅い先生がいた
176. Zoom の使い方がわからなくて1度授業を受けられなかったことがありましたが、今は問題ありません。
177. 私の持っているモバイル Wi-Fi には7GB までと制限があるため、長時間使用するとすぐ使い切ってしまう。
178. 講義によって使っているものがバラバラなので、分かりづらい。
179. リアルタイム配信は音切れやフリーズが目立つ。これから迎える試験に大きく影響するので、生徒の理解度を優先するのならば、リアルタイムに拘らないでほしい。
180. カメラをオンにする授業もあるのですが、家庭の問題もあって難しいです。
181. たまに、音声が聞こえなくなり、講義が聞こえなくなります。
182. 各講義によって受講のツールが違うため最初は大変だった。また、講義内容が不十分になるかもしれず、テストが心配。
183. 先生ごとに teams で課題を出すのか他のサイトを使って課題を出すのかバラバラな為、まとめて貰えるとありがたいです。
184. 資料が見えにくい
185. 使うアプリや課題の提出方法が様々で分かりにくい
186. パソコンの操作に不慣れな部分がある
187. 一部先生が1人で喋っているような講義(対面じゃないから当たり前なのですが)がわかりずらかった。
188. ちゃんと出席確認されて居るか分からない。
189. なんとなくやりにくい。グループ活動の際、まだ一度も話したことのない人たちと画面越しは少しやりにくいし、全員が同時にしゃべると音が途切れてしまう。対面のほうが相手の表情なども良く読み取れるのもっと楽しくできると思います。
190. オンラインなので先生に質問しづらい。
191. ○○の授業でユーチューブを使用しているのだが、もはや動画ではなく、ただの静止画に説明しているようなものなので、すごくわかりにくい。もっと矢印などを活用したほうがいいと思う。
192. 操作が不慣れである
193. 事前に配布された資料を見ながら受講することが難しい
194. 資料が見えにくい。
195. 実家より受講しているため周りの声や雑音が気になる。画面がフリーズすると自分だけ置いていかれているのではないかと不安になる。
196. zoom 等の操作が不慣れである
197. 授業中に動画がフリーズしたときに、授業終わりに内容を確認できるようにパワーポイントなどを閲覧できるようにしてほしい。
198. パソコンの扱いに関して不慣れな点が多い
199. カメラに直接、資料やホワイトボードを見せられた時に、見えにくいことがある。
200. 操作の違いから講義の進行速度が様々である。
201. パソコンの使い方がわからないまま遠隔授業が始まったため、操作方法を理解するのが大変だった。また、スマホで受講する際にはたくさんのアプリを入れなければならず容量が気になった。
202. 通信費用が通常の何倍にもなる。
203. 音声が途切れる時があった
204. Youtube だと先に先生が録画してくれているので途切れることなく動画を見ることができる
205. パワーポイントが画面上で動かなくなったりすることがたまにある。
206. 通信費用が普段よりかかる。速度制限が来ないか不安になりながら受講している。
207. 学生も先生もどちらも不慣れさがあり、途中で止まったり、不具合で途中で終わる科目もありました。また、先生ごとに使うアプリなどが違うので次はどれを使うのかわからなくなったこともありました。
208. 小さい画面を見続けるため、特に目が疲れる。
209. Zoom の操作が不慣れ
210. 顔出しに抵抗がある
211. 目への負担が大きい。
212. スライドが見えにくい
213. Zoom のミーティングの参加の仕方が2回目以降から違うので少しやり方が複雑です。なので使い方がわからない最初の時期は授業に入るのに遅れてしまいました。
214. 通信容量がすぐに尽きてしまう
215. スマホだとメンバーの表示人数が限られてしまう。
216. 発言する際にほかの人と被ることもあるので、発言するのを遠慮してしまう。
217. 慣れれば大丈夫
218. 授業が連続すると目がとても痛くなってしまいます。
219. 一方通行の授業なので、たまに授業に集中力が切れる。

220. 資料の文字が読みにくい
221. 課題がわかりにくい。
222. さまざまなアプリを使用する必要がある、各教科の連絡をうまく受ける事ができなかったこと。
223. 使用するアプリが多くて整理できない、追いつけない
224. 授業内容より pc 操作関連を覚えるのに頭を使う。
225. 携帯を使ったとき画面が見にくかった
226. 全員に緊張感がない
227. パソコンの操作が不慣れである。
228. 顔出ししたくない
229. 講義によって課題提出フォームや遠隔授業媒体が違うので、わかりづらい時がある。
230. ネット上での提出物などに少し困惑する。
231. 講義によってツールが様々であり統一して欲しかった。
232. 授業によって違うアプリを使うため、課題や先生からの連絡を確認する時に、全てのアプリをパソコンから見なければならぬのが大変だった。わたしはこの遠隔授業で、Microsoft teams、ユニバーサルパスポート、Google classroom、Google meet、YouTube、Zoom を使わなければならなかったので、アプリを1つか2つに絞ってほしいと感じた。
233. 通信費用が普段よりかかる。講義内容を聞いてノートをとる講義なら遠隔授業でも問題ないが、情報系科目ではパソコンの使用がほぼ必須であり、パソコンが家にはない場合は授業への参加が不可能だった。さらに、サクラウムでのパソコン数が限られており、授業に参加出来ないことも何度かあった。
234. コピー代が高い、
235. 話し合いの場面で声が重なったり、通信の時差があったりして話し合いがしにくい。
236. 問題を特に感じていない
237. 先生によって使うアプリが異なるので、情報を収集するのが少し大変だった。
238. 通知に気づきにくい
239. 普段使ってるスマホで Zoom が開けなかったり、操作が不慣れなため使いにくい
240. 資料のダウンロードなどで容量を使うこと。
241. パソコン操作が不慣れである。
242. スマートフォンだと開かない資料がいくつかあった。
243. 動画をながす際に音が消える時がある
244. teams を使用した際に、こちらの映像は全員に見えているが、参加者の映像が表示されなかった。音声は問題なく使用できたので、ビデオ無しの会話のみで参加した。
245. 教員のシラバスが更新されていなく、どんな方式で点数がつけられるのか、準備しなければいけないものは何か、どうやって授業に参加すればいいのかわからない。
246. 科目によって使うツールが違うので不便
247. 出席を取る際ラグが生じてやりにくい
248. Wi-Fi が弱いときなどにズームなどから接続が切れたあと、オンライン会議に入れなくなる
249. 資料の印刷代がかかる、音声聞こえづらい
250. ずっと画面を見るため、目が疲れてしまう。
251. 画面の文字が見えないことがある
252. 学生が多い場所に住んでいるので、通信が混む時間だとかかなり接続に時間がかかったりすることがある。
253. コピー機がないのでお金がかかる
254. 操作に慣れていない
255. PC 操作が遅いこと
256. 講師の声質が元から聞き取りにくくオンラインのため尚更聞き取りにくかった点
257. 通信費用が不安
258. 会話に間ができる
259. 他の人の発表のとき、実際に聞いた時より興味を持って聞くことが難しい。
260. 操作が不慣れ。音声トラブルが発生する。
261. 大人数のクラスだと、通信に乱れが多かったように思います。ツールに関しては使っていけば使い方がわかるので問題はありませんでした。先生方の中で苦勞されている方もいらしたので、ツールを統一した方が良かったのではないかなと思いました。
262. チームズやその他アプリの操作になれず、大変だった。また、毎回の講義資料を自分で印刷するのが大変だった。
263. 不慣れな方なのか、Teams の会議をいくつも作りその中のどれが本当に講義をしてるのかわからない、という先生がいた
264. スマートフォンの充電の減りが早い
265. 生徒とのマイクをオンにすると先生の声が聞きにくくなる
266. 画質が悪く相手がカメラ越しで表示したでものが見づらい
267. カメラとマイクを OFF にすると指示されているのに OFF にせず受講する生徒がたまに居る為、ラグがおきる
268. アプリの統一をしてほしいです。何個もアプリが増えてやりにくい。

269. パソコンの画質の問題で、ユニバーサルパスポートの文字もはっきり見えないときがある。先日パソコンで teams のコードを確認した時、rn が m にしか見えず、少々手間取った。
270. 課題の提出方法が教科で違うのでわからなくなる
271. パワポなど文字化けしてしまっているものもあり、わかりにくい
272. 通信機器の不具合により、授業に参加できないことがあり困った
273. 講義ごとに使うソフトが違っていると困惑する、事前の連絡がユニバか、講義で使っているソフトか統一されていない、先生が PC を使い慣れていない、講義が時間通りに始まらない
274. 資料が見えにくい
275. 講義によって使うアプリがバラバラでわかりにくかった。また、google の名校のメールアドレスでログインすること自体がわからなかった。もっとたくさん情報があっていいと思う
276. パワーポイントが見にくい。スマホに対応していないサイトを使ったりして使いづらい。
277. 授業を受ける際の注意点として、事前にお知らせにあった内容にイヤホンを付けるように指示があったが、自分が持っているイヤホンがパソコンのイヤホンを挿す穴に対応していないためイヤホンが出来ない。また、授業が続く際にパソコンの充電が持たないことがあり、充電しながら授業受けてパソコンが熱くなってしまう。
278. 先生が流すパソコンの映像の音が小さくて、聞こえにくい
279. 教員によりムラがある
280. 先生によってやりやすいやりにくいがあると思いますが、遠隔授業で使うツールを1つに絞ってほしい。ログインし直したり、操作に不慣れなものがあつたりするのが手間でした。使うツールが一つに絞ることが出来たら、使い方も慣れてくるのでスムーズにいくと思います。
281. 先生によって使うアプリも課題提出方法も異なるため、いつも大変
282. 授業によって、課題提出や参加がバラバラのアプリで行うため、正直統一して欲しい
283. 資料を見ながら受講するのが大変（資料と教授の画面の分割できないため）
284. Teams しか使ってないですが、我慢できる程度であるが音質があまり良くないため、ノイズが気になります。
285. 他の人がうるさいときがあるので先生にミュートの操作をほしいです
286. こちらの PC のスペックの問題かもしれないが、動きが重かったり、重いせいで授業に遅れそうになったりする。早めにパソコンを起動するなどできる対策はしている。
287. teams や google meet は受講生が多ければ回線が悪くなり、講義の継続が困難になる
288. 自分が考えたことがメールなどで伝わりにくい
289. 提出する際の提出方法がわからなかった、
290. 各講義で違うアプリの使用なので、提出物が混乱してしまう。
291. 家モードと授業モードの切り替えができない。
292. 資料準備に手間が掛かる
293. スピードが早すぎてメモしている間に次のスライドに行っていて頭に入らない。どの科目も遠隔だから少しでもカバーできるようにと課題が多い
294. コピーするのにお金がかかる。
295. 様々なアプリを入れるため操作に戸惑う、課題がわかりづらい
296. 課題等の提示が不特定である為、どこに提示されるか分からず不安である。また、授業の連絡等も、当日までお知らせがなかったりして曖昧であり、そのせいで講義に参加出来なかった科目がある。
297. たまに画質が悪くなる
298. 「Teams」などのアプリは今まで一度も使ったことがなかったので、操作方法が難しい。(少しずつ慣れて来てはいる)
299. 画質が悪くてホワイトボードの文字が見えなかった。
300. 操作に不慣れであり、スムーズに進めにくい。
301. 映像では重くなるため、声だけのディスカッションは雰囲気分かりづらく、発言がしづらかった。
302. 先生に反応をリアルタイムで送れないので確認のために授業が止まってしまう。
303. 目や肩、首が疲れる
304. 通信費用が気になる。スマホで受講する際は画面が小さく見にくい。
305. 授業が始まらない時、教授側の問題なのかこちら側の問題なのか、通信機器の問題なのか分からない。
306. 通信費用が普段よりかかる
307. 音声小さくて聞き取りにくいことがある。
308. 先生によって、違いすぎる。
309. 授業が面白くない
310. スマホなので、画面が小さい。
311. 中国語の授業などで課題を中国語で入力するのが難しい。課題の提出先がバラバラで分かりづらい。
312. 講義によって、連絡が講義の直前にアップされたりして困ることがあった。
313. 繋がらないと悪いという雰囲気があり、4G を使わねばならず、通信費が心配。
314. 小さい画面のため少しパワーポイントが見えにくいですが特に問題は無い。
315. WIFI がボロいので全部がおかしくなる。送信したつもりが送られてなかったとか、添付できてなかったとか WIFI を変えたくても金銭的などできつい
316. テザリングなのでスマホのギガの減るスピードが速い

317. 必要なアプリケーションが多く慣れない
318. 対面授業だと毎回課題は出されないのに、遠隔になると毎回課題がだされるから大変。
319. 映像の乱れが生じて進行通りの解説が行われない
320. 教科によって使用するサイトが違うので覚えるのが大変
321. パソコンに不慣れなため、音が聞こえないなどの問題がありましたが、スマートフォンを使って音は聞こえたので、通信以外の問題点は特にありませんでした。
322. 普段の授業に支障はないが、授業の一環でYouTubeなどの動画をオンラインでみるとかなり見にくい。
323. teams の操作が不慣れである
324. 先生が1人で淡々と話すので授業が進むのがはやい。
325. 操作が不慣れなため、たまに置いていかれる時がある
326. Google Drive での課題の提出で、自分で確かめることができなかつたため、ちゃんと提出できているのか不安だった
327. 各講義の課題内容を把握できる場所の統一。(各講義で出される課題の場所が違う為、把握しづらい)
328. 授業で使う資料の印刷する量が多いと感じるので、学校から配布してもらえたら、とても助かると思った。
329. 対面授業ではないため、頭に入ってくる情報量が少なく感じる。
330. 早い動作を行うと、画面がスムーズにならない
331. 操作が不慣れであることです。
332. 操作が不慣れである。顔をうつすことを強制している授業があるが、簡単にスクリーンショットを取ってしまう端末を使用しているのに、顔をうつすことに抵抗がある。
333. Teams や Google meet でパワーポイントが上手く映らないことがある。
334. Teams で受講生が一斉にコメント入力すると、フリーズが起こってしまう。
335. それぞれの授業がそれぞれの媒体、方式を取るの、それに合わせたり、課題をいちいちそのソフトを開いて確認しなくてはいけないため、管理が難しい。
336. Teams で先生以外の方がマイク ON にしていると先生の声が聞こえづらくなる
337. 数名がマイクオンにすると先生の声が聞こえづらくなる。
338. 画質が悪くなる時がある
339. 画質が悪くなる時がある
340. スマホだと複数のアプリを同時に見れない(zoom でカメラ起動させながら Google Classroom の課題を表示させる)のが不便
341. 特に問題なし。資料のコピー機がないので不便
342. 操作が不慣れで初めは戸惑った
343. 自宅で受講するため、自分でレジュメをプリントするのに思っていたより費用がかかる。
344. 家にプリンターがないので資料を印刷できない。コンビニですとお金がかかる。
345. meet が携帯では簡単にできたが pc でやろうとするとできなくて Google Chrome をダウンロードしたら解決した。
346. 課題提出の仕方がよくわからなかった。
347. 画面が小さくて、見にくい。長い時間パソコンを使うため、目が痛いです。また、teams の操作も不慣れで、時々迷うこともあります。
348. 遠隔授業を行う際の連絡手段を統一して欲しい。どこに連絡がきているか分かりにくい。
349. PC で受ける場合、ノートも PC でとるのでもう一画面ほしかった
350. 資料の印刷が多く、コピー用紙やインクの消費がすごい。
351. 自宅にプリンターがない為、毎度講義資料をコンビニにプリントアウトしに行かなければならない。
352. それぞれの教員が違うアプリを用いてる為、複雑になり操作がそれぞれで覚えることに苦戦している
353. 大学で使うツールを指定してほしい。バラバラで困る。
354. パソコンを長時間使用するため普段より電気代がかかる
355. 自宅にプリンターが無いため、授業資料を印刷するのにお金がかかる。
356. 全員で共有したスライドなどがたまに見れない時がある
357. 自宅で受講しているため、通信費用が普段よりかかる。
358. 講義資料を各自で準備するため、用紙とインクの消費がおおい。
359. 印刷するインクと紙代がかかる
360. レジュメのインク代がとても高く困っています。本来なら、授業前に無料で貰えているので、学費に含まれているのになど思ってしまう
361. 科目によって課題提示するアプリが違う
362. 資料のコピーが大変
363. 本当に課題が提出できるのかどうか不安です
364. グループ活動が円滑にできない。
365. 印刷のインク代・紙代がかかる。普段、対面授業の際に配られるインク代・紙代は学費内に含まれているはずなのに、それにプラス自分たちで負担することになったので、そこは大学側が負担して欲しい。
366. 資料の配布がデータなのでコンビニに印刷しに行くので手間とお金がかかる。また家で印刷する場合は紙代とインク代がかかる。

367. 情報を得るために、見なければいけないサイトが多すぎるので、サイトやアプリを統一して欲しい。
368. 声が聞こえづらい
369. 資料をコピーするのに、インク代や紙にお金がかかる。また、配布資料によっては見えづらいものや、無駄にメモ欄が、用意してあるものもある。コピー機で両面印刷ができないため、紙がかさばるし、コピー用紙の減りが早い。
370. 操作に慣れていない。
371. 複雑
372. パワーポイントのスライドを提示されている時に、画面が止まったりして一部内容が理解できないことがある。また、一度退出してもう一度入り直しても治らない場合があり、若干焦る時がある。
373. スマートフォンで受講していたため、画面が小さく資料が見えにくかった。
374. 兄弟全員が自宅にいるため、騒がしくなることがあってマイクをオンにすると周りの音まで聞こえてしまう。
375. 生徒 2、3 人の画面に切り替わって自己紹介をさせられた時、自分の声が聞こえてるのかなど顔が見えない分不安な点が多い
376. プリントを準備できなかつたら地獄。いちいち気になる場所があって集中しづらい
377. 講義によって受講ツールが異なること。
378. teams 内で課題を出す際に文字のコピーやペースト、改行ができない
379. 課題や情報の提示が、教員によって様々で混乱しやすい。通信費用、電気代が普段よりかかる。
380. 先生の声が聞きにくい
381. ユニバーサルパスポート内でも、授業内容や課題情報の提示先がいろいろなところにあるため、授業や課題の情報が一つのページにまとまっていたら、便利だと思った。課題を提出する際に、先生によって提出先が異なるため、どの科目の課題をどこに提出しなければならないかを探すのが大変だ。情報を見落とす可能性が高くなる。また、先生によって授業資料の提示や授業の案内などの提示先が異なるため、先生方で統一していただいたら、確認がスムーズになって、情報の見落としがなくなると思った。
382. 特になし通信費用は大丈夫だが、電気代が少しかかる。ダウンロード資料が多すぎる
383. 画質が荒い時がある
384. QR コードが表示されず出席確認ができなかった
385. Googlemeet の操作が不慣れである
386. 兄弟や家族も家にいるため授業の環境を作ることが難しい
387. 全く無いので今後もこれで行きませんか？
388. アプリの操作に慣れない
389. 先生によって使用する遠隔授業用のソフトが違うので、統一してほしい。
390. 実家のため人のいない場所の確保が大変
391. 操作が大変
392. 受講する科目によってやり方がばらばらで、ユニバーサルパスポート、teams、google クラスルームを見て回って課題や連絡を探すのがとにかく大変だった。情報は一つのサイトに集まっているとよかったと思う。
393. 友達と相談するチャンスが少ないです。
394. teams を使用したグループワークを行う際に Google の JAM board などを活用すると作業がしやすいと感じた。
395. 通信量に上限があるため困っている。遠隔授業で一日中パソコンを開いており、眼精疲労がひどい。それにより、頭痛になることもあり身体状況に支障をきたしている。
396. 生徒によって不慣れだったり環境が整えられていないので授業が進めにくい
397. 授業によって使うアプリが違うから困る。
398. 操作の不慣れと時差が生じているため少し時間がかかること。
399. 資料が見えにくい時がある
400. 授業資料としてレジメをプリントするのが大変(コピー用紙、インク等)
401. 配信を見ながら PC を使うことが難しい。例えばプログラミング入門やコンピュータグラフィックスなど
402. 画面を一日中見続けているとドライアイがひどくなった
403. Teams はレイアウトが分かりにくい。
404. ちゃんとレポートや、最後の感想が送れているか不安。
405. パワーポイントの文字が小さい
406. 発言しにくい
407. コンセントに常時つないだ状態でしかパソコンが使用できないため電気代が少し気になる。
408. 小さな画面なので見にくい
409. 通信機器の不具合で時間通りに参加できないことが多い。さらに、コピー機が無くても、先生が資料のコピーを要求するので、わざわざ外に出たり、お金も手間もかかる。加えて、パソコンを使う授業は、必ずしも常にいいパソコンが使えるわけではないので、混乱した。
410. Google のメールなど不慣れなため、メールで課題を送らないといけなけれど、送るまでに時間がかかる
411. 小さな画面であるため資料が見えにくい。
412. 普段よりもネットを使う機会が増えたのでただでさえバイト先もない状況で通信料が心配
413. インク代がかかる。

414. 画面が小さくて資料が見つらい
415. Zoom が不慣れである
416. 教授の声が小さく聞き取りづらい
417. 授業登録を完了しているのに teams のグループに招待されておらず、講義に参加できないことがあった。
418. ユニバーサルパスポートクラスファイルに、課題を載せている授業が多くあったが、スマートフォンではダウンロード出来ず、課題の取り組みがパソコンの人より遅れた。わざわざ学校へ行ってパソコンを借りてパソコンでダウンロードしてからスマホに送るなど大変だった。スマホでもひらける様にして欲しかった。最近スマホでもデータがひらけるアプリをみつけて、それからはそれを使ってスマホから課題のダウンロードが出来ている。
419. プリンターが無いので資料を印刷できない。
420. 授業ごとに使われるアプリ？が違うし、操作になれていないから、全てを使い分けるのに少し戸惑うことがある。
421. 課題の提出のときにダウンロードして添付することが難しいと感じた。また、レジメを印刷することが大変で印刷用紙とインクたくさん使った。
422. コンピュータ操作が不慣れである。
423. Zoom の操作が不慣れで大変でした。
424. マイクをつけてくださいと言われたときに、実家だと家族が住んでいて生活音が入ってしまうため、なかなかやりづらい。
425. 学校でパソコンは借用できるが、酷い雨天時のときは家で受講した。だが、スマホしか持っていないため、小さい画面でレポートを書いたり資料を見たりすることが少しストレスになった。
426. プリントのインク代がかかる。
427. たまにパワーポイントが見え難かったり、音声の途切れで生徒同士の会話が難しかったりする。
428. teams などの操作が不慣れ
429. 演習の報告の際、相手の顔が見えないため内容が伝わっているか分からづらい。
430. オンラインだと緊張がない
431. 複数のツールだと、各授業の確認がやりづらいので、1つに絞って欲しい。
432. 授業によって媒体が異なるので混乱する
433. プリントを印刷するためプリンタのインクの減りが早い。
434. Slack での報告のみのため問題はない
435. 教師側のマイクがオフになっているのに気づかず、そのまま授業を続けられたことが少しだけあったこと
436. 上記の物の操作が不慣れだったため、発声しなければならない講義においては、急に声が入らなくなる等の不具合があった。
437. 講義によっては、資料を沢山使用するので、先生によっては沢山のファイルを作成されています。実際、課題提出する際に不具合があり、ついていけないと感じ履修登録をやめたことがありました。各々機械操作の得意不得意があると思うので、初めの方だけでも（ある程度慣れていくまでは）なるべく簡単に受講できるような形がいいと思います。（沢山のファイルを作成して講義を進めていく形は避けたほうがいいと思います。）
438. 操作が不慣れである。
439. ネットに不慣れ
440. 教員や科目ごとに、オンライン授業の使用ツール、プラットフォームが違うため、それぞれ全てのアプリをインストールしなければならない。授業通知も全てを1つずつ巡回して確認しないといけない。通知を見逃す可能性がある。実際に、確認していたのに見逃してしまい、欠席になってしまったことがある。・授業の参加方法や課題提出方法もバラバラなため、手順が混乱する。ずっと画面を見ているため、目が疲れる（視力低下が怖い）・ユニバーサルパスポートのUIが使いづらい。・第二外国語を受講する際に、先生が「マイクをオンにして発音してみましよう」と言い、20人ほどが発音を始めたため、肝心の先生の発音が聞き取れないことがあった。

問 37 遠隔授業について、大学への要望をお聞かせください。  
2 回目実態調査結果

1.	早めに方針を出して欲しい。
2.	名桜生にコロナ感染者が出たということで、大学の出入りがないものそのまま対面授業を続けているのは少し不安であるから対面に進んで行けなくなって、欠席してしまうことがある。大人数の授業など、密だと感じてしまう授業は行きづらい。せめて全ての授業でオンラインで受講できるという選択肢を作って欲しい。
3.	課題が多すぎる。 バイトもあるので勉強する時間があまりない、
4.	学費安くしてください
5.	混成授業だったらどの授業も遠隔での受講もできるようにしてほしいです。
6.	コロナがなくなるまでは安全を配慮し遠隔が良いです
7.	○○○○(科目名)も遠隔授業を取り入れるべきです
8.	遠隔授業だからと言って課題が増えることは避けてもらいたいです。
9.	声が聞き取らずいので、配信するデバイスに直接マイクを繋げて授業をしていただきたいです
10.	対面でも遠隔でもどちらでもよいのですが、どちら一つで統一して欲しい。遠隔ではたまに声を出さないといけない時があり、なかなか学校で受けることはできない。自宅で遠隔で受けて、次の授業が対面である場合 15 分で移動することが大変である。
11.	イヤホンの支給、もしくは貸し出しをしてほしい
12.	teams や Google、ユニバなど、色々なものが使用されており、それぞれ使い方が違ってくるので、ある程度まとめてほしい。また、混合を基本としながらも、後期は対面だけの講義が多くあったので、その対策をしてほしい。対面講義が厳しく、プリントの配布などもあまりやらないとしている中で、試験は筆記であるなど、矛盾していると思われる点が見られるので、改善してほしい。
13.	オンラインのみや混成の授業が増えたが、後期は対面のみの授業もあり驚いた。対面のみでしか開講しない講義があるのは、対応・改善した方がよいのではと感じた。
14.	対面と同様にするために通信による障害を回避するために、音声やマイクなどを整える必要がある。
15.	コロナになった学生が校内に立ち会ってなくても、その人に接触した名桜生がいるかもしれないのに対面授業を続けているのはなぜですか。名護市でもクラスターが発生しています。感染者の個人情報を守ることはもちろん大切ですが、感染経路などの情報がなすすぎで不安です。
16.	しばらくは遠隔授業も取り入れた方がいいと思う
17.	遠隔か対面かどっちかにしてほしいです
18.	遠隔の方法を統一してほしいです。
19.	学内の Wi-Fi がすぐ切れる。
20.	講義内で使用するレジュメが講義開始直前にデータ配布されることがあります。講義中印刷しながら聞かなくてはいけなくて、少々めんどくさいです。○日前までに提示するなど、決めていただくと何回も開いて確認しなくても済むので楽になると思います。
21.	いつでも見返せれるように○○○○先生のやり方でやってほしい。
22.	正直遠隔授業は大学へ行く時間を省くことができるし、場所にとらわれずどこでも受けることができる。だから学生にとってはメリットが大きい。 だが、カメラをオンにしなくても良い遠隔授業の場合「見られていない」ことで気の緩みがあり、つい居眠りしてしまうこともあるし、他の作業をしている友達もたまに聞く。そのため学生の質が下がってしまうのではないかと思うこともある。とはいってもやはり遠隔授業は便利なので、私個人の意見としては混成授業を希望する。
23.	図書館は勉強しやすいので、遠隔授業のみになったとしても、密を避けながら図書館を開館して欲しいです。
24.	オンデマンドの場合は別ですが、できればいいので課題提出先がユニバーサルパスポートであったり、teams であったり、C-learning であったりとバラバラで管理がわかりづらくなるので統一してもらいたいです。
25.	遠隔授業の際に使うサイトやアプリを統一して欲しいです
26.	ハイブリッド授業をしてくれない講義もあるので全ての授業でしてほしい
27.	混成授業に不満はなかったが、遠隔授業に難色を示す教授の遠隔授業は少し受けづらかった。教員内や学校全体での遠隔授業に対する意識を統一されていないからか、県外にいる際に少しやりづらさを感じた。
28.	名桜大学でもコロナウイルス感染者が出しまったり、全国的も感染者が増え、過去最多を更新しているので、遠隔授業のみや入構禁止を検討していただきたいです。
29.	課題提出先や遠隔方法を統一して欲しい。Teams、Google、ユニバなど講義により違い、また講義の中でも複数のツールを使うことがありわかりづらい。
30.	混成授業もよいが、1 限オンラインで 2 限対面、またはその逆など、大変なので(特にバス通学の学生)、どっちかに統一する方がよいと思う。
31.	教授によってオンラインの方法について差があると困惑する時があります。 また、対面が優位になる授業がある為、混成授業と言っている割には損している気分になります
32.	いまコロナが危険なので、対面授業はとても危ないと思います。クラスター感染が発生する可能性もあり、できるだけ遠隔授業です。

33. 全ての授業を一貫して遠隔授業の実施も同時にしてほしい。遠隔の授業がない為に遠隔で受けれるものも時間の都合上対面で受けなければならない
34. 遠隔授業がいいです
35. YouTube を使う先生については、質問をしにくいいため、質問用のツールを別に用意して欲しい。先生方が「オンラインだから皆さん疲れるでしょうし、早く終わります。」と言っているのをたびたび耳にしますが、90分しっかりやって欲しいです。
36. zoom をもっと利用するとグループディスカッションがしやすくなると思います。
37. 遠隔授業はとてもやりやすいと感じています。Youtube の動画配信授業では巻き戻して自分で考える時間を取れたりして、今までよりも分かりやすく授業を受講できていると感じます。
38. 生徒を置いてけぼりにして授業している先生が多い。
39. 対面で受けた方がいい授業と、遠隔で十分な授業が存在している。よって、混成授業は新しい形として残していくべきだと思う。一部の教授は、遠隔で参加する奴はやる気がないと見なしているので、考え方を改めて欲しい。
40. 混成授業だと1コマだけのために学校に行かなければならない。だから、どっちかにしてほしいがどちらかと言うとオンライン授業の方が理解しやすい。理由は何回も授業を復習できるから。
41. 講師だけが話す授業形態をとる講義において強くオンラインの使用を求めるが、講師の方が高齢で機器の使用が困難であると聞いています、学生課から機器操作をする方を派遣するなど考慮すべきだと考えています。
42. 授業資料、課題提示の場所だけでも統一していただけたら嬉しいです。
43. 担当教員毎にクオリティの差が見られるので、ある程度の統一基準は設けるべき。
44. 休み時間の15分間で移動することは不可能ですが、大学のWi-Fiが繋がらないので、大学で授業形態を合わせてほしい
45. コロナ禍で遠隔授業の必要性はあるが、これまで遠隔授業と対面授業の両方の授業を受けてみて、対面授業の方が集中できると感じました。講義の中には遠隔授業のみの授業形態をとっているものもありますが、対面も出来るようにしてほしいです。
46. 年末年始の帰省から、沖縄に戻るとコロナを持ち帰ってしまうかもしれない。だが、帰省はしなければならない理由がある。なので、現在は対面のみの講義もあるが、全講義オンラインに指定し、期末試験も遠隔対応にしてほしい。
47. 全ての授業を、ハイブリッドにしてほしいです
48. コロナが広まり、就活や帰省などで内地へ行く人が多くなると思うので、遠隔授業への意向を考えていただきたいです。
49. コピー機を増やして欲しい。
50. 授業に使うアプリを統一して欲しいです。(今のままだと課題の提出先がユニバーサルパスポート、Googleclassroom、teamsなどバラバラで分かりづらいため)教員の方に遠隔授業に不慣れでスライドの共有やチャットの閲覧、課題の提出などの仕方が分かっていない人がいるので教務課などで一度遠隔授業のやり方について講習を行って欲しいです。また、学生側にもわかっていない人がいるので同時に遠隔授業の受け方を学生に周知させる場も必要だと思います。たまに授業中にミュートになっていない学生がいるので先生側が、設定でミュートにしたり解除したりできると事故もなくスムーズに授業を進められると思います。サクラウムや図書館での学生用のWi-Fiが混み合っていて接続が途切れることがあるので改善していただけるとありがたいです。
51. 先生のICT能力を向上させていただきたい。授業資料が紙媒体のみでデータがアップロードされないというのをやめて欲しい。
52. 授業内容を授業時間内に終えない先生がいる(オンデマンドも含む)、フィードバックの公開が遅く次の授業や予定がある場合提出期限内に提出することが出来ない。
53. できれば、統一してほしい
54. 体を動かさないといけない授業以外は全てオンライン授業を設けてもいいのではないですか？
55. 全国でコロナが再流行しており、地元のほとんどの大学がオンライン講義のみと聞きます。沖縄県の感染者数も全国から見ると多いのに対し、混合授業では感染対策を徹底してるとはいえないと思います。地元の大学と比べて、危機感が低いと感じます。大学がクラスターとなってしまうとしばらく課外活動などもすべて禁止になり、それが辛いので、しばらくはオンライン講義のみが妥当だと考えます。
56. 混成授業を続けて欲しい。
57. サクラウム内でwifiが入りにくい場所があるので改善して欲しいです。
58. ハイブリットの際に、オンラインが蔑ろにされることがあるので、そこについて各先生いってほしい。
59. 連絡を早くして欲しい
60. 教員に対してパソコンのリテラシーについてのセミナーを大学側で行って頂きたい。あまりにも教授によって授業の質が変わるため
61. サクラウムのWi-Fiの通信が悪すぎて、カフェでは使い物になりません。どうかして欲しいです。
62. Wi-Fiの強化、今後遠隔授業に切り替える際は、早めの告知をお願いします。
63. ユニバーサルパスポートで問題が起り、テストの画面が表示されず、テストが解けなくて、評価が下がってしまったことがあるので、その点の配慮等考えて欲しいです。
64. 課題の量が多い。
65. 感染症拡大防止のため、遠隔授業は展開してほしいです。

66.	成績は大丈夫か・・・気になります
67.	先生が共有するの忘れていたり、ミュート解除できてなかったりとトラブルが多いので、ハイブリッド形式でやるならオンラインで受けてる人にもしっかり授業を届けてほしいです。
68.	感染者が出ている以上、遠隔のみに統一すべき。
69.	図書館などで遠隔授業を受けるにしても、発言できる環境がないので発言しながら受けられる密閉された個室のような環境をつくってほしいです。
70.	大学と人生の講義動画の音声我非常に不明瞭で聞き取りづらいです。割と高価なイヤホンをして反響やノイズがすごいです。
71.	いつも講義において質の向上に努めていただきありがとうございます。
72.	全ての講義を遠隔でできるようにしてほしい
73.	授業内容の録画の権限について、生徒が行った録画内容が公開されないことがあります。生徒が録画することの無いように指導をお願いしたいです。
74.	混成授業にするのであれば、大学のWi-Fiをもう少しスムーズに利用できる環境にしてほしいです。
75.	資料をアップする時間が遅いため、印刷する時間がありません。前日までにアップしていただけると助かります。対面授業で密になっている講義もあるので、人数など決めてほしいです。
76.	授業の画面録画の解像度が悪いときがあります。機械ですので仕方のないこととは思いますが、改善を望みます。
77.	遠隔授業だと、演習などのグループワークが主となる授業では、発言のタイミングをつかみ辛いなど、対面授業に比べてコミュニケーションが非常に取りづらいため、比較的大きい講義室を活用して、なるべく対面で行ってほしいです。
78.	Teamsに統一してほしい。また、講義資料を印刷できるようにしてほしい。
79.	授業の理解度を考えると対面の方が良いですが、コロナの感染を考えると遠隔のみが良いです。また、一限は対面で二限が遠隔のみなどの授業の場合、家に帰るには間に合わずパソコンを持って学校に来ないといけないため苦です。
80.	サクラウム、いくつかの階、特にカフェテリアの通信環境が悪すぎるため講義受講また課題に支障をきたしている。早急に改善して欲しい。 講師の中に、メールアドレスまたは電話番号などオンライン講義中以外で連絡を取ることのできる手段を一切持たない方がいるため、講義時間外でもやりとりのできる連絡手段(メールアドレスなど)を準備していただきたい。
81.	大学の先生によっては、レスポンスが遅いもしくは無い方がいます。遠隔授業で直接聞くことができないからこそ、レスポンスをしてほしいと感じました。
82.	遠隔授業をはじめの前に、各科目で映像や音声の聞こえ具合の確認を必ず行ってほしい。 また、教員には、学生の聞こえ具合を事前のテストで確認したり、自身が行った講義を録音・録画したものを定期的に視聴し、環境の改善につなげてほしい。
83.	コロナの心配もあるので、すべての授業が遠隔でも受けられるようにしてもらいたいです。
84.	理由を言わないと授業参加リンクをもらえない授業をなくしてほしい。
85.	安心して学校に行ける状況になるまでは、遠隔でも講義を受けられるようにしてほしい。
86.	通知がわかりづらいです。
87.	すべての授業で用いるツールを統一してほしい
88.	オンライン受講者だけ課題があるのが負担に感じる。コロナが怖いのにその課題も難しいため、合っていなかったら出席したことにならないなど理不尽を感じている。オンライン受講者、対面受講者おなじ扱いをしてほしい。
89.	できるだけ使用するネットツール(teamsなど)を統一して欲しいです。
90.	先生によって受講ツールが変わるので、学生としてはとても不便である。 学校として一つの受講ツールに統一してもらいたい。
91.	年末年始に帰省することで感染拡大が予想されるがその対応をお願いしたい。
92.	遠隔授業は画面を見続けることで疲れることも多いので、できるだけ対面授業をしたいです。
93.	今のままでも特に問題はない
94.	・ハイブリッド講義になってレポートなどの課題が多すぎるので、もう少し減らしてほしい。 ・課題や授業資料の提出、講義に用いるアプリ(Teams、ZOOMなど)、連絡事項など全ての講義で統一してほしい ・出欠確認方法を統一してほしい。
95.	各講義や先生によって方針などが異なっていて混乱したことがあった。対面をメインになっていけばいいなどと考えている。
96.	遠隔授業で参加している学生への配慮が足りていない授業があることを耳にすることがあるので、ホワイトボード等を使う際にもカメラに映すなどして配慮してもらえると良いと思います。
97.	スケジュールをもう少し早く通達してほしいです。また、遠隔の方法を全ての講義で統一して欲しいです。
98.	コロナ対策が長期化することが見えてきました。自身の体調や名護市の感染者数の増減を見て、受講方法を決定しています。来年度も現状を継続していただきたいです。

99. teamsのように授業と課題提出を同じアプリでやってほしい。特に zoom アプリには課題提出がないから、授業ごとに課題提出アプリがバラバラだから探しづらい大変だった。
100. teams はコメントしても見てもらえない場合があるので、あまりオススメではないです。YouTube だと、1.5 倍速で見れたり、一時停止して板書を書き取ったりすることができるのでとても学習しやすいです。授業後 15 分以内に提出するような課題をかせば、授業時間内に講義を受けます。
101. 混成授業はありがたいです。
102. 課題をちゃんと提出できているかわからない時があるので、課題を受け取ったら何らかの反応をするようにしてほしい。
103. 遠隔も対面も授業に参加していることに変わりはしないのにも関わらず、遠隔で参加すると遠隔授業参加者にだけ課題を増やす教員がいます。理解できません。
104. 混成授業が行われていない（対面のみ）の講義もあったため、できるだけ全授業同じ形態になるよう統一してほしい
105. ゼミにできるだけ対面で参加してくださいという要望に返答が困る。実家に住んでいるのもあり、家族に迷惑をかけないためにも学校へ行くことを避けているので、対面参加を要望されると、自分だけ遠隔授業やすることに罪悪感を感じてしまう。気持ちよく遠隔授業を受けたい。
106. 遠隔講義のやり方をしっかりと年配の教授に刷り込んでほしい
107. 遠隔授業を行う際の教員のシステム技術をもっと向上させて欲しいです。できる先生とできない先生で授業の質や理解度が大きく変わってきます。
108. コロナの感染者が増え、クラスターも出ているので遠隔のみにしてほしい
109. 中間テストや期末テストに関しては、対面でも構わないが、授業自体対面か遠隔かすべて統一して欲しい。
110. それぞれの学習スタイルにあった勉強スタイルが選択できると良いと思った。
111. 私の場合家にプリンターが無いので、授業開始日に授業資料を提示するのではなく、授業のない土日に前もって載せてもらえるとありがたいです。授業開始直前だと印刷できません。
112. 音声聞き取りやすい授業もあれば、聞き取りにくい授業もあるため改善して欲しいです。
113. 先生にメールしても返事がないというのがまだよくあるので、たまに先生がメールを読んでいたのかどうか心配です。
114. なるべく、利用アプリを統一してほしい。
115. 連絡をもう少し早くしてほしい
116. 体調悪くても家で受けることができ、授業で遅れることがないので、遠隔授業は続けてほしい
117. 対面授業の場合、できれば学生に検温などの対策を検討してほしいです。
118. どちらかに統一してもらいたい
119. 実家で過ごしており小さい子もいるため普段より長い休み後だと、旅行など行く学生も多いため対面に参加するのが不安でした。遠隔と対面あまり変わらない講義もあるためそこは遠隔での参加も許容してほしいです。
120. 混成型の授業があるのに対して、対面のみでしか受講することができない授業があるため、結局学校に行かなければ受けられない形となってしまっているため、全ての授業で混成型でできるようにしてほしい。
121. 遠隔授業を行う先生の中で、映画鑑賞をしたうえでレポートを提出することがある。しかし、映画を見るのは学生の実費が多く、かつ、自宅で映画を見れる環境ではないため負担が大きい。できる限り、対面でも視聴できるような体制を大学側で行ってほしい。また、事前資料の配布が遅く、当日になってから渡されたり、先生の添付したファイルが学生全体に行き届かないことがあるので大学側で確認ができるようにしてほしい。
122. ○○学科教員でも差はあるが、ほとんどの○○学科教員の IT リテラシーが著しく低く、画面が共有できない、音声が出力されない(大抵、マスターが入っていないか PC がミュートになっている)くらいで MNC を呼び出したり、teams の機能を理解せず不合理な課題提出方法にするなどが目立った。学生には講義があるが教員にも IT 技術について理解を深めていただきたい。
123. コピー用紙、インク代をどうにかして欲しい。
124. 校内に立ち入り禁止となるまでは、遠隔は行わず、対面のみで行うという授業があり、大学の方針であるハイブリッド型授業に適用していないので、しっかり統一して欲しいと感じました。
125. 沖縄ではコロナ感染が収束していません。名護市でもクラスターが発生し、本学では二例目のコロナ感染者が出ました。感染者は二週間校内に入校していませんと言いますが、その人と接触した濃厚接触者は出入りしているかもしれません、またバイト先や会食などで濃厚接触者となる学生がいるかもしれません。県内の他大学では完全オンライン授業が実施される中、本学が対面授業を対面授業を行っているのは、北部での感染者が少ないからでしょうか。様々なリスクが想定される中、対面授業をつづけているのは少々危機感が薄いようにおもわれます。
- さらに、1月15日は2年次全員を対象とする英語テストを対面で実施されます。県外出身者が多い本学で成人式のために帰省した学生が、沖縄に戻ってくるタイミングでのテスト実施には、違和感を感じます。若者は自覚症状が無いと言われているコロナウィルスに対して、手洗いうがい、マスクの着用、密を避け教室をわけることで対策は十分なのではないでしょうか。クラスターが発生してしまえば元も子もありません。大学として、適切な判断をよろしくお願い致します。
126. 移動時間を ほぼ無くす事ができる遠隔授業はとても便利だなと感じております。そのため、特に学校に用事が無い日は遠隔授業を受けております。しかし、この間 ある女性の先生に 怒られました。内容は、「やる気があるなら学校に来てください」との事です。 とても不快な気持ちでした。つまりやる気がない人は遠

隔授業を受けるのでしょうか？

また、後日 その先生から teams のチャットで連絡があり 「○○さん、よく遠隔で名前を見かけますが、学校には来ていないんですね？」の言われました。

もちろん私は自分が間違っている事をしていないとは思っていないので、「遠隔で受けています」と答えましたが、そのまま無視されました。

私が大学に何を求めているかと言うと、ハイブリッド式授業を実施しているのならば、ハイブリッド式授業の意義を 教員 全体で共有し、全ての教員がハイブリッド式授業の意義の認識を理解して欲しい という事です。教員全員が、等しく 認識するよう 声掛けや、ミーティングを行ってください。そうすれば 今回の様な事は起こらないと考えます。

授業の形式に、遠隔と対面があり、私は遠隔授業の方が都合が良かったので遠隔授業を選びました。なので、このように 先生に "やる気がない" と思われるのはまだしも、言われて、無視される事は 大変不快な気持ちです。こんな気持ちになるくらいなら、今すぐ全ての授業を 対面に してほしいと、思うくらいです。プライバシーのため、先生の名前は 伏せますが、早急な対応と、"対応をしていることを学生にも伝えるよう"に アプローチをお願い致します。

1日でも早く、学生の皆が 心地よく授業を受けられる日が来る事を祈っております。

127. ハイブリッドではなく、対面なら対面、遠隔なら遠隔というように、はっきりしてほしい。

128. 継続してもいいと思う

129. 1 限目が対面授業で、2 限目がオンラインの時などに困るのが、15分で帰れないので、学校でオンラインを受講するのですが、その際に多くの人が学校の Wi-Fi を、利用するので止まったら、Wi-Fi をとめて、自分の通信で使うことで、通信料がとても高くなったり制限がかかってしまい困っています。そのため、オンライン授業のみを希望します。

130. ハイブリッド講義となっているが、オンラインの対応がない講義があり、他の講義をオンライン受講にしている意味がなくなってしまっています。

131. 遠隔授業の場合、全員の距離が同じなので、なるべく多くの人が発言するような授業にしてほしい。

132. 遠隔授業であることによって勉強へのモチベーションが下がってしまった。音声が聞き取りづらいと授業を受けたい気持ちがなくなってしまう。ネットに不慣れなので、資料を取得するのも困難で、嫌になる。また、教員によって媒体が違うため、非常に混乱するし、手間取った。前期を経ても未だにネットでの授業に慣れず、単位を取ることができず不安だ。出欠も、返事はしているが先生に声が届いているかが確認できず、心配。

133. 受講人数が多い授業は遠隔授業の方が安心して授業を受けられる。体調や外出した翌日などは感染の心配等があるのでハイブリッド授業はとても良いと感じた。

134. 専門知識（プログラミングや実習）など教員の指導が直接必要な講義は対面、教員の話聞く体制の授業は遠隔授業でも良いと感じています。

135. 資料配布してほしい

136. 出席できているかの確認をお願いしたい

137. 基本的に対面授業しかやらない先生と遠隔しかやらない先生がいた場合では、15分の時間では自宅から移動できないため統一してほしい。

138. 先生によって課題の提出場所や授業資料をあげる場所が teams だったり、Universal だったりとばらばらで混乱した。統一してほしい。

139. 対面のみの講義はやめて欲しい。あらかじめオンラインの人はメールで知らせてコードを教えてもらう講義もあるが、朝のニュースでコロナ感染者が出たといったニュースを見てからメールをしても間に合わない。どの講義でもオンラインは常に解放してほしい。(○○○○(科目名)では対面のみのアナウンスがなく、オンラインのコードも開示されなかったため1回目の講義が受けられなかった。それにも関わらず欠席扱いになった。全講義で統一のルールがないため困っている。)

140. 遠隔と対面が混成しているため、移動時間やバスの時間が不都合なことが多いです。例えば、「2限が終わって帰る場合、11:50にバスが既に出発していて、次の便の13:35まで待たないといけない」などがあります。もう少し調整してほしいです。よろしくお祈りします。

141. 遠隔授業であれば、帰省後も自主隔離期間で対面授業に出られないということもないし、そもそもコロナ感染のリスクを減らせると思うので、遠隔授業のみにすべきだと思う。また、使うツールがバラバラのため、チームズや zoom など、どれがひとつに集まってほしい。

142. 先生という立場をとって半強制的に対面授業に参加させようとする人がいる。例えば、○○○○専攻のある先生はオンラインも一応開設しているが、特別な理由が必要で、オンラインを希望した際に「みんな対面に来ているのに」など嫌味を言われたという話をきいた。他にも、対面に参加しなくてもよいがその場合は点数高く取れない授業があるらしい。学生が不利にならないようにオンライン授業に関して大学側に規則を作ってほしい

143. できればオンラインアプリを統一してほしい。

144. 1限が対面の授業で、2限がオンラインの際は帰る時間がないため、学校でオンライン授業を受けるのですが、そのときにみんなが同時に学校の Wi-Fi を利用するためか、電波がわるく、授業が止まったり、繋がりにくくなったりします。そのときに自分の通信を使って授業を受けることで、通信料が高くなったり、通信制限にかかることがあるようになり困っています。オンライン授業に統一してほしいです。

145. 遠隔授業と対面授業の混成授業にするならば、遠隔授業のみにしてほしい。混成授業にすると学校と家の往復が大変である。また、遠隔授業の方が安全だと思うので混成授業ではなく遠隔授業のみにしてほしい。

146. 冬場、換気で戸を開けると、教室内が寒くなる。遠隔授業にて、今回の講義で重要なキーワードを最後に言ってもらって各自に調べるよう促すと、理解が深まるような気がする？
147. 教員によって機材トラブルの有無の差が激しいので改善を期待します。
148. 授業ごとで方法が異なるのは混乱してしまうこともある。それ以外は特に問題ない。
149. 課題提出をもって出席とする場合、当日締め切りではなく猶予を持たせてほしい
150. 講義によっては遠隔での対応をしていない先生や、たまにオンラインでの講義を忘れていた先生などもいてとても困ります。そして、対面と遠隔が両方あるのも良いのですが、オンラインと対面の講義が続くと、バスを利用しているので自由な行き来ができず、結局どちらも学内で受講することになってしまい遠隔でできる意味があまりないように思います。そしてYouTube やオンデマンドの講義であれば、通信環境に左右されずに受講できて何度も聞くことが可能なので、復習やテスト勉強に活用することができて使いやすいです。難しいと思いますが、遠隔でのツールを統一したり、より良い講義になることを望んでいます。
151. 遠隔授業もこれからどんどん選択肢として取り入れて、上手く混合していくことが大切だと思う。
152. 名護での感染者が増えているため、今後授業の方法が変わる場合は出来るだけ早めに決定して発表して欲しいです、
153. 講師によってオンライン授業の課題提出やオンラインアプリに違いが出るため正確に授業に参加することや課題を提出することができない。
154. 先生方で使いやすいソフトが違うのは分かっているが、アプリが増えて端末の容量が一杯になってしまうので、1つにまとめてほしい。課題提出の方法も沢山あると提出忘れがあるので1つにして欲しい。できれば先生方で使い方の講習とか行って欲しいです。
155. グループワークの量を考慮して欲しいと思います。
156. 沖縄では学校でクラスターがある事例が増えてきています。なので、対面授業を主とする混合型はあまり好みません。学校に行くことが怖くなってきています。対面のほうが授業内容が分かりやすいのは事実ですが、コロナの感染率を見ながら調整したいです。オンラインでわかりやすくなれば、嬉しいです。
157. 混合型でない講義に関しては、混合型を強く希望する。
158. オンラインで授業を行うものもあるが、先生から内容を教えてもらうことなく、課題だけが出される授業もあった。自分で調べたことをまとめてレポートとして提出するだけの授業は、学習効果があるのかわからなかった。課題だけ出されるような授業はなくなって、オンライン授業やオンデマンドなど、先生から教えてもらえるような授業になってほしいと思いました。
159. 大学側としては混成授業を実施しているとはいうが、教授それぞれに遠隔でやるか、対面でやるかという選択肢が委ねられており、教授の判断によって学生が遠隔か対面かという選択が成されているため、学生の希望が通りにくいとを感じる。教授ごとにコロナ対策への取り組み方が全く異なり、さらに遠隔授業に不慣れた教授は対面授業のみで授業をやるため、学生側が遠隔授業を希望していても、その希望が通らない。また、特に困った事例として、対面授業内で生徒個人にマイクを回していき、教科書を音読させるというやり方をする授業（○○○○、○○○○（科目））があり、今困っている。マイクを不特定多数の学生で回していき使用することは正直、コロナの観点から危険だと思う。けれど、学生個人から教授に指摘することは中々難しいので、教授全員で今一度コロナ禍の授業における注意点などを話し合い、慎重に授業形態について改善して頂きたいです。とにかく、すべての教授にコロナ対策の注意点を共有して頂き、慎重に講義を開いて頂けるようにお話をさせていただきたいです。マイクの事例のようにコロナ対策の観点からやめた方がよい点を挙げて、指針として示し、教授間で共有するとよりよいのかなと思います。コロナ対策をしっかり行ってくれて、遠隔授業においても快く対応して下さる教授もいらっしゃると思いますが、コロナ対策があまり成されておらず、遠隔授業を希望者の有無関係無しに実施して下さらない教授もいらっしゃるのでは、しっかりと教授間でのコロナ禍授業対応の見解を一致して頂きたいです。
160. 遠隔授業での受講のほうが、何かと自分の時間を確保しやすいです。
161. サクラウム 2 階の WiFi が弱い
162. 使うアプリなどを統一して欲しい

### 問 37 遠隔授業について、大学への要望をお聞かせください。

#### 1 回目実態調査結果

1. 最初は不安だが慣れてくると便利
2. 大学側が指定していたのに、teams 以外での講義が多く、自分の場合はユニバーサルを含め、5つあったため、統一してほしいと思った。他の大学と比較するのもおかしいと思うが、ほぼ統一されており、混乱も少なかったと友人から聞き、名桜も統一したらいいのと思った。
3. 対面授業のみでは、人数が多い講義は不安があります。その場合、遠隔授業も取り入れてもらえるとうれしいです。
4. 遠隔授業に対応したシラバスを作ってほしい
5. Covid-19 が収束しても遠隔講義を併用して欲しいです。自宅で講義を受ける方が集中しやすいです。
6. 対面授業同様に授業時間や学習量があると嬉しいです。
7. 整った環境で授業をしたい
8. 科目によって使うアプリが違うため非常に混乱しました。でも学生課や教務課の方の対応のおかげでなんとかやってこれましたが、なるべく早く対面で授業を受けたいです。
9. アプリを統一して欲しいと思いました。

10. 課題や授業資料を1つのアプリにまとめてほしい。
11. 先生によって使うアプリが違うのでわかりにくかった。
12. 今のような時期に遠隔でも授業を受けられることは非常にありがたいです。ただ、授業中に使うアプリを出来る限り統一していただきたいです。
13. 遠隔授業と対面授業を選べるようにしてほしい。
14. 特に問題なくやっていますが、三密を避けられる環境が整っているならば早く対面授業を受けたいです。
15. 遠隔授業する時は、毎回事前に連絡を入れて欲しい
16. 課題のレポートを出されて、どのように書けば良いのか分からないし先生に聞きたくても連絡手段がない状況があるので、全部の授業遠隔授業1回はしてオリエンテーションみたいな講義をしてほしいです
17. 全部、統一して teams や zoom などにしてほしいです。
18. 授業の連絡が遅いので、もう少し早めにしてほしいです。
19. やはりまだコロナウイルスが沖縄では流行が無くなってはいえ、まだ全国的に流行しており、第二波が来る可能性もあったり、今県外にいる学生もいるみたいなので、対面にするのは不安がある。遠隔でもしっかり講義を受けられているのもっと活用してもいいと思う。
20. 遠隔授業で用いるアプリを統一して欲しい。
21. 各々の授業によって使うアプリが違うのが困る。1つのアプリに統一してほしい。
22. グーグルフォームでの課題提出の際課題が提出できたかの確認ができないため、提出したかどうかわからなくなった時に困るのでその点を改善してもらいたいです。
23. 遠隔授業をやるならアプリを統一してほしい。マイクロソフトチームズのほうが使いやすいと思うので統一してほしい。 違うアプリを使う意味が分からない。使うアプリはできるだけ少なくしてほしい。
24. ネットワークの状況が悪い生徒もいることを考えてもらい、オンラインだけでなく、参加できなかった、もしくは途中退出になってしまった生徒に対し別の課題や個人のメールのやりとり等で補ってほしい。
25. teams で統一してほしいです
26. 10, 11, 12月頃は、コロナウイルスの第2波が来るかもしれないので、遠隔授業にしてほしいです。コロナウイルスにかかりたくないです。
27. 毎学期にオンライン授業を取り入れて、第2・3波のコロナ対策に対応できるようにしておいてほしい。
28. 課題の提出方法をそれぞれのアプリごとに教えてほしい。
29. 講義ごとに使うツールが異なっていてわかりづらい。
30. 回線が混雑しないようにとの工夫もあると思うが、オンラインで使用する媒体や連絡手段をなるべく統一してほしい。また、対面での授業より授業時間が短いのが気になる。
31. 教授の連絡が遅い、わかりにくい。各教授によって使用するソフトがバラバラで、5つ程掛け持ちして確認、提出等をしなければならないので不便。一つに統一して欲しい。
32. Wi-Fi 費用の支給があるとありがたい、パウポの枚数を重要な部分だけに少なくして欲しい(インク代)
33. もう少し統一性があると嬉しいです。
34. 課題や内容を明白にして全部統一してほしい
35. teams や zoom といった使うアプリを統一して欲しい。
36. まだ機械に不慣れな時期なのに課題が多い
37. 授業直前になって遠隔授業のやり方を説明するのではなく事前に知らせておいてほしい
38. 5月29日まで遠隔授業のみとホームページやユニバーサルパスポートに出ていたもので、急に一部の授業が5月21日から対面授業開始となると不安なので、できれば6月から統一で開始してほしい。
39. 課題を出すところは、universal passport だけにするなど、1つにまとめて欲しい
40. 早く対面授業を行いたい
41. 授業のお知らせをもう少し早く伝えてほしい。もう少し早くは遠隔授業が良いです。
42. 使用するルームや資料をもう少し分かりやすくして頂きたいです。
43. 個人的にリアルタイムでオンライン授業をするより配信型の方が自由に再生を止めたり巻き戻したりできるし、通信状態の関係で一定の間自分が使用している電子機器が止まってしまうことも少なくないので、リアルタイムで行う先生方もアーカイブを残していただけるととても助かります。それから受講者の顔を見せてほしいとおっしゃる先生方がいますが、顔を公開することでネットストーキングが発生する場合がありますので、そこは考慮していただきたいです。あと顔を見せないからといって真面目に授業をうけていないことにはなりません。遠隔授業が多くの先生方にとって慣れない動作であることは私たちも理解しています。焦らずにゆっくり準備していただいて構いません。ただ、プライベートの保護にも関心を向けていただけると幸いです。
44. 音が途切れたりして聞き取れない時があるので、出席確認で名前を呼ばれたか心配になるので、teams での出席確認はチャットで学籍番号と名前を送信することで確認してくれると安心です。
45. アプリを統一して欲しい。
46. 授業によって使うアプリが違うので、困惑する。全部 teams で統一してほしい。
47. 構内でも話しても(遠隔会議や講義中の発言)周りに邪魔にならないような場所があるとありがたいです。
48. 授業の有無について、もう少し早く連絡してほしいです。授業開始数分前によく連絡がきたりするので。
49. 1つのアプリで全ての講義が受けられると、携帯やパソコンの容量を減らせるし、管理がしやすくなるのでできれば、どれか1つのアプリを使った方が学生も講義を受けやすくなるのではないかと思います。

50. 使用アプリケーションを統一して欲しいです。
51. ○○○○の授業が、声が途切れたり、画質も悪く先生が書いている文字が見えないことがありました。
52. 前期の間は遠隔授業のみで行うという講義があるが、大学へ行くことが可能になったら、紙媒体での授業資料の配布(指定の場所に取りに行くなど)を行っていただけるとありがたい。
53. (遠隔授業が不便だと感じる学生もいるかもしれないが、)学校に行って「密」状態になることにまだ抵抗があるのでこのまま遠隔授業を希望したい。
54. 使うアプリが多すぎることで、課題の提出先がバラバラなため、毎日バタバタです。
55. できればツールを統一してほしいです。いろいろあるとわからなくなってしまいます。
56. アプリを統一して欲しい。
57. ライブで授業を行うとその場で質問ができてわかりやすいのですが、音声や映像が途切れることもあるため、ライブに加え、パワポなどの資料の配布と授業の映像をYouTubeなどにあげていただくことができれば、助かります。 沖縄では、直近でコロナの新たな感染者はでていませんが、油断できない状況に変わりはないと思います。特にマスクを外さなければいけない昼食の際など、生徒数や普段の状況からして3密をさけることは難しいと思います。コロナ感染のリスクを考えると、遠隔授業はとてもありがたいです。 対面授業に関して、コロナ感染を懸念して欠席する際は universal passportなどで課題を提出するなどしたら欠席とみなさないとあったと思います。コロナ感染は生徒、職員問わず心配していると思うので、本当に懸念だけで欠席してよいのかという不安があります。 本当に大変な状況ですが、学生への配慮、ありがとうございます。
58. 学費を少し安くしてほしいです。
59. 遠隔授業と対面授業をどちらも許可し、誰でも安心して受講できるようにしてほしいです!
60. 課題のやり方が難しいです
61. このまま授業を再開すると、コロナ感染の第2派が生じるかもしれません。念に念をとって、前期は遠隔授業でいいと思います。
62. なるべく対面の授業を希望します
63. 遠隔授業、対面授業どっちかにしてほしい。理由としては、学校への移動時間などもあるため。
64. 課題の欄に課題を載せて欲しいなと思いました。
65. 早く楽しい大学生活を作りたい
66. 発言しやすいよう小グループでの活動を取り入れてほしい。 授業形態を早く通知してほしい。
67. 対面授業や8月以降に学校に行かなければならない状況にするのをやめてほしいです。
68. ギガを追加するための金銭的支援があれば大変嬉しく思います。
69. 遠隔授業は思っていたよりも使いやすかったしよかったです。
70. 受講ツールをできるだけ統一してほしい
71. 思ったより、遠隔授業悪くないです。
72. 見なければいけないものが多いので、一つに統一して欲しい。
73. 方針をもっと早めに固めて同時に生徒への伝達も早めをお願いしたいです。
74. YouTubeを使ったやり方は、何度でも見直せる点ではいつもより授業の理解度が高かったです。
75. 遠隔授業に関する連絡は早めに行って欲しい。 講義によっては夜中に連絡が来ることがあり困った
76. 対面授業となるとコロナウイルス感染リスクも高まると思うので、遠隔授業の方が良いです。個人的には、遠隔授業の方が授業にも集中できます。
77. 遠隔授業の際、サクラムをあまり利用した事がないため、音を出して良いのか不安がある。また、資料が全てデータなので、パソコンを持ってない人は不便。
78. YouTubeなどは質問がその場でできないというデメリットはあるが、音声や映像が途切れたりすることはないので、授業内容はわかりやすい。出来るだけ、対面授業がしたい
79. 対面の授業を取り入れて欲しい気持ちもあるが、正直、新型コロナウイルス感染症の第二波も怖い。そのため、3密を避けられない場合は遠隔授業もありだと思う。
80. 他のアプリであげた資料を全てユニバーサルパスポートにものせてほしい
81. 今までと同じ授業料を払っていても、教授に直接会えず図書館の資料も使えないため、遠隔授業にするなら授業料を減額してほしい。
82. 全教科のアプリをまとめていただけると分かりやすいと思います
83. 遠隔授業を主にして、一部対面授業をしていただきたい。
84. 操作が不慣れでわからないことがたくさんあるので不安です。
85. 教科によってはその日まで何の連絡もないことがあるので、早く連絡をして欲しい
86. 課題を提出させるならもっと説明すべきだと思う。質問しても回答が来ない授業がある。
87. 早く学校が始まって対面で授業が受けれるのを待っています。
88. 使うサービスをまとめて欲しい。
89. 遠隔授業より対面授業にしてほしい。
90. 講義によって遠隔授業の方法が異なるためできれば統一してほしい
91. 名桜大学には留学生も県外から来る学生もいて、コロナの感染が不安なので、前期はこのまま遠隔授業を行なってほしい。

92. まあまあ良い
93. 印刷物に結構費用がかかるので少し配慮をお願いしたいです。
94. できるのであれば遠隔の授業を続けて欲しい。場所問わず授業が受けれるのは私としてはすごくやりやすいです
95. 講義は遠隔で、演習は対面で行うなどして出来るだけ人との接触を避けたい。
96. 遠隔授業でも結構やっているといます。
97. できれば遠隔授業はしたくない
98. 5月いっぱい遠隔授業でも、いいのかなと思います。
99. 印刷機使うようなことをやめてほしい
100. ○○先生から第2回になっても一切連絡がなく困っている。
101. シラバスにメールアドレスを記載していない先生がいらっしゃって、連絡先が何もわからないため、提示をしてほしい。
102. 教科によって連絡手段(アプリ)がバラバラなので統一してもらえるとわかりやすい
103. 体調不良や骨折等の入院など、遠隔授業を受けれるなら欠席数により休学や授業の遅れなど解決策になる。また、身体障害者、精神や発達障害を抱える方達の窓口も広がる。なぜなら物的環境により断念している方、コミュニケーションや集団の中にいることが辛い人、状態によって身体にしんどさを感じる人として学び方が変われば学習機会の選択肢が増える。今回のみの緊急対策だけに終わるのではなく、遠隔授業の良さも取り入れた授業展開を希望します。演習などは無理があると感じた。
104. 課題の提出期限を伸ばして欲しい
105. 教員とのやり取りがスムーズにできるようになりたい
106. 思ったより遠隔授業が楽しい
107. できれば遠隔授業の際に使う受講ツールを統一して欲しい。Teams や zoom, classroom など様々なアプリを学生はダウンロードして使わなければならないので、ひとつひとつのアプリに対応することが難しいです。
108. 遠隔授業はやりづらい
109. 先生によって授業やお知らせを行う方法が違うため、ある程度統一して欲しいです。
110. ツールが統一された方がわかりやすいです。
111. 個人的な意見になるが、実家から大学が遠いことと、実家で住んでいるため第二次、三次感染が起こった際他の家族といる中大学に通うのは不安なためまだ完全に対面授業というのは避けたい。
112. できるかぎり、TEAMS、ZOOM、ユニバーサルパスポートの中から統一して行ってほしい。課題や、講義についての連絡も同じ場所で行ってほしい。
113. 連絡場所を最初、大学のホームページで提示していたのにもかかわらず、各教科によってバラバラすぎたため連絡の見忘れがないか不安だった、統一して欲しかった
114. 早めに指針を出していただくとありがたい。
115. オンラインであるならば、オンラインで1つのアプリに絞ってもらいたいです。後、YouTube は分かりにくいです。オンラインに疎い教授もいらっしゃるので、なるべくはやく対面にして頂きたいです。
116. 使用するツールを統一して欲しい
117. Universal Passport に通知機能をつけてほしい。重要な情報を逃して学生の責任ですと言われても、毎回情報が更新されていないかを見るのは学生にとって負担が大きい。そこを一番に改善すべき。
118. 質問しにくい
119. 先生によって違うのが正直めんどくさいので、zoom なら zoom など統一したら楽だと思いました。
120. 講義開始の連絡等、通知を出すのが遅い。県内の他大学は、講義等、決定が早かったのに対して、名桜は連絡が全然こず、講義が始まるのか始まらないのかわからない状況が長かった。
121. それぞれの授業でいろいろなアプリを使っていて、どれがどの授業かわからなくなってしまう。できれば一つに統一してほしい。
122. 講義で使用するツールをそろえてほしい。
123. 授業に関するお知らせが Universal passport, classroom, teams, Gmail とバラバラだったので、授業に関するお知らせは統一の場所からしてほしいです。
124. 情報の共用は学生たちが持っている gmail に統一したら、助かります。
125. 様々なアプリをインストールしたり、通知を受け取る場所が散在してしまうので、やむを得ない場合を除いては、使用するツールを極力統一していただいただけませんか。
126. できればオンライン講義で使用するツールは一つに絞ってほしい。
127. 1. 受講ツールを統一していただきたいと思います。2. 遠隔授業であったとしてもクラスメイトと交流する機会を設けてくれると嬉しいです。(授業によっては同じ科目を履修している人と一切交流しないので)
128. Zoom や Microsoft Teams でインタラクティブな講義を行うことは非常に良い方法であると考えます。しかし、途中で通信に問題が出た場合講義内容が全く分からない状態になってしまう問題があります。そこで、もし Zoom などの ICT 講義を行うのであれば録画してあとで受講者が視聴できるようにしていただきたいです。それに伴って、課題提出期限も少し伸ばしていただけると幸いです。また、全ての印刷すべき資料をコピーしてから講義に臨みたいので、できるだけ早めに講義資料をアップしていただきたいです。講義の直前に資料が提示されると印刷不可能で、PC と iPhone で講義を受けなが

ら同時に資料を見ることが難しい場合があります。 よろしくお願いたします。
129. お知らせが遅いため、前もっての行動がしづらい。
130. 全て Microsoftteam 出して欲しいです。
131. 沖縄で、コロナ感染などは落ち着いてきてはいますが、また、いつ増えたりするかわからないので、遠隔授業でできる授業は、大変だとは思いますが、そのまま継続してもらいたいです。
132. 先生によって授業の仕方が違うので、YouTube で統一してほしい。
133. 座学などの聞くことが主な講義はアーカイブを残せばいつでも受講できるので、これからも遠隔でも良いと思いました。
134. 20 に書いた通り、Universal Passport を軸にしているのであれば、授業の連絡、課題の受け取り、提出はそこにするとだけでも統一していただきたい。
135. 授業の前の日に、ちゃんと遠隔の授業があるのかを連絡をして欲しかった。
136. 情報が来るのが遅い。
137. 外国語の授業は発音するとき声がずれやすいので、対面授業のほうがやりやすいと思いました。逆に説明を聞く受け身タイプの授業は時間限定で公開されているものが多く、何度も見直しできるので遠隔授業のほうが良いと思いました。
138. 講義動画を残してほしい。
139. 遠隔授業だと上手く聞き取れなかったり、映像が乱れたりするので、出来るだけ対面授業にして欲しい。
140. 急な対策で不慣れだったし、不安な部分はあったけど、授業を受けることができ、安心しました。ありがとうございます。
141. 課題だけ出されても授業しないとわからないこともあるから課題を出すならそれに合った授業をしてほしい。
142. ○○○○の授業が途切れ途切れになっていたので改善してほしいです。
143. なるべく全ての科目の授業方法や課題提出の方法を一つのアプリにそろえてほしいです
144. 6月まではオンラインでの受講も可として欲しいです。
145. なるべく全ての科目の授業方法や課題提出の方法を一つのアプリにそろえてほしいです
146. youtube を活用した授業がその他のアプリを使った授業よりも良いと思いました。通信障害によるフリーズもありませんし、時間の効率も良いです。
147. 遠隔授業でも対面授業に劣らない授業もあると感じたため、今後は、遠隔授業を取り入れてもよいと思う。
148. teams にするのか zoom にするのか統一してほしい。リアルタイムにこだわらないのであれば、授業の映像をアップしてもらった方が受講しやすい。映像、音声途切れることなく、復習もしやすいため。
149. 授業によって使うツールが違っていると、少し大変かなと感じました
150. 対面、遠隔がごちゃ混ぜになると家で遠隔 15分で大学まで移動して受けるなどという場合が出てきて難しいと考える。ならば遠隔を大学でやれば良いとなると遠隔の意味が無いと思います。
151. だいぶ慣れてきたので大丈夫です。
152. アパートにしっかりした Wi-Fi 環境がほしいです。
153. コロナの第二波が懸念されているので、対面授業を無理に急ぐ必要はないと思います。しかし、音切れやフリーズ、通信切断とトラブルが多いので、teams や meet でのリアルタイム授業はやめてほしいです。ストリーミング授業は全く問題なかったものでそちらを推奨します。
154. 今の状況では、遠隔授業の方が安全だし、対面授業より良いと思います。
155. 教員によって別々のサイトを使って講義を行っているので、1つにまとめたらやりやすい。
156. 看護の資料などを見て勉強したいので、看護棟を開放してほしいです。
157. コロナが沖縄でまた広がる可能性もあることや、5月の1ヶ月間を通して、遠隔授業に少しずつ慣れたこともあり、6月以降も遠隔授業は取り入れていった方がよいと思う。
158. パソコン使用を推奨されているが、携帯での授業でも大丈夫なようにしてほしい
159. 個人的に、遠隔授業の方が集中して取り組みました。 また、各授業ごとにオンラインの仕方が違いましたが、全授業アプリを統一してくれた方が、やりやすい気がしました。 先生方も試行錯誤の中なので、大変だとは思いますが、授業はどれも分かりやすかったです。
160. オンラインでリアルタイムで授業をするのか、課題だけが渡されるのかの連絡が直前であったりするので、もっと早めに連絡をしてほしいです。
161. これからも遠隔授業を取り入れて欲しいです
162. おさまっているように見えても何があるかわからないので、大学が再開しても、遠隔と対面を選択できるようにしてほしい。
163. 大学へは行きたいが、遊びで中南部へ行っている人の居るので少し不安ではある。遠隔授業も自分のペースでできたりするのでいい面もある。でも対面の方が確実ではあると思う。(出席関係など)
164. 新入生としてはこの先が不安で仕方ないのですが、先生方が画面越しでも授業を行ってくれるだけでも十分恵まれていると思うので、課題だけが出されるよりは Teams などによる遠隔授業でも良いです。
165. 大人数の講義型の授業であるならば、遠隔授業でも十分だと思った。
166. なるべく対面で授業をしたいというのが本音です。
167. 課題の提出先を一つにまとめてほしいです。

168. 受講人数の多い授業だと、どうしても画面のフリーズが起こり、授業の理解不足となる部分があつて困っている。
169. 授業の仕組みについて詳しく説明してほしい
170. 特になし。早く対面授業をやりたいです。
171. 発言を求められる時、先生からの指名がある方が答えやすいです。
172. 多人数でのオンライン講義の通話が不安定になりがちだと聞いたので、受講生が多い講義はできるだけYouTube等を使った講義にしてくれると嬉しいです。 また、落ち着いてきているとは言え、対面授業を受けることはまだ不安です。可能であれば引き続き遠隔授業での講義をしてくれると安心です。
173. 教授によって操作が時折できていない時がある
174. 受講ツールや授業に関するお知らせを教員の判断で変えても良いとするのではなく、すべての講義で統一して欲しい。
175. 遠隔授業と聞いていて、遠隔で講義が行われるとおもっていたら、課題レポートという形をとってる先生もいて、とても憤りを感じた。pdfファイルで文書が送られそれを読みレポートしなさいと書かれてあったが、興味がある、知りたいからその講義を撮ってるのに、いきなり難しい内容でとても困惑した。どうレポートを書き進めていけば良いのかもわからなかった。課題レポートを出すくらいだったら、土曜日などを使って補講を実施し、対面でやっていただきたい。
176. 大学には様々な県や国から人が集まってくるため、狭い教室の中で授業をうけるのは不安に感じます。
177. 家で授業を受けているため、電気代などの料金がすごく上がっています。今期の学費を少し減らしてもらいたいです。アルバイトもなくお金のやりくりをするのにととても苦労しています。どうかよろしく願います
178. なるべく統一したツールで情報などを早く、わかりやすく知らせてほしい。
179. 受講ツールを統一してほしい。また、先生によって遠隔授業・オンライン授業・オンデマンドと違って、用語も自分の解釈で合っているのか分からない時があるため、用語の統一と用語の説明をしていただくと助かります。
180. 一度に学生の考えが見えるところがいいなと思いました。対面になるときに外部ツールで答えを書き込めば、多くの学生の考えも共有できるのかなと思います。遠隔なら様々な理由で学校にいけない事態になったとき、授業をみれるので、いいなと思います。
181. 使うソフトやアプリを統一してほしい。
182. 思っていたよりも、遠隔授業がスムーズに出来たので授業によってはアリだと思いました。自宅で受けることができたので、家からあまり出ることなく出来たところも良かったと思います。
183. 思っていたよりも、遠隔授業がスムーズに出来たので授業によってはアリだと思いました。自宅で受けることができたので、家からあまり出ることなく出来たところも良かったと思います。
184. それぞれの教科によって授業手段がバラバラなので、いろいろなアプリを回って連絡を入手しないといけないため、見落とししやすい。どの教科も、ユニバーサルパスポートに授業資料等を載せるように統一してほしい。
185. 遠隔ツールを統一して欲しい
186. 全てのオンライン授業を録画してほしいです。
187. 各教科の連絡事項を1つのサイトから見れるようにしてほしい。統一してほしい。
188. 授業資料の印刷代がかかるため、配布資料を準備していただき、それを学校に取りに来れるようにしてほしい。
189. 早めに対面授業にしてください
190. 就活中(県外)なので、遠隔授業がいいです。
191. ユニバーサルパスポート内の授業資料を確認してほしいときに、ユニバーサルパスポートのどこに添付してあるのかまで教えてほしいです。まだ使い慣れてない部分もあって、探せないときが時々あります。
192. 今のところ困っていることはありません
193. 今回の影響で、やはり対面授業の方がしやすいなと感じました。徐々に元に戻っていくことを願っています。
194. これからの時代はコロナが終息した後も、オンラインでの授業が増えていくと思うので、引き続き遠隔授業に前向きに取り組んでもらいたい。
195. 大勢で講義を受けるのは不安です。
196. とくにありません。大学の遠隔授業の取り組みに感謝しています。おかげさまで、マレーシアに居ても授業が聞けます。ありがとうございます。
197. 使用するアプリを統一していただきたい
198. 課題のやりとりの授業の場合、授業が始まる時間を過ぎて課題が出る時や連絡が遅い場合があるので、はやめに出して頂きたいです。
199. 使うアプリを絞ってほしい。
200. 遠隔授業には教員と学生の双方向性を重要視しないほうが効果的だと思います。
201. なるべく早くどのように授業を進めていくか知らせてほしい
202. 連絡や授業に関する情報を少し早めに流してほしいです
203. ディスカッションがある講義は遠隔授業だと大変だなと感じました。

204. 沖縄県内で感染者がいらないからと言って、これから県外からの学生がかえってくるので、対面式に切り替えるのは危険であると考えます。
205. 早く対面授業を開始してほしいです。
206. できるだけ早く対面授業に切り替えていただきたいです。
207. できれば、媒体を統一して欲しいです。
208. 受講生の多い科目や他の学生と十分な距離を置くことが難しい科目については遠隔授業を希望します。
209. ネットが普及している今日においては続けても良いと感じた。
210. 自宅で使用できるパソコンの貸出しなどを取り入れて欲しかった。
211. 遠隔授業の併用をお願いしたいです。また、今回に限らず平時でもですが、図書館やサクラウムの学習スペースの利用時間延長をぜひ検討して頂きたいです(混雑を避けて図書やネット環境を利用できるため。平時は勉強空間の提供時間延長をお願いしたいため)。
212. 授業資料を家で印刷できないから学校で印刷できるように学校の一部開放してほしい。
213. 対面授業と遠隔授業の選択制にして欲しい。
214. 課題が多く、一日中パソコンと向き合っていると倦怠感が出たりや眼精疲労になり得るので、課する量の配慮が必要だと思えます。
215. 遠隔授業は効率の良いものが多くて便利だと感じた
216. 大学内のパソコンでの Teams や Zoom の使い方の説明が欲しい
217. 課題はユニバーサルパスポートからではなく、クラスルームから出題された方が、通知が来るのでわかりやすいです。
218. 比べるために、わざと別々のツールを使用したなら良いのですが、できれば統一して欲しい。
219. YouTube がいい
220. 4年生になり、受講する講義が減ったことで、1コマの為に那覇(実家)から通うことがある。移動時間や交通費がかからない点から、遠隔授業の良さを感じた。
221. 教員のシラバスが更新されていなく、どんな方式で点数がつけられるのか、準備しなければいけないものは何か、どうやって授業に参加すればいいのかわからないのもっと情報を出して欲しい。
222. 先日サクラウムでオンライン講義を受けていたときに周りの学生のオンライン講義に確実に必要のないおしゃべりがものすごくうるさくて講義に集中できなかった。水曜1時限、顔を見た感じ教養演習のチューター達だと思われる。サクラウム利用時は他の学生もいることを理解してほしい。
223. グループワーク以外の授業は、オンデマンド形式が好ましいと思う。
224. これから就活もあり、どうしても県外に行かなくてはならないこともある。そのため、自粛期間も考慮すると実習等への対面での参加は厳しくなる。その場合には遠隔で対応するなどの対処をしてほしい。全てを一律に対面か遠隔にするのではなく、その人の状況に応じた受講スタイルがあってもよいのではないかと思う。
225. オンライン授業は自分の時間も確保できて良い
226. アカデミックライティングなど、クラスによって先生が違うのでライブ授業をするクラスと課題のみのクラスとあり、格差ができてしまっている。オンラインのときは1年全員大峰先生のライブ授業にできればいいと思う。
227. サイト内で各講義での連絡事項や課題などをもう少し分かりやすく提示していただきたいです
228. アプリケーションが多すぎて課題や資料、連絡を探すのに時間がかかる点を改善してほしいです。
229. 講義開始が遅れたり、終了が遅れることが多々あるので、ないようにして欲しい
230. 最初はオンライン授業に不安があったが、やっていくうちに慣れた。授業によってはユニバーサルパスポートで課題だけを出されることもあるが、オンラインで先生の講義を聞けると理解しやすいと思った。
231. 正直、前期いっぱい遠隔授業にするべきだと思います。少しずつコロナでの制限が緩和され、沖縄へ来る人が増えてくるはず。また、制限が緩和されたことにより、バイト先の営業が再開する人が多いと思います。そんな不特定多数の人と触れ合う機会が増えた環境で、わざわざ対面授業を開始しなくてもいいのではないかと思います。慣れない環境での講義のため、生徒も先生方も大変な面がありますが、何よりも身の安全を考えるべきだと思います。第2の感染拡大を防ぐためにも、前期の講義のあり方を慎重に考えるべきだと思います。
232. まだ警戒が解けて間もなく人が集まる環境は不安であるため、遠隔授業での期間をもう少し延ばしてほしい。
233. 資料を印刷するのが大変です。できれば大学から紙媒体で貰いたいです
234. そのまま継続してほしいです
235. グループ学習を主としない講義は、遠隔授業でも良いと思います。
236. 資料を読んでレポートを書かせるのみの授業はやめてほしい。授業をしてほしい
237. 途中から対面授業を始めるのではなく、前期間遠隔授業をしてほしいです。対面授業だと人が集まって三密になり感染する危険性が増すので、自宅受講のほうが安心できるからです。後期から対面授業と区切りをつけると、学生の身として把握しやすいです。
238. 前期だけでも、遠隔を続けた方がいいと思う。まだ始めるのははやいと思う。
239. 大学で使うアプリを1つに統一してください。teams がとても良かったです。インターンシップ基礎などの課題が非常に取り組みにくい。あと、課題をいちいち解凍するのがとても面倒です。県外の友達の大学生はとても遠隔授業やりやすいと言っていました。大学で使っているひとつのアプリがあって、それ以外は使っていないとのことでした。先生ごとにやり方が違うのは非常に困ります。せめてアプリだけで

も統一してほしいです。パソコンが無く、ケータイしか持っていません。バイトもコロナで辞めさせられお金もありません。パソコン買えと言われても買えません。辛いです。名桜大学信じられないと親に泣かれました。
240. 先生が出す授業情報や大学が出す情報を出すのが遅いと思います。困ります。
241. なるべくツールを同じにしてほしい。同じアプリだと回線が混んでしまうのも分かるが、確認に多くの時間を費やすため、効率が悪い。
242. 使用するアプリを統一してほしい
243. もっとわかりやすくしてほしい
244. 授業で使うアプリ、ツールを統一してほしい
245. なるべく、授業するソフトを統一してほしい、遠隔授業の状況について（どの授業が対面を始めるかなど）連絡をまとめてほしい
246. 資料を見やすく大きくしてほしい
247. 分からないことも多く、友達もできていない状況のため情報が少なく戸惑う事が多かったです。また、アプリを統一したらわかりやすくしてほしいと思います。
248. アプリを、統一して欲しい。
249. メールでの出席確認は事前に知らせてほしい。 ずっと通信機器を使ってるわけじゃないのでちゃんと授業受けているのに時間経って出席確認のメールがきても困ります。
250. 使用ソフトの統一
251. 技術演習やテストなどは対面授業が良いと思うが、その他の座学は遠隔授業がいいと思う。なぜなら、遠隔のほうが授業中に先生に質問する人が増えたり（気軽に質問できる）、女性であれば、毎月おとずれる生理のつらさに、正直授業中じっと座ることがつらかったりするので、家で受講できるのであれば、楽な体勢で授業を受けれるしいつでもトイレを利用できるなどのメリットがある。また、登校時間や朝の準備等を短縮できるため、朝に余裕をもって授業の準備をしたり、睡眠時間をより長く確保することができる。ひとり暮らしの人も多いので、休み時間等に家事ができるのもメリットである。
252. ガイドラインに沿って「うつすかもしれない」「うつされるかもしれない」という意識を強く持った意見を言うと、前期は教養演習等、演習・実習科目以外の科目全て遠隔授業を強く希望します。コロナに対応しながら大学生活を再開していくことは重要であると思います。対面で取り組んだ方がやりやすいと思う授業もいくつかあります。しかし、もしものことがあれば心配です。自粛が緩和されていて、来県自粛要請も31日で解除されます。観光立県の沖縄なので、きっと徐々に観光客は来ます。ホテルや観光地でバイトをしている名桜学生も多いでしょう。バイト先では「うつされるかもしれない」という意識を持ちます。私もそうです。しかし、バイトに行かなければ収入がありませんから働かざるを得ません。そんな気持ちと状況の中で対面の授業が始まれば今度は「うつすかもしれない」意識を持ちます。私はその意識をもって学校に行かない選択をします。周りの人の健康と命を守りたいからです。私が大学のクラスター発生源になりたくないからです。過度な考えかもしれませんが、一人暮らしなので自分の健康と命を守るのは自分しかいないのです。守るための行動の一つが私の思いを大学に伝えて実現してもらおうことです。前期の教養演習等、演習・実習科目以外の科目全て遠隔授業実施の検討をお願いします。
253. 特に私はありませんが、大学のアパートなどはwifi環境が悪いとききました。
254. 遠隔になって課題提出がかなり増えて、提出期限なども短かかったりするので、大変
255. 問20でも言った通り、なるべくTeamsに統一して欲しいです。課題とか提出場所が別々でごちゃごちゃします
256. コロナウイルス感染症への不安が無くなれば対面を望むが、少しでも不安要素がの子は場合は遠隔を希望する。
257. 前期の間は遠隔授業での対応で進めてほしい。学生が大学に集まることで、ウイルスの再発の可能性があるから。
258. 技術の講義は対面でも仕方ないと思うが、その他の講義は、遠隔授業と対面のどちらを選んでもいいようにしてほしいです。対面授業のみの講義があると、正直不安です。
259. 特にないが、遠隔授業の方がしっかり講義を受けている自分がある。前期のうちは遠隔授業を継続して見るのもいいのでは。
260. 使うアプリを一律にしてほしい。講義ごとに違うと課題の管理が困難。 学費の一部返還。やはり、支払った学費に対して相応な講義を受ける権利があると思う。対面でできなかった分、全額返金とまではいかないが、3万円から5万円程度の返還は妥当ではないかと思う。
261. ネット環境も良く、授業の進め方も問題なく内容も理解出来るので、対面授業をメインに遠隔授業を取り入れてもいいと思います。
262. 課題の提出するところ、把握するところを一つのアプリにまとめて欲しい
263. ユニバでのメール設定でメールアドレスの設定ができない。s学生番号の入力したら「送信できないアドレスが入力されました」と出る。
264. ユニバーサルパスポートにするか、チームズにするか、ズームにするか、ひとつにして欲しい。
265. コピー機で印刷するとお金がかかってしまい、負担である。わざわざコンビニまで歩いていかないといけないため、時間と手間がかかる。印刷する場所だけでもあけてほしい。
266. 出来れば使用するアプリを統一して欲しい
267. ユニバーサルパスポートの時間割表に遠隔授業のあるものはマークなどを付けて欲しい。

268. 授業の為のアプリを沢山インストールしており、各教科でそれぞれアプリが違うため、こんがらがう事がある。その為、学校側からのサポートを手厚いものにして欲しい。
269. 対面授業で遠隔授業の同時進行はどのようにやるのかをわかりやすくみんなに説明する。
270. 講義があるのかないのかをユニバーサルパスポートに随時更新してほしい
271. サクラウムの一部開放や、早期からの遠隔授業の対応はよかったですと思います。
272. ひとつのアプリに統一してほしい。
273. 基本は対面授業スタイルを望む。
274. システム障害が結構あります
275. 授業の連絡をきちんとしてほしい休講の情報や対面授業の各教科ごとの詳しい情報など
276. 対面授業にしないと困る学生がいるのもわかりますが、オンライン授業で助かっている、対面になると困る学生もたくさんいます。 まだ、感染リスクがない訳ではないなか、登校をせざるを得ない様にするのは生徒の為ではないと思います。現在、オンライン授業にみんな頑張っており取り組んでできています。より頑張っています。対面授業を開始してもオンライン授業を続けて欲しいです。選択制にして欲しいです。
277. 地元に戻って、遠隔で授業を受けたいです。放送大学との違いとか、そういうことを言ったらこの大学は時代に取り残されます。今後またこういった事態が起きないとも限りません。アップデートしていかなければならないのではないのでしょうか。
278. 授業や課題についてのお知らせの記載がされている場所が HP であったり、メールであったり、teams であったりとバラバラなために見落とししてしまった事があった。なので、お知らせはここを見れば全て分かるという場所を決めて欲しい。
279. 顔を出さないといけないのは分かりますが、ビデオ通話ではなく普通の通話だと WiFi でも問題なく聞こえます。出来れば音声だけの、出席だけは顔だしという形をしていただければと思います。また、YouTube 配信をして下さると、何回も見ることが出来ますし、普段の講義よりも理解が深まります。グループワークをする授業は難しいかと思いますが、こちらとしては YouTube 配信の方が助かります。
280. 遠隔授業に慣れてきて、また対面授業はまだ少しコロナウイルスへの不安があるので、まだ遠隔授業でいいと思う。
281. WIFI がボロいので全部がおかしくなる。送信したつもりが送られてなかったとか、添付できてなかったとか WIFI を変えたくても金銭的なところできつい。 家庭の事情などで遠隔だと助かるけど WIFI がボロいからどっちもどっちできれば学校から家庭に支給してほしい。
282. コロナウイルス第 2 波の懸念もある以上、対面授業を受けに登校し友達や教授に会う、バスに乗ることすらとても怖いです。 遠隔授業や動画での講義も意外と支障がなかったように思うため、可能な範囲内で遠隔授業を続けたり何らかの処置をとっていただきたいと思います。
283. 遠隔授業期間中は学校の施設・設備はほとんど使用できず、例年と同じ学費を支払うのに不満があります。
284. アクセスが集中していると繋がりにくいので事前に課題や授業内容を出してほしい
285. リアルタイムではなくオンデマンド配信の方が止めたりできるからやりやすい。
286. 遠隔授業を実施した際の学費の調整はあるのか。
287. 教養演習のみ五月内に対面が始まることについて、ほかの教科も統一するか、すべて 6 月からの開始にしてほしい
288. ○○○○は対面授業で受けたいです。
289. 1 時間目は対面だが 2 時間目は遠隔授業とかだと間の時間の 15 分間で移動できるかどうか心配です。バラバラではなくできれば同時に対面授業が始まってほしい。
290. 遠隔授業で進められるのは、これからも続けてほしいです。
291. 映像や音声の乱れで授業が時々止まり、集中力を欠いてしまう
292. 対面授業になったら遠隔授業の際に提示していた資料を全科目印刷して配布してくれたら嬉しいです(今年だけ配布していないということだったらです)
293. 遠隔なのであれば YouTube がよい。YouTube などオンデマンドの方が集中しやすかった。また、遠隔か、対面かのどちらかにしてほしい。遠隔と対面の両方となると、カフェや食堂で授業を受ける人が増え、三密になりそう。
294. 遠征授業の分を、対面授業の時に少し補足して復習する時間を設けてほしいです
295. 課題の提出は、MStams か Universal Passport にしてほしい。
296. 課題提出の場所が各講義で違い、戸惑う学生も多いので、一つの場所で管理できるようにしてほしいです。
297. 講義の資料を配布してほしい。
298. オンラインの場合、通信量が普段よりかかってしまうので、ネット環境を整えるための補助金を出すなど自宅でも快適な講義ができるようにしてほしい。
299. 前期は、遠隔授業を行い、人と人との密を避けたいです。
300. 対面と遠隔を混ぜると、家と大学の行き来が多くなる。または、大学のサクラウムなどを利用して遠隔授業を受ける場合、人が多くなることが考えられる。また、うるさくなる。そのようなことへの対応を考えていただきたい。

301.	現在県外実家より授業を受けています。県外就職を考えていることもあり、対面授業が開始されると、県を跨いでの子供が増えることとなり、自身が感染源となることへの恐怖があります。また、コロナによる経済状況悪化で、県を行き来するにあたり、交通費の捻出に相当苦勞しそうです。そのため、授業は出来るだけ遠隔授業を主流にしていけると安心して授業を受けることができます。
302.	ストリーミングだとラグも無くパワーポイントも見やすいので遠隔授業をするならできるだけストリーミングが良い。
303.	オンラインなど録画して振り返りができる授業は、理解できるまで何度か再生を繰り返すことができ便利だと思いました。
304.	どこに何の授業のお知らせがくるのか把握しにくいので、個人的には全て Google Classroom を設置してそこにまとめた方がわかりやすいと思う。 Universal Passport は web から開かなければならないし、全てパソコン対応の画面なので、見にくく非常に使いにくい。 討論などを必要としない場合は PPT に音声をつけて 45 分くらいにまとめて、あとは個人が課題をすればいいと思う。
305.	ユニバーサルパスポートの通知があったらいいなと思った
306.	講義資料の配布をお願いしたいです。
307.	どのような方法で授業を行うのかの連絡を早めに欲しい
308.	教科書をそのまま資料として送られると分かりにくいので、なるべくパワーポイントのようにしてまとめて授業時のようにしてもらえると分かりやすいです。
309.	遠隔授業を行う先生と、課題のみを出す先生がいるが、基本的にはオンラインでの対面授業をおこなったほうがいいとおもいます。理由としては、質問がしやすい・スライドの説明が聞けるなどが挙げられます。
310.	遠隔授業が可能なものは、そのまま、遠隔授業の方が安心はする。
311.	講義をユニバーサルパスポートにアップしていつでも講義を受けられるスタイルが 1 番良かった。〇〇先生の〇〇〇ではチャット機能を使って自由に意見を言う機会が多く、この方法だと緊張せずに発言しやすく遠隔授業の良い点だとおもった。私は自宅から学校までが往復 2 時間以上かかるので遠隔授業だとこの時間に予習復習、課題に取り組めたので、遠隔授業は私にとって好都合だった。もし可能であれば全授業続けてほしいです。
312.	対面授業メインとして遠隔も取り入れる
313.	コロナウイルス感染症はまだ完全に終息しておらず、このような状態で登校するのは不安です。自宅で安心した気持ちで授業に臨みたいです。
314.	遠隔授業で用いたソフトの中で、個人的な意見としては Zoom が画質・音質ともに一番良いです。Microsoft Teams は特に問題なく受講はできますが zoom より品質は劣ります。 zoom で講義を行い、teams.google,ユニバで課題や連絡を行うのが適しているように感じます。 また、台風や大雨によって通学に一苦勞する生徒も今後出てくると考えられます。その際、積極的に遠隔授業を取り入れてみるのも一つの案ではないでしょうか。遠隔授業にも様々なメリットはあります。状況や都合に合わせて柔軟な対応を取るべきだと思います。
315.	対面授業が怖い人のために、遠隔も取り入れていく
316.	使用ツールの統一をしてほしい。(GoogleClassroom、Teams どちらかにしてほしい) 授業内容をまとめるににくい。
317.	この前コロナがなくなるまで遠隔授業が良い。
318.	大学の施設が使えない方がかなり不便。同じ額は払っているのに…と考えてしまう。
319.	就活生なので、遠隔はありがたい。1 週間はこのしておいてくださると助かる。
320.	遠隔と対面の授業料が同じということに納得がいかない。
321.	感染拡大防止のため、遠隔授業を希望するが、スライドの印刷などの費用を少しでもいいので支援してほしい。
322.	学生への用紙やインクの費用の援助をして頂きたいです。
323.	対面授業を行なって欲しいです。
324.	レジュメの印刷費の負担をしてほしいです。
325.	レジュメの印刷代(インク・用紙)を負担してほしい。インク代だけで 5000 円超えてきつい
326.	遠隔と対面の両方をして欲しい
327.	使用するツール(zoom や Google class room など)を全授業、統一してほしい
328.	遠隔授業では、授業内容が録画されるものもあり、復習がしやすい。なので、今後対面に完全移行したとしても、後から復習ができるように授業内容を録画し、teams 内で共有できる形を希望したいと思った。また、teams は操作性がよく、見やすいため、今後もユニバーサルパスポートと加えて伝達手段として続けて欲しいと思った。
329.	遠隔の際に、レジュメを印刷するときに使用するインク代と紙代を負担して欲しい。
330.	演習が必要な授業以外は遠隔であっても自宅で気楽に講義が受けられるので、特に不便はありません。
331.	紙媒体で資料が欲しい
332.	teams で授業に参加すると、途中で通信が切れてしまい、授業の最初から参加していることになっているか心配。 レジュメの印刷で紙とインクの消費が酷いのでどうにかしてほしい。

333. 上記にもあるように、全ての授業で使うアプリなどを統一してほしい。
334. 講義の通知とかお知らせをわかりやすくしてほしい。
335. インク代やコピー用紙代が去年よりも負担になっています。加えて、遠隔授業だと通信状況により、音声がよく聞こえなかったり、先生によっては声が小さすぎてきこづらいので、早く対面授業が開始することを望みます。
336. 教養演習など話し合いを持つものは対面を希望する。
337. 課題提出などが複雑です。 わかりやすくしてください
338. 遠隔授業の対策は素晴らしいと思う。 しかし、機械トラブルも多々あるのでそこは改善して欲しい。 今のところは遠隔授業で大きな支障はなく、逆に遠隔だからこそ発言が増える授業もある。
339. インク代が欲しいです。
340. どの授業がどのアプリでどのように受講するのかがバラバラなので統一してほしい。
341. 統一してわかりやすくしてほしい。
342. 受講ツールを統一してもらいたい。
343. 課題や情報の提示方法を、できるだけ統一してほしい。
344. 先生と授業で直接話しが出来ないのは授業の課題に関して、大変でした。
345. 授業の情報の集約
346. 遠隔授業のじょうほうをアップする場所を一か所にまとめてほしい
347. 全科目、同じアプリを使って欲しいです
348. 各自まずは自分の命を守ることが重要なので柔軟な対策を講じながら幅広い方法で教育環境を整えていくことが必要なのではないかと考えています。
349. 遠隔中心に対面を織り交ぜていくの結構いいと思うんですけどどうですかね？
350. 使用するツールを teams 等 1 つに統一していただきたいです。
351. 色々なアプリを使わないで統一して欲しい
352. 先生によって使用する遠隔授業用のソフトが違うので、統一してほしい。 ユニバーサルパスポートは、プッシュ通知機能がついていないので非常に使いにくい。
353. 通信料がかかる
354. ユニバーサルパスポートに情報が載っていなかったりすると、google クラブルームや teams を行ったり来たりして課題や授業連絡をするのが大変だったので、できれば使うサイトやアプリは少ない方が助かります。
355. 今のところでとてもいい環境なので、もし遠隔授業が続くのなら今のように維持していただければと思います。
356. teams だけでなく zoom なども積極的に使用してほしい。
357. 遠隔授業は、通信制限や、通信環境不良、眼精疲労、頭痛の観点から極力対面授業を主として授業を行なって欲しい。
358. 使用するソフトやアプリを統一したり課題の出す場所を統一してほしい
359. 遠距離授業についての要望はありません。
360. 前期期間中だけでも対面と遠隔どちらでも講義を受けられるようにしてほしい。まだ、大人数が集まる教室に行くのは不安がある。授業中はともかく前後では学生同士で会話等もあるので。
361. 課題の投稿先や講師への連絡の投稿先、事前資料のダウンロード先、講師からの連絡の掲示場所などが授業ごとにバラバラなので、もう少し 1 か所にまとめていると、連絡の見逃しの防止や事前学習の際に効率が良いと考えます。 講師にメールで連絡を取りたいが、シラバスなどでは載っていない場合があるので、メールアドレスも講師一人一人表示してほしい。
362. 遠隔授業を主として、対面授業も取り入れる方式を望みます。
363. 授業プリント配布してくれるとありがたいです。
364. 台風で休校のときなどは活用できると思います
365. 使用するフォームを統一してほしい。
366. 遠隔でも良いが、遠隔になることで通信などの問題で学習に差がついてしまう場合を考慮すると、対面でも良いと思う。けど、ころなの第二波は必ず訪れると思う。
367. 授業毎で使うアプリケーションが異なるので、混乱する時があります。universal passport には、授業資料や METTING FORM などの情報を載せてほしいです。
368. 実習が出来ず、仮に遠隔授業も出来なければ単位などの心配もあったため、遠隔授業ができる環境を作ってもらえてとてもありがたいです。
369. 授業中の動画視聴や音声などの共有をもう少しスムーズにいただけたらありがたいです。
370. 遠隔授業のツールが多すぎて、把握するのが難しいので統一してほしいです
371. ・受講ツールの統一。 ・感染拡大を防ぐため大学に来ないで授業を受けられるという目的なのに、その保守に当たる学生は大学にいないといけないので、負担が大きい。教員に対してネットの使い方、遠隔授業のやり方は、指導が必要。調べればすぐわかることや、意味のない依頼などが多すぎる。

372. パソコンを使う授業は休講にしてほしかった。また、コピーの要求はやめてほしい。あと、通信や機器の問題で必ず時間通りに参加できるとは限らないので、最初の 20 分ほどは遅刻扱いにしないなどの配慮してほしい。これらの問題がなければ、遠隔授業のほうがいい。
373. Microsoft teams や zoom、Google classroom、ユニバーサルパスポート、YouTube など、授業によって使用する受講ツールがバラバラなので、ある程度統一してほしいです。
374. 授業で使うソフト (teams や zoom 等) を統一してもらえると管理がしやすくなってありがたいです
375. 対面授業を行う場合は、3 密を避けた形式をとるよう工夫してほしい。
376. 最初はいいイメージがなかったけど 資料を見返して取り組めるから良かった
377. オンライン授業は受講の効率化のため今後も活用してほしい
378. たまに映像がフリーズして、講義資料などが見られなくなる時があるので、資料などを後からアップしてくださると助かります。
379. 授業資料を配布したり課題を提出するツールを統一してほしい。
380. 遠隔授業用のアプリを統一させて欲しい。
381. 遠隔授業でも講義の内容は理解できた。
382. 緊急事態宣言は解除されましたが、まだ不安に感じる部分もあるのでもう少し継続して欲しいなと思います。
383. 遠隔授業を行って理解しやすい講義の理解度はそこまで変わらず、対面でなければ理解しにくい講義という風に分かれていたので、知識を入れるのがメインの講義は遠隔で、技能を身につけなければいけない講義は対面という風に分けるのもいいと思います。
384. 自宅に学校のパソコンを持ち帰ることができるシステムを整えていただきたいです。
385. 遠隔授業を基本として、対面授業を最小限にしてほしいです。
386. 授業体系が変わってしまい先生方が一番大変だと思います。ありがとうございました。
387. 今のままでも、授業が成り立っているので遠隔授業を継続してもいいと思います。
388. 対面授業をしたいです
389. TEAMS だと人によっては通信障害が起きたりするので YouTube など授業後も見返せるような動画にしてほしい。
390. 先生方が遠隔授業に不慣れなことが多く、授業がゴタゴタになることがあるので改善してほしい
391. zoom 等で問題なく受講できる講義と、不具合が多発する講義の差が大きかったので、後者の講義方法を見直して頂きますようお願い申し上げます。
392. ウェブ会議ツールは、大学で 1 つに絞ったほうがいいと感じます! そのほうが、課題もチャットも授業に 関してお知らせも、そのツールだけで確認しあえるからです。(1 つに絞れば、遠隔授業の準備の負担も減り、早めに講義に集中できると考えます。)
393. それぞれの詳しい操作法など説明があったらもっとわかりやすくなると思いました。
394. 連絡をもっと早くしてほしい



# 分科会 A 「講義に関すること」

ファシリテーター  
小嶋 洋輔 教授 (国際学類)  
小西 清美 教授 (看護学科)

## 本日の流れ

・ 講義に関すること

1. 課題 Challenge
2. 成功例 Best Practice
3. まとめ Summary

について現状の理解と情報共有を行う。

※発表準備を含め45分間の分科会となります。

| 講義に関すること

# 課題 Challenge

| メモ（記録用）  
～課題 CHALLENGE～

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

| 講義に関すること

# 成功例 Best Practice

| メモ（記録用）  
～成功例 BEST PRACTICE～

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

| 講義に関すること

# まとめ Summary

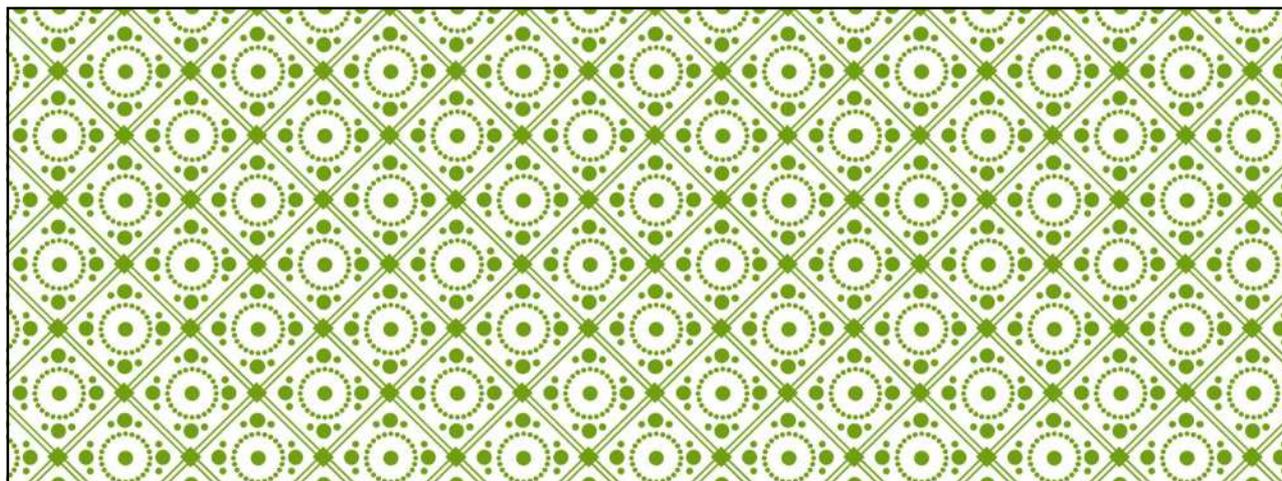
| 全体発表用のメモ（記録用）  
～まとめ SUMMARY～

課題 Challenge

- ・
- ・
- ・

成功例 Best Practice

- ・
- ・
- ・



## 分科会 B 「実技・演習系の授業 に関すること」

ファシリテーター  
田場 真由美 教授 (看護学科)  
山本 健司 准教授 (スポーツ健康学科)

## 本日の流れ

・実技・演習系の授業に関すること

1. 課題 Challenge
2. 成功例 Best Practice
3. まとめ Summary

について現状の理解と情報共有を行う。

※発表準備を含め45分間の分科会となります。

実技・演習系の授業に関すること

# 課題 Challenge

メモ（記録用）  
～課題 CHALLENGE～

・  
・  
・  
・  
・  
・  
・  
・  
・

実技・演習系の授業に関すること

## 成功例 Best Practice

メモ（記録用）  
～成功例 BEST PRACTICE～

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

実技・演習系の授業に関すること

# まとめ Summary

全体発表用のメモ（記録用）  
～まとめ SUMMARY～

課題 Challenge

- ・
- ・
- ・

成功例 Best Practice

- ・
- ・
- ・

# 分科会 C 「質保証と評価方法 について」

ファシリテーター  
小番 達 教授 (国際学類)  
坪井 祐司 上級准教授 (国際学類)

## 本日の流れ

・ 質保証と評価方法について

1. 課題 Challenge
2. 成功例 Best Practice
3. まとめ Summary

について現状の理解と情報共有を行う。

※発表準備を含め45分間の分科会となります。

質保証と評価方法について

# 課題 Challenge

メモ（記録用）  
～課題 CHALLENGE～

・  
・  
・  
・  
・  
・  
・  
・

質保証と評価方法について

## 成功例 Best Practice

メモ（記録用）  
～成功例 BEST PRACTICE～

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

質保証と評価方法について

# まとめ Summary

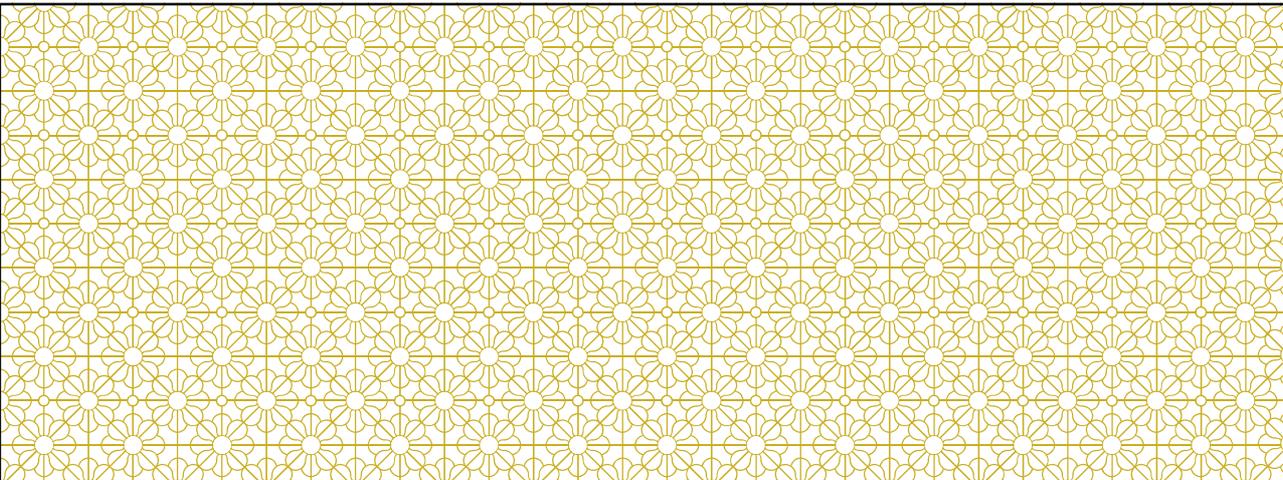
全体発表用のメモ（記録用）  
～まとめ SUMMARY～

課題 Challenge

- ・
- ・
- ・

成功例 Best Practice

- ・
- ・
- ・



## 分科会 D 「ICTを活用した オフィスアワーについて」

ファシリテーター  
卯田 卓矢 准教授 (国際学類)  
鶴巻 陽子 准教授 (看護学科)

## 本日の流れ

・ICTを活用したオフィスアワーについて

1. 課題 Challenge
2. 成功例 Best Practice
3. まとめ Summary

について現状の理解と情報共有を行う。

※発表準備を含め45分間の分科会となります。

I C Tを活用したオフィスアワーについて

# 課題 Challenge

メモ（記録用）  
～課題 CHALLENGE～

・  
・  
・  
・  
・  
・  
・  
・  
・

I C Tを活用したオフィスアワーについて

## 成功例 Best Practice

メモ（記録用）  
～成功例 BEST PRACTICE～

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

I C Tを活用したオフィスアワーについて

# まとめ Summary

全体発表用のメモ（記録用）  
～まとめ SUMMARY～

課題 Challenge

- ・
- ・
- ・

成功例 Best Practice

- ・
- ・
- ・

## 令和2年度 第6回 FD 研修会

総評 リベラルアーツ機構長 小番 達

令和2年度第6回FD研修会は、全学FD委員会とリベラルアーツ機構との共催というかたちで令和3年2月8日（水）（学生会館サクラウム3階大講義室B及びMicrosoft Teamsを用いたオンライン）に開催された。

本学は、建学の精神である「平和・自由・進歩」に基づいた幅広い教養をもつ人材の育成を教育目標の一つとして掲げている。こうした人材を育成してゆくためには、教職員自身もまた幅広い教養を身につけておくことが必要不可欠と考える。そのため、リベラルアーツ教育の実践・推進の母胎となるリベラルアーツ機構では、隔年で教職員を対象に自身の教養の拡大・深化を目的とした研修会を企画・開催している。

今回は、元琉球大学教授で作家・詩人の大城貞俊氏をお招きし、「沖縄で創作することの意味—極私的体験論から普遍的文学論へ—」という演題で講演をしていただいた。

講演の内容を大城氏が作成したレジュメの項目に従って簡単に紹介すると以下のようなになる。はじめに、Ⅰ沖縄文学の特質、Ⅱ極私的な体験論1（団塊の世代の沖縄発見）、Ⅲ極私的な体験論2（文学への開眼）、Ⅳ普遍的な文学論へ（創作者としての出発）、おわりに、である。やんばるの地で生まれ育った大城氏自身の人生、また氏のご家族や地域の人びとの人生、そして沖縄が背負ってきた／背負わされた歴史と関連させながら氏にとっての文学、沖縄にとっての文学について、平易に、時にはユーモアを交えながらお話しいただいた。また、『椎の川』や『奪われた物語』といった自身の著作だけでなく、大城立裕、又吉栄喜、目取真俊、与那覇幹夫、八重洋一郎といった沖縄を代表する作家が描いた作品世界の一端も紹介いただいた。この講演の中で、沖縄で文学することの意味とは、他者の悲しみを共有し、声なき声を浮かび上がらせ、沈黙したくなる言葉を探して作品化すること、また、必死に生きる尊い命を描き、作品化すること、さらに日常の言葉を詩に転化し、沖縄の過去、今、そして未来を問い続けること、という言葉が印象的だった。これらは直接的あるいは間接的に本学の建学の精神にも結びつくはずである。沖縄、やんばるに立地する本学の教職員にあっては、沖縄の文学を通して、沖縄が辿ってきた過去を振り返り、現在のありようを確認し、その上で未来を描いていくという作業が求められているようにも思う。その意味でも非常に貴重で、有意義な講演であった。改めて大城氏に感謝申し上げたい。

本研修会は78名の参加があり、うち28名からアンケートの回答があった。その結果、「満足」39.3%、「やや満足」46.4%と85%以上の回答者から好評価を得た。また、アンケートのコメントからは「このようなやんばるや北部を教材とした文学的な研修にて視野が広がりました。」「後学期が終了した時期に、文学や音楽、その他芸術に関するFD研修

を行うのは、リベラルアーツの考え方を重視する本学のポリシーに合っていると思います。継続してほしいです。」「今回の講演を期に、沖縄文化の特性についてもっと知りたいと思った。特に沖縄の人々の生活と県民性との関連などもぜひ知りたいと思った。」といった内容が寄せられた。今回の研修会の目的を踏襲するかたちで、今後、新たな企画を検討していきたいと思う。

今回は対面とオンラインのハイブリッド形式で研修会を実施したが、オンラインでの映像、とくに音声断続的に途切れる、聴き取り難いといった不具合が生じた。この点、関係部署とも連携し、機器の設定の仕方などを改善してゆきたい。（了）

令和2年度 第6回桜大学FD研修会実施計画  
(リベラルアーツ機構共同開催)

1. 目的：本学専任教員の資質向上と本学 学群・学部・機構の更なる発展及び今回のテーマに興味のある職員や非常勤講師も参加対象として有意義な研修になることを目的とする。
2. 開催日時：令和3年2月8日（月）15：00～
3. 会場：学生会館 SAKURAUM 3F 大講義室B 及び オンライン（Microsoft Teams）
4. 対象：本学専任教職員、非常勤講師、職員
5. テーマ：沖縄で創作すること
6. プログラム

時間	内容
14:30～（30分）	受付（遠隔参加の場合は、事前に教務課へ報告）
15:00～（5分）	開会のあいさつ（司会：リベラルアーツ機構 上級准教授 山城 智史） リベラルアーツ機構長 小番 達
15:05～（5分）	講師紹介 国際学群国際学類 教授 小嶋 洋輔
15:10～（65分）	講演 「沖縄で創作すること」 ■発表者 元琉球大学教授、詩人・作家 大城 貞俊 氏
16:15～（10分）	質疑応答
16:25～（5分）	閉会のあいさつ リベラルアーツ副機構長 玉井 なおみ
16:30	終了

※研修会には各自PC等をご持参ください。

※アンケートはオンラインで実施いたします。以下リンクよりアンケート回答の協力をお願いいたします。

回答するためには、GmailにおいてGaroonメールアドレスおよびパスワードを入力してログインしてください。

<https://forms.gle/nN939yhHHE8kda7r5>

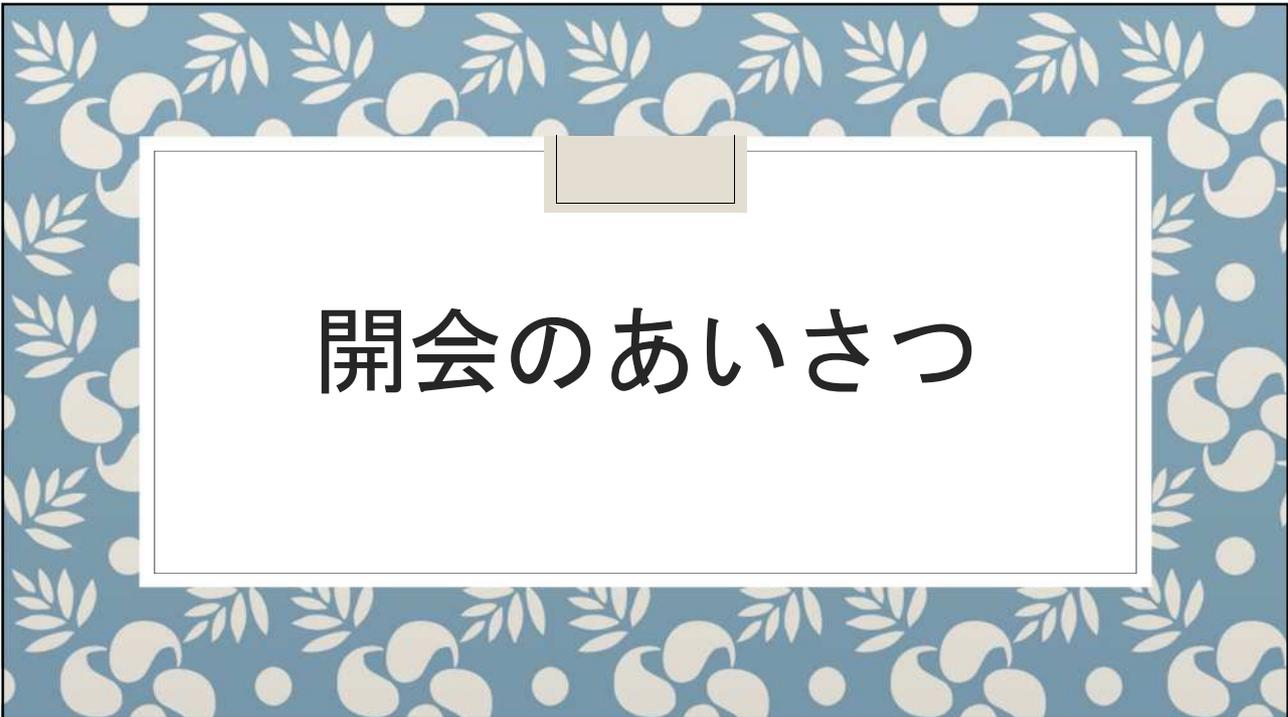
# 令和2年度第6回 名桜大学FD研修会 (リベラルアーツ機構共催)

講演：沖縄で創作すること  
発表者：大城 貞俊 氏 (元琉球大学教授、詩人・作家)

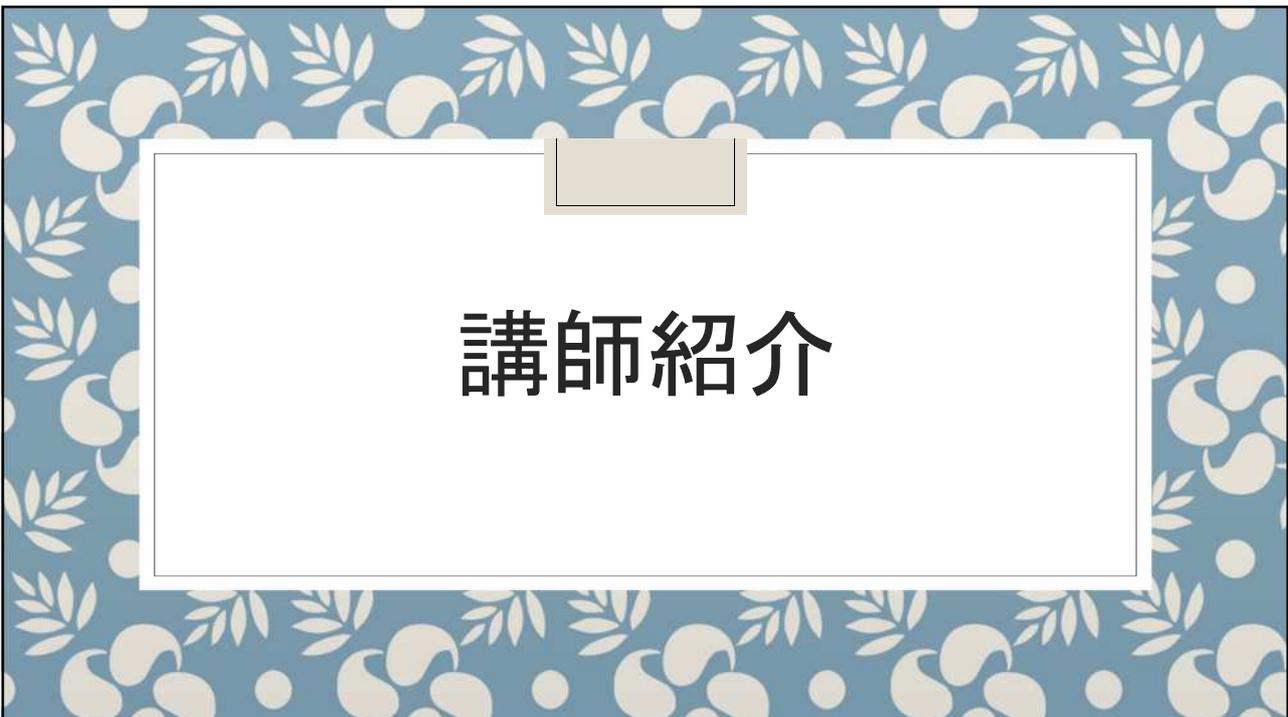
## 本日の流れ

- 開会のあいさつ (リベラルアーツ機構長 小番 達)
- 講師紹介 (国際学群国際学類 教授 小嶋 洋輔)
- 講演 「沖縄で創作すること」 発表者： 大城 貞俊 氏
- 質疑応答
- 閉会のあいさつ (リベラルアーツ機構長 玉井 なおみ)

司会：リベラルアーツ機構 上級准教授 山城 智史



# 開会のあいさつ

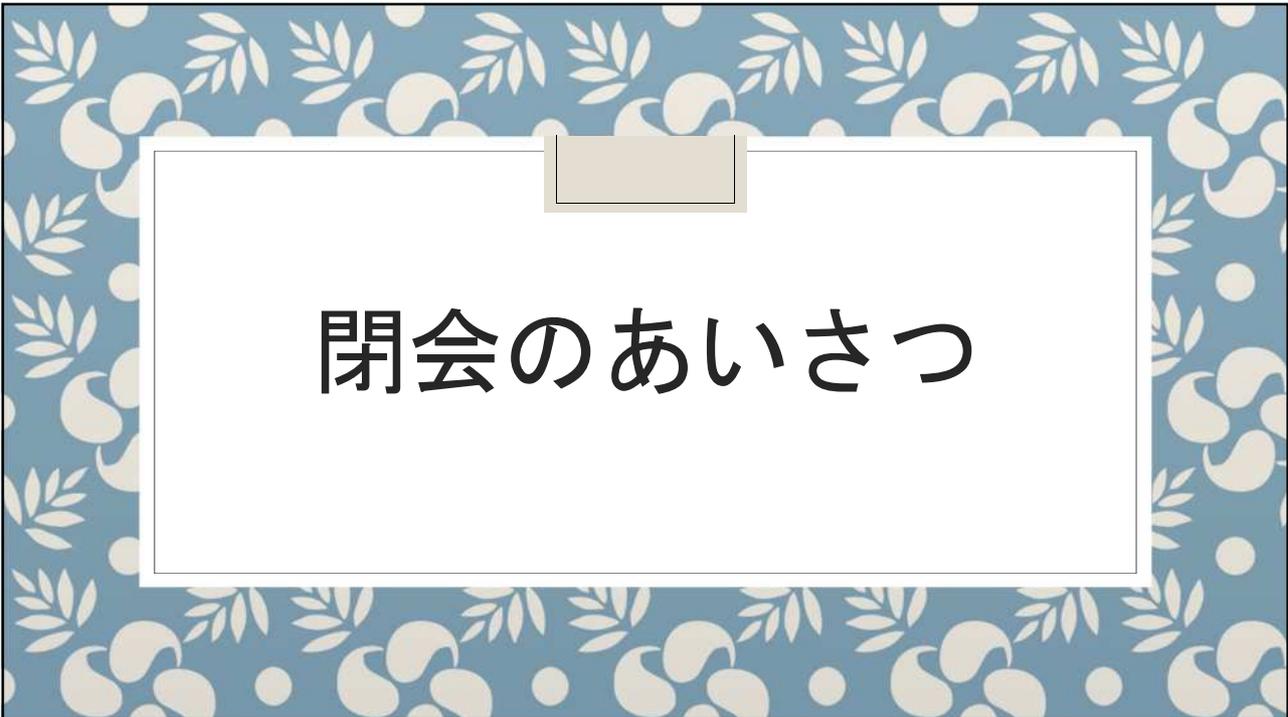


# 講師紹介

講演

「沖縄で創作すること」

質疑応答



# 閉会のあいさつ

◆共催：名桜大学FD研修会／リベラルアーツ機構 ◆日時：2021年2月8日  
15:00～16:30 ◆場所：名桜大学学生会館 ◆発言時間 65分／質疑 10分

**講演**  
**沖縄で創作することの意味**  
－極私的体験論から普遍的文学論へ－  
大城貞俊

■レジュメ

○はじめに

I 沖縄文学の特質

- 1 土地の記憶の継承
- 2 国際性に富む作品群
- 3 表現言語としてのウチナーグチへの挑戦

II 極私的な体験論 1（団塊の世代の沖縄発見）

- 1 1972年の日本復帰
- 2 沖縄の歴史の特異性
- 3 自撫する言葉・免罪符としての言葉

III 極私的な体験論 2（文学への開眼）

- 1 父の死から
- 2 文学に何ができるか

IV 普遍的な文学論へ（創作者としての出発）

- 1 読み手から書き手へ
- 2 多様な沖縄文学
- 3 言葉の力・文学の力

○おわりに

- 1 沖縄で文学することの意味
- 2 二つの詩集  
(1)与那覇幹夫『ワイドー沖縄』（2012年）  
(2)八重洋一郎『日毒』（2017年）
- 3 まとめ

## 名桜大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程

(平成18年2月23日制定)

### (設置)

第1条 名桜大学（以下「本学」という。）に、名桜大学ファカルティ・ディベロップメント委員会（以下「委員会」という。）を置く。

### (目的)

第2条 委員会は、ファカルティ・ディベロップメント（本学及び本学の教員が、教育の質的向上を図るために組織的に取り組む活動をいう。以下「FD」という。）を推進する。

### (審議事項)

第3条 委員会は、次の事項を審議する。

- (1) FD推進のための企画及び実施に関すること
- (2) FDに係る調査・研究に関すること
- (3) FDに関する報告書等の作成に関すること
- (4) 授業評価に関すること
- (5) その他FDに関すること

### (組織)

第4条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 全学教務委員会委員長
- (2) 国際学群教務委員会委員長
- (3) 人間健康学部教務委員会委員長
- (4) リベラルアーツ機構長
- (5) 各学系又は各学科から選出された1名ないし2名の教員
- (6) その他学長が必要と認めた者 若干名

### (任期)

第5条 前条の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

### (委員長)

第6条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選により定める。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し委員長に事故があるときは、その職務を代行する。

### (議事)

第7条 委員会は、委員の半数以上の出席が無ければ会議を開くことができない。

- 2 議決を要する事項については、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

### (意見の聴取)

第8条 委員長が必要と認めたときは、委員会に委員以外の者を出席させ、意見を聴取すること

ができる。

(部会等)

第9条 委員会は、必要に応じて部会等を置くことができる。

(庶務)

第10条 委員会の庶務は、教務課において処理する。

(補則)

第11条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営等に関し必要な事項は、委員会が定める。

(改廃)

第12条 この規程の改廃は、教育研究審議会の議を経て学長が定める。

附 則

この規程は、平成18年2月23日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年11月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月9日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則 (平成22年3月10日)

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則 (平成22年6月9日)

この規程は、平成22年6月10日から施行する。

附 則 (平成25年1月23日)

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則 (平成27年5月25日)

この規程は、平成27年5月25日から施行し、平成27年4月1日から適用する。

# III 資料編

## 【 全学FD研修会参加状況 】

研修会 開催日	教職員数 参加者数 参加率	所 属										
		学長 副学長 学群長 学部長 ①	国 際 学 群			人間健康学部		リハ・ラルアーツ 機構 ⑦	専任 教員数 合計 (①～⑦) ⑧	その他 教員 (非常勤講師) ⑨	事務職員 (専任) ⑩	合計 (⑧～⑩)
			国際文化 教育学系 ②	経営情報 教育学系 ③	観光産業 教育学系 ④	スポーツ健康 学科 ⑤	看護学科 ⑥					
第 1 回  2020/4/9	教職員数	5	19	15	10	18	29	7	103	112	51	266
	参加者数	5	15	13	8	17	29	7	94	11	8	113
	参加率	100.0%	78.9%	86.7%	80.0%	94.4%	100.0%	100.0%	91.3%	9.8%	15.7%	42.5%
第 2 回  2020/5/29	教職員数	5	19	15	10	18	29	7	103	112	51	266
	参加者数	5	18	11	10	16	27	7	94	4	12	110
	参加率	100.0%	94.7%	73.3%	100.0%	88.9%	93.1%	100.0%	91.3%	3.6%	23.5%	41.4%
第 3 回  2020/9/30	教職員数	5	19	15	10	19	32	7	107	112	51	270
	参加者数	5	15	15	9	16	21	7	88	1	11	100
	参加率	100.0%	78.9%	100.0%	90.0%	84.2%	65.6%	100.0%	82.2%	0.9%	21.6%	37.0%
第 4 回  2020/10/30	教職員数	5	19	15	10	18	32	8	107	112	51	270
	参加者数	4	7	9	7	9	23	5	64	0	21	85
	参加率	80.0%	36.8%	60.0%	70.0%	50.0%	71.9%	62.5%	59.8%	0.0%	41.2%	31.5%
第 5 回  2021/1/29	教職員数	5	19	15	10	18	32	8	107	112	51	270
	参加者数	5	10	7	7	10	13	5	57	1	4	62
	参加率	100.0%	52.6%	46.7%	70.0%	55.6%	40.6%	62.5%	53.3%	0.9%	7.8%	23.0%
第 6 回  2021/2/8	教職員数	5	19	15	10	18	32	8	107	112	51	270
	参加者数	4	6	9	6	11	20	5	61	4	6	71
	参加率	80.0%	31.6%	60.0%	60.0%	61.1%	62.5%	62.5%	57.0%	3.6%	11.8%	26.3%

## 名桜大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程

(平成18年2月23日制定)

### (設置)

第1条 名桜大学（以下「本学」という。）に、名桜大学ファカルティ・ディベロップメント委員会（以下「委員会」という。）を置く。

### (目的)

第2条 委員会は、ファカルティ・ディベロップメント（本学及び本学の教員が、教育の質的向上を図るために組織的に取り組む活動をいう。以下「FD」という。）を推進する。

### (審議事項)

第3条 委員会は、次の事項を審議する。

- (1) FD推進のための企画及び実施に関すること
- (2) FDに係る調査・研究に関すること
- (3) FDに関する報告書等の作成に関すること
- (4) 授業評価に関すること
- (5) その他FDに関すること

### (組織)

第4条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 全学教務委員会委員長
- (2) 国際学群教務委員会委員長
- (3) 人間健康学部教務委員会委員長
- (4) リベラルアーツ機構長
- (5) 各学系又は各学科から選出された1名ないし2名の教員
- (6) その他学長が必要と認めた者 若干名

### (任期)

第5条 前条の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

### (委員長)

第6条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選により定める。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し委員長に事故があるときは、その職務を代行する。

### (議事)

第7条 委員会は、委員の半数以上の出席が無ければ会議を開くことができない。

- 2 議決を要する事項については、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

### (意見の聴取)

第8条 委員長が必要と認めたときは、委員会に委員以外の者を出席させ、意見を聴取すること

ができる。

(部会等)

第9条 委員会は、必要に応じて部会等を置くことができる。

(庶務)

第10条 委員会の庶務は、教務課において処理する。

(補則)

第11条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営等に関し必要な事項は、委員会が定める。

(改廃)

第12条 この規程の改廃は、教育研究審議会の議を経て学長が定める。

附 則

この規程は、平成18年2月23日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年11月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月9日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則 (平成22年3月10日)

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則 (平成22年6月9日)

この規程は、平成22年6月10日から施行する。

附 則 (平成25年1月23日)

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則 (平成27年5月25日)

この規程は、平成27年5月25日から施行し、平成27年4月1日から適用する。

令和 2 年度 F D 活動報告書

令和 3 (2021) 年 10 月 発行

**【編集・発行】**

名桜大学 教務部教務課

〒905-8585 沖縄県名護市字為又 1220-1

TEL : 0980-51-1055